

# 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

## 設計図

2021年 1月

	公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
				久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	表紙	D--	建築
					縮尺	年月日	
					A1: 1/— A3: 1/—	2021年 1月	

図面リスト											
図面番号	図面名	内容	図面番号	図面名	内容	図面番号	図面名	内容	図面番号	図面名	内容
	意匠図										
	表紙										
00	図面リスト						外構図			構造図	
特-01	特記仕様書-1		401	建具一般事項-1		L-01	現況平面図(測量図)		S-000	図面リスト(構造)	
02	特記仕様書-2		402	建具一般事項-2		02	計画平面図				
03	特記仕様書-3		403	建具キープラン		03	造成計画平面図		SS-001	構造特記仕様書(1)	
04	特記仕様書-4		404	建具表-1		04	(欠番)		002	構造特記仕様書(2)	
05	特記仕様書-5		405	建具表-2		05	横断面(2)		003	構造特記仕様書(3)	
06	特記仕様書-6		406	建具表-3		06	横断面(3)		004	構造特記仕様書(4)	
07	特記仕様書-7		407	建具表-4		07	横断面(4)		005	構造特記仕様書(5)	
08	特記仕様書-8		408	建具表-5		08	横断面(5)				
09	特記仕様書-9					09	横断面(6)		ST-007	構造性能概要書	
10	特記仕様書-10		501	部分詳細図-1		10	主要座標点位置図		S-001	一般事項	
11	特記材料表(参考)		502	部分詳細図-2		11	舗装計画平面図		002	積載荷重表	
			503	部分詳細図-3		12	付帯計画平面図(1)		003	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)	
			504	部分詳細図-4		13	付帯計画平面図(2)		004	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)	
区-01	工事区分表-1		505	部分詳細図-5		14	植栽平面図		005	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(3)	
02	工事区分表-2		506	部分詳細図-6		15	雨水排水平面図		006	鉄筋コンクリート構造配筋標準図(4)	
			507	サッシ詳細図(1)		15-2	管理棟雨水排水設備平面図		007	鉄骨工作標準図(1)	
D-101	案内図・建物概要・記号・凡例		508	サッシ詳細図(2)		16	雨水排水施設縦断面(1)		008	鉄骨工作標準図(2)	
102	内外部一般事項-1		509	段床詳細図		17	雨水排水施設縦断面(2)		009	杭伏図、基礎伏図	
103	内外部一般事項-2		510	ウッドデッキ部鋼製床詳細図		18	雨水排水施設縦断面(3)				
104	外部仕上表		511	サウナ詳細図		18-2	雨水排水施設縦断面(4)		011	2階床伏図、R階床伏図	
105	内部仕上表-1		512	厨房設備器具図		19	自由勾配側溝展開図(1)		012	軸組図(1)	
106	内部仕上表-2		513	浴室1詳細図		20	自由勾配側溝展開図(2)		013	軸組図(2)	
107	内部仕上表-3					21	自由勾配側溝展開図(3)		014	軸組図(3)	
			521	区画図		22	自由勾配側溝展開図(4)		015	杭、基礎断面リスト	
201	建物求積図		522	防水範囲図		23	L型街架割付図		016	基礎梁断面リスト	
202	平均地盤面算定図		523	断熱範囲図		24	雨水排水施設構造図(1)		017	柱芯線図	
203	敷地全体配置図		524	昇降機設備図(1)		25	雨水排水施設構造図(2)		018	RC柱断面リスト、RC大梁断面リスト	
204	平面図_ピット・1F		525	昇降機設備図(2)		26	雨水排水施設構造図(3)		019	鉄骨柱断面リスト、鉄骨小梁断面リスト	
205	平面図_2F・RF		526	昇降機設備図(3)		27	雨水排水施設構造図(4)		020	小梁断面表、壁断面リスト	
206	立面図		527	昇降機設備図(4)		27-2	管理棟雨水排水構造図		021	床スラブ断面リスト	
207	断面図		528	昇降機設備図(5)		28	擁壁平面図		022	配筋詳細図	
			529	昇降機設備図(6)		29	(欠番)		023	鉄骨階段詳細図(1)	
301	矩計図(1)					30	擁壁展開図(2)		024	鉄骨階段詳細図(2)、鉄骨詳細図	
302	矩計図(2)		601	外構サインキープラン		31	擁壁構造図(1)		025	梁貫通孔補強要領図	
303	矩計図(3)		602	1・2・R階サインキープラン		32	擁壁構造図(2)		026	スタンド詳細図	
304	矩計図(4)		603	サイン図(1)		33	擁壁構造図(3)		027	ゴミ庫詳細図	
305	階段詳細図(1)		604	サイン図(2)		34	正面出入口付近詳細図				
306	階段詳細図(2)		605	サイン図(3)		35	(欠番)				
307	階段詳細図(3)					36	駐車場詳細図(2)		参01	土質柱状図	
308	仕上種別図		701	ゴミ置場詳細図		37	駐車場詳細図(3)				
309	1F平面詳細(1)		702	スタンド平面図・平面詳細図		38	構造図(1)				
310	1F平面詳細(2)		703	スタンド立面図・断面図		39	構造図(2)				
311	1F平面詳細(3)		704	スタンド観覧場上屋詳細図		40	構造図(3)				
312	1F平面詳細(4)		705	スタンド車椅子上屋詳細図		41	(欠番)				
313	2F平面詳細(1)					42	(欠番)				
314	2F平面詳細(2)					43	門扉基礎詳細図(1)				
315	2F平面詳細(3)					44	門扉基礎詳細図(2)				
316	2F平面詳細(4)										
317	1階展開図(1)										
318	1階展開図(2)										
319	1階展開図(3)										
320	1階展開図(4)										
321	2階展開図(1)										
322	2階展開図(2)										
323	2階展開図(3)										
324	2階展開図(4)										
325	天井伏図_1F・2F										

<b>I. 工事概要</b>	
1. 工事場所	(地名地番)神奈川県横浜須賀町久里浜1丁目381-4, 381-5の一部他(住居表示)
2. 敷地面積	22,591.15 m <sup>2</sup>
3. 工事種目	新築
4. 工事範囲	
※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。	
「3. 工事種目」のうち久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事の工事範囲は下記表のとおりとする。(〇がついているもの)	
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。	
② 仮設工事	
③ 土工	
④ 地業工事	
⑤ 鉄筋工事	
⑥ コンクリート工事	
⑦ 鉄骨工事	
⑧ コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	
⑨ 防水工事	
⑩ 石工事	
⑪ タイル工事	
⑫ 木工	
⑬ 屋根及びとい工事	
⑭ 金属工事	
⑮ 左官工事	
⑯ 建具工事	
17 カーテンウォール工事	
⑰ 塗装工事	
⑱ 内装工事	
⑳ ユニット及びその他の工事	
㉑ 排水工事	
㉒ 舗装工事	
㉓ 植栽及び屋上緑化工事	
24 免震工事	
25 制振工事	
26 ゴンドラ工事	
27 機械式駐車場設備工事	
28 特定天井工事【意匠部門】【構造部門】	
㉔-1 エレベーター工事【意匠部門】【構造部門】	
㉔-2 エスカレーター工事【意匠部門】【構造部門】	
30 保存・復元工事	
31 撤去工事	
32 撤去材の処理方法	

**II 建築工事仕様**

1. 共通仕様
- (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」(以下、「標仕」という。)による。
- (2) その他の適用図書類は下記による。
- | 名称                                       | 制定機関          | 改定年月      |
|--|---------------|-----------|
| ●国土交通省大臣官庁営繕部監修 公共建築工事標準仕様書 平成31年版       | 社団法人 公共建築協会   | 平成31年 5月  |
| ○国土交通省大臣官庁営繕部監修 公共建築改修工事標準仕様書 平成31年版     | 社団法人 建築保全センター | 平成31年 6月  |
| ●国土交通省大臣官庁営繕部監修 建築工事監理指針(上・下巻) 令和元年版     | 社団法人 公共建築協会   | 令和元年 月    |
| ●日本建築学会建築工事標準仕様書・同解説 (JASS)              | 社団法人 日本建築学会   |           |
| ●国土交通省大臣官庁営繕部監修 建築工事標準詳細図 平成28年版         | 社団法人 公共建築協会   | 平成28年 3月  |
| ●工事写真撮影ガイドブック 平成30年版                     | 社団法人 公共建築協会   | 平成30年 7月  |
| ○国土交通省大臣官庁営繕部監修 建設地調査共通仕様書 令和元年版         | 社団法人 公共建築協会   | 令和元年 月    |
| ●鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説 (2010)                | 社団法人 日本建築学会   | 平成22年 11月 |
| ●建築設備設計基準及び同解説 平成10年版                    | 社団法人 公共建築協会   | 平成10年 月   |
| ●国土交通省大臣官庁営繕部監修 建築材料・設備材料等品質性能評価基準 令和元年版 | 社団法人 公共建築協会   | 令和元年 5月   |
| ●建設省大臣官庁営繕部監修 建設工事に伴う騒音振動対策技術指針          |               | 昭和62年3月改正 |
2. 特記仕様
- (1) 項目は、番号に ●印の付いたものを適用する。○印の付いたものは適用しない。
- (2) ●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
- (3) 特記事項に記載の項目番号(章、節、項番)は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
- (4) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。
- また( )内は製品名を示す。
- (5) □は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」の特定調達品目を示す。
- (6) 標仕にない項目番号・特記事項は、本工事において追加した項目番号であり、【追加】と表記する。
- (7) 標仕に特記事項が記載されている場合、付け加える文章がある場合には、【追加】と表記する。
- (8) 標仕に特記事項が記載されている場合、文章をすべて、または一部を置き換える場合には、【置換】と表記する。

章 項目	特記事項
1章 1.1.1 適用範囲	1節 一般事項
【追加】	(ケ) 「監理者に提出」とは、受注者等が監理者に対し、工事にかかわる書面又はその他の資料に日付を明記し、受注者押印のうえ説明し、差し出すことを行う。(1.1.2.(ケ) 一部【置換】)
1.1.2 用語の定義	(ネ) なお、現場管理組織の監理者による「竣工検査」と監理者の本社などの検査要員による「完成検査」からなる。【以下追記】
	(リ) 「材料」とは、工事に使用する機器・材料・製品を総称していう。
	(ハ) 「受注者の検査」とは、工事の各段階で、材料または施工などについて受注者等自らが設計図書等との適合を判断することを行う。
	(ヒ) 「事業者」とは、受注者と工事請負契約を締結した発注者をいう。
	(ニ) 標準仕様書及び特記仕様書に記載の「監督職員」とは「監理者」をいう。
	(ヘ) 監理者とは、工事請負契約約款に規定される監理者の業務を委任されたものをいう。
1.1.3 官公署その他への届出手続等	(4) 工事の各段階に必要な官公署その他への各種申請または届出の種別・手続き・時期などをあらかじめ調査したうえで、一覧表を作成して監理者に提出する。完了検査、避難器具(消防認定品)の届出・昇降機に関する届出を含む着工後の諸官庁への申請・届出に関する手続きは請負者が行い、その費用負担は請負者が行う。
【追加】	(1) 別に定めのない限り、関連工事の受注者に対し、次のものについて便宜を供与する。これらに関する費用の負担は、工事費に含むものとする。
1.1.7 別契約の関連工事	(7) 関連工事を行う場所への出入り及び安全管理等にかかわる費用
	(イ) 足場・運搬設備・揚重設備・工用電力・工用給排水の利用
	(ウ) 障害となる仮設物を撤去、貫通孔などの設置、ボルト、インサートなどの取り付け
	(エ) 関連工事に必要な搬入口・通路などの設置・確保
	(2) 施工図・施工計画書などの作成に際し、関連工事との取り合い・納まりなどについて総合図を作成し、十分調整する。本工事の工期内に行う別途工事は、相互間に協力し、官公署等の検査を受けられるよう建築受注者が運営管理の統括責任を負う。
	(3) 発注者が、特定の工事業者若しくはメーカー(以下、「特定業者」という。)を下請業者として指定した場合は下記による。
	(ア) 受注者は特定業者と下請契約を行わなければならない。契約金額は発注者が特定業者と定めた金額及び発注者と受注者が協議して決定したコスト・プラス・フィー方式とすることができる。
	(イ) 受注者提出の見積書より当該工事部分を減額し、上記(1)に変える。
	(ウ) 特定業者に関する責任は全て受注者が負う。ただし、特定業者の工事管理・品質確保等に課題があると合理的な理由により認められる場合は、受注者は発注者の特定業者指定依頼を拒否することができる。その場合、発注者に書面をもって拒否の理由を説明しなければならない。
1.1.8 疑義に対する協議等	【追加】
	(4) 標仕 1.1.8(1)に該当しない設計変更に係る工事は監理者の指示によって行う。
	(5) 前(1)号の場合において請負代金額の変更を行う場合は、そのつど施工に着手する前に請負代金額の増減を明示した請負代金額増減内訳書(以下、「増減内訳書」という。)を提出し、監理者の承認を受ける。
	(6) 物価変動に係るものについては別途協議する。
	本工事着工後、発注者から受注者に対してコストダウン方策についての要請が有った場合、受注者はその旨を理解し協力を拒まないこと。
	(7) 受注者側からの理由による工法変更及び設備方式の変更による工事費の増額は認めない。
	(8) 受注者による見積り落し及び数量落しは精算時の追加対象としない。
	(9) 突貫工事等による請負金額及び追加金額の単価変更は認めない。

【追加】	(10) 解体工事、新築工事のための既存建物及び現況調査等、請負代金額算出に必要な全ての現場に関する調査は受注者自らの責任において実施するものとし、調査の不足・不調により工事内容に変更が生じた場合の責任及び負担は全て受注者が負うものとする。
●1.1.14 地中障害物	図面に記載のない地中障害物の撤去工事が発生した場合は下記による。 ○本工事に含む ●別途精算とする
【追加】	(1) 土壌調査 ○本工事に含む ○別途精算とする
○1.1.15 土壌汚染対策工事	(3) 土壌汚染場外処分費 ○本工事に含む ○別途精算とする
【追加】	(1) 本工事を完成させるために本工事に付帯して当然必要な作業・材料などは、設計図書に記載がない場合であっても本工事に含むものとする。
●1.1.16 工事に付帯する作業・材料	(1) 機器・材料・施工・工事が設計図書に適合しない場合、その責は受注者であり、それらについての施工図・工作図・製作図・見本などに対する監理者の承認、あるいはそれらに対する監理者の検査又は試験は、受注者の責任を軽減するものではない。
【追加】	(2) 施工に用いられ又は工事的に組み込まれた製品の欠陥又はこれに類する原因による品質上・性能上の不具合がある場合、その責は受注者であり、当該部位についての施工図・工作図・製作図・見本などに対する監理者の承認、あるいはそれらに対する監理者の検査又は試験は受注者の責任を軽減するものではない。
●1.1.17 監理者の承認・検査・試験	(1) 監理者に提出する書類(図面を除く)のうち、監理者の指示するものは、監理者と協議のうえ指定コンピュータソフトにより作成し、CD-Rなどの電子媒体による文書データを添えて提出する。
【追加】	(1) 工事目的物を発注者へ引渡したのち、工事請負契約に定める瑕疵担保期間内に監理者の指示に基づき工事全般について瑕疵及び損耗に関する調査を行う。 なお、調査の時期は下記による。 ○ 6ヶ月 ● 1年 ● 2年 ○ 5年 ○ 10年
○1.1.18 書類の電子情報化	(2) 前(a)号調査の具体的な実施要領は受注者が立案し、監理者と協議する。
【追加】	(3) 調査終了後速やかに調査の結果を記録し、監理者に提出する。
●1.1.19 建物経年調査	(4) 前項の調査の結果、工事的に瑕疵が認められた場合は、受注者等は監理者と協議のうえ、速やかに工事請負契約に基づいて適切な対応を行う。
【追加】	(1) 受注者は、発注者が本工事の見積り依頼にあたり開示した資料・情報等知り得た内容に関しては、発注者の承認がある場合を除き、第三者に漏洩してはならない。契約終了後といえども同様の義務を負うものとする。
●1.1.20 守秘義務	(1) 受注者は、本工事期間中、営業パンフレット撮影、写真撮影、看板及び横断幕掲示、プレス対応、顧客対応(資料作成、説明、現場案内等)等、発注者の事業に協力する。
【追加】	(2) 受注者は、発注者の広報活動、見学者対応等に協力する。
●1.1.21 営業協力	(1) 受注者は、発注者の広報活動、見学者対応等に協力する。
【追加】	【追記】
●1.1.23 広報活動、見学者対応協力	(2) 受注者は、発注者の広報活動、見学者対応等に協力する。
【追加】	(1) 受注者は、発注者の建物登記申請、事業所税申告等に関し、図面作成等協力する。
●1.1.24 登記・事務所、税対応への協力	(1) 受注者は、発注者の建物引渡し後1年間かつ指定する回数を無償保守期間とする製品・設備・業者を選定する。また、建物引渡し1年前に、下記設備の無償保守期間
【追加】	(1) 下記設備については、建物引渡し後1年間かつ指定する回数を無償保守期間とする製品・設備・業者を選定する。また、建物引渡し1年前に、下記設備の無償保守期間

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	特記仕様書 1	特-01	建築
				縮尺	年月日	2021年 1月

<p>【追加】 ○1.1.27 品質計画</p> <p>●1.2.1 実施工程表</p> <p>●1.2.2 施工計画書</p> <p>●1.2.3 施工図等</p>	<p>守を行う業者、保守内容等の詳細を示した「設備メンテナンス計画書」を発注者に提出し、発注者の承認を得る。</p> <p>(2) 下記の業務については建物引渡し後の保守業務の実施にあたっては、建物管理者と協議し、その指示に従うものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>昇降機設備(フルメンテナンス)</li> <li>自動ドア(フルメンテナンス)</li> <li>電動シャッター(引渡し後、6回以上点検)</li> <li>消防設備(自火報、煙感知器、消火設備)(外観点検、総合点検、各2回以上点検)</li> <li>監視盤設備</li> <li>受変電設備</li> <li>警備システム</li> <li>構内情報通信設備</li> <li>構内交換設備</li> <li>拡声設備</li> <li>テレビ共聴設備</li> <li>ITV設備</li> <li>空調設備機器(引渡し後、3回以上点検)</li> <li>熱源設備機器</li> <li>給湯設備</li> <li>ポンプ設備</li> <li>中水処理設備機器(汚泥処理費は別途)</li> </ul> <p>○ 建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は必要構造性能概要書による。</p> <p><b>2節 工事関係図書</b></p> <p>【追記】</p> <p>(1) 工事の着手に先立ち、実施工程表の作成を行い、監理者に提出する。 (1.2.1(1) 一部【置換】) 監理者は実施工程表に問題があると認められる場合は、発注者及び受注者等にその旨を報告・通知する。 実施工程表は、着手から完成に至る工事全般の手順と日程の計画を表したもので、本工事の工程のほか、次の内容を記載する。 (7) 主要な施工図・施工計画書・材料などの作成・提出・承認の日程 (4) 建築主事・所轄消防署による中間検査など関係法令に基づく官公署の諸検査の日程 (7) 部分使用・部分引渡しの日程及び関係する検査の日程 (2) 官公署への届出等手続きの日程 (4) 完成時の諸検査の日程 (4) 関連工事の主要な日程 (4) その他、工事の進行に関係する重要事項 (受渡し、実験、主要な材料の見本決定など)</p> <p>【追記】</p> <p>(6) 総合施工計画書は工事全体を通じて受注者等が行う工事組織の構成と運営、工事環境の整備と維持、工事請負契約に基づく監理者への対応などについて、本工事の固有の条件に適合した最適な方針を定めたものとする。また、監理者が管理方針書を示した場合は、それに基づいたものとする。</p> <p>【追記】</p> <p>(7) 工程別の施工計画書を作成する。このうち品質管理に係る部分について、設計図書の定めるところにより、監理者の承認を受ける。</p> <p>【追記】</p> <p>(4) 施工図などの作成に先立ち、総合図を作成し、監理者に提出する。 (5) 施工図・工作図・製作図などの作成に際しては総合図に基づき作成する。 (6) 監理者の指示する原寸図・型板などは、施工に先立つ適切な時期に作成し、監理者の承認を受ける。 (7) 模型・モックアップ・モデルルームなどの作製、見本施工は次による。これらは、施工に先立つ適切な時期に実施し、監理者の承認を受ける。</p>	<p>(7) 模型の作製 ● しない ○ する ( )</p> <p>(イ) 見本施工 ● しない ○ する ( )</p> <p>(ウ) モックアップの作製 ● しない ○ する ( )</p> <p>(エ) モデルルームの作製 ● しない ○ する ( )</p> <p>(8) 引渡し時には竣工図として設計図書を訂正して提出する。</p> <p>●1.2.4 工事の記録</p> <p>【追加】</p> <p>○ 1.2.5 提出書類</p> <p>● 1.3.1 施工管理</p> <p>● 1.3.2 施工管理技術者</p> <p>● 1.3.3 電気保安技術者</p> <p>● 1.3.5 施工条件</p> <p>【追記】</p> <p>(1) 工事の着手・進行にあたり、提出する書類は監理者の指示による。</p> <p><b>3節 工事現場管理</b></p> <p>【追加】</p> <p>(3) 監理者が監理方針を提示した場合は、それに基づいて工事運営及び施工管理を行う。 (4) 本工事の品質・工程・予算管理については、受注者による自主管理を原則とするが、発注者が管理方法、提出書類の書式、使用するソフトウェア等について指定する場合は、これに従うものとする。</p> <p>● 1.3.2 施工管理技術者</p> <p>● 1.3.3 電気保安技術者</p> <p>● 1.3.5 施工条件</p> <p>【追加】</p> <p>(3) 作業時間などは次による。 (イ) 設計図書又は工事現場近隣の住民との間で交わされる工事に対する協定(以下、「近隣協定」という。)に、作業内容、作業日・時間などについての定めがある場合はそれを遵守する。 (ii) 休日・祝日又は夜間に工事の施工を行う場合は、あらかじめ理由を付した書面によって監理者に通知する。 (4) 次に掲げる事項は現場経費に含むものとする。 (イ) 式典費用</p> <table border="1"> <tr> <td>○清い式</td> <td>来客</td> <td>人程度</td> <td>式場</td> <td>祭壇</td> <td>供物</td> <td>直会</td> <td>神官への謝礼</td> </tr> <tr> <td>●地鎮祭</td> <td>来客</td> <td>60人程度</td> <td>式場</td> <td>祭壇</td> <td>供物</td> <td>直会</td> <td>神官への謝礼</td> </tr> <tr> <td>○上棟式</td> <td>来客</td> <td>人程度</td> <td>式場</td> <td>祭壇</td> <td>供物</td> <td>直会</td> <td>神官への謝礼</td> </tr> <tr> <td>○竣工式</td> <td>来客</td> <td>人程度</td> <td>式場</td> <td>祭壇</td> <td>供物</td> <td>直会</td> <td>神官への謝礼</td> </tr> </table> <p>(ii) 負担金 本設引込み後、完成引渡しまでの間の電力・ガス・上下水道の基本料金及び使用料金は、各種機器の試運転に要する費用を含め、全て本工事に含むものとする。また各々の基本料金及び使用料金を共通仮設費の内訳に明示すること。 本設の電力引込工事及び負担金、水道・ガス・排水本工事及び負担金は、本工事に含む。 (iii) 電気主任技術者 工事期間中の電気主任技術者選任料(名義料の一切の費用)は、本工事に含む。 (iv) 工事関係者利用の進入路及びびやむを得ない通行止め 進入路は、工事着手前に道路管理者の立会いを受け、その維持管理に努める。万一破損等が生じた場合には、受注者の負担において速やかに現状復旧し、復旧工事完了後、監理者の承認を得ること。</p>	○清い式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼	●地鎮祭	来客	60人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼	○上棟式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼	○竣工式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼	<p>(v) 工事関係車両の駐車禁止及び待機場所の確保 (vi) 仮設現場事務所・資材置場・工事車両の駐車場所 (vii) 必要箇所への仮設カーブミラーの設置 (viii) 工事中の第三者の損害防止 付近の構築物、道路、地下埋設物等に損害を与えないよう万全の処置を行う。 騒音、振動等については公害防止条例その他の規定に従って養生及び防止対策を行う。 第三者の生命、財産に損害が生じた場合及び第三者との間に紛争を生じた場合は、受注者において解決し、その費用を負担する。 (ix) 公共施設等(下水道管等)に影響を及ぼした場合の復旧</p> <p>(5) 次に掲げる近隣対応は受注者が責任を持って自己の費用で対処する。 (i) 工事着手前の近隣住戸写真の事前撮影及び調査 (ii) 騒音、振動、防塵 (iii) 土・日曜、祝祭日の作業の通知 (iv) 平日における夜間作業の通知 (v) 近隣住民への説明会の開催(工事着手時を含む)並びに工程表の配布及び着工前近隣住民との間でかわす工事協定締結業務 (vi) 工事に関与する電波障害対策の速やかな実施</p> <p>(6) 別途工事の扱いは以下による。 ●別途工事の業者と十分調整を取り、工事、検査、引渡しに支障の無いようにすること。工事 期間中に予定する別途工事は以下の通りとする。(1.3.5) ●情報、通信セキュリティ工事 ●什器、備品設置工事、その他工事区分表に記載のある別途工事 ○発注者・監理者による場外における検査、立会いが必要な場合の交通費、宿泊費は受注者の負担とする。</p> <p>● 1.3.9 災害時の安全確保</p> <p>● 1.3.11 発生材の処理等</p> <p>● 1.3.12 養生</p> <p>● 1.3.13 後片付け</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.14 現場代理人・監理技術者など</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.15 指示・承認・協議・報告の手順</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.16 会議など</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.18 トレーサビリティ</p> <p>災害、公害又は事故の恐れがある場合は、速やかに適切な処置を講じ、直ちにその経緯を監理者に報告する。 ●現場説明書による 特別管理産業廃棄物 ※有( ) ○無 産業廃棄物処理法に基づき適切に処理すること。</p> <p>【追加】</p> <p>汚損を受けた部分については、速やかに原型に復旧する。</p> <p>【追加】</p> <p>工事の完成に際しては、工事検査までに次の汚損の復旧などを行う。 (1) 工事に伴い汚損が生じた既存の施設・工作物・樹木などは現状どおりに復旧する。 (2) 工事目的物の施設又は設備の一部を工事に使用した場合、設計図書の定める条件のとおり復旧する。</p> <p>(1) 工事の着手に先立ち、建設業法に基づく現場代理人及び同法に基づく有資格者である監理技術者又は主任技術者を選任する。</p> <p>(1) 監理者に提出する。監理者の指示が口頭による場合は、この内容を記録して監理者に提出し、監理者の押印を受ける。 (2) 監理者の承認を受ける必要がある書類・図面・見本などは、その旨を表示して監理者に提出し、受領印を受ける。受領印を受けた後1週間以内に訂正又は保留に関する監理者の指示がない場合は、提出された書類・図面・見本などは監理者の承認を受けたものとする。 (3) 監理者と協議した事項は、協議の経緯及び結果を記録して監理者に提出し、監理者の押印を受ける。</p> <p>(1) 監理者が指示する各種会議又は打合せに出席する。また、会議場所・会議用機材を提供するなどその開催に協力する。 (2) 前(1)号の会議又は打合せを行った場合は、速やかに議事録を作成し、監理者に提出する。</p> <p>(1) 工事目的物に組み込まれた機器・材料・施工などについては、その履歴、使用又は所在を辿ることのできるトレーサビリティ管理を行い、記録を監理者に提出す</p>	<p>る。 (2) トレーサビリティ管理は設計図書に定めのあるもののほか次の条件に同時に該当する機器・材料・施工について行う。その対象と管理方法については、事前に監理者と協議のうえ定める。 (1) 識別記載がなければ、履歴或使用部位が辿れないもの (2) 不具合が発生した場合、工事目的物の品質に重大かつ広範囲の影響を及ぼす恐れのあるもので、手直し、取替えが困難なもの</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.19 測定機器及びモニタリング機器の管理</p> <p>(1) 検査・測定・試験などの測定機器及びモニタリングに使用する機器のうち、管理が必要な対象機器とその管理方法について、あらかじめ監理者に報告する。 (2) 前(a)号に該当する機器は適正に維持・管理・訂正し、その記録を監理者に提出する。 (3) 監視及び測定に使用する機器が、公的試験所又はこれに準ずる試験所の管理の下にある場合は、前(a)号による管理方法の報告及び前(b)号による記録の提出を省略することができる。</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.3.20 製造者及び専門工事業者の選定</p> <p>(1) 選定された材料製造者の能力・経歴などを証する資料を監理者に提出し、監理者の承認を受ける。 (2) 設計図書に製造者名の記載がない材料については、適正な品質を確保できる製造者を選定し、監理者と協議する。ただし、設計図書に製造者の条件が示される場合は、これに適合する製造者を選定して、条件に適合することを証明する資料を監理者に提出し、監理者の承認を受ける。 (3) 設計図書に専門工事業者名の記載がない工種については、適正な品質を確保できる工事業者を選定する。ただし、「専門工事業者による」としている工種のものも選定について監理者と協議する。</p> <p><b>4節 材料</b></p> <p>● 1.4.1 環境への配慮</p> <p>● 1.4.2 材料の品質等</p> <p>● 1.4.3 材料の購入</p> <p>● 1.4.4 材料の検査等</p> <p>● 1.4.5 材料の検査に伴う試験</p> <p>● 1.4.6 材料の保管</p> <p>【追加】</p> <p>● 1.4.7 材料の検査に</p> <p>(8) 日本工業規格(以下、JISという)、日本農林規格(以下、JASという)、その他規格類、官公署及び電力・ガス・水道などの供給会社の各種規格などは最新のものを適用する。 設計図書において機器・材料の品質が明示されていない場合は、適切な品質のものを採用し、施工すること。</p> <p>【追加】</p> <p>(5) 機器・材料は現場に搬入した時点あるいは必要に応じて製作工場における製造又は組立が完了した時点で、各種ごとに受注者等の検査を行い、検査記録を監理者に提出する。 (6) 量産品あるいは標準品で実測値などが整備されているものは、性能表又は能力計算書などの性能の証明となる書類確認をもって前(1)号の検査とすることができる。 (7) 配線・配管・小型器具・雑材料その他は梱包などの表示による材質・呼称寸法などの監理者が指示する機器・材料の検査には、監理者の立会いを受ける。 (8) 設計図書に監理者の検査の定めがある場合、前(1)号の検査に合格後、検査記録を提出し、監理者の検査を受ける。監理者の検査は、前(1)号の受注者等による検査の適正さを確認するために、受注者は検査に必要な資機材・労務などを提供する。 (9) 監理者の検査は、立会いにより又は受注者等による検査の記録・写真などの審査により行う。なお、監理者の立会い検査は、原則として抜き取り検査とする。 (10) 前(1)号の検査の結果に疑義が生じた場合は、監理者と協議する。</p> <p>(5) 機器・材料の試験及び施工検査に伴う試験は次の場合による。なお、試験結果に疑義が生じた場合は監理者と協議する。 (7) 設計図書に定められた場合 (4) 試験によらなければ設計図書の定めによる品質又は性能・機能に適合することが証明できない場合 (6) 供試体の製作要領は設計図書の定めによる。ただし、定めがない場合は監理者の承認を受けた方法による。 (7) 試験は公的試験所又はこれに準ずる試験所で行う場合を除き、試験には監理者の立会いを受ける。ただし、あらかじめ監理者の指示を受けた場合は、この限りではない。なお、受注者は検査に必要な資機材・労務などを提供する。</p> <p>(1) 検査・試験などにより不合格となった機器・材料などについては、その処置の手続きをあらかじめ定め、それにより管理する。 (2) 不適合製品の処置において、規定の品質に合致しないが、特定の逸脱範囲内</p>
○清い式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼																													
●地鎮祭	来客	60人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼																													
○上棟式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼																													
○竣工式	来客	人程度	式場	祭壇	供物	直会	神官への謝礼																													
				公共建設課長	主査等	担当者	工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	図面名 特記仕様書 2	図面番号 特-02	区分 建築																										
								縮尺	年月日	2021年 1月																										

伴う不具合の管理・是正処理

にあるものを限られた部位・数量において、使用する場合（特別採用という）は監理者の承認を受ける。

(3) 発生した不適合製品について、同一場所又は同様の場所における再発防止をするため、不適合の原因を除去する是正処理を講ずる。品質に重大な影響を及ぼす可能性があるもの又は監理者の指示するものは是正処置の方法については、あらかじめ監理者に報告する。

本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS 及び JAS マーク表示品とする。JIS または JAS マークの表示のない材料及びその製造者等（海外製材料含む）は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。

(ア)品質及び性能に関する試験データが整備されていること  
(イ)生産施設及び品質の管理が適切に行われていること  
(ウ)安定的な供給が可能であること。  
(エ)法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること  
(オ)製造又は施工の実績があり、その信頼性があること  
(カ)販売、保守等の営業体制が整えられていること

なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（(社)公共建築協会他）が発行する「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」の評価書の写しを、監理者に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監理者の承諾を受けた場合はこの限りではない。また、製造所欄に製造所、商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監理者の承諾を受ける。

【追加】  
●1.4.8  
化学部質を拡散する建築材料等

本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の室及び性能を有するものとし、次の 1) から 5) を満たすものとする。

1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、コリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可逆材を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。  
5) 1)、3) 及び 4) の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。

規制対象外

①JIS 及び JAS の F☆☆☆☆規格品  
②建築基準法施行令第 20 条の 5 第 4 項による国土交通大臣認定品  
③下記表示のある JAS 規格品  
a. 非ホルムアルデヒド系接着材使用  
b. 接着材等不使用  
c. 非ホルムアルデヒド系接着材及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用  
d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用  
e. 非ホルムアルデヒド系接着材及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用  
f. 非ホルムアルデヒド系接着材及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用

本工事の全ての内装の仕上げ、居室と空気の入出りのある部分の仕上げ(表面材)は、上に規定される規制対象外のみ使用する。

【追加】  
●1.4.10  
特別な材料の工法

5 箇 施工

● 1.5.1 施工	● 1.5.2 技能士	● 1.5.4 一工程の施工の確認及び報告	● 1.5.5 施工の検査等	● 1.5.7 施工の立会い等	● 1.5.8 工法の提案	● 1.5.9 化学物質の濃度測定																																				
<p>適用する技能検定の職種及び作業の種別は下記による。</p> <table border="1"> <tr> <th>適用工事種別</th> <th>技能検定の職種</th> </tr> <tr> <td>●鉄筋工事</td> <td>●鉄筋施工(鉄筋組立作業)</td> </tr> <tr> <td>●コンクリート工事</td> <td>●型枠施工 ●左官</td> </tr> <tr> <td>●鉄骨工事</td> <td>●とび ●鉄工</td> </tr> <tr> <td>●ブロック・ALCパネル工事</td> <td>●ブロック建築 ○ALC/パネル施工 ○押し成型セメント板</td> </tr> <tr> <td>●防水工事</td> <td>●アスファルト防水工事作業 ●合成ゴム系シート防水工事作業 ●塗膜防水工事作業 ●シーリング防水工事作業</td> </tr> <tr> <td>●石工事</td> <td>●石材施工(石張り施工)</td> </tr> <tr> <td>●タイル工事</td> <td>●タイル張り</td> </tr> <tr> <td>●木工事</td> <td>●建築大工</td> </tr> <tr> <td>●屋根及びびとい工事</td> <td>●建築板金(内外装板金作業)</td> </tr> <tr> <td>●金属工事</td> <td>●内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)</td> </tr> <tr> <td>●左官工事</td> <td>●左官</td> </tr> <tr> <td>●建具工事</td> <td>●サッシ施工 ●ガラス施工 ●自動ドア施工 ●ガラス用フィルム施工技能士</td> </tr> <tr> <td>○カーテンウォール工事</td> <td>○カーテンウォール施工 ○サッシ施工 ○ガラス施工</td> </tr> <tr> <td>●塗装工事</td> <td>●塗装(建築塗装作業)</td> </tr> <tr> <td>●内装工事</td> <td>●プラスチック系床仕上げ工事作業 ●カーペット系床仕上げ工事作業 ●ボード仕上げ工事作業 ●表装(壁装作業)</td> </tr> <tr> <td>●植栽工事</td> <td>○造園</td> </tr> <tr> <td>●舗装工事</td> <td>●路面標示工事作業</td> </tr> </table> <p>【追加】  工種ごとに施工が完了した時又は監理者の指示がある場合、その施工についての報告書を監理者に報告する。</p> <p>【追加】  (5) 施工に対する監理者の検査は受注者等による検査に合格後、検査記録を監理者に提出し、これを受ける。監理者の検査は、受注者等による施工の検査の適正性を確認するために行う。なお、受注者は検査に必要な機資材及び労務などを提供する。  (6) 監理者の検査は、立会いによりまた受注者等による検査の記録・工事写真その他の審査により行う。なお、監理者の立会い検査は原則として抜き取り検査とする。  (7) 監理者の検査の結果、修正が必要であると指摘された箇所がある場合は、監理者の指示により速やかに修正し、監理者の再検査を受ける。  (8) 前(e)号の監理者の検査の結果に疑義が生じた場合は監理者と協議する。</p> <p>● 1.5.9 化学物質の濃度測定</p> <p>【追加】  (4) 建築物の室内空气中に含まれる化学物質の濃度測定の実施は、下記による。  ※実施する ○  (5) 施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、監理者に報告する。  測定はバツシブ型採集機器により行う。  着工前の測定 ※行う ○行わない  測定対象室 ※対象室 (トレーニングルーム 1、更衣室 2、浴室 2、食堂 1-2、会議室 1、多目的室 4)  ○図示  測定箇所数 ※( 7 )箇所 ○図示</p> <p>(6) 測定後速やかに速報を報告し、報告書を作成し監理者の確認を受ける。</p> <p>(1) 事後の検査・試験で結果が十分に検証できない工程については、選定された者</p>							適用工事種別	技能検定の職種	●鉄筋工事	●鉄筋施工(鉄筋組立作業)	●コンクリート工事	●型枠施工 ●左官	●鉄骨工事	●とび ●鉄工	●ブロック・ALCパネル工事	●ブロック建築 ○ALC/パネル施工 ○押し成型セメント板	●防水工事	●アスファルト防水工事作業 ●合成ゴム系シート防水工事作業 ●塗膜防水工事作業 ●シーリング防水工事作業	●石工事	●石材施工(石張り施工)	●タイル工事	●タイル張り	●木工事	●建築大工	●屋根及びびとい工事	●建築板金(内外装板金作業)	●金属工事	●内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)	●左官工事	●左官	●建具工事	●サッシ施工 ●ガラス施工 ●自動ドア施工 ●ガラス用フィルム施工技能士	○カーテンウォール工事	○カーテンウォール施工 ○サッシ施工 ○ガラス施工	●塗装工事	●塗装(建築塗装作業)	●内装工事	●プラスチック系床仕上げ工事作業 ●カーペット系床仕上げ工事作業 ●ボード仕上げ工事作業 ●表装(壁装作業)	●植栽工事	○造園	●舗装工事	●路面標示工事作業
適用工事種別	技能検定の職種																																									
●鉄筋工事	●鉄筋施工(鉄筋組立作業)																																									
●コンクリート工事	●型枠施工 ●左官																																									
●鉄骨工事	●とび ●鉄工																																									
●ブロック・ALCパネル工事	●ブロック建築 ○ALC/パネル施工 ○押し成型セメント板																																									
●防水工事	●アスファルト防水工事作業 ●合成ゴム系シート防水工事作業 ●塗膜防水工事作業 ●シーリング防水工事作業																																									
●石工事	●石材施工(石張り施工)																																									
●タイル工事	●タイル張り																																									
●木工事	●建築大工																																									
●屋根及びびとい工事	●建築板金(内外装板金作業)																																									
●金属工事	●内装仕上げ施工(鋼製下地工事作業)																																									
●左官工事	●左官																																									
●建具工事	●サッシ施工 ●ガラス施工 ●自動ドア施工 ●ガラス用フィルム施工技能士																																									
○カーテンウォール工事	○カーテンウォール施工 ○サッシ施工 ○ガラス施工																																									
●塗装工事	●塗装(建築塗装作業)																																									
●内装工事	●プラスチック系床仕上げ工事作業 ●カーペット系床仕上げ工事作業 ●ボード仕上げ工事作業 ●表装(壁装作業)																																									
●植栽工事	○造園																																									
●舗装工事	●路面標示工事作業																																									

● 1.5.10  
プロセスの妥当性の確認

【追加】  
● 1.5.11  
施工の検査に伴う不適合の監理、是正処置

● 1.6.1  
工事検査

が認定された設備を使用して、定められた方法及び手順により作業を行い、その工程の監視・管理し、記録を監理者に報告する。  
(2) 前(1)号の対象となる工程は鉄筋の圧接、鉄骨の溶接のほか、建築物の性能に重大な影響を及ぼす恐れがあるものが該当し、対象となる工程を要員・設備・方法手順及び管理の方法と合わせて、あらかじめ監理者と協議のうえ定める。

手順及び管理の方法と併せて、あらかじめ監理者と協議のうえ定める。

6 箇 工事検査及び技術検査

【追加】  
(4) 工事の完成にあたって、受注者の本社などの検査要員(現場関係者を除く)による自主検査を行い、関係法令または設計図書に適合しない箇所などがある場合は速やかに修正を行ったうえで、監理者に報告する。  
(5) 前(4)号の報告の後、監理者の施工検査を受ける。  
(6) 消防署長の検査、建築主事の検査など関係法令に持ちづく(官公署その他関係の検査)については、完成検査に先立つ時期にこれを受ける。発注者などが受検者となる場合は、手続きを代行し、その検査に必要な書類・資機材・労務その他を提供するなど、受検に協力する。手続き代行する場合は、その手続きの経費を適宜監理者に報告する。  
(7) 前(5)(6)号の検査の結果、修正が必要であると指摘された箇所がある場合は、監理者の指示により速やかに修正し、監理者の再検査を受けると共に、官公署その他関係機関に必要な手続きを行う。  
(8) 前(5)(6)号の各検査の結果、全ての工事が完了していること及び設計図書と契約条件並びに関係法令などの規定に適合していることが確認されたのち、監理者の本社などの検査要員(現場関係者を除く)による完成検査を受ける。  
(9) 前(8)号の検査の結果、修正が必要であると指摘された箇所がある場合は、監理者の指示により速やかに修正し、監理者の再検査を受ける。  
(10) 完成時の諸検査の日程・方法については、関連工事との調整を行い、必要により関連工事の受注者等同席のうえ共同して検査を受ける。  
(11) 工事の完成に際し、全装置について、原則として試運転調整を完了した状態で以下の検査を受けたうえで、監理者の検査を受ける。  
(ア) 外観検査(出来形検査): 目視・聴音又は手で触るなどにより、各設備が設計図書に示す構造・材料・安全・耐久・保守・衛生などに合致することを確認する。  
(イ) 個別性能機能検査: 機器及び装置の個別の性能・機能を設計図書と照合し、その適合性を確認する。  
(イ) 機能検査: 運転・作動状態での試験に先立ち、通水・通気・通電などの試験を行う。次に各機器単体の動作試験を行い、運転状況及び各動作が正常であることを確認する。  
(ii) 性能検査: 各装置の機器単体の性能が、設計図書に定められた流量・圧力・温度・電圧・電流などに合致することを確認する。  
(iii) 水質検査: 飲料水は完成引渡しまでに公立の保健所又は試験所に依頼し、水質基準に適合することを確認する。  
(エ) 適合性能機能検査: 複数の工程にまたがって性能・機能を発揮する装置について、関連工事の受注者と協議して総合的な性能検査を行い、その適合性を確認する。  
主な確認項目は次による。ただし、機能条件の違いなどにより、工事完成までに確認できない機器能力及び室内環境などについては、完成竣工後1年以内の夏季及び冬季で気象条件などが設計条件に近い日を選び測定し、設計図書に定める性能・機能・室内環境との適合性を確認する。なお、検査に先立ち検査計画書を作成し、監理者の承認を受ける。  
(i) 全停電・復電総合検査  
(ii) 防災総合検査  
(iii) タイル・水補間連総合検査(設備工事のみ)  
(iv) 自動制御総合検査(設備工事のみ)  
(v) 中央監視盤総合検査  
(vi) 総合運転による騒音・振動が許容範囲内であることを確認  
(vii) 完成時の室内環境を測定し、設計図書に定めたとおりであることを確認  
(viii) セキュリティシステムが設計図書に定めたとおりに作動することを確認  
(ix) その他、監理者の指示する検査

(12) 監理者の指示により、発注者の検収を受ける。

【追加】  
●1.6.3  
引渡し前後の注意

(1) 試運転・管理者への引継ぎ・開設準備への協力  
(7) 受注者は、竣工・引渡し時期から逆算して、竣工後の建物・設備の稼働に支障のないように、発注者及び発注者が定める竣工後の建物管理者に対して、建物及び設備の試運転を行うとともに、取扱要綱を提出しその説明を行う。  
(4) 竣工・引渡し前に発注者が建物管理者訓練を実施する日程(1日程度)を確認し、当該訓練の実施に協力する。

(2) メーター検針確認  
(7) 建物引渡し前に行う各種検針メーターの確認は、受注者の責任と負担において全数行い、監理者を通じて発注者に報告書を提出する。  
(4) メーター設置の誤りに起因する発注者及び竣工後の建物管理者の損害については、受注者が全て負担する。

● 1.7.1  
完成時の提出図書

● 1.7.2  
完成図

● 1.7.3  
保全に関する資料

【追加】  
●1.7.4  
完成写真

【追加】  
● 1.7.5  
LCCの算出

【追加】  
● 1.7.6  
引継品

【追加】  
● 1.7.7  
その他

7 箇 完成図書

分類・規格	部数	備考
●完成図	※各2部 ○( )部	配置図、各階平面図、平面詳細図、立面図、断面図、仕上表、各部詳細図、構造図等、設計図を基に完成時の状態を表現したものとし、総合図等監理者の指示する図面)
●施工計画書、製作要領書	※各2部 ○( )部	電子媒体でなく紙で提出
●施工図・製作図	※各2部 ○( )部	
●保全に関する資料	※各2部 ○( )部	電子媒体でなく紙で提出

(1) 完成図の種類及び記入内容は下記による。  
※様仕表 1.7.1 ○

(1)(カ) その他に作成する保全に関する資料は下記による。【追加】  
・保全マニュアル ※長期修繕計画書 ○その他( )

下記のものを監理者に提出する。ただし、原簿は撮影者の保管とする。

分類・規格	撮影箇所数	部数	原簿の大きさ
●アルバム(基本図含)	外部(30 ) 内部(30 )	※2 ○ 3	※6×6 版以上
○カラー	外部( ) 内部( )	※2 ○ 1	※6×6 版以上
・全紙パネル	外部( ) 内部( )	※2 ○ 3	○
○カラーポジ	外部( ) 内部( )	※1	※24 mm × 36 mm 以上
●デジタルデータ	外部(30 ) 内部(30 )	※1	

※撮影業者は監理者の承認する撮影業者( ) 程度)とする。  
※電子データは、RGB(フルカラー)、JPEG形式最高画質(200万画素)とし、CD-Rにて提出する。  
※使用する写真は監理者と協議の上決定する。  
※航空写真5カットを含む。  
(a) 受注者は、竣工の18か月前及び6か月前に、発注者に事前確認のうえ、BELCA(公益社団法人 ロングライフビル推進協会)基準にて本建物のライフサイクルコスト(LCC)の算出を行い、発注者に電子ファイルデータにて提出する。

(a) 受注者は、発注者が竣工後の建物管理に必要なとする管理用備品のうち発注者が負担するものについて、発注者及び建物管理者に事前確認のうえ用意する。引渡し方法の詳細は、建物管理者と事前相談のうえ定める。

以下の工事・作業は本工事に含む。  
○ 各種材料見本の収集及び発注者へのプレゼンテーション資料の作成

環境対応  
(a) 受注者は、本工事の施工に関し、自然環境に与える影響を最小限に抑えることに努め、次の行為を行う。

企業姿勢及び本工事で具体的な計画を示した環境対応計画書を提出する。  
(1) 環境関連法令を遵守する。  
(2) 本工事に伴い発生する一般廃棄物及び産業廃棄物の削減に努める。  
(3) 本工事に伴い発生する有害排出物の発生を抑制することに努める。  
(4) 工事車両削減に努め、また工事車両の現場周辺に与える影響を考慮する。  
(5) 現場及びその周辺の清掃及び粉塵対策を定期的実施する。  
(6) 廃棄物の分別解体、分別収集を徹底し、できる限りリサイクル化を行う。  
(7) 産業廃棄物の処理においては、マニュアルにより最終処理まで確認する。発注者の指示がある場合、マニュアルの写しを速やかに提出する。  
(8) 本工事に伴い、できる限りリサイクル品を使用する。  
(9) 本工事に伴い有害物質を発見した場合は、速やかに適切な処置を行うとともに、発注者及び監理者に報告する。  
(10) 汚染されている可能性のある土壌は掘削前に調査し、有害性を確認のうえ、適正な処置を行う。  
(11) 受注者は、企業としての環境対応内容を発注者に説明するとともに、下請業者・メーカー選定にあたり環境対応における取り組みを考慮する。  
(12) その他、環境対応として効果が期待できる設計変更提案を行う。

【追加】  
●1.7.9  
工事写真

【追加】  
●1.7.11  
火災保険等

火災保険、建設工事保険、組立保険又は土木工事保険等のうち 1 以上に加する。  
契約期間の始期は、材料(仮設、型枠材を除く)購入時以前とし、終期は、工事目的

【追加】 ●1.7.12 軽微な変更	物(分離発注に於いては、引き渡し最終となる工事事務所の引き渡し翌日までとする。 保険契約の締結後、その証券の写しを監理者に速やかに提出する。
	現場の納まり取り合わせ等の関係で材料、寸法、取り付け位置又は取り付け工法を多少変更し、或いはこれらによって取り付け員数を増減する等の軽微な変更は、監理者の指示によって行う。この場合、請負金額の増減は行わない。
【追加】 ●1.7.13 工事監理用図書	(1)工事後、速やかに設計図(契約図)の縮小原図(A3 サイズ)を作成し縮小原図により、A3 サイズの青焼きまたは白焼き製本を(15)部提出する。
	発注者及び設計者の指示により、工事を変更、追加除ける場合は、請負者は速やかに変更見積もりを監理者に提出し、発注者及び設計者の承諾を受けて実行する。 変更内容を書面にて記録し、監理者、設計者の確認を受けること。
【追加】 ●1.7.14 設計変更	1) 着工時に工事に必要な諸官庁、関係機関への届け出を一覧表にまとめて監理者へ提出する。
	2) 本工事に必要な関係官庁の申請手続きは受注者が行い、申請費用を含むその検査に関わる費用は受注者の負担とする。
【追加】 ●1.7.15 官公署その他への届出手続等	3) 監理者の指示により、検査に必要な書類作成に協力すること。
	4) 検査前に検査対象工事の自主検査を事前に行い、各種法規を満たしていることを確認し監理者へ報告すること。
【追加】 ●1.7.16 実施工程表	1) 工事の着手に先立ち、実施工程表を作成し、監理者の承諾を受ける。
	2) 契約書の規定に基づく条件変更等により、実施工程表を変更する必要が生じた場合は、施工等に支障がないよう実施工程表を延滞なく変更し、当該部分の施工に先立ち、監理者の承諾を受ける。
【追加】 ●1.7.17 特許権等について	3)2)によるほか、実施工程表の内容を変更する必要が生じた場合は、監理者に報告するとともに、施工等に支障がないよう適切な措置を講ずる。
	4) 監理者の指示を受けた場合は、実施工程表の補足として、週間又は月間工程表、工種別工程表等を作成し、監理者に提出する。
2章 仮設工事	5) 概成工期が特記された場合は、実施工程表にこれを明記する。
	1節 一般事項  構内既存施設の工事事務所・工事事務所の使用の可否は下記による。 (a) 工事事務所 ※利用不可 ○ 利用可(○ 有償 ○ 無償) (b) 工事事務所 ※利用不可 ○ 利用可(○ 有償 ○ 無償)
●2.2.4 足場等	交通誘導警備員は下記による。 ● 適宜
	2節 縄張り、遣方、足場その他  手すり先行足場(2.2.4) ※適用する ・適用しない なお、これにより難しい場合は監理者と協議する。  (d) 足場に敷設する養生シートは、騒音・振動等公害防止条例その他規定に従って

●2.3.1 監理者事務所	保護シート等を計画する。
	3節 仮設物  【追加】 規模等 ○10㎡(1号程度) ●20㎡(2号程度) ○35㎡3号(程度) ○85㎡(4号程度) ○100㎡(5号程度) 上記規模の他に ●※会議室(請負者→受注者と共用可、20㎡程度) ●更衣室(●男女兼用 ・男女別) ●WC(●男女兼用 ・男女別) ※監理者事務所等の維持保全及び美観保持の費用は、受注者の負担とする。
●8.1.2 基本要品品質	・ 監理者事務所の内装仕上げ
	仕上げ 床 ビニル床シート張り又はタイルカーベット 壁 合成樹脂エマルジョンペイント塗り又はビニルクロス張り 天井 化粧石膏ボード又は岩綿吸音板
●8.3.2 材料	・ 工事名称などの表示 (7) 工事用看板の大きさ、書体、仕上げ、位置等はあらかじめ発注者・監理者と協議する。 (4) 仮囲いに、関係法令に定める掲示物のほかの看板等を設置する場合は、監理者と協議する。 (7) 監理者事務所の備品等の種類及び数量は下記による。( )内は数量を示す。
	●什器 ●机(4) ●椅子(4) ●会議テーブル(1) ●書棚(1) ●見本棚(1) ●更衣ロッカー(2) ○ 応接セット( ) ●洗面設備(1) ●シンク(1) ○白板( ) ○ 図面掛け( )
●8.3.4 鉄筋の加工及び組立	●電気製品 ●冷蔵庫(1) ●電子レンジ(1) ○ 湯沸器( ) ●時計(1)
	●工事中 ●ゴム長靴(3) ●雨カッパ(3) ●安全帯( ) ○ 懐中電灯( ) ○ ヘルメット( ) ○ 検査道具一式( ) ○ 温湿度計( )
●8.4.2 材料	●事務用品 ●筆記用具 ●OA用紙(適宜補充) ●ファイル(適宜補充) ○その他 ○ 消火器
	○その他 ○ 消火器
●8.5.2 a) パネルの種類、厚さ等は下記による。	監理者事務室には、次のOA環境を整備する。( )内は数量を示す。
	●パソコン(2) 機種 ※監理者の指示による ○ その他( ) OS ※Windows7 ○ 監理者の指示による ソフト ※Word ※Excel ※PowerPoint ● AutoCAD ○ その他( ) ※各種最新版とする
●8.4.3 外壁パネル構法	●インターネット 回線種類 ※光ケーブル回線 ○ ADSL回線 ※プロバイダー契約は受注者負担 ※監理事務所の個別回線
	●電話(1) 共用 ※監理者専用 ○ 受注者と共用 ○ FAX( ) 共用 ※監理者専用 ○ 受注者と共用
●8.4.4 間仕切パネル構法	●複合機(1) 機種 ※監理者の指示による ○ その他( ) 機能 ※FAX ※コピー ※スキャナー ※自動原稿送り ※自動給紙 ※自動仕分け ※両面コピー ○ その他( ) 給紙 ※A3・A4対応 ○ A4対応 共用 ※監理者専用 ○ 受注者と共用
	上記に要する費用は、維持運営費を含め一切受注者の負担とする。
●8.5.2 a) パネルの種類、厚さ等は下記による。	【追加】 看板 ●※監理者事務所表示看板 ○ 設計監理者、事業者 本工事に関する看板は、大きさ・書体・仕上げ・位置をあらかじめ監理者と協議する。
	3章 土工事  構造図による。

4章 地業工事	構造図による。
	5章 鉄筋工事
6章 コンクリート工事	構造図による。
	7章 鉄骨工事
7章 鉄骨工事	●7.9.8 耐火塗料
	●8.1.2 基本要品品質
8章 コンクリートブロック・ALCパネル	1節 一般事項
	3節 コンクリートブロック帳壁及び塀  ※ブロックは、標仕 表 8.3.1 及び下表による。
9章 防水工事	●9.1.4 試験
	●9.1.5 防水の保証期間
●9.2.2 材料	4節 ALCパネル  (a) ALCパネルの種類、単位重量、厚さ、長さ等は下記による。
	5節 押出成形セメント板(ECP)
●9.2.2 材料	●9.1.5 防水の保証期間
	●9.2.2 材料

●9.1.4 試験	【追加】 ●9.1.4 試験
	【追加】 ●9.1.5 防水の保証期間
●9.2.2 材料	●9.2.2 材料
	●9.2.2 材料

部位	種類	厚さ(mm)	幅(mm)
● 外壁パネル	※F ○ F-R	60	60
	○ D ○ D-R		
	○ T ○ T-R		
耐火性能	○ 有り ( 耐火 1 時間 ) ○ 無し		
○ 8.5.3 外壁パネル工法	(a) 外壁パネル工法の種別は下記による。 ○ A種 ○ B種 (b) 建築基準法に基づき定まる風圧力は下記による。 ・正圧 2400N/㎡、負圧 標準部-1530N/㎡ 隅部-1860N/㎡ (f) パネル相互の目地幅は下記による。 長辺 ※8mm以上 ○ 短辺 ※15mm以上 ○ (g) 出隅及び入隅の目地幅は下記による。 ※15mm ○ (i) 耐火構造以外の目地及び隙間の処理は下記による。 ※パネル製造所の仕様による ○		
○ 8.5.5 溝掘り及び開口部の処理	(d) パネルの開口の限度は特記なき限り下記による。 開口の限度は、一般的な寸法のパネルに適用する。		
パネルに開口を設ける場合	短辺	パネル幅の1/2以下	150mm以上
パネルを切り欠く場合	長辺	500mm以下	300mm以上
	短辺	(パネル幅-300mm)以下	300mm以上
長辺	500mm以下	300mm以上	
1節 一般事項	水張り試験は以下の通り行う。 防水施工部分について、水上水深50mmで24時間以上の水張り試験を行い、漏水がないことを確認する。監理者に水張り試験計画書を提出する。		
●9.1.5 防水の保証期間	※下記による。		
防水種類	保証期間		
●アスファルト防水	10年		
○改質アスファルトシート	10年		
●塗膜防水	10年		
●ケイ酸質系塗布防水	5年		
○モルタル防水	5年		
○FRP防水	10年		
保証については、受注者、防水施工業者、メーカーの3社連名とする。			
2節 アスファルト防水	(3)(イ) 改質アスファルトルーフィングシートは、JIS A 6013(改質アスファルトルーフィングシート)により、種類及び厚さは、下記による。 ○種類: _____、厚さ: _____ 特記がなければ、表 9.2.3 から表 9.2.8 までによる。 (3)(ロ) 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートは、JIS A 6013 により、種類及び厚さは、特記による。 ○種類: _____、厚さ: _____ 特記がなければ、表 9.2.5 から表 9.2.8 までによる。 (6) 押え金物の材質及び形状寸法は下記による。 ※アルミニウム製L-30×15×2.0(mm)程度 ○ (8) 屋根保護防水断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さは下記による。 材質 ※JIS A 9521 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 3種bA (スキヤンあり) (特定フロンを含まないもの) 厚さ ○ _____mm (9) 屋根露出防水断熱工法に用いる断熱材の材質及び厚さは下記による。 材質 ※JIS A 9521 発泡プラスチック断熱材とする。 厚さ ○ _____mm (10) 絶縁シートに使用する材料は下記による。 ※ポリエチレンフィルム厚さ 0.15mm 以上 (屋根保護防水密着工法及び屋根保護防水断熱工法の場合) ※フラットヤーンクロス(70g/㎡程度) (屋根保護防水密着断熱工法及び屋根保護防水断熱工法の場合)		

● 9.2.3 防水層の種類、種別及び工程

(14) 立上り部の保護に乾式保護材を使用する場合は下記による。  
※押出成形セメント板(厚さ15mm) ○

種別	施工箇所	備考
○ A-1		立上り部の保護コンクリートの適用及び工法は下記による。
○ A-2		( )
○ A-3		( )
● AI-1	設計図による	立上り部の保護コンクリートの適用及び工法は下記による。
○ AI-2		( )
○ AI-3		( )
○ B-1		立上り部の保護コンクリートの適用及び工法は下記による。
○ B-2		( )
○ B-3		( )
○ BI-1		立上り部の保護コンクリートの適用及び工法は下記による。
○ BI-2		( )
○ BI-3		( )
○ D-1		脱気装置の種類・設置数量は下記による。
○ D-2		( )
○ D-3		仕上塗料の種類及び使用量は下記による。
○ D-4		( )
● DI-1		脱気装置の種類・設置数量は下記による。
○ DI-2		( )
		仕上塗料の種類及び使用量は下記による。
		( )
● E-1		保護層は下記による。
○ E-2		● 設ける ○ 設けない

● 9.2.4 施工

(1)(7) 防水層の下地をモルタル塗りとする場合の適用箇所は下記による。  
○

(1)(イ) 立上りは下記による。  
※コンクリート打放し仕上げ B種 ○

● 9.2.5 保護層等の施工

(4)(イ) 平場の保護コンクリートの厚さは下記による。  
こて仕上げ ● 設計図による ※80mm 以上  
床タイル張り等 ○ 設計図による ※60mm 以上

(5) 立上りの保護は下記による。  
● 適(適用箇所:屋上) ○ 否(適用箇所:2階テラス下部)

種別  
● 乾式保護材 ○ れんが押え ○ コンクリート押え ○ モルタル押え

(7) 屋上排水溝は下記による。  
○ 設計図書による  
○ モルタル金ごて仕上げ(鉄線径 2.6mm、網目寸法 50mm の溶接金網敷込み)

【追記】  
(8) 水勾配  
● 設計図書による ※1/200 以上

(6) (7)立上り階及び、立上りや基礎際から 600mm、一般部は 3m 間隔で、成形伸縮目地を設置する。

3 節 改質アスファルトシート防水

【追記】  
(1)(7) 改質アスファルトシート 種類: \_\_\_\_\_、厚さ: \_\_\_\_\_  
(1)(イ) 粘着層付改質アスファルトシート 種類: \_\_\_\_\_、厚さ: \_\_\_\_\_

防水層の工程による種別は下記による。

種別	施工箇所	備考
○ AS-T1		
○ AS-T2		
○ AS-J1		
○ AS-T3		
○ AS-T4		
○ AS-J2		
○ ASI-T1		脱気装置の種類・設置数量は下記による。
● ASI-J1	設計図による。	防水層の設置は下記による。

4 節 合成高分子系ルーフィングシート防水

【追記】(1)ルーフィングシート 種類: \_\_\_\_\_、厚さ: \_\_\_\_\_

(2) 絶縁用シートは下記による。  
※発泡ポリエチレンシート ○

○ 9.4.3 防水層の種類及び工程

防水層の工法、種別及び工程は下記による。

種別	施工箇所	仕上げ塗料塗り	使用分類
○ S-F1		○ シルバー ○ カラー	※非歩行 ○ 軽歩行
○ S-F2			
○ S-M1		○ シルバー ○ カラー	
○ S-M2			
○ S-M3			
○ SI-F1		○ シルバー ○ カラー	
○ SI-F2			
○ SI-M1		○ シルバー ○ カラー	
○ SI-M2			

(4)(イ) PCコンクリート部材下地の場合の目地処理(接着工法)は下記による。  
● 設計図による ○

(5)(イ) 種別 S-F1 及び SI-F1 の場合の PCコンクリート部材の入隅部の増張りは下記による。  
● 設計図による ○

5 節 塗膜防水

防水層の工程による種別は下記による。

種別	施工箇所	備考
○ X-1(絶縁工法)		
● X-2(密着工法)	庇、設備立上り、基礎、パラペット、バルコニー	
○ Y-1	・地下外壁防水	
○ Y-2		防水保護層は下記による。 ※適用する ○ 適用しない
○ エポキシ樹脂系	・工水、雑排水、汚水、排水調整槽	
○ アクリルゴム系		
○ ビニルエステル系		
○ ポリウレタン系		
○ 無機質系		

脱気装置の種類及び設置数量は下記による。  
○ 設ける 材質( ) 設置数量( m 当たり 1 箇所)  
● 設けない

6 節 ケイ酸系塗布防水

【追記】(3)ケイ酸系塗布防水材の適用部位は、表 9.6.1 によるほか、下記による。

種別	施工箇所	備考
● C-UI		
● C-UP	EVピット、消火水槽	

(4)特に指定する下地処理は下記による。  
\_\_\_\_\_

7 節 シーリング

(1)シーリング材の目地寸法は下記による。  
(7)コンクリート打継ぎ目地及びひび割れ誘発目地 ※幅 20mm、深さ 20mm 程度 ○

(イ)ガラス回りの目地 ※幅 5mm、深さ 5mm 以上 ○

(ウ) (7)(イ)以外の目地 ※幅 10mm・深さ 10mm 以上 ○

(2)接着性試験は下記による。  
※簡易接着性試験 ○ 引張り接着性試験

【追記】  
(3)シーリング上に塗装を行う場合は、ノンブリードタイプとし、塗装との相性を確認する。  
(4)石材とシーリング材が接する場合は、石材の汚染性確認を行う。

10 章 石材

● 10.1.3 施工一般

1 節 一般事項  
(1) 石材の割付けは下記による。  
※施工図による ○  
(2)(7) 粗面仕上げの場合のみみどとなる部分の仕上げは下記による。  
○

2 節 材料  
(1) 天然石材の品質、種類、形状、寸法及び表面仕上げは下記による。

○ 10.6.2 床の石張り

○ 10.6.3 階段の石張り

11 章 タイル工事

● 11.1.2 基本要品質

● 11.1.3 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

● 11.3.2 材料

● 11.3.3 張付け用材料

● 12.1.2 基本要品質

● 12.1.4 表面仕上げ

● 12.2.1 木材

● 12.2.1 木材

12 章 木工工事

● 12.1.2 基本要品質

● 12.1.4 表面仕上げ

● 12.2.1 木材

● 12.2.1 木材

施工箇所 品質 種類 産地・名称 厚さ・大きさ(mm) 仕上げの種類 見本

浴室	※1等品	花崗岩	中国	30	本磨き	※提出
----	------	-----	----	----	-----	-----

6 節 床及び階段の石張り

(1) 材料  
(7) 石材の厚さは下記による。  
○ 10.2.1(a)による ○  
(イ) 石裏面処理は下記による。  
○ 10.2.1(a)(8)による ○

(5) 目地  
(7) 一般目地  
【追記】下地に目地を設ける部分については、床石目地と、下地目地の位置を合わせる。

(a) 目地幅は下記による  
屋外 ※4mm 以上 ○  
屋内 ※3~6mm ○

(イ) 伸縮調整目地  
(a) 伸縮調整目地の位置は下記による。  
※床面積 30 m<sup>2</sup>程度ごと、細長い通路の場合は 6m 程度ごと及び他の部材と取り合う箇所

(1) 材料  
(7) 石材の厚さは下記による。  
○ 10.2.1(a)による ○  
(イ) 石裏面処理は下記による。  
○ 10.2.1(a)(8)による ○

1 節 一般事項

【追記】  
(4) 施工計画書は、大型タイルや役物タイルなどの落下防止、目地詰めの特種などに留意して作成すること。  
(5) 詳細なタイル割付図等の生産設計図を作成し、監理者の承認を得ること。

(1) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置は下記による。  
● 設計図による ※標準表 11.1.1 による

(1) 接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○

1 節 一般事項

【追記】  
(4) 表面処理・仕上げについては、あらかじめ見本を提出して、監理者の承認を受けること。  
● 見本及び品質を証明する資料の提出が必要な主要な材料は下記による。

使用箇所	樹種	等級	寸法	備考

見え掛り面の表面の仕上げの程度は下記による。  
○ A種 ※B種 ○ C種 ○ D種  
適用箇所 ○ 設計図による ○

2 節 材料

(1)(イ)(a) 木材の含水率は下記による。  
※A種 ○ B種 ○

(3)

品名	規格・品質	芯材の種類	化粧単板の樹種
※集成材	※一般材	○たも ●なら ○しおじ	
・構造用集成材	○1種 ※2種 ○3種	○	
・造作用集成材	※1等 ○2等	●なら	
・化粧張り造作用集成材	※1等 ○2等	○	○

● 12.2.2 接合具等

○ 12.3.1 防腐・防蟻処理

○ 12.4.1 木材

● 12.6.1 木材

● 12.6.3 ウッドデッキ

○ 12.7.1 木材

13 章 屋根及びとい工事

● 13.1.2 基本要品質

○ 13.2.2 材料

○ 13.2.3 工法

● 13.3.2 材料

(3) 接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○

3 節 防腐・防蟻・防虫処理

【追記】  
行う箇所( )  
防腐処理 ※行う(※図示 ○)  
防蟻処理 ※行う(※図示 ○)

【追記】接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。  
ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂又はホルムアルデヒド系防腐剤(以下、「ユリア樹脂等」という。)を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量  
※規制対象外 ○ 第三種

4 節 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組

(1) 間仕切軸組に用いる木材は下記による。  
※杉又は松を標準とする ○  
(2) 床組に用いる木材は下記による。  
※杉又は松を標準とする ○  
(注)土間スラブの類の場合の土台、転ばし大引き及び転ばし根太は、ひのき又は保存処理木材とする

6 節 床板張り

縁甲板及び上がりかまちに用いる木材は下記による。  
※ひのきを標準とする ○

【追加】  
● 12.6.3 ウッドデッキ

○ 12.7.1 木材

木質及びプラスチック混合の人工木材とし、下地及び工法はメーカー指定とする。

7 節 壁及び天井下地

木材は下記による。  
※杉又は松を標準とする ○

1 節 一般事項

【追記】  
(4) とい及びドレンは以下の設定降雨量で溢水しないものとする。  
150mm/h(東京 1 時間最大降雨量及び 10 分間最大降雨量の 6 倍の中間値) または  
谷幅については、10 分間当たり最大降雨量 40mm とする。  
軒端については、1 時間当たり最大降雨量 100mm とする。  
壁面に降りつける雨量は、外壁面積の 50%を屋根面積として加算する。

2 節 長尺金属板葺

(1) 長尺金属板は下記による。

屋根葺形式	長尺金属板の種類	板厚(mm)
○ 特殊かん合式平滑葺き	※JIS G 3322(塗装溶融 55%アルミニウム一亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯)の屋根用コイル(種類・記号: _____) ○ 溶融亜鉛メッキ量: _____ g/m <sup>2</sup> ○ カラーアルミニウム _____ mm	○

※屋根葺形式には、横葺、瓦葺、平葺等を記載する。  
一解説編 JIS G 3322 ガルバリウム鋼板等、耐久性の種類やめっき付着量等を記載する。  
(3) 下葺材料の種類は下記による。  
○

(1) 屋根葺形式は下記による。  
○ パネル屋根  
(2) 建築基準法に基づき定まる耐風圧力及び積雪荷重とする。  
(3) 屋根葺工法は下記による。  
○ 定尺工法 ※謀工法

3 節 折板葺

折板葺は下記による。

形式	※重ね形	○はぜ絡め形	○かん合形
形状(mm)	山高( 85 )	山ピッチ( )	板厚 t0.6

図面名 特記仕様書 5 図面番号 特-05 区分 建築  
縮尺 年月日 2021年 1月

● 13.3.3  
工法

● 13.5.2  
材料

● 13.5.3  
工法

材 料	※塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (規格等) (GGLCCR-20-AZ150)
軒先面戸板	●有り ○無し
断熱材	○有り(種別: 厚さ: mm) ●無し
耐火性能	●30分耐火 ○無し

5 節 とい

(1) といその他の材種等は表 13.5.1 または、下記による。  
○ 硬質ポリ塩化ビニル管  
○ 排水用リサイクル硬質塩化ビニル管 (REP-VU)  
● アルミ製バンドレス工法

屋内隠蔽部及び屋内露出の呼び径・たて径・横走り径には防露被覆を施す。オーバーフローを考え、必ず2箇所以上ドレンを設置する。2箇所以上設置できない場合はオーバーフロー管を設置する。

【追加】

(1) ルーフドレン  
掃 除 口 ●有り ○無し  
落葉等によるドレン詰まりが起こらないよう、十分な立上りをもったストレーナーとし、落葉侵入防止ネットを設ける。  
(3) 防露材のホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○ (mg/L)

【追加】

(4) オーバーフロー管  
保護防水用のステンレス製 50 とする。  
(2) 鋼管製といの防露巻は下記による。  
※標仕 表 13.5.4 による ○

(8) 掃除口  
○あり ※なし

14 章 金属工事

● 14.1.2  
基本要品質

● 14.1.3  
工法

● 14.2.1  
ステンレスの表面仕上げ

● 14.2.2  
アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

● 14.2.3  
鉄鋼の亜鉛めっき

● 14.4.2  
材料

1 節 一般事項

【追加】

(4) 施工計画書は、外部天井など風圧を受ける部分・大きな吊り重その他特殊な荷重を受ける部分については強度計算書を添付する。  
表面処理・仕上げ(めっきの色合い、ツヤなど)については、あらかじめ見本を提出して、監理者の承認を受ける。

(1)(E) あと施工アンカーの引抜き耐力の確認試験は下記による。  
※ 行う 適用範囲 ○行わない

【追加】後施工アンカーは、接着系とする

2 節 表面処理

ステンレスの表面仕上げは  
・ 下記による。記述がないときはHL仕上げ程度とする。

(1) アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理は下記による。  
種別及び皮膜又は複合皮膜の種類 ※標仕 表 14.2.1 による

種 別	施工箇所
● BB-1 種 (無着色)	D-501 設備用基礎詳細図アルミパネル
● BB-2 種 (○ブラウン系 ○ブラック ○ステンカラー ○グレー ○指定色)	

常温乾燥形の塗装の適用 ○有 \_\_\_\_\_ ○無 \_\_\_\_\_

(2) 陽極酸化被膜の着色方法は下記による。  
※二次電解着色 ○ \_\_\_\_\_  
色合等は○ \_\_\_\_\_

(1) 鉄鋼の亜鉛めっきは下記による。

表面処理方法	種 別	施工箇所
●溶融亜鉛めっき	●A種 ○B種 ○C種	

4 節 軽量鉄骨天井地下

(2) 野縁等の種類は下記による。  
屋内 ※19 形 ○ \_\_\_\_\_  
屋外 ※25 形 ○ \_\_\_\_\_

● 14.4.3  
形式及び寸法

● 14.4.4  
工法

● 14.4.5  
軽量鉄骨天井地下

【追加】

● 14.5.3  
形状及び寸法

● 14.6.2  
材料

● 14.6.3  
工法

● 14.7.2  
材料

● 14.7.3  
工法

● 14.8.2  
手すり

(1) 野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔は下記による。  
屋内 ※標仕 14.4.3(1)による ○ \_\_\_\_\_  
屋外 ○ \_\_\_\_\_mm とする

(2) 野縁の間隔は下記による。  
屋内 ※標仕 表 14.4.2 による ○ \_\_\_\_\_  
屋外 ○ \_\_\_\_\_mm とする

天井地下における耐震補強はメーカー標準の補強ハンガー及び補強クリップを用いる

屋外の軒天井、ポーテ天井における耐震補強はメーカー標準の補強ハンガー及び補強クリップを用いる

野縁等の種類: 屋内 \*19 形  
屋外 \*25 形

防振吊り子を適用する。  
外の野縁受ハンガーには、野縁受外れ止めのピン等を設ける。  
・天井下の振れ止め補強は、地震力及び風圧力に対して、仕上材含め有害な変形の発生や脱落が生じないように筋交を設ける。  
・天井ふところが、屋内は 1.5m 以上、屋外は 1.0m 以上の場合、縦横 1.8m 程度ごとに、吊ボルト同材又は、[-19×10×1.2 以上を用いて斜め補強を施し、水平つなぎ材を設け、施工要領書により確認を行う。

【追加】

軒天井地下などの外気が接する部分及び、地下2重壁など、高湿度が予測される部分は高耐食性下地を使用する。

5 節 軽量鉄骨壁下地

(a) スタッド、ランナー等の種類は下記による。  
種類 ● 標仕 表 14.5.1 による ○ \_\_\_\_\_

6 節 金属成形板張り

(1) 金属成形板の種類及び表面処理は下記による。

形状	製法	材種	寸法 (mm)	厚さ (mm)	表面処理
●スバンドレ ル形	● 押出し ○ ロール	●アルミ ニウム製		1.0	○ B-1 種 ● BB-2 種 ( )
○ パネル形	○ プレス ○ 切板	○ガルバ リウム鋼 板		0.27	○ F 素樹脂 焼付け塗装

(5) 伸縮調整継手の設置は下記による。  
※設けない ○ 設ける(施工箇所は図示)

7 節 アルミニウム製笠木

(1)(3) アルミニウム製笠木の種類、表面処理は下記による。

種 類	呼 称 肉 厚 (mm)	表面処理	備 考
○ 250 形	1.6 以上	※A-1 又は BB-1 種	隅角部及び突当たり部等の役物は笠木本体製造所の仕様による。直線部と曲線部の見え掛りを揃える。
● 300 形	1.8 以上	○ BB-1 種	
○ 350 形	2.0 以上	● BB-2 種	
○ 100 形			
○ 図示			

(1)(7) 固定金具の間隔、固定方法等は建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した工法を  
○適用しない  
●適用する

8 節 手すり及びタラップ

(1)(7) 材料の種類は下記による。

種類	材料の種類	表面処理	側圧力 (kgf)
手すり	○ ステンレス SUS304	○ HL 程度 ○ 鏡面程度 ○	

● 鉄

亜鉛めっき  
外部 ○C種 ●AB-1種  
内部 ○E種 ●AB-1種

300

● 14.8.3  
タラップ

● 14.9.1  
目隠しパネル

● 14.9.2  
床見切り金物

● 14.9.3  
壁見切り金物

● 14.9.4  
清掃用具掛け  
フック金物

● 14.9.5  
丸環

○ 14.9.6  
設備取合パネル

○ 14.9.7  
アルミカットパ  
ネル

○ 14.9.8  
ペリカウンター

● 14.9.9  
ブラインドボック  
ス

○ 14.9.10  
外部鉄骨梁貫  
通ふさぎパネル

● 14.9.11  
床用グレーチング

○ 14.9.12  
間仕切り取合  
金物

○ 14.9.13  
給排気用チャン  
パーボックス

● 15.3.2  
材料

● 15.3.5  
工法

● 15.4.2  
床面の仕上げ

● 鉄

亜鉛めっき  
外部 ○C種 ●AB-1種  
内部 ○E種 ●AB-1種

300

・ 手すりは、温度伸縮を検討し適切な位置に伸縮継手を設ける。

(1)(7)(E) 材料の種類、表面処理は下記による。

種類	材料の種類	表面処理
タラップ	● ステンレス SUS304	※研磨無し ○ HL 仕上げ
	○ 鉄	亜鉛めっき 内外部 ※C種 ○

・ タラップ高さが 2m を超える場合は原則背カゴ付きとする。

【追加】 9 節 その他の金物

施工箇所: 屋上目隠し  
材質及び仕上: 溶融亜鉛めっき処理の上、ポリエステル粉末塗装

SUS-6×18(足付)とし、異なる仕上げ材が取り合う部材間に必要に応じて取り付ける。

壁、柱出隅取合部に必要に応じて取り付ける。

各便所掃除用具入れ: 各 1 箇所

施工箇所: 屋上パラペット部分 33 箇所  
SUS製の既製品とし、打ち込みタイプとする。特記なき限り、パラペット立上りアゴ部に設ける。打ち込み時に際しては勾配をつけ、躯体との取り合い部に四周シーリングを施す。

施工箇所: 1 階 庇軒天、風除室天井  
材質及び仕上: フッ素樹脂焼付塗装とする

設計図に表示なき限り、鋼板 t=1.6AP 焼付塗装、取外し可能な機構とする。

設計図に表示なき限り、鋼板 t=1.6AP 焼付塗装とする。

特記なき限り、外壁を貫通する全ての鉄骨梁に適用とする。  
範囲・詳細は別紙による

床用グレーチングその他の材質、形状は下記による。  
・外構排水溝: ステンレス製継手付付(歩行用)  
・浴室: プラスチック製

カーテンウォール、建具の取合う部分に適用する。  
耐火壁・遮音壁との取合い箇所はロックウール 70kg/m<sup>3</sup>充填とする。

St、排水機能、断熱材、  
取付範囲・寸法は立面図がラリ部分とし、ステンレス製 t1.5 の裏打ち材、断熱材吹付けとし梁貫通まで見込むこと

3 節 モルタル塗り

(3) 混和剤  
・ 防水剤(防水モルタル塗りの混和剤)については下記による。  
防水材の種類: 建築用のモルタルに用いるセメント防水剤

混合割合	凝結時間	曲げ及び圧縮 強度比	吸水比	透水比
セメント重量 の5%以下	JIS R 5201 の試験 において 始発 1 時間以上 終結 10 時間以内	70%以上	95%以下	80%以下

膨張性のひび割れ及びびりがないこと。

4 節 床コンクリート直均し仕上げ

下表以外は、標仕 表 6.2.5 及び標仕 15.4.2 による。

施工箇所	平坦さ(mm)	備 考
フリーアクセスフロア(パネル構造)範囲	1mにつき10以下	塗料塗りの場合も含む

○ 15.5.2  
材料

● 15.6.2  
材料

● 15.6.7  
所要量等の確認

● 15.12.2  
材料

● 16.1.3  
防火戸

● 16.1.4  
見本の製作等

● 16.1.6  
その他

● 16.2.2  
性能及び構造

● 16.2.3  
材料

● 16.2.4  
形状及び仕上げ

5 節 セルフレベリング材塗り

(1) セルフレベリング材の種類及び品質は下記による。  
○せっこう系 ●セメント系

6 節 仕上塗材仕上げ

(1) 仕上塗材  
(7) 内装仕上げに用いる塗材のホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_kg/L  
(4) 仕上塗材の種類(呼び名)、仕上げの形状及び工法は下記による。

種類	呼び名	仕上げの形状等	特性
○薄付け 仕上塗材	○ 外装薄塗材Si ○ 可とう形外装薄塗 材Si	○	
●複層仕 上塗材	○複層塗材CE ○可とう形複層塗材C E ●複層塗材Si ○複層塗材E ○複層塗材RE ○複層塗材RS ○防水形複層塗材CE ○防水形複層塗材E ○防水形複層塗材R E ○防水形複層塗材RS	○ ゆず肌状 ○ 凸部処理 ※凹凸模様 耐候性 ※3種 ○ 1種 上塗材 溶媒 ※水系 ○ 溶剤系 樹脂 ●アクリル系 ○フッ素系 外観 ※つやあり ○つやなし 防水形の増塗材 ※行う	

※ F☆☆☆☆表示品を適用する。  
所要量等の確認は下記による。  
※標仕 表 15.6.4 による ○ \_\_\_\_\_

12 節 ロックウール吹付け

(1) ロックウールのホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_mg/L  
(4) 接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。  
※F☆☆☆☆ ○ \_\_\_\_\_mg/L

1 節 一般事項

(1) 防火戸の指定は下記による。  
※設計図による ○ \_\_\_\_\_  
(3) 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸をヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動させる場合は下記による。  
※設計図による ○ \_\_\_\_\_

(1) 建具見本の製作は下記による。  
※行わない ○ 行う(建具符号: \_\_\_\_\_)  
(2) 「防犯建物部品」の適用は下記による。  
● 適用しない ○ 適用する

【追加】 (3) ダクトには、ダクト接続の有無に関らず防鳥網を設置する。

2 節 アルミニウム製建具

(2) アルミニウム製建具の性能値等  
(7) 耐風圧性、気密性及び水密性の等級は下記による。

種 別	耐風圧性	気密性	水密性	棒見込み (mm)	施工箇所
○ A種	S-4	※A-3	※W-4	※ 70	※図示 ○
● B種	S-5			○ 100	※図示 ○
○ C種	S-6	A-4	W-5	100	※図示 ○

(2) 防音ドアセット、防音サッシの適用及び遮音性の等級は建具表による。  
(3) 断熱ドアセット、断熱サッシの適用及び断熱性の等級は建具表による。  
(4) 耐震ドアセットの適用及び内面変形追随性の等級は建具表による。  
【追加】(5) 操作性能は、片引きサッシ 30N以下、回転サッシは 50N以下とする。

(5) 網戸等  
(7) 網戸に使用する防虫網は下記による。  
※合成樹脂製 ○ガラス繊維入り合成樹脂製 ○ステンレス製(SUS316)  
【追加】(2) 網戸の形式は下記による。  
●外部可動式(引違窓、片引き窓) ●固定式(突出し窓)

(4) アルミニウムの表面処理は表 14.2.1 によるほか、下記による。  
外部に面する建具※BB-1種  
● BB-2種(ブラウン系・ブラック・ステンカラー)  
○D-1種(フッ素樹脂塗装)  
※標準色・特別色

<p>● 16.2.5 工法</p> <p>● 16.4.2 性能及び構造</p> <p>● 16.4.3 材料</p> <p>● 16.4.4 形状及び仕上げ</p> <p>● 16.5.2 性能及び構造</p> <p>● 16.5.3 材料</p> <p>● 16.5.4 形状及び仕上げ</p> <p>● 16.6.2 性能及び構造</p> <p>● 16.6.3 材料</p> <p>● 16.6.4 形状及び仕上げ</p> <p>● 16.6.5 工法</p> <p>● 16.8.1 一般事項</p> <p>● 16.8.2 材質、形状及び寸法</p> <p>● 16.8.3 取付け施工</p> <p>● 16.8.4 鍵</p>	<p>屋内建具 ※BC-1種 ○BB-1種 ○BC-2種 ●BB-2種(○ブラウン系 ○ブラック ○ステンカラー) ○C種(フッ素樹脂塗装) ※標準色・特別色</p> <p>(7) 結露水の処理方法は下記による。 ※結露受けを設け、外部排水方式とする。見込み、深さは監理者の承認を受ける。</p> <p>(1)(ウ) 水切り板、ぜん板等は設計図による。</p> <p><b>4節 鋼製建具</b></p> <p>(2) 鋼製建具の性能値 (7) 簡易気密型ドアセットの気密性、水密性の等級は下記による。 ● 標仕表 16.4.1による ○ 設計図による ○ 外部に面する鋼製建具の耐風圧性能は下記による。 ● 設計図による ○</p> <p>【追加】 特定防火設備の適用 ●適用あり ○適用なし 防火設備は、遮煙性能を有する防火設備とする。(建設省告示第 2564 号参照) (1) 鋼板類の厚さは下記による。 ※標仕表 16.4.2による ○設計図による ○</p> <p><b>5節 鋼製軽量建具</b></p> <p>(2)(7) 簡易気密型ドアセットの適用は設計図による。</p> <p>(5) 召合せ、縦小口包み板等の材質は下記による。 ※鋼板 ○ステンレス鋼板 ○アルミ押出型材</p> <p>【追加】 特定防火設備の適用 ●適用あり ○適用なし 耐風圧性能の適用は建具一般事項による。 防火設備は、遮煙性能を有する防火設備とする。(建設省告示第 2564 号参照) (1) 鋼板類の厚さは下記による。 ※標仕表 16.5.1による ○設計図による ○</p> <p><b>6節 ステンレス製建具</b></p> <p>(1) 外部に面するステンレス製建具の耐風圧性能は下記による。 ○ 設計図による ●建具一般事項による (2) 簡易気密型ドアセットの適用は建具表による。</p> <p>(1) ステンレス鋼板は下記による。 ●SUS304 ○SUS430J1L ○SUS443J1 ○SUS430 なお SUS430 は屋外に適用しない。</p> <p>【追加】 特定防火設備の適用 ●適用あり ○適用なし (表 16.5.1) (4) 表面仕上げは下記による。 ※HL仕上げ ○鏡面仕上げ ○パイブレーション ○フッ素焼付塗装</p> <p>(1)(ア) ステンレス鋼板の曲げ加工は下記による。 ※普通曲げ ○角出し曲げ(補強あり)</p> <p><b>8節 建具用金物</b></p> <p>(2) 既製又はこれに準ずる金物のうち、機能に必要な最小限のものは下記による。 ※建具製造所の仕様による ○設計図による</p> <p>(3) 金物の種類及び見え掛り部の材質は下記による。 ※標仕表 16.8.1による ○設計図による (8)(ア) 樹脂製建具に使用する丁番は下記による。 ※標仕表 16.8.3による ○設計図による</p> <p>(1) 握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置は設計図による。 【追加】 (6) 金物取り付け部は補強を行う。開き窓などのあおり止め金物は風圧に耐えうる強度とし、窓枠など補強のうえ、取付ける。</p> <p>【追加】 建具作成に先立ち、キーシステム、電気錠種類、配置について、鍵計画図を作成し、監督職員と協議し、承諾を受けること。</p>	<p>【追加】 ●16.8.5 錠</p> <p>【追加】 ●16.8.6 吊金</p> <p>● 16.9.2 性能</p> <p>● 16.9.3 機構</p> <p>● 16.10.3 性能等</p> <p>● 16.11.2 形式及び機構</p> <p>● 16.11.3 材料</p> <p>(1) マスターキーの製作は下記による。 ※製作する ○製作しない 【追加】 (3) 鍵の本数は以下による。キーシステム ○グレートグランドマスターキー(GGMK) 3本/組 ○グランドマスターキー(GMK) 3本/組 ※マスターキー(MK) 3本/組</p> <p>(a) 錠類は特記なき限りシリンダー箱錠(レバーハンドル)とする なお、錠前類は建具製作所の指定するものとし、監理者の承諾を受ける (b) 外部に設置する電機錠は、常時の雨掛りを避けるため錠 建具上部にステンレス製の霧除けを設置し、プルボックスは室内に設ける。 特定防火設備、防火設備の両開き扉、親子扉には、コンシールドタイプの順位調整器を設ける。特定防火設備、防火設備に取り付けフロアーヒンジ、ドアクローザー、オートヒンジはストッパー無しとする。 (c) 電気錠の工事区分は建具一般事項の工事区分図による。</p> <p>●丁番(内部建具については、軸を鉄芯としてもよい)外部建具は全て SUS 製 丁番とする。 ●ピボットヒンジ ●コンシールド(建具表による) ●電気錠通電金物</p> <p><b>9節 自動ドア開閉装置</b></p> <p>(2) 自動ドア開閉装置の性能値 (7) スライディングドア用自動ドア開閉装置の性能値は下記による。 ※標仕表 16.9.1による ○ (4) スイングドア用自動ドア開閉装置の性能値は下記による。 ※標仕表 16.9.2による ○</p> <p>(1) 戸の開閉方法は下記による。 ※スライディングドア ○スイングドア (2) センサーの種類は設計図によるほか下記による。 ●光線スイッチ ○音波スイッチ ○熱線スイッチ ○光電スイッチ ○電波スイッチ ○タッチスイッチ (7) 寒冷地における凍結防止措置は下記による。 ※適用しない ○適用する(適用箇所は設計図による)</p> <p>【追加】 (8) 電気錠、パニックオープン機構の設置箇所は設計図による。 【追加】 (9) 特記なき限り、各自動ドアには補助光電スイッチを設置する。</p> <p><b>10節 自閉式上吊り引戸装置</b></p> <p>(2) 自閉式上吊り引戸装置の性能は下記による。 ※標仕表 16.10.1による ○製造所標準仕様による</p> <p><b>11節 重量シャッター</b></p> <p>(1)(2) シャッターの種類等は下記による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シャッターの種類</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>● 一般重量シャッター</td> <td>● 耐風圧性能はメーカ推奨値による</td> </tr> <tr> <td>○ 外壁用防火シャッター</td> <td>○ 耐風圧性能は必要構造性能概要書による</td> </tr> <tr> <td>○ 屋内用防火シャッター</td> <td>監視室窓口、シャッターケースは天井内とする</td> </tr> <tr> <td>○ 屋内用防煙シャッター</td> <td>シャッターケースは天井内とする</td> </tr> <tr> <td>○ 袖壁運動防火防煙シャッター</td> <td>シャッターケースは天井内とする</td> </tr> </tbody> </table> <p>危害防止機構 ※障害物感知装置(自動閉鎖型) ●シャッターの二段降下方式</p> <p>(3) 開閉機能による種類は下記による。 ※上部電動式(手動併用) ○上部手動式 (6) 一般重量シャッターのシャッターケースの設置は下記による。 ※設置する ○設置しない</p> <p>(1) スラット及びシャッターケース用鋼板の種類及びめっきの付着量は下記による。 鋼板の種類 めっき付着量 ※Z12 又はF12 ○ ※スラットは 1 枚おきにツメを設ける</p>	シャッターの種類	備考	● 一般重量シャッター	● 耐風圧性能はメーカ推奨値による	○ 外壁用防火シャッター	○ 耐風圧性能は必要構造性能概要書による	○ 屋内用防火シャッター	監視室窓口、シャッターケースは天井内とする	○ 屋内用防煙シャッター	シャッターケースは天井内とする	○ 袖壁運動防火防煙シャッター	シャッターケースは天井内とする	<p>14節 ガラス</p> <p>【追加】 ● 16.14.1 一般事項</p> <p>● 16.14.2 材料</p> <p>● 16.14.3 ガラス溝の寸法、形状等</p> <p>● 16.14.4 工法</p> <p>【追加】 ● 16.14.6 ガラス用フィルム</p> <p>● 17.1.3 性能</p> <p>● 17章 カーテンウォール工事</p> <p>(1) 共通事項 ・ はめ込みガラスの耐震性能については、JASS17 2.2.4 耐震性能に従う。 ・ 風圧力については、建築基準法及び関連施行令・告示に基づいて下記の風速等により算定し、ガラスが破損しないものとする。風圧力は必要構造性能概要書による。ただし、13m 以下の部分についても 13m として荷重を計算すること。</p> <p>【追加】 外部に面するガラス(風除室内扉含む)の耐風圧性能は下記による。 性能値 ※建築基準法施行令第 87 条及び建設省告示第 1454 号に定められた風圧力に対して安全であること。 正圧 2400N/m<sup>2</sup> 以上及び 負圧 標準部-1530N/m<sup>2</sup> 隅部-1860N/m<sup>2</sup> 以上に対して安全であること。</p> <p>(1) 板ガラスの厚さ及び種類は設計図によるほか、以下を適用する。 ※熱線吸収板ガラス、高性能熱線反射ガラス及び網入り板ガラスは、熱割れ防止を検討する。 ※強化ガラスはヒートソークテスト済みのものとし、メーカー仕様による。 ※網入りガラスの四周には防錆処理を行う。防錆処理はブチルゴムテープとアテープの併用と同等以上の処理とする。</p> <p>(2) ガラス留め材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>建具の種類</th> <th>材 種</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>●アルミニウム製</td> <td>※シーリング材 ○ ガスケット(FIX部はシーリング材)</td> </tr> <tr> <td>●鋼製及び鋼製軽量</td> <td>※シーリング材</td> </tr> <tr> <td>●ステンレス製</td> <td>※シーリング材</td> </tr> </tbody> </table> <p>防火戸のガラス留め材は建築基準法に基づく防火性能を有するものとする。</p> <p>標仕 16.14.3 以外のアルミニウム製建具及び板ガラスの場合は(社)日本建築学会 JASS 17 ガラス工事「3.1 納まり寸法標準」によるほか、性能値が確認できる資料を監理者に提出する。</p> <p>(3) ガラス全般に関し、受注者等はガラスの現場搬入時及び建入れ後に、ガラス小口の状況検査を実施し、監理者に報告する。</p> <p>下記の範囲に適用する</p> <p>ガラス用フィルムは下記による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>種類</th> <th>張り面</th> <th>性能値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ガラス飛散防止フィルム</td> <td>第 2 種</td> <td>●内張り ○外張り</td> <td>飛散防止率 D1</td> </tr> </tbody> </table> <p>品質 JIS A 5759 による</p> <p><b>1節 一般事項</b></p> <p>【追加】 設計図書による規定の他、特記無き事項は(社)日本建築学会 JASS14 による。 (1) カーテンウォールの諸性能値 性能は下記により、破損、脱落などが生じないよう安全性が確保されたものとする。</p> <p>耐風圧性能 目標性能 ● 建築基準法施行令第 87 条及び建設省告示第 1454 号に定められた風圧力に対しての安全性を確保する。 設計用風圧力 風圧力は下記による 部位 正圧 負圧 標準 2400 -1530 角部 -1860</p> <p>耐震性能 目標性能 ・ 下記の設計震度で主要部材の破損、脱落、有害な残留ひずみがないものとする。 ・ 下記の設計震度で主要部材が許容応力度以下とする。 設計震度 設計用震度は必要構造性能概要書による。 ただし片持ち形状部分の鉛直震度は上記の 1.5 倍とする。</p> <p>層間変形追随性 目標性能 設計用層間変位とカーテンウォールの目標性能は以下の通りとする。 層間変位 目標性能:20mm とする。 1/300 全てのカーテンウォールが被害なく継続使用可能 1/200 シーリング部とガスケット部に補修を要する箇所が発生する程度 1/100 主要部材に有害な残留ひずみが生じない 部材及びガラスの損傷・脱落なし</p> <p>水密性能 ○ ● W-4 ○ W-5 を確保する 気密性能 ○ ● A-3 ○ A-4 を確保する 耐火性能 ● 適用しない ○ 適用する( 時間、施工箇所:設計図による) 耐温度差性 ○ 遮音性 ● T-1 断熱性 ● H-1</p>	建具の種類	材 種	●アルミニウム製	※シーリング材 ○ ガスケット(FIX部はシーリング材)	●鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材	●ステンレス製	※シーリング材	名称	種類	張り面	性能値	※ガラス飛散防止フィルム	第 2 種	●内張り ○外張り	飛散防止率 D1	<p>(3) 性能の確認方法及び判定方法 ●標仕 17.1.3(3)による ●性能確認及び判定を行った資料、計算書及び図面を工事監理者に提出し承認を受ける。その他性能については、適切な資料を工事監理者に提出し、承認を受ける。</p> <p>主要部材のたわみ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>支点間距離(h)</th> <th>たわみ量</th> <th>状態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※4m 以下</td> <td>※±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下</td> <td>※各部の破損、残留変形有害な変形が起こらないこと</td> </tr> <tr> <td>○4m を超える</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>建物の構造種別 層間変位量(h=支点間距離) 状態 鉄骨造 ※±(1/100)×h以上 ※部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが生じないシーリングは補修程度</p> <p>【追加】 ○17.1.4 総括技術者の専任 【追加】 ○17.1.5 避雷対策</p> <p>計画及び製作・施工に先立ち、該当カーテンウォール工事の総括技術者を定め、本工事に関する担務毎の担当技術者を総括指揮し、カーテンウォール工事全般の総合調整と管理を行う。</p> <p>避雷設備の設置 ○する ○しない 外装の避雷対策として、外装ユニット間を動線で連結し、3 ユニットごとに鉄骨等の黄道帯にアースを施し、避雷に有効な対策を講ずる。 対象部位: H=25m 照明柱(電気設備工事)</p> <p><b>18章 塗装工事</b></p> <p>● 18.1.3 材料</p> <p>● 18.2.2 木部の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.3 鉄鋼面の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.4 亜鉛めっき面の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.5 モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.6 コンクリート面、ALCパネル面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.7 せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえ</p> <p>● 18.2.8 ステンレスの素地ごしらえ</p> <p>● 18.3.2 塗料種別</p> <p><b>1節 一般事項</b></p> <p>(1) 塗料のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○ mg/L</p> <p><b>2節 素地ごしらえ</b></p> <p>(1) 木部の素地ごしらえの種別は下記による。 ○A種(不透明塗料塗り) ●B種(透明塗料塗り)</p> <p>鉄鋼面の素地ごしらえの種別は下記による。 ○ A種 ● B種 ○ C種 ※鉄骨鉄鋼面については、C 種とする</p> <p>亜鉛めっき面の素地ごしらえの種別は下記による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種別</th> <th>施工部位及び塗料種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○ A種</td> <td>2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合</td> </tr> <tr> <td>● B種</td> <td>A種、C種以外</td> </tr> <tr> <td>○ C種</td> <td>下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合</td> </tr> </tbody> </table> <p>モルタル面及びプラスター面の素地ごしらえの種別は下記による。 ○A種 ※B種</p> <p>(1) コンクリート面及びALCパネル面の素地ごしらえの種別は下記による。 ○ A種 ※B種 ただし、耐候性塗料塗りの場合は、標仕表 18.2.6 のA種による。</p> <p>せっこうボード面及びその他ボード面の素地ごしらえの種別は下記による。 ○ A種(せっこうボードの目地工法が継目処理工法の場合) (施工箇所: ) ※B種</p> <p>塗料メーカーの推奨仕様による。</p> <p><b>3節 錆止め塗料塗り</b></p> <p>(1) 鉄鋼面錆止め塗料の種別は下記による。 階段 1・2 およびその他の鉄鋼面 ※A種 鉄骨鉄鋼面(階段 1・2 を除く) ※B種 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りの場合は B 種とする。</p>	支点間距離(h)	たわみ量	状態	※4m 以下	※±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下	※各部の破損、残留変形有害な変形が起こらないこと	○4m を超える			種別	施工部位及び塗料種別	○ A種	2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合	● B種	A種、C種以外	○ C種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合	<p>特記仕様書 7</p> <p>図面番号 特-07 区分 建築</p> <p>年月日 2021年 1月</p>
シャッターの種類	備考																																																	
● 一般重量シャッター	● 耐風圧性能はメーカ推奨値による																																																	
○ 外壁用防火シャッター	○ 耐風圧性能は必要構造性能概要書による																																																	
○ 屋内用防火シャッター	監視室窓口、シャッターケースは天井内とする																																																	
○ 屋内用防煙シャッター	シャッターケースは天井内とする																																																	
○ 袖壁運動防火防煙シャッター	シャッターケースは天井内とする																																																	
建具の種類	材 種																																																	
●アルミニウム製	※シーリング材 ○ ガスケット(FIX部はシーリング材)																																																	
●鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材																																																	
●ステンレス製	※シーリング材																																																	
名称	種類	張り面	性能値																																															
※ガラス飛散防止フィルム	第 2 種	●内張り ○外張り	飛散防止率 D1																																															
支点間距離(h)	たわみ量	状態																																																
※4m 以下	※±(1/150)×h かつ絶対量 20mm 以下	※各部の破損、残留変形有害な変形が起こらないこと																																																
○4m を超える																																																		
種別	施工部位及び塗料種別																																																	
○ A種	2液形ポリウレタンエナメル塗り、常温乾燥形ふっ素樹脂エナメル塗りの場合																																																	
● B種	A種、C種以外																																																	
○ C種	下塗りに変成エポキシ樹脂塗料を塗装する場合																																																	
		公共建築課長	主査等	担当者	工事名	久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事		図面名	特記仕様書 7	図面番号	特-07	区分	建築																																					
								縮尺		年月日			2021年 1月																																					

<p>● 18.3.3 錆止め塗料塗り</p> <p>● 18.4.2 塗料の種類</p> <p>○ 18.4.3 木部合成樹脂調合ペイント塗り</p> <p>● 18.4.4 鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗り</p> <p>○ 18.6.2 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り</p> <p>○ 18.7.4 コンクリート面及び押出成形セメント板耐候性塗料塗り</p> <p>● 18.8.2 コンクリート面、モルタル面、プaster面、せっこうボード面、その他ボード面等つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>● 18.8.4 鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>● 18.9.2 合成樹脂エマルジョンペイント塗り</p> <p>○ 18.10.2 コンクリート面、モルタル面、プaster面、せっこうボード面等合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り</p> <p>● 18.15.1 アクリルシリコ</p>	<p>(2) 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料の種類は下記による。 ※A種 ○B種 ○C種 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りの場合はC種とする。</p> <p>(1) 鉄鋼面錆止め塗料塗りの工程種別は下記による。 階段1・2およびその他の鉄鋼面 ※A種 鉄骨鉄鋼面(階段1・2を除く) ※B種</p> <p>(3) 亜鉛めっき鋼面錆止め塗料塗りの工程種別は下記による。 ※鋼製建具はA種、その他はC種 ○</p> <p><b>4節 合成樹脂調合ペイント塗り(SOP)</b></p> <p>合成樹脂調合ペイント塗りの塗料の種類は下記による。 ※1種 ○</p> <p>木部合成樹脂調合ペイント塗りの種別は下記による。 屋外 ※A種 ○ 屋内 ※B種 ○</p> <p>鉄鋼面合成樹脂調合ペイント塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p><b>6節 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(NAD)</b></p> <p>アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p><b>7節 耐候性塗料塗り(DP)</b></p> <p>コンクリート面及び押出成形セメント板耐候性塗料塗りの種別は下記による。 ○ A種 ○ B種 ○ C種</p> <p><b>8節 つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP-G)</b></p> <p>コンクリート面、モルタル面、プaster面、せっこうボード面、その他ボード面等つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p>鉄鋼面つや有合成樹脂エマルジョンペイント塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p><b>9節 合成樹脂エマルジョンペイント塗り(EP)</b></p> <p>合成樹脂エマルジョンペイント塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p><b>10節 合成樹脂エマルジョン模様塗料塗り(EP-T)</b></p> <p>コンクリート面、モルタル面、プaster面、せっこうボード面等つや有合成樹脂エマルジョン模様塗料塗りの種別は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p><b>【追加】15節 その他の塗料塗り</b></p> <p>材質 アクリルシリコン樹脂塗料(※標準色 ●特注色 ) 仕上種別 コーティング(ローラー刷毛塗り)</p>	<p>ン塗料塗り</p> <p>塗布量 主剤2回塗し、総塗布量は0.25kg/m<sup>2</sup>以上とする。</p> <p>19章内装工事</p> <p>● 19.1.2 基本要品</p> <p>● 19.2.2 材料</p> <p>● 19.2.3 施工</p> <p>● 19.3.2 材料</p> <p>● 19.3.3 工法</p> <p>● 19.4.2 材料</p> <p>○ 19.4.3 工法</p> <p><b>1節 一般事項</b></p> <p>【追加】(4) 仕上が異種下地にまたがる場合は、必ず取合い部分に目地を設ける。</p> <p>(1) 施工計画書は下記の事項に留意して作成すること。 (ア) カーベットの敷込み工法・幅継ぎの位置・模様合せなど (イ) システム天井の下部組補強と耐震計画書など (ウ) 各種仕上げ材の割付けなど</p> <p>(2) 内装材で仕上げとなる材料のほか、監理者が指示するものは、あらかじめ製品見本若しくは仕上り施工見本を提出し監理者の承認を受ける。</p> <p><b>2節 ビニル床シート、ビニル床タイル及びゴム床タイル張り</b></p> <p>(1) ビニル床シートの種類、記号、色柄、厚さ等は特記材料表による。</p> <p>(2) ビニル床タイルの種類、厚さ等は特記材料表による。 (ウ) 視覚障害者用床タイルの種類、形状は下記による。 ※ブロックパターンは JIS T 9251 による ※色彩は黄色を原則とする 屋内 ※塩化ビニル製 ○ 磁器又はせっ器質タイル(※300 ○) ) ○ レジンコンクリート製 ● SUS 製鉄(滑り止め付) ○ 石製(詳細は10章 石工事) 屋外 ※レジンコンクリート製 ○ 磁器又はせっ器質タイル(※300 ○) ) ● SUS 製鉄(滑り止め付) ○ 石製(詳細は10章 石工事)</p> <p>(イ) 耐動荷重性床シートの種類、厚さ等は下記による。 ○ (オ)床シート又は床タイルの種類、性能、厚さ等は特記材料表による</p> <p>(4) ビニル幅木の厚さ、高さ等は下記による。 厚さ(mm) ※1.5mm 以上 ○ 高さ(mm) ※60 ○75 ○100</p> <p>(6) 接着剤 (ア) ビニル床シート及びビニル床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆</p> <p>壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ※接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。 ※19.3.3にも適用する。</p> <p>(2)(ウ) ビニル床シート張りの熱溶接工法の適用は下記による。 ● 適用する(適用箇所:全て) ○ 適用しない</p> <p><b>3節 カーペット敷き</b></p> <p>特記材料表による</p> <p><b>4節 合成樹脂塗床</b></p> <p>(1) 厚膜型塗床材 (ア) 弾性ウレタン樹脂系塗床材に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○ (イ) エポキシ樹脂系塗床材に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(2)(イ) 薄膜型塗床材に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(b)膜型塗床材 (2)(イ) エポキシ樹脂系塗床材の工法及び仕上げの種類は下記による。 ○ 薄膜流し展べ工法(○ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ) ○ 厚膜流し展べ工法(○ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ) ○ 樹脂モルタル工法(○ 平滑仕上げ ○ 防滑仕上げ)</p>	<p>ユリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放散量 (19.4.2) ※規制対象外 ○ 第三種</p> <p>● 19.4.5 その他</p> <p>○ 19.6.2 材料</p> <p>● 19.7.2 材料</p> <p>【追加】</p> <p>● 19.4.5 その他</p> <p>○ 19.6.2 材料</p> <p>● 19.7.2 材料</p> <p><b>7節 せっこうボード、その他ボード及び合板張り</b></p> <p>(1) せっこうボード、その他のボードの種類、厚さ等は下記による。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>JISの記号</th> <th>厚さ(mm)、規格等</th> </tr> <tr> <td>○ 硬質木毛セメント板</td> <td>HW G</td> <td>○ 15 ○ 20 ○ 25 ○</td> </tr> <tr> <td>○ 普通木毛セメント板</td> <td>NW G</td> <td>○ 15 ○ 20 ○ 25 ○</td> </tr> <tr> <td>● けい酸カルシウム板</td> <td>0.8FK</td> <td>タイプ2(無石棉)(○ 6 ● 8 ○ )</td> </tr> <tr> <td>● ロックウール化粧吸音板</td> <td>DR</td> <td>※フラットタイプ(※9(不燃)○12 ○ ) ・ 凹凸タイプ(※12(不燃)○15 ○19 ○ ) 日東紡 ソーラト 同等品</td> </tr> <tr> <td>● せっこうボード</td> <td>GB-R</td> <td>※12.5(不燃) ○9.5(準不燃)</td> </tr> <tr> <td>○ 不燃積層せっこうボード</td> <td>GB-NC</td> <td>9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様) 化粧無(下地張り用)</td> </tr> <tr> <td>● 硬質せっこうボード</td> <td>GB-H</td> <td>● 9.5(不燃) 12.5(不燃) 15.0(不燃)</td> </tr> <tr> <td>● シーキングせっこうボード</td> <td>GB-S</td> <td>9.5(不燃)</td> </tr> <tr> <td>○ 強化せっこうボード</td> <td>GB-F</td> <td>12.5(不燃) 15.0(不燃)</td> </tr> <tr> <td>● 化粧せっこうボード</td> <td>GB-D</td> <td>9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様)</td> </tr> </table> <p>パーティクルボード及びMDFのホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(3) 合板のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆、接着剤等不使用、ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 ○ 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ○ 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用</p> <p>(ア) 普通合板の表板の樹種名、板面の品質、厚さ及び接着の程度は下記による。 樹種 ※ ラウン程度(生地のまま又は透明塗料塗りの場合) ※ しな程度(不透明塗料塗りの場合) ○ 品質: _____ 厚さ: _____mm 接着の程度 ※1 類(屋内の湿潤状態となる場所に使用する場合) ・ _____ 防虫処理 ○ 行う ● 行わない 難燃処理及び防火処理 ○ 行う(○ 難燃 ○ 防火) ● 行わない</p> <p>(1) 下地の適用は下記による。 ● 軽量鉄骨下地 ○</p> <p>(5)(ウ) 合板類の張付けの種類は下記による。 ○ A種 ※B種</p> <p>(7)(ア) せっこうボードの目地工法の種類は下記による。 ● 継目処理工法 ○ 突付け工法(○ ベベルエッジ ○ スクエアエッジ) ○ 目透し工法(○ ベベルエッジ ○ スクエアエッジ)</p> <p><b>8節 壁紙張り</b></p> <p>(1) 壁紙の品質、防火性能は仕上表及び特記材料表による。</p> <p>壁紙のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(1) モルタル面及びプaster面の素地ごしらえは下記による。 ○ A種 ※B種(施工箇所: _____ )</p> <p>(2) せっこうボード面の素地ごしらえは下記による。 ○ A種 ※B種(施工箇所: _____ ) ※仕上げが異種下地にまたがる場合は、取合い部に仕上げ切り替えの目地を設けること。</p>	種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等	○ 硬質木毛セメント板	HW G	○ 15 ○ 20 ○ 25 ○	○ 普通木毛セメント板	NW G	○ 15 ○ 20 ○ 25 ○	● けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ2(無石棉)(○ 6 ● 8 ○ )	● ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ(※9(不燃)○12 ○ ) ・ 凹凸タイプ(※12(不燃)○15 ○19 ○ ) 日東紡 ソーラト 同等品	● せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃) ○9.5(準不燃)	○ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様) 化粧無(下地張り用)	● 硬質せっこうボード	GB-H	● 9.5(不燃) 12.5(不燃) 15.0(不燃)	● シーキングせっこうボード	GB-S	9.5(不燃)	○ 強化せっこうボード	GB-F	12.5(不燃) 15.0(不燃)	● 化粧せっこうボード	GB-D	9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様)	<p>● 19.9.2 断熱材打込み工法</p> <p>● 19.9.3 断熱材現場発泡工法</p> <p>● 19.10.1 浴室天井材</p> <p>● 19.10.3 化粧シート張り</p> <p>20章ユニット及びその他の工事</p> <p>● 20.1.2 基本要品</p> <p>● 20.2.2 フリーアクセスフロア</p> <p>● 20.2.3 可動間仕切</p> <p>○ 20.2.4 移動間仕切</p> <p>● 20.2.5 トイレブース</p> <p>● 20.2.6 階段滑り止め</p> <p>● 20.2.8 黒板及びホワイトボード</p> <p><b>9節 断熱・防露</b></p> <p>(1)(ア) 断熱材の種類及び厚さは断熱範囲図による。 (イ) 接着剤のホルムアルデヒド放散量は下記による。 ※F☆☆☆☆ ○</p> <p>(1) 断熱材の種類は硬質ウレタンフォーム A 種とする。 (2) 断熱材の吹付け厚さは断熱範囲図による。</p> <p><b>【追加】10節 その他の内装材</b></p> <table border="1"> <tr> <th colspan="5">市販品</th> </tr> <tr> <th>材質</th> <th>表面仕上げ</th> <th>性能</th> <th>幅(mm)</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>●アルミ製</td> <td>●塗装品 ○木目調</td> <td></td> <td>●300 ○100</td> <td>回り縁は掘付きとし、製造所の標準品とする。</td> </tr> </table> <p>(1)室内に塗装に代わり化粧シート張りを行う場合、オレフィン系シートとし、その表面印刷に使用する。 (2)塗料はトルエン、キシレンを含まないもので、かつ接着剤はF☆☆☆☆表示品とする。</p> <p><b>1節 一般事項</b></p> <p>【追加】 (4) 施工計画書は下記の事項に留意して作成する。 (ア) フリーアクセスフロアの割付け(配線・配管などの開口部を含む)・柱周り及び周辺部の固定床との納まり・支持脚の固定方法及び耐震計算書など</p> <p><b>2節 ユニット工事等</b></p> <p>(2) 材料等 (ア) フリーアクセスフロア及び表面仕上げ材の寸法、フリーアクセスフロア高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗値は特記材料表による。 ・配線用取り出しパネル 配線取り出し開口:パネル 1枚につき 40mm × 80mm 程度の開口</p> <p>(2) 材料等 ※仕様及び適用箇所は特記材料表、設計図による。 (・ 鏡前、ドアクローザー、戸当り、あおり止めなどは建具工事において選定されるものと同等とする。) ※パネルと幅木・笠木の取合い部分には、バックング材を使用し、遮音性能は標準タイプで500Hzにおいて40dBの透過損失とする。 ※遮音型の場合、取合う天井やベリカウスター内の遮音壁も可動間仕切と同等以上の性能を有すること。</p> <p>(2) 材料等 ※仕様及び適用箇所は特記材料表、設計図による。 表面仕上げの壁紙張りの仕様は19章内装工事による</p> <p>(2) 材料 (ア) パネル表面材は下記の他、部分詳細図による。 ※メラミン樹脂系化粧板(標準色 アルミ製コーナーエッジ付) (ウ) 脚部の形状は下記による。 ※幅木タイプ ○足金物型</p> <p>(1) 材質、形状、寸法等は下記による。 材質 ステンレス SUS304 形状 ビニルタイヤ入り 両端フラットエンド ●有り(・ステンレス製 ※ビニル製) ・無し 幅(mm) 約35mm</p> <p>(2) 取付け工法は下記による。 ※接着工法 ○埋込み工法</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="4">黒板及びホワイトボードは下記による。</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>寸法(mm)</th> <th>色彩</th> <th></th> </tr> <tr> <td>● ホワイトボード</td> <td>○ ほうろう ● 塩ビシート</td> <td>※白</td> <td>※平面 ○曲面</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>設計図による</td> <td>●平面 ○曲面</td> </tr> </table>	市販品					材質	表面仕上げ	性能	幅(mm)	備考	●アルミ製	●塗装品 ○木目調		●300 ○100	回り縁は掘付きとし、製造所の標準品とする。	黒板及びホワイトボードは下記による。				種類	寸法(mm)	色彩		● ホワイトボード	○ ほうろう ● 塩ビシート	※白	※平面 ○曲面			設計図による	●平面 ○曲面
種類	JISの記号	厚さ(mm)、規格等																																																																		
○ 硬質木毛セメント板	HW G	○ 15 ○ 20 ○ 25 ○																																																																		
○ 普通木毛セメント板	NW G	○ 15 ○ 20 ○ 25 ○																																																																		
● けい酸カルシウム板	0.8FK	タイプ2(無石棉)(○ 6 ● 8 ○ )																																																																		
● ロックウール化粧吸音板	DR	※フラットタイプ(※9(不燃)○12 ○ ) ・ 凹凸タイプ(※12(不燃)○15 ○19 ○ ) 日東紡 ソーラト 同等品																																																																		
● せっこうボード	GB-R	※12.5(不燃) ○9.5(準不燃)																																																																		
○ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様) 化粧無(下地張り用)																																																																		
● 硬質せっこうボード	GB-H	● 9.5(不燃) 12.5(不燃) 15.0(不燃)																																																																		
● シーキングせっこうボード	GB-S	9.5(不燃)																																																																		
○ 強化せっこうボード	GB-F	12.5(不燃) 15.0(不燃)																																																																		
● 化粧せっこうボード	GB-D	9.5(不燃) 化粧有(トラバーチン模様)																																																																		
市販品																																																																				
材質	表面仕上げ	性能	幅(mm)	備考																																																																
●アルミ製	●塗装品 ○木目調		●300 ○100	回り縁は掘付きとし、製造所の標準品とする。																																																																
黒板及びホワイトボードは下記による。																																																																				
種類	寸法(mm)	色彩																																																																		
● ホワイトボード	○ ほうろう ● 塩ビシート	※白	※平面 ○曲面																																																																	
		設計図による	●平面 ○曲面																																																																	
<p>公共建築課長 主査等 担当者 工事名</p> <p>久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事</p>				<p>図面名 特記仕様書 8</p> <p>図面番号 特-08</p> <p>区分 建築</p> <p>年月日 2021年1月</p>																																																																

● 20.2.10 表示

● 20.2.12 グライズ

● 20.2.13 ロールスクリーン

● 20.2.14 カーテン及びカーテンレール

● 20.2.16 手すり

● 20.2.18 天井点検口

● 20.2.19 床点検口

● 20.2.21 かざ箱

● 20.2.22 くつふきマット

● 20.2.23 流し台ユニット

● 20.2.24 屋内掲示板

● 20.2.25 洗面カウンター(パウダーカウンター含む)

○ 20.2.27 旗竿

● 20.2.28 フェンス

● 20.2.29 屋外掲示板

○ 20.2.30 車止め支柱

※5mm ○  
枠:SUS HL t1.5

(1) 衝突防止表示  
ガラススクリーンに対する対人衝突防止表示の形状、寸法、材質等はサイン図による。

(2) 法令に基づく表示

(3) 室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は、サイン図による。

e) 材料等は下記による。

形式	種類	スラットの材質	スラットの幅(mm)
○横型	※ギヤ式 ○コード式 ○操作棒式 ○ワンタッチ降下式	※アルミニウム合金製 ○遮熱タイプ	※25
○縦型	○1本操作コード方式 ○2本操作コード方式	○アルミスラット ○タロススラット	○80 ○100

※幅、高さは設計図による  
操作方法 ○手動 ○電動(○単独 ○)一斉操作)  
-(a)(s) 縦型ブラインドの開閉方式は下記による。  
○片開き方式 ○両開き方式

(1)(2) ロールスクリーンの操作方式、幅及び高さは下記による。別途工事

施工箇所	操作方式	材質・品質等
	○ スプリング式 ● コード式 ○ 電動式	

※幅及び高さは、設計図による  
防炎性能 ※有 ○ 無

(4) 巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料の仕様は下記による。  
※製造所の仕様による ○

(1) カーテンの形式等は設計図による。

設計図による

材質 アルミニウム製(受枠 ※縦線タイプ：下記以外  
※目地タイプ：エントランスホール、食堂、会議室 3)  
表面は天井仕上材と同材で仕上げる。

材質 アルミニウム製(受枠) ○アルミニウム製 ※ ステンレス製)  
集中荷重 ※5,000N以上 ○  
● 防水 ● 防臭 ● 化粧蓋

市販品  
形式 ○ 30組用 ● 60組用 ○ 120組用

市販品  
材質 ○ 塩化ビニル製(コイル状 ステンレス製受枠) ○ ビニル製(ステンレス製受枠)  
○ 硬質アルミニウム製(受枠とも) ○ ステンレス製(受枠とも)  
敷き込み部は水平に仕上げ、排水口より最寄りの排水溝へ接続する。

種類	寸法(L= mm)	適用内容	規格・品質等
・流し台	● 700 ● 1200 ● 1600	トラップ付き	※優良住宅部品 ※市販品
・コンロ台	● 800 ○ 700 ○	バックガード ※有り	
・吊り戸棚	● 1200 ○ 900 ○ 600		
・水切り棚	※1200 ○ 900	ステンレス製 ※1段式	※市販品

サイン図による。

部分詳細図による。

外構図による。

サイン図による。

※ステンレス製(上下式鎖内蔵型) 外構図による  
※スプリング付 ○スプリングなし

○ 設計図による

○ 20.2.31 収納家具

材質 不燃木材  
形状・寸法 ※設計図による  
ホルムアルデヒド放散量 ※☆☆☆☆ ○

● 20.2.33 天井見切縁

材質 ○ アルミニウム製 ○ ステンレス製 ● 塩化ビニル製  
形状 ● 設計図による ○

● 20.2.34 消火器ボックス

消防法などの規定に適合した形状、設置位置に施工を行う。  
● 埋め込み型 ● 床置き型

防火区画に絡む位置は、区画形成に支障のない仕様とする。  
○ ステンレス製 ● 鋼製(● 焼付塗装 ○ 現場塗装)

● 20.3.35 定礎

定礎石 ● 材質 白御影石 ● 形状 600×600  
定礎箱 ○ ステンレス製 ● 鋼製 t=1.5、600×600×60 程度  
設置箇所：風除室内

● 20.3.36 ビクチャーレール

天井伏図による。

○ 20.2.40 郵便受け

ステンレス製(既成品)

外構図による。

● 図示による

● 20.2.46 コーナーガード

すべてのコーナー部 H=FL+0~2300  
施工箇所 監理者の指示による。

● 20.2.48 目隠しパネル

● 図示による

● ACW 部に手摺を設置する。  
● SUS 製、32φHL とし ACW サッシ間に全て設置する

● 20.2.52 サウナ

電気遠赤外線サウナヒーター

○ 20.2.53 防火水槽

プレキャストコンクリート製(既製品) 容量:40 m<sup>3</sup>  
箇所:3か所

○ 20.2.54 水利標識

埋め込み型支柱タイプ 高さ2750mm 程度 アルミ製  
箇所:3か所  
表示面:消防水利  
杉田エース 表示面:AEZ10、支柱ポール粉体 2.7  
基礎その他必要な金具を見込むものとする。

仕様:FRP製  
《プール》(浴室1)  
パドルホイール式  
本体寸法:2340 x 5360 x 1980

※プール本体及び1次側接続以降全ての必要機器を含む。  
※施工に先立って搬入経路、手順を確認の上、躯体工事前に調整すること。  
※プール本体及び関連機器の据え付け及び、1次側接続以降の工事は、  
プーラーメーカーとの協議の上、原則として専門業者の責任施工のもと実施する。

21章 排水工事

● 21.2.1 材料

1節 一般事項

2節 材料

(1) 排水管用材料の材質、管の種類、呼び径等は設計図によるほか下記による。

材質	管の種類	管形状(接合方法)
※遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管(※1種・2種)	B形(ゴム接合)
●硬質ポリ塩化ビニル管	※VP ○ VU	
○排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管	○ REP-VU	

● 21.2.2 施工

(6) グレーテングの材質、用途、適用荷重、メンバーピッチ等は下記による。

材質	形式	種類	適用荷重	メンバーピッチ	上面形状
○鋼製 ●ステンレス製 ○鋳鉄製	●受枠付 ※ボルト固定 ○図示	●溝ふた用 ●樹ふた用 ○かさ上げ用 ○U字溝用	○歩行用	※細目	※凸凹形
			●T-2用 ○T-6用	○普通目 ※細目	○平形 ※凸凹形

側溝:図示  
集水溝:図示  
その他図示

3節 街きよ、縁石及び側溝

(1) コンクリート縁石及び側溝の形状、寸法等は設計図による。  
(3) 地業の材料は下記による。  
※標仕 4.6.2(1)による ○

(1) 砂利地業の厚さは下記による。  
※100mm ○

22章 舗装工事

● 22.2.2 路床の構成及び仕上り

1節 一般事項

2節 路床

(1)(ア) 遮断層の適用及び厚さは下記による。  
※川砂、海砂又は良質な山砂 ○  
厚さ ※設計図による

(1)(イ) 凍上抑制層の適用及び厚さは下記による。  
※再生クラッシュラン ○ クラッシュラン ○ 切込砂利 ○ 砂  
厚さ ※設計図による

(1)(ウ) 透水性舗装に用いるフィルター層の厚さは下記による。  
車道部 ※150mm ○ 設計図による  
歩道部 ※50mm ○ 設計図による

(1)(エ) 路床安定処理は下記による。  
※添加材料による安定処理

(1) 盛土に用いる材料の種別は下記による。  
○ A種 ※B種 ○ C種 ○ D種

(1) 路床上の支持力比試験の適用は下記による。  
※行う(※乱した土 ○ 乱さない土) ○ 行わない

(2) 路床締固め度の試験の適用は下記による。  
※行う ○ 行わない

3節 路盤

(1) 車道部の路盤の厚さは設計図による

(1) 路盤材料は下記による。  
●再生クラッシュラン(RC-40)  
○ クラッシュラン(C-40)又はクラッシュラン鉄鋼スラグ(CS-40)  
○ 透水性アスファルトに用いる場合は透水性の高いもの

4節 アスファルト舗装

(1) アスファルト舗装の構成及び厚さは設計図による

(4) 舗装の平坦性は下記による。  
※通行の支障となる水たまりを生じない程度 ○

(1) アスファルトは下記による。  
※再生アスファルト ○ ストレートアスファルト

(1) 表層及び基層の加熱アスファルト混合物及び再生加熱アスファルト混合物の種類は下記による。

区分	※一般地域	・寒冷地域
表層	※密粒度アスファルト混合物(13) ○ 細粒度アスファルト混合物(13)	※密粒度アスファルト混合物(13F) ○ 細粒度ギャップアスファルト混合物(13F)

● 22.2.3 材料

● 22.2.5 試験

● 22.3.2 路盤の構成及び仕上り

● 22.3.3 材料

● 22.4.2 舗装の構成及び仕上り

● 22.4.3 材料

● 22.4.4 配合その他

● 22.5.2 舗装の構成及び仕上り

● 22.5.3 材料

● 22.5.4 施工

● 22.5.6 試験

● 22.7.2 舗装の構成及び仕上り

● 22.7.6 試験

● 22.8.2 舗装の構成及び仕上り

● 22.10.1 仕様【追加】

● 23.2.2 植栽基盤一般

● 23.2.3 材料

23章 植栽及び屋上緑化工事

基礎

5節 コンクリート舗装

(1) コンクリート舗装等の構成及び厚さは設計図による。

(1) コンクリートの設計基準強度は下記による。  
※標仕 表 22.5.1 による ○

(3) 注入目地材料の種別は下記による。  
※低弾性タイプ ○ 高弾性タイプ

(6) 溶接金網  
※有り ○ 無し

(5) 目地

(7) コンクリート版の目地の種類及び間隔は下記による。  
※標仕 表 22.5.3 による ○

(4) 目地の構造は下記による。  
※標仕 図 22.5.1 による 設計図による ○

(1) コンクリート版の厚さの試験の適用は下記による。  
※行わない ● 行う

7節 透水性アスファルト舗装

(1) 透水性アスファルト舗装の厚さは下記による。  
車道部 ※50mm ○  
歩道部 ※30mm ○

(2)(イ) 舗装の平坦性は下記による。  
※著しい不陸がないこと ○

(3) 透水性アスファルト混合物の抽出試験の適用は下記による。  
※行わない ● 行う

8節 ブロック系舗装

(1)(ア) コンクリート平板舗装の目地材は下記による。  
※砂 ○ モルタル

(2) 仕上りの平坦性は下記による。  
※歩行に支障となる3mmを超える段差がないこと ○

(3) 舗装に用いる石材の種類、形状及び寸法は設計図による。

10節 人工芝舗装

本工事に適用するロングパイル人工芝は、詳細図による他、以下の使用を満たすものとする。

- ・パイル長さ 60mm 以上
- ・パイル色 緑
- ・パイル モノフィラメントヤーン
- ・パイル厚 300µm 以上
- ・ウレタンバックキング
- ・充填材 40mm 以上、天然素材又は温度抑制チップ
- ・砂 特殊調整軽鎮
- ・弾性材 ゴムチップ不可(カラータイプを含む)。樹脂製又は天然素材とする。

1節 一般事項

2節 植栽基盤

(1)(2)(4) 植栽基盤整備工法の適用は下記による。

適用	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
※行う・行わない	※20	※B種 ○	※植栽範囲 ○ 図示

樹木

樹木の樹高(m)	有効土層の厚さ(cm)	工法	整備範囲
○ 12 以上 ○ 7 以上~12 未満 ● 3 以上~7 未満 ● 3 未満	※100 ○ ※80 ○ ※60 ○ ※50 ●	※A種 ○ B種 ● C種 ○ D種	● 葉張りの範囲 ただし低木は植栽範囲 ○ 図示

※工法D種以外の工法で、現状地盤高と計画地盤高が同一でない場合は、計画地盤高から有効土層とする。ただし、計画地盤高が現状地盤高より高い場合は、計画地盤高まで植込み用土で盛土を行う。

(1) 植込み用土は下記による。  
※現場発生土の良質土 ● 客土(※畑土 ○ 黒土)

図面名 特記仕様書 9

図面番号 特-09

区分 建築

年月日 2021年 1月

<p>● 23.3.2 材料</p> <p>● 23.3.3 新植の工法</p> <p>● 23.3.4 新植樹木の枯補償</p> <p>● 23.3.6 移植樹木の枯換処置</p> <p>○ 23.3.7 樹名札</p> <p>● 23.4.5 地被類の工法</p>	<p>※パークたい肥は下記による。</p> <p>有機物の含有量(乾物) :70%以上 炭素窒素比(C/N比) :35以下 陽イオン交換容量(乾物) :70meq/100g以上 pH :5.5~7.5 水分 :55~65% 幼植物試験の結果 :生育阻害その他の異常を認めない 窒素全量(現物) :0.5%以上 りん酸全量(現物) :0.2%以下 加里全量(現物) :0.1%以上</p> <p><b>3節 植樹</b></p> <p>(2) 樹木の樹種、寸法、株立数及び刈込みものの適用並びに数量は下記による。 ・ツツジ</p> <p>(1) 新植樹木の枯補償の期間は下記による。 ※引渡しの日から1年 ●2年</p> <p>(1) 移植樹木の枯換処置を行う期間は下記による。 ※引渡しの日から1年 ●2年</p> <p>○ 植樹完了後、樹木には樹名札を取り付ける。 樹名札の仕様 一 吊下げ型 ○ 幹巻き型(高木・中木) ○ 埋込み型(低木) 高木・中木用:50ヶ所、低木用:50ヶ所 寸法:150×100程度、樹脂製 (b) 樹名札は見本を提出し、監理者の承認を受ける</p> <p><b>4節 芝張り、吹付けは種及び地被類</b></p>				
<p>29章 ① エレベーター工事</p> <p>●29-1.1.1 適用範囲</p> <p>●29-1.1.2 基本要品品質</p>	<p><b>1節 一般事項</b></p> <p>この章は、エレベーター工事における、国交省告示第 1047 号に規定される「エレベーターの地震その他の震動に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」、同告示第 1048 号「地震その他の震動によってエレベーターの釣合おもりが脱落するおそれがない構造を定める件」に関連する事項に適用する。</p> <p>(a)国交省告示第 1047 号、第 1048 号に規定される構造計算の方法、構造的な必要性能は、必要構造性能概要書に示す「非構造部材の構造的な必要性能」による。 (b)ここに特記する事項以外は、関連各章・各項の該当事項による。</p>				

認定品リスト (石綿等は使用しないこととする)			使用材料表 (特記なき限り同等品とする) (石綿等は使用しないこととする)							
性能	防火認定材料	認定番号	材料	名称	品種・規格・寸法など	備考	材料	名称	品種・規格・寸法など	備考
			屋根	金属屋根		元旦ビュティ工業 ビュティルーフ L-100	建具金具	レバーハンドル	レバーハンドル	ユニオン UL232
				スタンド屋根	塩化ビニル樹脂コーティングガラス繊維布 ・酸化チタン光触媒コーティング	太陽工業 クリーンマックス220(CMX220) 酸化チタン光触媒コーティング		引戸	引戸	ユニオン H7915
耐火間仕切 (1時間)	強化石膏ボード21t二重張	FP060NP-0007						押板、把手	押板、把手	ユニオン H5262
	外側硬質石膏ボード9.5t+	FP060NP-0198	防水	塗膜防水	防水範囲図による			ドアクローザー	バラレル型	リョービ ドアクローザ 1000シリーズ
	内側強化石膏ボード21t両面			アスファルト防水	防水範囲図による			錠前	電気錠、入温両面監視	美和ロック AUTO AUTEF
	内部GW50t 24kg/m3							点検口用ヒンジ	スプリング式	NS TH=2, TPH-1
	外側硬質石膏ボード (GB-R-H) 9.5t+	FP060NP-0199	外部壁	防音壁	吸音音パネル t=100	ササクラ 防音壁パネル		点検口錠	点検口錠	タキゲン A-247
	内側強化石膏ボード (GB-F) 12.5t両面			目隠しパネル	有孔折板 溶融亜鉛メッキ鋼板+ ポリエステル樹脂粉末塗装 t=1.6 H250×D68	ABC商会 USシリーズ		自動ドアセンサー	無目下内蔵型	ナブコ SSP-42スーパースター同等品
									天井埋込型	ナブコ NH-400バルサーチ同等品
									戸先近接センサー	ナブコ パスセーフ同等品
	強化石膏ボード12.5t二重張 両面	FP060NP-0174	塗装	外壁塗装	アクリルシリコン樹脂塗装	エスケー化研 水性セラタイトSi	手摺	小便器手摺	SUSおよび樹脂製	TOTO T114CU2R
				(建具)手あか汚れ 対応水性塗料	EP-G	日本ペイント オーデノータック		洗面台	SUSおよび樹脂製	TOTO T114CPSR
				結露防止塗装	結露防止、吸湿、防カビ	菊水化学工業 ケツロニン		大便器手摺	SUSおよび樹脂製	TOTO T114CL10
								WC棚		TOTO YKH402R
				EP-G	合成樹脂エマルジョンペイント 防火認定品	神東塗料 ベージ70エコ、ベージGエコ				
			塗床	防塵塗装	薄膜型樹脂系防塵塗料	ABC商会 カラトップA	厨房	厨房機器	一式	日本調理器
				耐熱塗床	水性硬質ウレタン系塗床	ABC商会 タフクリートMH	水回り	タオル掛け	W644×D90	TOTO YT406S6
不燃	石膏ボード (硬質GB) (GB-R-H) 9.5t	NM-9645	金属	天井点検口	アルミ押出型材 600×600 額縁タイプ	ナカ工業 ハイハッチDX程度		ベビーシート		TOTO YKA25R
	石膏ボード (GB-R) 12.5t	NM-8619		床点検口	防水・防臭型 スパルズFB70L 600×600 表面仕上同材	ナカ工業 ニューハッチNHE II		シャワーフック	スライドバー付き	リクシル スライドバー BF-FB27(600)
	石膏ボード (GB-F) 12.5t、15t、21t	NM-8615		壁点検口	アルミ製 450×450 電着塗装 (ホワイト)	ナカ工業 ウォールハッチNHA450W	バルコニー	ウッドデッキ	T=25リブ付	ハンディウッド(ハンディテクノ)・バイタルデッキ (東京工営)・リリコウッド t22(KIT)
	化粧石膏ボード(化粧GB) 9.5t(ジブトーン)	NM-1864	床	タイルA	297×297×13.0、WC:150角	LIXIL ピアッツァOK	その他	ガラスボード	ガラスボード32kg/m <sup>3</sup> 50×50巻き t=50指定品	日本板硝子環境721(一般品)
				タイルB	300×300×9.0	LIXIL サーマタイルスレート		ノンスリップ	台座ステンレス製、ストライプ フラットエンド	ナカ工業 ハイステップ・アート
	岩綿吸音板 9t	NM-8599		タイルカーペットA	(事務室) 500×500 t=6.5 原着ナイロン、ループ	NT-350		ホワイトボード	スクリーン+ホワイトボード+マグネット機能 W1800×H900	東京黒板製作所 平面白板
	ケイカル板	NM-3522		タイルカーペットB	(会議室/応接・VIP) 500×500 t=3.5 原着ポリプロピレン、ループ	NT-860H スtringス		スブルス	柱目 完全乾燥材 t=12	エバーウッド スブルス
	化粧ケイカル板	NM-8577		ビニル床シートA	(一般・共用部) t=2.0	サンゲツ ストロング		シャワーブース	t=40 高圧メラミン樹脂化粧板	小松ウォール
	吸音材張り(グラスウール吸音材・ガラスクロス張り)	NM-8606		ビニル床シートB	(WC、耐薬) t=2.0 単層、ノンワックス、耐薬	サンゲツ メガリット		脱衣棚	部分詳細図による	
				ビニル床シートC	(倉庫) t=2.5	サンゲツ ノンスックID(PX-500)		シューズラック	部分詳細図による	
				ビニル床シートD	(更衣) t=2.5防汚 (屋外対応仕様)	東リ NSシートNS800		カーテンレール	静音タイプ	TOSO スイート W17×H13
				ビニル床シートE	(階段) t=2.5	東リ NSシートNSステップ800		コーナードガード (St)	St-1, 6曲げ加工 AE-B	
				ビニル床シートF	(サーバー室) t=2.0 (帯電防止)	東リ 帯電防止フロアリュウム		竣工写真	一式	ナカサアンドパートナーズ
	一般塗料 (SOP、EP、VE、多形模様塗料、複層塗材) (下地: 不燃)	NM-8585		汚墨石	(男子WC) t=6.0 防滑・抗菌	TOTO ハイドロセラ・フロアPU (薄型)	視覚障壁 者誘導	点字板	SUS製	ユニオンUY300-54-206
				ゴムマット	t=9mm	ヒロテック ユニロール ラバーフロア		線状板	SUS製	ユニオンUY302-54-206
	ビニルクロス (下地: 金属板を除く)	NM-9944				カラーフレック25%入り	外部	目隠しフェンス	アルミ製H1800	三協アルミ フレラントN2型
	化粧シート(下地: 金属板)	NM-0095	二重床	フリー7x7x7H=100	スチール中空パネル500角 3000N	ナカ工業 AZ3000-DP		門扉	(ロータリー部) アルミ製H1800	三協アルミ 大型引戸門扉 グラフェードN たて目隠しタイプ
	化粧シート(下地: 金属板を除く)	NM-0131		鋼製二重床	スチール溶融亜鉛めっき、壁先工法	桐井製作所 ステッド7-GI' イレク' 特' トライ'		目隠し門扉	(ゴミ置場横) アルミ製H1800	三協アルミ 大型引戸門扉 グラフェードN たて目隠しタイプ
	不燃パネル (浴室)	NM-4806	壁	硬質石膏ボード	ガラス繊維混入 t=9.5 12.5	吉野石膏 タイガースーパーハード		複連式門扉	(屋外階段横) アルミ製H1800	リクシル パラレロA.L型Bタイプ片引き 複連式
	不燃化粧板	NM-2183		ビニルクロス	F☆☆☆☆、不燃認定品、防カビ	サンゲツ EBクロス		ベンチ	(スタンド) ブロー成形スタジアムシート(長ベンチ)	コトブキシーティング BLM-3614 (最上段のみBLM-3610)
				不燃化粧板	メラミン樹脂含浸化粧板 t=3	アイカ セラール		人工芝	パイル長さ65mm、充てん厚40mm	極東体育施設 ロングパイル人工芝マックスターフ
				浴室壁タイル	100×100	LIXIL バックドラフト				
				トイレ壁タイル	200角	LIXIL イルフォンドアルファ		グレーチング	ステンレス製 細目ノンスリップタイプ w150mm	KANESO SK-15
			幅木	ビニル巾木	軟質ビニル巾木 H=60	東リ ソフト巾木		カーテンネット	ポリエチレン製 グレー色 H3, 400 網目25mm	LIXIL スーパーグレイズサイドウォーク
				ステンレス巾木	SUS304 HL t=1.5 H=60			屋外階段磁器質タイル	300×300×9.0	
								金属製庇	アルミ製 1300x900	杉田エース AD2S シルバー
			天井	岩綿吸音板	300×600 t9 不燃	吉野石膏 ソーラトン				
				バスリブ	アルミ製 目地100mm 有効W=200	フクビ バスパネル不燃200	ユニット	ステンレス流し	ステンレスシンク、水洗2口	ダルトンSN10 W=1200
			間仕切	移動間仕切	遮音タイプ (35dB)	小松ウォール ハフコーウォールHS-60D		シャワーユニット	一般1208タイプ	TOTO
								ヒーター	ヒーター、防護欄、ベンチ、ステップ、換気口等一式	日本サウナ MS12型ヒーター (12kw) タイプ
								足洗いシンク	SUS製	eステンレス
			造作	人造大理石	(寸法・形状は部分詳細図による)	デュボン コーリアン				
				消火器BOX(埋込型)	スチール製 指定色塗装	ユニオン UFB-1F-165N-PWH 同等品	サイン	サイン工事一式	製作品 (サイン図による)	KOYAMA 製作品
					ステンレス製	ユニオン UFB-1S-2740N-HLN 同等品 ※屋外部分				
				消火器BOX(置型)	スチール製	ユニオン UFB-3F-2401-SIL 同等品	ブール		流水ブールユニット	SwireX 700T 同等品または
				消火器BOX(屋外型)	ステンレス製	ユニオン UFB-3S-2760-HLN 同等品				ジャパン 777777 スイムライフスタンダード 同等品
				ビクチャーレール	アルミ押出型材、天井付け、フック、ハンガー共	タキヤ コレダーライン				
				化粧シート	硬質塩ビタックシート	3M ダイノックシート				
				飛散防止フィルム	塩ビ製	3Mウインドウフィルム				

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

特記材料表(参考)

図面番号

特-011

区分

建築

縮尺

A1: 1/

A3: 1/

年月日

2021年1月

工事区分表

※複数○がある場合は起因者が対応する。

Table with columns: 項目, 内容, 建築, 電気, 機械, 公園, 別途, 備考. Rows include categories like 1 共通, 2 各種水櫃・ピット, 3 機器等の基礎及び架台, 4 スリーブ, 5 間仕切り, 6 天井切込及び下地補強, 7 家具その他の切込み及び補強, 8 改め口、点検扉, 9 はつり及び補修, 10 トレンチ・排水溝.

工事区分表

※複数○がある場合は起因者が対応する。

Table with columns: 項目, 内容, 建築, 電気, 機械, 公園, 別途, 備考. Rows include categories like 11 排水、引き込み等, 12 雨水排水, 13 ガラリ等, 14 動力, 15 自動ドア・電動シャッター・電動換気等, 16 制御, 17 防災, 18 便所.

Form containing project details: 公共建築課長, 担当者, 工事名 (久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事), 図面名 (工事区分表-1), 図面番号 (区-01), 年月日 (2021年1月).

工事区分表

※複数○がある場合は起図者が対応する。

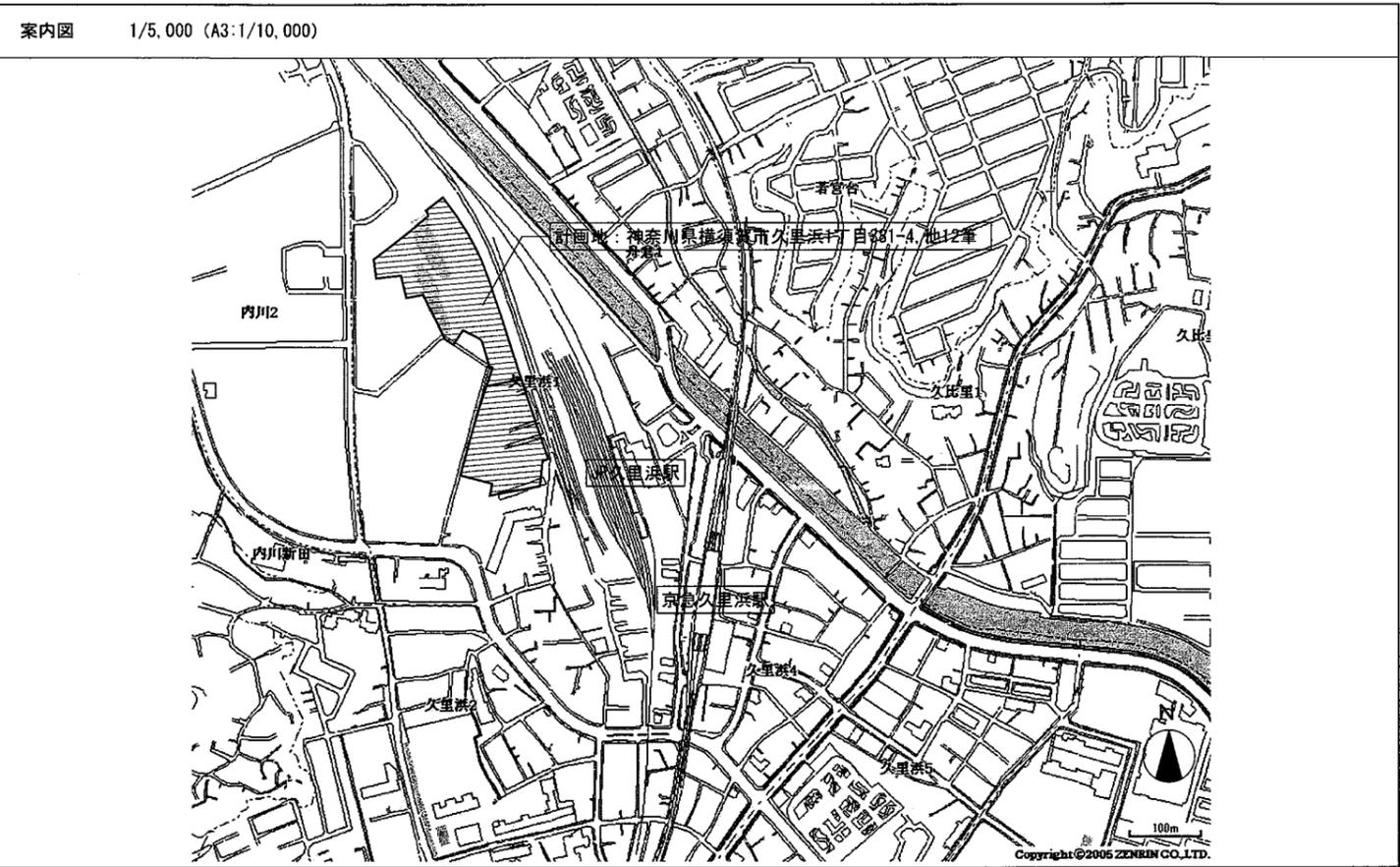
項目	内容	建築					備考	
		電気	機械	公園	別途	工事		
19 汚し類・厨房工事	1 既製品の流し台	○					トラップまで配管工事	
	2 製作品の流し台	○	○				トラップまで配管工事、水洗金具、排水設備は衛生工事	
	3 洗濯機パン（トラップ共）	○						
	4 上記1・2・3への配管（給排水・ガス）、配線、ダクトの接続	○	○	○	○			
	5 シャワーユニット本体（水栓含む）	○						
	6 シャワーパン（トラップ共）	○						
	7 シャワーユニット換気設備、給排水接続、電源供給	○	○	○	○			
	8 地返し	○						
	9 上記8用水栓、排水金具	○		○				
	10 ミニキッチン	○						
	11 厨房設備機器の据付まで全ての工事（通常食堂として運用可能な基本的な設備一式を含む）	○						
	12 上記10・11用の電源供給、給排水・ガス接続	○	○					
	13 厨房運営業者により追加が必要となった場合の機器設置および電気・ガス・給排水接続（将来的な設置含む）					○		
20 家具・ユニット・外構	1 シューズラック	○						
	2 家具・什器（1を除く）、傘立、足拭きマット、ゴミ箱					○	机、いす、収納棚、ロッカーなど	
	3 カーテン、暗幕、ブラインド					○		
	4 ブラインドボックス、カーテンレール	○						
	5 電動ブラインドの操作スイッチ及びブラインドまでの配管配線、操作スイッチから集中操作盤までの配管配線、及び穴あけ	○						
	6 上記5の一次側電源配管・配線	○						
	7 壁固定の白板	○						
	8 一般サイン工事 ：全館案内サイン（総合案内サイン・EV案内サイン）、フロア案内サイン、トイレサイン、掲示板、エントランスサイン、室名サイン	○						
	9 外壁取付サイン工事	○	○			○	外壁取付下地までは建築工事 内装式対応1次側電源までは電気工事 上記以外は別途工事	
	10 外構サイン工事					○	外構設置のサイン（公園名、境界等）および最も主要な外構施設サイン（エンブレム等）は公園工事 上記以外のサインは別途工事	
	11 屋外ファニチャー、遊具類、掲示板、門扉、囲壁、バリカー類、防球ネット					○		
	12 可動パーティション					○	簡単なローパーティション等 （独立した「室」とならず、各種申請手続きに影響しないもの）	
	13 可動ブラッター及びその補装					○		
	14 自動販売機、製氷機					○		
	15 トレーニング用器具・医療機器・OA機器					○	運営上必要となる、建物に固定されない設置 ラウンジ本体は別途工事	
16 炭酸泉設備およびポンプ置場内配管接続	らんてい園専用アンカー（トレーニングルーム内）	○				○		
	炭酸泉設備およびポンプ置場内配管接続					○		
	炭酸泉用躯体・仕上げ	○						
	炭酸泉用給排水配管		○					
	17 低酸素室設備およびコンプレッサー室内配管・配線接続					○		
	低酸素室用間仕切り壁、コンプレッサー室（防音材込み）	○						
	低酸素室・コンプレッサー室内 空調・換気			○				
	18 クライオシャワー設備					○		
	19 プール設備設置および二次側以降の配管配線一式（ろ過装置・制御盤などの関連機器含む）	○						
	プール用床スラブ開口	○						
	プール用給排水配管接続			○				
20 サウナ 躯体区画、天井インサート、吊りポルト、断熱・保温・仕上げ工事、内装・AD断熱・押し波、給気・排気口アルミガラリカバー、操作盤、耐熱配線工事（ジャンクションボックス、操作盤以降）、サウナ室内電気設備機器、ヒーター機器	サウナ : ジャンクションボックス、火報防災配線工事、一次側電源	○						
	サウナ : 床排水口工事			○				
	21 アイスバス用躯体・仕上げ	○						
	アイスバス用給排水配管			○				
	22 本工事で想定される20家具・ユニット・外構の14-19用一次側電源	○						
	23 外構舗装（西・北面道路）					○	建物壁まで公園工事 詳細な区分は別図参照	
	外構舗装（東面駐車場、南面ロータリー）	○					詳細な区分は別図参照	
	24 ピロティ人工芝	○						
	25 運物付き大型門扉（2か所）	○						
	21 昇降機	1 フック（材料支給のみ）		○				
		2 上記（1）の取り付け	○					
		3 マシンビーム受装	○					

工事区分表

※複数○がある場合は起図者が対応する。

項目	内容	建築					備考	
		電気	機械	公園	別途	工事		
22 AV設備工事	4 各乗場廻りの孔明	○						
	5 三方枠、インジケータ周りの穴埋め・防火措置		○					
	三方枠、昇降機廻り取り合い部分の仕上	○						
	6 三方枠、敷居、インジケータなど以外の壁、床、天井仕上げ補修工事	○						
	7 ビット内のコンセント	○						
	8 エレベータ（電源盤）への電源供給	○						
	9 同上壁以降二次側配管配線		○					
	10 エレベータ警報監視配線及び監視装置		○					
	11 エレベータインターホン機器供給・取付		○					
	12 上記11用配管配線		○					
	13 上記11取付のための総合監視盤の穴あけ		○					
	14 エレベータ制御盤までの火災警報用配線		○					
	15 エレベータ制御盤までのリモートメンテナンス用電話中継用配線		○					
	16 非常放送用配管配線・アース		○					
	17 上記12、14の昇降機から総合監視盤までの配管		○					
	18 地震計から昇降機内への配管		○					
	19 昇降機内の端子盤		○					
	20 カゴ壁床保護マット		○					
	23 電話工事	1 電話機・配線、電話モジュラージャック					○	機器の取付/試験調整含む
		2 上記1用配管		○				
24 LAN工事		1 19インテラック・基幹スイッチングHUB					○	
		2 各フロアスイッチングHUB・配線、情報モジュラーコネクタ					○	
		3 上記1.2用配管		○				
4 サーバー、ネットワーク設定					○			
5 導通試験、成端処理					○			
25 セキュリティ	1 インターホン		○					
	2 I T Vカメラ機器一式					○		
	3 上記用電源・空配管		○					
	4 セキュリティ用センサー類一式、制御盤類、機器収納ラック・配線					○		
	5 カードリーダーコントローラ・ユニット一式					○		
	6 電気錠		○					
	7 電気錠用制御盤					○		
	8 制御盤から建具接点までの配管・配線					○		
	9 建具内配管・配線		○					
	10 機械警備機器および配管・配線					○		
	11 上記用電源・空配管		○					
26 車路管制設備	1 車路管制設備機器一式					○		
	2 同上配管・配線工事		○					
27 グラウンド映像システム	1 映像システム機器一式・配線					○		
	2 同上配管		○					
28 その他	1 機器（キュービクル、空調室外機等）の屋上外用機	○						

建築概要		面積表				
計画名称	久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	計画建物	1 (管理用建物)	2 (ゴミ置場)	3 (スタンド)	計
計画地	神奈川県横浜市長久里浜1丁目381-4, 他12筆 (地名地番地)	事務所・飲食店	事務所	観覧場		
都市計画区域	都市計画区域内 (市街化区域)	建築面積 (㎡)	1,770.34	21.79	31.85	1,823.98
防火地域等		延床面積 (㎡)				
その他の区域	景観区域 (全区域)、眺望景観保全外、景観保全区域外	階				
用途地域	準工業地域	R 階	27.33			27.33
敷地面積	22,591.15㎡ (計画通知範囲) (※I期工事: 23,051.058㎡、II期工事: 13,425.848㎡)	2 階	1,324.30			1,324.30
(法定) 建ぺい率	60%	1 階	1,663.52	21.79	334.09	2,019.40
(法定) 容積率	200%	合計	3,015.15	21.79	334.09	3,371.03
道路斜線	1.5/1 適用距離20m	容積対象床面積 (㎡)				
隣地斜線	31m+2.5/1	合計	2,969.07	21.79	334.09	3,324.95
北側斜線						
絶対高さ						
高度地区	第2種高度地区 (建築物の高さの最高限度20m)					
日影規制	5h-3h-4m (高さが10mを超える建築物)					
主要用途	公園施設 (事務所・飲食店)					
防火対象物の区分						
工事種別	新築					
建築面積	1,823.98 ㎡					
延べ面積/容積対象面積	3,371.03 ㎡ / 3,324.95 ㎡					
建ぺい率	8.07 %					
容積率	14.71 %					
計画建物	1 (管理用建物)	2 (ゴミ置場)	3 (スタンド)			
規模	地上2階 塔屋1階	地上1階	地上1階			
構造	RC造 一部S造	RC造 一部S造	S造			
主なスパン	7.2m	—	—			
耐火構造	進耐火構造ロ-2号 (主要構造部不燃材料)	その他	その他			
最高高さ	11.965m	2.708m	6.222m			
消防法上の用途	(15)事務所	(15)事務所	(1)イ 観覧場			



記号・凡例		仕上その他表示記号		平面表示記号		一般表示記号	
RC	鉄筋コンクリート	+	寸法線 (わりこみ)	—	両開きとびら	BM	ベンチマーク
LG	軽量コンクリート	⊗	基準線記号	⊙	片開きとびら	TBM	仮ベンチマーク
CB	コンクリートブロック	NFL	主基準レベル	—	自由とびら	GL	基準地盤面
M	モルタル	GL	地盤面	—	両引き戸	FL	基準床面
LMF	軽量鉄骨壁・天井下地	—	敷地境界	—	窓一般	W	幅
ECP	押出成形セメント版	—	境界石一般	—	アコーディオンカーテン	H	高さ
SUS	ステンレス鋼	—	新設境界標石	—	片引き戸	L	長さ
HL	ヘアライン仕上	—	既設境界標石	—	カーテン	φ	直径
PHL	パーマメントヘアライン仕上	—	かさ上げ境界標石	—	カーテンレール	r	半径
AL	アルミニウム	—	ベンチマーク	—	ピクチャーレール	C.L.	センターライン
SZ	亜鉛めっき鋼板	—	ボーリング位置	—		θ	間隔
VS	ビニル床シート	—		—		DS	ダクトスペース
GW	グラスウール吸音 (断熱) 材	—		—		PS	パイプスペース
RR	ロックウール	—		—		EPS	電気配線スペース
CaB	無石綿セメントけい酸カルシウム板	—		—		EV	エレベーター
P/F板	ポリスチレンフォーム保温板	—		—		EV.S	エレベーターシャフト
SDP	合成樹脂調合ペイント塗り	—		—		EXP.J	エキスパンション・ジョイント
EP	合成樹脂エマルジョンペイント塗り	—		—		SRC	鉄骨鉄筋コンクリート
EP-G	つや合成樹脂エマルジョンペイント塗り	—		—		RC	鉄筋コンクリート
VP	塩化ビニル樹脂エナメル塗り	—		—		S	鉄骨
UC	ウレタン樹脂ワニス塗り	—		—		b	柱・はりの幅
AE	アクリル樹脂エナメル塗り	—		—		D	柱・はりのせい
2-FUE	常温乾燥型フッ素樹脂エナメル塗り	—		—		t	厚さ
QL	クリヤラッカー塗り	—		—		CPL	チェッカープレート
B-AE	焼付アクリル樹脂エナメル塗り	—		—		SGP	配管用鋼管
DP	耐候性塗料塗り	—		—			
JB	ジェットバーナー仕上げ	—		—			
LGS	軽量鉄骨下地	—		—			
GB	せっこうボード	—		—			
PU-2	ポリウレタン系シーリング材	—		—			
PL	プレート	—		—			
FB	フラットバー	—		—			
FK	ケイカル板	—		—			
シーリング		—		—			

部位		内容		部位		内容		部位		内容							
1. 基準関係	床仕上基準面	床仕上基準面は床仕上面をZnとする。	天井化粧石膏ボード	特記なき限り、石膏ボードt9.5とし、突付け工法とする。	(天井)	天井取合い	天井見切りは特記なき限り、壁・天井の異種仕上げ取合部に全て設け金属天井部分は同材の回り縁とし、ボード張り部分は塩ビ製とする。										
		各層上、屋根水下のコンクリート直均し仕上面をZnとする。															
		直均し仕上面に仕上材を張る場合のコンクリート増し打ち厚さは、仕上材厚さ込みでt10とし、二重床下のコンクリート直均し仕上面及び、アスファルト防水下地のコンクリート増し打ち厚さはt10とする。															
2. 下地関係	床仕上下地	特記なき限りコンクリート金ゴテ仕上とする。	ケイカル板張り(不燃)	無機質繊維混けい酸カルシウム板(内部壁・天井t8、外部軒天t6+6)とする。内装仕上又は仕上下地は1種とする。	(その他)	柱、梁型の仕上	特記なき限り柱、梁型の仕上は当該各室の壁、天井仕上に倣う。										
		壁下地										特記なき限り、軽量鉄骨間仕切下地(メーカー仕様(JIS規格品))とし、梁又はスラブ下迄とする。					
												軽量鉄骨間仕切下地は、下地張りがある場合スタッド65型@450程度とする。また、一枚張りの場合@300程度、千鳥スタッド配置の場合@300程度(片面@600程度)					
		薄型軽量鉄骨間仕切り下地(U.L.工法)										乾式間仕切り面に設ける薄型軽量鉄骨下地は、層間変位に追従する工法とする。又、施工高さは張天井面までを原則とする。	岩綿吸音板(不燃)	石膏ボードt9.5(捨て貼り)+岩綿吸音板t9とする。	5. 防火関係	耐火性能	防火区画部分は耐火性能1時間以上とする。屋根においては仕上材、下地材共不燃とし耐火性能30分を確保する。
												内部天井下地	特記なき限り、一般用軽量鉄骨天井下地(メーカー仕様(JIS規格品))とする。天井ふところが屋内で1.5m以上は振止めを施す。(標準詳細図3-21参照)	塗装及び鉄部防錆処理	壁面の塗装はローラー仕上げとする。ルーバー下地鉄骨は、溶融亜鉛メッキ仕上とする。外部見え掛り部：溶融亜鉛メッキの上リン酸処理		特定防火設備及び防火設備の枠と耐火壁等の取合部
	外部天井下地	外部天井(軒・庇など)は、野縁等は25形で野縁間隔を@300程度とし、風圧に耐える構造すること。屋外で1.0m以上の場合には振止めを施す。(標準詳細図3-21参照)	内部見え隠れ部：防錆塗装	内部見え隠れ部：防錆塗装	消火器	粉末(ABC)蓄圧式消火器 14個											
	乾式耐火間仕切(遮音間仕切も準用)	高さ4000を超える場合は、標準工法による下地の補強、振れ止めを行なうこと。また壁下地が鉄骨梁より持ち出して設ける必要がある場合は、PLt9により持ち出し、耐火シール止め及び一体の耐火被覆を施すこと。	但し、設備機器設置スペースの外部鉄骨部は、見え掛り・見え隠れ共溶融亜鉛メッキ処理とする。														
	天井開口部下地補強	特記なき限り軽鉄下地は、屋内19形 屋外25形	アルミ部仕上(建具仕上含む)	特記なき限り、外部のアルミ部及び、アルミ建具(AW・AG・AD)は二次電解着色する。													
			ステンレス仕上	ステンレス金物は特記なき限り、SUS-304ヘアライン仕上とする。	6. 遮音・吸音関係	遮音性能	施工時にJIS1417(建築物の現場における音圧レベル差の測定方法)に基づく遮音性能測定を行い、遮音性能を確保する。										
3. 躯体関連	打放し出隅部	特記なき限り、角面取り20mmとする。	タイル	磁器質タイル、モザイクタイルの目地用モルタルは普通セメントを使用する。		遮音間仕切・建具取合	機械室1・2に取付く扉パネル、及び建具枠は全て岩綿80kg/m3を充填する。										
		タイル										磁器質タイル、モザイクタイルの目地用モルタルは普通セメントを使用する。					
		コンクリート打放し										特記なき限りコンクリート打放しの増打ち厚さは、外部20t内部10tとする。PS等シャフト内は増打ち無しとする。打放し補修は、全面補修を原則とする。(MB・PS・ビット等の天井は除く)	タイルカーベット	タイルカーベットは防炎処理品とする。	吸音材	グラスウールマットt50 24kg/m3ガラスクロス押え品とし、不燃認定品とする。	
		打継ぎ目地・誘発目地・伸縮目地										RC立上り部の誘発目地は20×20@3000程度設ける。コンクリート打継ぎ目地：PU-2 各階梁天端に設け、シーリング目地寸法はW=20とする。コンクリート誘発目地：PU-2 3.600内外ピッチで外壁へ設けるシーリング目地寸法はW=20とする。	ビニル床シート	ビニル床シートは特記なき限り溶接工法とし、配管貫通部分、便所その他水回りの幅木取合部にはシリコン系シールを施す。	7. 断熱関係	断熱材	平面詳細図・矩計図・部分詳細図による。
												屋上・屋根においては、防水押えコンクリートの伸縮目地は@3000以内で縦横とし、非加硫ブチル系シーリング材とする。W=25(一般部)W=30(外周部)	ビニルクロス	ビニルクロスは防カビ仕様製品を使用する。			
												押えコンクリートのひび割れ防止	押えコンクリートは、特記なき限り溶接金綱φ6-100×100入とする。	飛散防止フィルム	飛散防止フィルム貼付にあたっては施工に先立って熱割れ計算を行うこと。		
												床目地	土間コンクリート部については、3m内外の範囲で誘発目地を設けることとする。スラブコンクリート直仕上りについても、3m内外の範囲で化粧目地を設ける。	健康に配慮した材料	全ての内装材(接着剤・下地を含む)はF☆☆☆☆とする。アスベスト含有製品の使用は不可とする。	外壁廻り等の断熱材	1. 特記なき限り外部に面するコンクリート壁、柱型、梁型、及び外壁と取合う金属で、外壁から450mmの範囲は各部材の内側には現場発泡ウレタン断熱材を吹付ける。2. 外壁に面する建具枠、金物等の内側には、現場発泡断熱材を充填または吹付け
												クラック防止	同一面かつ同材の仕上げで、下地が異なる場合、又上下材が異なる場合には必ず塩ビ製目地材(既製品)を設け、クラック防止を図ること。	(床) 床見切り金物	床仕上(材質、厚み、色等)の異なる部分、沓摺のない建具部分床見切りには目地棒又は見切り金物を使用するものとし、目地棒はステンレス製6×18(足付)とする。		3. 設備立上り、基礎立上りのスラブ下には、立上り周囲300mmの範囲に現場発泡ウレタン断熱材を吹付ける。4. 外部に面する軒天部スラブ裏は現場発泡ウレタン断熱材を吹付ける。
		4. 仕上関係										壁、天井のせつこうボード	壁、天井のせつこうボードは2枚張りとし、ジョイント位置をずらして張ること。また、せつこうボードは全てジョイントレス工法、寒冷紗パテしごきとする。パテは壁面全体に塗りつけ平滑にする。仕上げボードは、天井高2.4mは3×8版 それ以外は3×9版とする。	床の段差	床に段差がある部分には、ステンレス見切棒25mm厚を使用する。		
													仕上げボードは、天井高2.4mは3×8版 それ以外は3×9版とする。	床仕上使用接着剤	ビニル床シートの使用接着剤は、便所等湿気の多い箇所に使用する場合は、エポキシ系とする。	結露防止材	外気に面する金属板裏面には、工場にて吹付材(パーミキュライト)t5を施すこと。水切りや飾り金物、内部にセメント板等の耐火壁がある金属壁仕上、屋根は庇等で下部に躯体下地がある部には、吹付材(パーミキュライト)t15を施す。
ボード部目地	建具取合部は枠外側で天井までタテ目地を設ける。		床ワックス仕上	ビニル床シート、ゴムタイル部は、完成引渡し時に再度樹脂ワックス仕上げを行う。(ノンワックスタイプを除く)(ワックスの種類は、メーカー推奨品とする。)													
耐水石膏ボード	便所、給湯室等、水回りの石膏ボードは耐水石膏ボードとする。ただし、硬質石膏ボードの場合はこの限りではない。水回り等については、ステンレス製の小ネジとする。		床の熱膨張対策	サッシ部(腰無し)周囲に設けるビニル床シート等を設置する際、熱膨張に配慮し適宜クリアランスを確保する。													
	(幅木) 幅木		特記なき限り、塩ビ製H=60とする。	外部建具	外部建具の建具廻りはト口詰め完了後、室内仕上げとの間に現場発泡ウレタン断熱材を施す。外部建具下部には図示による水切および室内部に膳板(S t B-A E)を設ける。サッシ下枠と膳板間には必ずアルミ製結露受けを設ける。												
	(壁) ボードのコーナー出隅部		仕上げボードの出隅部は全てコーナーガード(st)を設ける。St曲げ加工、壁仕上げ同種塗装、床から天井までとする。30×30×t1.6														

公共建築課長 主査等 担当者 工事名  
久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名 内外部一般事項-1 図面番号 D-102 区分 建築  
縮尺 A1: 1/\_\_\_ A3: 1/\_\_\_ 年月日 2021年1月



外部仕上表					
部位	部分	内容	部位	部分	内容
計画建物-1(管理用建物)					
屋上	床	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板t=45-押えコンクリートt=80金ゴテ (ワイヤーメッシュ入り) 伸縮目地 一般部W=25、外周部W=25 @3000内外	テラス1・2	床	ウッドデッキ-鋼製サポート
	ルーフトレイン	横引き鋼鉄製ルーフトレイン150A、防塵カバー付		立上り	立上り:アスファルト保護防水
	立上り	あご天端:コンクリート打放し補修-ウレタン塗膜防水(X-2) 立上り:アスファルト保護防水 丸環(部分詳細図参照) 鋼製手摺:部分詳細図参照 笠木:アルミ製		手摺	鋼製:部分詳細図参照
	防音壁	防音パネル:垂鉛鋼板+耐候性グラスウール吸音材 基礎:コンクリート打放し補修-ウレタン塗膜防水(X-2)、立上りはアスファルト保護防水		軒天	アルミスバンドレール BB-2種
	設備立上り	天端:コンクリート金ゴテ押え-水硬化型ウレタン塗膜防水 配管取合い部:SUS t1.5 パーミキュライト吹付 点検扉:スチール製・ウレタン塗装		柱梁見えがかり部	RC打放し補修・アクリルシリコン樹脂塗装
	設備用基礎	鉄筋コンクリート、鋼材:溶融亜鉛めっき仕上 天端:コンクリート金ゴテ押え-水硬化型ウレタン塗膜防水 立上り:アスファルト保護防水 散水栓(設備工事)		フロアドレイン	縦型鋼鉄製 150A
			バルコニー	床	ウッドデッキ-鋼製サポート 散水栓(ウッドデッキに点検口600角取付の上、床下に設置)
				手摺	鋼製:部分詳細図参照
				柱梁見えがかり部	RC打放し補修・アクリルシリコン樹脂塗装
			屋外階段	床(RC部)	コンクリート金ゴテの上ウッドデッキ
				手摺	鋼製手摺 溶融亜鉛メッキの上 リン酸処理
階段1塔屋	床	アスファルト露出防水			
	立上り	アスファルト露出防水			
	堅壁	アルミ製 2ヶ所(パントレス工法)	計画建物-2 ゴミ置場	屋根	折板 カラーアルミめっき鋼板 t0.6
	ルーフトレイン	横引き鋼鉄製ルーフトレイン75A		壁	RC打放し補修・アクリルシリコン樹脂塗装(クリヤ)
				建具	メッシュフェンス
バルコニー一庇		ウレタン塗膜防水(X-2)		床	コンクリート舗装(金ゴテ仕上げ) 伸縮目地4mピッチ
	軒天	アクリルシリコン樹脂塗装			
外壁	建具	アルミ製サッシ、アルミ製ガラク、ステンレス製サッシ、鋼製シャッター	計画建物-3 スタンド	床	コンクリート舗装(金ゴテ仕上げ)
	外壁	RC打放し補修・アクリルシリコン樹脂塗装		腰壁	RC打放し補修・アクリルシリコン樹脂塗装(クリヤ)
	樋	縦樋:アルミ製 支持金物@1000内外、掃除孔(横引きの場合)(パントレス工法)		手摺	鋼製:部分詳細図参照
	基礎立上り	RC打放し補修・フッ素樹脂クリヤー塗装		座席	上台:高密度ポリエチレン プロー成形品 脚(低):鋼板加工品 溶融亜鉛めっき仕上 脚(高):アルミ合金ダイキャスト 屋外用合成樹脂焼付塗装
ピロティ	軒天	アクリルシリコン樹脂塗装、カーテンネット		屋根膜	塩化ビニル樹脂コーティングガラス繊維布 酸化チタン光触媒コーティング同等品(不燃材)
	床	人工芝		(観覧席・車椅子席)	
				屋根鉄骨	溶融亜鉛メッキの上、2液形ポリウレタンエナメル塗り
				(観覧席・車椅子席)	※柱・梁に関しては耐火塗装を施し、詳細については施工設計時に打合せの上、決定すること。
			公共建築課長	主査等	担当者
			工事名		
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事		
			図面名		
			外部仕上表		
			縮尺		
			A1: 1/___ A3: 1/___		
			図面番号		
			D-104		
			年月日		
			2021年1月		
			区分		
			建築		

階	室名	天井高		床		壁		天井		居室 非居室	内装 制限等	備考	
		床高	躯体高	下地	仕上	幅木	H	下地	仕上				下地
計画建物① 管理用建物													
ピット等	消火水槽	-		RC金ゴテ	塗膜防水 (アクリル系)	-	-	RC打放し補修	塗膜防水	RC打放し	ポリスチレンフォーム 保温板打込み	非居室	タラップ、通気管
	配管ピット	-		土間コンクリート金ゴテ		-	-	RC打放し補修	ポリスチレンフォーム 保温板打込み	RC打放し	ポリスチレンフォーム 保温板打込み	非居室	釜場、タラップ、通水管、人通孔
1階	風除室	2700		RC金ゴテ	タイルA	SUS	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃 自動ドア引込み防止手摺、((インターホン、カードリーダー))
	エントランスホール	2700		RC金ゴテ	タイルA	SUS	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃 ピクチャーレール
	関係者エントランス	6600		RC金ゴテ	タイルA	SUS	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃 インターホン、((カードリーダー)) 自動ドア引込み防止手摺
	守衛室	2400		RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	居室	難燃 受付カウンター
	トレーニングルーム1 (ジム)	直天(X1-X4), 2700(X4-X5)		RC金ゴテ	ゴムマット	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP-G	X1-X4:- X4-X5:LGS-GB	X1-X4:- X4-X5:岩綿吸音板	居室	難燃 スポーツ鏡#4800xH1800 3面、うんてい固定用アンカー、 ((うんてい本体、トレーニング機器類一式、モニター))
	トレーニングルーム2 (低酸素室)	2700		RC金ゴテ	ゴムマット	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP-G	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃 ((低酸素設備、トレーニング機器類一式、モニター))
	トレーニングルーム3 (クライオシャワー)	2700		RC金ゴテ	ゴムマット	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP-G	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃 ((クライオシャワー機器本体))
	多目的室1 [マッサージルーム]	2700		RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃 ステンレス流し、((冷凍冷蔵庫、製氷機、施術ベット、モニター))
	多目的室2 [メディカル]	2400		RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃 ((手洗い、診察ベット、モニター))
	多目的室3 [ドクター]	2400		RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-ケイカル板	EP-G	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃 足洗、((手洗い、診察ベット))
	事務室1 (プレスルーム)	2400		RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	不燃 a
	事務室2	2400		RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	居室	難燃
	フットサル管理室	2400		RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	不燃 a
	浴室1 (プール)	2700		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	SUS-ケイカル板	結露防止塗料	SUS	バスリブ	非居室	プール本体
	浴室2	2400~2700		RC金ゴテ-アスファルト防水 -押えコンクリート	タイルB	ビニル	60	アスファルト防水 立上げFL+1500	タイルB	SUS	バスリブ	非居室	カラン(設備工事)、シャワーブース、温水槽、冷水槽、 スライドバー付シャワーフック
	脱衣所	2400		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS	化粧GB	非居室	洗面台、鏡、((脱衣棚))、((下駄箱))
	シャワー室1 (洗濯・ジャージ)	2400		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS-ケイカル板	EP-G	非居室	家庭用洗濯パン(800x640)×1ヶ所、バススルー
	シャワー室2 (サウナ)	2340		RC金ゴテ-アスファルト防水 -押えコンクリート	スノコ スプルスト=15	-	-	耐水合板-GW-ケイカル板	スプルス (一部タイル張り)	SUS-GB	岩綿吸音板	非居室	サウナー式(ヒーター、防護柵、ベンチ、ステップ、換気口付)
	更衣室1(ロッカー有) (シューズロッカー)	2700		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS	化粧GB	非居室	シューズラック 28組(両面自立型)・46組(片面壁付型)、 ((ベンチ))
	更衣室2(ロッカー有) (ロッカールーム)	2700		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS	化粧GB	非居室	テレビモニター吊下地4ヶ所、((ロッカー、ベンチ))
	男子更衣室	2400		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	非居室	姿見鏡#300xH1500×1ヶ所、((ロッカー))、吊カーテンレール(FL+2300) 鏡
	シャワー室	2550		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	SUS	60	SUS-ケイカル板	EP-G	SUS-ケイカル板	EP-G	非居室	シャワーユニット、タオル掛け3ヶ所、吊カーテンレール(FL+2300)
	女子更衣室	2400		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	非居室	姿見鏡#300xH1500×1ヶ所、((ロッカー))、吊カーテンレール(FL+2300) 鏡
	シャワー室	2550		RC金ゴテ	ビニル床シート(防滑)D	SUS	60	SUS-ケイカル板	EP-G	SUS-ケイカル板	EP-G	非居室	シャワーユニット、タオル掛け3ヶ所、吊カーテンレール(FL+2300)
	倉庫・物置 (遠征用倉庫用具部屋)	直天		RC金ゴテ	ビニル床シートC	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP			非居室	ステンレス流し、シューズラック 36組(片面壁付型)、((モニター))
	倉庫1-1 (トップチーム倉庫)	直天		RC金ゴテ	防塵塗装	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP			非居室	
	倉庫1-2	2400		RC金ゴテ	防塵塗装	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	非居室	
		±0	-10										

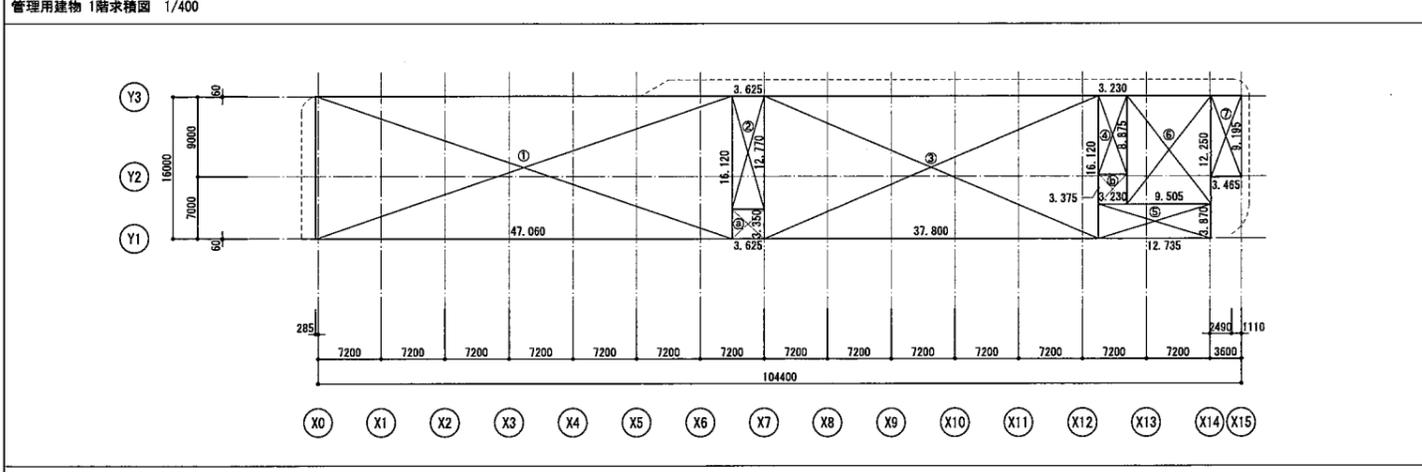
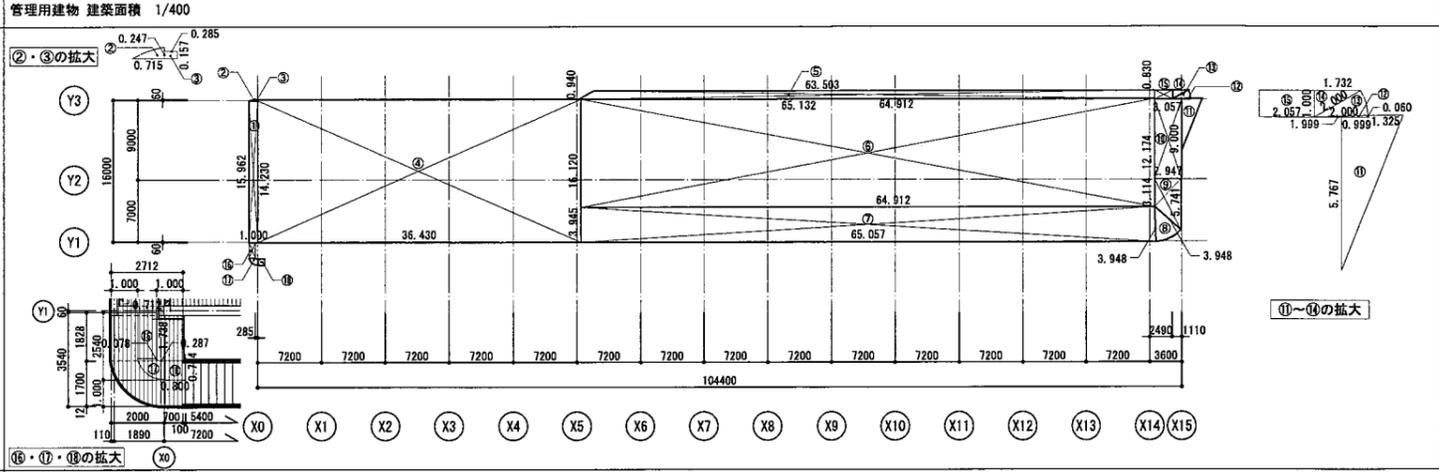
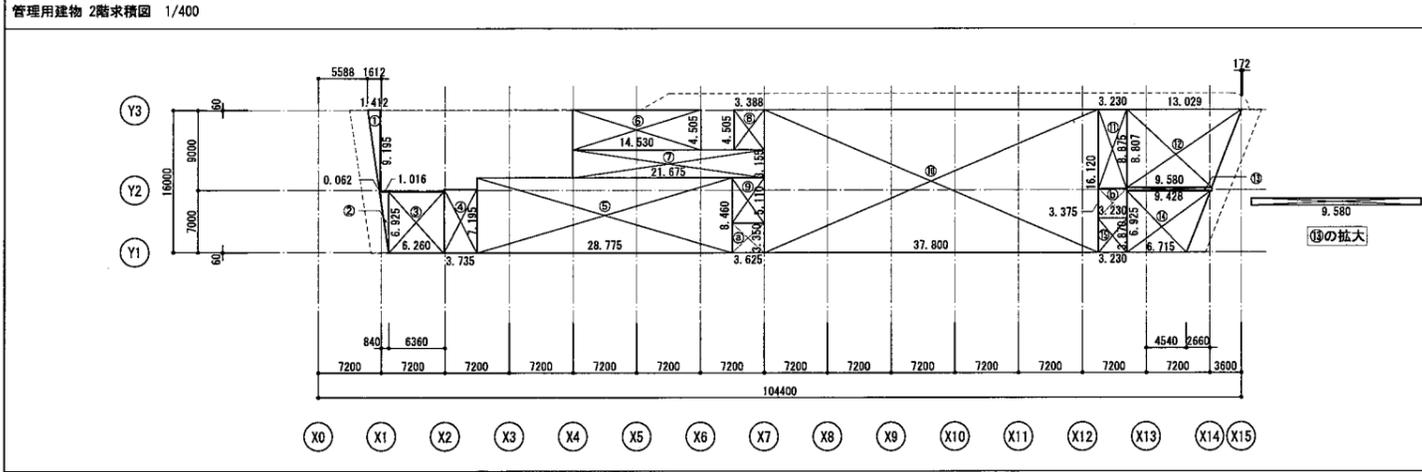
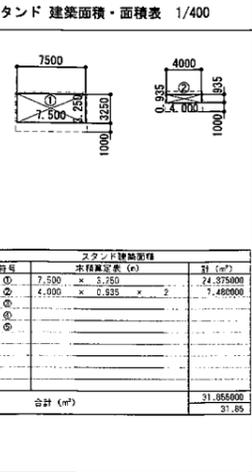
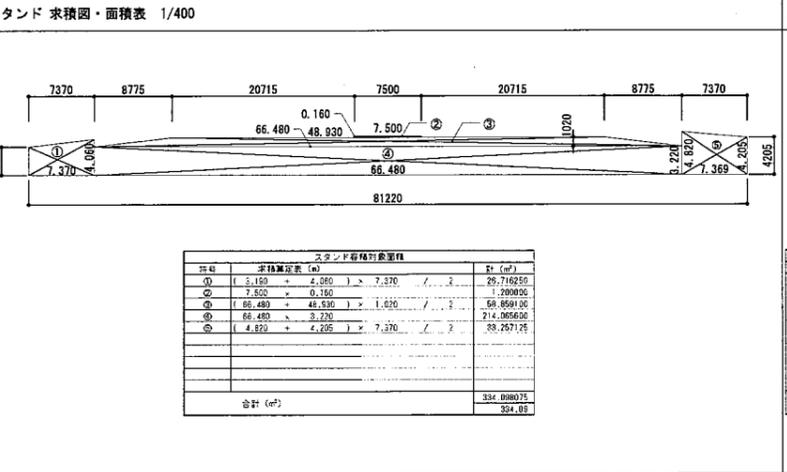
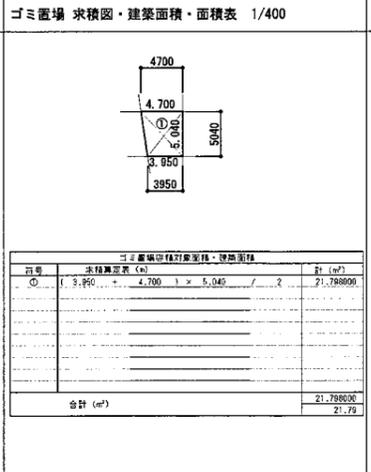
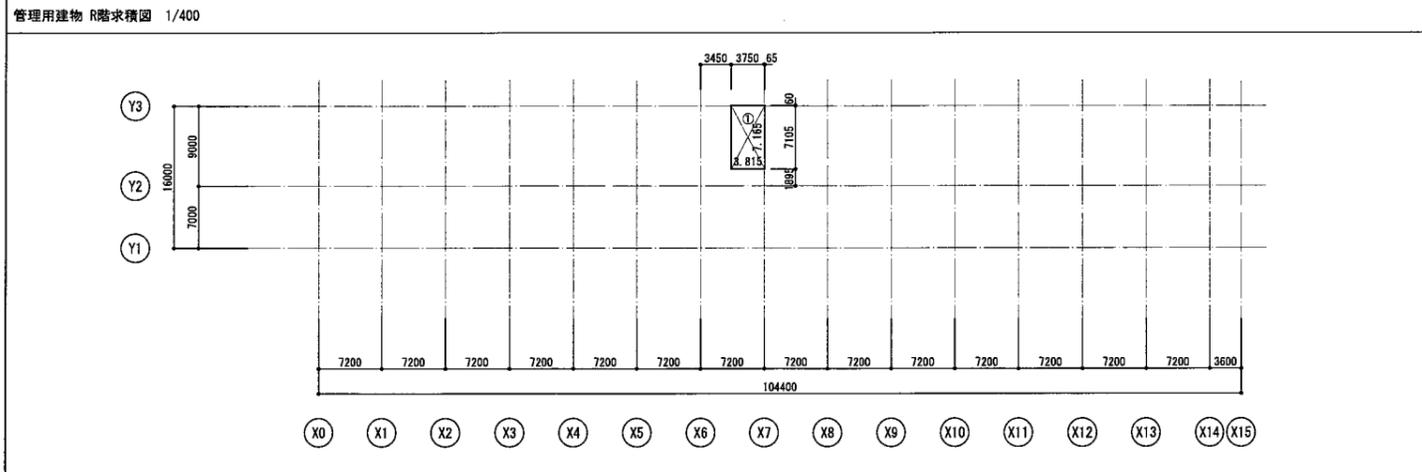
内装制限 凡例  
 不燃 a : 下地・仕上不燃 (平成12年建築1436号第1項4号ニ(4))  
 不燃 b : 下地・仕上不燃 (消防法施工令第11条3項ホ)  
 準不燃 : 仕上不燃 (法35条の2)  
 難燃 : 仕上難燃 (法35条の2)

階	室名	天井高		床		壁		天井		居室 非居室	内装 制限等	備考		
		床高	躯体高	下地	仕上	幅木	H	下地	仕上				下地	仕上
1階	倉庫2 (ドリンク倉庫)	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートC	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	非居室	(家庭用エアコン)	
	倉庫3 (管理用倉庫)	直天	-10	RC金ゴテ	防塵塗装	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP		-	非居室		
	倉庫4 (メディカル倉庫)	直天	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP		-	非居室		
	トイレ(男)・(女)	2400	-60	RC金ゴテ	タイルA	タイルA	60	RC打放し	タイルA	LGS	化粧GB	非居室	トイレブース、洗面カウンター、汚蓋石、鏡、姿見鏡、配管カバー、そうじ用具掛け、棚、(大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー) ※前室部分：[床]RC金ゴテ、[壁]外壁同様 [天井]化粧GB ※SK：[床]RC金ゴテ+防塵塗装、[壁]RC打放し、[天井]-	
	前室1	2700	-60	RC金ゴテ	タイルA	SUS	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃	
	前室2	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートC	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS	化粧GB	非居室	準不燃	ステンレス流し、(製氷機、家庭用エアコン)
	消火ポンプ室	直天	-10	RC金ゴテ	防塵塗装	床材立上げ	100	LGS-硬質GB	グラスウールマット	LGS	グラスウールマット	非居室	不燃 b	
2階	ロビー・ホール	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃	ピクチャーレール
	事務室5 (レストルーム(仮眠室))	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	不燃 a	
	事務室6 (リラクゼーション)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((冷凍冷蔵庫、TV、モニター))
	会議室1 (チームミーティングルーム)	3050	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	プロジェクター取付下地3か所、(天吊りプロジェクター) スクリーンBOX×2、ピクチャーレール、ホワイトボードW5000xH1200
	会議室2 (ミーティングルーム)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	プロジェクター取付下地1か所、(天吊りプロジェクター) スクリーンBOX、ピクチャーレール、ホワイトボードW3600xH1200
	会議室3 (ミーティングルーム(展望室))	2700	-10	RC金ゴテ	タイルカーペットB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	不燃 a	プロジェクター取付下地1か所、(天吊りプロジェクター) スクリーンBOX、ピクチャーレール
	応接室1・2	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((モニター：応接室1))
	多目的室4 (コーチングスタッフルーム)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((モニター))
	ミーティングルーム1 (チーム統括本部)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((モニター))
	談話室 (監督室)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((モニター))
	事務室4 (広報・スタッフ室)	2700	-110	RC金ゴテ	タイルカーペットA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	
	食堂1・2 (CAFÉ)	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートA	ビニル	60	LGS-硬質GB SUS-ケイカル板(厨房側)	化粧シート貼り	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	手洗い(設備工事)、配膳カウンター、モニター取付下地2か所、 ピクチャーレール、((モニター))
	WC	2400	-300	RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS	化粧GB	非居室		鏡、便器(設備工事)、手洗い(設備工事)、ライニング、 ((ペーパーホルダー))
	厨房	2400	-300	RC金ゴテ-アスファルト防水 -押えコンクリート	耐熱塗床	床材立上げ	100	SUS-ケイカル板	EP-G	SUS-ケイカル板	EP-G	居室	準不燃	厨房機器
	厨房事務室	2400	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS	化粧GB	居室	難燃	
	洗面室・WC	2400	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS	化粧GB	非居室		鏡、便器(設備工事)、洗面カウンター、ライニング、 ((ペーパーホルダー))
	更衣室3 (TOPスタッフ更衣室)	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートD	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP-G	LGS	化粧GB	非居室		姿見鏡W300×H1500×1か所、鏡、((ロッカー))、 吊カーテンレール(FL+2300)
	シャワー室	2550	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートD	SUS	60	SUS-ケイカル板	EP-G	SUS-ケイカル板	EP-G	非居室		シャワーユニット、タオル掛け4か所、吊カーテンレール(FL+2300)
	事務室3 (Executive Room)	2700	-10	RC金ゴテ	タイルカーペットB	ビニル	60	LGS-硬質GB	ビニルクロス	LGS-GB	岩綿吸音板	居室	難燃	((モニター))
	清掃員倉庫兼控室	2400	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	居室	不燃 a	
前室3	2700	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートA	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室	準不燃		
サーバー室	2400	-10	RC金ゴテ	ビニル床シートF(帯電防止)	ビニル	60	RC打放し LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室			

内装制限 凡例  
 不燃 a：下地・仕上不燃  
 (平成12年建設省1436号第1項4号ニ(4))  
 不燃 b：下地・仕上不燃  
 (消防法施工令第11条3項ホ)  
 準不燃：仕上不燃 (法35条の2)  
 難燃：仕上難燃 (法35条の2)

階	室名	天井高		床		壁		天井		居室 非居室	内装 制限等	備考	
		床高	躯体高	下地	仕上	幅木	H	下地	仕上				下地
R階	階段室	2300		RC金ゴテ	ビニル床シートE	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS-硬質GB	化粧GB	非居室 準不燃	
		±0	-600										
各階共通	男子・女子トイレ	2400		RC金ゴテ	ビニル床シートB	SUS	60	LGS-硬質GB	化粧シート貼り	LGS	化粧GB	非居室 トイレープス、洗面カウンター、汚垂石(男子)、鏡、 姿見鏡W300×H1500×1か所、配管カバー、そうじ用具掛け、棚、 ((大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー))	
		±0	-10										
	HWC	2400		RC金ゴテ(1・2F)	ビニル床シートB(2F)	SUS(2F)	60	LGS-ケイカル板(2F)	EP-G(2F)	LGS(1・2F)	化粧GB(1・2F)	非居室 鏡(W300×H600)、ペーパーシート(1F)、((配管カバー))、((手摺))	
		±0	1F:-60 2F:-10		タイルA(1F)	タイルA(1F)		RC打放し(1F)	タイルA(1F)				
	機械室1・2・3	直天		RC金ゴテ	防塵塗装	床材立上げ	100	LGS-硬質GB	GB素地	LGS	直天	非居室 ((設備機器本体、低酸素用コンプレッサ))	
		1・2:-790   1・2:-800 3:±0   3:-10											
	倉庫等	直天		RC金ゴテ	防塵塗装	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP			非居室	
		±0	-10										
PS・EPS トイレ(男)内SK	直天		RC金ゴテ	防塵塗装			LGS-硬質GB				非居室		
	±0	-10											
階段1			RC金ゴテ	ビニル床シートE	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB EP(階段裏)	非居室 準不燃	ノンスリップ金物、手摺、SUS製点字紙	
	±0	-10											
階段2			RC金ゴテ	ビニル床シートE	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB EP(階段裏)	非居室 準不燃	ノンスリップ金物、手摺、SUS製点字紙	
	±0	-10											
廊下		2400		RC金ゴテ	ビニル床シートA	ビニル	60	LGS-硬質GB	EP	LGS	化粧GB	非居室 準不燃	ビクチャーレール
	±0	-10											

内装制限 凡例  
 不燃a: 下地・仕上不燃  
(平成12年建築1436号第1項4号ニ(4))  
 不燃b: 下地・仕上不燃  
(消防法施工令第11条3項ホ)  
 準不燃: 仕上不燃 (法35条の2)  
 難燃: 仕上難燃 (法35条の2)



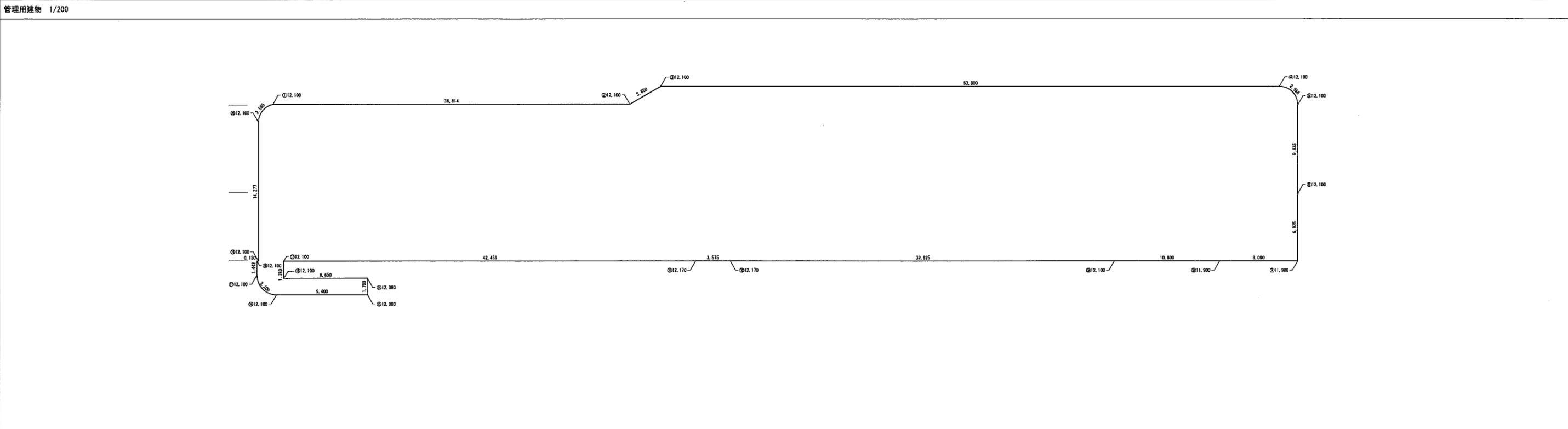
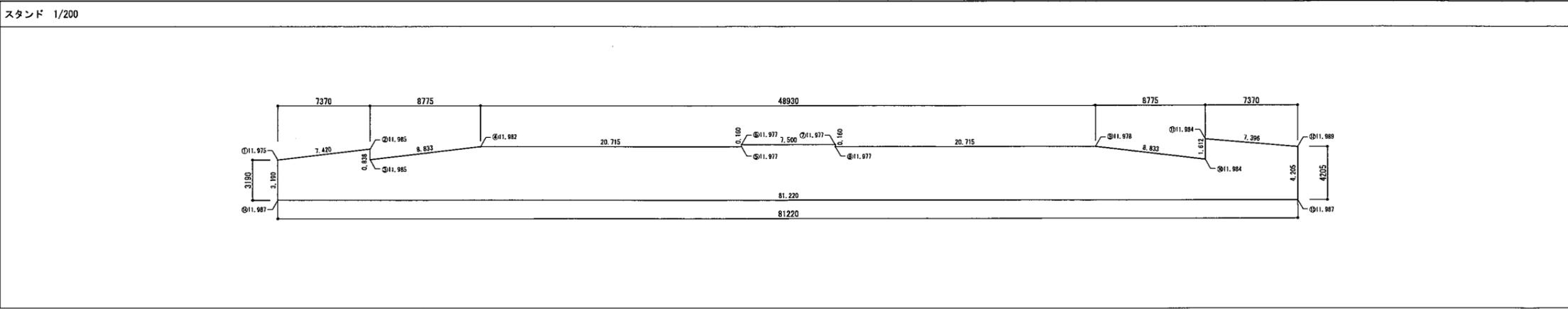
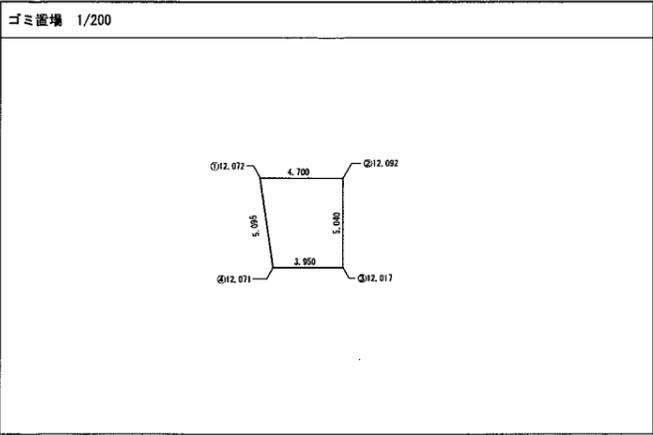
管理用建物 建築面積表

符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)
①	$1.000 \times 15.082$	15.08200
②	$0.225 \times 0.157$	0.044475
③	$3.141 \times 2.000 \times 2.900 \times 21.897 / 380 - 0.715 \times 1.732 / 2 - 0.285 \times 0.247 / 2$	0.168977
④	$38.430 \times 16.120$	619.51560
⑤	$(65.132 + 63.503) \times 3.948 / 2$	250.458450
⑥	$64.912 \times 12.174$	790.238888
⑦	$(65.057 + 64.912) \times 3.948 / 2$	256.382855
⑧	$3.141 \times 3.948 \times 3.948 \times 45.191 / 380$	5.285239
⑨	$2.947 \times 5.114 \times 3.741 / 2$	13.047445
⑩	$3.057 \times 3.000$	27.513000
⑪	$2.324 \times 5.877 / 2 - 0.999 \times 0.060$	6.711294
⑫	$1.999 \times 0.060 / 2$	0.059970
⑬	$3.141 \times 2.000 \times 2.900 \times 29.281 / 380$	0.597003
⑭	$1.732 \times 1.000 / 2$	0.866000
⑮	$2.057 \times 1.000$	2.057000
⑯	$0.712 \times 1.739$	1.237456
⑰	$0.999 \times 0.724 \times 0.712 \times 0.018 + 3.141 \times 1.021 \times 1.021 \times 77.865 / 360 - 0.997 \times (0.601 + 1.601) / 2 - 0.001 \times 1.021 / 2$	0.376421
⑱	$0.950 \times 0.724$	0.687800
合計 (㎡)		1770.341281

管理用建物 面積表 (各階床面積)

1階各種対象面積(A)				1階V降降路の部分(B)				2階各種対象面積(C)				2階V降降路の部分(D)			
符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)	符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)	符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)	符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)	符号	求積算定長 (m)	計 (㎡)	
①	$47.050 \times 16.120$	758.007200	a	$3.826 \times 3.350$	12.143750	①	$(0.062 + 1.412) \times 9.185 / 2$	6.776716	a	$3.625 \times 3.350$	12.143750	①	$3.816 \times 7.165$	27.334476	
②	$3.625 \times 12.720$	46.201250	b	$3.230 \times 3.375$	10.901250	②	$1.016 \times 6.925 / 2$	3.517900	b	$5.230 \times 3.375$	16.901250	②			
③	$37.800 \times 16.120$	609.338000				③	$6.260 \times 6.925$	43.350500				③			
④	$3.290 \times 6.875$	28.668750				④	$3.735 \times 7.195$	26.873275				④			
⑤	$12.735 \times 3.870$	49.281450				⑤	$28.775 \times 3.460$	245.436500				⑤			
⑥	$9.505 \times 12.750$	116.438250				⑥	$14.530 \times 4.505$	65.452500				⑥			
⑦	$3.495 \times 6.165$	31.863675				⑦	$21.875 \times 3.155$	69.384925				⑦			
						⑧	$3.388 \times 4.505$	15.262940				⑧			
						⑨	$3.825 \times 5.110$	19.562750				⑨			
						⑩	$37.800 \times 16.120$	609.338000				⑩			
						⑪	$3.220 \times 8.875$	28.668750				⑪			
						⑫	$(9.580 + 13.329) \times 8.807 / 2$	99.558722				⑫			
						⑬	$9.580 \times 0.388$	3.717940				⑬			
						⑭	$(0.715 + 9.428) \times 6.925 / 2$	55.698900				⑭			
						⑮	$3.220 \times 3.810$	12.468000				⑮			
合計 (㎡)		1840.482075	合計 (㎡)		23.045000	合計 (㎡)		1301.200827	合計 (㎡)		23.045000	合計 (㎡)		27.334476	
		1840.48			23.04			1301.26			23.04			27.33	

階	容積対象面積	EV降降路の部分	減去面積
R階	27.33	0.00	27.33
2階	1301.26	23.04	1278.22
1階	1840.48	23.04	1669.52
合計 (㎡)	2969.07	46.08	2015.15



平均地盤算定表

■計画建物1 管理用建物  
平均地盤算出 計算表

区間	距離	高さ 1	高さ 2	地盤面積 (㎡)
①~②	36.814	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	445.449
②~③	3.660	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	44.286
③~④	63.800	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	771.980
④~⑤	2.968	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	35.913
⑤~⑥	9.135	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	110.534
⑥~⑦	6.925	( 12.100 + 11.900 )	× 0.50 =	96.271
⑦~⑧	8.090	( 11.900 + 11.900 )	× 0.50 =	129.600
⑧~⑨	10.800	( 11.900 + 12.100 )	× 0.50 =	480.849
⑨~⑩	39.625	( 12.100 + 12.170 )	× 0.50 =	43.508
⑩~⑪	3.575	( 12.170 + 12.170 )	× 0.50 =	515.167
⑪~⑫	42.453	( 12.170 + 12.100 )	× 0.50 =	21.538
⑫~⑬	1.780	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	104.579
⑬~⑭	8.650	( 12.100 + 12.080 )	× 0.50 =	20.536
⑭~⑮	1.700	( 12.080 + 12.080 )	× 0.50 =	113.646
⑮~⑯	9.400	( 12.080 + 12.100 )	× 0.50 =	38.720
⑯~⑰	3.200	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	17.448
⑰~⑱	1.442	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	1.815
⑱~⑲	0.150	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	172.752
⑲~⑳	14.277	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	31.279
㉑~㉒	2.585	( 12.100 + 12.100 )	× 0.50 =	
計(建物周長)	271.029 m			計(地盤面積) 3278.969 ㎡
計(地盤面積) ÷	計(建物周長)	=		平均地盤面
3278.969 ÷	271.029	=		12.090
				TP + 12.09

■計画建物2 ゴミ置場  
平均地盤算出 計算表

区間	距離	高さ 1	高さ 2	地盤面積 (㎡)
①~②	4.700	( 12.072 + 12.092 )	× 0.50 =	56.785
②~③	5.040	( 12.092 + 12.071 )	× 0.50 =	60.755
③~④	3.950	( 12.017 + 12.071 )	× 0.50 =	47.574
④~①	5.095	( 12.071 + 12.072 )	× 0.50 =	61.504
計(建物周長)	18.785 m			計(地盤面積) 226.618 ㎡
計(地盤面積) ÷	計(建物周長)	=		平均地盤面
226.618 ÷	18.785	=		12.060
				TP + 12.06

■計画建物3 スタンド  
平均地盤算出 計算表

区間	距離	高さ 1	高さ 2	地盤面積 (㎡)
①~②	7.420	( 11.975 + 11.985 )	× 0.50 =	88.892
②~③	0.838	( 11.985 + 11.985 )	× 0.50 =	10.043
③~④	8.833	( 11.985 + 11.982 )	× 0.50 =	105.850
④~⑤	20.715	( 11.982 + 11.977 )	× 0.50 =	248.155
⑤~⑥	0.160	( 11.977 + 11.977 )	× 0.50 =	1.916
⑥~⑦	7.500	( 11.977 + 11.977 )	× 0.50 =	89.828
⑦~⑧	0.160	( 11.977 + 11.977 )	× 0.50 =	1.916
⑧~⑨	20.715	( 11.977 + 11.978 )	× 0.50 =	248.114
⑨~⑩	8.833	( 11.978 + 11.984 )	× 0.50 =	105.828
⑩~⑪	1.612	( 11.984 + 11.984 )	× 0.50 =	19.318
⑪~⑫	7.396	( 11.984 + 11.989 )	× 0.50 =	88.652
⑫~⑬	4.205	( 11.989 + 11.987 )	× 0.50 =	50.410
⑬~⑭	81.220	( 11.987 + 11.987 )	× 0.50 =	973.584
⑭~①	3.190	( 11.987 + 11.975 )	× 0.50 =	38.219
計(建物周長)	172.797 m			計(地盤面積) 2070.726 ㎡
計(地盤面積) ÷	計(建物周長)	=		平均地盤面
2070.726 ÷	172.797	=		11.980
				TP + 11.98

計画建物全体平均地盤算出 計算表

計画建物	地盤面積 (㎡)	周長 (m)
1 管理用建物	3278.969	271.029
2 ゴミ置場	226.618	18.785
3 スタンド	2070.726	172.797
計	5576.313	462.611
計(地盤面積) ÷	計(建物周長)	= 平均地盤面
5576.313 ÷	462.611	= 12.050
		TP = 12.05

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面番号

D - 202

区分

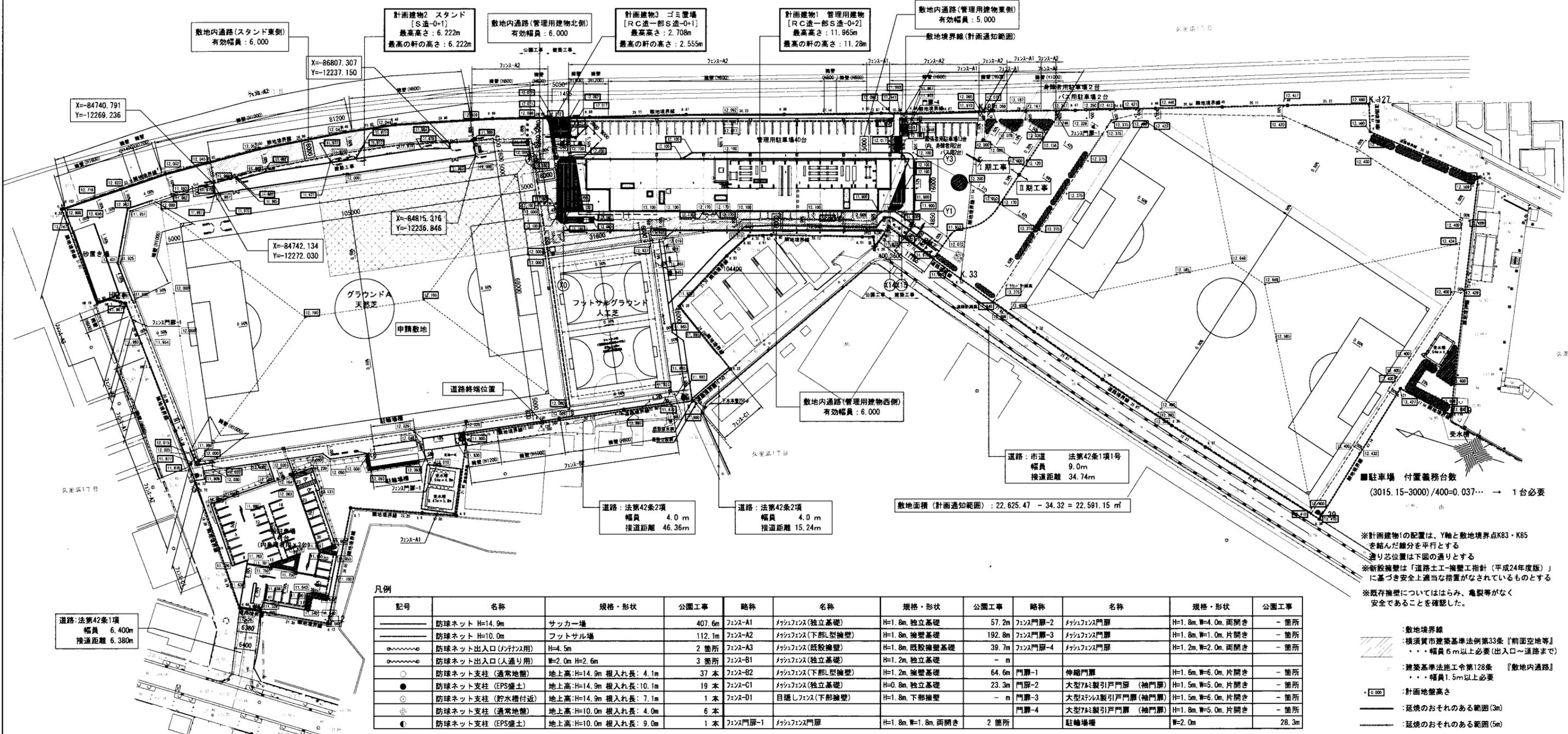
建築

縮尺

A1: 1/200 A3: 1/400

年月日

2021年 1月



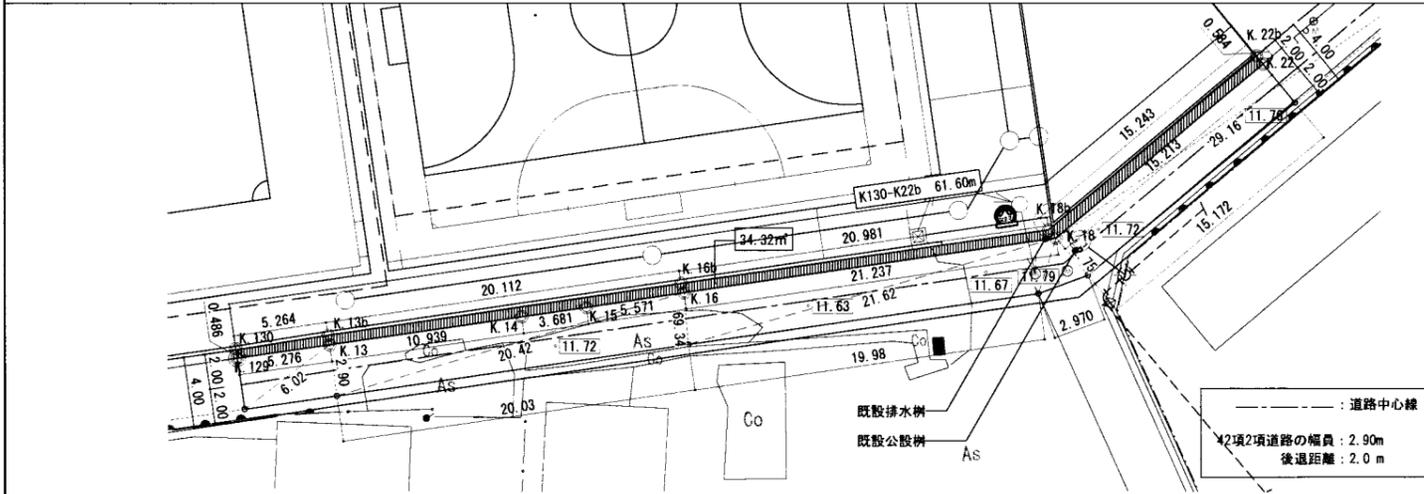
■駐車場 付置義務台数  
 (3015.15-3000)/400=0.037... → 1台必要

凡例

記号	名称	規格・形状	公園工事	略称	名称	規格・形状	公園工事	略称	名称	規格・形状	公園工事
—	防球ネット	H=14.9m	サッカー場	フェンス-A1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=1.8m, 独立基礎	57.2m	フェンス門扉-2	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=4.0m, 両開き	- 箇所
—	防球ネット	H=10.0m	フットサル場	フェンス-A2	メッシュフェンス(下部L型擁壁)	H=1.8m, 擁壁基礎	192.8m	フェンス門扉-3	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=1.0m, 片開き	- 箇所
—	防球ネット出入口(メッシュ用)	H=4.5m		フェンス-A3	メッシュフェンス(既設擁壁)	H=1.8m, 既設擁壁基礎	39.7m	フェンス門扉-4	メッシュフェンス門扉	H=1.2m, W=2.0m, 両開き	- 箇所
—	防球ネット出入口(人通り用)	W=2.0m H=2.6m		フェンス-B1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=1.2m, 独立基礎	- m				
○	防球ネット支柱(通常地盤)	地上高:H=14.9m 根入れ長: 4.1m	37本	フェンス-B2	メッシュフェンス(下部L型擁壁)	H=1.2m, 擁壁基礎	64.6m	門扉-1	伸縮門扉	H=1.6m, W=6.0m, 片開き	- 箇所
●	防球ネット支柱(EPS盛土)	地上高:H=14.9m 根入れ長: 10.1m	19本	フェンス-C1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=0.8m, 独立基礎	23.3m	門扉-2	大型メッシュ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.5m, W=5.0m, 片開き	- 箇所
○	防球ネット支柱(貯水槽付近)	地上高:H=14.9m 根入れ長: 7.1m	1本	フェンス-D1	目隠しフェンス(下部擁壁)	H=1.8m, 下部擁壁	- m	門扉-3	大型メッシュ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.5m, W=6.0m, 片開き	- 箇所
○	防球ネット支柱(通常地盤)	地上高:H=10.0m 根入れ長: 4.0m	6本					門扉-4	大型メッシュ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.8m, W=5.0m, 片開き	- 箇所
●	防球ネット支柱(EPS盛土)	地上高:H=10.0m 根入れ長: 9.0m	1本	フェンス門扉-1	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=1.8m, 両開き	2箇所		駐輪場幅	W=2.0m	28.3m

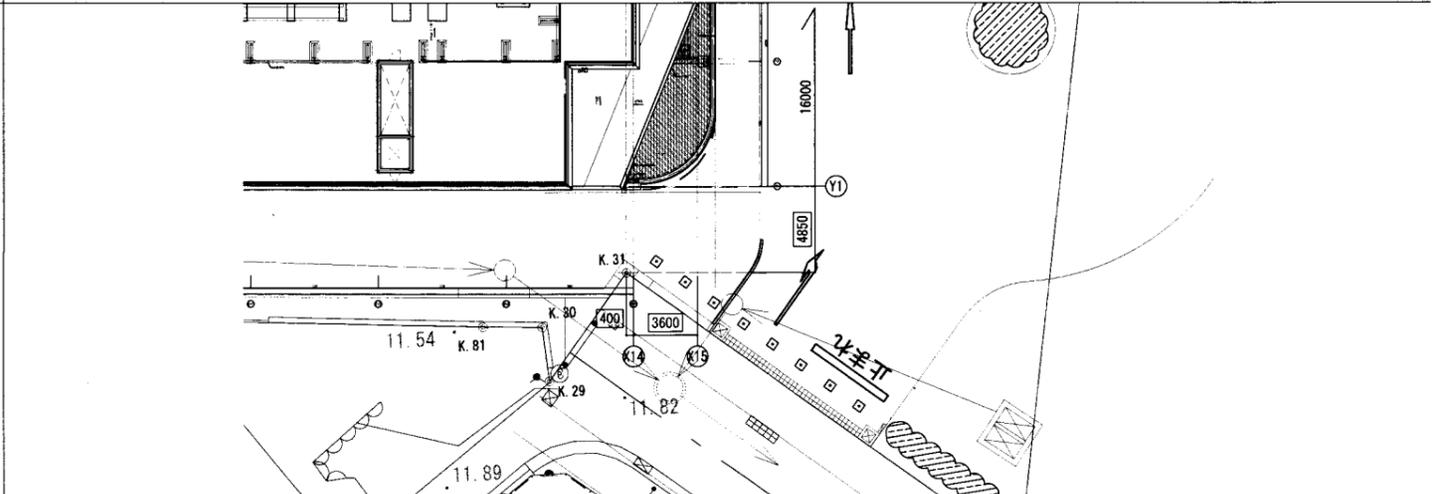
法42条2項道路 セットバック詳細図

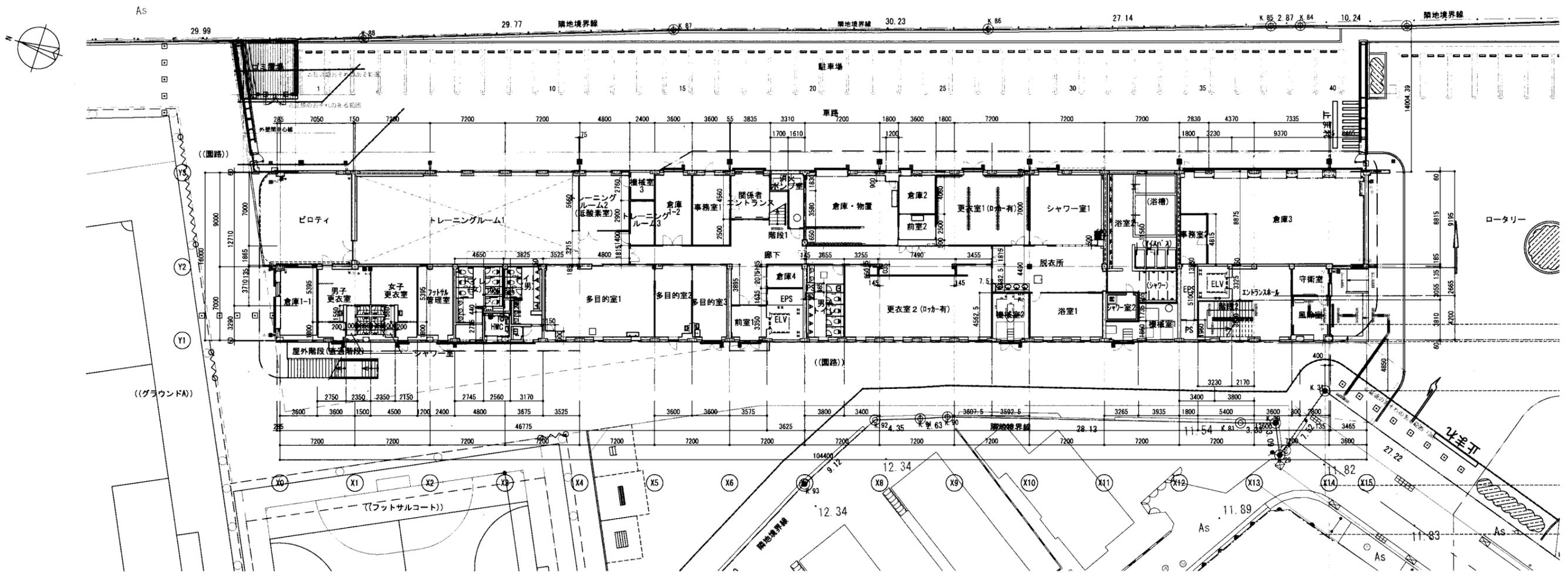
S=1/200(A1) S=1/400(A3)



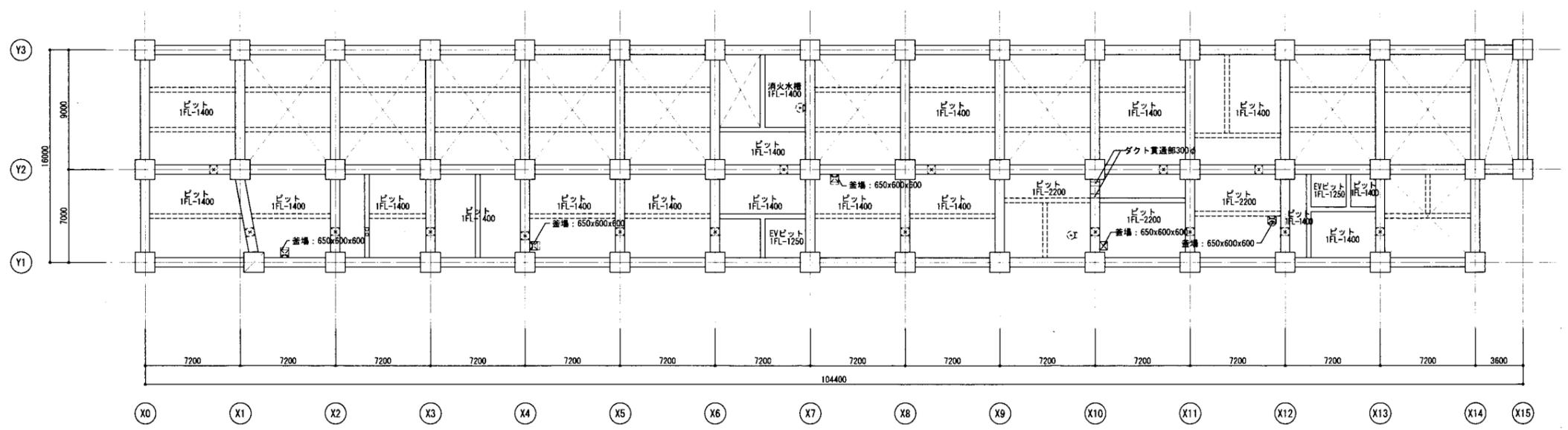
管理用建物 通り芯の追い出し寸法

S=1/200(A1) S=1/400(A3)



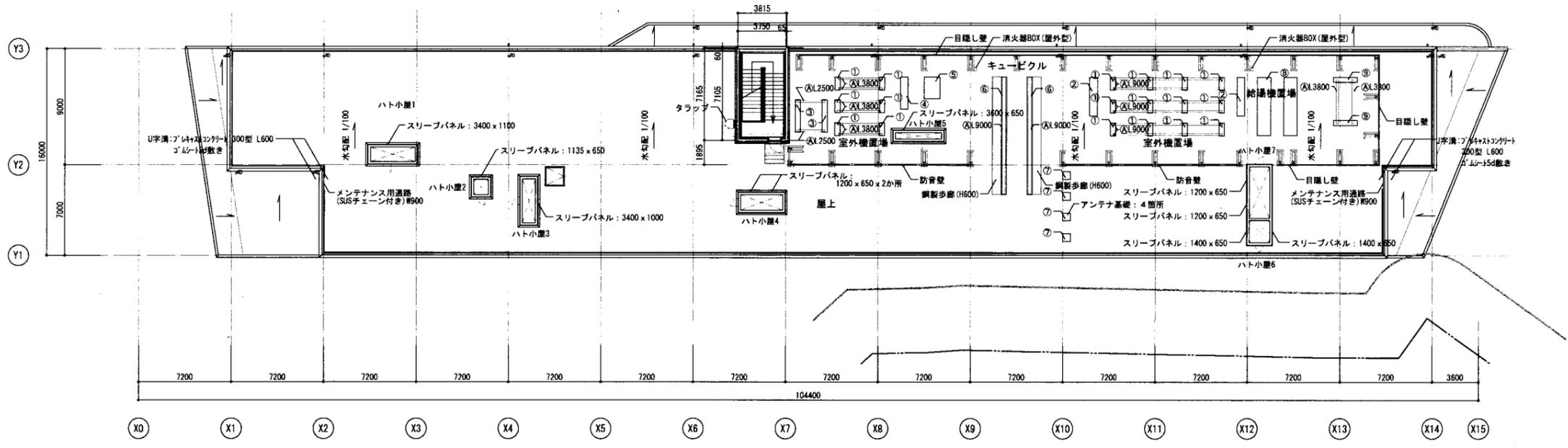
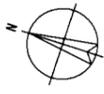


配置図兼1階平面図 1/200



ピット平面図 1/200

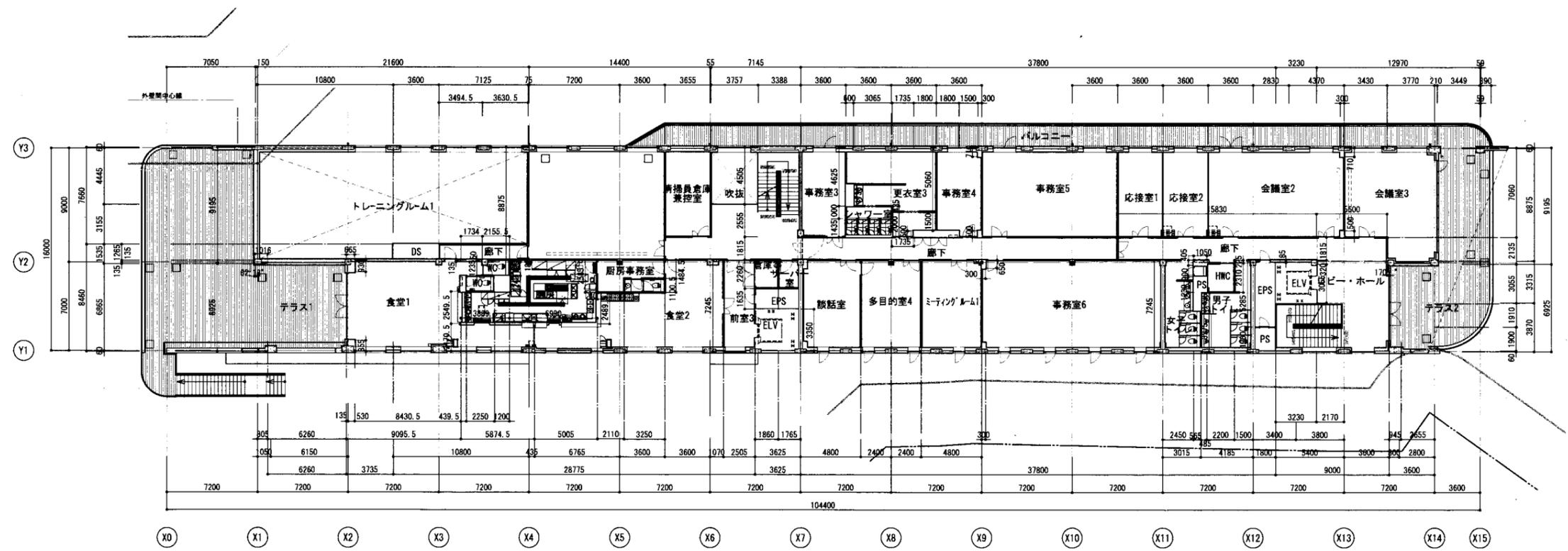
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	平面図_ピット・1F	D-204	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/200	A3: 1/400	2020年 3月



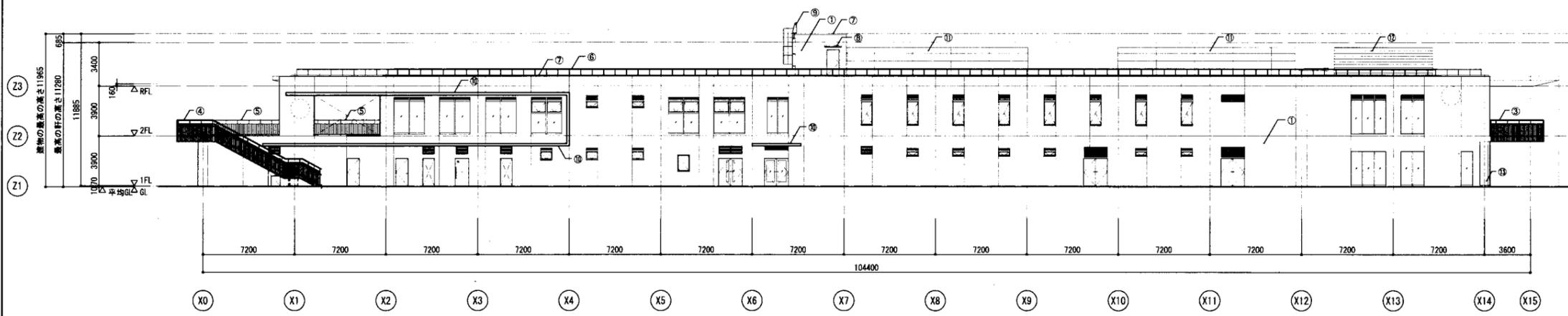
屋根伏図 1/200

設備基礎凡例 (WxLxH)

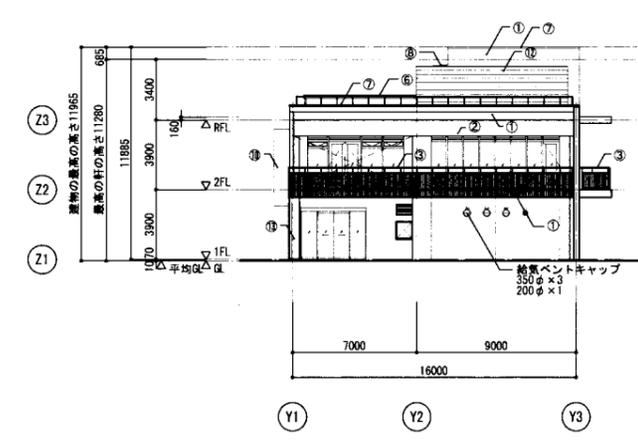
①	300x1000x400
②	600x3000x400
③	300x2500x400
④	600x2500x400
⑤	1200x1600x400
⑥	400x9100x400
⑦	500x500x400
⑧	1000x4500x400
⑨	300x1500x400
Ⓐ	敷青H-250x250



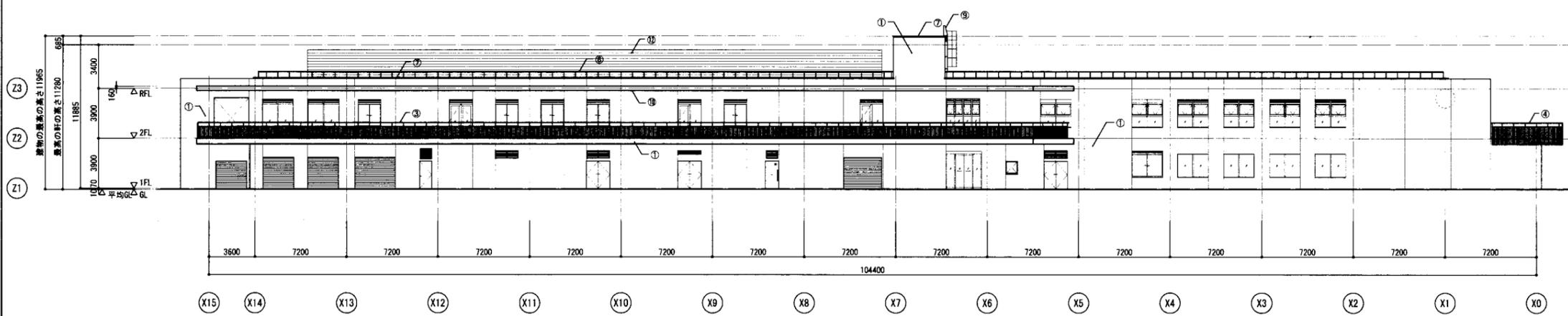
2階平面図 1/200



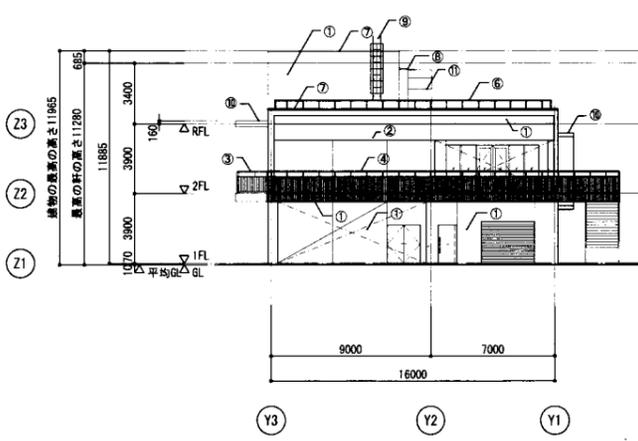
西側立面図



南側立面図



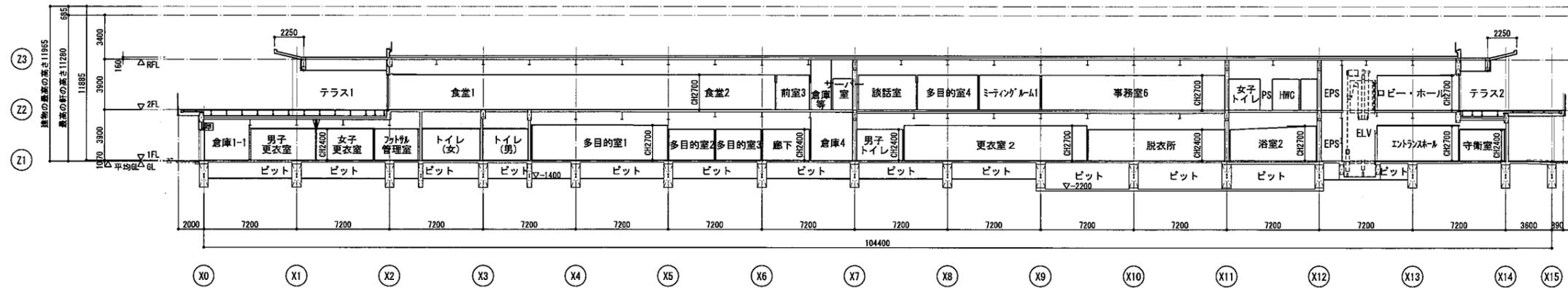
東側立面図



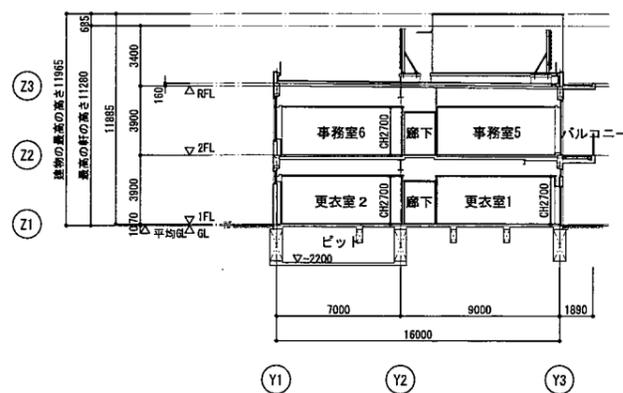
北側立面図

- 凡例
- ① 外壁:コンクリート打放し補修の上、アクリルシリコン樹脂塗装
  - ② アルミスバンドレル
  - ③ 手摺A
  - ④ 手摺B
  - ⑤ 手摺C
  - ⑥ 手摺D
  - ⑦ 笠木:アルミ t2.0
  - ⑧ アルミ庇:既製品 D=900
  - ⑨ タラップ:ステンレス
  - ⑩ コンクリート庇:アクリルシリコン樹脂塗装
  - ⑪ 防音壁
  - ⑫ 目隠し壁
  - ⑬ サインボード
- : 外壁サイン想定位置 (3箇所・内照式)

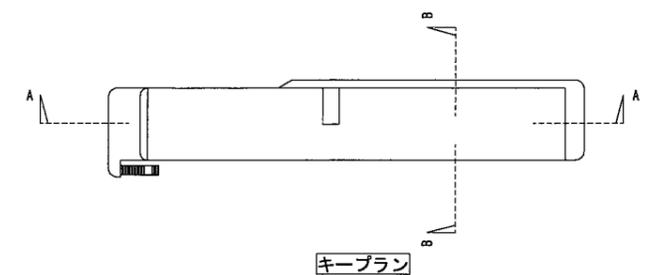
公共建築課長	主査	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	立面図	D-206	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/200	2020年 3月	
				A3: 1/400		



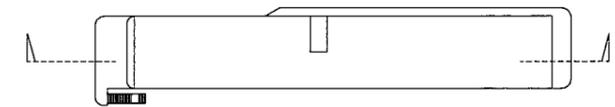
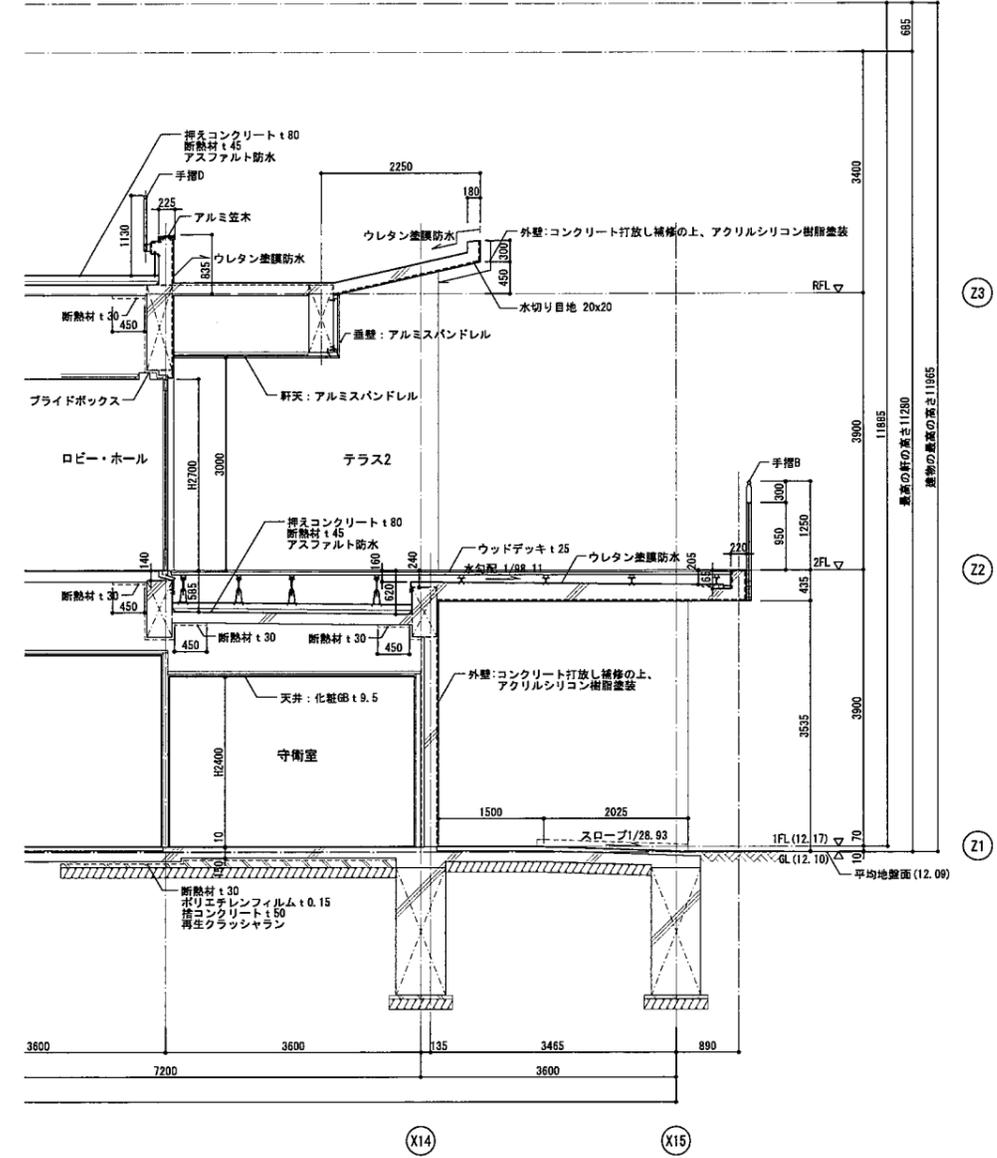
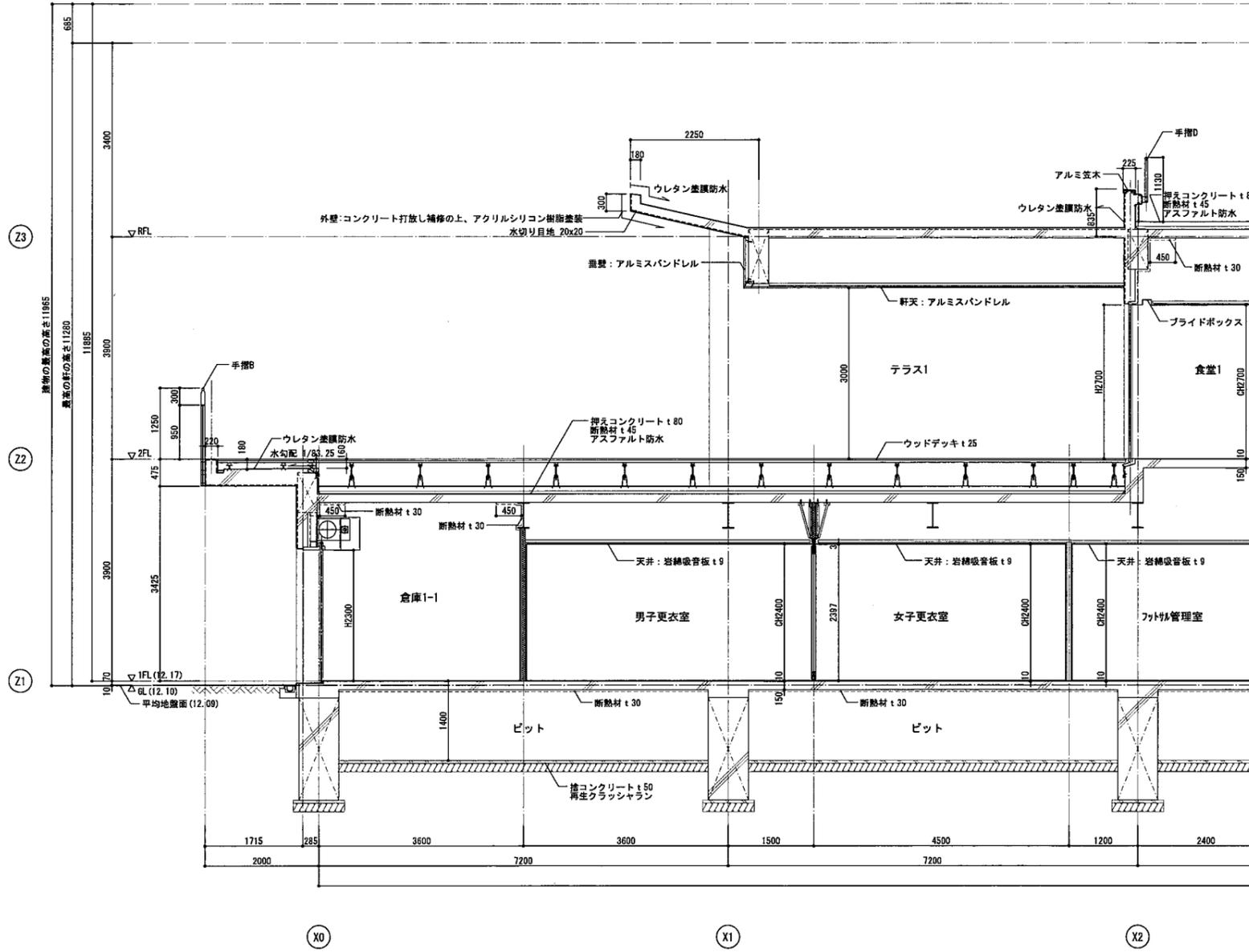
断面図 (A-A) 1/200



断面図 (B-B) 1/200

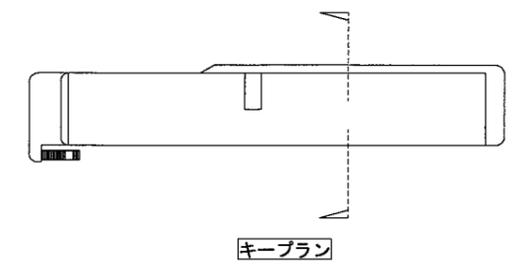
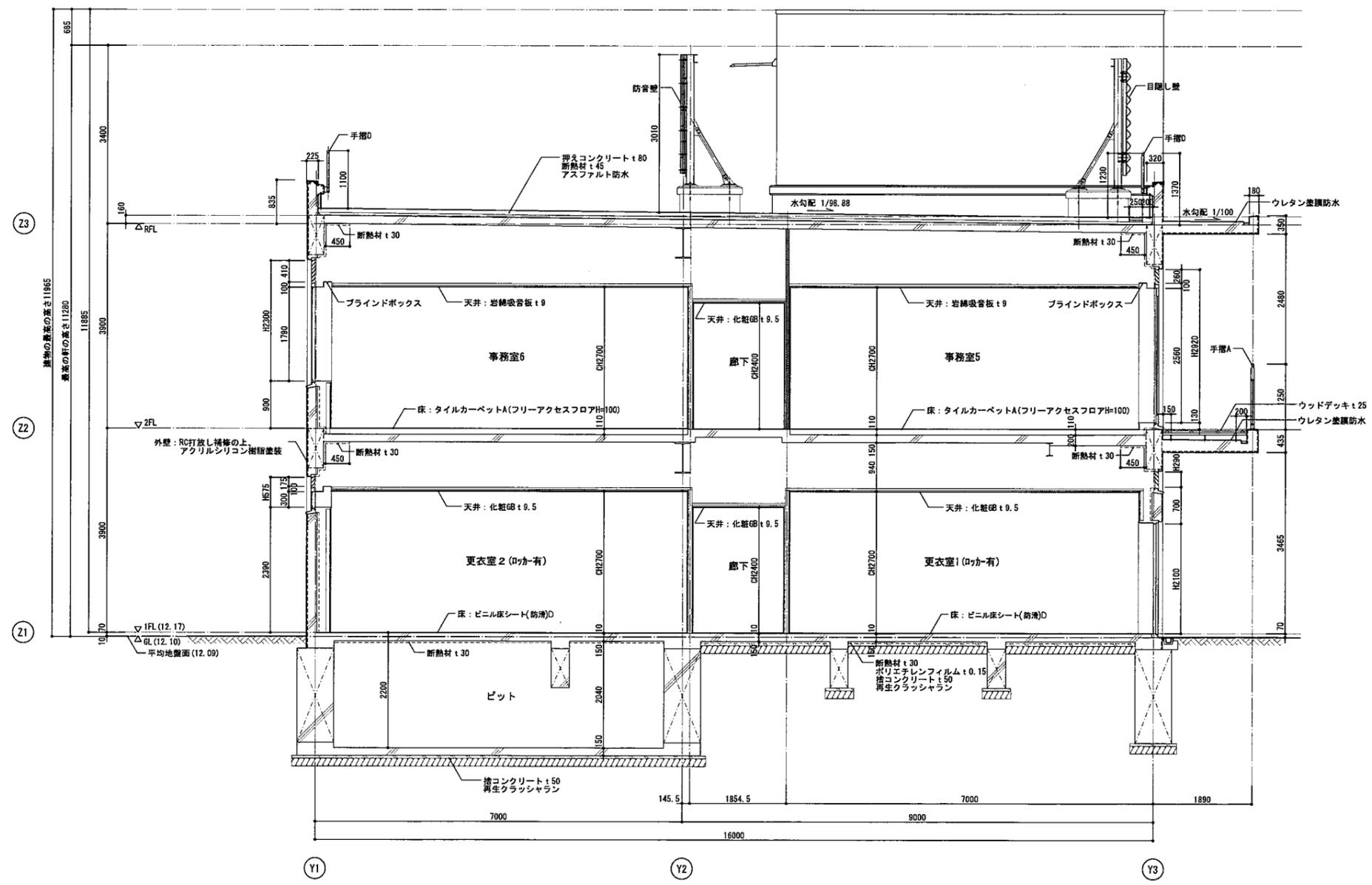
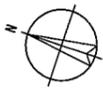


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	断面図	D-207	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/200 A3: 1/400	2021年1月	

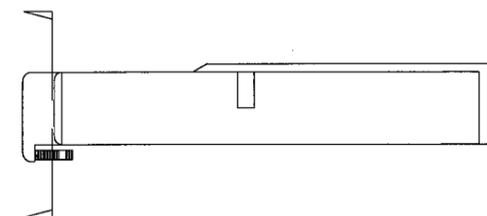
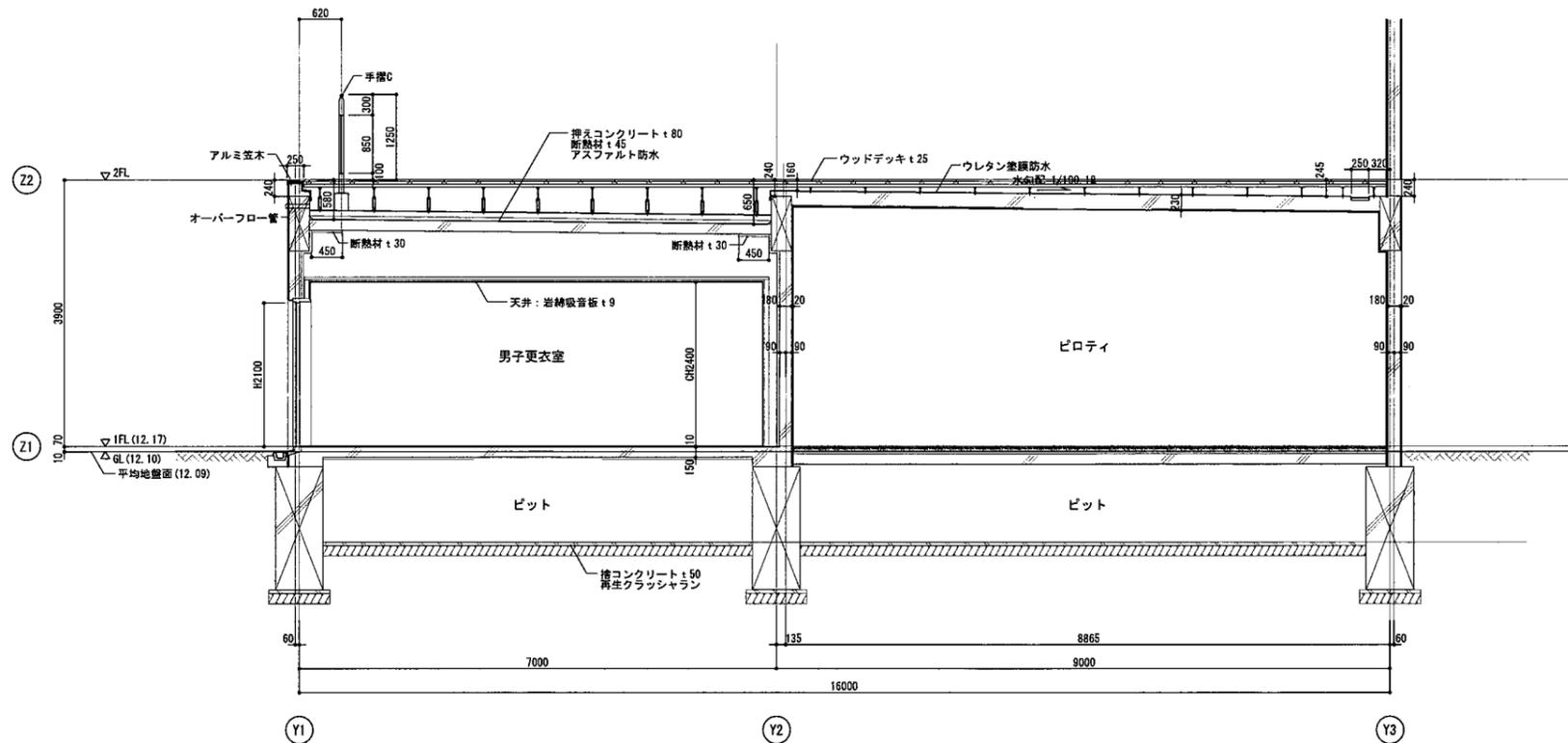
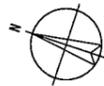


キープラン

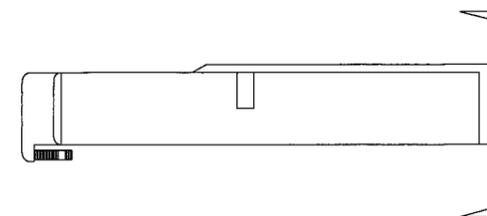
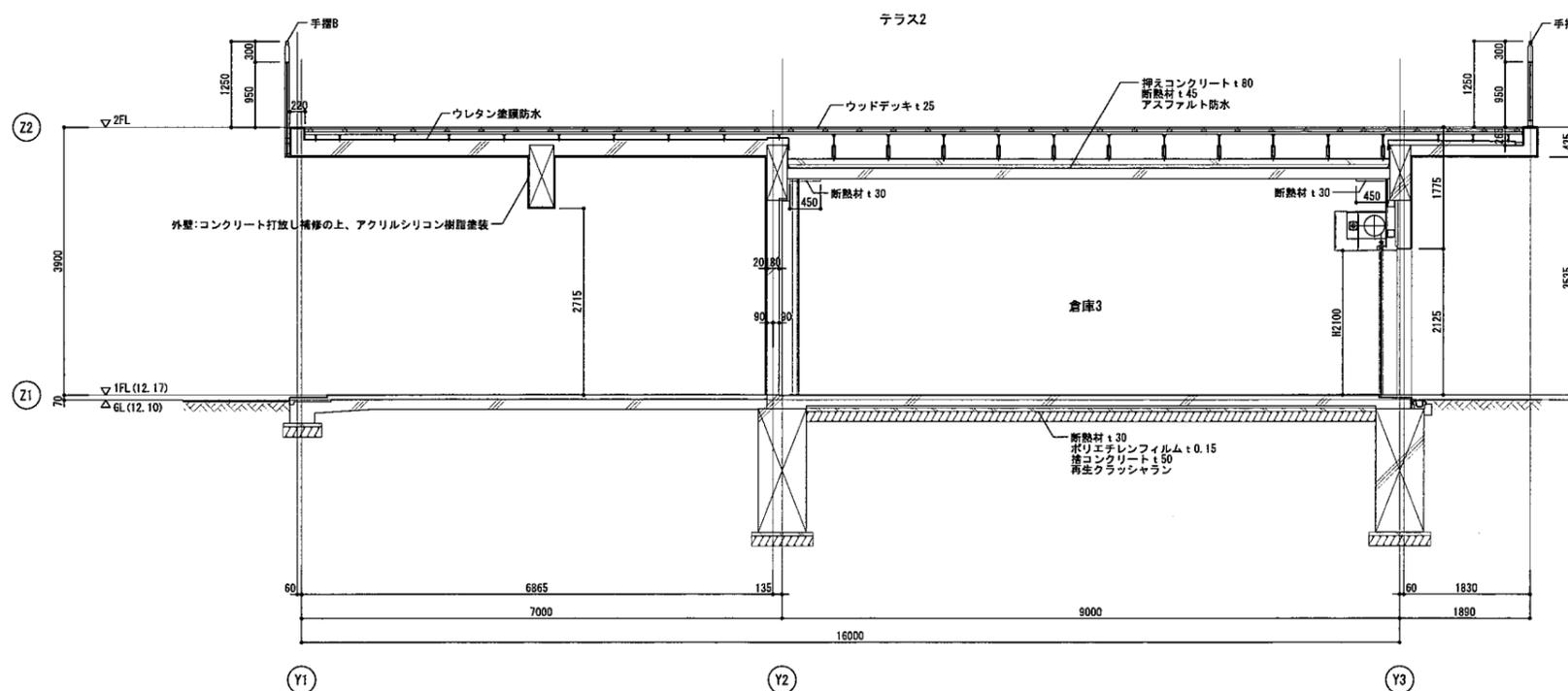
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	D-301	建築
			図面名	年月日	2021年1月
			矩計図(1)		
			縮尺		
			A1: 1/50	A3: 1/100	



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	矩計図(2)	D-302	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50 A3: 1/100	2021年 1月	

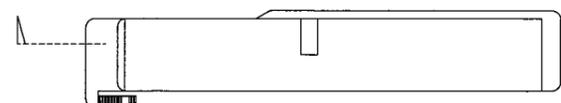
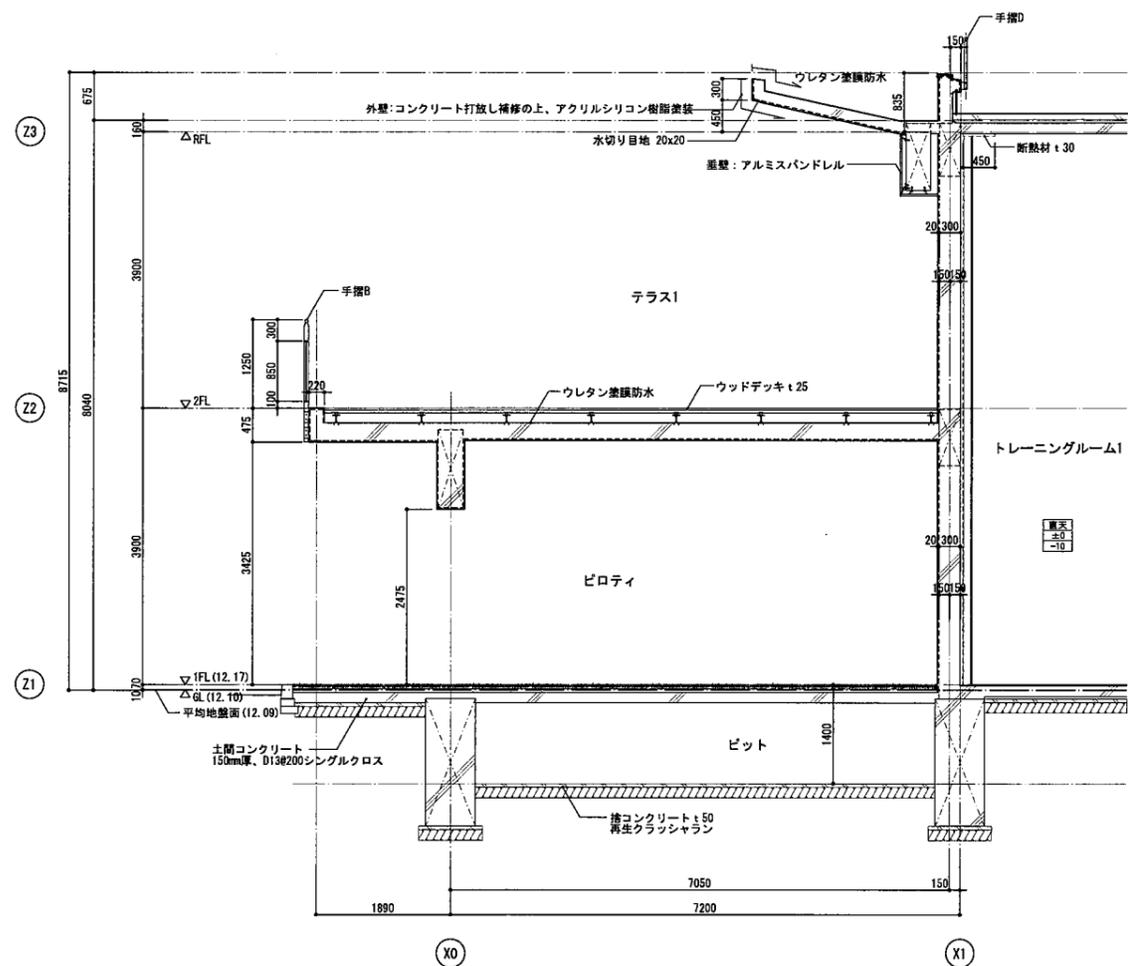
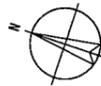


キープラン

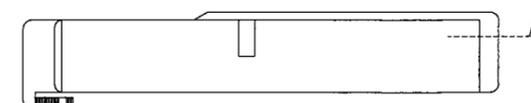
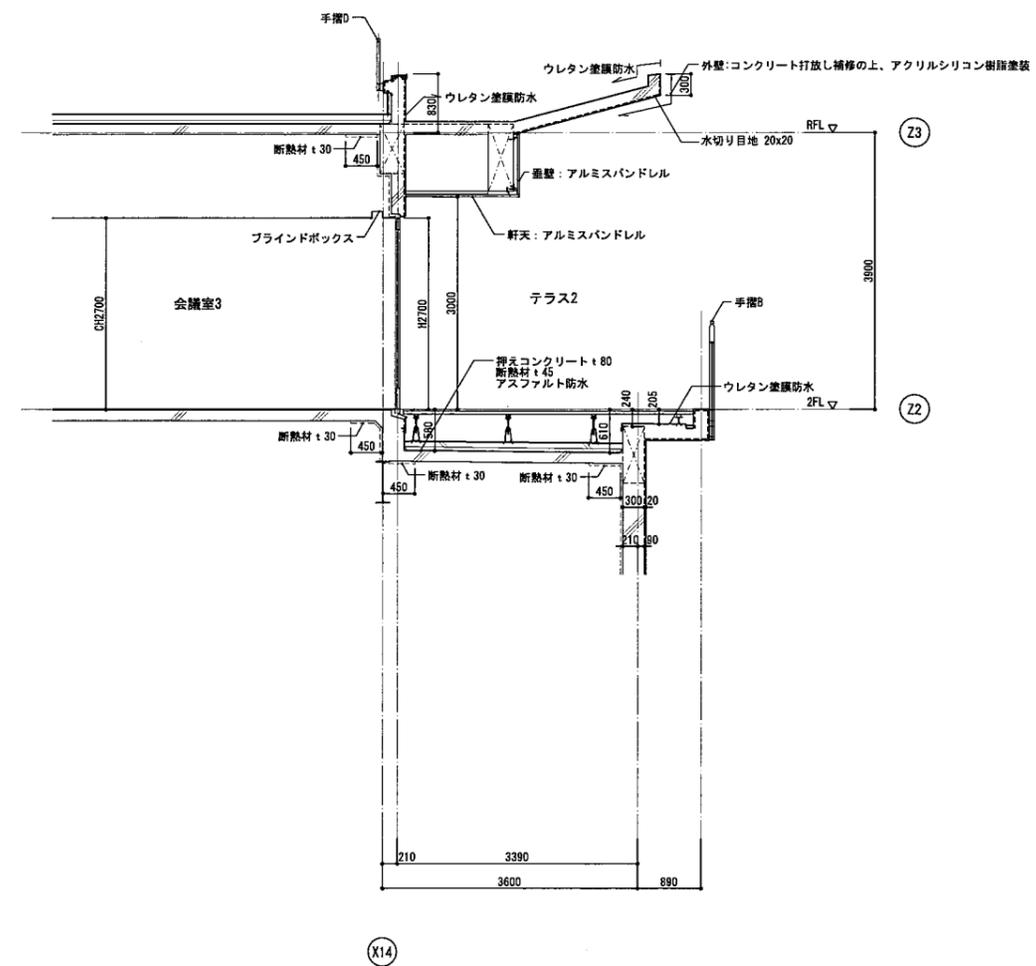


キープラン

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	矩計図(3)	D-303	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	A3: 1/100	2021年 1月

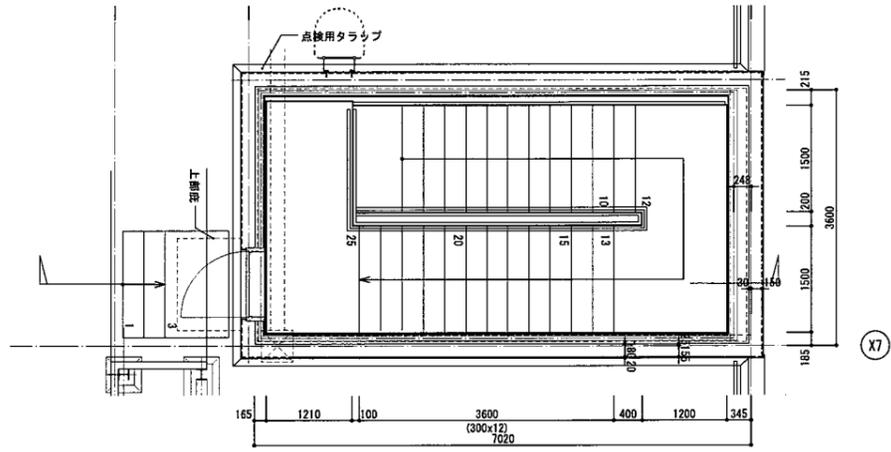
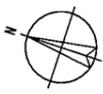


キープラン

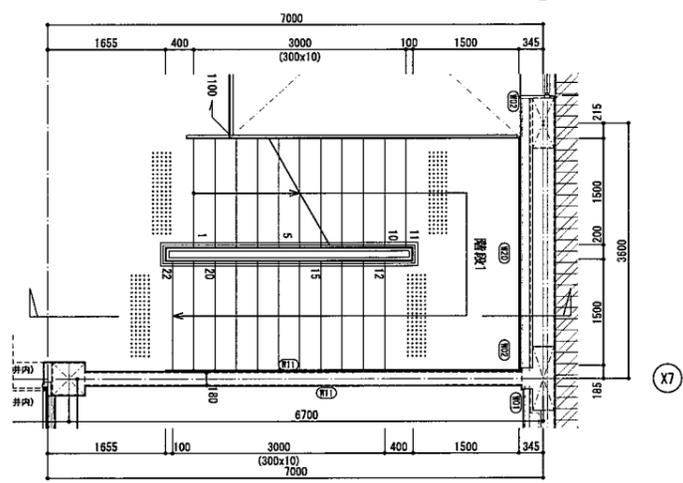


キープラン

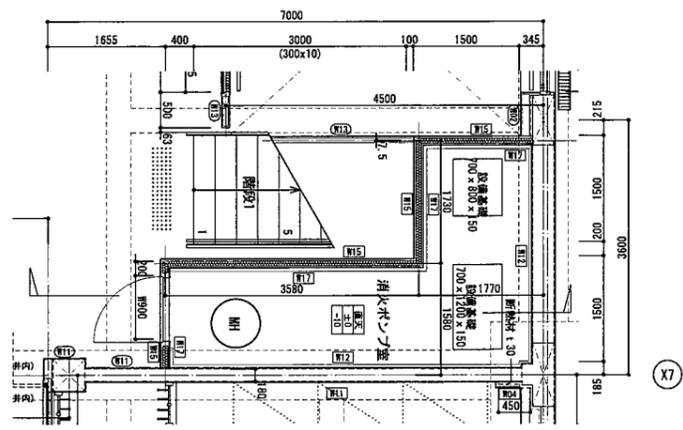
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	矩計図(4)	D-304	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50 A3: 1/100	2021年1月	



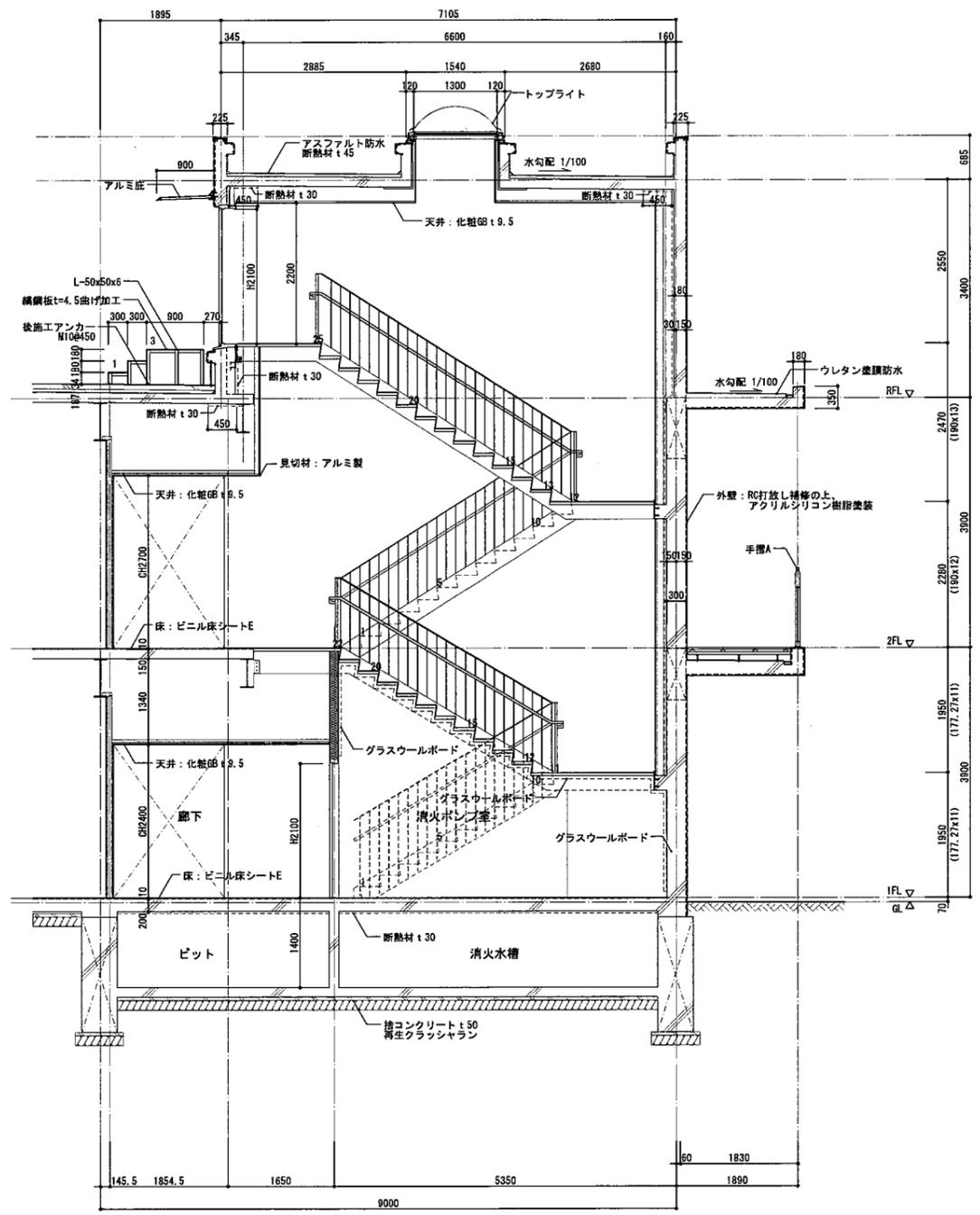
R階平面図



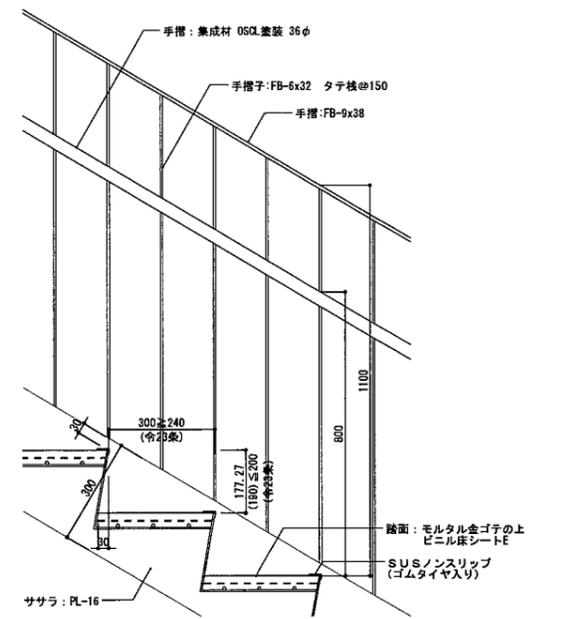
2階平面図



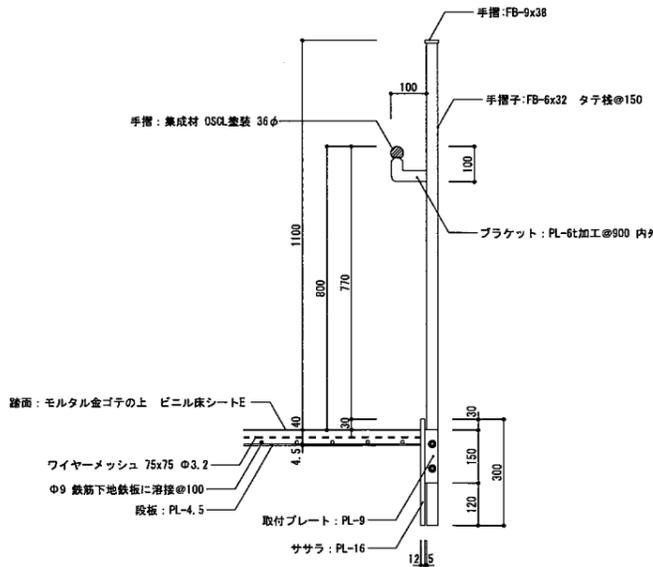
1階平面図



断面図



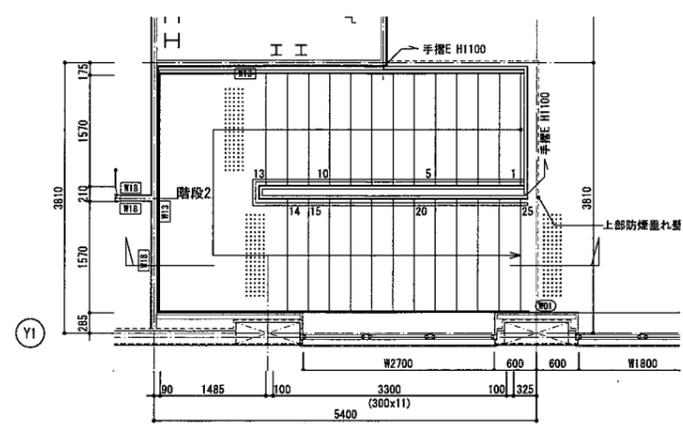
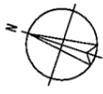
手摺詳細図 S=1/10



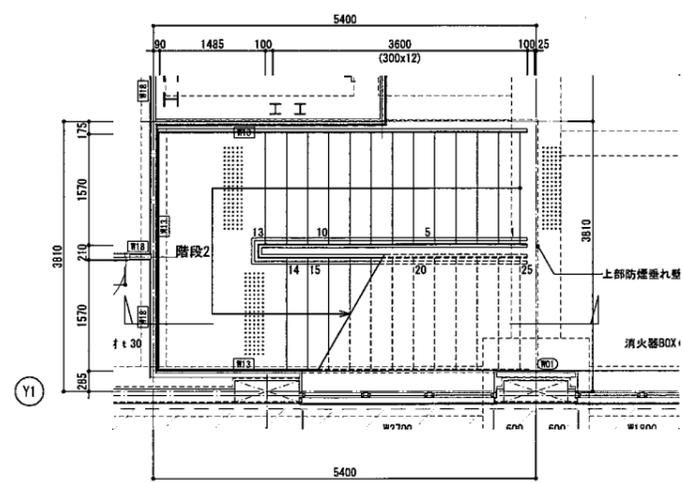
手摺詳細図 S=1/10

※ 鉄部見え掛りは、EP-6

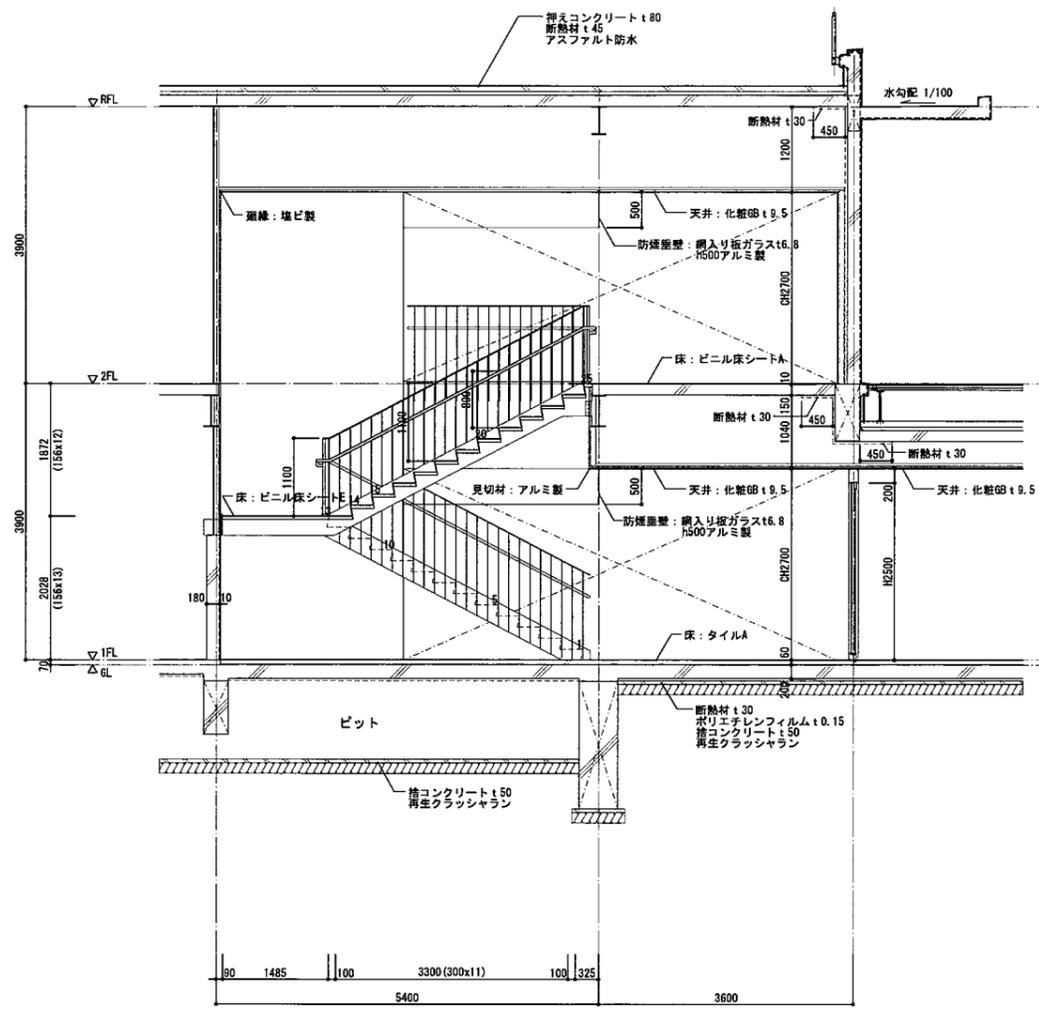
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	階段詳細図(1)	D-305	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	A3: 1/100	2021年1月



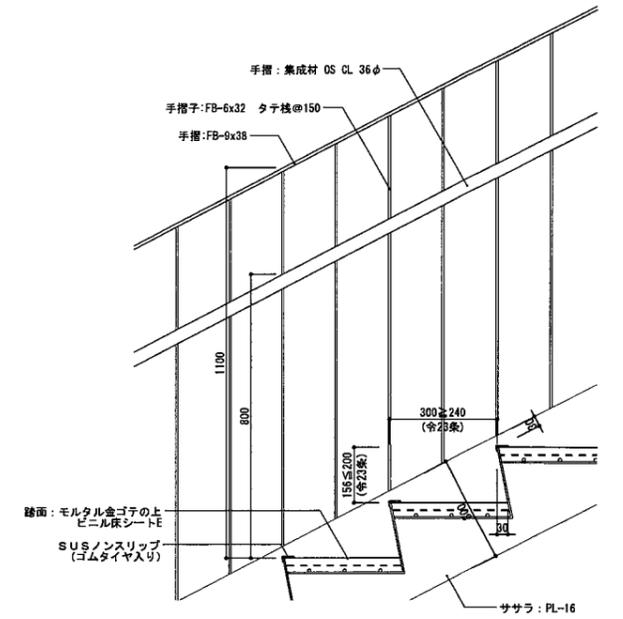
2階平面図



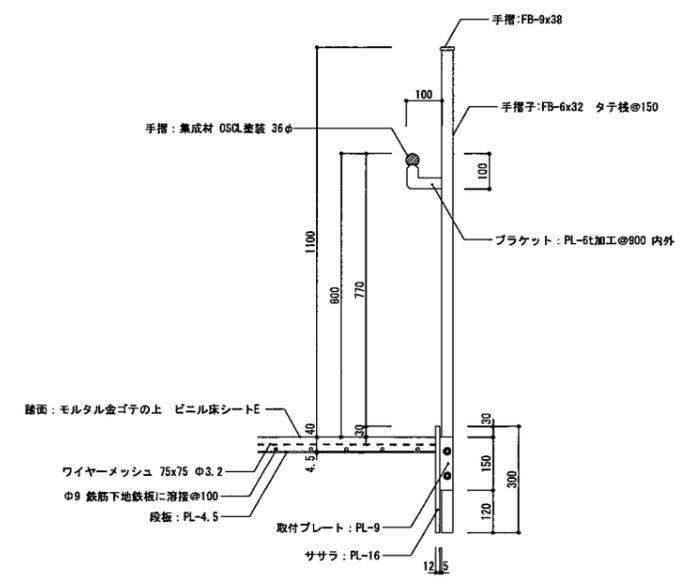
1階平面図



断面図



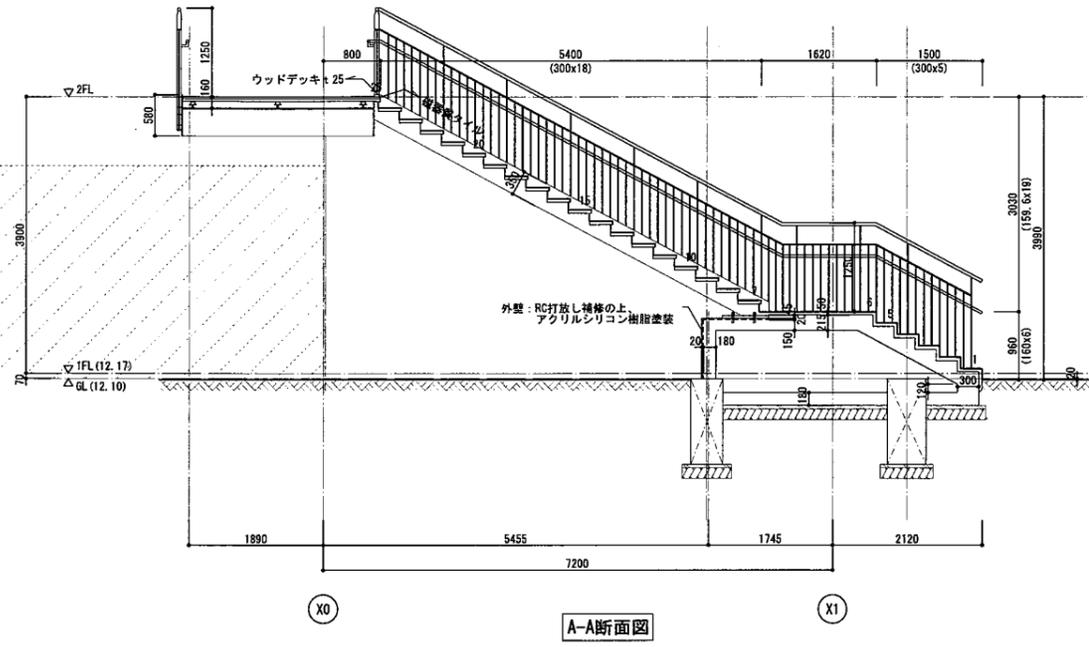
手摺詳細図 S=1/10



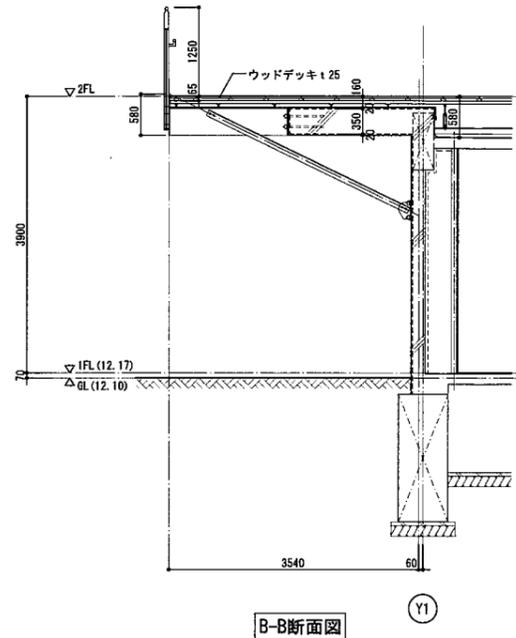
手摺詳細図 S=1/10

※ 鉄部見え掛りは、EP-6

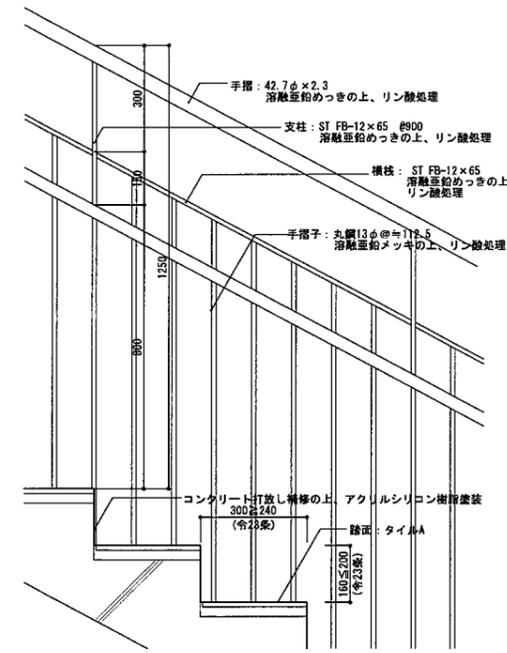
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	階段詳細図(2)	D-306	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	A3: 1/100	2021年1月



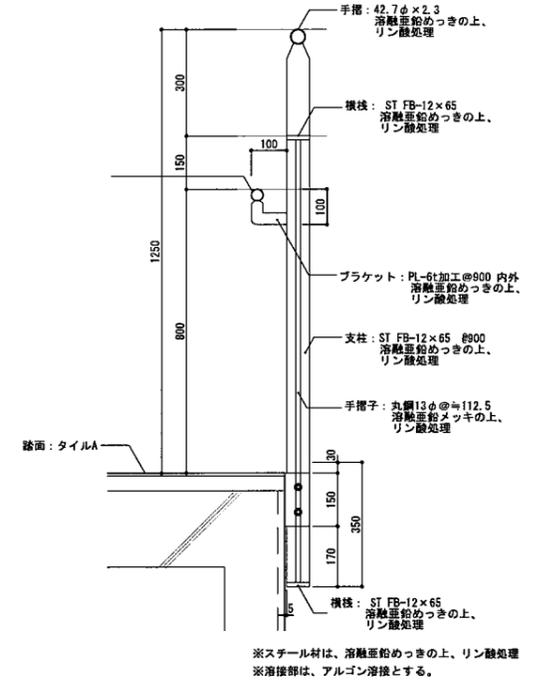
A-A断面図



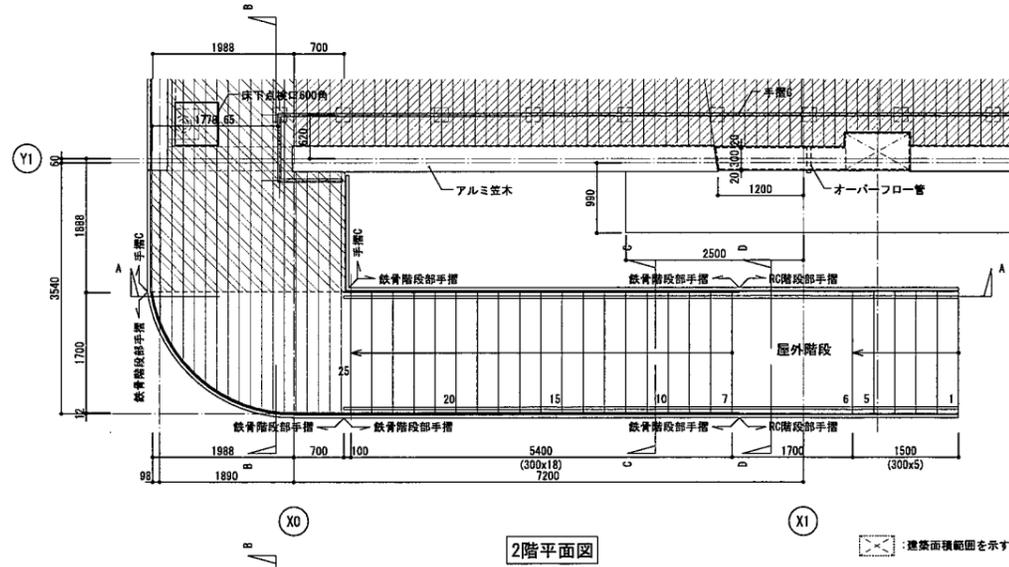
B-B断面図



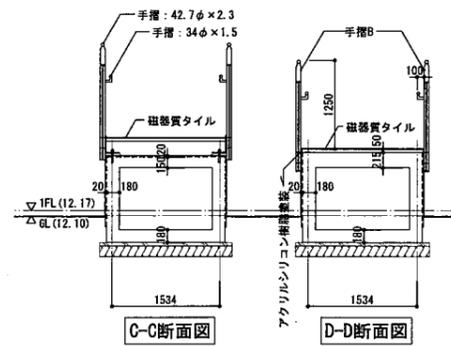
RC階段部 手摺詳細図 S=1/10



RC階段部 手摺詳細図 S=1/10

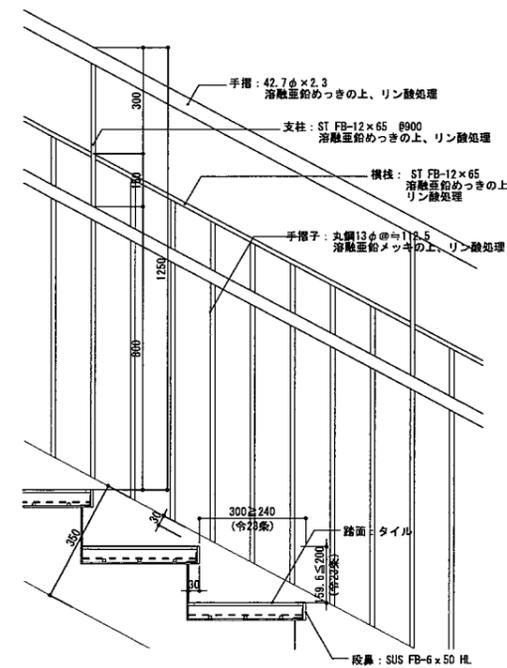


2階平面図

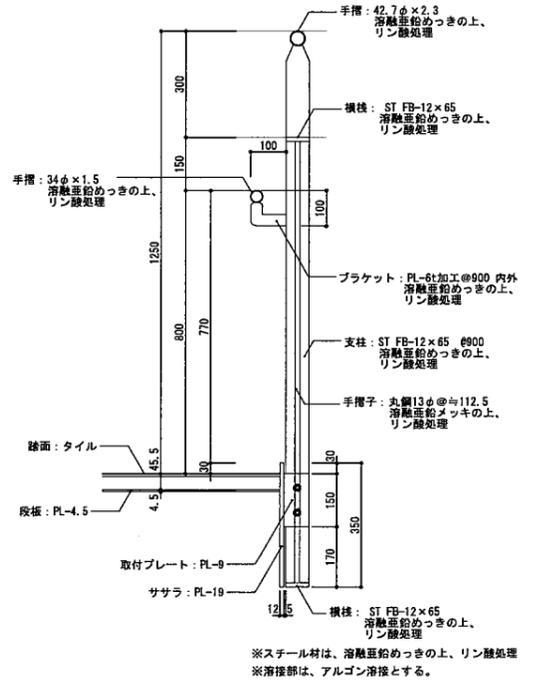


C-C断面図

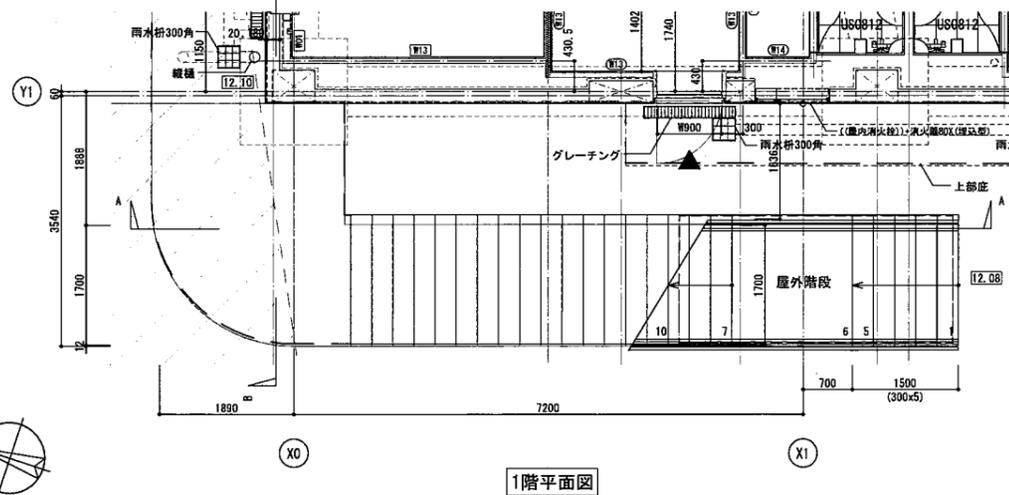
D-D断面図



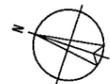
鉄骨階段部 手摺詳細図 S=1/10



鉄骨階段部 手摺詳細図 S=1/10



1階平面図

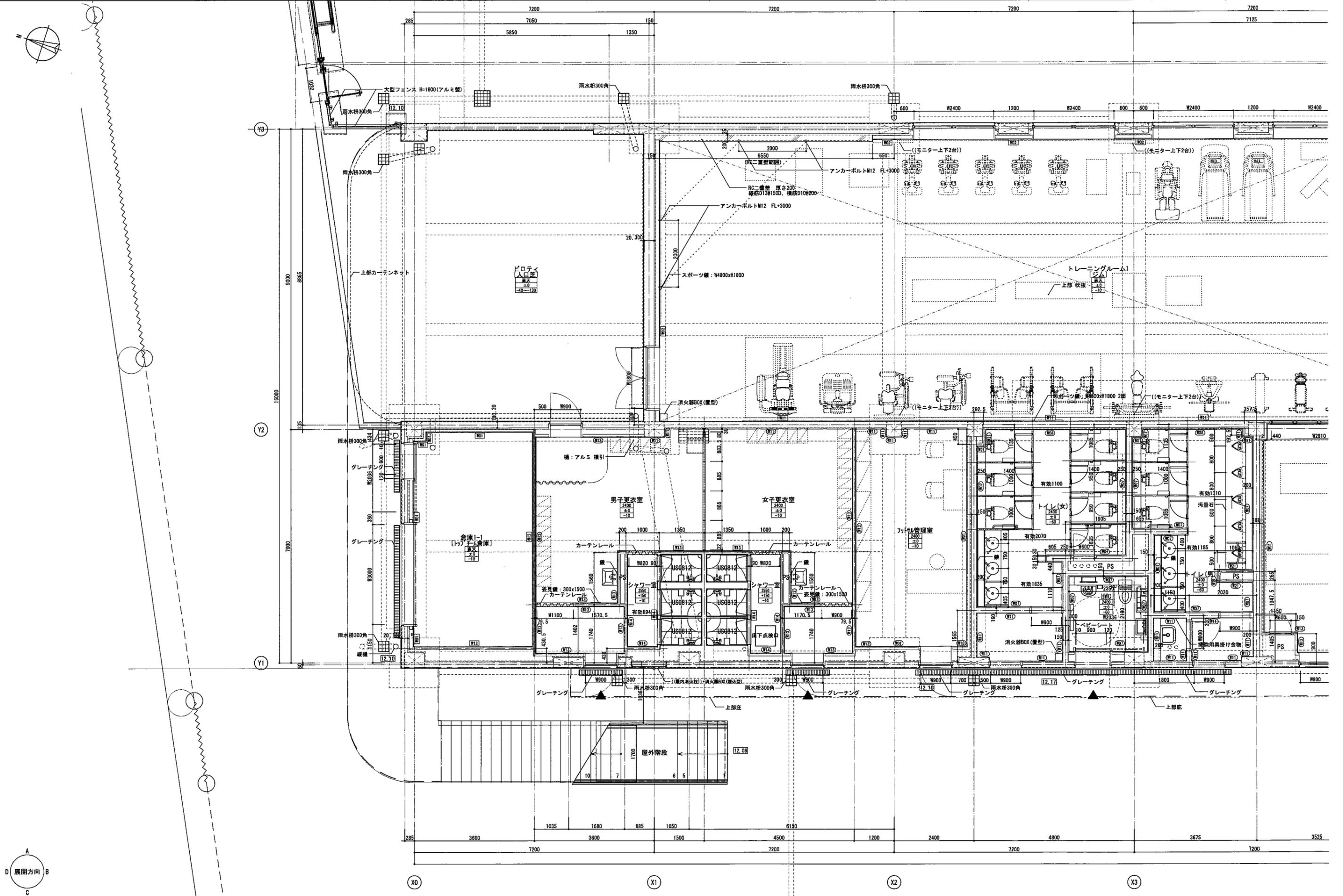


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	階段詳細図(3)	D-307	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	A3: 1/100	2021年1月

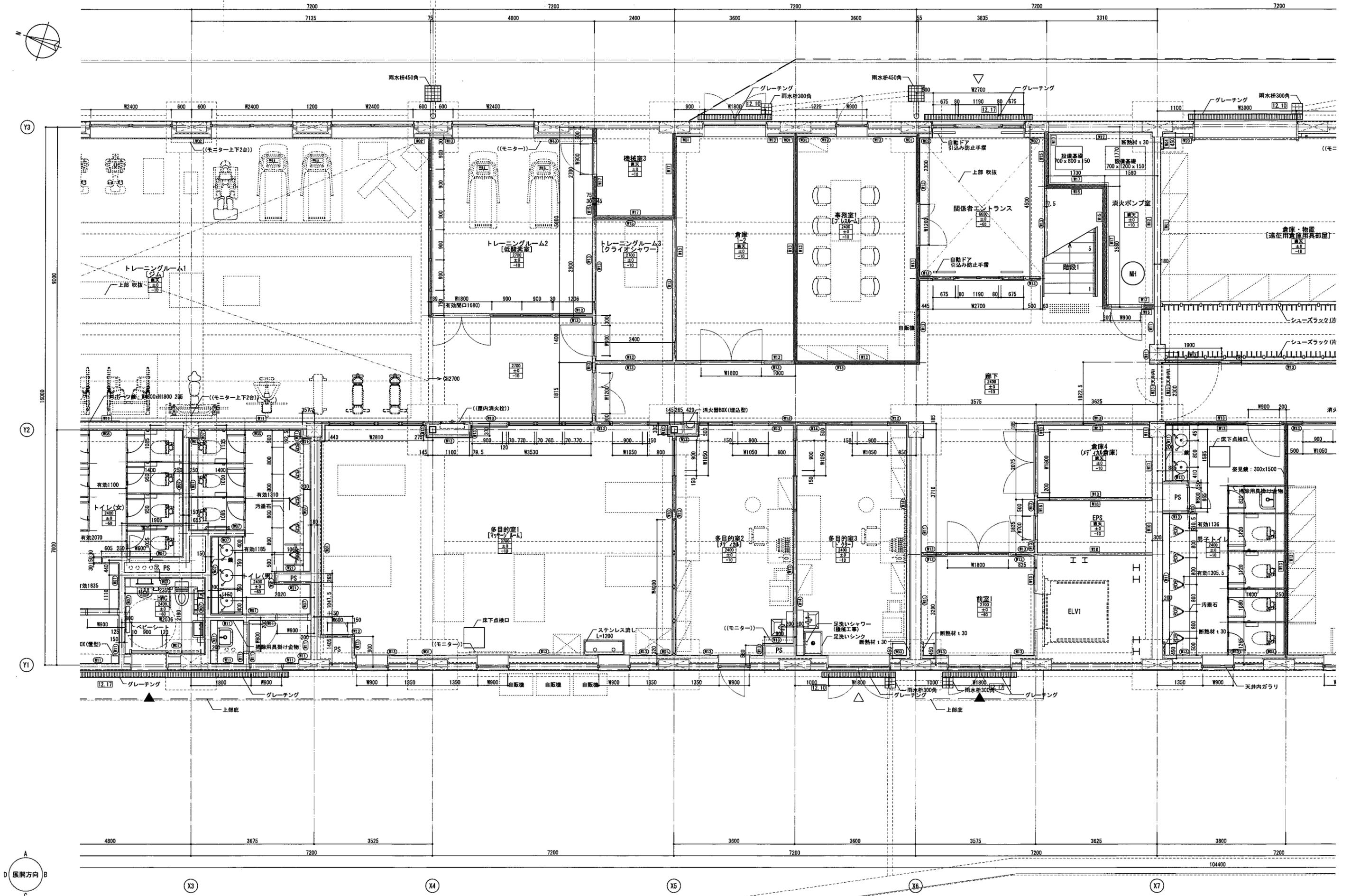
床リスト S=1/5		壁リスト S=1/5				天井リスト S=1/10	
タイル  ( ):浴室2	合成樹脂塗床材 t2.0 防塵塗装	W01 	W07 	W12 	W18 	化粧GB 	
タイルカーペット 		W02 	W08 	W13 	W19 	岩綿吸音板 	直天 
タイルカーペット 		W03 	W09  ※断熱材はスラブ下までとする	W14 	W20 	EP-G 	
ビニル床シート ビニル床シート(防滑) ビニル床シート(屋外用) 		W04 	W09b  ※下地の軽量鉄骨間仕切り壁は一時間耐火とする (GB-R-H+GB-Fを両面貼)	W15  ※下地は、両面にスラブからスラブまでとする	W21 	アルミバスリブ 	
ゴムマット 		W05 	W10 	W16  ※下地は、両面にスラブからスラブまでとする	W22 	スプルス 	
スノコ 		W06 	W11 	W17  ※下地は、両面にスラブからスラブまでとする	W23  ※一時間耐火とする (GB-R t12.5を両面貼)	グラスウールマット 	

柱：不燃  
 鉄筋コンクリート・鉄骨  
 (建設省告示第千四百号)  
 はり：不燃  
 鉄筋コンクリート・鉄骨  
 (建設省告示第千四百号)  
 壁：準不燃  
 鉄筋コンクリート  
 (建設省告示第千四百一号)  
 外壁：防火構造(延焼の恐れのある部分)  
 鉄筋コンクリート  
 (建設省告示第千三百五十九号)  
 床：準不燃  
 鉄筋コンクリート  
 (建設省告示第千四百一号)  
 階段：準不燃  
 鉄骨  
 (建設省告示第千四百一号)  
 屋根：不燃  
 鉄筋コンクリート アスファルト防水  
 (建設省告示第千三百六十五号)  
 鉄筋コンクリート ウレタン塗膜防水  
 (建設省告示第千三百六十五号)

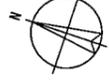
■凡例について  
 1. 左表に記載された壁リストについては、平面詳細図に壁凡例として記載している。  
 (W\*\*) : 天井まで (W\*\*) : スラブまで (LS・ボード)  
 壁の反対側の壁符号がスラブまでの場合は、LSはスラブまでとする。  
 2. 断熱材・遮音等の範囲は平面詳細図による。  
 断熱材：----- 遮音：-----  
 ※W15・W16・W17以外のグラスウールを入れる壁については、遮音性能TLD42を確保する。  
 グラスウールは、t50密度24kg/m<sup>3</sup>とする。  
 3. 内装制限による素材の種別は仕上表を確認すること。  
 4. 平面詳細図に記載の凡例について  
 室名  
 天井高  
 仕上レベル  
 スラブレベル  
 5. せっこうボードについて  
 GB-R：せっこうボード  
 GB-F：強化せっこうボード  
 GB-R-H：硬質せっこうボード  
 GB-D：化粧せっこうボード



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	1F平面詳細(1)	D-309	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	2021年 1月	
				A3: 1/100		



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	1F平面詳細(2)	D-310	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	2021年1月	
				A3: 1/100		



Y3

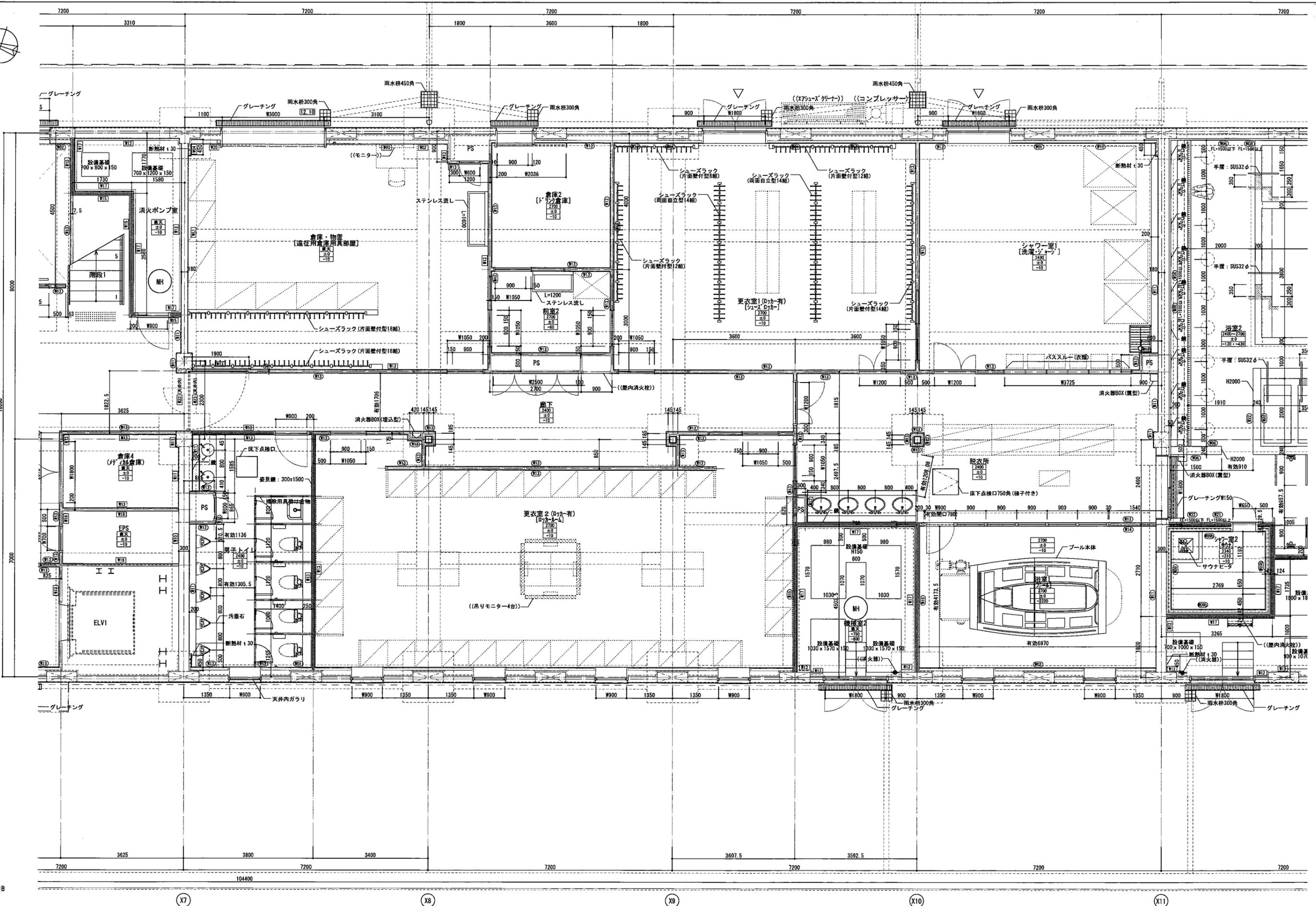
Y2

Y1

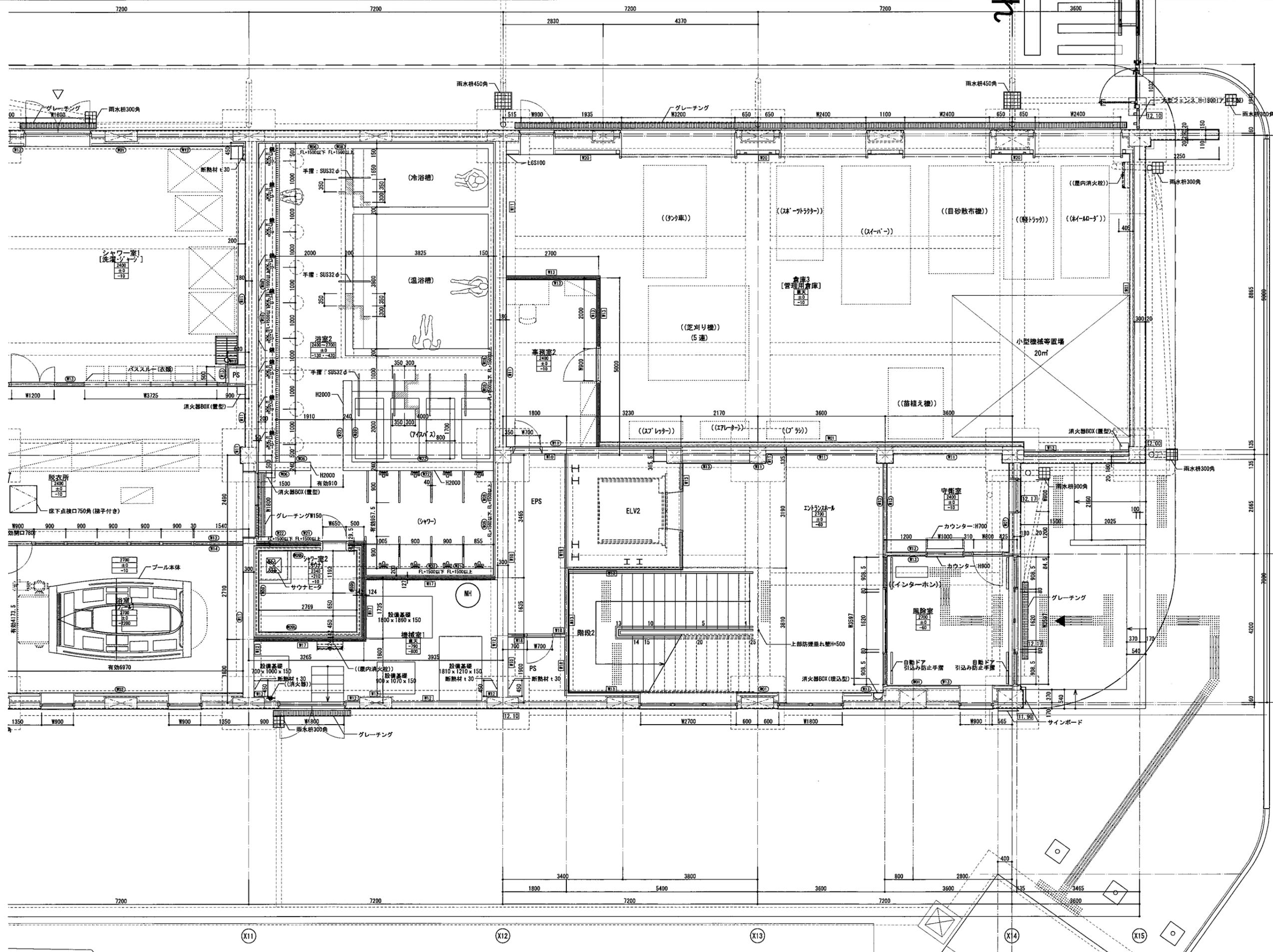
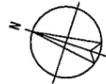
A

D 展開方向

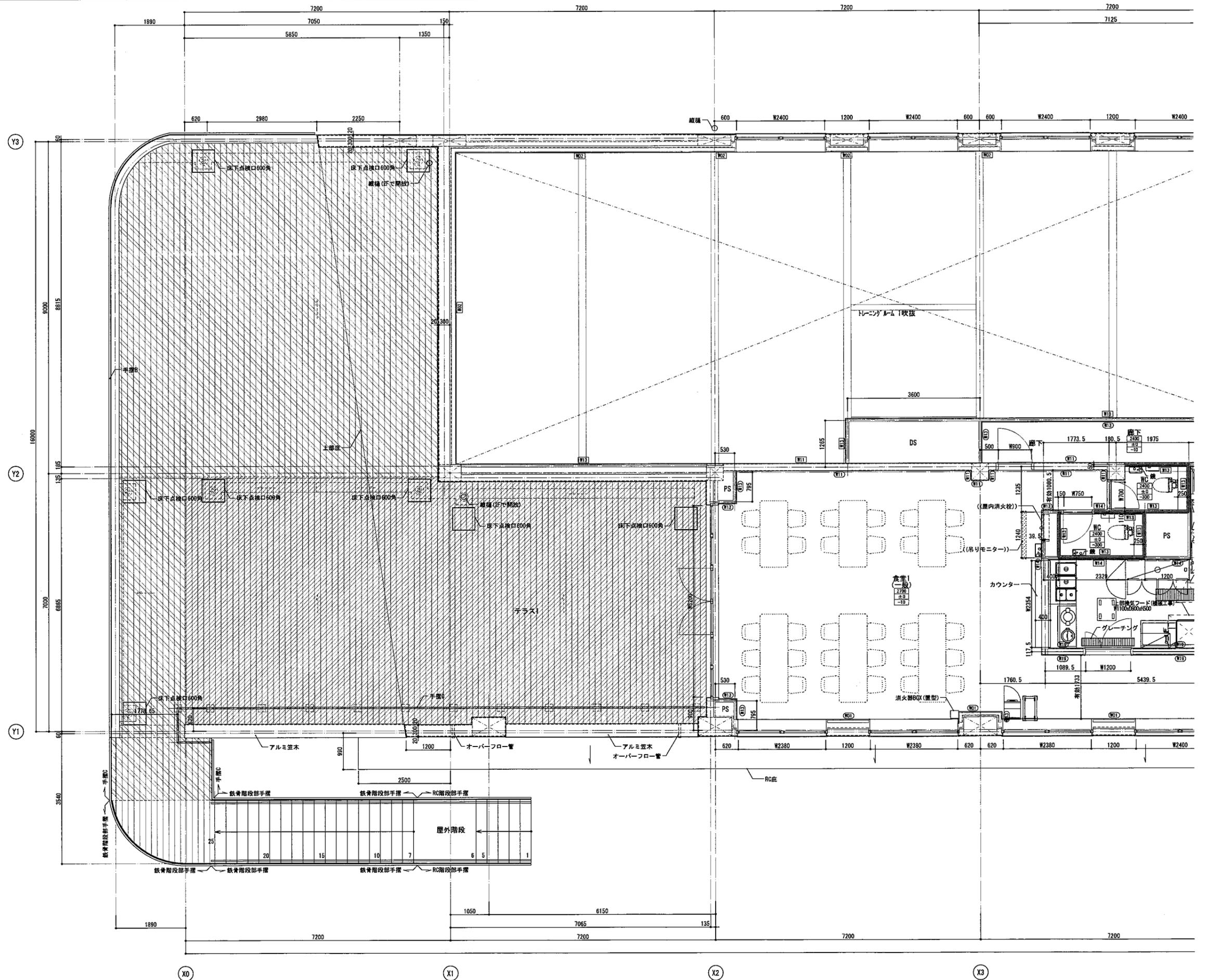
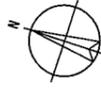
C



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	1F平面詳細(3)	D-311	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	2021年1月	
				A3: 1/100		



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久米浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	1F平面詳細(4)	D-312	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	2021年1月	
				A3: 1/100		



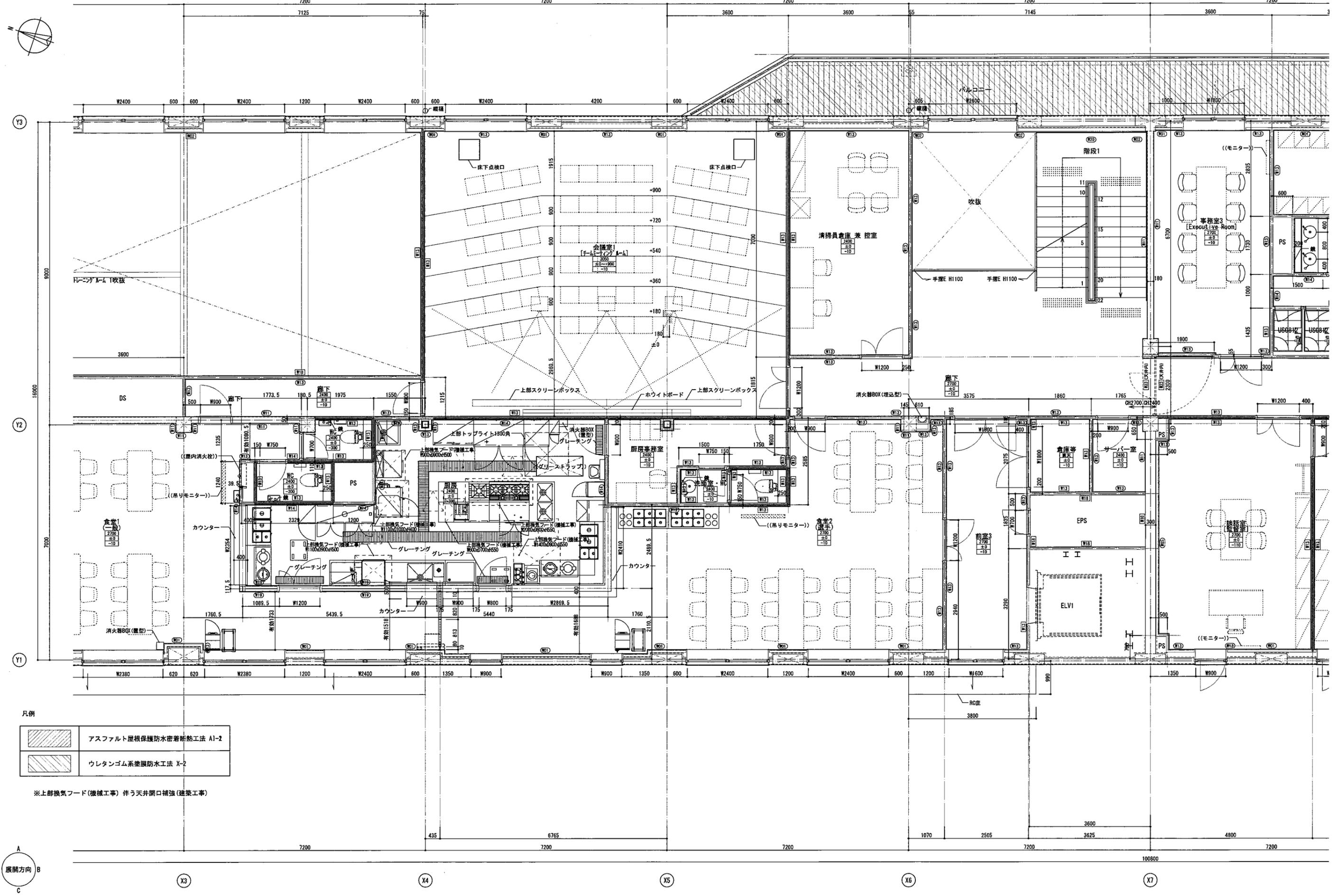
凡例

	アスファルト屋根保護防水密着断熱工法 A1-2
	ウレタンゴム系塗膜防水工法 X-2



公共建築課長 主査等 担当者 工事名  
久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名 2F平面詳細(1) 図面番号 D-313 区分 建築  
縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100 年月日 2021年1月



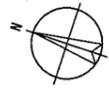
凡例

	アスファルト屋根保護防水密着断熱工法 A1-2
	ウレタンゴム系塗膜防水工法 X-2

※上部換気フード(機械工事) 伴う天井開口補強(建築工事)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	2F平面詳細(2)	D-314	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50 A3: 1/100	2021年1月	



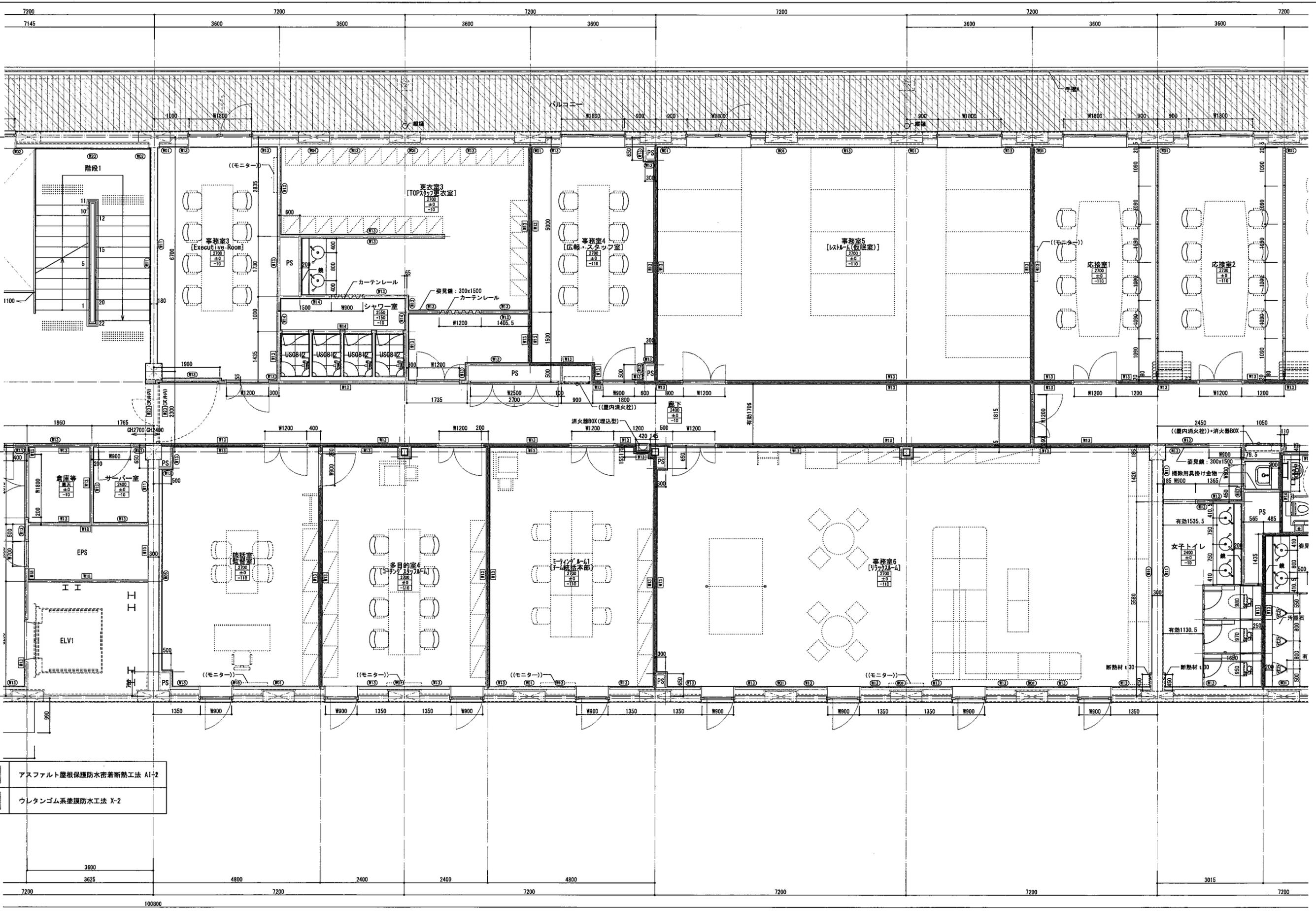
Y3

Y2

Y1

凡例

A  
D 展開方向  
B  
C



	アスファルト屋根保護防水密着断熱工法 A1-2
	ウレタンゴム系塗膜防水工法 X-2

X7

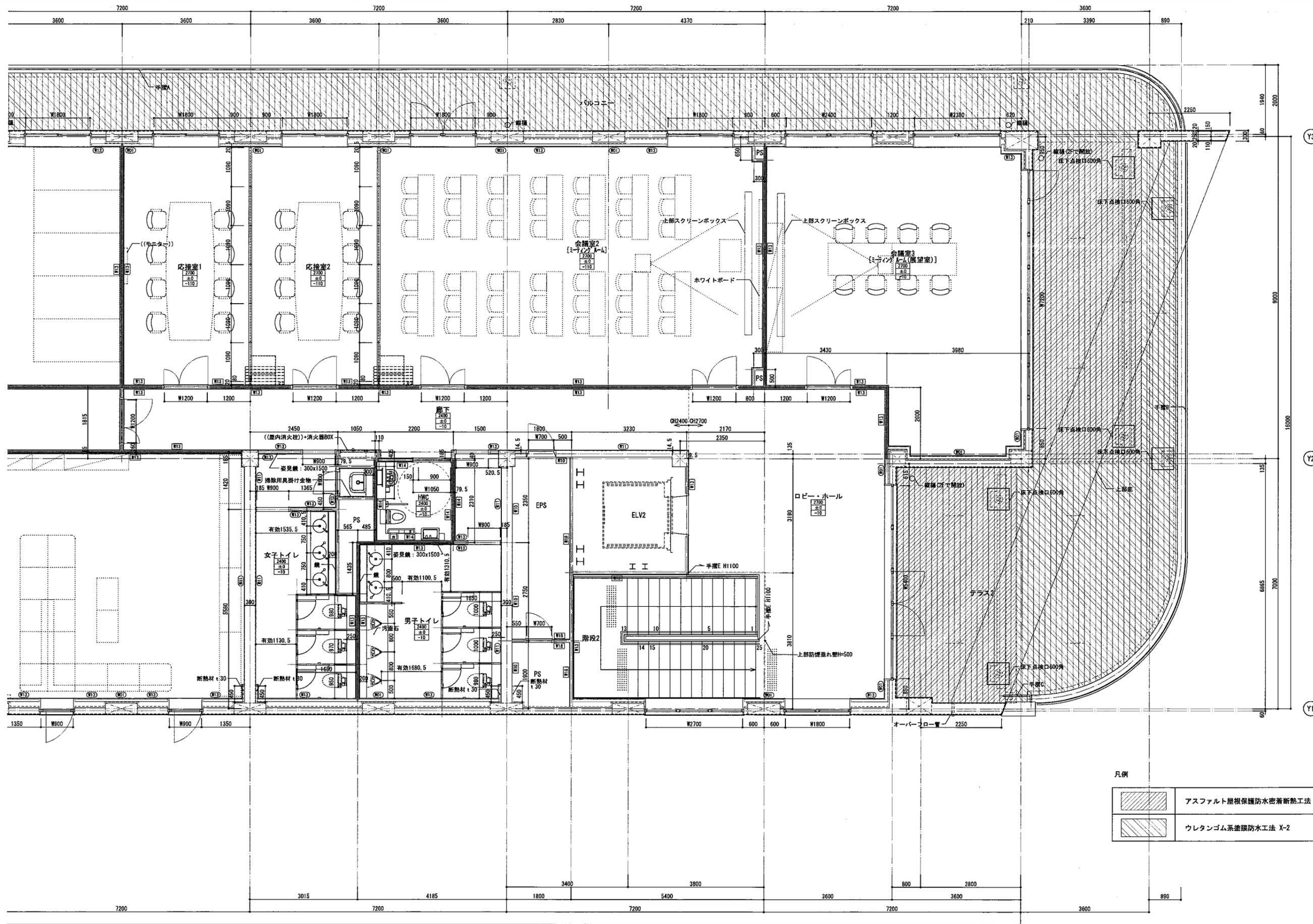
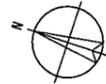
X8

X9

X10

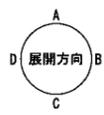
X11

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	2F平面詳細(3)	D-315	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50 A3: 1/100	2021年1月	



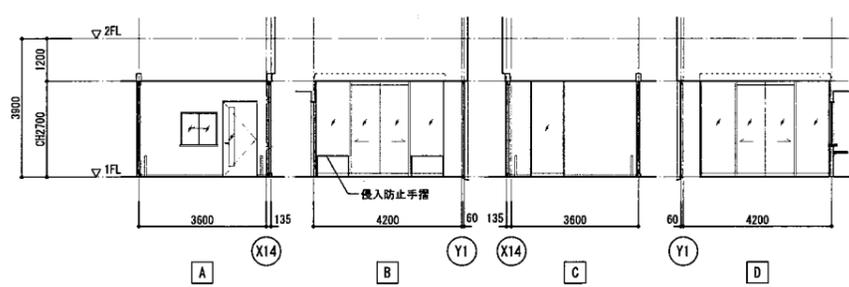
凡例

	アスファルト屋根保護防水密着断熱工法 AI-2
	ウレタンゴム系塗膜防水工法 X-2

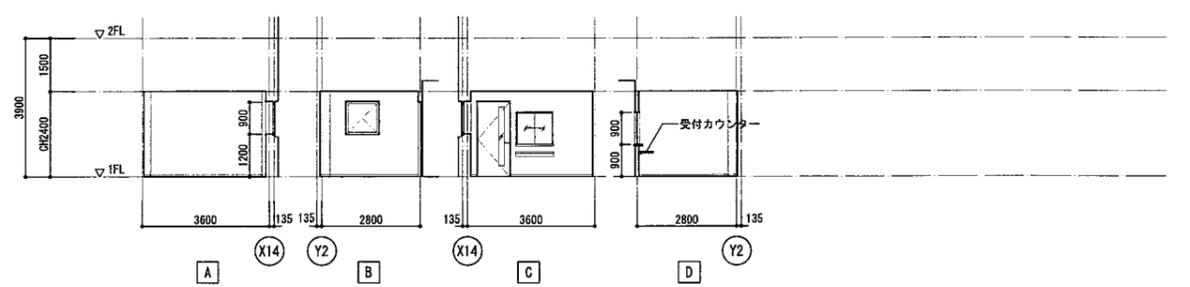


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	2F平面詳細(4)	D-316	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/50	2021年1月	
				A3: 1/100		

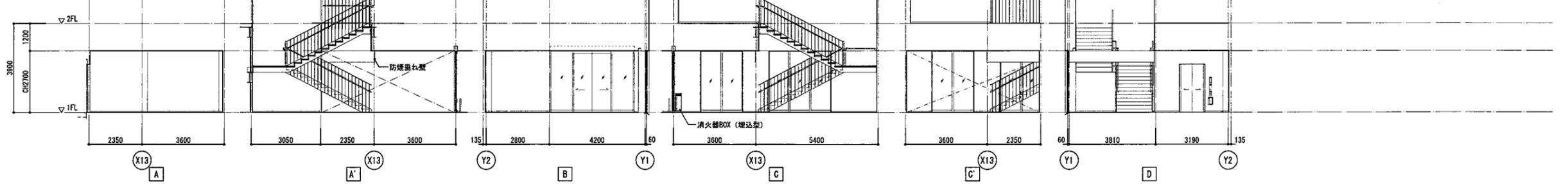
室名	風除室
天井	化粧G6
壁	EP
巾木	SUS H=60
床	タイルA
備考	侵入防止手摺



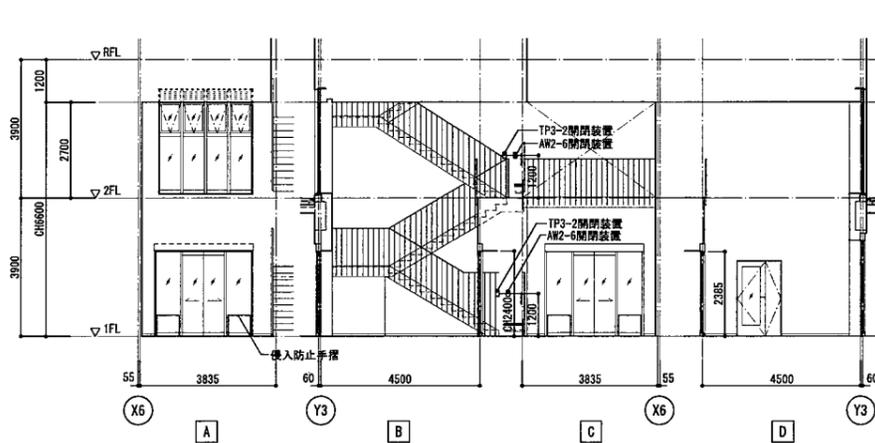
室名	守衛室
天井	化粧G6
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	受付カウンター



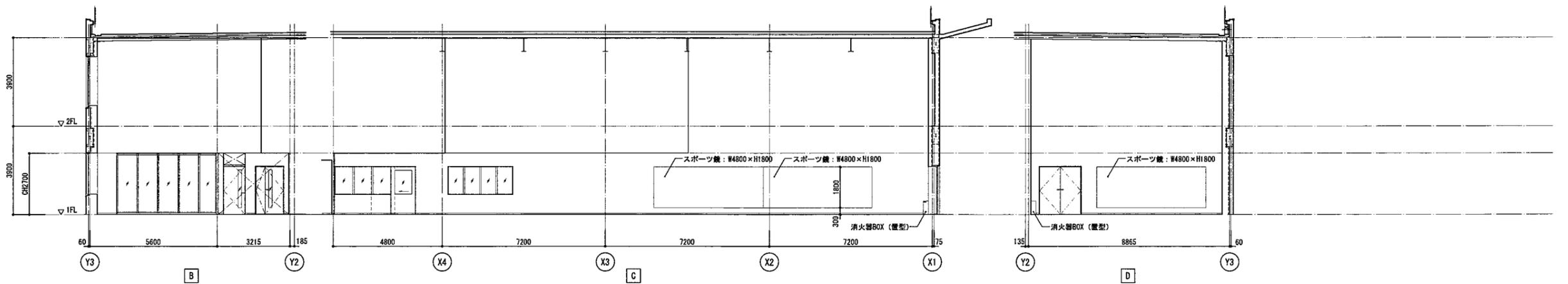
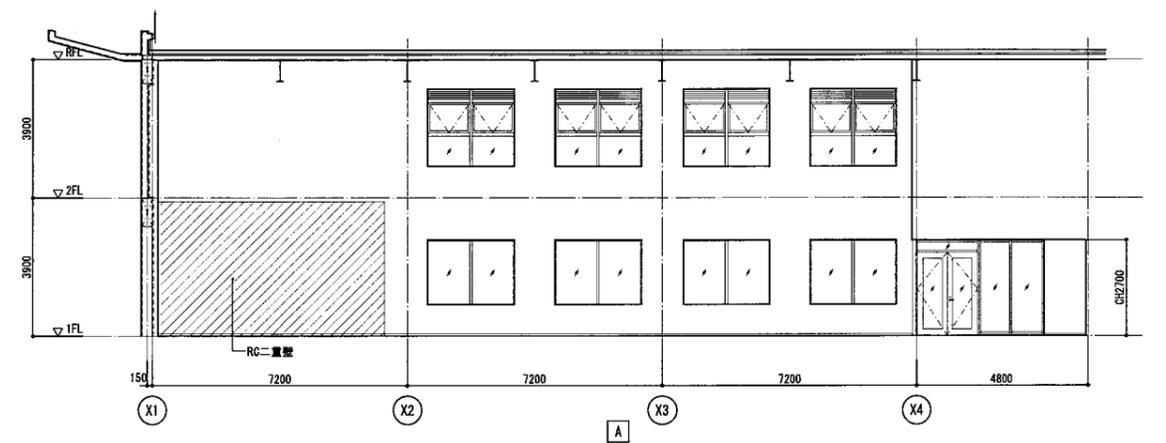
室名	エントランスホール
天井	化粧G6
壁	EP
巾木	SUS H=60
床	タイルA
備考	インターホン ピクチャーレール (カードリーダー)



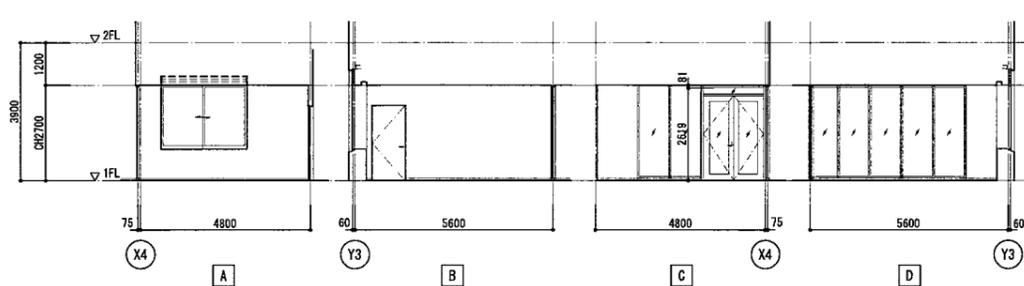
室名	関係者エントランス
天井	化粧G6
壁	EP
巾木	SUS H=60
床	タイルA
備考	インターホン (カードリーダー) 侵入防止手摺



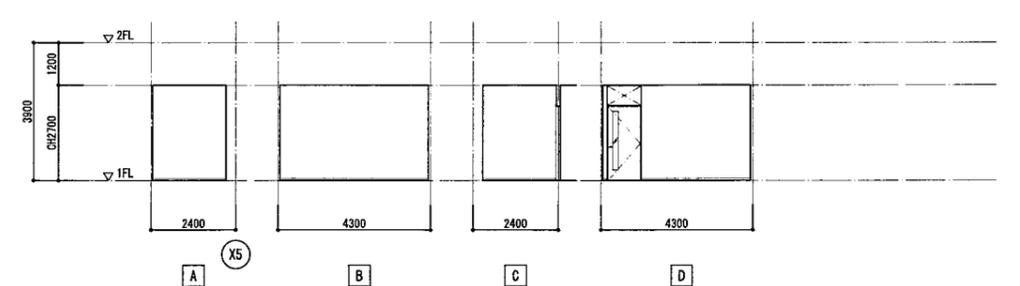
室名	トレーニングルーム1 (ジム)
天井	X4-X5: 岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ゴムマット
備考	スポーツ鏡#4800xH1800 うらんでい固定用アンカー ((うらんでい本体、トレーニング機器一式、モニター))



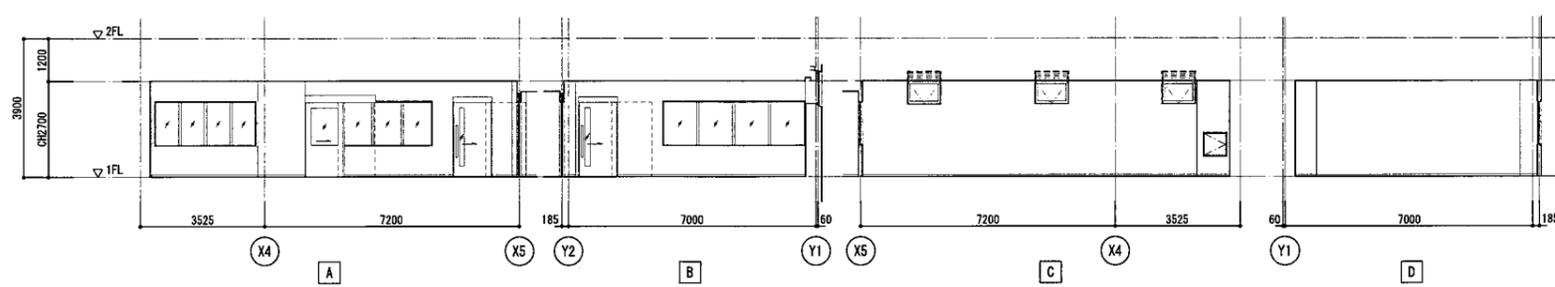
室名	トレーニングルーム2 (化粧室)
天井	岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ゴムマット
備考	((化粧室設備、トレーニング機器一式、モニター))



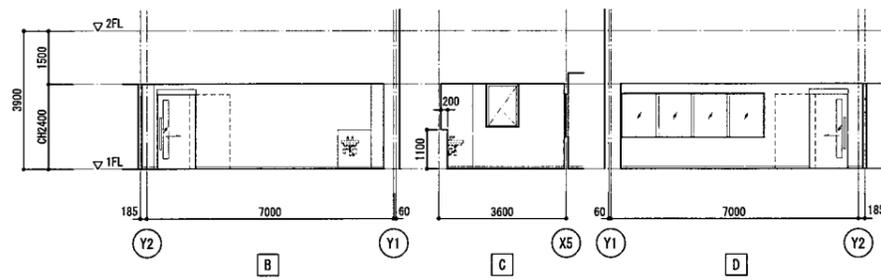
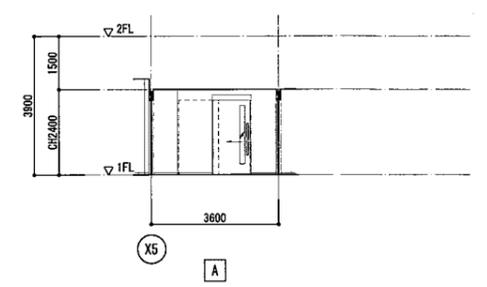
室名	トレーニングルーム3 (クライオシャワー)
天井	岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ゴムマット
備考	((クライオシャワー機器本体))



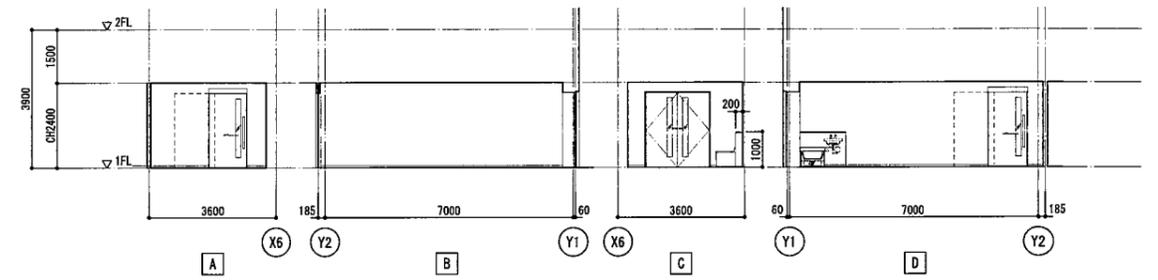
室名	多目的室1 [マッサージルーム]
天井	岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	ステンレス流し (冷蔵庫庫、製氷機、施術ベッド、モニター)



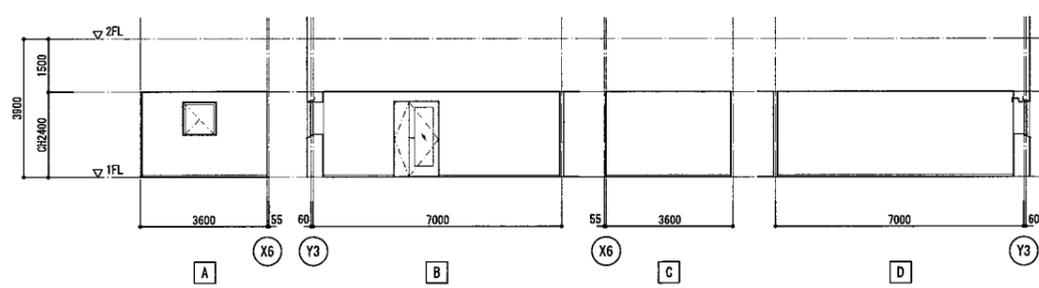
室名	多目的室2 [メディカル]
天井	岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	((手洗い、診察ベッド、モニター))



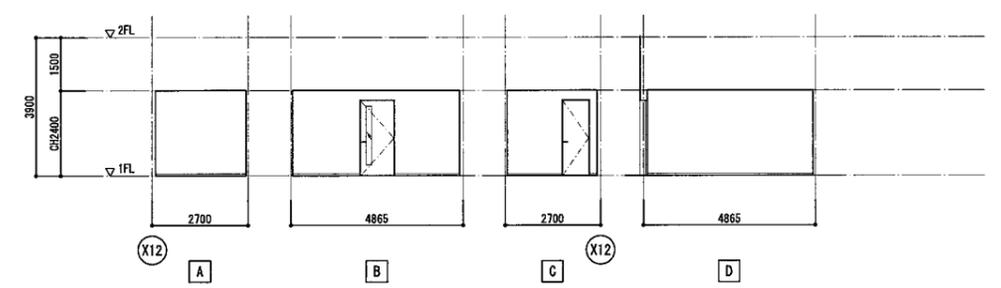
室名	多目的室3 [ドクター]
天井	岩綿吸音板
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	足洗、((手洗い、診察ベッド))



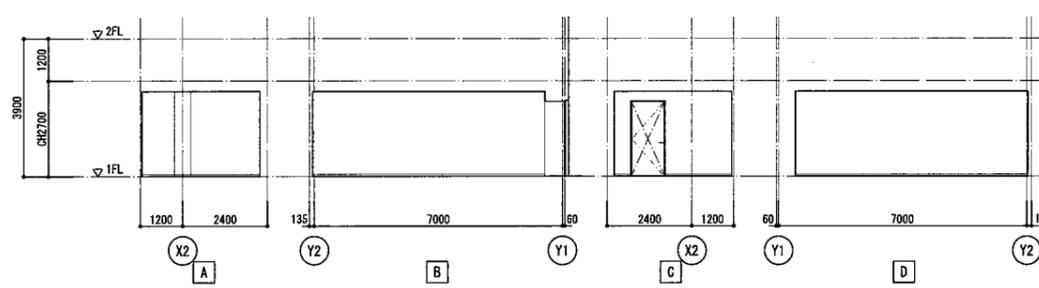
室名	事務室1 (プレスルーム)
天井	岩綿吸音板
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	



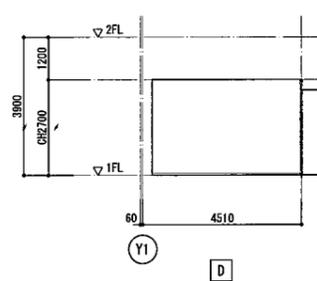
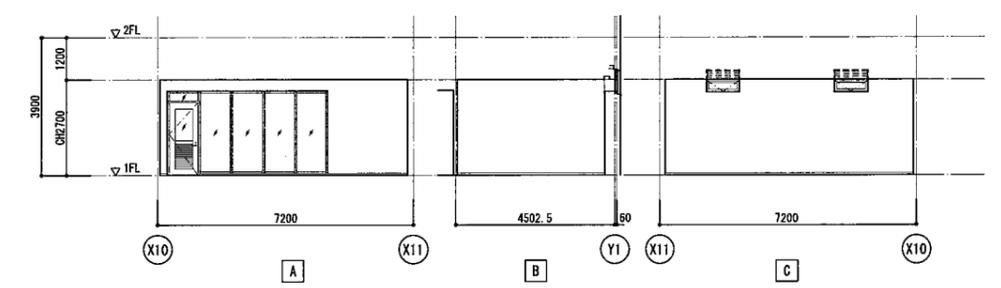
室名	事務室2
天井	化粧GB
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	



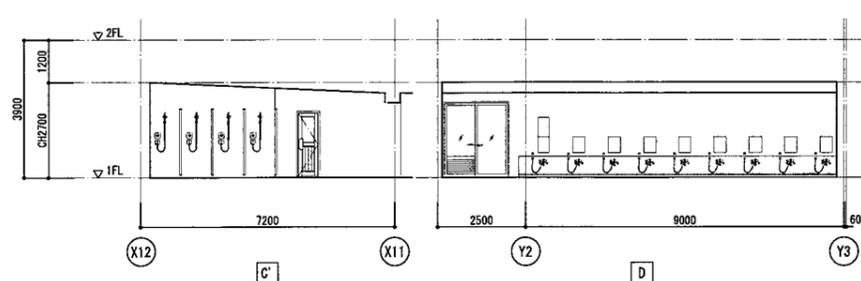
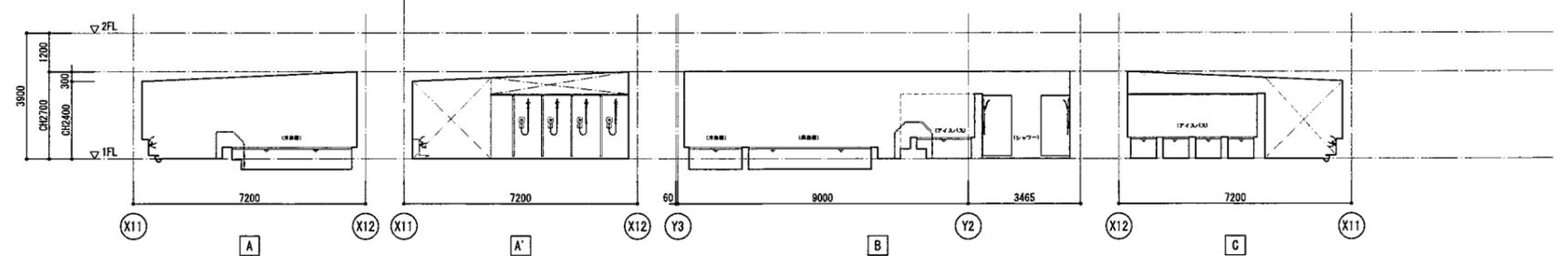
室名	フットサル管理室
天井	岩綿吸音板
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	



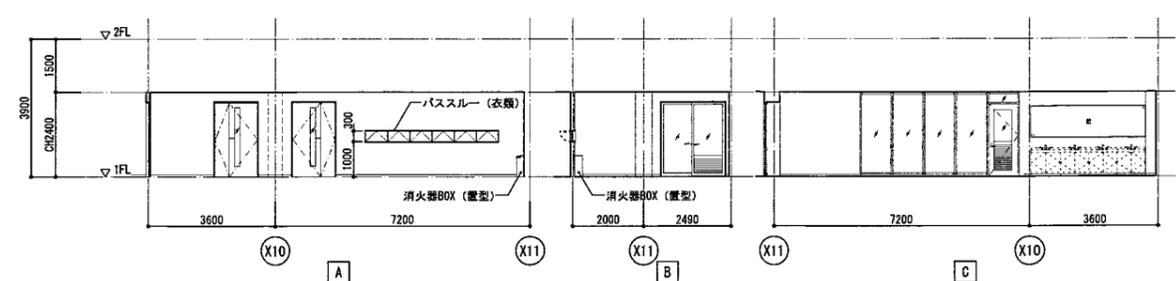
室名	浴室1 (プール)
天井	バスリブ
壁	結露防止塗料
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防漏) D
備考	プール本体

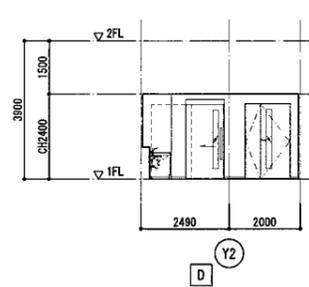


室名	浴室2
天井	バスリブ
壁	タイルB
巾木	ビニル巾木 H=60
床	タイルB
備考	カラン(設備工事)、シャワーブース、温水槽、冷水槽、スライドパーシャワーフック

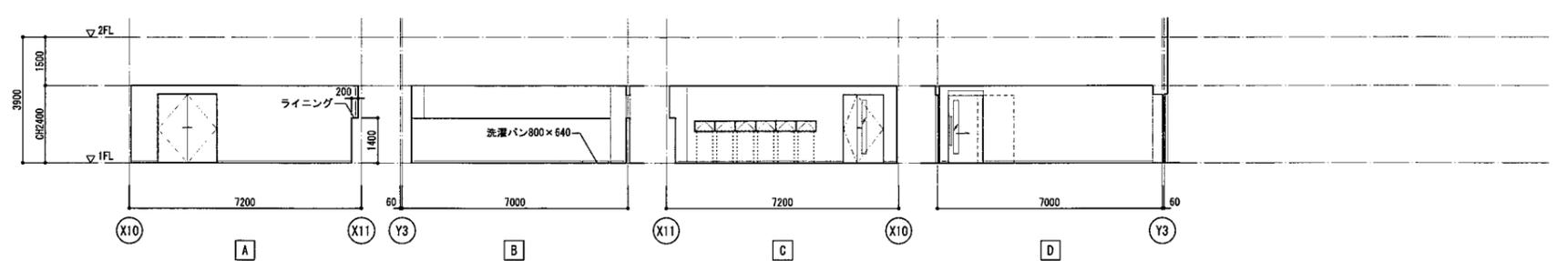


室名	脱衣所
天井	化粧GB
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防漏) D
備考	洗面台、鏡、((脱衣棚))、((下駄箱))

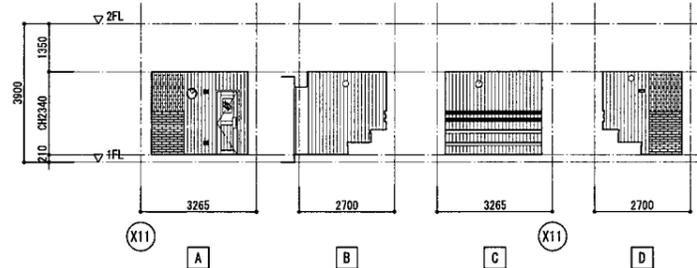




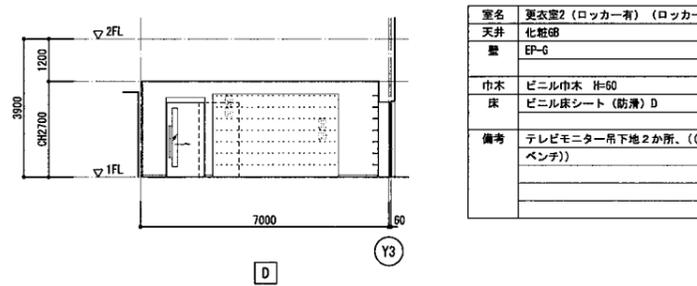
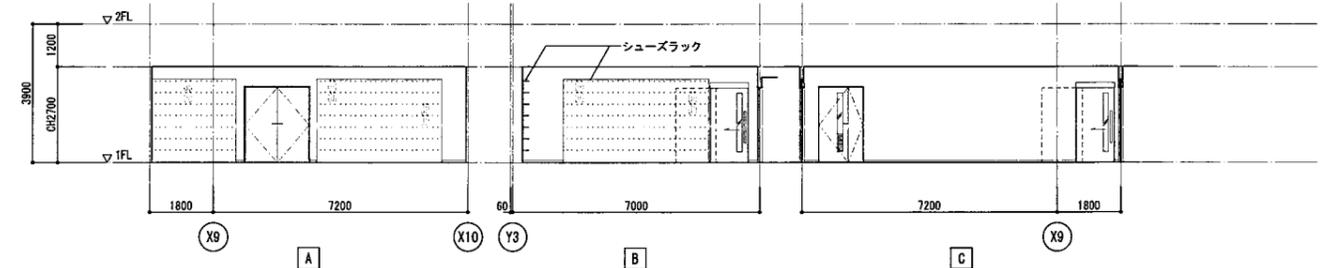
室名	シャワー室1 (洗濯・ジャージ)
天井	ケイカル板-E P-G
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	家庭用洗濯パン (800×640) ×1ヶ所 バススルー



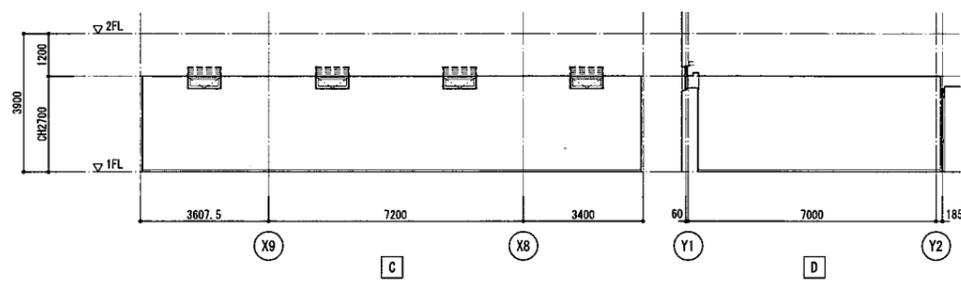
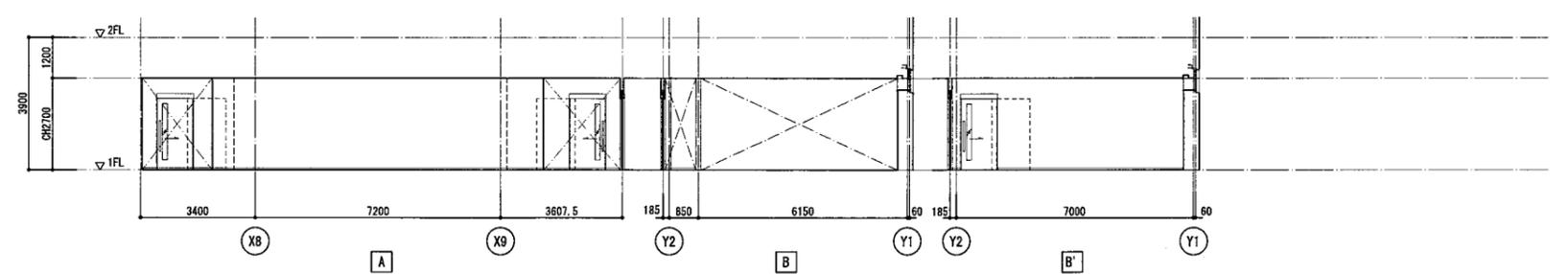
室名	シャワー室2 (サウナ)
天井	岩綿吸音板
壁	スプルス (一部タイル張り)
巾木	-
床	スノコ: スプルス t=15
備考	サウナー式 (ヒーター、防護柵、ベンチ、 ステップ、換気口付)



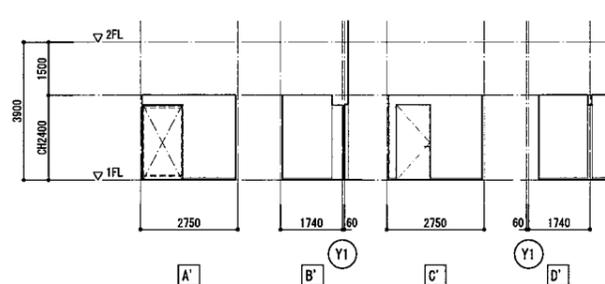
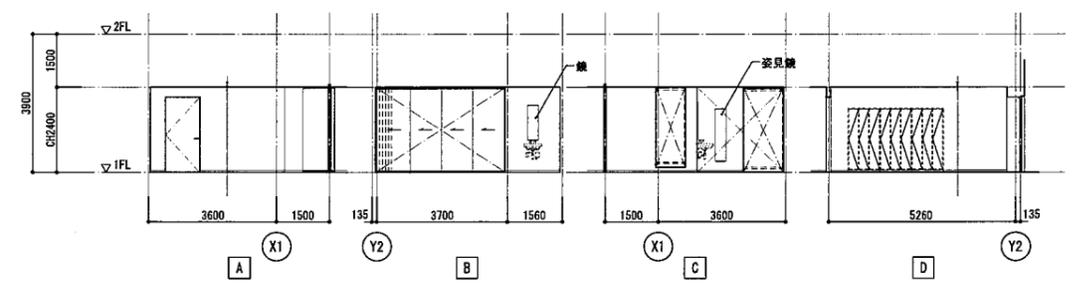
室名	更衣室1 (ロッカー有) (シューズロッカー)
天井	化粧G
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	シューズラック 28組 (両面自立型) 46組 (片面壁付型) (ベンチ)



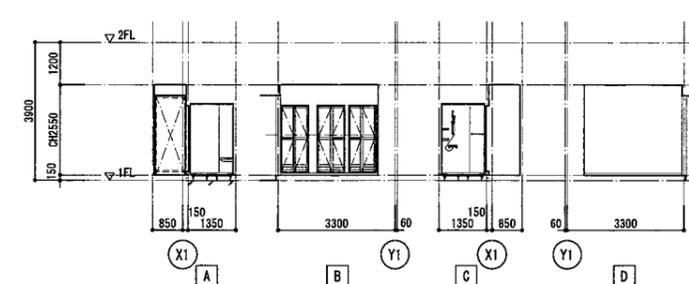
室名	更衣室2 (ロッカー有) (ロッカールーム)
天井	化粧G
壁	EP-G
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	テレビモニター用下地2ヶ所、((ロッカー、 ベンチ))



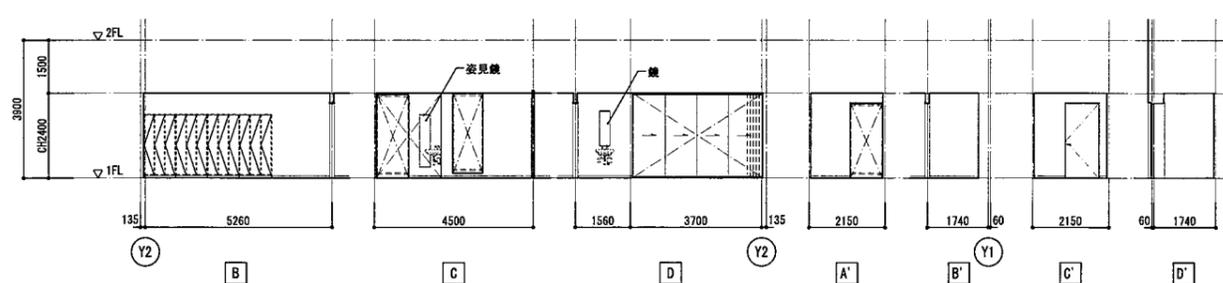
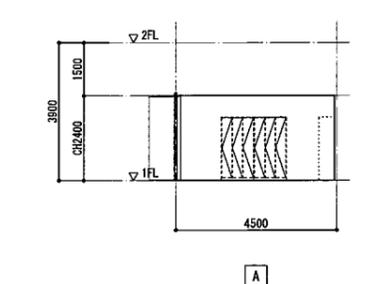
室名	男子更衣室
天井	岩綿吸音板
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	姿見鏡300×H1500 ×1ヶ所、((ロッカー))、 吊カーテンレール (FL+2300)



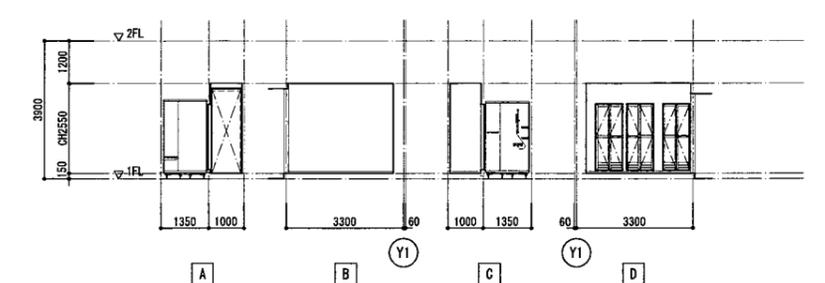
室名	シャワー室 (男子)
天井	ケイカル板-E P-G
壁	EP-G
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	シャワーユニット タオル掛け2ヶ所 吊カーテンレール (FL+2300)



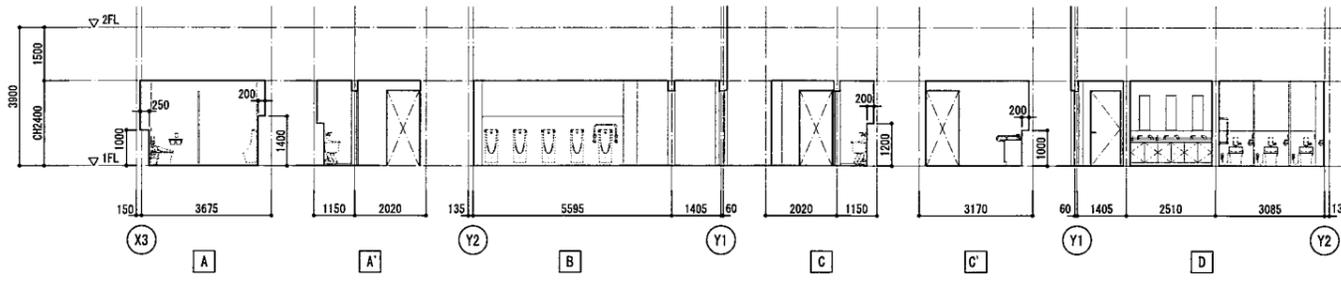
室名	女子更衣室
天井	岩綿吸音板
壁	EP
巾木	ビニル巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	姿見鏡300×H1500 ×1ヶ所 (ロッカー) 吊カーテンレール (FL+2300)



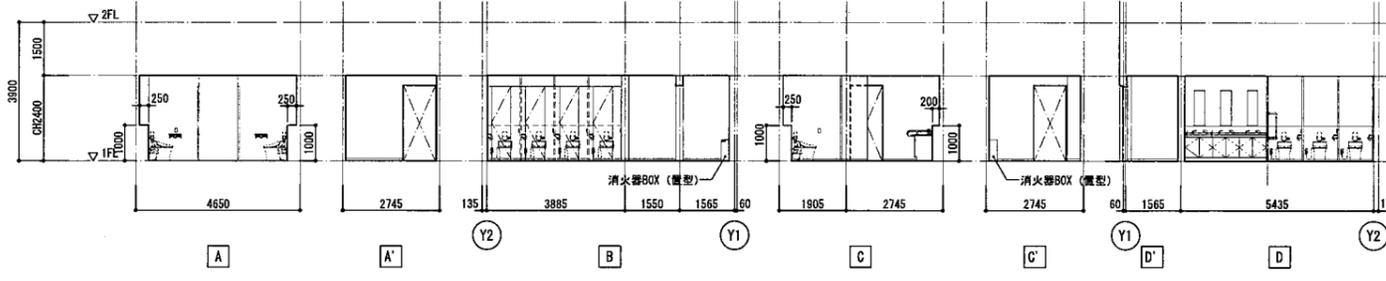
室名	シャワー室 (女子)
天井	ケイカル板-E P-G
壁	EP-G
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シート (防滑) D
備考	シャワーユニット タオル掛け2ヶ所 吊カーテンレール (FL+2300)



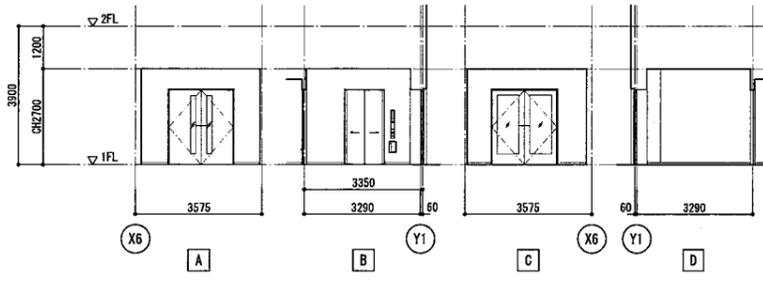
室名	トイレ (男)
天井	化粧G
壁	タイルA
巾木	タイルA H=60
床	タイルA
備考	トイレブース、洗面カウンター 汚垂石、鏡、洗面鏡 配管カバー、掃除用具掛け、棚 ((大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー)) 前室部分 床: RC金ゴテ 壁: 外壁同様 天井: 化粧G



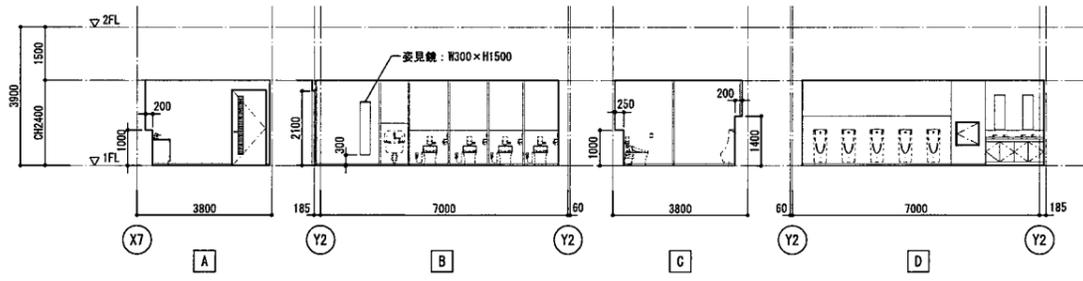
室名	トイレ (女)
天井	化粧G
壁	タイルA
巾木	タイルA H=60
床	タイルA
備考	トイレブース、洗面カウンター 鏡、洗面鏡 配管カバー、掃除用具掛け、棚 ((大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー)) 前室部分 床: RC金ゴテ 壁: 外壁同様 天井: 化粧G



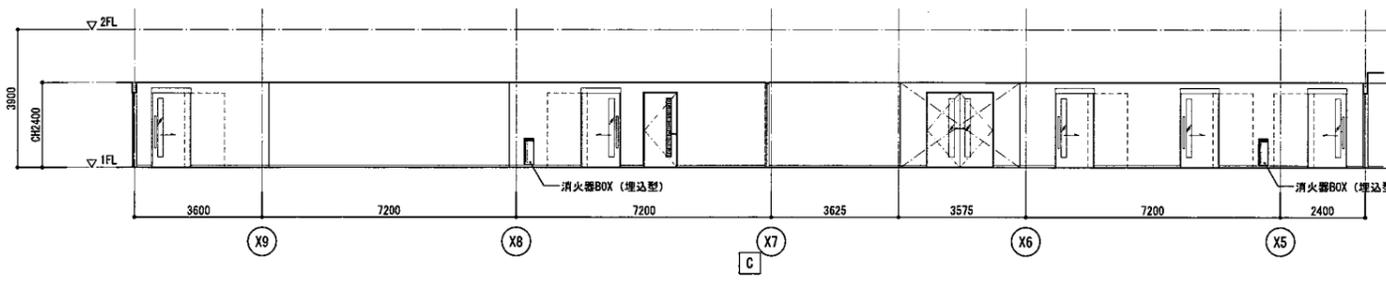
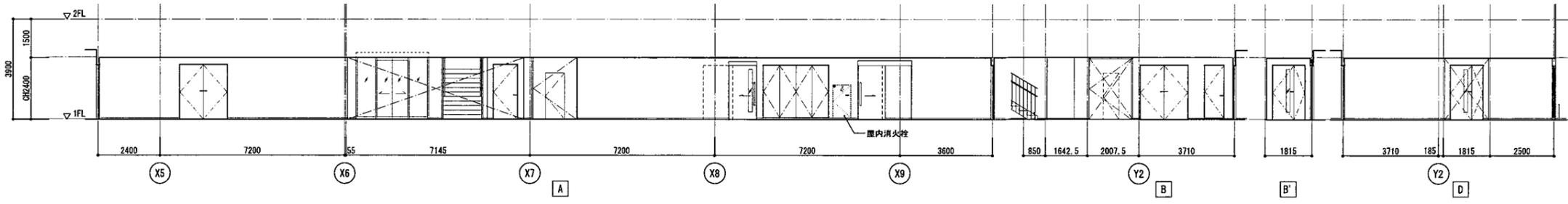
室名	前室1
天井	化粧G
壁	EP
巾木	SUS製巾木 H=60
床	タイルA
備考	



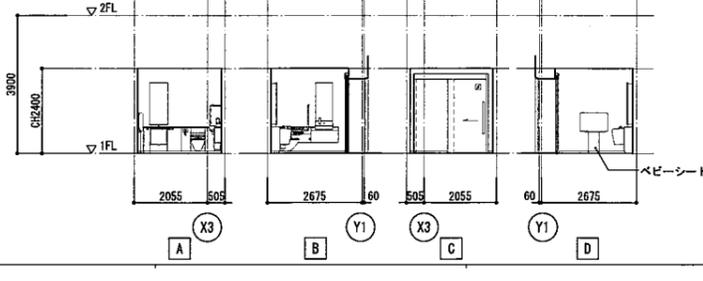
室名	男子トイレ
天井	化粧G
壁	化粧シート貼り
巾木	ステンレス製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	トイレブース、洗面カウンター 汚垂石 (男子)、鏡 洗面鏡W300×H1500 ×1か所 配管カバー、掃除用具掛け、棚 ((大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー))



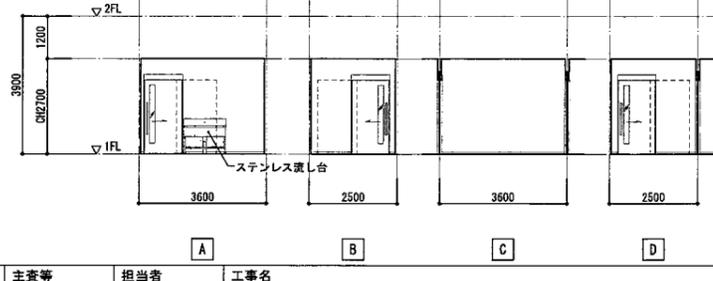
室名	廊下
天井	化粧G
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートE
備考	ビクチャーレール



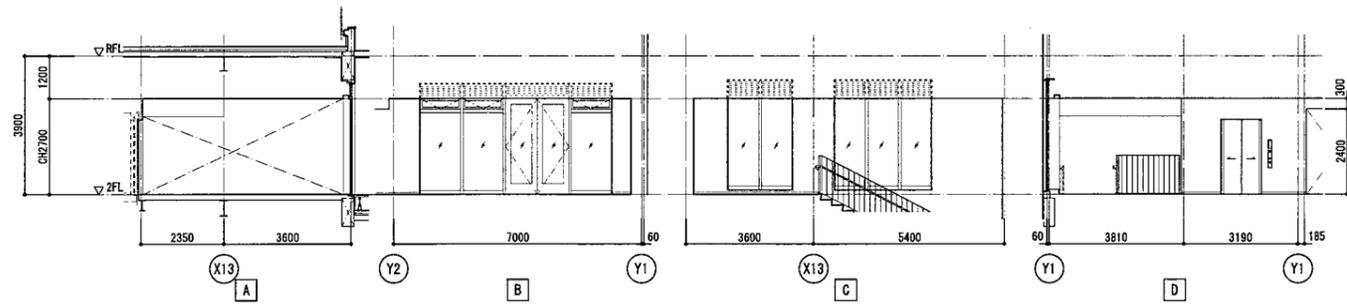
室名	HWC
天井	化粧G
壁	タイルA
巾木	タイルA H=60
床	タイルA
備考	鏡 (W300×H600)、ペーパーシート ((配管カバー))、((手摺))



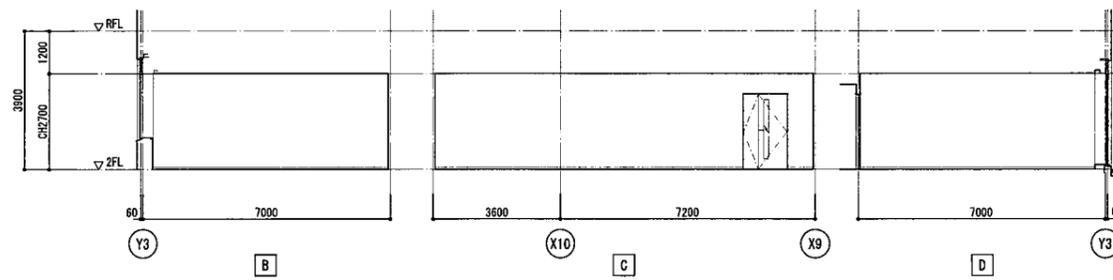
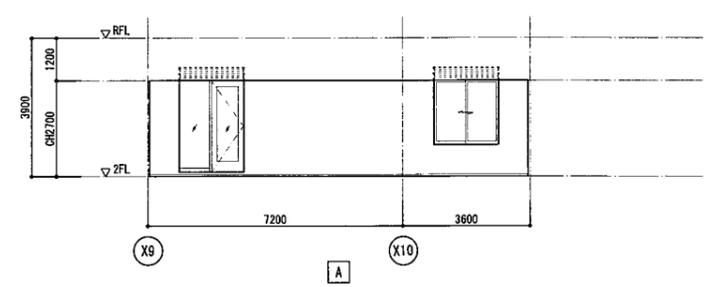
室名	前室2
天井	化粧G
壁	EP-G
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートC
備考	ステンレス洗し、((製氷機、家庭用エアコン))



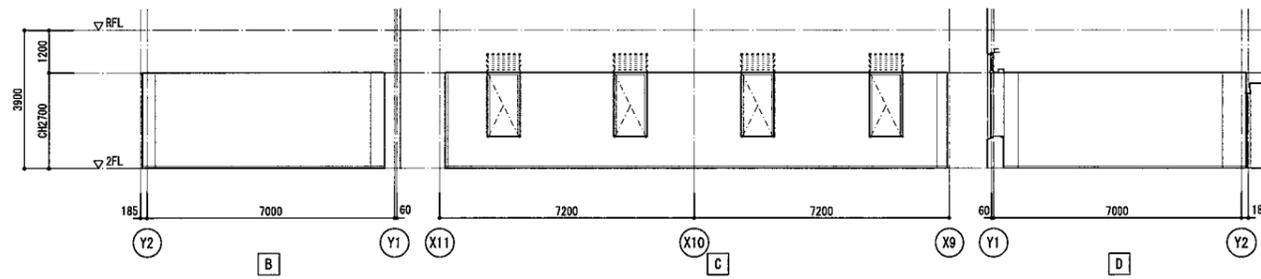
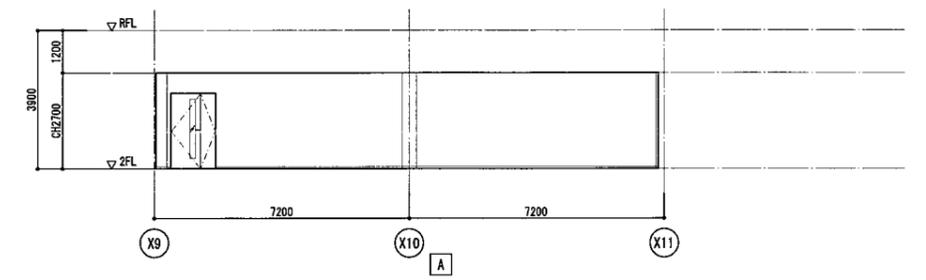
室名	ロビー・ホール
天井	化粧G
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートA
備考	ピクチャーレール



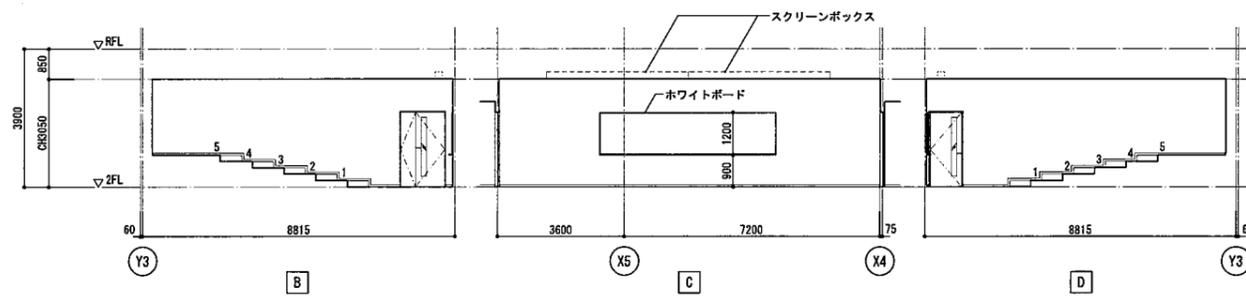
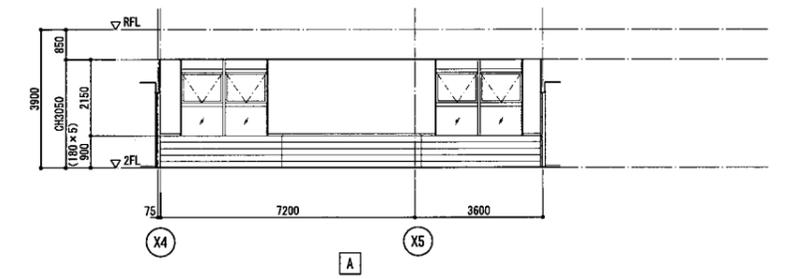
室名	事務室5 (レストルーム (仮設置))
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	



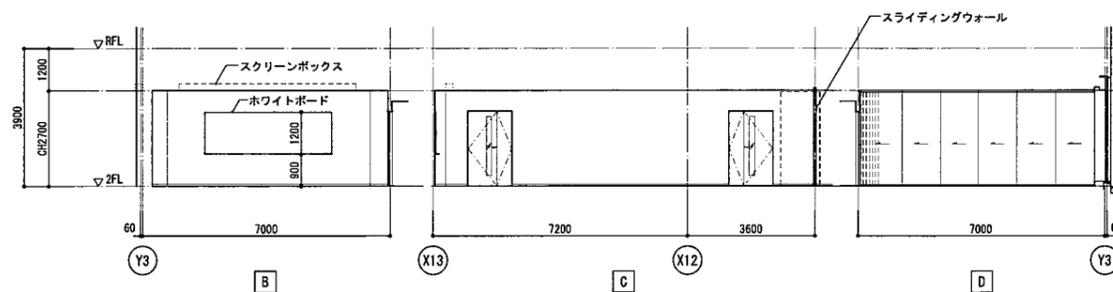
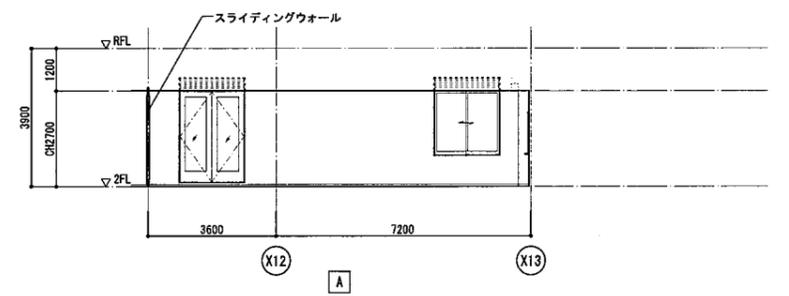
室名	事務室6 (リラックスメール)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	((冷蔵庫、TV、モニター))



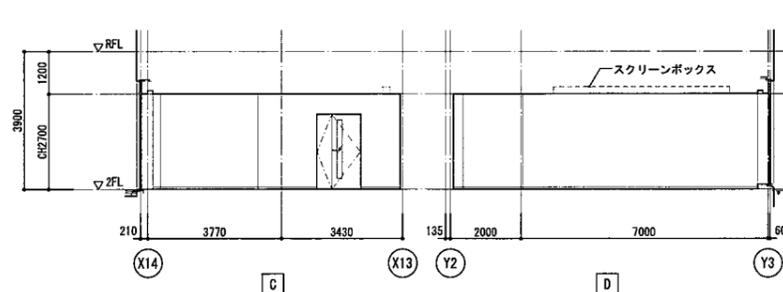
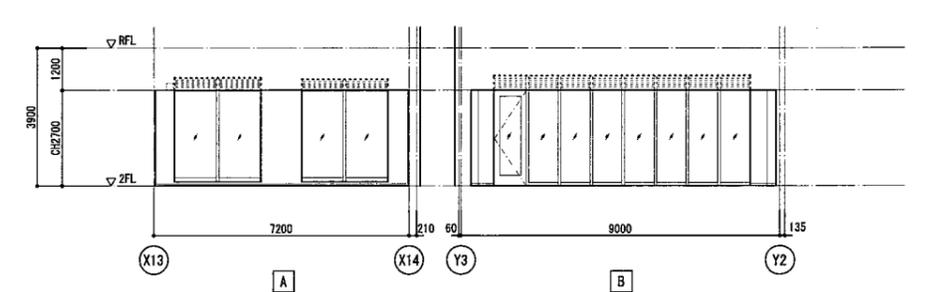
室名	会議室1 (チームミーティングルーム)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	プロジェクター取付下地3か所 ((天吊りプロジェクター)) スクリーンBOX×2、ピクチャーレール ホワイトボード#3600xH1200



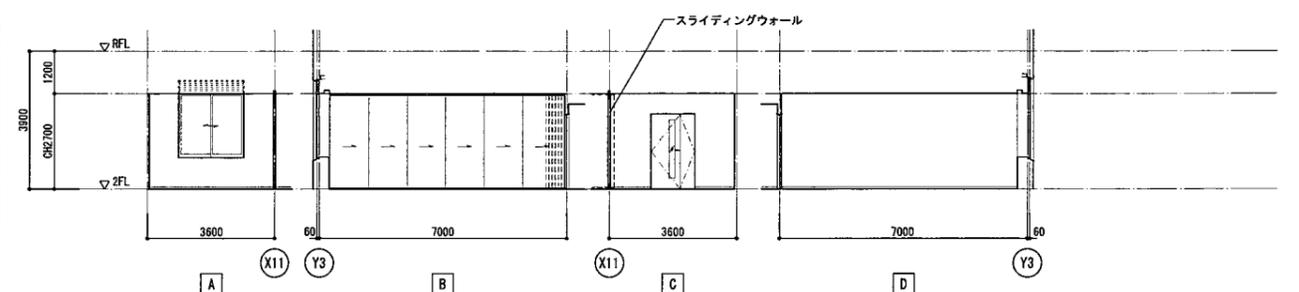
室名	会議室2 (ミーティングルーム)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	プロジェクター取付下地1か所 ((天吊りプロジェクター)) スクリーンBOX、ピクチャーレール ホワイトボード#3600xH1200



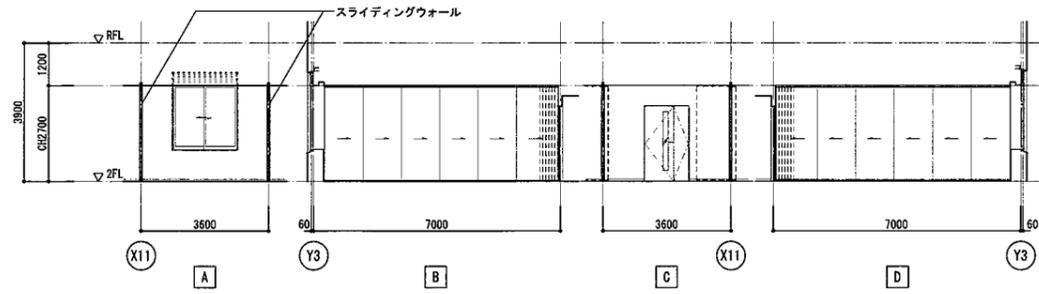
室名	会議室3 (ミーティングルーム (展示室))
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	プロジェクター取付下地1か所 ((天吊りプロジェクター)) スクリーンBOX ピクチャーレール



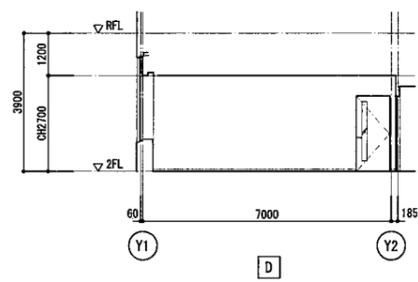
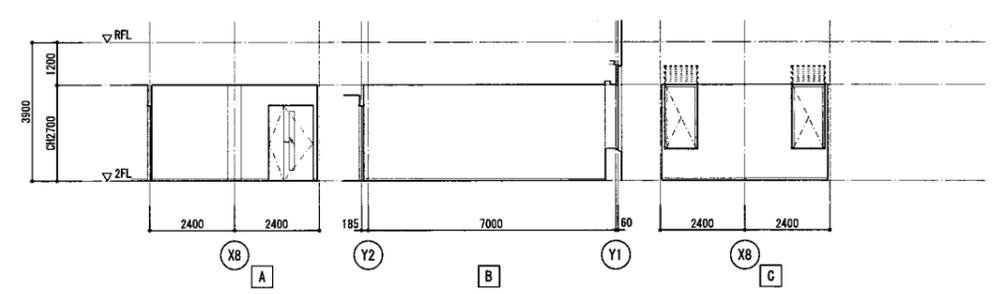
室名	応接室1
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	((モニター))



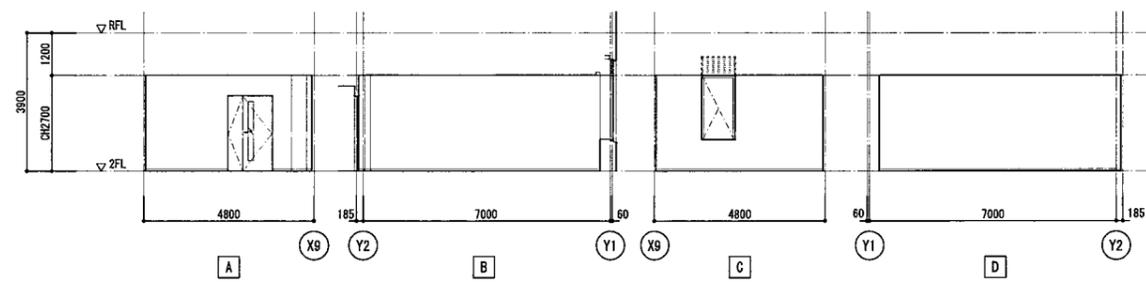
室名	応接室2
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	



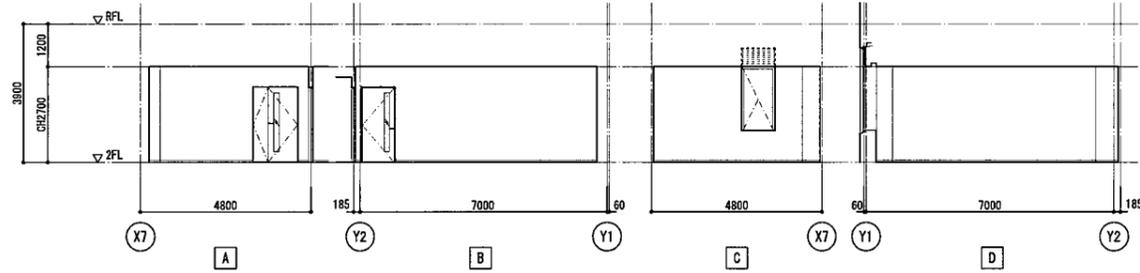
室名	多目的室4 (コーチングスタッフルーム)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	((モニター))



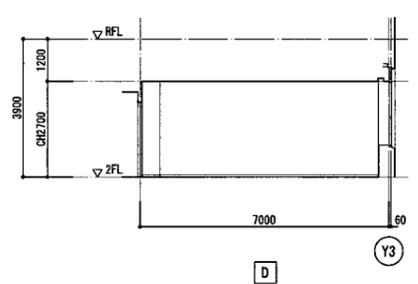
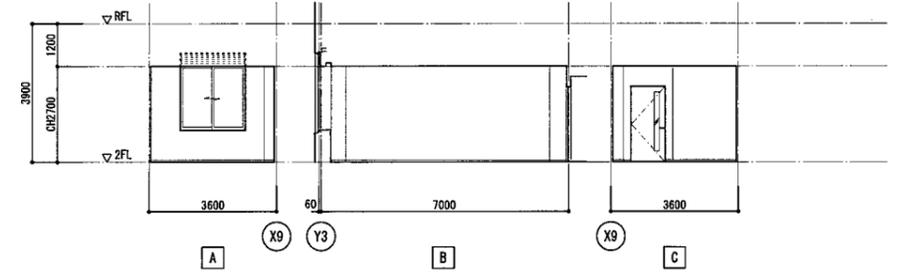
室名	ミーティングルーム1 (チーム紙拵本部)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	((モニター))



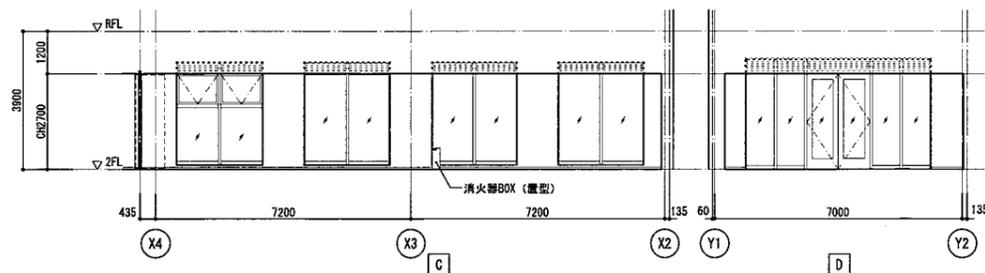
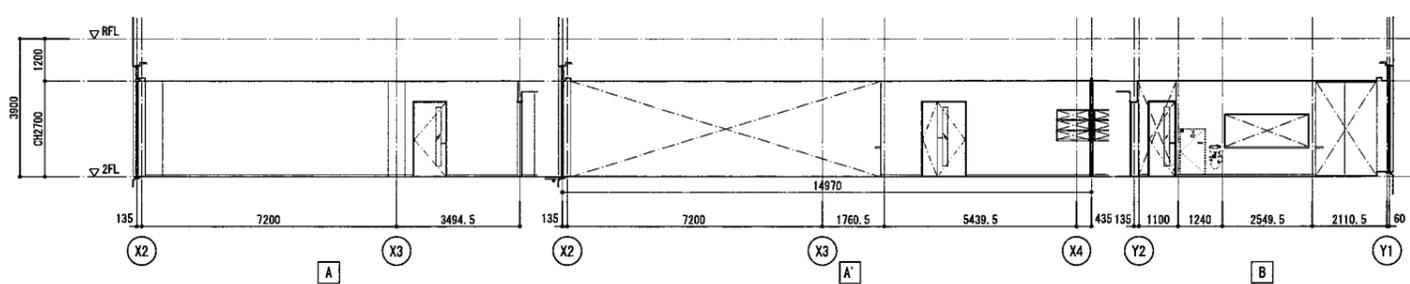
室名	談話室 (監督室)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	((モニター))



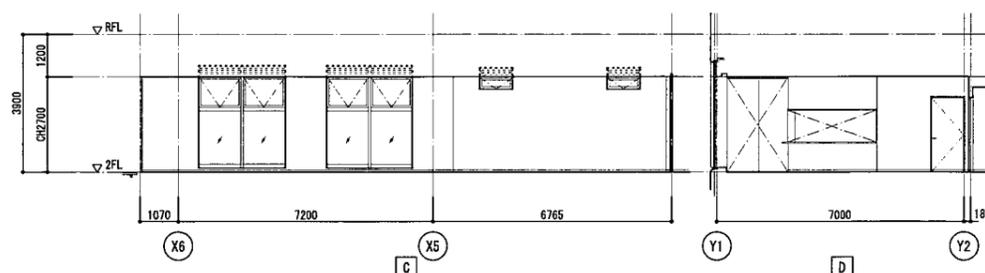
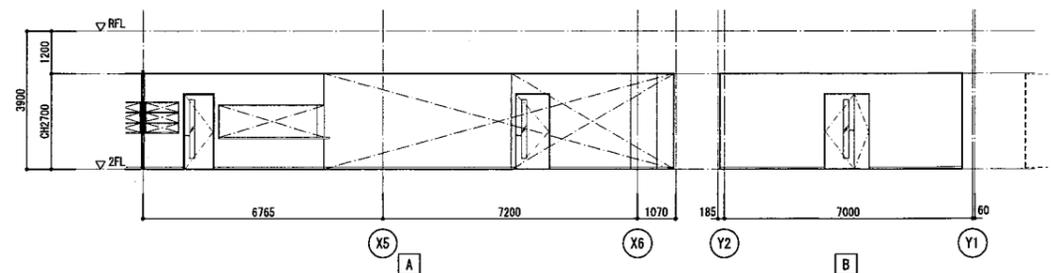
室名	事務室4 (広報・スタッフ室)
天井	岩綿吸音板
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットA
備考	



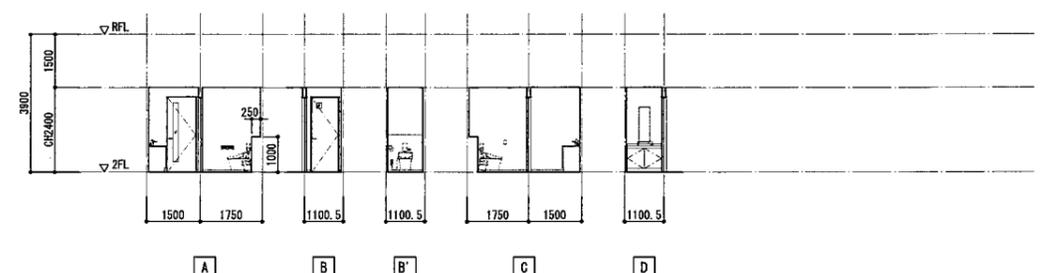
室名	食堂1
天井	岩綿吸音板
壁	化粧シート貼り
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートA
備考	手洗い (設備工事)、配膳カウンター モニター取付下地、ピクチャーレール ((モニター))



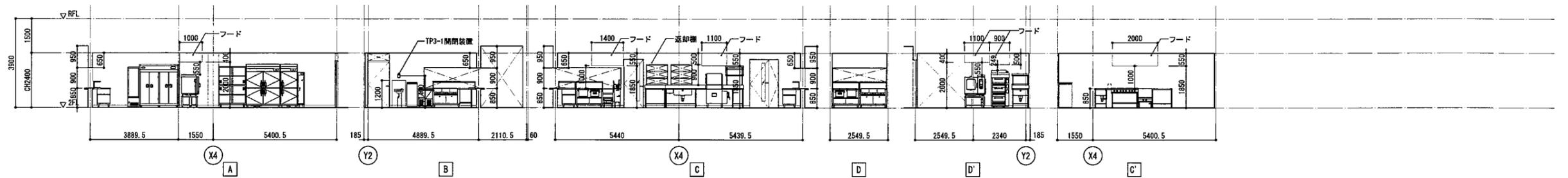
室名	食堂2
天井	岩綿吸音板
壁	化粧シート貼り
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートA
備考	手洗い (設備工事)、配膳カウンター モニター取付下地、ピクチャーレール ((モニター))



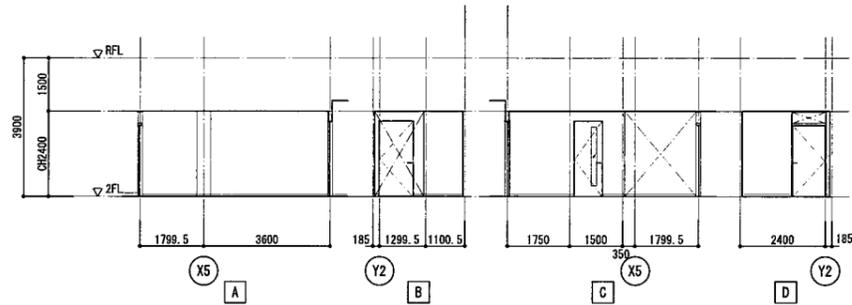
室名	WC (附事務所内)
天井	化粧ボード
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	鏡、便器 (設備工事)、洗面カウンター ライニング、((ペーパーホルダー))



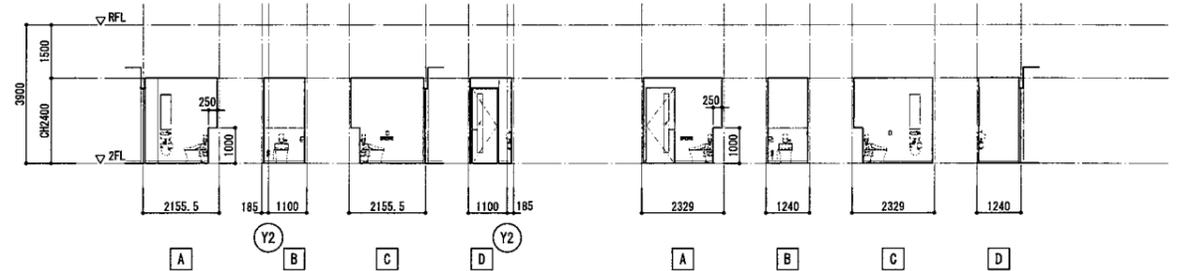
室名	厨房
天井	EP-G
壁	EP-G
巾木	床材立上 H=100
床	耐熱床
備考	厨房機器



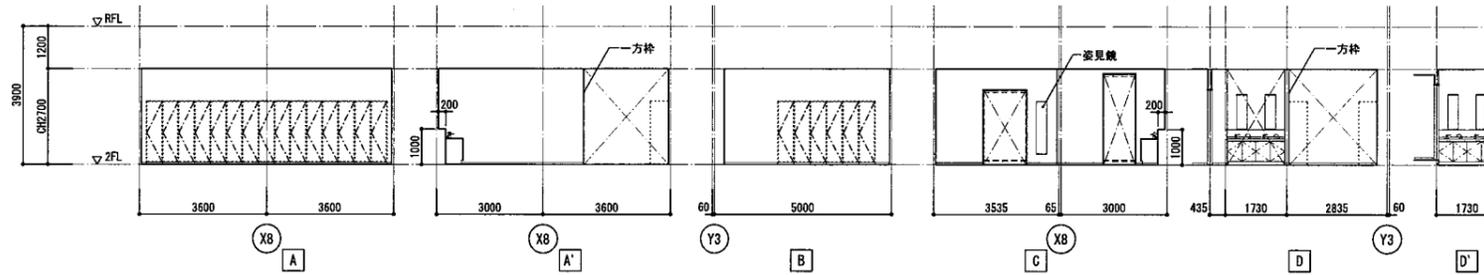
室名	厨房事務室
天井	化粧GB
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	



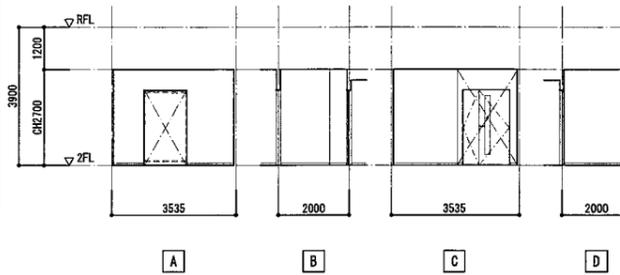
室名	WC(食堂内)
天井	化粧GB
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	鏡、便器(設備工事)、手洗い(設備工事) ライニング、(ペーパーホルダー)



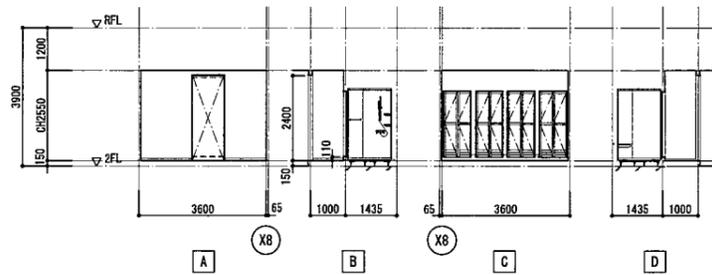
室名	更衣室3 (TOPスタッフ更衣室)
天井	化粧GB
壁	EP-G
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートD
備考	姿見鏡N300×H1500×1か所、鏡、(ロッカー) 吊カーテンレール (FL+2300)



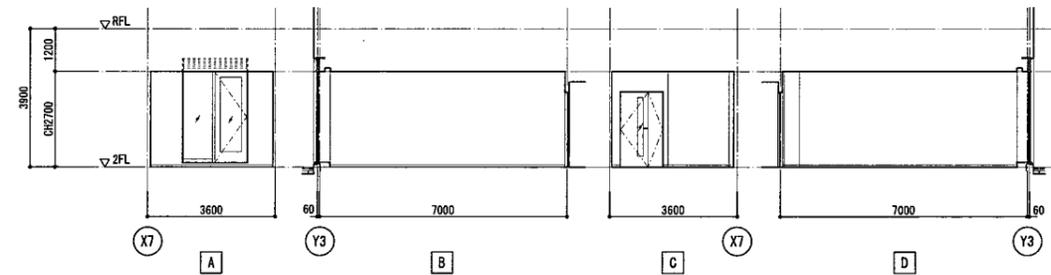
室名	更衣室3(入口部分)
天井	化粧GB
壁	EP-G
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートD
備考	



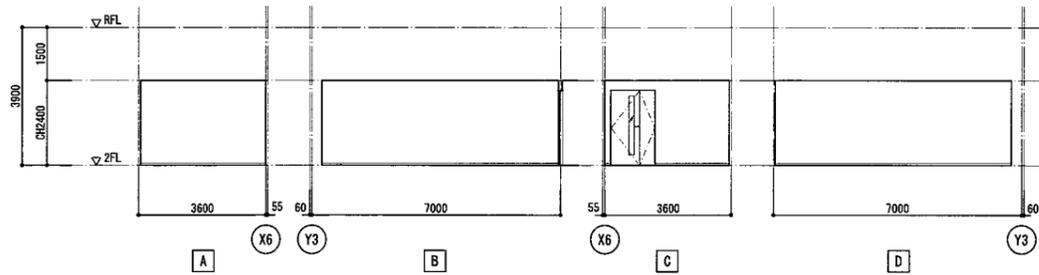
室名	シャワー室
天井	ケイカル板-E P-G
壁	EP-G
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シートD
備考	シャワーユニット、タオル掛け2ヶ所 吊カーテンレール (FL+2300)



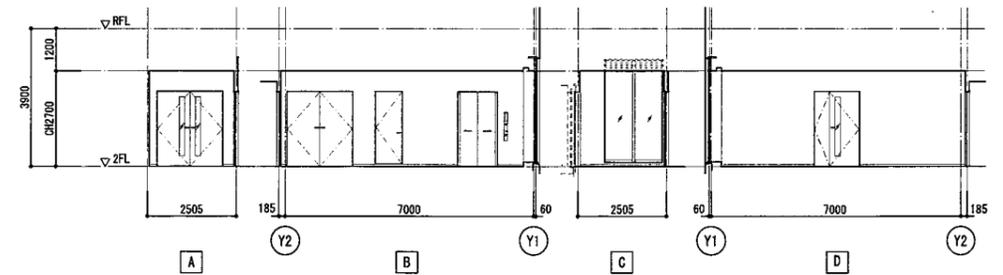
室名	事務室3 (Executive Room)
天井	岩綿吸音板
壁	ビニルクロス
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	タイルカーペットB
備考	((モニター))



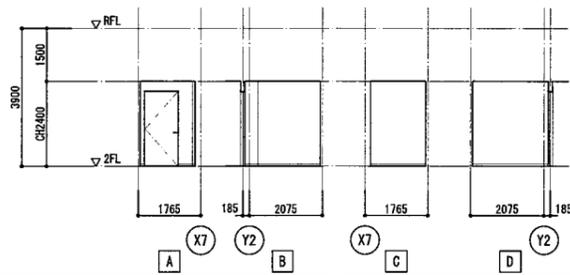
室名	清掃員倉庫控室
天井	化粧GB
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートA
備考	



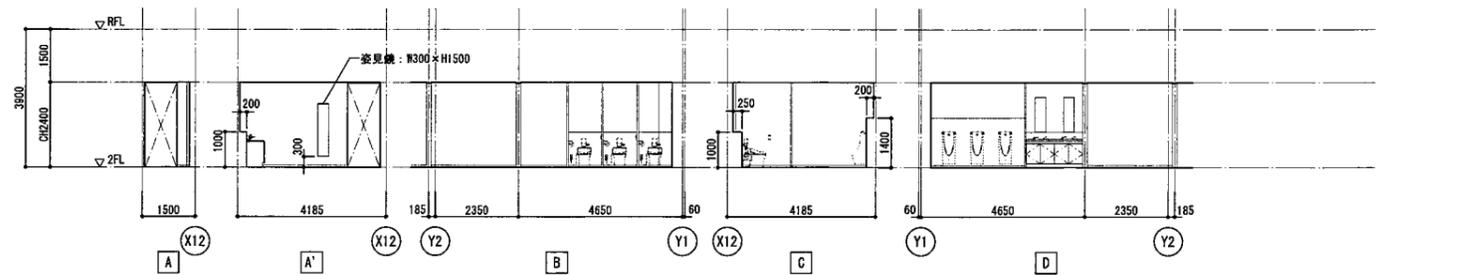
室名	前室3
天井	化粧GB
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートA
備考	



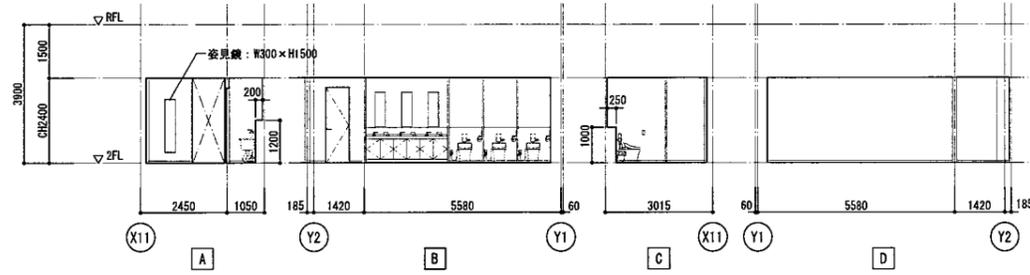
室名	サーバー室
天井	化粧GB
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートF(帯電防止)
備考	



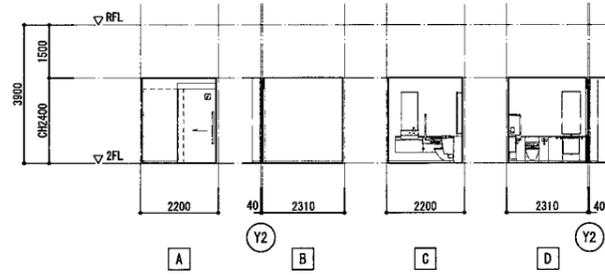
室名	男子トイレ
天井	化粧GB
壁	化粧シート貼り
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	トイレブース、洗面カウンター 汚置石、鏡、姿見鏡N300×H1500×1か所 配管カバー、そうじ用具掛け、鏡 (大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー)



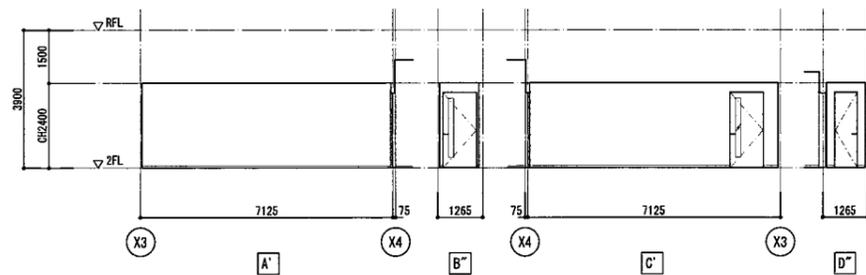
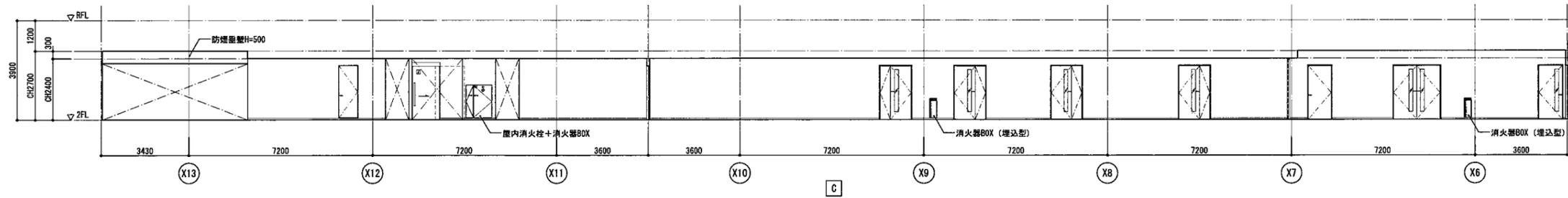
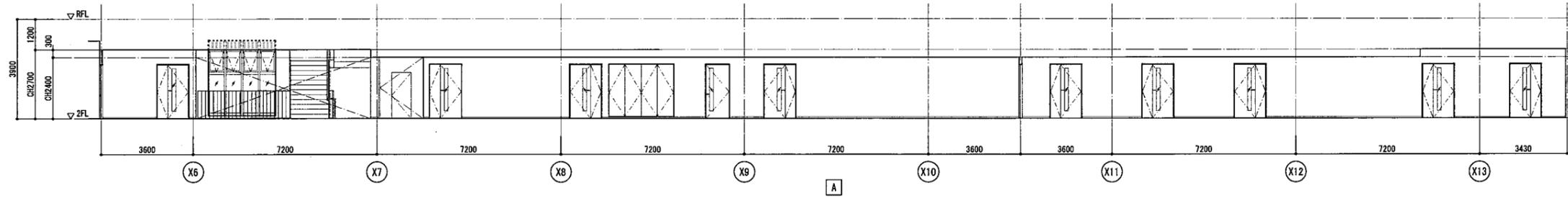
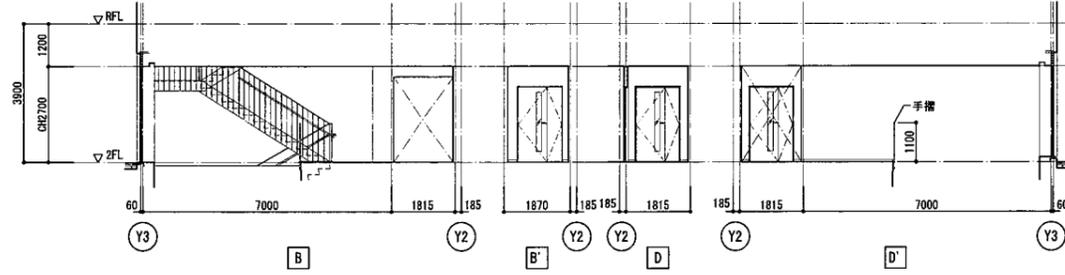
室名	女子トイレ
天井	化粧GB
壁	化粧シート貼り
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	トイレブース、洗面カウンター 鏡、洗面鏡W300×H1500×1か所 配管カバー、そうじ用具掛け、鏡 (大便器・小便器手摺、ペーパーホルダー)



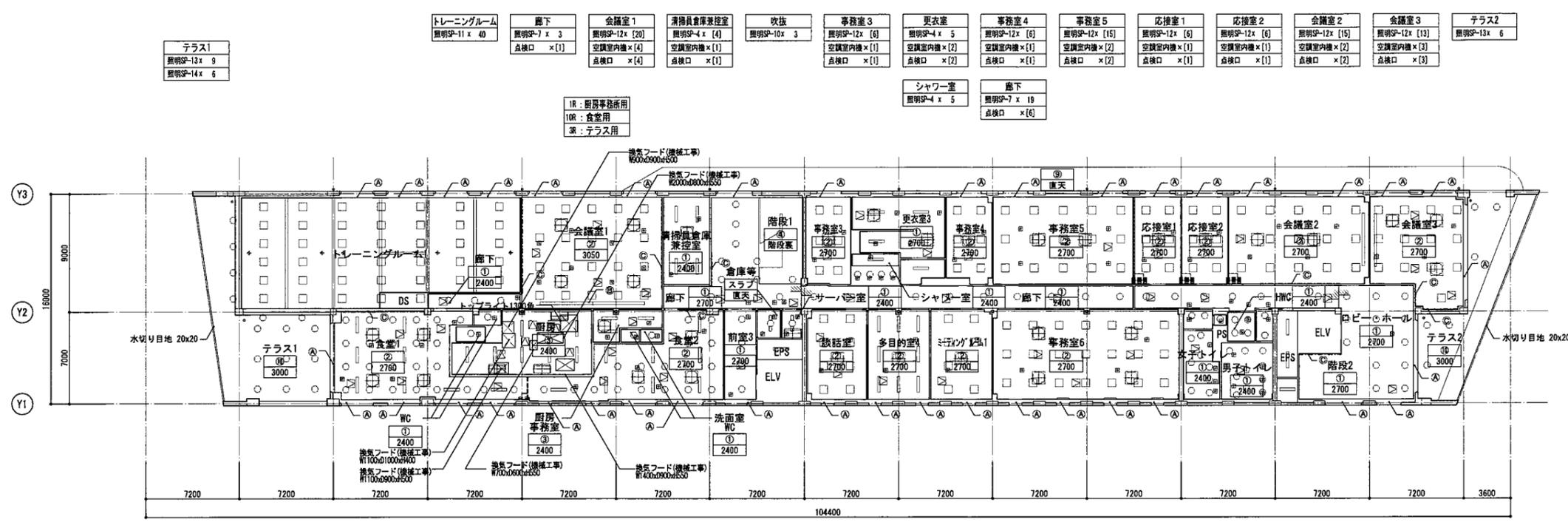
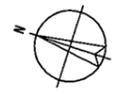
室名	HWC
天井	化粧GB
壁	EP-G
巾木	SUS製巾木 H=60
床	ビニル床シートB
備考	鏡 (W300×H600)、((配管カバー))、((手摺))



室名	廊下
天井	化粧GB
壁	EP
巾木	ビニル製巾木 H=60
床	ビニル床シートE
備考	ビクチャーレール

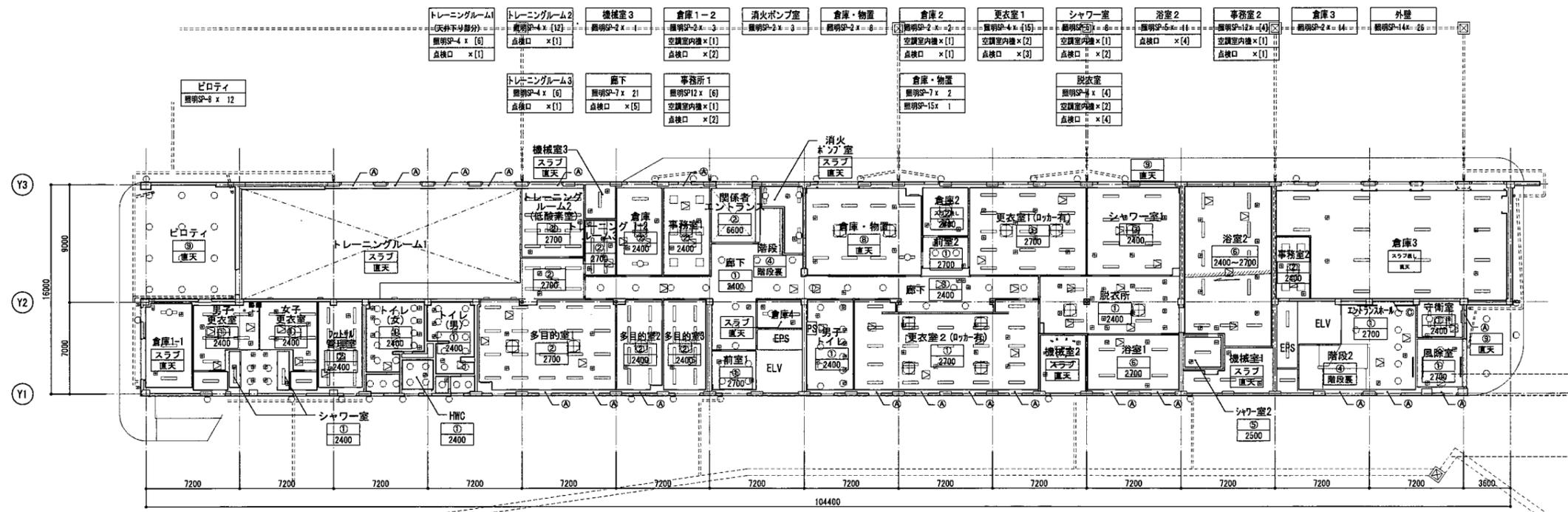


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	2階展開図(4)	D-324	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/100 A3: 1/200	2021年 1月	



2階天井伏図

テラス1 照明SP-13x 9 照明SP-14x 6	テラス2 照明SP-13x 6	廊下 照明SP-7x 3 点検口 x(1)	会議室1 照明SP-12x (20) 空調室内機 x(4) 点検口 x(4)	清掃員倉庫兼控室 照明SP-4x (4) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	吹抜 照明SP-10x 3	事務室3 照明SP-12x (6) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	更衣室 照明SP-4x 5 空調室内機 x(2) 点検口 x(2)	事務室4 照明SP-12x (6) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	事務室5 照明SP-12x (15) 空調室内機 x(2) 点検口 x(2)	応接室1 照明SP-12x (6) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	応接室2 照明SP-12x (6) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	会議室2 照明SP-12x (15) 空調室内機 x(2) 点検口 x(2)	会議室3 照明SP-12x (13) 空調室内機 x(3) 点検口 x(3)	テラス2 照明SP-13x 6	
		1R: 厨房事務所用 10R: 食堂用 3R: テラス用					シャワー室 照明SP-4x 5								



1階天井伏図

室名  
仕上  
天井高

仕上凡例

- 化粧石膏ボード t9.5
- 岩綿吸音板
- EP-G塗装
- EP塗装
- スプルス
- バスリブ
- グラスウールマット
- スラブ表し
- アクリルシリコン樹脂塗装
- アルミバンドレール

[天井開口補強寸法]

- 空調室内機: 900x900
- 照明SP-4: 1.235x220
- 照明SP-12: 450x450

設備凡例 (設備本体は別途工事)

記号	名称
○	LEDダウンライト
□	LED照明器具
◇	LED照明器具 (壁付、機型)
◇	LEDスクエア型照明
○	LEDブラケットライト
◇	LED照明器具 (壁付、機型)
◇	LEDアップライト
○	LED懐中電灯
□	点検口

※天井開口に補強が必要な箇所は「」表記とする  
※機械設備の凡例は、設備図参照のこと

ピロティ 照明SP-8x 12	トレーニングルーム1 照明SP-4x (8) 空調室内機 x(4) 点検口 x(5)	トレーニングルーム2 照明SP-4x (12) 点検口 x(1)	機械室3 照明SP-2x 1	倉庫1-2 照明SP-2x 3 空調室内機 x(1) 点検口 x(2)	消火ポンプ室 照明SP-2x 3	倉庫・物置 照明SP-2x 8 空調室内機 x(1) 点検口 x(2)	倉庫2 照明SP-2x 2 空調室内機 x(1) 点検口 x(3)	更衣室1 照明SP-4x (15) 空調室内機 x(2) 点検口 x(3)	シャワー室 照明SP-5x 8 空調室内機 x(1) 点検口 x(2)	浴室2 照明SP-6x 4 点検口 x(4)	事務室2 照明SP-12x (4) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	倉庫3 照明SP-2x 14 点検口 x(1)	外壁 照明SP-14x 25
トレーニングルーム3 照明SP-4x (6) 点検口 x(1)	廊下 照明SP-7x 21 点検口 x(5)	事務所1 照明SP-12x (6) 空調室内機 x(1) 点検口 x(2)	倉庫・物置 照明SP-15x 1	更衣室2 照明SP-4x (4) 空調室内機 x(2) 点検口 x(4)									

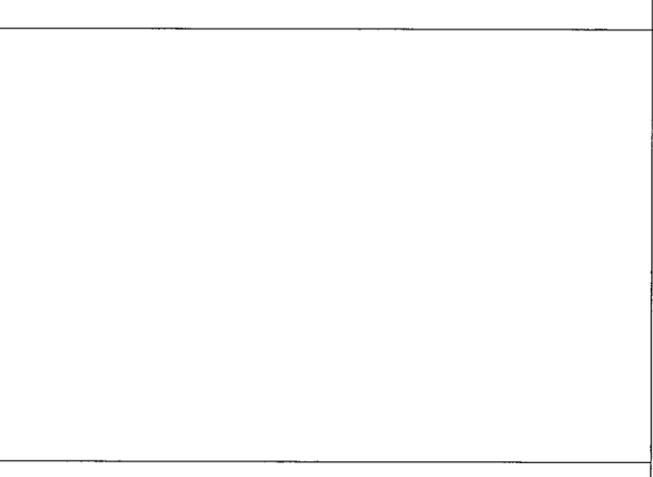
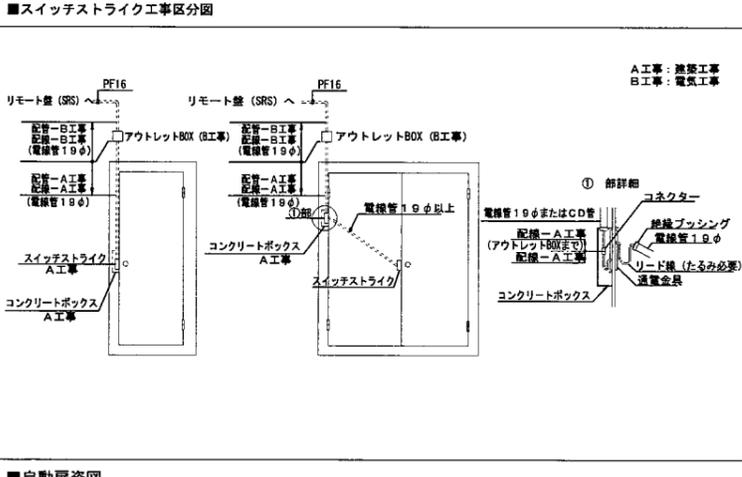
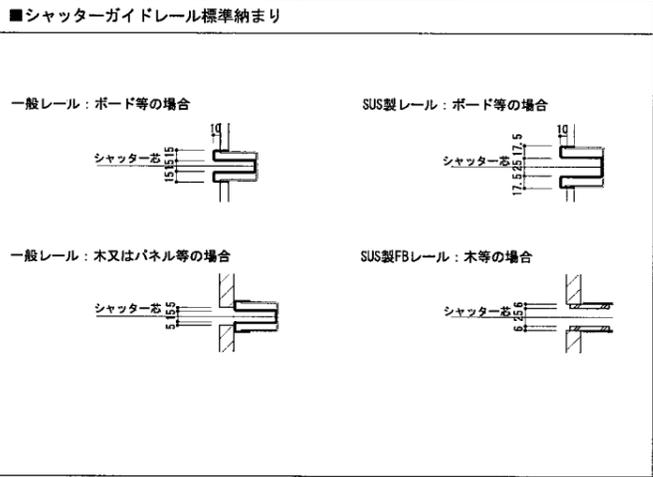
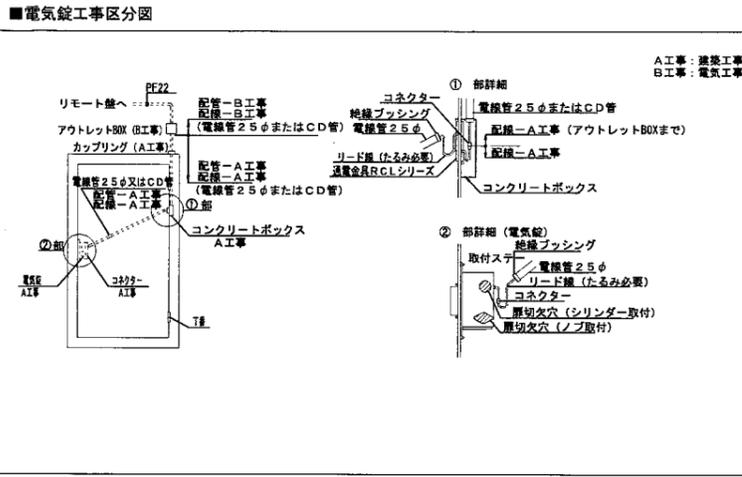
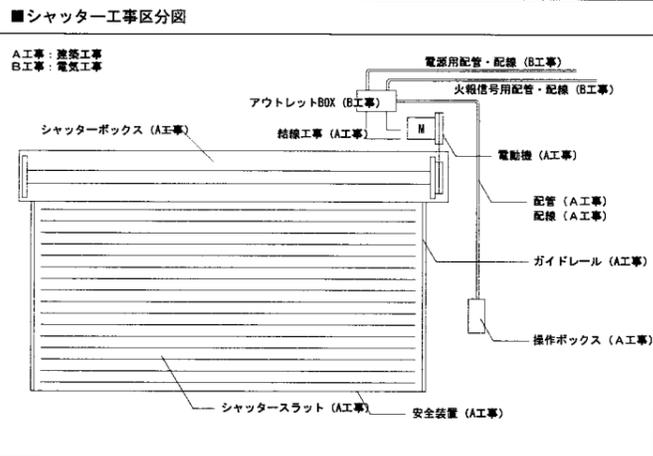
倉庫1-1 照明SP-2x 3	男子更衣室 照明SP-4x 7 照明SP-8x 2 空調室内機 x(1) 点検口 x(3)	女子更衣室 照明SP-4x 7 照明SP-8x 2 空調室内機 x(1) 点検口 x(2)	フットサル管理室 照明SP-4x (8) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	トイレ(女) 照明SP-6x 13 点検口 x(2)	トイレ(男) 照明SP-6x 10 点検口 x(1)	多目的室1 照明SP-4x (20) 空調室内機 x(2) 点検口 x(3)	多目的室2 照明SP-4x (8) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)	前室1 照明SP-7x 4 点検口 x(1)	倉庫4 照明SP-2x 2	男子トイレ 照明SP-6x 11 点検口 x(1)	更衣室2 照明SP-4x (22) 空調室内機 x(4) 点検口 x(5)	浴室1 照明SP-5x 6 点検口 x(1)	シャワー室2 照明SP-5x 1	機械室1 照明SP-2x 4	EPS 照明SP-2x 2	エントランスホール 照明SP-9x 7 点検口 x(2)	守衛室 照明SP-4x (2) 点検口 x(1)
				トイレ(女)前室 照明SP-6x 3	HWC 照明SP-6x 4	トイレ(男)前室 照明SP-6x 3	多目的室3 照明SP-4x (8) 空調室内機 x(1) 点検口 x(1)			EPS 照明SP-2x 1			機械室2 照明SP-2x 3	PS 照明SP-1x 1	風除室 照明SP-7x 3 点検口 x(1)	守衛室前 照明SP-8x 3	

■ 建具一般事項 1				ガラスの種類と符号				■ 枠形状																																																																																																																											
<b>建具の種類と符号</b> <table border="1"> <tr> <th>符号</th><th>種類</th><th>符号</th><th>種類</th><th>符号</th><th>種類</th><th>符号</th><th>種類</th></tr> <tr> <td>SD</td><td>鋼製戸</td><td>SS</td><td>スチール製シャッター</td><td>FL</td><td>フロート板ガラス</td><td>FTP</td><td>防火設備用防火ガラス (耐熱強化ガラス程度)</td></tr> <tr> <td>LSD</td><td>鋼製軽量戸</td><td></td><td></td><td>F</td><td>型板ガラス</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>SSD</td><td>ステンレス製戸</td><td>SF</td><td>鋼製枠</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>SSW</td><td>ステンレス製窓</td><td>SSF</td><td>ステンレス製枠</td><td>PW</td><td>網入り層板ガラス (防)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>AW</td><td>アルミニウム製窓</td><td></td><td></td><td>GW</td><td>網入型板ガラス (防)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>AD</td><td>アルミニウム製戸</td><td>SP</td><td>ステールパーティション</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>AG</td><td>アルミニウムガラリ</td><td>SLW</td><td>スライディングウォール</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>SPD</td><td>鋼製戸 (片面)</td><td></td><td></td><td>L</td><td>合わせガラス</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>TP</td><td>強化ガラス</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td>Low-E</td><td>高断熱高遮熱複層ガラス (Low-eガラス)</td><td></td><td></td></tr> </table>				符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類	SD	鋼製戸	SS	スチール製シャッター	FL	フロート板ガラス	FTP	防火設備用防火ガラス (耐熱強化ガラス程度)	LSD	鋼製軽量戸			F	型板ガラス			SSD	ステンレス製戸	SF	鋼製枠					SSW	ステンレス製窓	SSF	ステンレス製枠	PW	網入り層板ガラス (防)			AW	アルミニウム製窓			GW	網入型板ガラス (防)			AD	アルミニウム製戸	SP	ステールパーティション					AG	アルミニウムガラリ	SLW	スライディングウォール					SPD	鋼製戸 (片面)			L	合わせガラス							TP	強化ガラス							Low-E	高断熱高遮熱複層ガラス (Low-eガラス)			<b>可動部分の気密性と符号</b> <table border="1"> <tr> <th>符号</th><th>透気量 (m<sup>3</sup>/h・m<sup>2</sup>)</th><th>気密性の区分</th></tr> <tr> <td></td><td>30以上 120未満</td><td>120</td></tr> <tr> <td>SAT</td><td>8以上 30未満</td><td>30</td></tr> <tr> <td>AT</td><td>2以上 8未満</td><td>8</td></tr> </table>				符号	透気量 (m <sup>3</sup> /h・m <sup>2</sup> )	気密性の区分		30以上 120未満	120	SAT	8以上 30未満	30	AT	2以上 8未満	8	<b>ガラスの種類と符号</b> <table border="1"> <tr> <th>符号</th><th>種類</th><th>符号</th><th>種類</th></tr> <tr> <td>Low-E</td><td>Low-E複層ガラス・・・Low-E+空気層+フロート</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>複層ガラス・・・フロート+空気層+フロート</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>合せガラス・・・フロート+フロート</td><td></td><td></td></tr> </table>				符号	種類	符号	種類	Low-E	Low-E複層ガラス・・・Low-E+空気層+フロート				複層ガラス・・・フロート+空気層+フロート				合せガラス・・・フロート+フロート			<b>■ 枠形状</b> 			
符号	種類	符号	種類	符号	種類	符号	種類																																																																																																																												
SD	鋼製戸	SS	スチール製シャッター	FL	フロート板ガラス	FTP	防火設備用防火ガラス (耐熱強化ガラス程度)																																																																																																																												
LSD	鋼製軽量戸			F	型板ガラス																																																																																																																														
SSD	ステンレス製戸	SF	鋼製枠																																																																																																																																
SSW	ステンレス製窓	SSF	ステンレス製枠	PW	網入り層板ガラス (防)																																																																																																																														
AW	アルミニウム製窓			GW	網入型板ガラス (防)																																																																																																																														
AD	アルミニウム製戸	SP	ステールパーティション																																																																																																																																
AG	アルミニウムガラリ	SLW	スライディングウォール																																																																																																																																
SPD	鋼製戸 (片面)			L	合わせガラス																																																																																																																														
				TP	強化ガラス																																																																																																																														
				Low-E	高断熱高遮熱複層ガラス (Low-eガラス)																																																																																																																														
符号	透気量 (m <sup>3</sup> /h・m <sup>2</sup> )	気密性の区分																																																																																																																																	
	30以上 120未満	120																																																																																																																																	
SAT	8以上 30未満	30																																																																																																																																	
AT	2以上 8未満	8																																																																																																																																	
符号	種類	符号	種類																																																																																																																																
Low-E	Low-E複層ガラス・・・Low-E+空気層+フロート																																																																																																																																		
	複層ガラス・・・フロート+空気層+フロート																																																																																																																																		
	合せガラス・・・フロート+フロート																																																																																																																																		
<b>■ 内外建具共通</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>建具寸法 (W x H) は特記なき限り、枠内有効寸法とする。</li> <li>建具性能は特記仕様書による。</li> <li>建具詳細図がある場合は、建具詳細図を正とする。</li> <li>建具は製作、施工に先立ち、施工図を作成し監理者に提出し、承諾を受ける。</li> <li>設計者が指示する材料、製品、建具金物、部分製作の見本などは、工事監理者に提出し設計者の承諾を受ける。</li> <li>振り玉、レバーハンドルの高さは、FL+1000、押板、引手の高さは、中心高さをFL+1100とする。</li> <li>但し、奥行きが深い窓台がある部分等の操作に障害がある部分については、適宜高さ調整を行うこと。</li> <li>扉板付鋼製建具はたて枠と同面とする。</li> <li>特記なき限り、AW、ACWの扉板、額縁はスチールt=1.6 B-AEとする。</li> <li>オートドアは、方立部分に補助センサー組込とする。</li> </ul>				<b>■ 防火扉</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限り、防火設備は煙感知器連動とする。</li> <li>壁穴区画に設ける常時開放式防火戸には遮煙ゴムを設けること。</li> <li>両開き、親子開きの防火戸は、順位調整器付とする。後締め扉のみ開放時アーム格納タイプとする。</li> <li>くぐり戸は、特記なき限り、W750×H2000とし、両面納まりとする。押し板又は引手を設ける。</li> <li>子扉が付く場合、子扉の下には下枠のない方式とする。(身障者対応)</li> <li>ソレノイドの保持力は、火災時に手で開けられる強さ、かつ、体が触れても開かない強さとする。</li> </ul>				<b>■ ガラス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>建具表中の合せガラス (L) の厚さは、総厚を示すものとする。</li> <li>建具のガラスはめ込み工法は弾性シーリングとする。</li> <li>特記なき限り、H=1800以上のガラス面には衝突防止サインを設ける。(詳細はサイン図による。)</li> </ul> <b>＜ガラスフィルム＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>内外部建具のガラス部には全て紫外線カット (99%以上) 仕様の高飛防止フィルムを貼るものとする。</li> <li>フィルム施工に先立ち熱割れ計算を行うこと。</li> </ul>				<b>■ 防音・気密 (AT/SAT) 建具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>防音建具の取付けにあたっては、躯体との間にすき間が生じないようにモルタル又はロックウールを充填する。</li> <li>防音扉は、エアタイトゴム及びグレモンハンドルの締め付け調整を行い指定遮音性能を確保すること。</li> <li>AT仕様防火扉枠に取り付けるゴムパッキンは不燃性とする。</li> </ul>																																																																																																																							
<b>■ 各種建具の共通事項</b> <b>＜鋼製建具の共通事項＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>鋼製建具の枠材厚さは、公共建築工事標準仕様書による他、戸の有効開口幅が950又は有効高さが2100を超える場合、枠材 (一般部分) をt=2.3とする。</li> <li>建具見込寸法は、特記以外は鋼製建具40、鋼製軽量建具35以上とする。</li> <li>鋼製建具は特記なき場合、両面フラッシュ戸とする。</li> <li>特記なき鋼製建具等の塗装は内部:EP-G、外部:DPとする。</li> </ul> <b>＜ステンレス鋼製建具の共通事項＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステンレス製建具の枠材厚さは、公共建築工事標準仕様書による他、戸の有効開口幅が950又は有効高さが2100を超える場合、枠材 (一般部分) をt=2.0とする。</li> <li>ステンレス製建具は特記なき場合、両面フラッシュ戸とする。</li> <li>ステンレス鋼板の仕上は、特記なき場合HL仕上げとする。</li> <li>折り曲げ加工は、角出し建具の下枠及び特記なき場合は普通曲げとする。</li> </ul> <b>＜シャッターの共通事項＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>操作方法は特記なき場合、各個別操作式とする。操作ボックスはSUS製HL仕上とし、シリンダー錠付とする。</li> <li>シャッター等の操作ボックスの取り付け高さは、FL+1300とする。</li> <li>シャッターは全てシャッターケース付とし、天井隠ぺい部分は錆止め塗装のみとし、露出部分は内部をEP-G、外部をDPとする。</li> <li>管理用のシャッターを除き、鋼製防火 (防煙) シャッタースラットは、錆止め塗装までとする。</li> <li>W5000以下の防火 (防煙) シャッターは特記なき限り薄型ケースタイプとする。</li> <li>ガイドレール・マグサ・座板は、ステンレス製とする。</li> <li>シャッターは、座板スイッチ式障害物検知装置付きとする。</li> <li>防火シャッターのスラットは亜鉛めっき鋼板のままとし、さび止め塗装は施さない。</li> </ul>				<b>■ 建具金物</b> <b>＜一般事項＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>建具金物の仕様は、特記なき限りH31年度版公共建築工事標準仕様書の表16.8.1～表16.8.5による。</li> <li>既成建具の建具金物は製作所の付属品とする。</li> </ul> <b>＜ハンドル＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限り、一般開き戸にはレバーハンドル錠を設ける。</li> <li>特記なき限り、引戸に設ける引手は、取付芯を戸先から75mm以上離す。</li> <li>特記なき限り、PS、EPSに設ける扉は平面ハンドルとする。</li> <li>押し棒付き扉自動扉にはステンレス鏡面表示プレート60×60×1 (mm) (文字掘込エナメル象がん) を設ける。</li> </ul> <b>＜ドアクローザー、ストッパー、ヒンジ＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限り、ドアクローザー (パラレル型) 及びおとり止め付戸当りを設ける。</li> <li>防火戸及び異用途区分の扉以外はストッパー付とする。</li> <li>戸袋収納型防火戸には中心吊型ヒンジクローザーを用いる。二つ折りの場合には中心吊型ヒンジクローザー、丁番型ヒンジクローザー及び外戸ロック装置を用いる。</li> <li>オートヒンジは中心吊とし、型番は扉重量により決定すること。</li> <li>防火戸等法的なものを除き、両開き・親子開きのドアクローザーは親扉のみとし順位調整器は設けない。</li> <li>順位調整器は特記なき限り隠蔽型とする。</li> <li>フロアヒンジのフロアプレートは床材仕上とする。</li> <li>両開き扉・親子扉は特記なき限り全て、ピボットヒンジ、自動フランソ落しとする。</li> <li>大型鋼製建具の丁番は戸重量に見合う大型丁番及び枚数にすること。</li> </ul> <b>＜錠前＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限りシリンダー錠とする。原則として片面シリンダー、片面サムターンとするが、事前に錠配置計画図を作成の上、発注者とオペレーション上の検討を加えて決定とする。</li> <li>外部に面する窓に設けるクレセントは全て錠付とする。開口調整金物付とする。</li> <li>代用進入口に該当するサッシについては、外部よりロックが解除できる機構とすること。</li> <li>EPS、PS、DS等、点検扉の錠は全数共通とし、ヒンジはスプリングヒンジとする。</li> <li>錠前はマスターキーシステムとする。</li> </ul> <table border="1"> <tr> <td>マスターキー</td><td>フロアマスターキー</td></tr> <tr> <td></td><td>設備区分マスターキー</td></tr> <tr> <td>その他のキー</td><td>点検口用ロックハンドル</td></tr> <tr> <td></td><td>南京錠</td></tr> <tr> <td></td><td>設備用各種キー</td></tr> </table>				マスターキー	フロアマスターキー		設備区分マスターキー	その他のキー	点検口用ロックハンドル		南京錠		設備用各種キー	<b>■ 寸法の規定</b> 				<b>■ 扉閉合せ部形状</b> 																																																																																																													
マスターキー	フロアマスターキー																																																																																																																																		
	設備区分マスターキー																																																																																																																																		
その他のキー	点検口用ロックハンドル																																																																																																																																		
	南京錠																																																																																																																																		
	設備用各種キー																																																																																																																																		
<b>■ 外部建具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限り、枠見付寸法はACW: 100、AW: 70、SD: 100とする。</li> <li>アルミサッシの見込寸法は、特記なき限り100mmとする。</li> <li>アルミサッシの水切板は特記なき限り、押出型材とする。</li> <li>外部建具廻りは変性シリコンシーリング (15×15) を施す。出入口下部にはSUS HL仕上の水切皿板を設ける。</li> <li>鋼製建具は特記なき限りSATとし、縦枠はFLより300までSUS製錆止塗料塗りとする。</li> <li>三方枠、寄置はクロプレンスポンジゴム入り (面タッチ) とする。強度は各部分の風圧に十分安全な構造とする。</li> <li>鋼製建具枠には、ロックウール充填とする。(ハト小屋に設ける場合は除く)</li> <li>鋼製建具枠下部にはステンレスHL仕上の水切板 (t=1.5) を設ける。</li> <li>鋼製建具両掛り箇所は戸枠上端に水切り板を設ける。SUS製t=2.0、D=20、W=枠幅、HL仕上とする。</li> <li>特記なき限り、マグネットセンサー付きとし、枠に取付加工を行う。</li> </ul> <b>＜ガラリ・チャンパーボックス＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガラリはアルミサッシ製、開口率35%、隠し枠型、水返し付とする。</li> <li>ガラリ内側にはガラス繊維入合成樹脂製防虫網を取り付けること。</li> <li>H=1,000mmを超えるアルミ製ガラリは、裏面に補強材 (アルミ押出材) を1,000mmごとに取付ける。</li> <li>チャンパーボックスは高耐久亜鉛めっき加工t0.6 (延焼ライン部t1.6) 接続枠付きとし、裏面 (室内側) に結露防止材を施す。</li> <li>使用しないガラリ部のチャンパーBOXには塞ぎパネル (SUS2t.0パーミキュライト吹付け) を設ける。</li> </ul>				<b>■ ガラス・ガラリ形状</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>特記なき限り扉に設けるガラス・ガラリの大きさは下記によるものとする。(親子扉の場合は親扉を示す。)</li> </ul> <table border="1"> <tr> <th>区分</th><th>居室</th><th>前室</th><th>倉庫</th><th>WC・HWC</th><th>更衣室</th></tr> <tr> <td>A</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td></tr> <tr> <td>B</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td></tr> <tr> <td>C</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td></tr> <tr> <td>D</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td></tr> <tr> <td>E</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td><td>150 150</td></tr> </table>				区分	居室	前室	倉庫	WC・HWC	更衣室	A	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150	B	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150	C	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150	D	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150	E	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150	<b>■ ガラリ仕様</b> <table border="1"> <tr> <th>区分</th><th>A: 外部建具</th><th>B: 内部建具</th></tr> <tr> <td>開口率</td><td>30~40%</td><td>30~40%</td></tr> </table>				区分	A: 外部建具	B: 内部建具	開口率	30~40%	30~40%	<b>■ その他</b> <table border="1"> <tr> <th>区分</th><th>図面番号</th><th>図面名称</th></tr> <tr> <td>建築</td><td>D-401</td><td>建具一般事項-1</td></tr> <tr> <td>年月日</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2021年 1月</td><td></td><td></td></tr> </table>				区分	図面番号	図面名称	建築	D-401	建具一般事項-1	年月日			2021年 1月																																																																
区分	居室	前室	倉庫	WC・HWC	更衣室																																																																																																																														
A	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150																																																																																																																														
B	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150																																																																																																																														
C	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150																																																																																																																														
D	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150																																																																																																																														
E	150 150	150 150	150 150	150 150	150 150																																																																																																																														
区分	A: 外部建具	B: 内部建具																																																																																																																																	
開口率	30~40%	30~40%																																																																																																																																	
区分	図面番号	図面名称																																																																																																																																	
建築	D-401	建具一般事項-1																																																																																																																																	
年月日																																																																																																																																			
2021年 1月																																																																																																																																			
<b>■ 内部建具</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準的な扉枠には戸当りゴムを3ヶ所設ける。</li> <li>人の手に触れる扉部の塗装は手あか汚れ対応の水性内部用塗料を用いる。</li> <li>木板貼とあるものは、詳細図があるものを除き周囲壁同仕様の木材を貼るものとする。</li> </ul> <b>＜PS/EPS/点検扉＞</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>戸の取付け位置は巾木上を原則とし、隠しヒンジとする。</li> <li>PS、DS、EPSの小型点検口は、特記なき限り幅木上付とし、軸吊りヒンジとする。</li> </ul>				<b>■ 公共建築課長</b> <b>■ 主査等</b> <b>■ 担当者</b> <b>■ 工事名</b> 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事				<b>■ 図面番号</b> 図面番号 D-401 <b>■ 区分</b> 建築 <b>■ 縮尺</b> A1: 1/____ A3: 1/____																																																																																																																											

■ 建具一般事項2

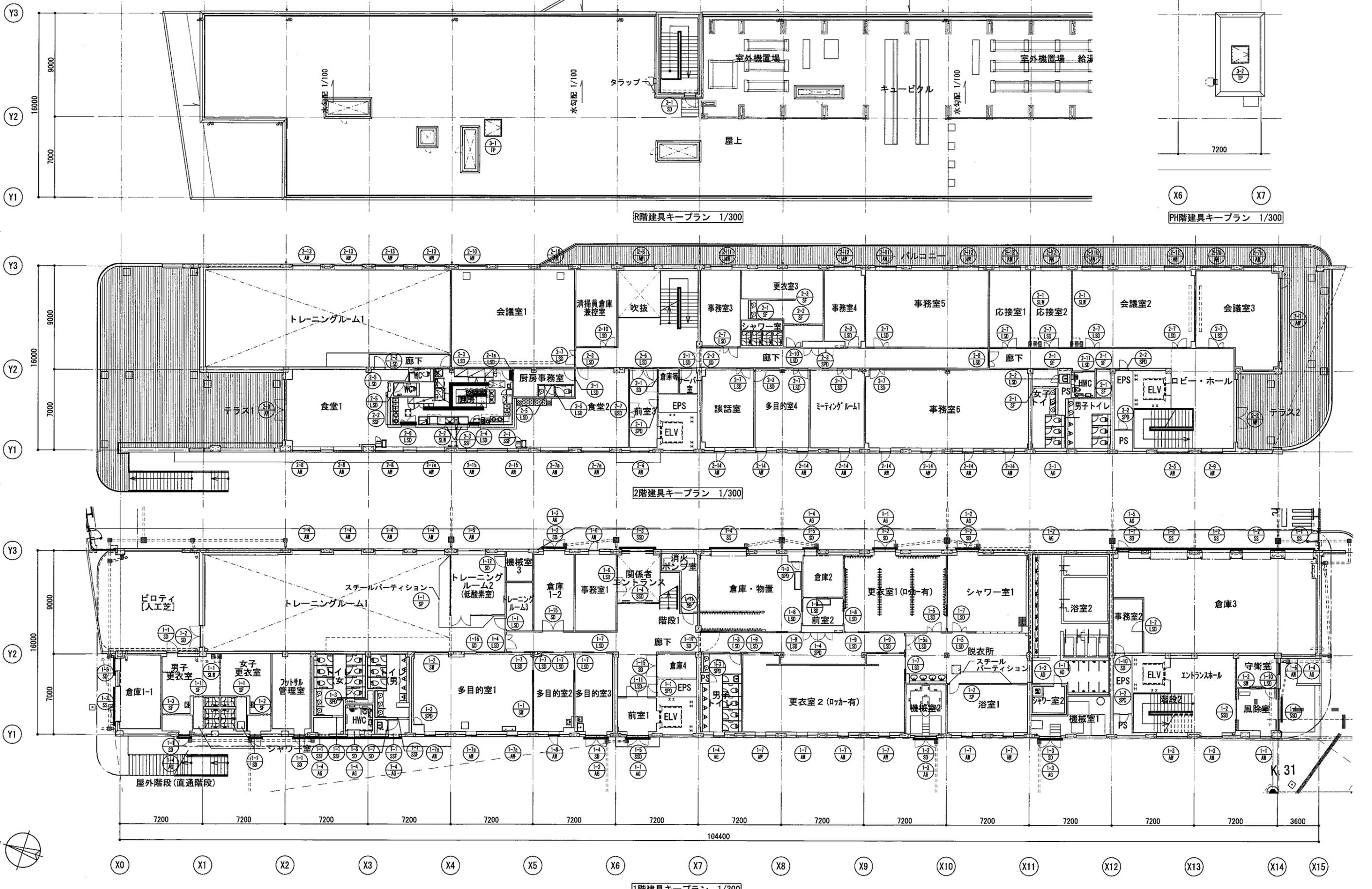
■ 工事区分

・配線工事で、建具アウトレットBOXより感知器または監視盤への配管、配線は電気設備工事とする。  
 ・建具操作の信号及び電源の配管、配線、接続工事は電気設備工事とし、その他は建具工事とする。



・自動ドアのセンサーは原則として無目下内蔵型とし、無目下に内蔵できない場合は、天井埋込型とする。  
 ・全ての自動ドアには戸先近接センサーと、地震感知器を設けることとする。

※片引き及び両引き自動ドアには、引込防止手摺を全て設けること。  
 (詳細は部分詳細図による)



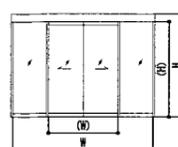
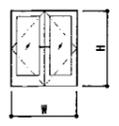
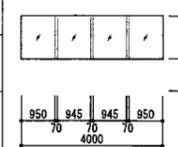
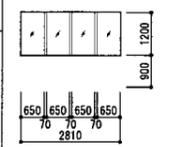
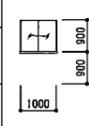
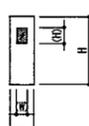
1階建具キープラン 1/300

R階建具キープラン 1/300

PH階建具キープラン 1/300

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	建具キープラン	D-403	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/150	A3: 1/300	2021年1月

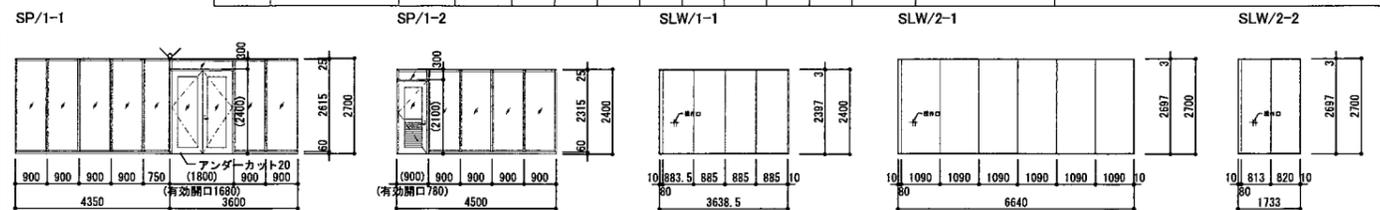


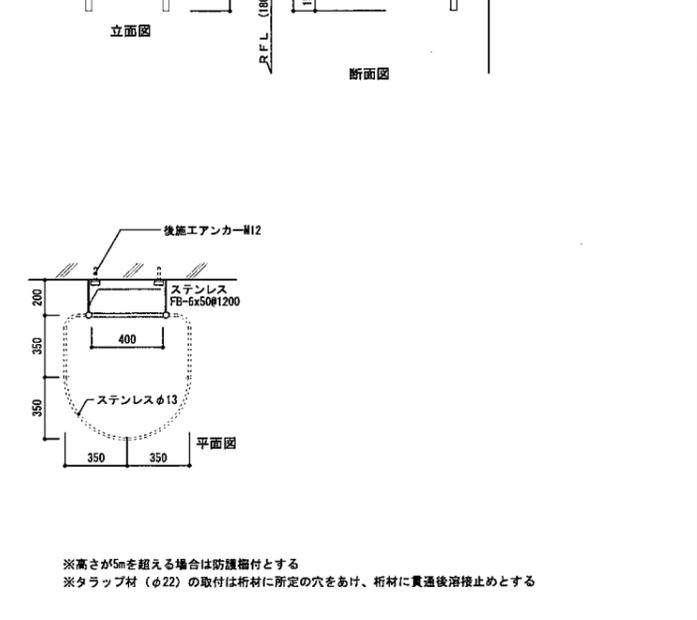
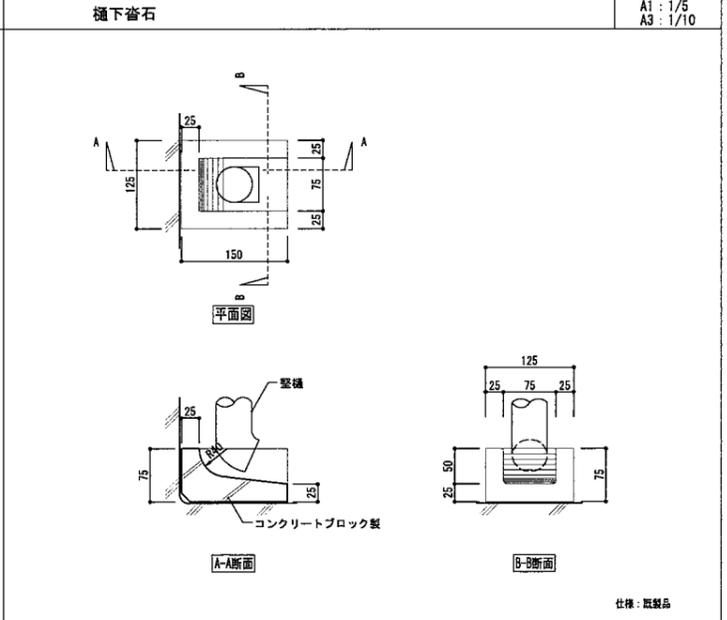
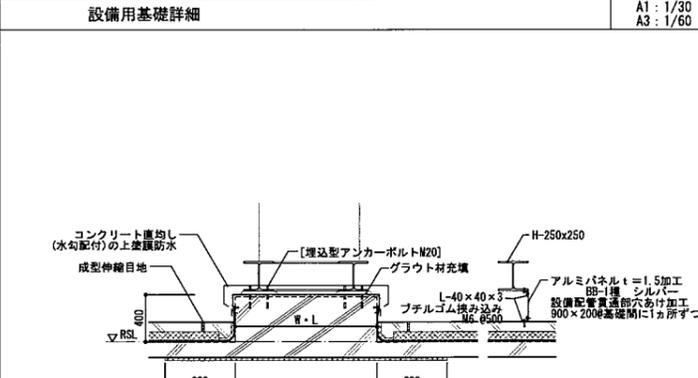
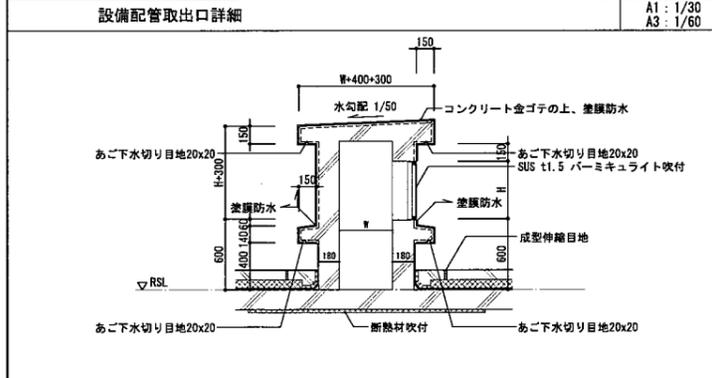
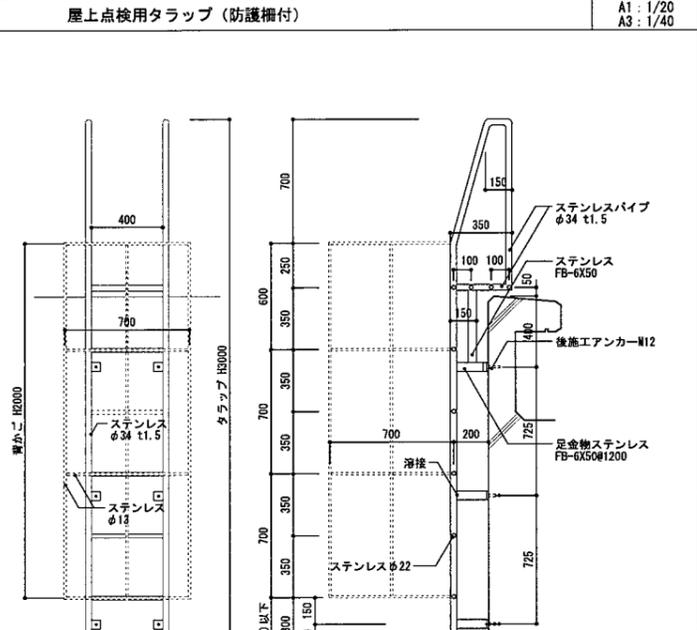
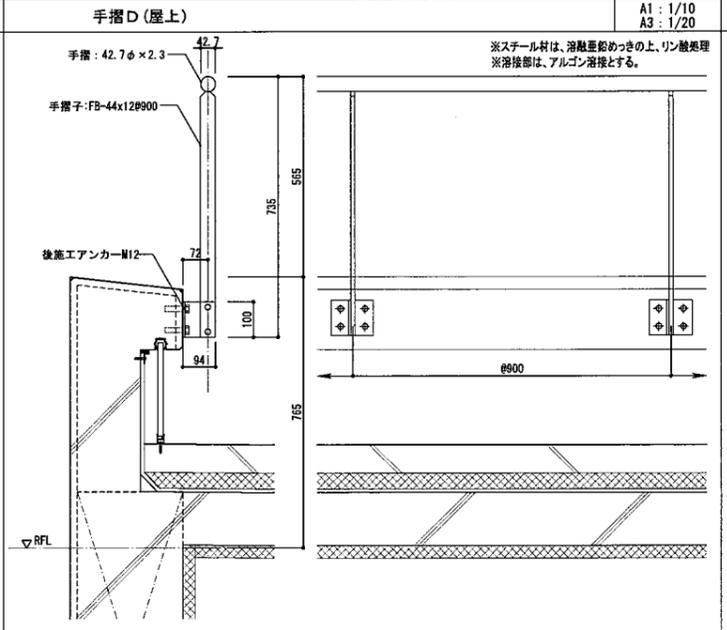
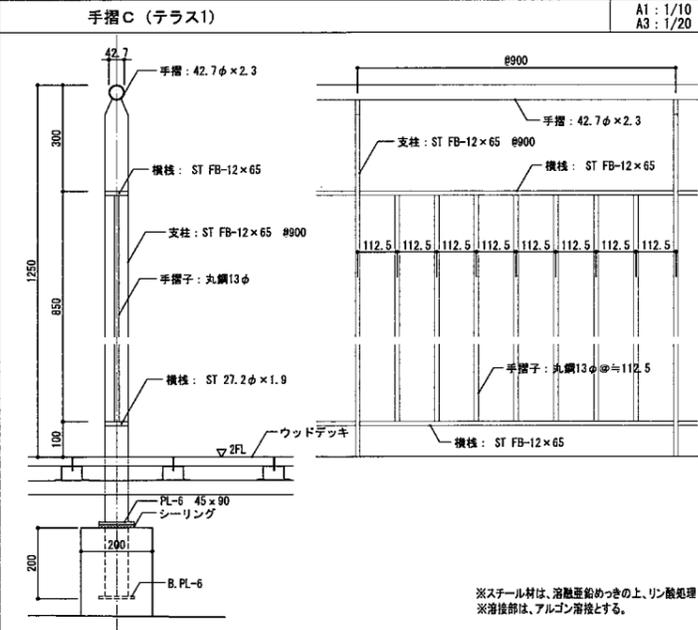
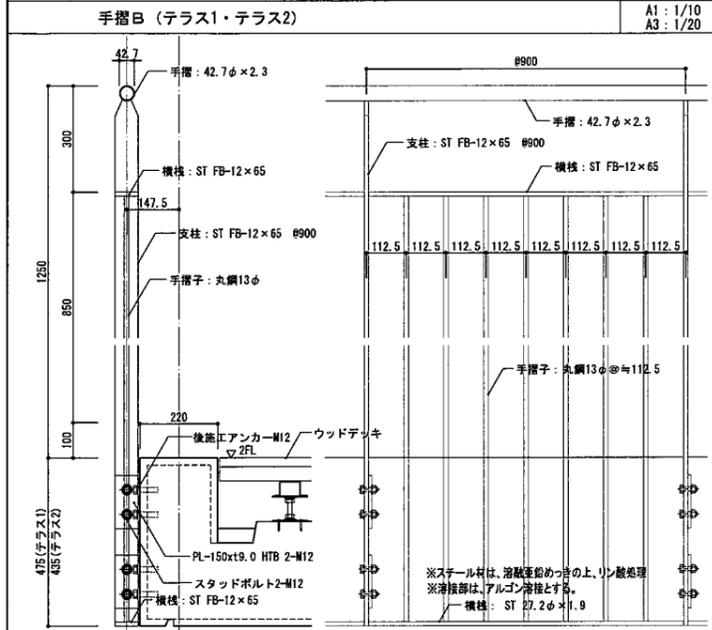
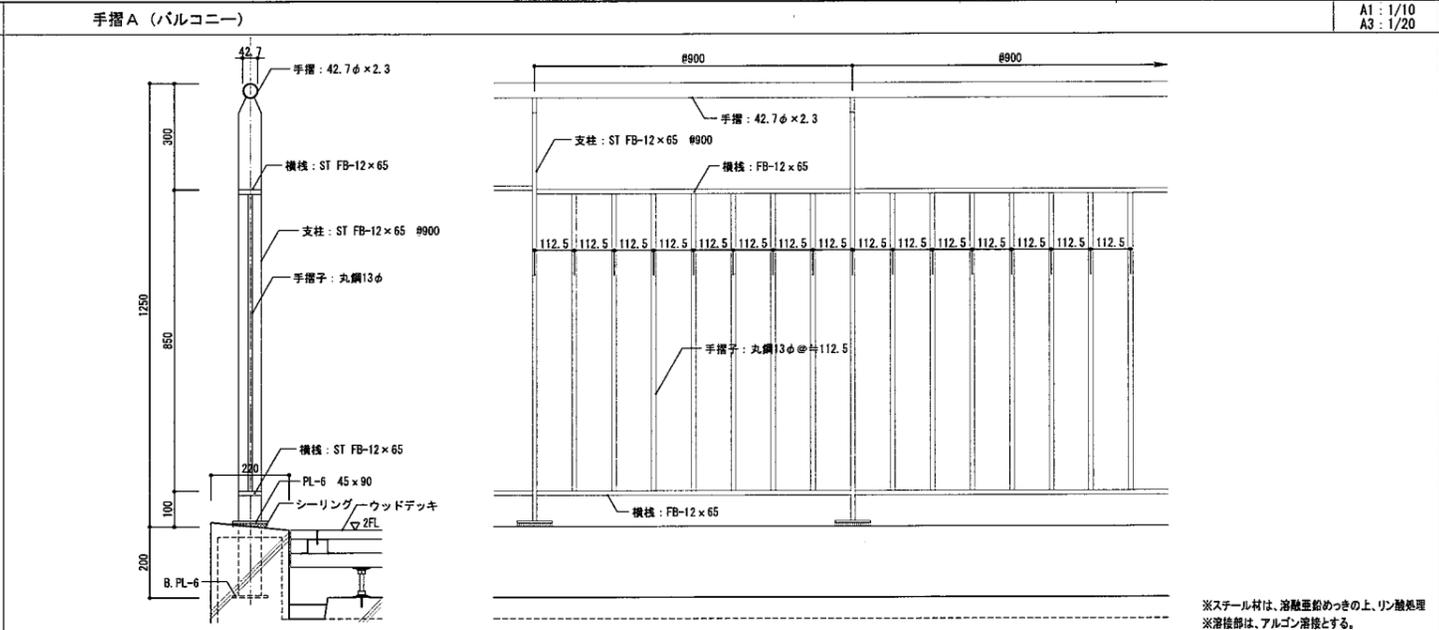
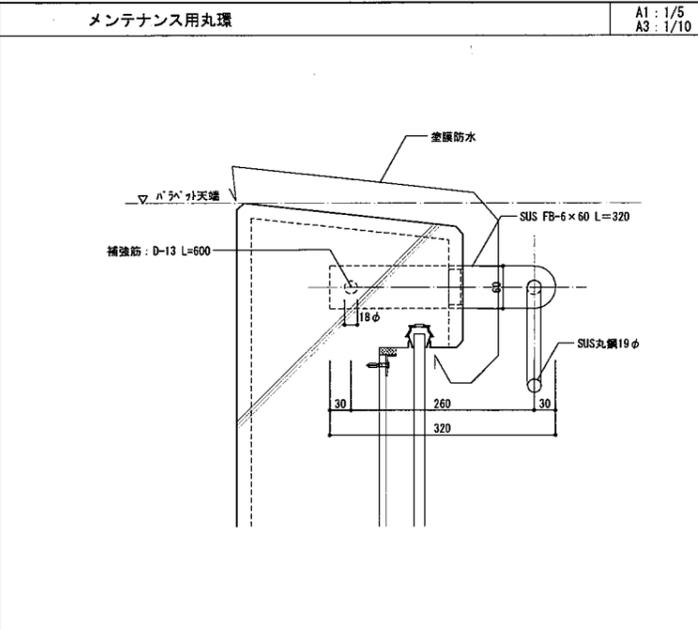
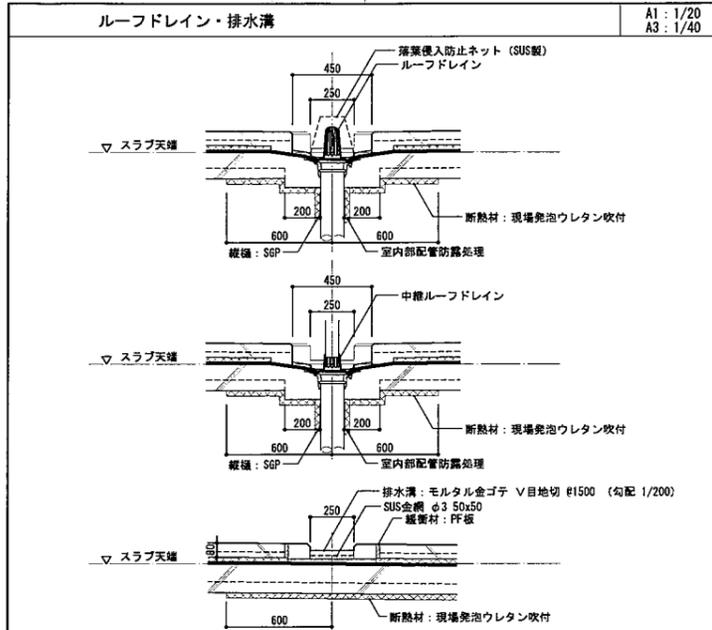
姿 図	記号	場 所	建具寸法		検見込	査攪形状	建具位置・数量				ガラスガラス形状	ガラス種別	仕 上	備 考	姿 図	記号	場 所	建具寸法		検見込	査攪形状	建具位置・数量				ガラスガラス形状	ガラス種別	仕 上	備 考			
			W	H			1F	2F	RF										W			H	1F	2F	RF							
 SSD/1-5 	①-1 SSD	風除室	3597	2905	170					1			TP 8	フッ素焼付塗装	引き分け自動ドア(袖FDX)、引込防止手摺×2 衝突防止サイン 守衛在館時は常時開錠とする	 SW/1-2  SW/1-3 	①-1 SW	多目的室1	4000	1200	70					1				TP 8	EP-G	
	①-2 SSD	風除室	3597	2905	170					1			TP 8	フッ素焼付塗装	引き分け自動ドア(袖FDX)、引込防止手摺×2 衝突防止サイン、電気錠、パニックオープン		①-2 SW	多目的室1	2810	1200	70				1			TP 8	EP-G			
	①-3 SSD	関係者エントランス	2700	2605	170					1			TP 8	フッ素焼付塗装	引き分け自動ドア(袖FDX)、引込防止手摺×2 衝突防止サイン、電気錠、パニックオープン		①-3 SW	守衛室	1000	900	70				1			TP 5	EP-G	吊り引違い窓		
	①-4 SSD	関係者エントランス	2700	2605	170					1			TP 8	フッ素焼付塗装	引き分け自動ドア(袖FDX)、引込防止手摺×2 衝突防止サイン、電気錠、パニックオープン																	
	①-5 SSD	前室1	1800	2100	100	E	1						TP 8	フッ素焼付塗装	電気錠  パニックオープン ・停電時に手動開放できるなど避難時に支障とならない構造 ・火災発生時にはすべての自動火災報知設備の感知器と連動して自動的に当該戸の施錠を解放 ・防災施設、設備の制御及び作動状況を集中的に監視する中央管理室(防災センター)その他これに類するものから施錠解放ができるもの																	
AD/1-1 	①-1 AD	シャワー室2	650	1900	382					1			PW6.8	電解着色による 引手:押し板 スプルス	断熱保温層 SUS片自由丁番 自閉、防火設備 室内側:スプルス t=12 張り																	
	①-2 AD	浴室2	1800	2100	100					1			B	TP 5 電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス:W600xH400																	

窓図	記号	場所	建具寸法		採見込	凸形状	建具位置・数量				ガラス形状	ガラス種別	仕上	備考	窓図	記号	場所	建具寸法		採見込	凸形状	建具位置・数量				ガラス形状	ガラス種別	仕上	備考
			W	H			1F	2F	RF	1F								2F	RF			W	H	1F	2F				
AW/1-1	AW/1-2	①-1 AW	900	2685	70			1				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/1-1	①-1 AG	前室1 更衣室1	1800	300	70				2			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.162㎡以上 チャンバー: 1800×600×400H[前室1] チャンバー: 1800×600×500H[更衣室1]	
		①-2 AW	1800	2685	70			1				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上		①-2 AG	多目的室3 シャワー室1	1800	600	70				4			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.540㎡以上 チャンバー: 2400×600×600H[多目的室3] チャンバー: 1800×600×600H[倉庫1-2] チャンバー: 1800×600×600H[シャワー室1] チャンバー: 1800×600×600H[浴室2]	
		①-3 AW	2700	2685	70			1				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/1-2		浴室2 倉庫1-2													
		①-4 AW	2400	1785	70			4				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上		①-3 AG	機械室1-2	1800	800	70				2			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.720㎡以上 チャンバー: 1800×600×600H[機械室1] チャンバー: 1800×600×600H[機械室2]	
		①-5 AW	2400	2035	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/1-3	①-4 AG	男子更衣室 トイレ(男/女)	900	600	70				7			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.270㎡以上 チャンバー: 1700×600×600H[男子更衣室] チャンバー: 1800×600×600H[トイレ(女)] チャンバー: 1700×600×600H[トイレ(男)] チャンバー: 900×600×600H[男子トイレ] チャンバー: 800×600×600H[守衛室] チャンバー: 1300×600×600H[倉庫2]	
AW/1-3	AW/1-6	①-6 AW	900	900	70			2				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上			HWC 守衛室													
		①-7 AW	900	575	70			6				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/1-4		倉庫2 男子トイレ													
		①-7a AW	900	875	70			3				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上		①-5 AG	倉庫3	900	800	100				1			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.360㎡以上 チャンバー: 1500×600×600H	
		①-8 AW	900	1185	70			1				Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/1-5															
		②-1 AW	7200	3100	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	AG/2-1	②-1 AG	女子トイレ	1800	550	70				1			A	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上	ガラス有効開口面積 0.495㎡以上 チャンバー: 1800×600×550H	
		②-2 AW	5400	3100	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-3 AW	5200	3100	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-4 AW	1600	2875	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-5 AW	2700	3075	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-6 AW	2600	2985	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-7a AW	2400	2875	70			3			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-7b AW	2400	2920	70			2			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-8 AW	2400	2875	70			3			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-9 AW	1800	3075	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-10 AW	2400	2150	70			2			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-11 AW	1800	2920	70			2			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-11b AW	1800	2920	70			1			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-12 AW	1800	2150	70			5			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-13 AW	2400	2150	70			4			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-14 AW	900	2300	70			8			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																
		②-15 AW	900	900	70			2			A	Low-E6 +AG+FL6	電解着色による 陽極酸化複合被膜仕上																



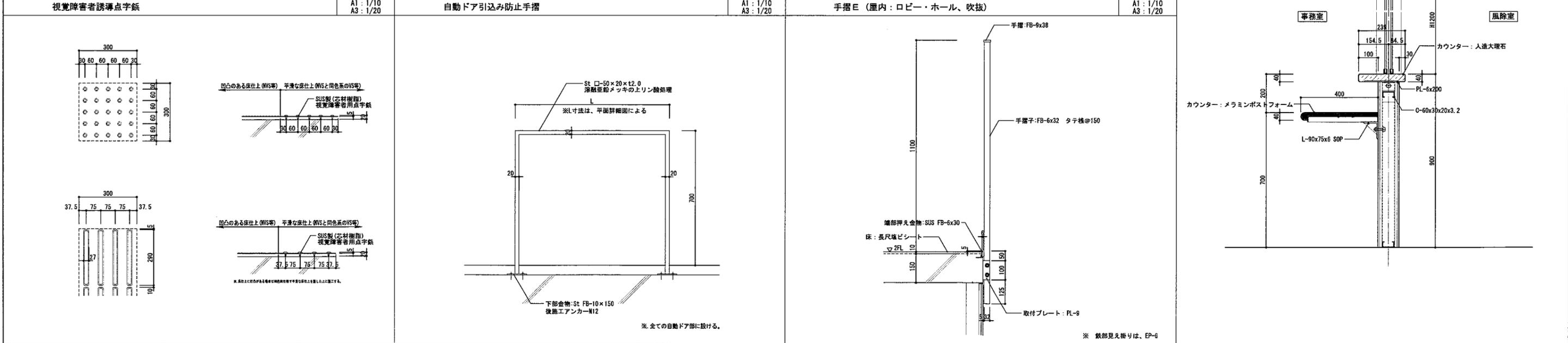
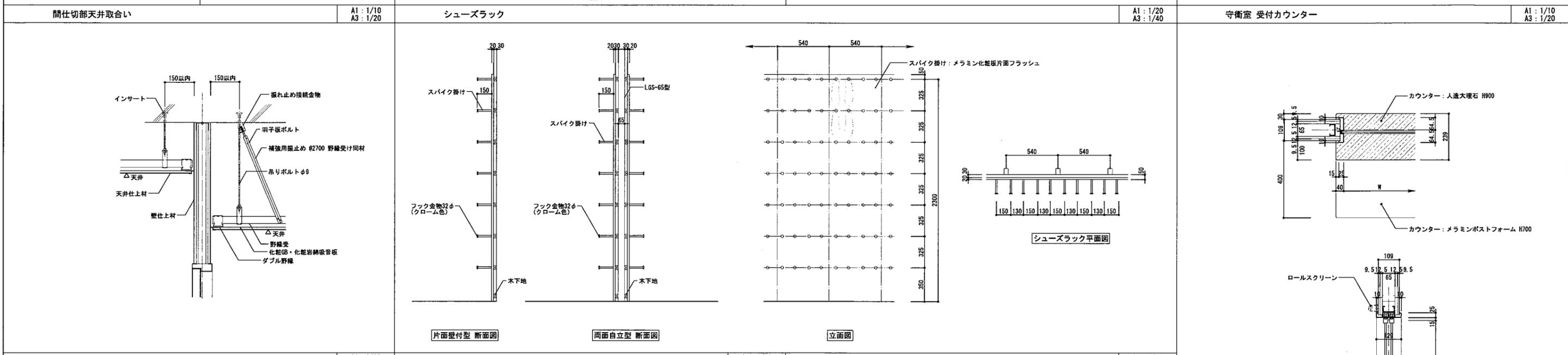
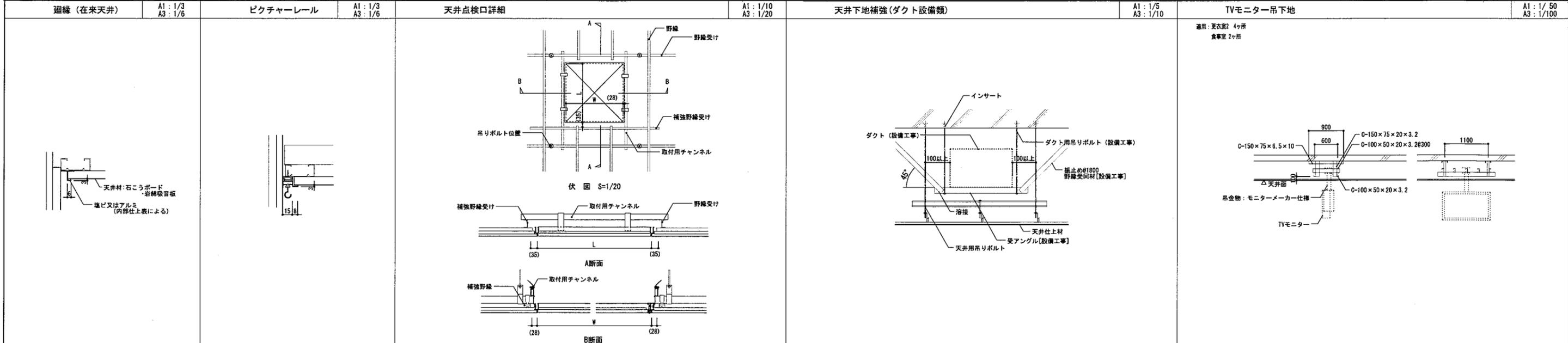
姿 図	記号	場 所	建具寸法		枠見込	枠形状	建具位置・数量				ガラスガラリ形状	ガラス種別	仕 上	備 考	姿 図	記号	場 所	建具寸法		枠見込	枠形状	建具位置・数量				ガラスガラリ形状	ガラス種別	仕 上	備 考				
			W	H			1F	2F	RF	1F								2F	RF			W	H	1F	2F					RF			
	①-1 SF	シャワー室	820	2400			2						EP-G	三方枠		①-1 SP	トレーニングルーム2	4350+3600 (1800)	2700 (2400)				1					TP 8	焼き付け塗装				
	①-2 SF	女子更衣室	900	2400			1						EP-G	三方枠		①-2 SP	浴室1	4500 (900)	2400 (2100)				1			B	TP 8	焼き付け塗装	ガラリ:W500xH700				
	①-3 SF	男子更衣室	1100	2400			1						EP-G	三方枠																			
	②-1 SF	シャワー室 男子トイレ 女子トイレ	900	2400			5						EP-G	三方枠		①-1 SLW	男子・女子更衣室	3638.5	2397				1								カラー鋼板(t0.5)	パネル厚:160	
	②-2 SF	更衣室3	1200	2115			1						EP-G	三方枠		②-1 SLW	応接室1・2	6640	2697				2						カラー鋼板(t0.8)	パネル厚:180、充填剤:グラスウール24kg/m³			
	②-3 SF	更衣室3		2700			1						EP-G	一方枠		②-2 SLW	食堂1・2	1733	2697				1							カラー鋼板(t0.5)	パネル厚:160		
	①-1 SSF	トイレ(男) トイレ(女)	900	2115			4						HL	三方枠		③-1 TP	厨房	1300	1300				1										アルミ押出型材
	②-1 SSF	厨房	5279.5	900	205		1						HL	三方枠、W=2869.5+2410		③-2 TP	階段1	1300	1300				1							アルミ押出型材			
	②-2 SSF	厨房	2354	900	205		1						HL	三方枠																			
	②-3 SSF	厨房	900	900	205		2						HL	三方枠																			

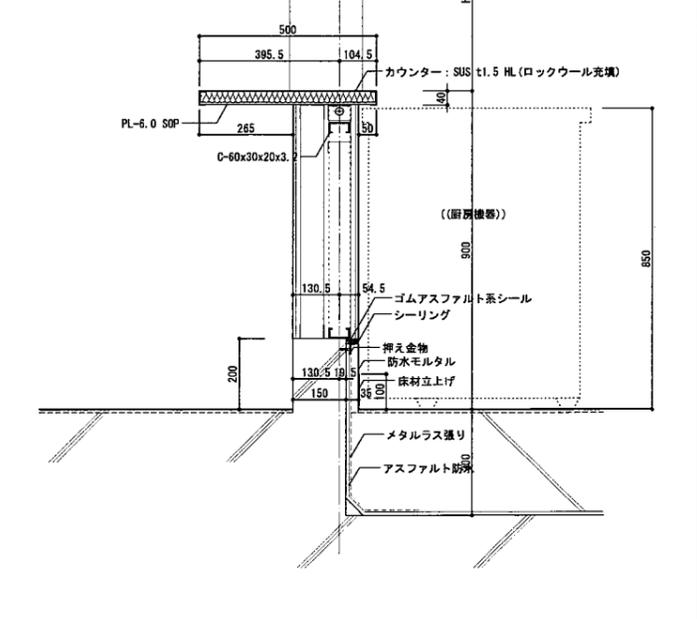
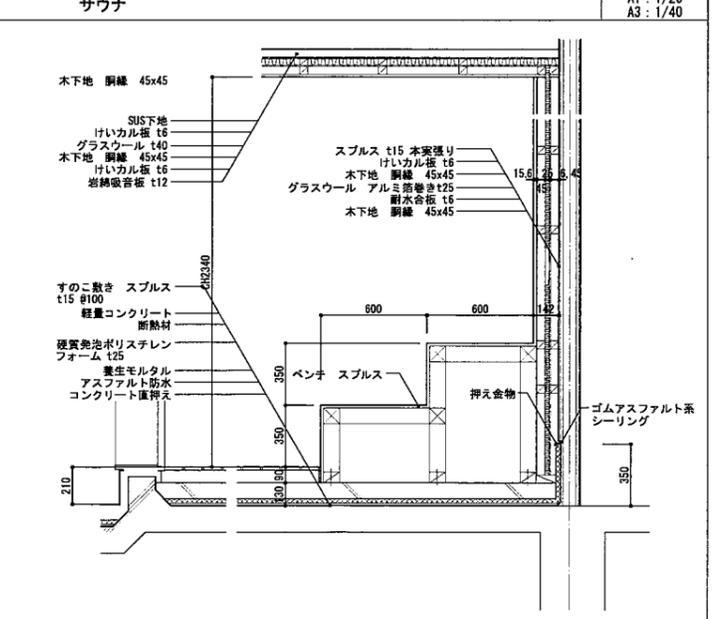
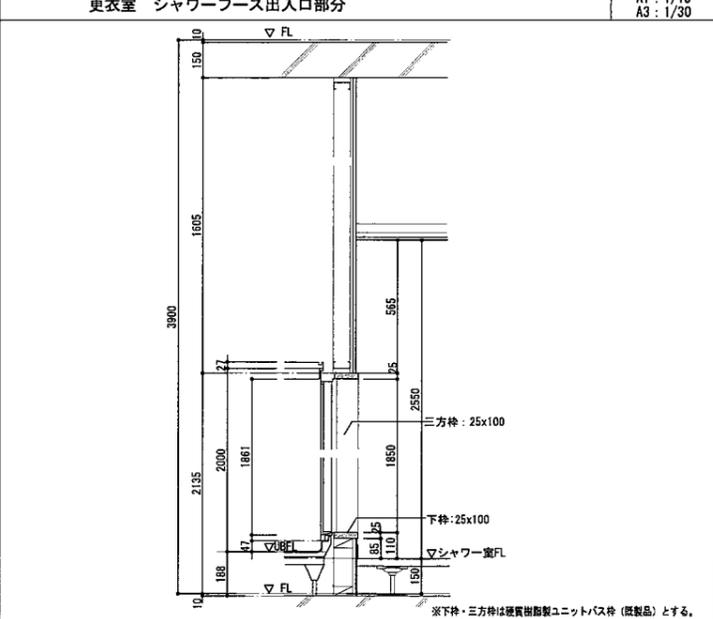
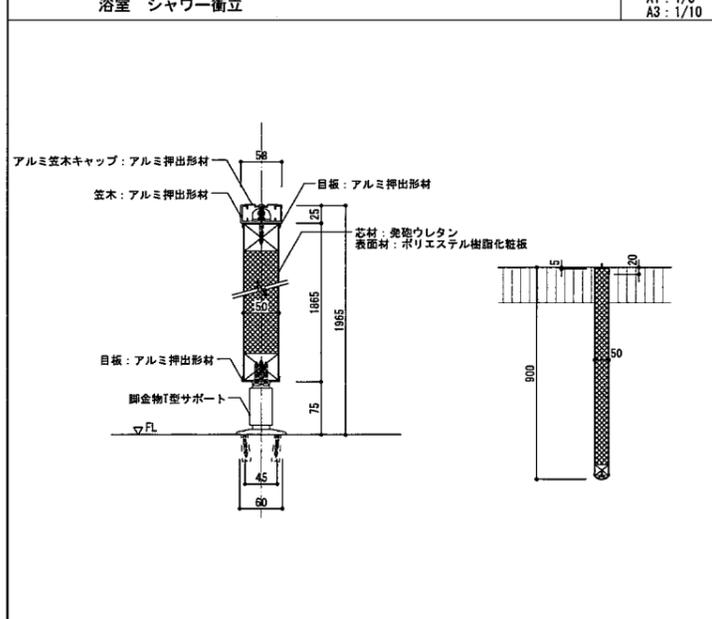
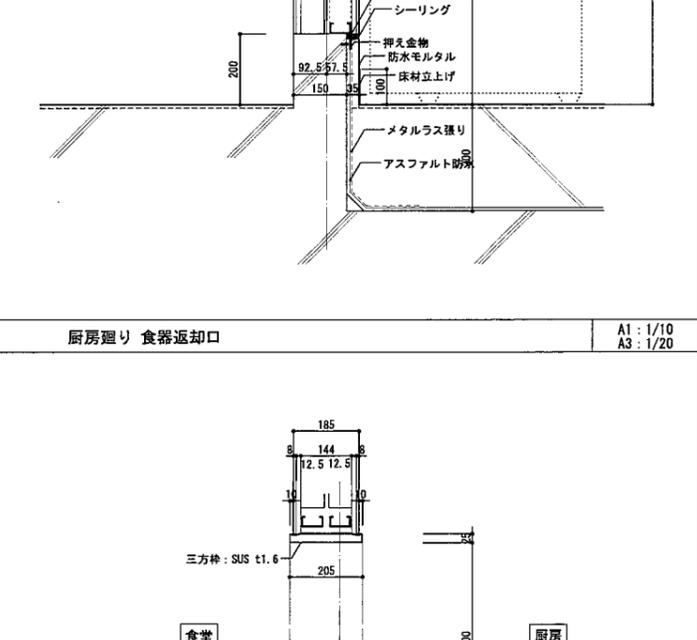
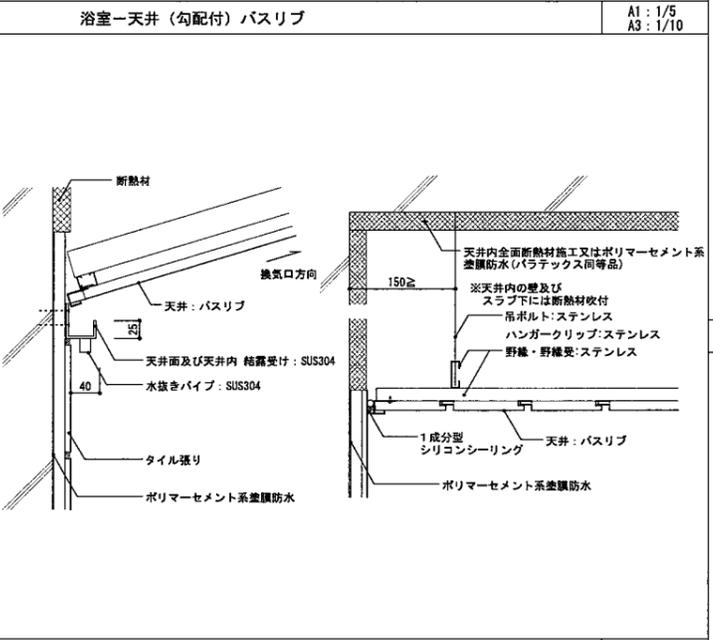
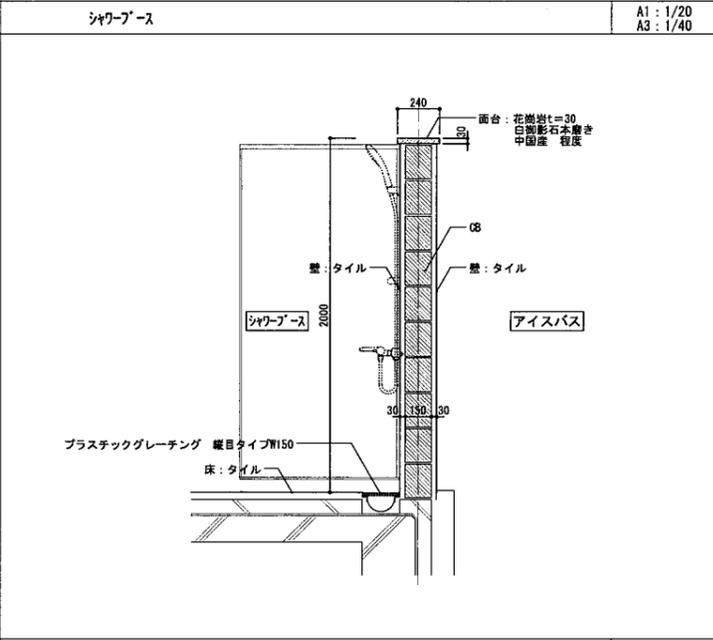
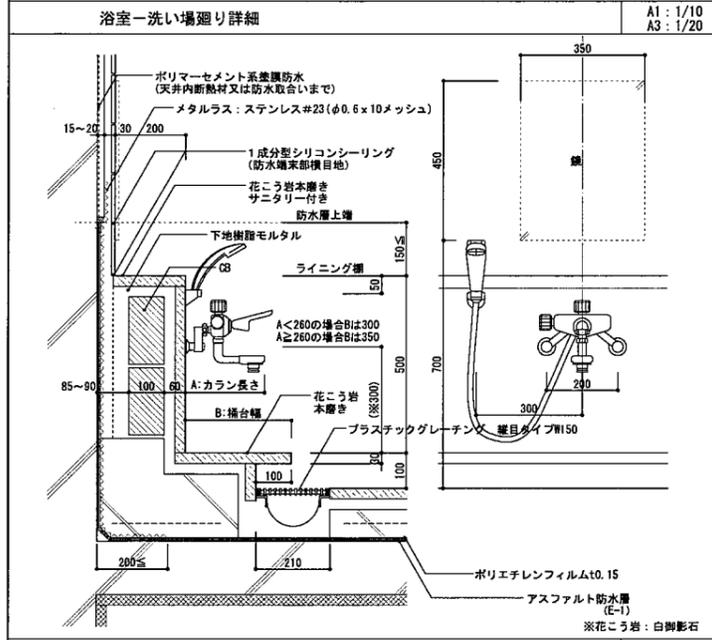
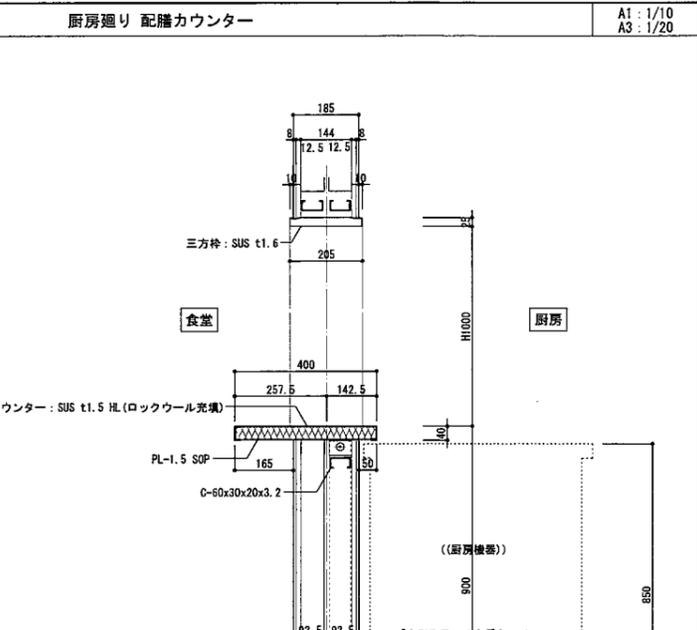
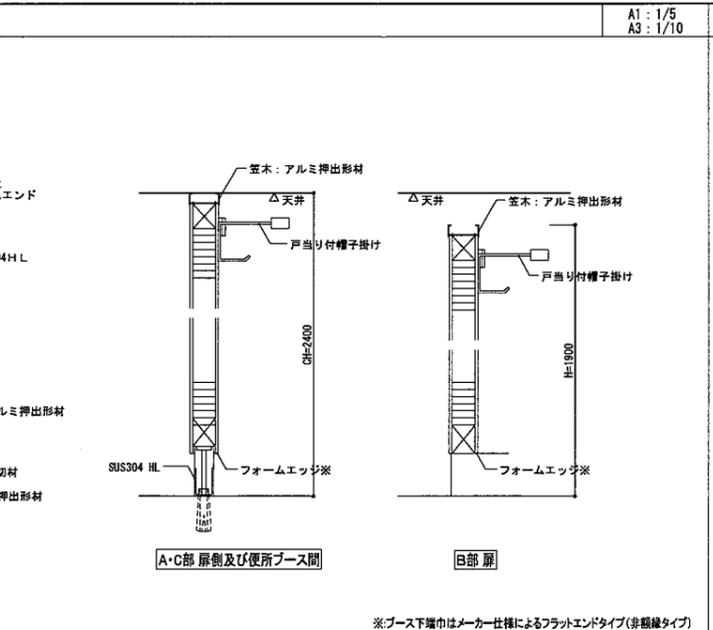
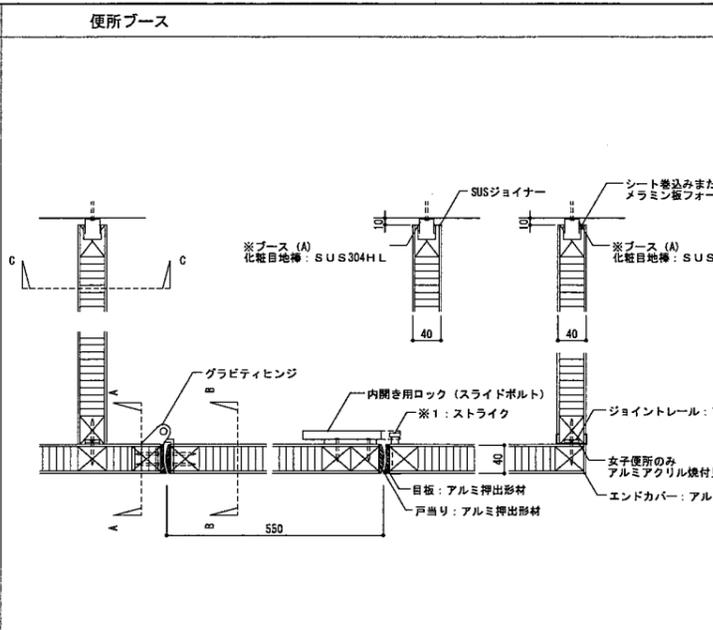
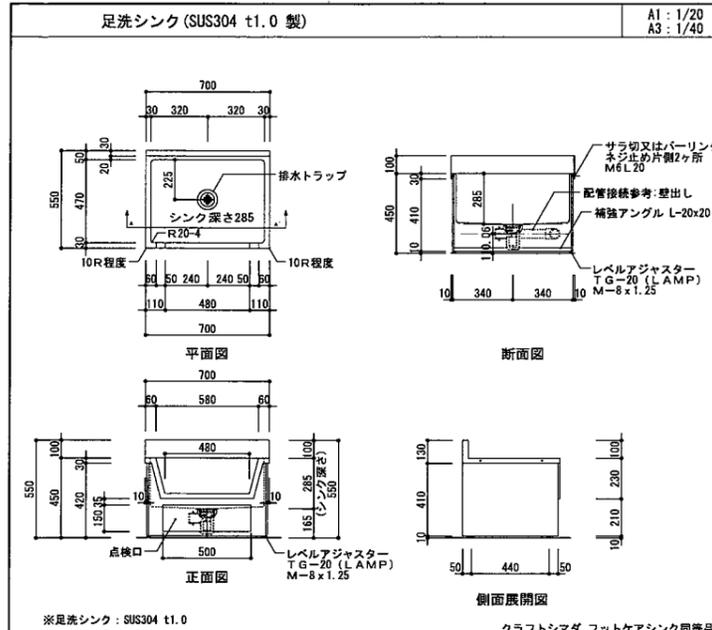


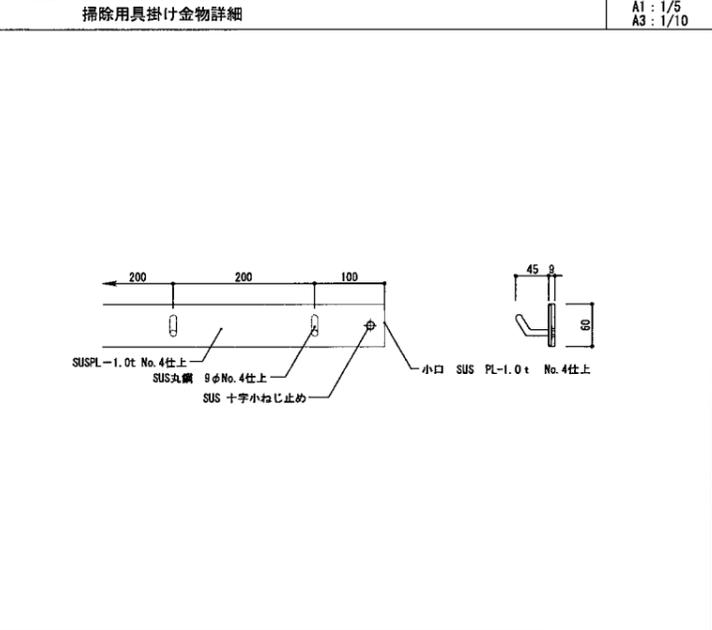
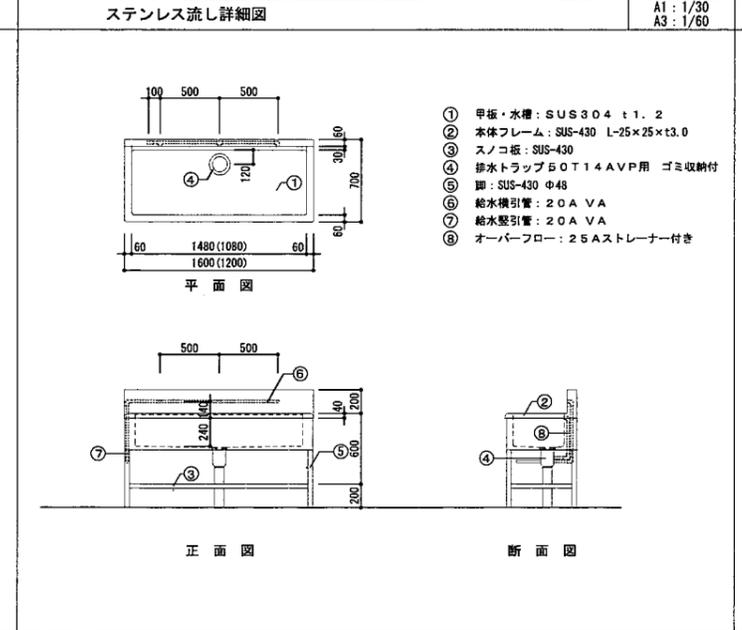
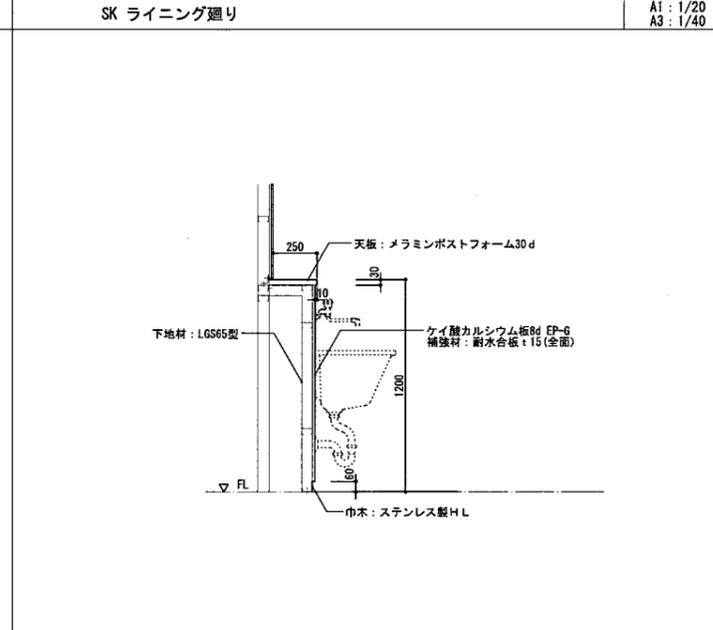
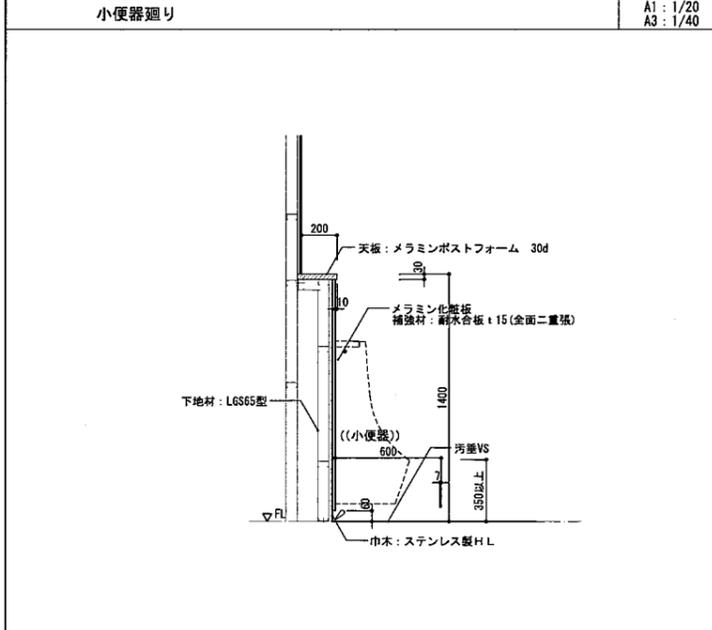
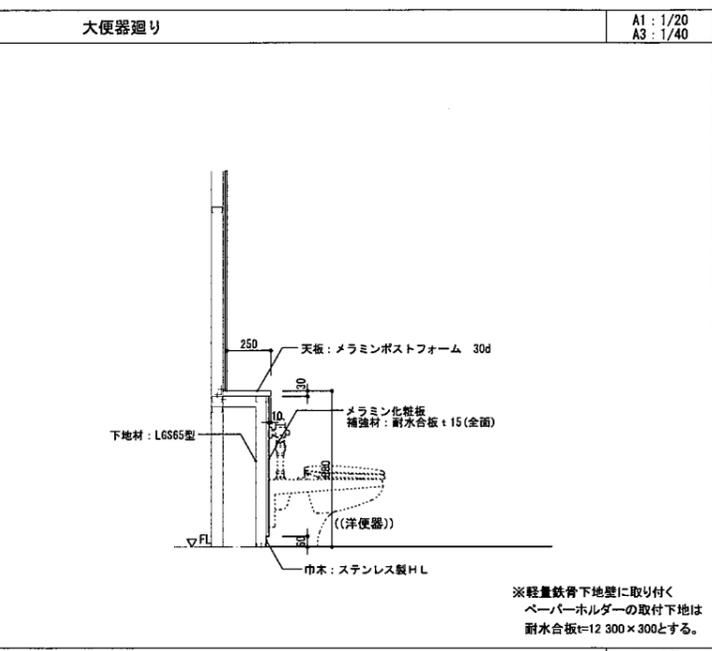
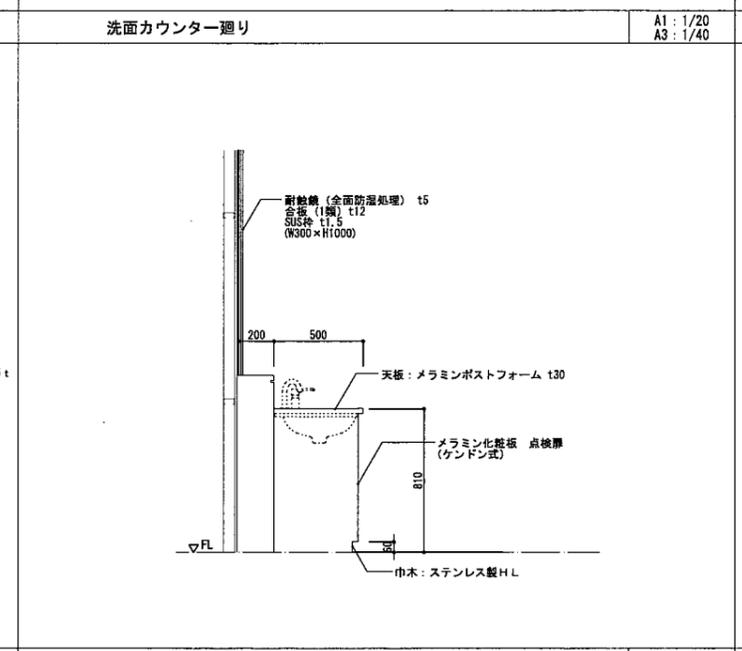
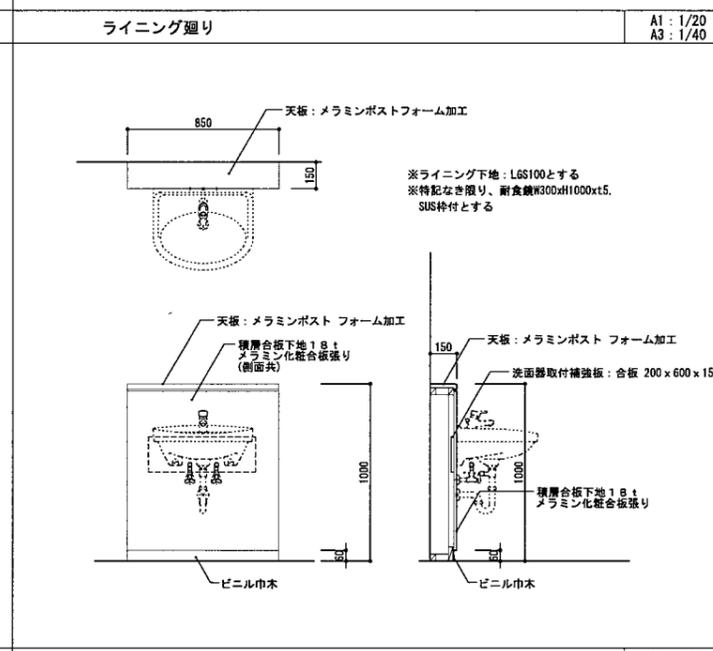
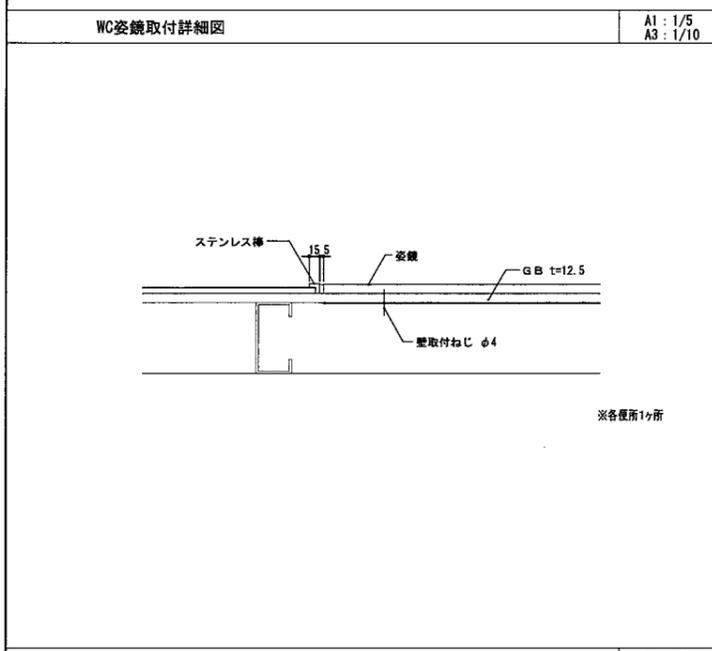
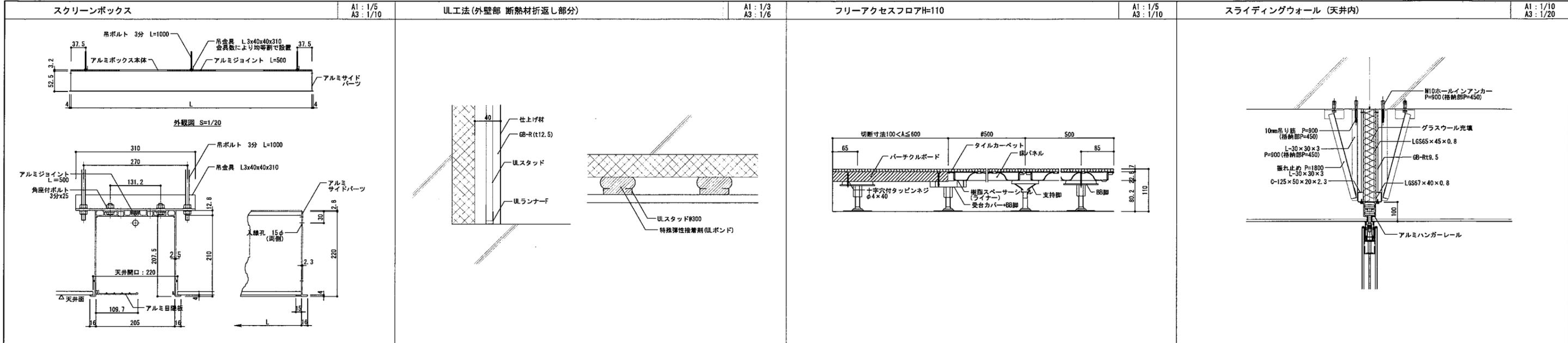


**ハト小屋**

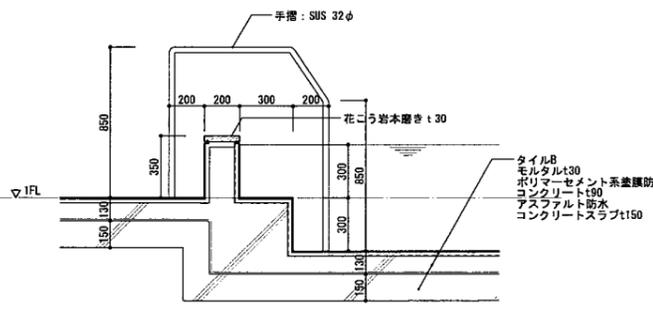
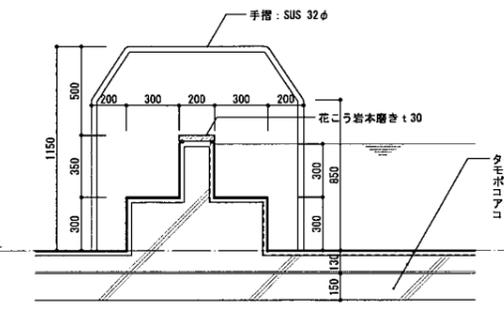
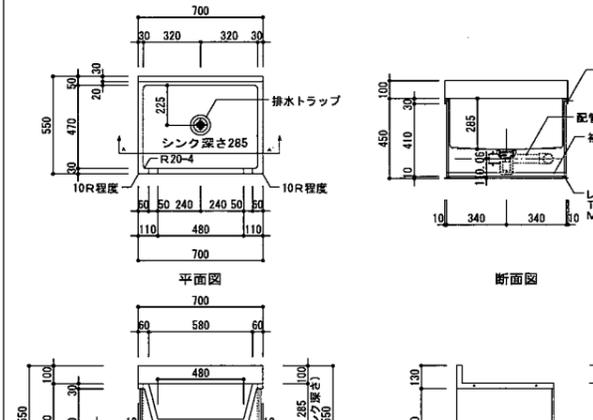
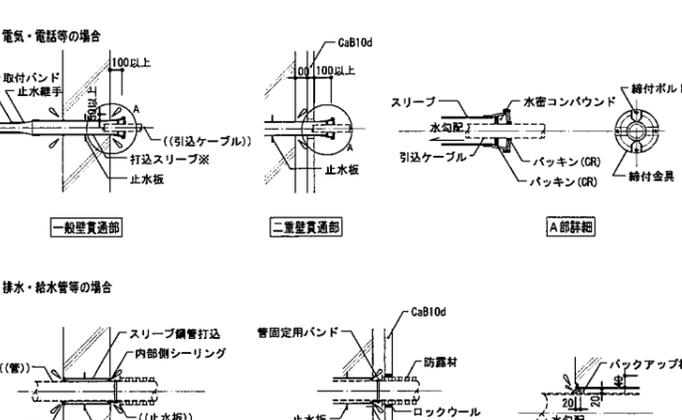
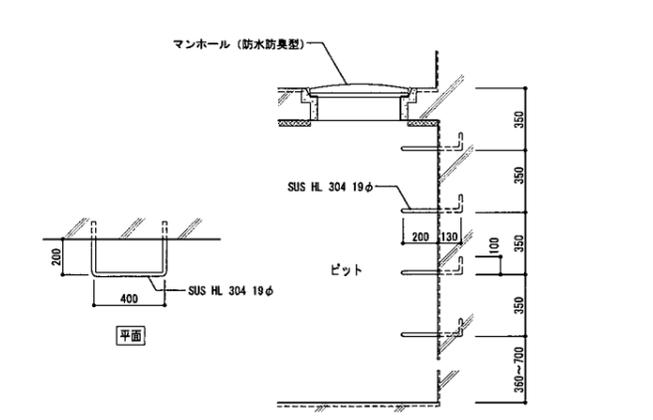
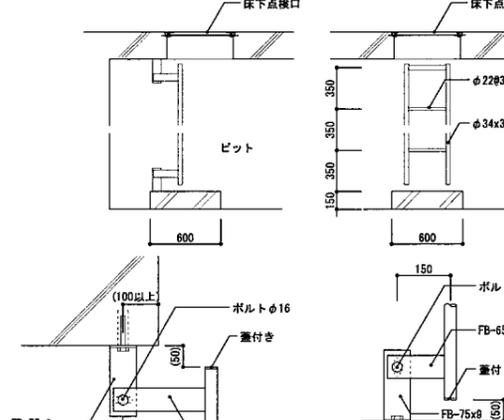
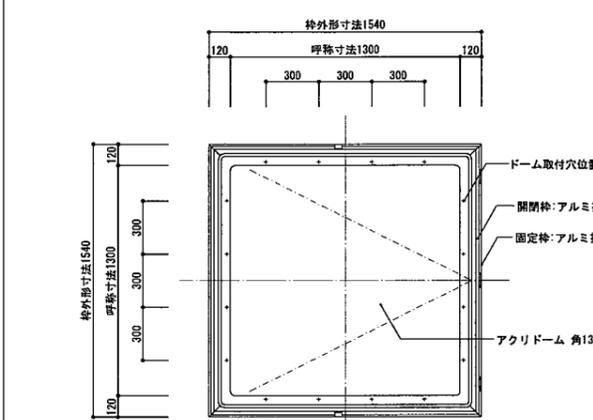
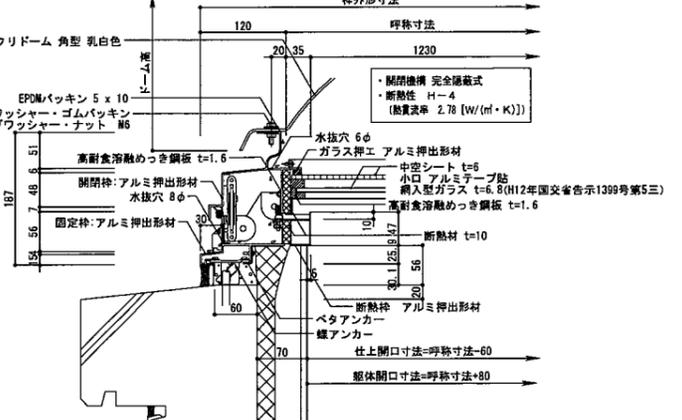
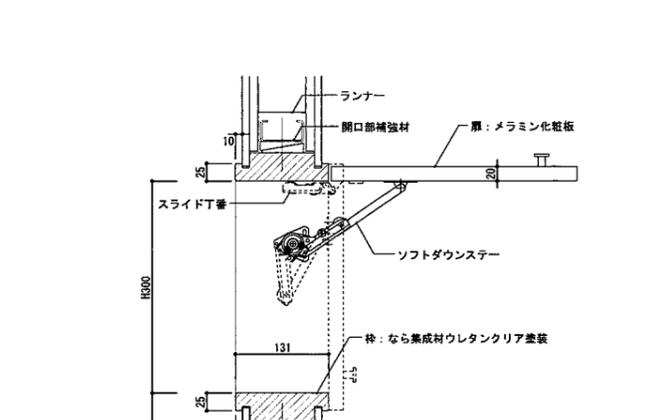
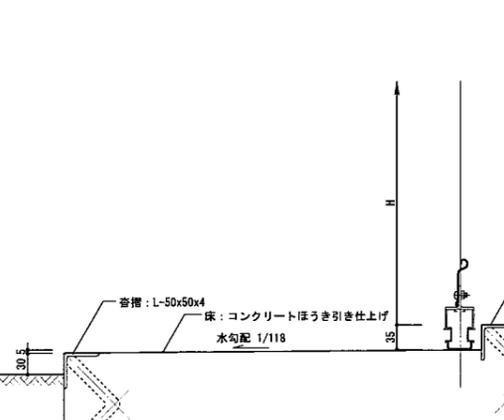
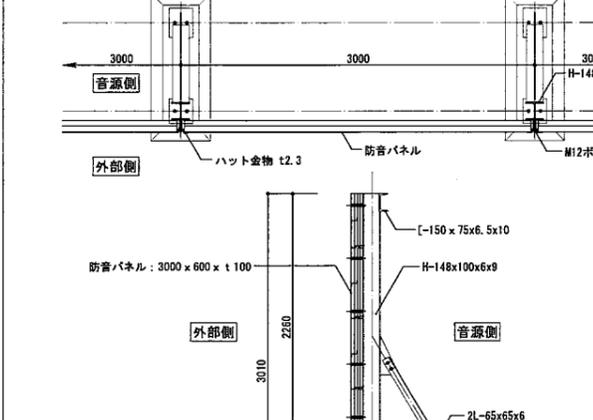
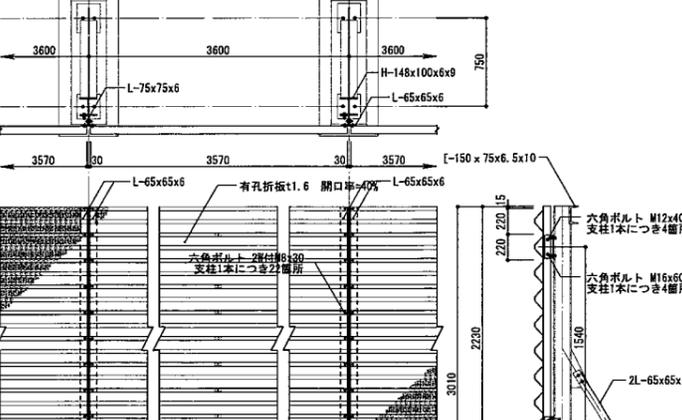
	L	W	H	備考
ハト小屋1	34000	1130	1100	DS用トレーニングルーム換気
ハト小屋2	1135	1175	650	PS用
ハト小屋3	3400	1000	1000	DS用厨房換気
ハト小屋4	3275	1200	650	
ハト小屋5	3600	500	650	PS用
ハト小屋6	1735	1600	650	PS用
ハト小屋7	3975	1600	650	PS用





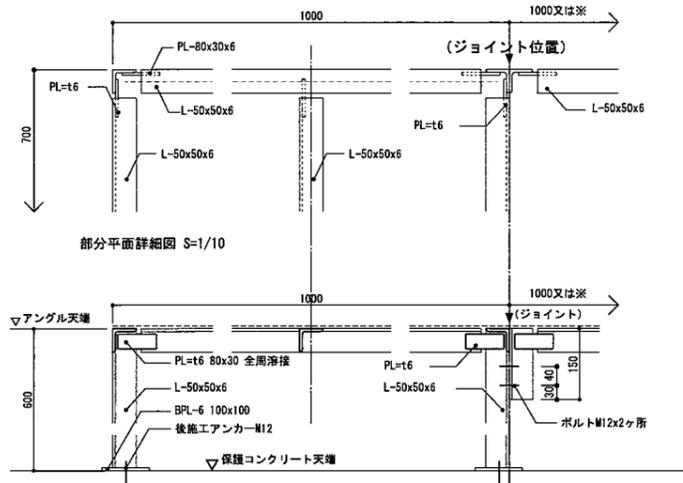
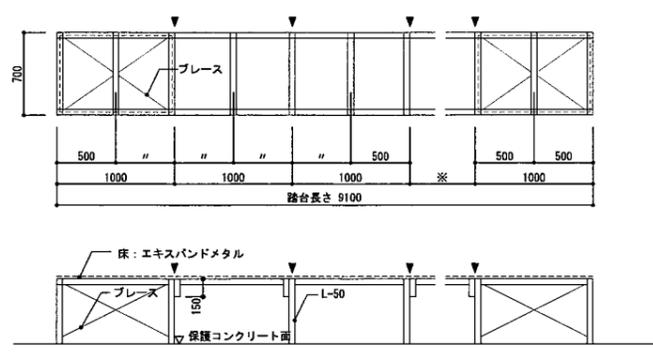


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	部分詳細図-4	D-504	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/図示 A3: 1/図示	2021年 1月	

<p>冷・温浴槽 詳細</p> <p>A1: 1/20 A3: 1/40</p> 	<p>アイスバス 詳細</p> <p>A1: 1/20 A3: 1/40</p> 	<p>足洗シンク (SUS304 t1.0 製)</p> <p>A1: 1/20 A3: 1/40</p>  <p>※足洗シンク: SUS304 t1.0 クラフトシマダ フットケアシンク同等品</p>	<p>躯体配管貫通部処理</p> <p>A1: 1/30 A3: 1/60</p>  <p>※配管は設置工事とし、配管、スリーブ、シールは全て建築工事とする。</p>													
<p>ピットタラップ (壁面打込型)</p> <p>A1: 1/20 A3: 1/40</p>  <p>※材質は特記なき限りステンレスSUS304 HL仕上とする。</p>	<p>ピットタラップ (後付け型)</p> <p>A1: 1/30 A3: 1/60</p>  <p>&lt;上部&gt;材質 ステンレス S=1/10 &lt;下部&gt;材質 ステンレス S=1/10</p>	<p>トップライト</p> <p>A1: 1/5 A3: 1/10</p>  <p>ドーム伏図 S=1:20</p>	 <p>※閉鎖機構 完全隠蔽式 ・断熱性 H-4 (断熱率 2.78 [W/(m²・K)])</p> <p>ステンレスボルト・ワッシャー・ゴムパッキン スプリングワッシャー・ナット 別品</p>													
<p>バスルー詳細</p> <p>A1: 1/5 A3: 1/10</p> 	<p>シャッター下部詳細</p> <p>A1: 1/5 A3: 1/10</p> 	<p>屋上防音壁詳細</p> <p>A1: 1/30 A3: 1/60</p> 	<p>屋上目隠し壁詳細</p> <p>A1: 1/30 A3: 1/60</p> 													
<table border="1"> <tr> <td data-bbox="47 1932 296 2032">公共建築課長</td> <td data-bbox="296 1932 593 2032">主査等</td> <td data-bbox="593 1932 890 2032">担当者</td> <td data-bbox="890 1932 1380 2032">工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事</td> </tr> <tr> <td colspan="3">図面名 部分詳細図-5</td> <td>図面番号 D-505</td> </tr> <tr> <td colspan="3">縮尺 A1: 1/図示 A3: 1/図示</td> <td>年月日 2021年 1月</td> </tr> </table>					公共建築課長	主査等	担当者	工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	図面名 部分詳細図-5			図面番号 D-505	縮尺 A1: 1/図示 A3: 1/図示			年月日 2021年 1月
公共建築課長	主査等	担当者	工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事													
図面名 部分詳細図-5			図面番号 D-505													
縮尺 A1: 1/図示 A3: 1/図示			年月日 2021年 1月													

屋上キュービクル踏台詳細

A1: 1/30  
A3: 1/60



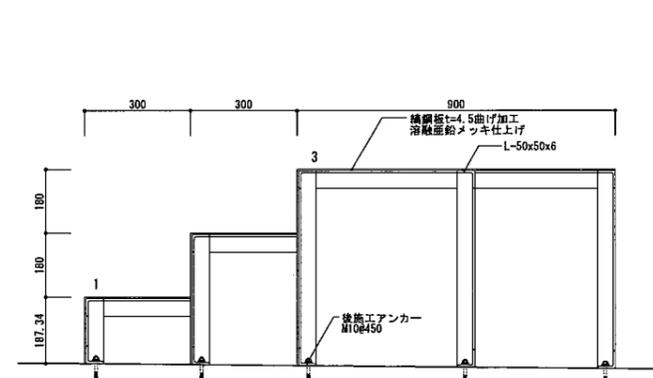
部分平面詳細図 S=1/10

部分断面詳細図 S=1/10

- ▼ 分割を示す
- ・ 部材共通事項
  - 1) アンクル-L-50x50x6
  - 2) プレース-鉄筋φ12
  - 3) ボルト-M12
  - ・ 部材は溶融亜鉛めっき
  - ・ 部材取合いは工場溶接、ジョイント部分はボルト締め

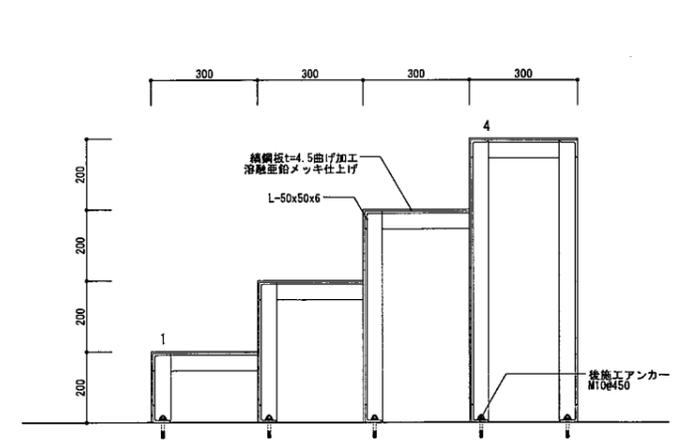
屋上 階段1出入口階段詳細

A1: 1/10  
A3: 1/20



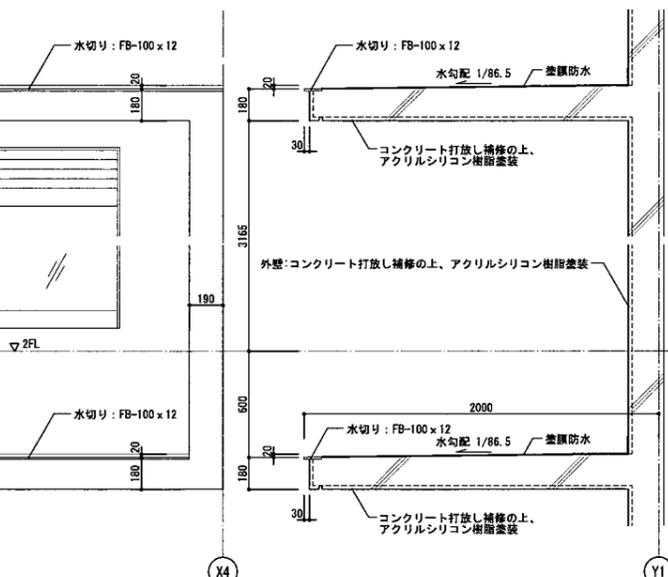
機械室1・2出入口階段詳細

A1: 1/10  
A3: 1/20



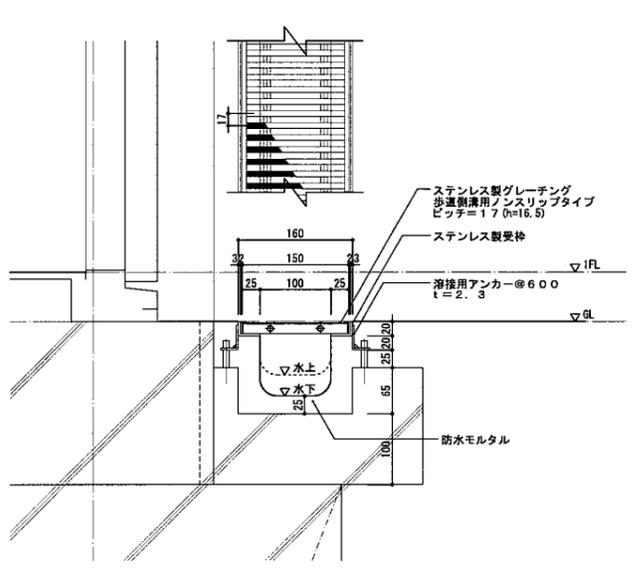
RC庇 (X1-X4間)

A1: 1/20  
A3: 1/40



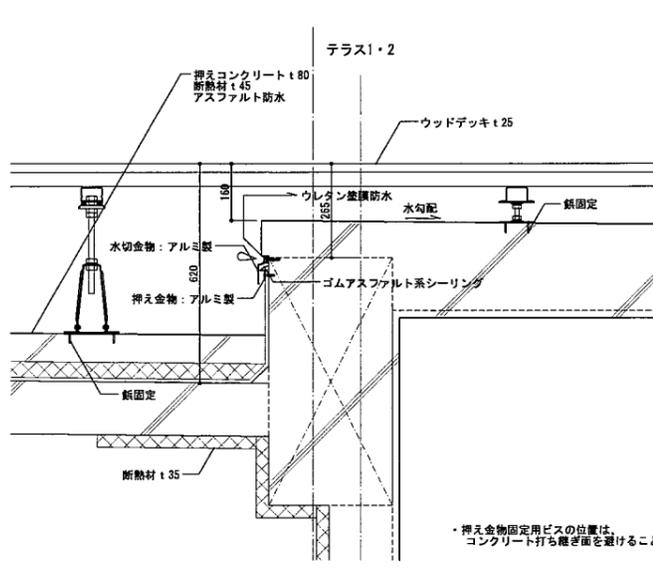
開口部前グレーティング (1階)

A1: 1/5  
A3: 1/10



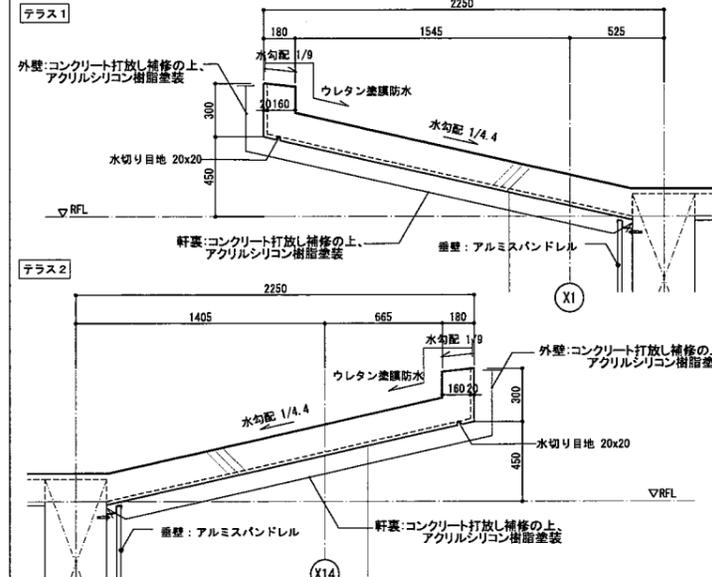
テラス防水納まり

A1: 1/10  
A3: 1/20



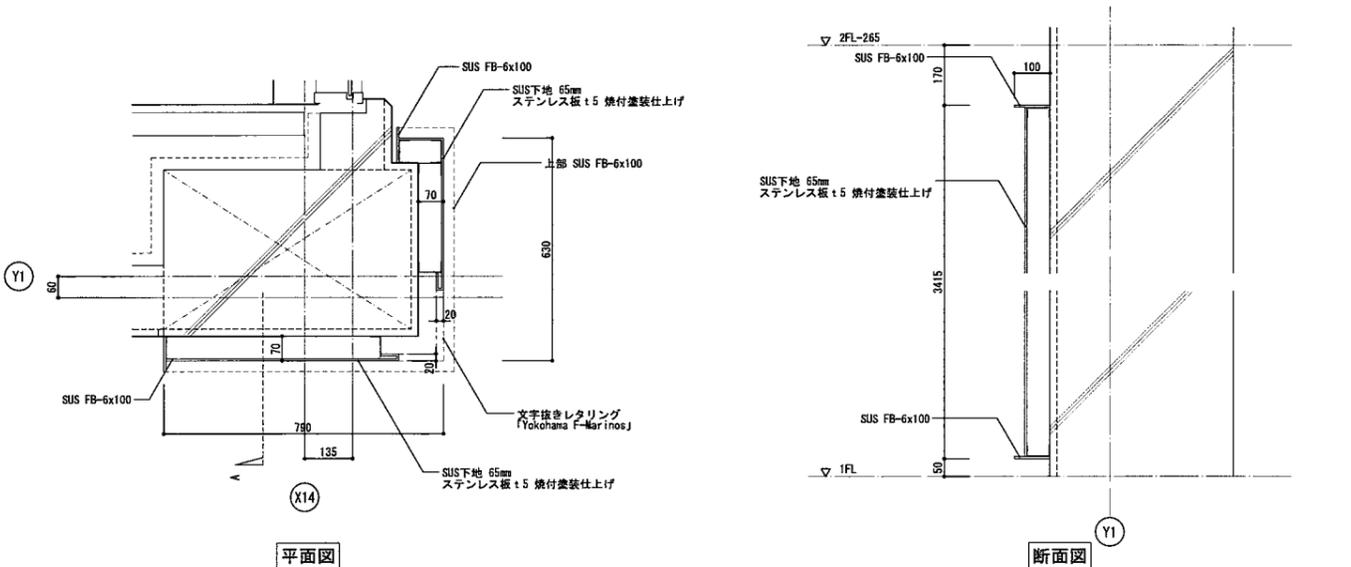
テラス1・2 軒底詳細

A1: 1/20  
A3: 1/40



サインボード詳細

A1: 1/10  
A3: 1/20



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

部分詳細図-6

縮尺

A1: 1/— A3: 1/—

図面番号

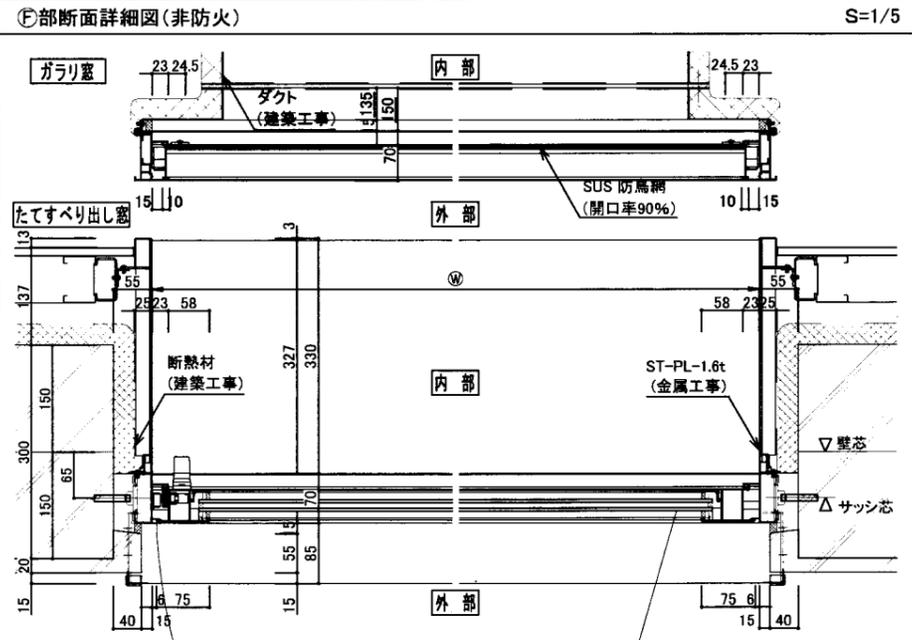
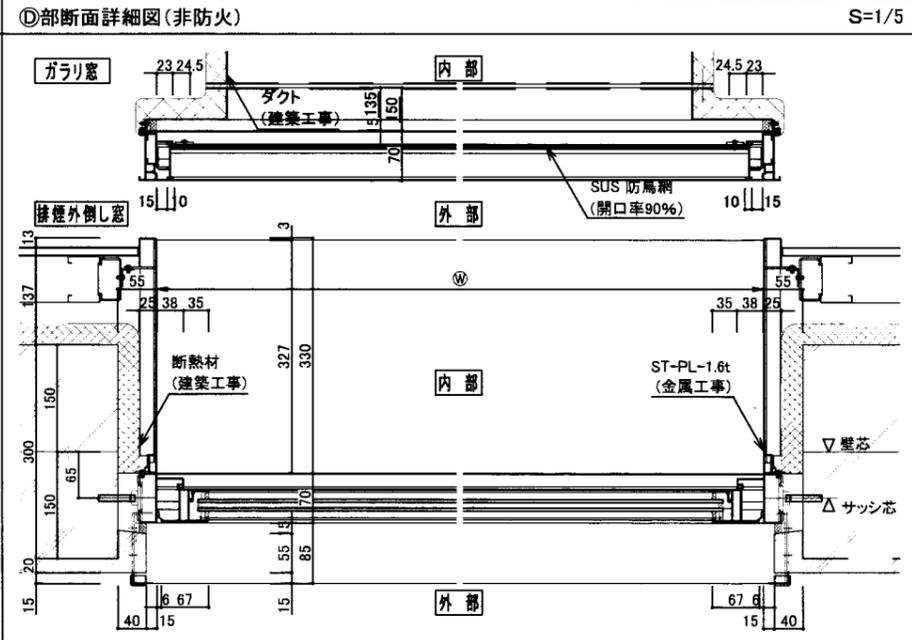
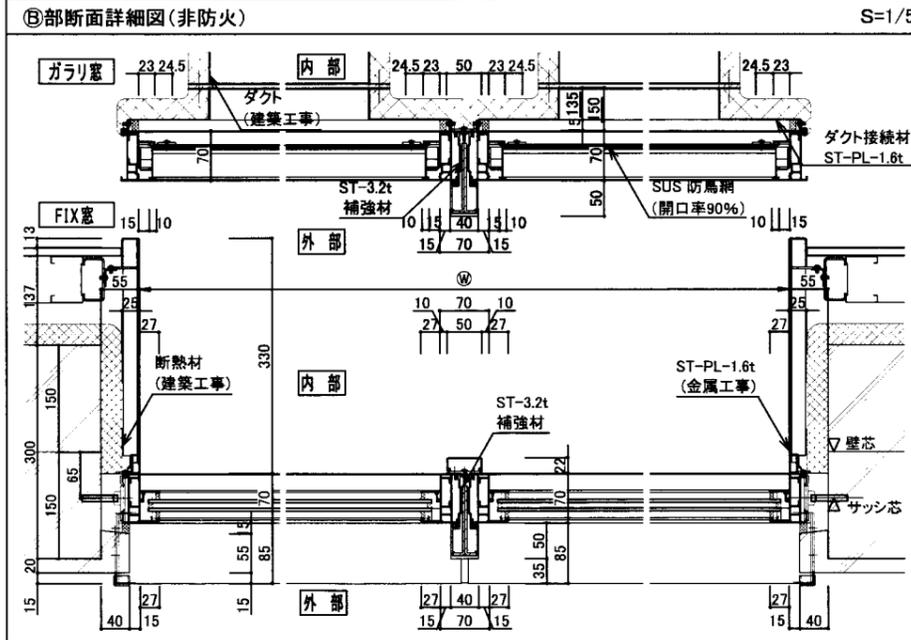
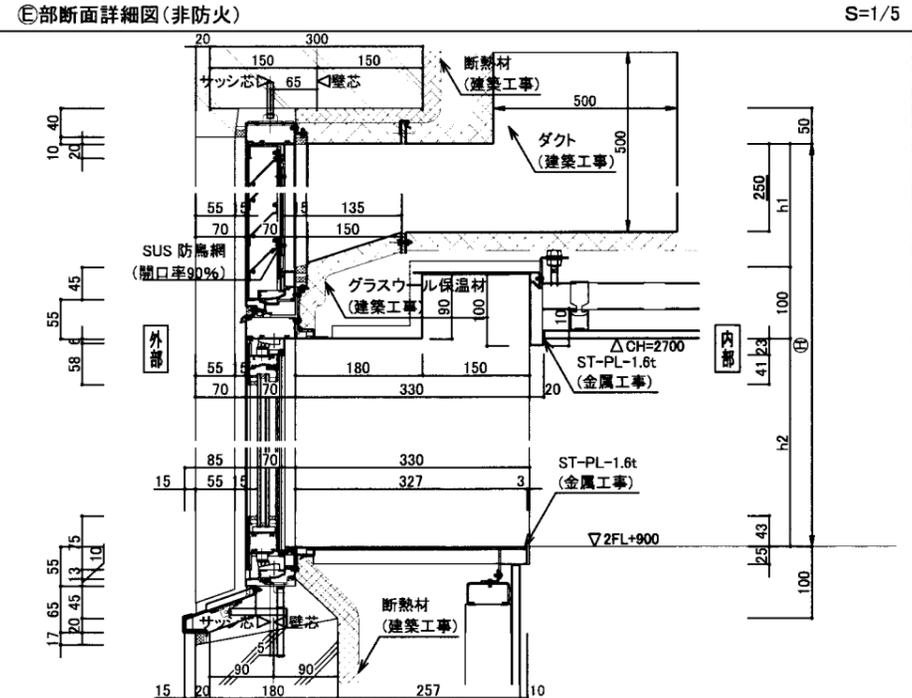
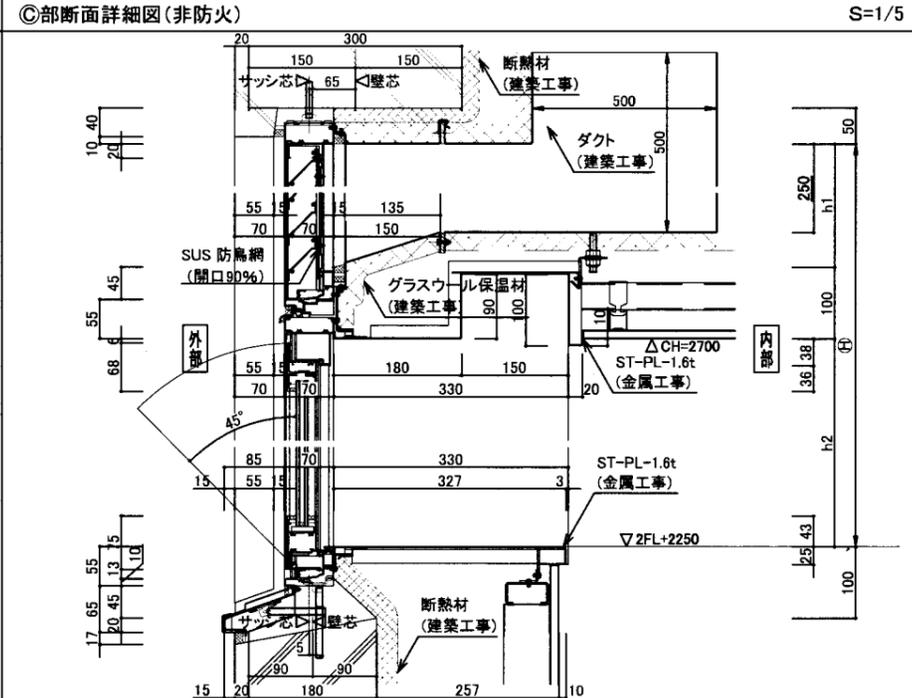
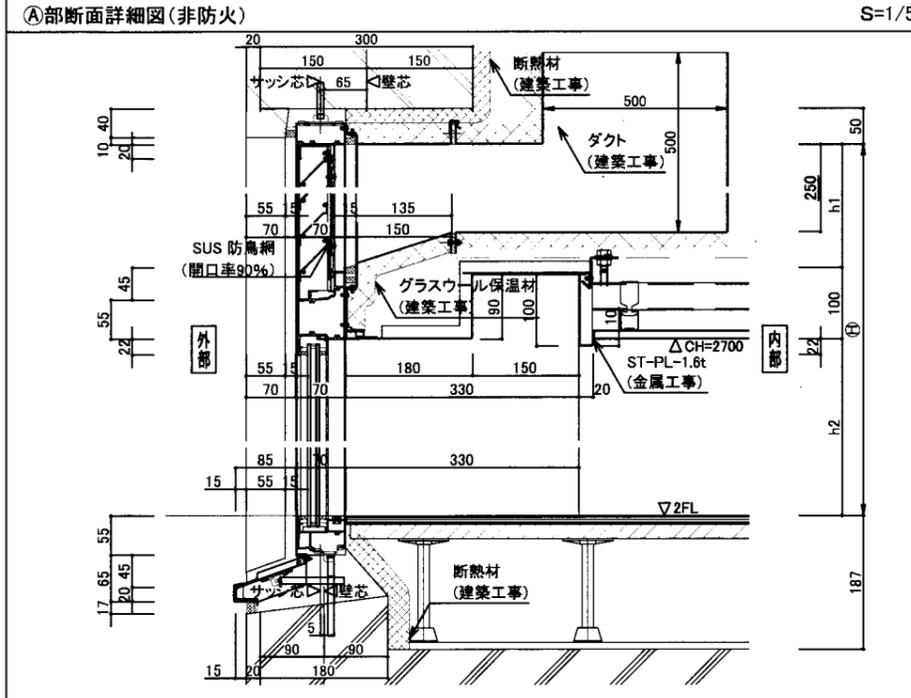
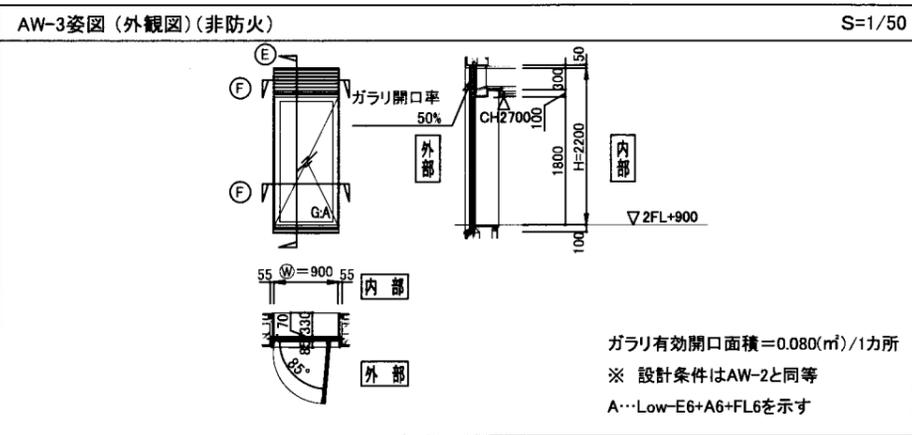
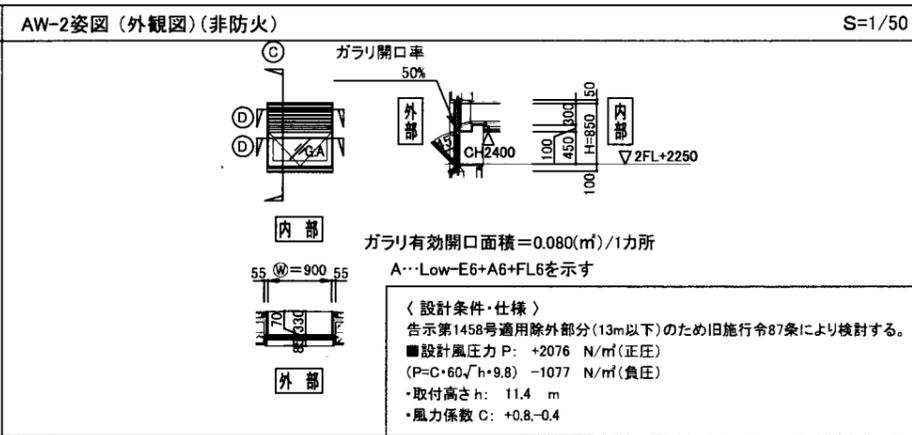
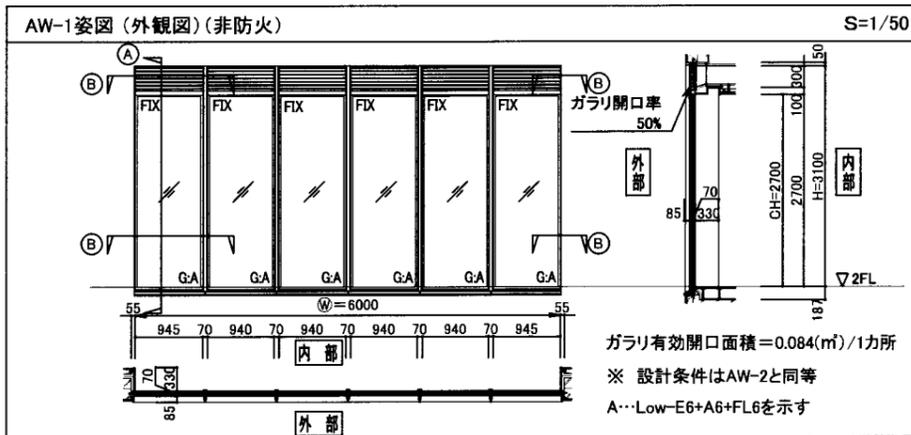
D-506

区分

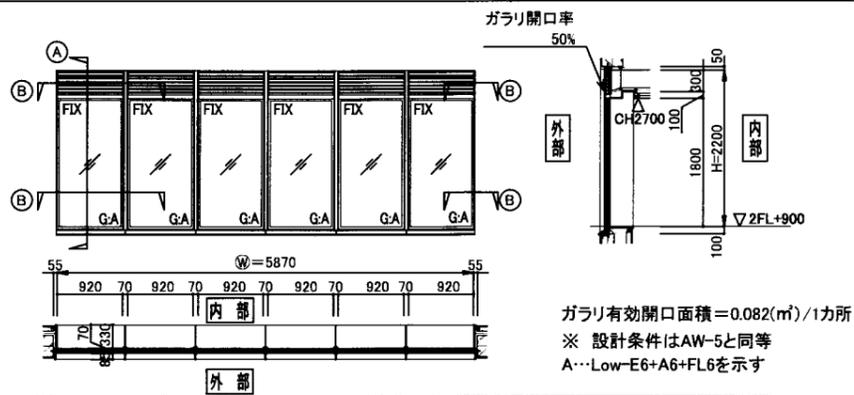
建築

年月日

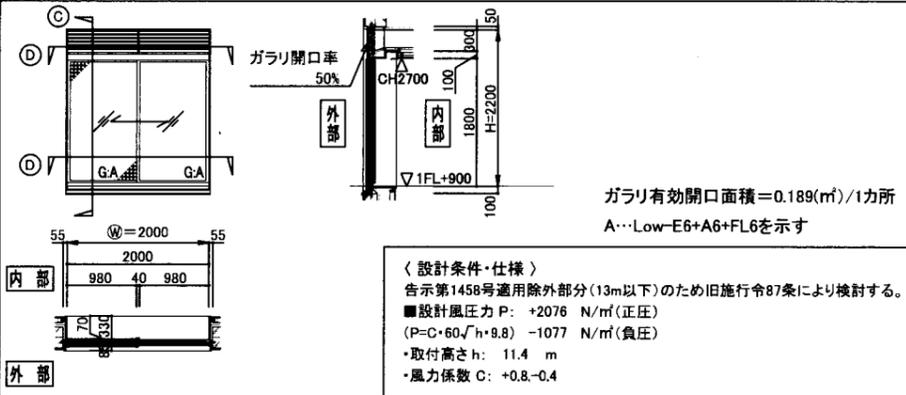
2021年1月



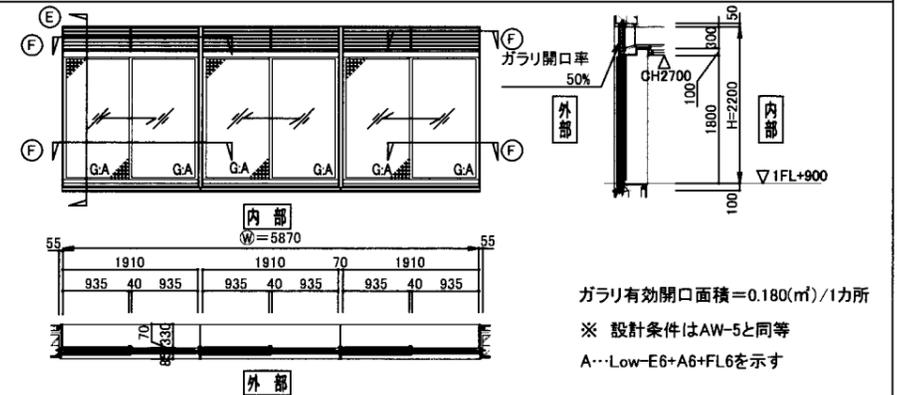
AW-4姿図(外観図)(非防火) S=1/50



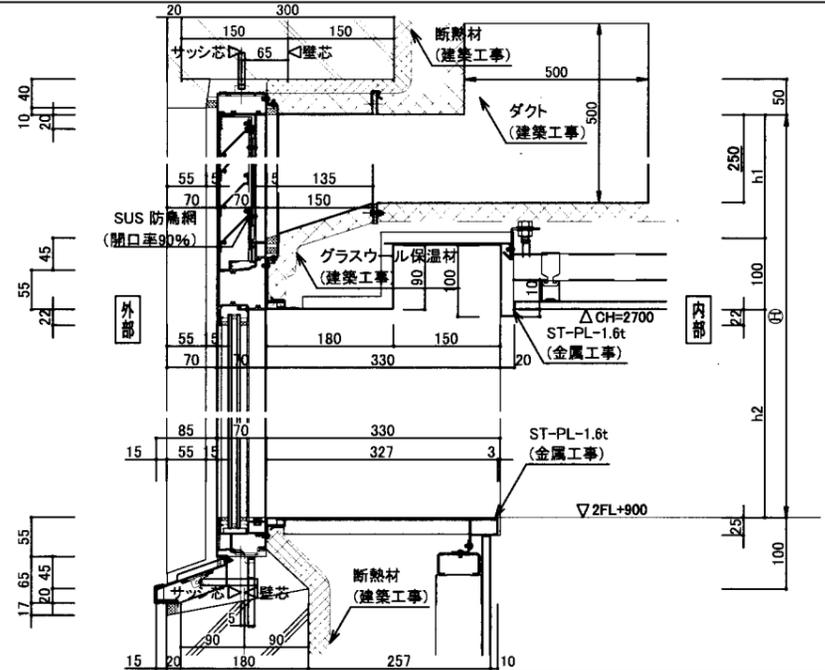
AW-5姿図(外観図)(非防火) S=1/50



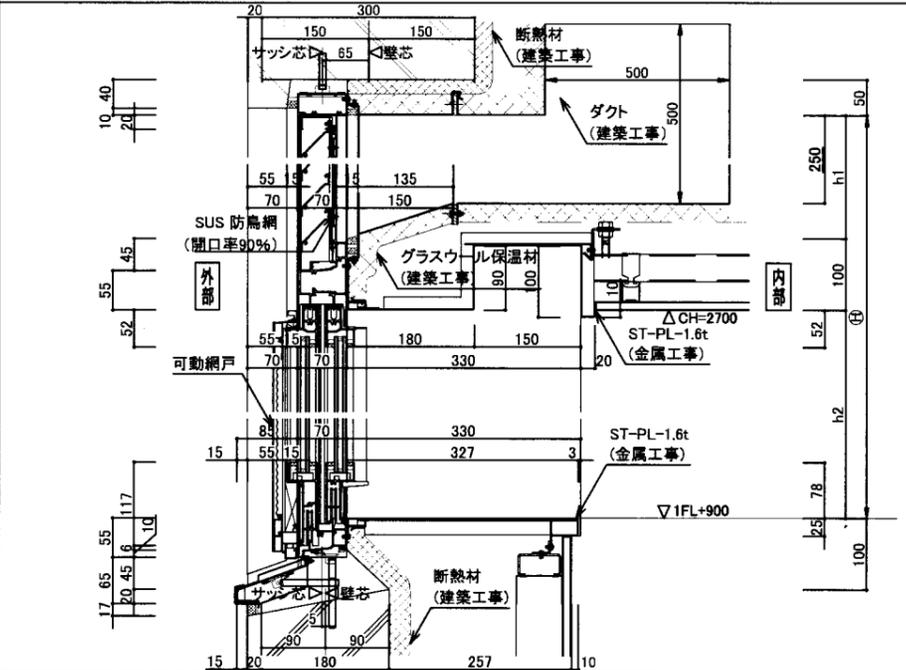
AW-6姿図(外観図)(非防火) S=1/50



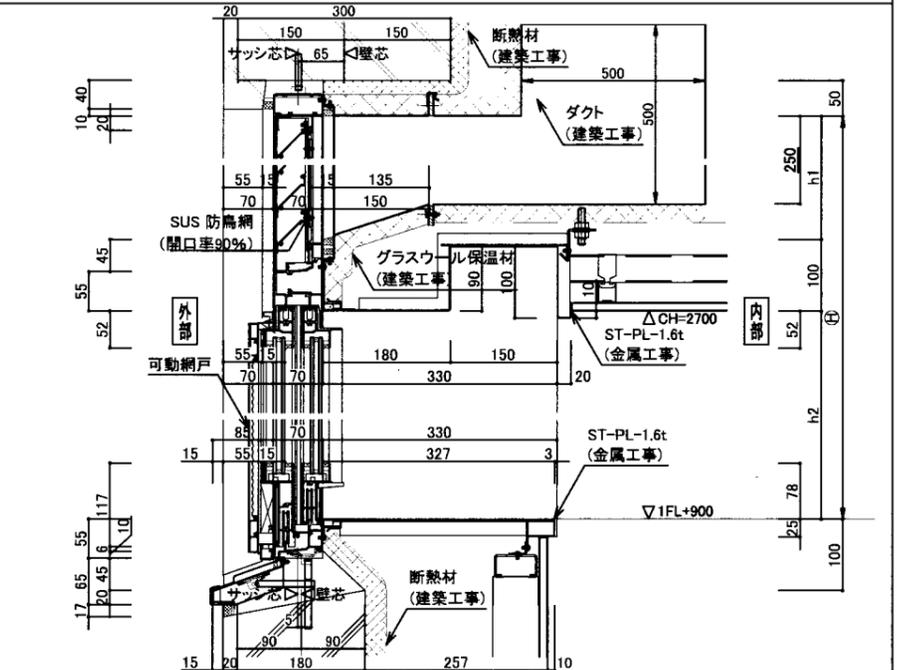
①部断面詳細図(非防火) S=1/5



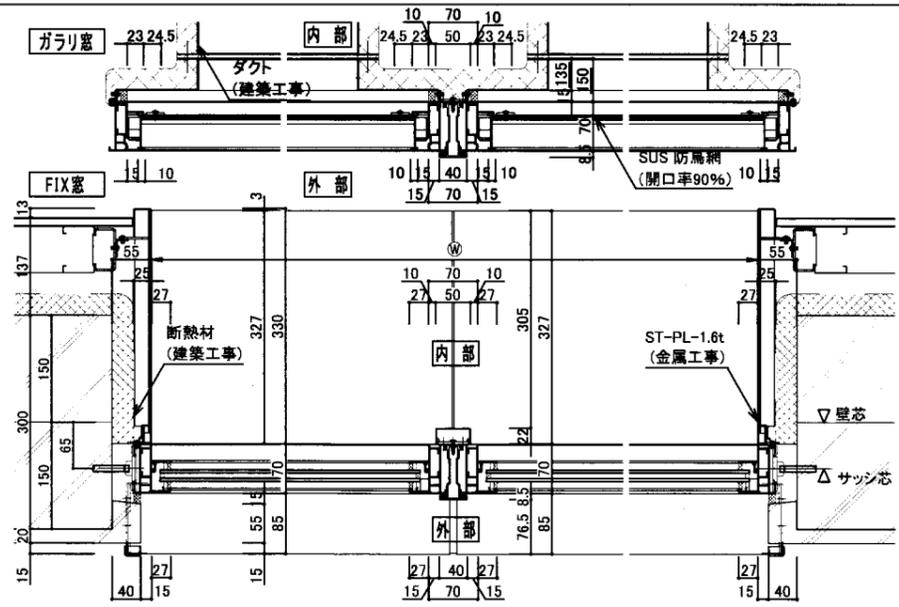
③部断面詳細図(非防火) S=1/5



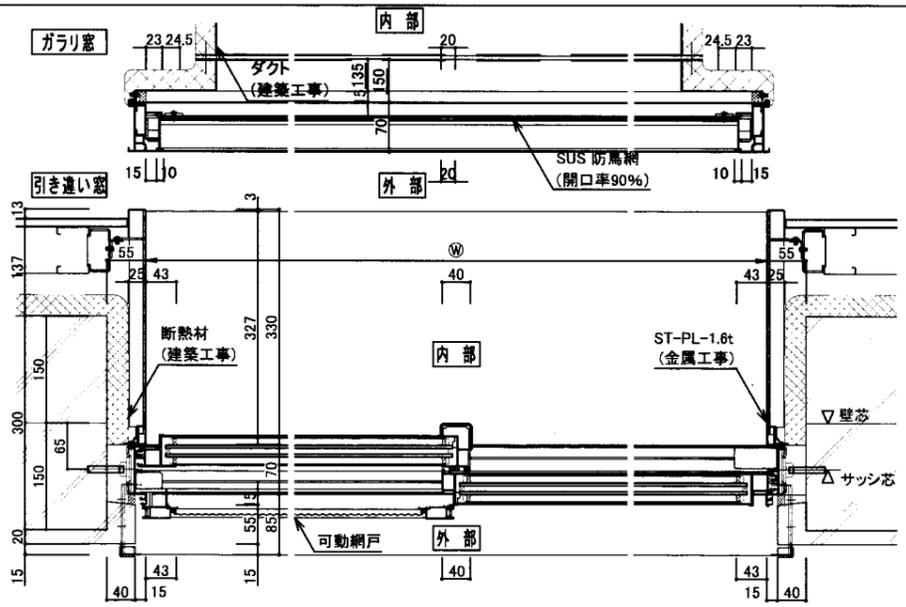
⑤部断面詳細図(非防火) S=1/5



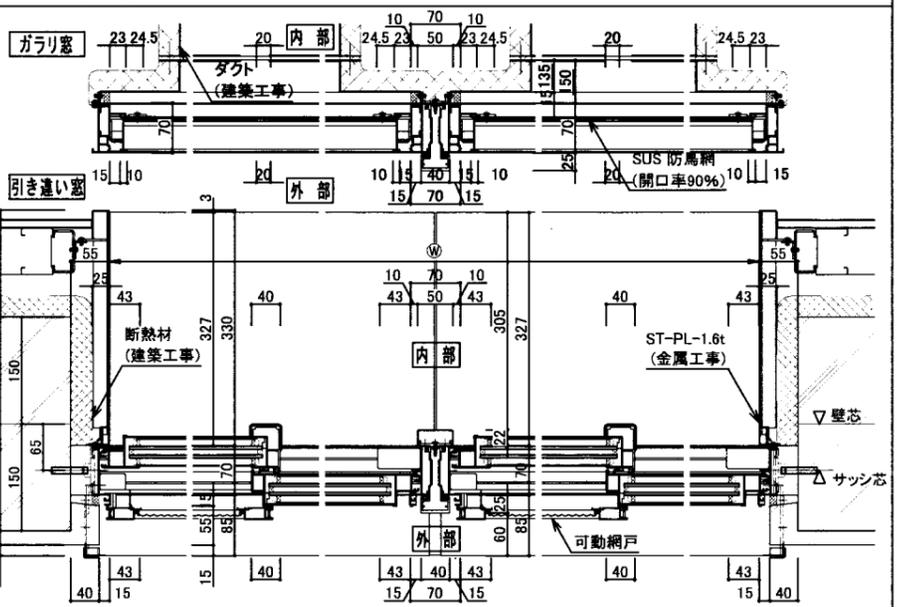
②部断面詳細図(非防火) S=1/5



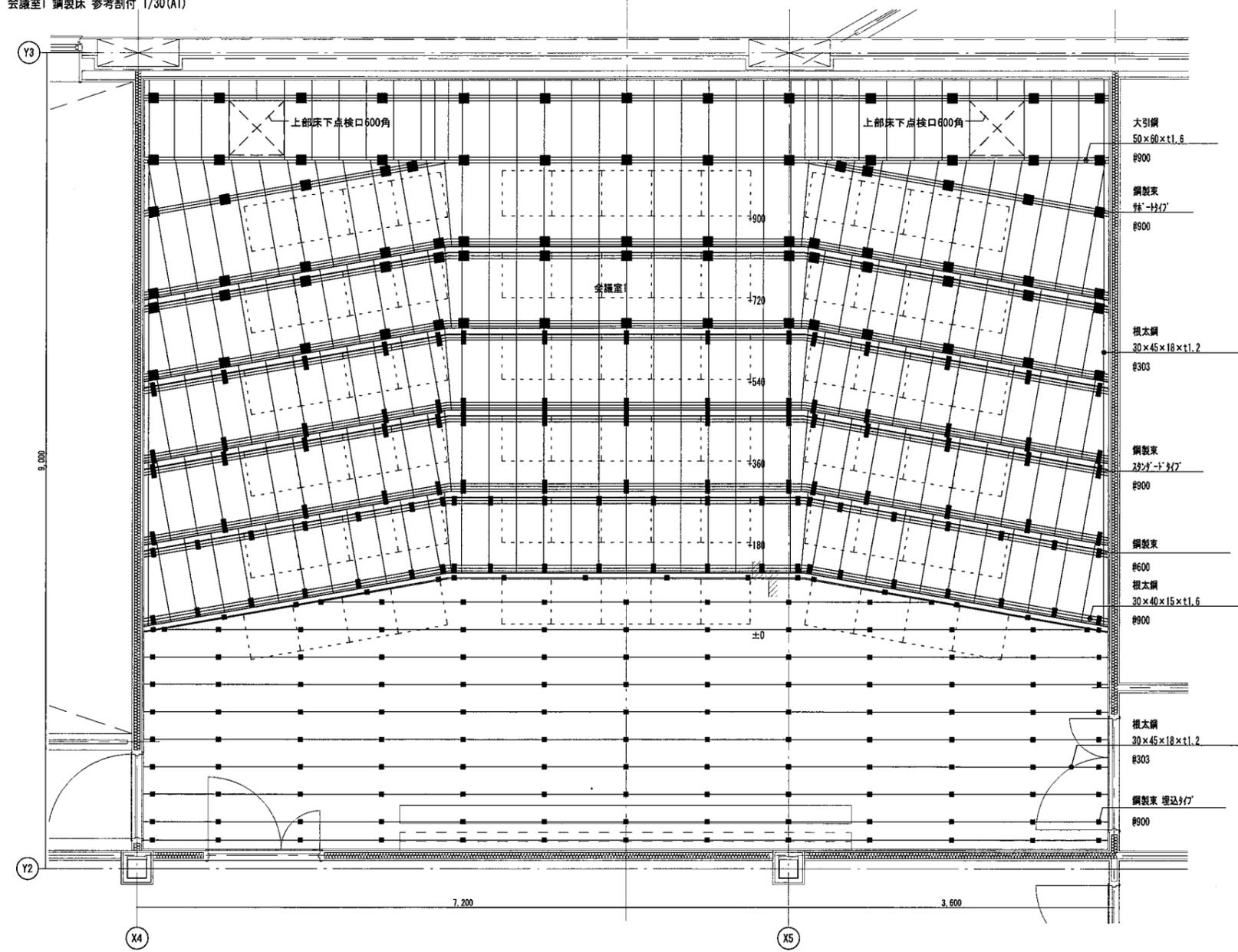
④部断面詳細図(非防火) S=1/5



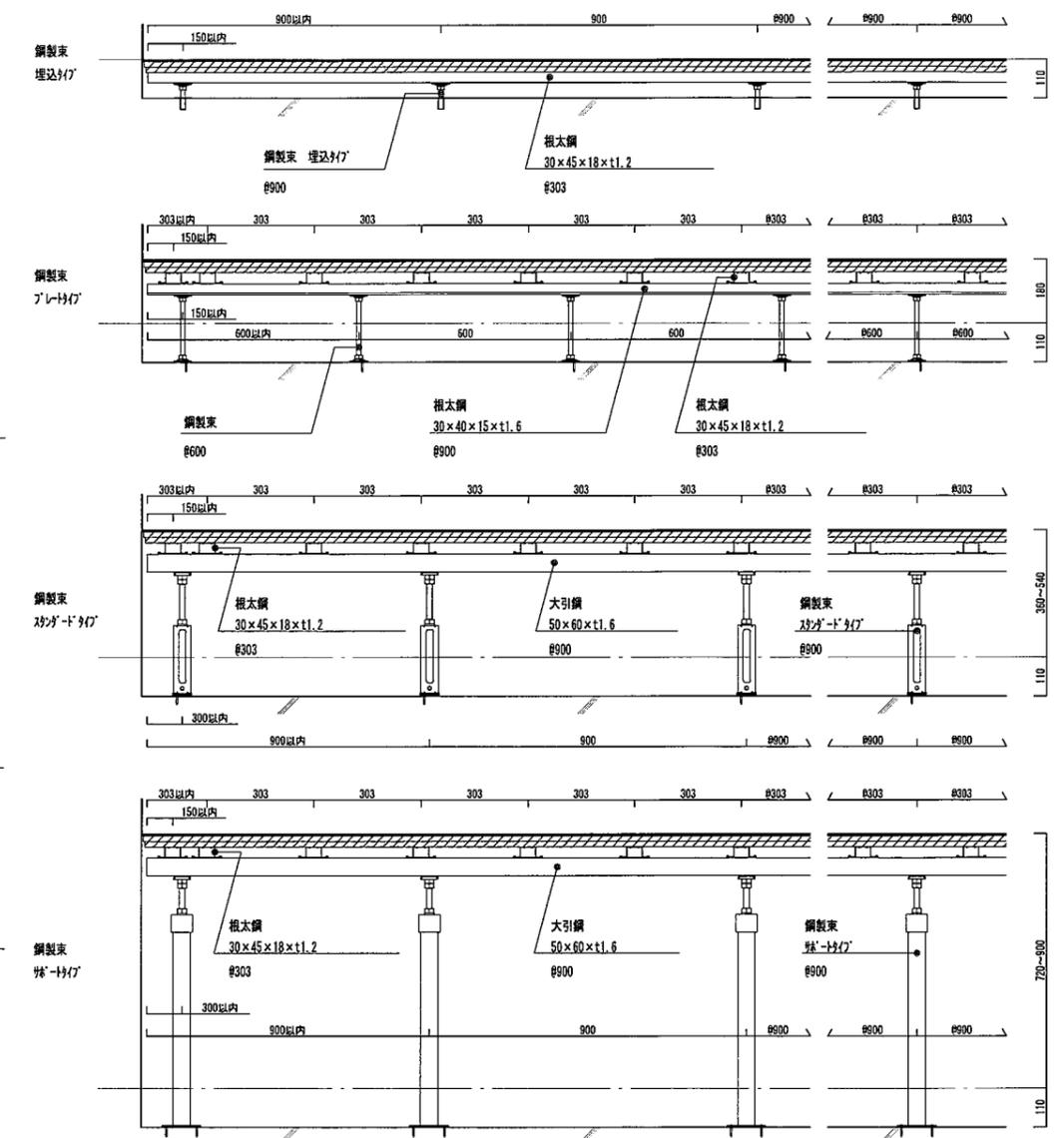
⑥部断面詳細図(非防火) S=1/5



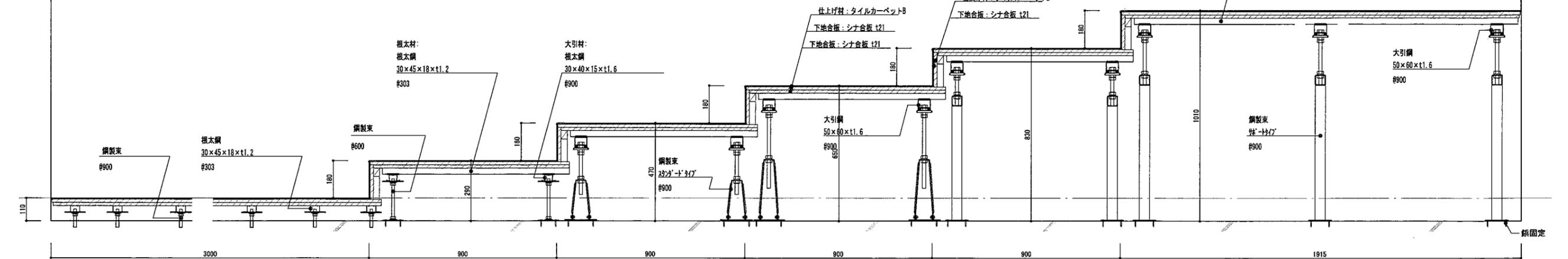
会議室1 鋼製床 参考割付 1/30 (A1)



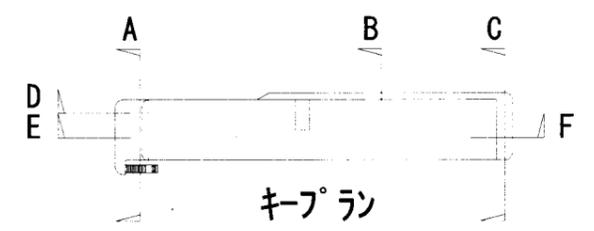
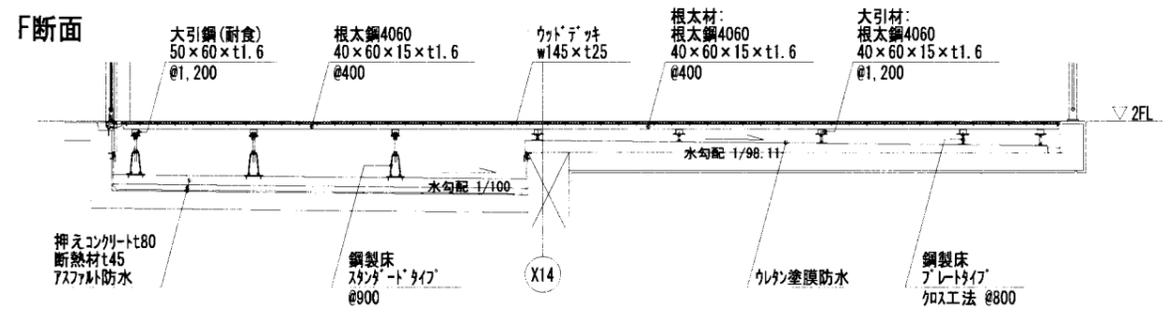
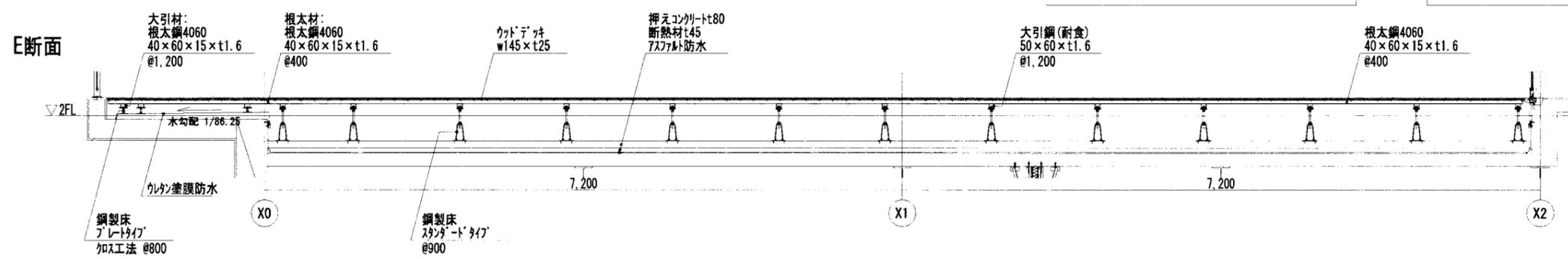
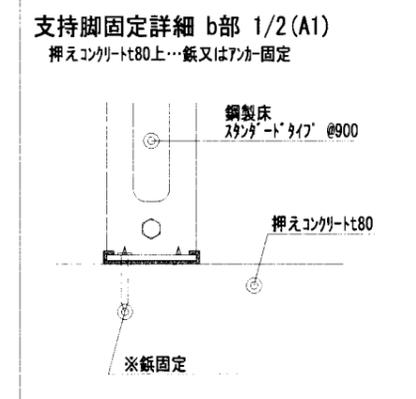
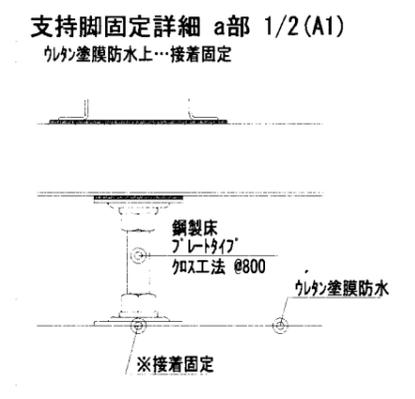
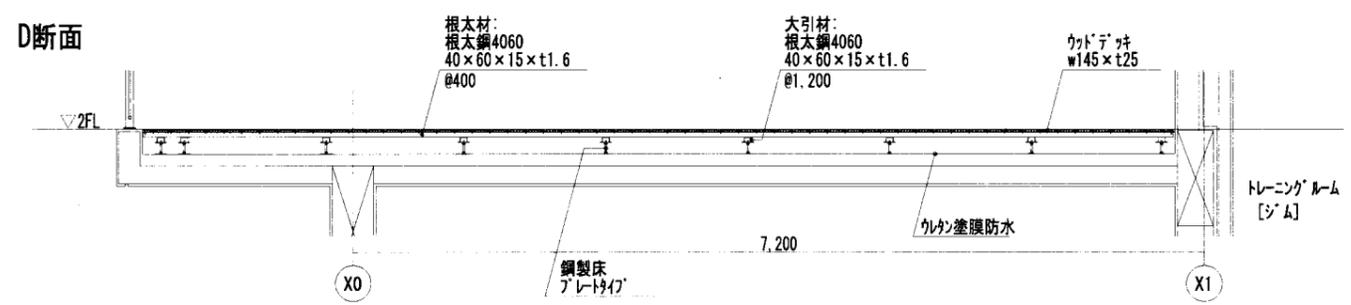
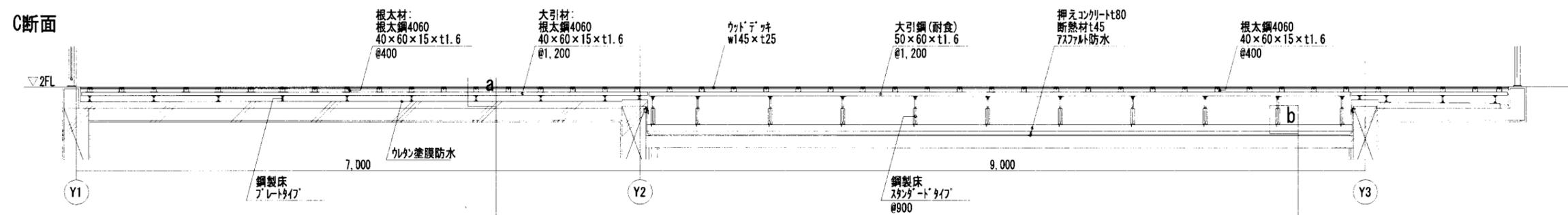
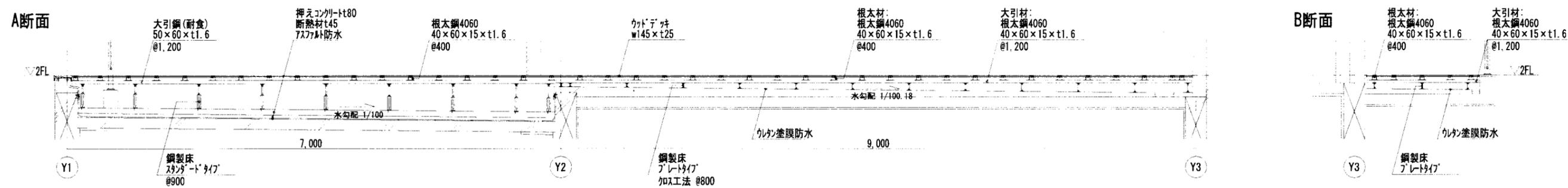
会議室1 壁際部 鋼製床 参考断面 1/10 (A1)



会議室1 段床部 鋼製床 参考断面 1/10 (A1)

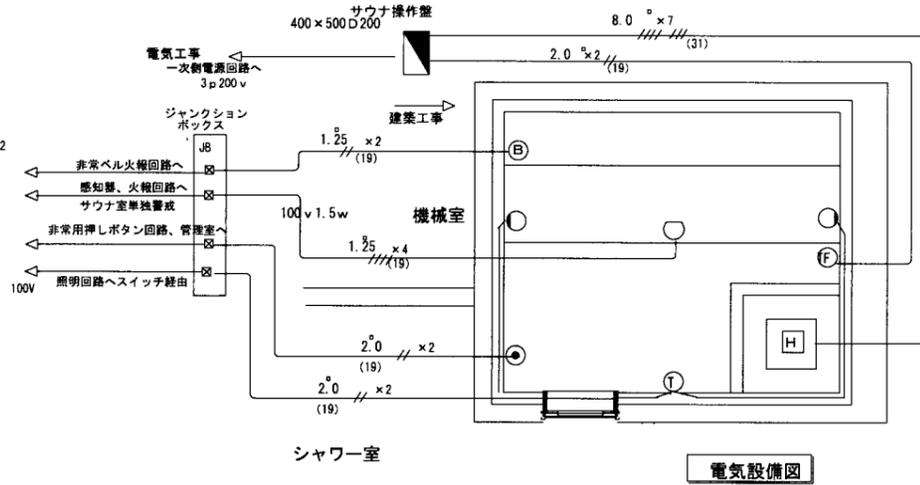
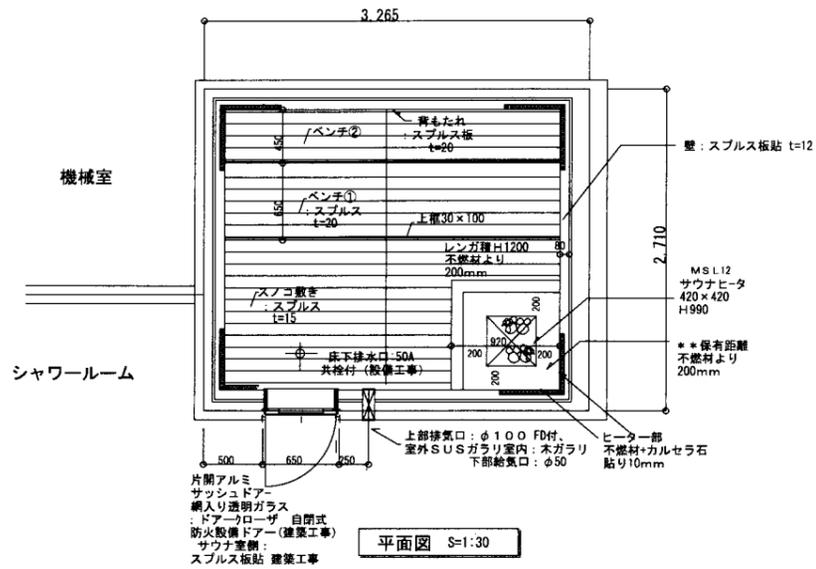


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	段床詳細図	D-509	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/10	2021年1月	
				A3: 1/20		



※ウッドデッキの熱収縮によるクリアランスを考慮すること。

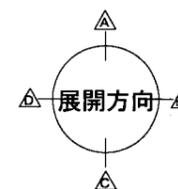
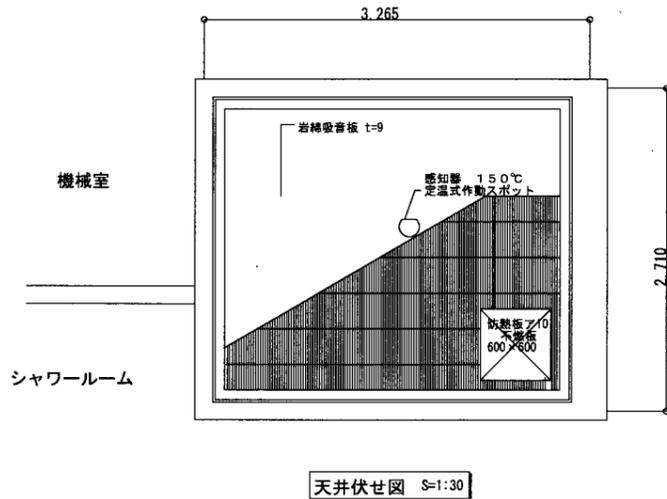
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	ウッドデッキ部鋼製床詳細図	D-510	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30	A3: 1/60	2021年1月



凡例		
H	MS12型ヒータ 12kw	2回路
■	サウナ操作盤	2回路 ELB MGC 機械室
TF	サーモ センサー・ヒューズボックス	
○	照明器具	100V40W
①	タイマー時計	12分計
●	非常呼出ボタン	管理室へブザー
○	感知器	150℃ 定温式作動スポット
B	非常ベル	ベンチ内
⊗	ジャンクションBOX	機械室
特記事項	—— 建築工事	—— 電気工事

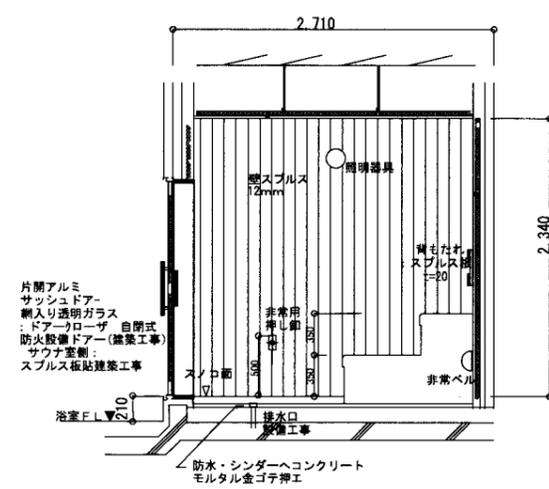
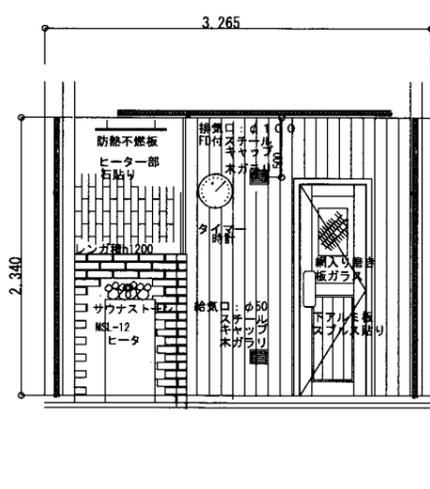
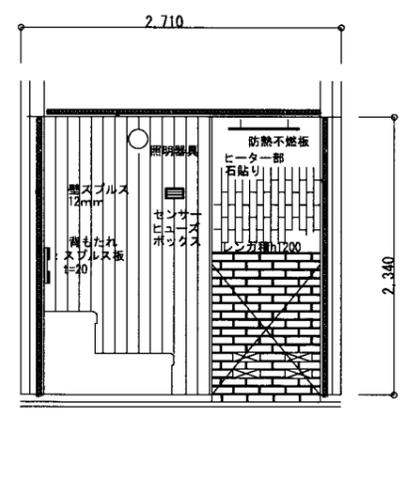
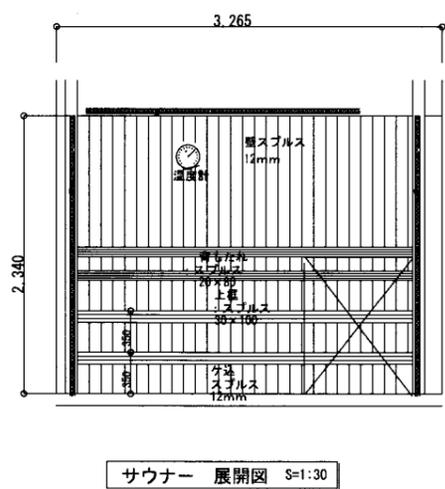
特記

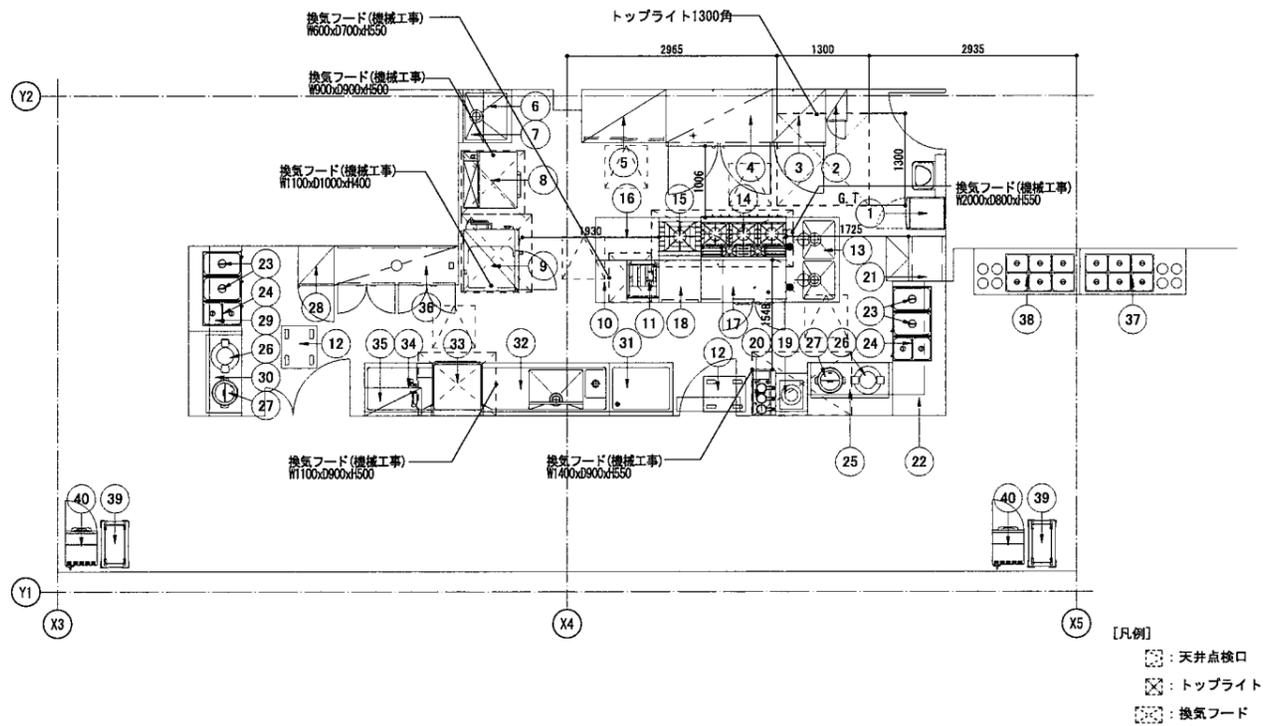
- ・サウナは、サウナ設備設置基準（日本サウナ・SPA協会）に基づき設置を行う
- ・サウナ配管は、金属管配管とする。（19×31）
- ・電線は、LKG日線とする。
- ・その他諸官庁・消防署の指導による。
- ・サウナ設置基準により、他の用途に供するダクトガス配管及び電線管の貫通が無い事。
- ・温度ヒューズは130度で作動するものとする。



項目	工事区分	仕様
サウナ室躯体側面	建築工事	1時間耐火仕様
天井インサート 吊りボルト	建築工事	
A/D遮断・枠工事 網入りガラス 外取手、オートヒンジ又はドアクローザ	建築工事	防火設備 アルミ複層
防水工事 保護モル	建築工事	
給気・排気口、配線・配管用 スリーブ	建築工事	100φ50φ 70φ50φ
ジャンクションBOX	電気工事	機械室
床排水口工事	機械工事	共栓式
一次側電気工事	電気工事	機械室 操作盤まで
火曜防火配線工事	電気工事	ジャンクション ボックスまで
断熱保温仕上げ工事 内枠・AD板 給気・排気口 新換配線工事 ヒーター機器	建築工事	アルミガラリ本カバー 温度計・タイマー時計・照明器具

仕上り表	仕様	サウナ 工事 (建築工事)
断熱構造	グラスウール(不燃 NM-8606)	ケイカル板(不燃 NM-3522)
天井	岩綿吸音板 9mm	
一般壁 ヒーター部壁	スプルスーユニット 12mm 不燃下地+石貼り ネオXストーン又はカルセラストーン 12~20mm	
ベンチ	スプルスーユニット20mm	裏ザン16mm SUS201-ビス固定
スノコ	スプルスーユニット20mm	裏ザン16mm SUS201-ビス固定
防護柵	レンガ積 上ー	
他部位	上縁30mm、背当て着脱式 20mm スプルス加工	
ドア等他	内枠30mm、ドア内貼り15mm、 押板25mm スプルス加工	
他	ベンチの構造は本軸組 角 90×90 90×45 30×40 木製足組みの土間接地面はゴムベース取り付け	





厨房設備器具明細表

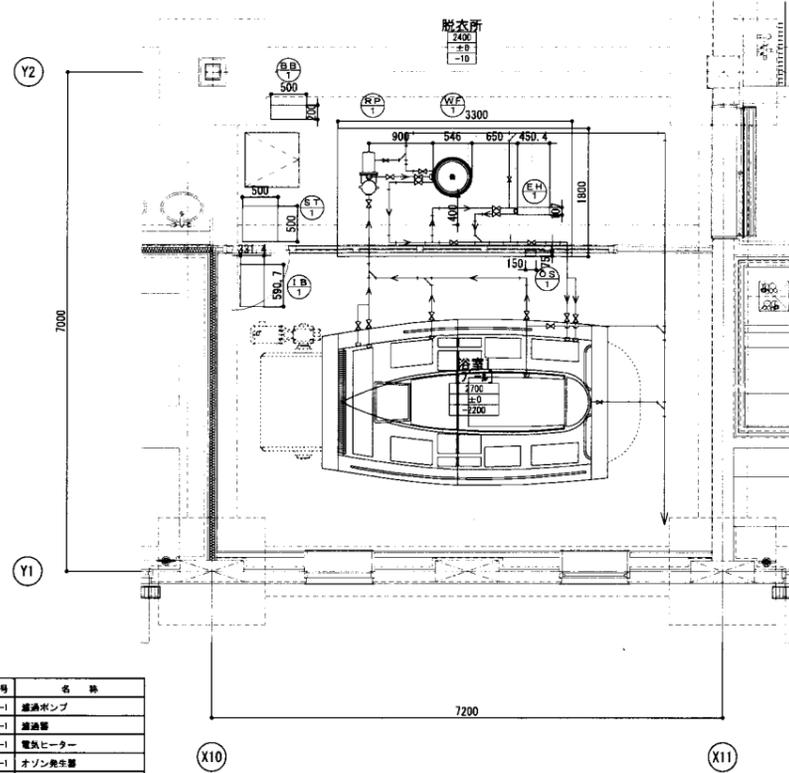
No	品名	規格寸法			台数	配管接続口径(A)			ガス(13A)			電気(50Hz)kW			蒸気		冷却水		備考	
		W	D	H		給水	給湯	排水	口径	kW	単相100V	単相200V	三相200V	供給	戻り	kg/h	供給	戻り		l/min
1	検査用冷凍ストッカー	460	585	1110	1								0.13						冷凍:117L	
2	包丁まな板殺菌庫	300	450	1550	1								0.4						包丁8本 まな板4枚 乾燥機能付	
3	冷凍庫	750	800	1910	1			間接40					0.374						冷凍:616L	
4	冷蔵庫	1500	800	1910	1			間接40					0.283						冷蔵:1342L	
5	戸棚	1200	750	1800	1															
6	一槽シンク	750	750	850	1	15	15	40												
7	パイプ棚	750	350		1														自立型	
※8	低放射ガス立体炊飯器	790	760	1650	1				25	33.0	0.06			H					最大炊飯能力:7kg×3段/回	
9	スチームコンベクションオーブン	850	795	1450	1	15		高温間接50					11.5	G					1/1ホテルパン 10段 架台付6段、架台H500 ※グリルフィルタまでの調理深さが90mm以上で対応可能な機種とする	
10	テーブル	450	600	850	1															
11	ガスフライヤー	450	600	850	1				15	9.4				G					油量:16L	
12	移動台	600	500	850	2															
※13	二槽シンク	1200	750	850	1	15x2	15x2	40x2												
※14	ガステーブル	1200	600	850	1				20	48.8				G						
※15	ローレンジ	600	600	450	1	15			20	16.8				G						
16	テーブル	900	600	850	1															
17	コールドテーブル冷凍冷蔵庫	1200	600	850	1			間接40					0.498						冷凍:114L 冷蔵:106L	
18	戸棚付作業台	600	600	850	1															
19	電磁ローレンジ	450	600	450	1								5.0	G					ローレンジ型	
20	無沸騰噴流ゆで麺機	330	652	850	1	15		高温25					5.6	H						
21	アイスメーカー	630	525	850	1	15		間接40					0.34						62kg/日	
22	ホットフードユニット	1900	750	850	1								0.1						スニーズガード付	
23	卓上ウォーマー	350	550	260	4								0.9						ホテルパン1/1 19.5L×1個	
24	卓上ウォーマー	350	550	260	2								0.9						ホテルパン1/2 9.0L×2個	
25	ライス・スープユニット	1200	750	850	1								0.1						スニーズガード付	
26	ライスウォーマー	481	395	406	2								0.084						保温専用 9.0L 5升用 ステンレス仕様	
27	スープウォーマー	426	368	355	2								0.24						みそ汁 60~120杯 12L	
28	冷蔵ショーケース	510	558	1770	1								0.325						4面ガラス:228L	
29	ホットフードユニット	1200	750	850	1								0.1						スニーズガード付	
30	ライス・スープユニット	1200	750	850	1								0.1						スニーズガード付	
31	水切台	900	750	850	1				25											
32	ソールドテーブル	1800	750	850	1	15	15	40x2											ゴミかご付	
33	食器洗浄機	940	750	1505	1		20	高温25 高温50					11.85	H						
34	クリーンテーブル	950	750	850	1															
35	ラックシェルフ	800	400		1															
36	消毒保管機	1745	550	1880	1									7.6					ウォーム機能・自己診断機能付	
37	サラダバーユニット	1200	650	850	1			間接50					0.1		0.75					
38	サラダバーユニット	1500	650	850	1			間接50					0.1		0.75					
39	食器ディスペンサー	404	674	800	2															
40	ティーディスペンサー	450	527	1465	2								1.035						パウダー茶3種、給排水カセット式	
...総使用量...												108.0	11.128	0.0	43.05					

○ : 油脂を発生させる機器

※ : ガス事業法第162条の規定に適合する機器

注:上記接続工事並びに消費量は、各器具に於ける1台を示す

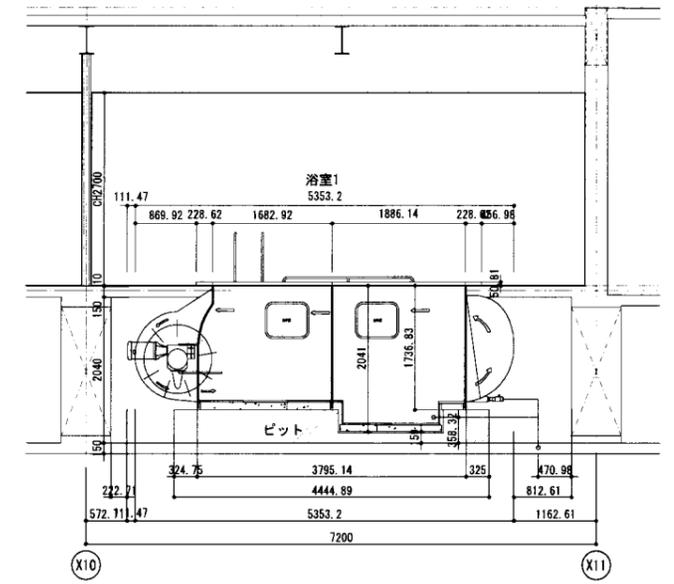
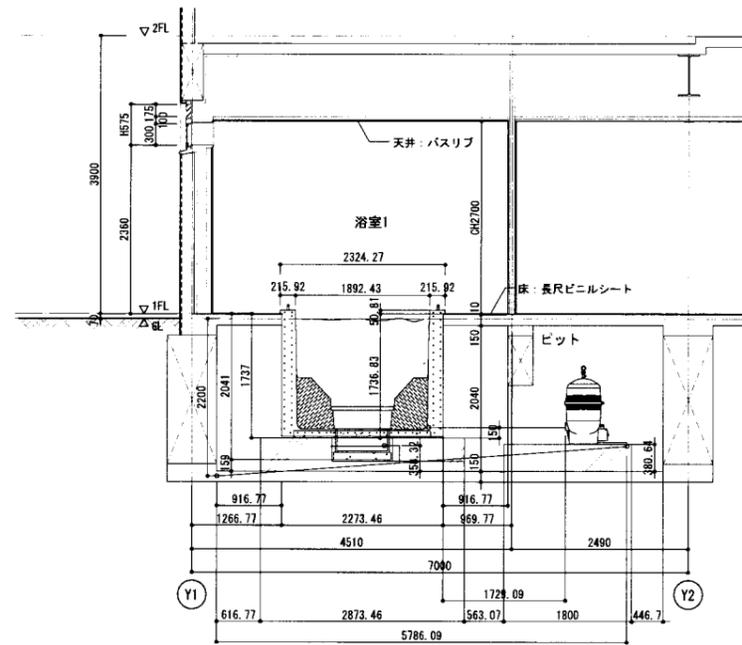
浴室1 平面図



記号	名称	記号	名称
→	ろ過機配管	RP-1	濾過ポンプ
→	排水管 (H.V.P)	WF-1	濾過機
D	給水用「S」型 (SAP)	EH-1	電気ヒーター
	※表記のないW・K7 は全て50A	OS-1	オゾン発生器
		ST-1	扉付トランス
		BB-1	分電盤
		IB-1	インバーター

※下部制御用ステップは固定式又は取外式とする

浴室1 断面図

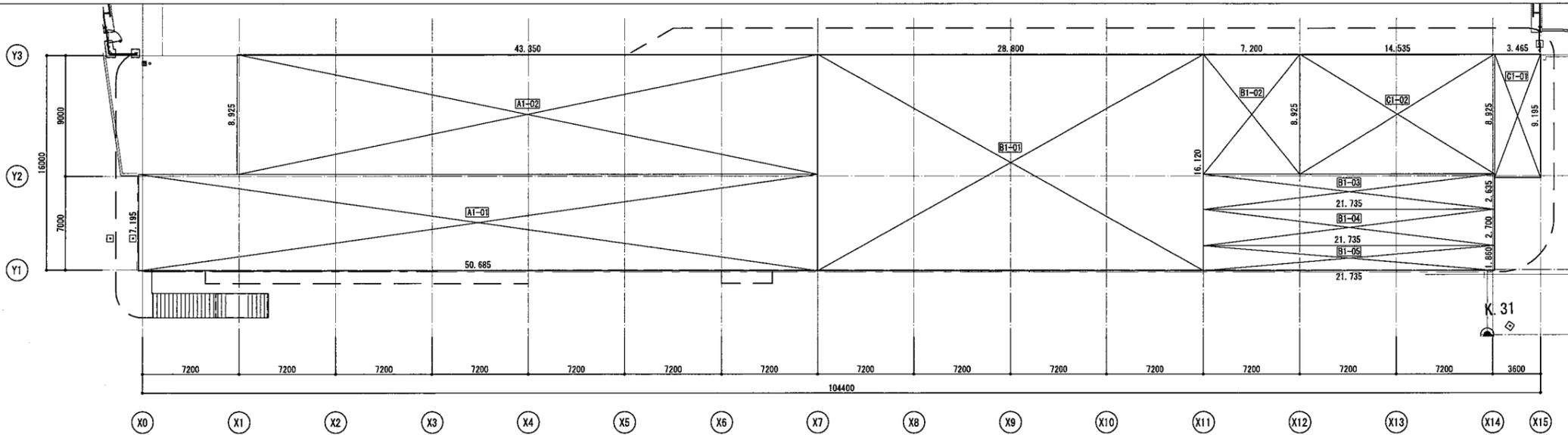
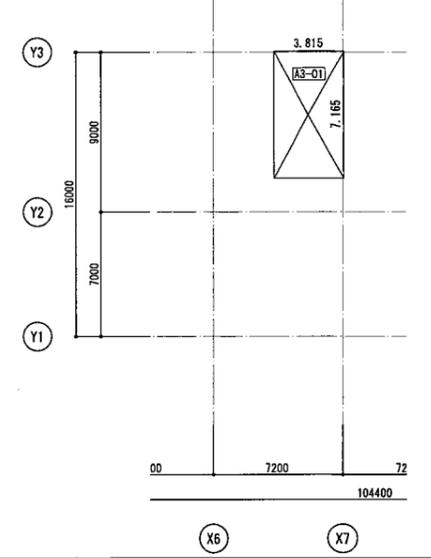
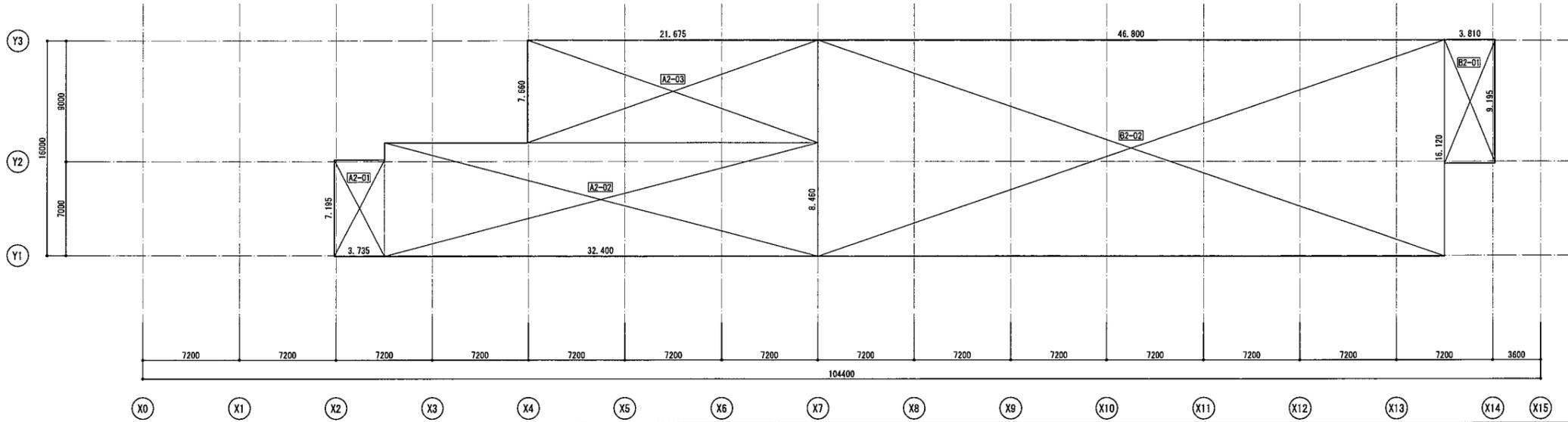


付属機器外形図

<p>コントロールボックス (駆動インバーター)</p> <p>スペック 電圧: 110-240V, 50/60Hz 入力容量: 48-62Hz 出力: 200W/150w 質量: 約50kg ※オプション電線: 20A・30A・40A・50A (別売)</p>	<p>駆動ギアモーター</p> <p>スペック 電圧: 208-240V (駆動インバーターからの供給) 最大出力時電力: 13.7-12.6A 質量: 約41.5kg</p>	<p>濾過ポンプ (RP)</p> <p>スペック 電圧: 110/208-230V 出力: 1馬力 最大出力時電力: 14.8/7.8-7.4A 質量: 20.9kg</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>部品名称</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>異常ブレーカー</td> <td>二次側が接続するための主電源用</td> </tr> <tr> <td>非常停止ボタン</td> <td>非常時にエンドユーザーが電源を停止できるようにするため</td> </tr> <tr> <td>メンテナンス用防水コンセント</td> <td>設置ビッド内で必要な工事ができるようにするため</td> </tr> <tr> <td>換気設備 (別途工事)</td> <td>設置ビッド内の空気を十分に換気するため</td> </tr> </tbody> </table> <p>※必要な設備の数、設置位置および仕様は各状況によって変わります。</p>	部品名称	備考	異常ブレーカー	二次側が接続するための主電源用	非常停止ボタン	非常時にエンドユーザーが電源を停止できるようにするため	メンテナンス用防水コンセント	設置ビッド内で必要な工事ができるようにするため	換気設備 (別途工事)	設置ビッド内の空気を十分に換気するため
部品名称	備考												
異常ブレーカー	二次側が接続するための主電源用												
非常停止ボタン	非常時にエンドユーザーが電源を停止できるようにするため												
メンテナンス用防水コンセント	設置ビッド内で必要な工事ができるようにするため												
換気設備 (別途工事)	設置ビッド内の空気を十分に換気するため												
<p>濾過機 (紙カートリッジ式) (WF)</p> <p>スペック フィルター面積: 29.72㎡ 時間当たり浄化水量: 454.3L/分 質量: 31.70kg</p>	<p>電気ヒーター (EH)</p> <p>スペック 電圧: 240V 最大出力時電力: 23A 消費電力: 5.5kw 寿命: 18,778時間/年間 質量: 7.7kg</p>	<p>オゾン発生器 (OS)</p> <p>スペック 電圧: 110/240V@120/60Hz オゾン出力: 0.25g/時間@15scfh 質量: 2.2kg</p>											
<p>タッチスクリーンモニター</p> <p>スペック 電圧: 駆動インバーターからの供給 質量: 約4.5kg</p>													

A部詳細図

仕様: 仕上げ状況によりコーキング (建築工事) ※要協議  
※要協議  
▽床仕上げ高(部)  
操作ボタン  
St-プレート厚2.3曲げ加工

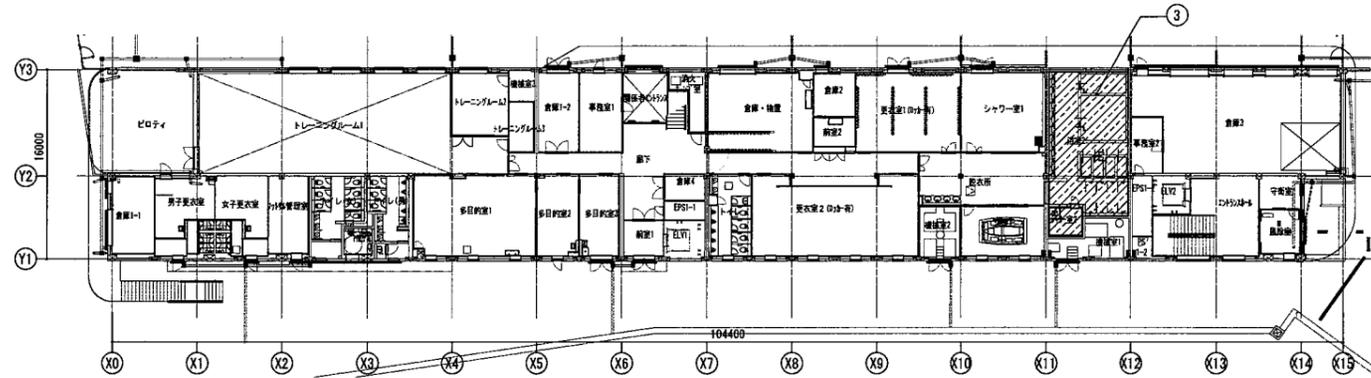


防火区画求積表

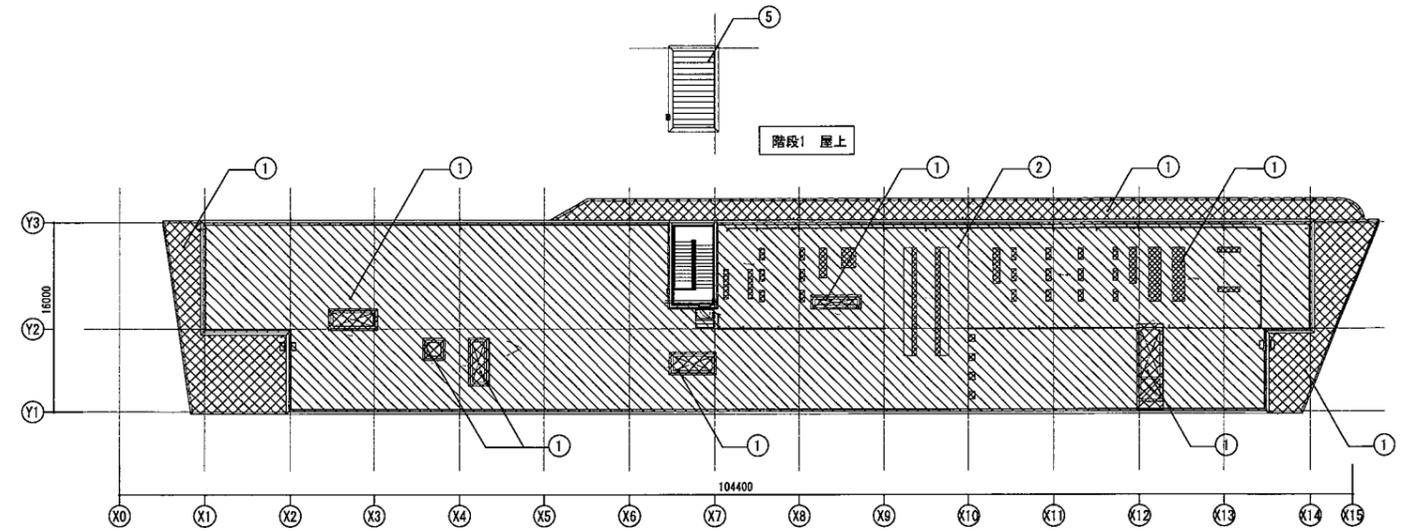
階数	防火区画面積A		防火区画面積B		防火区画面積C		防火区画面積D	
	符号	求積算定式(m)	符号	求積算定式(m)	符号	求積算定式(m)	符号	求積算定式(m)
R階	A3-01	3.815 x 7.165						
	合計(m)	27.334475	合計(m)		合計(m)		合計(m)	
2階	A2-01	3.735 x 7.195	B2-01	3.810 x 9.195				
	A2-02	32.400 x 8.460	B2-02	46.800 x 16.120				
	A2-03	21.675 x 7.660						
	合計(m)	467.007825	合計(m)	789.448950	合計(m)		合計(m)	
1階	A1-01	50.685 x 7.195	B1-01	28.800 x 16.120	C1-01	3.465 x 9.195		
	A1-02	43.350 x 8.925	B1-02	7.200 x 8.925	C1-02	14.535 x 8.925		
			B1-03	21.735 x 2.635				
	合計(m)	751.577325	合計(m)	684.899325	合計(m)	161.585550	合計(m)	

階	防火区画面積A	防火区画面積B	防火区画面積C
R階	27.33		
2階	467.00	789.44	
1階	751.57	684.89	161.58
合計	1,245.90	1,474.33	161.58
判断(≦1500㎡)	OK	OK	OK

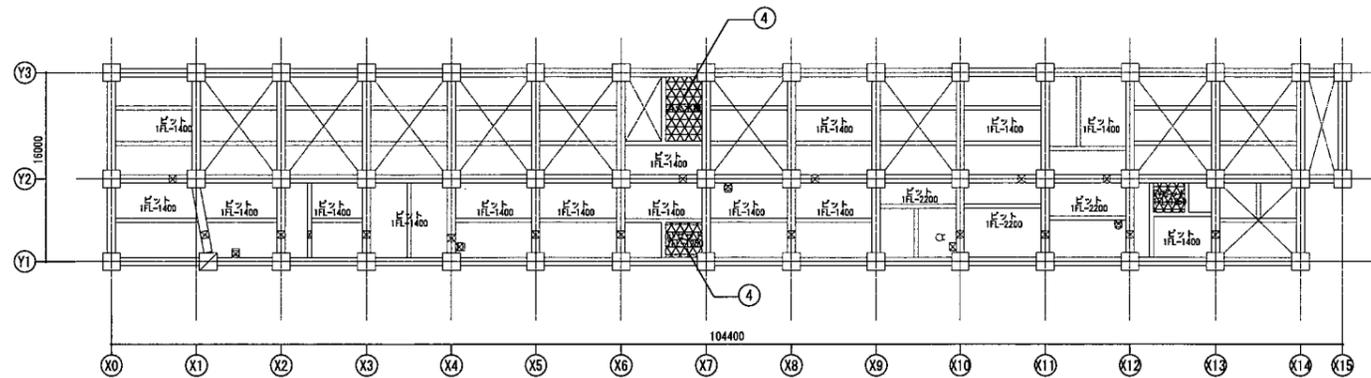
1階防水範囲図



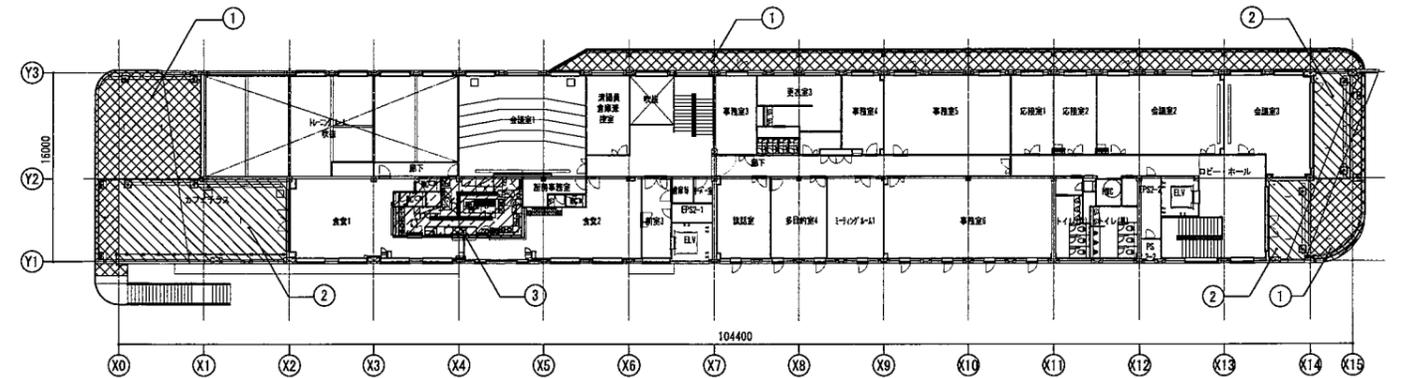
屋上防水範囲図



ビット防水範囲図



2階防水範囲図



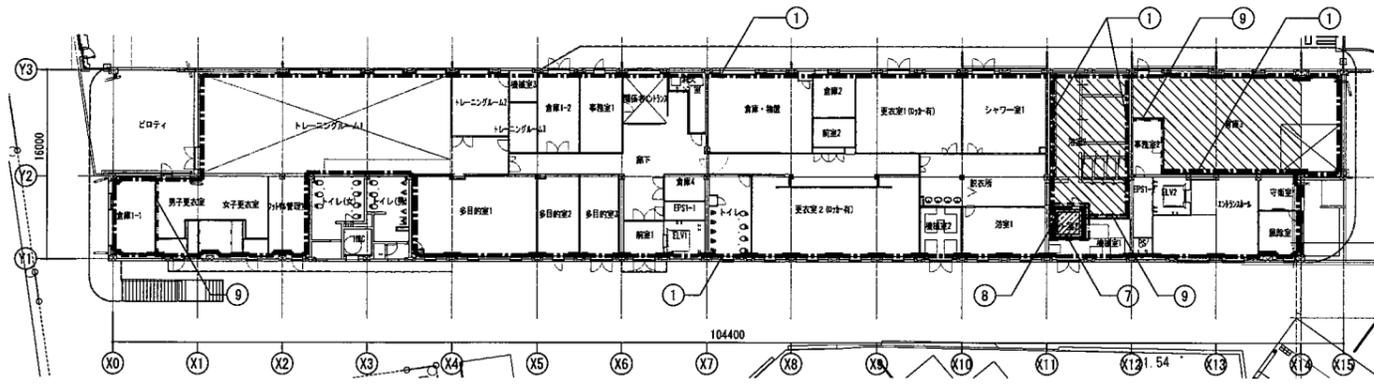
凡例

①		ウレタン塗膜防水 (X-2)	⑤		露出防水 (D1-1)
②		アスファルト防水 (A1-1)			
③		アスファルト防水 (E-1)			
④		ケイ酸質系塗布防水 (C-UP) (床・壁)			

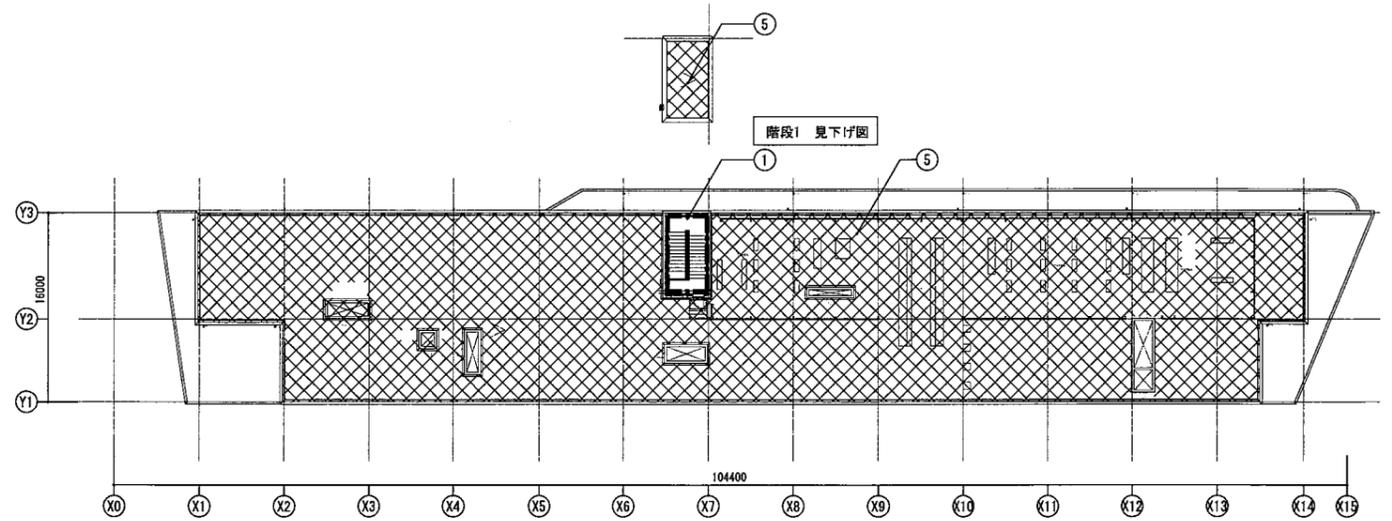
共通事項

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	防水範囲図	D-522	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/300	2021年 1月	
				A3: 1/600		

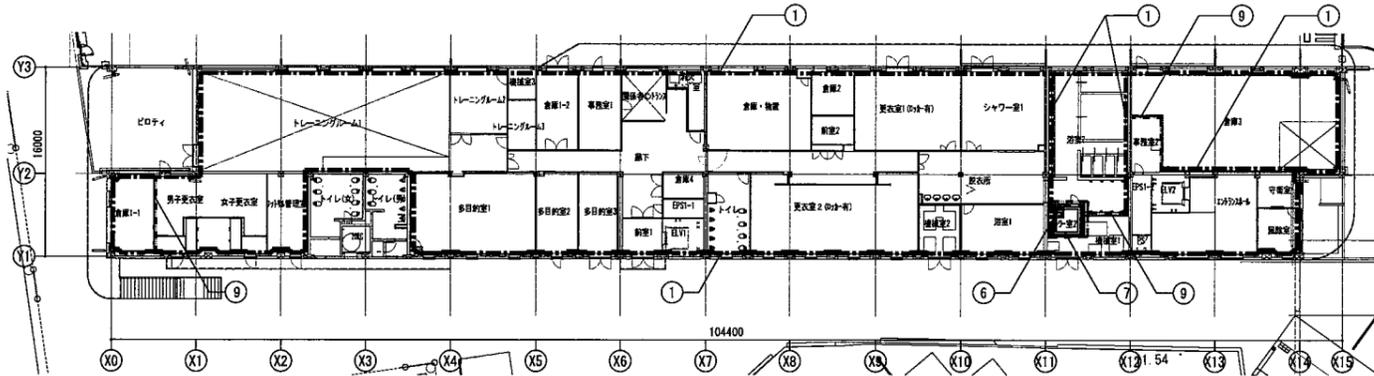
1階見上げ図



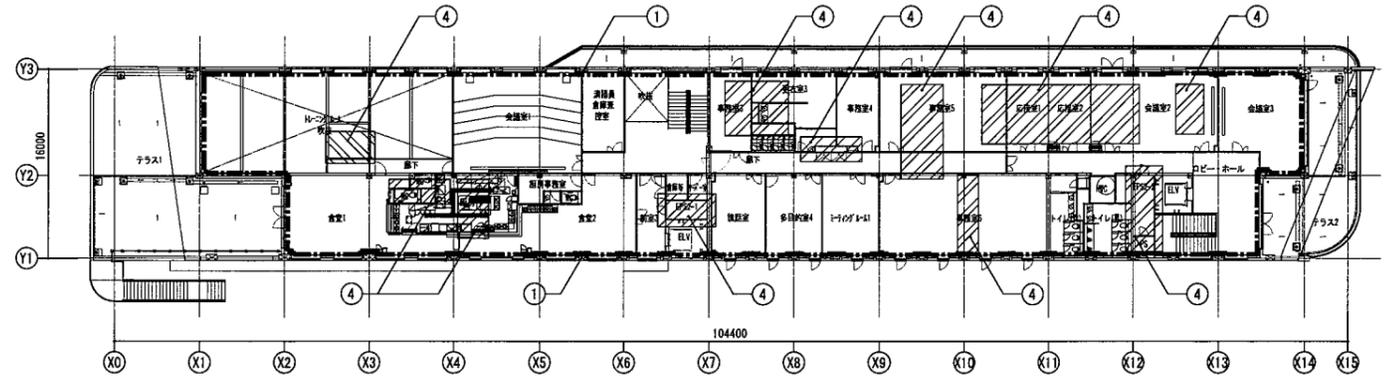
屋上階見下げ図



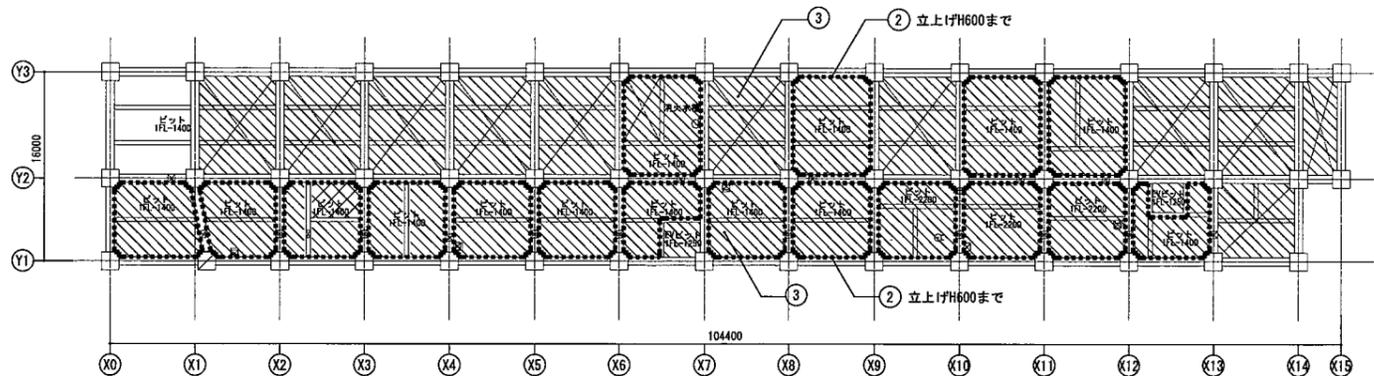
1階見下げ図



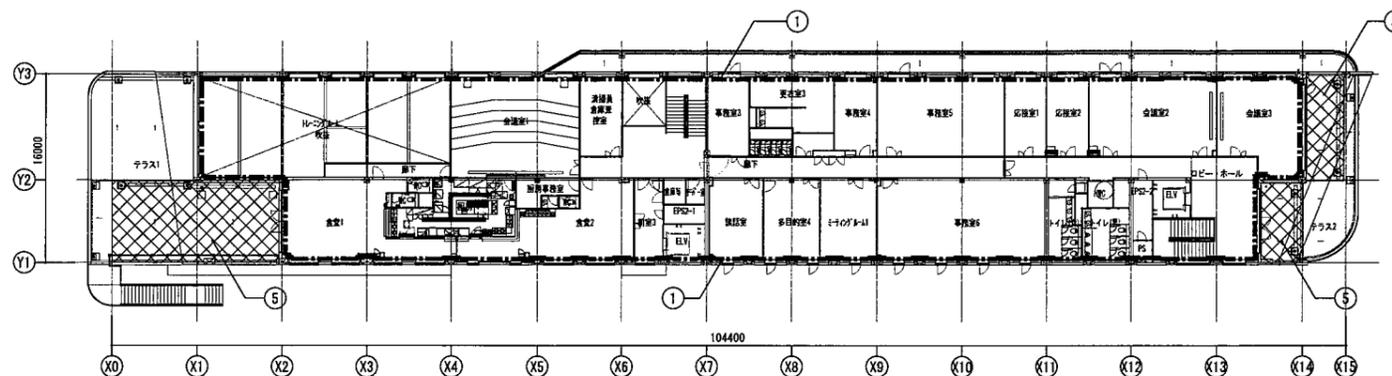
2階見上げ図



ピット見上げ図



2階見下げ図

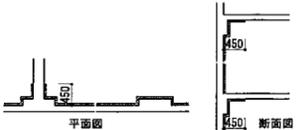


凡例

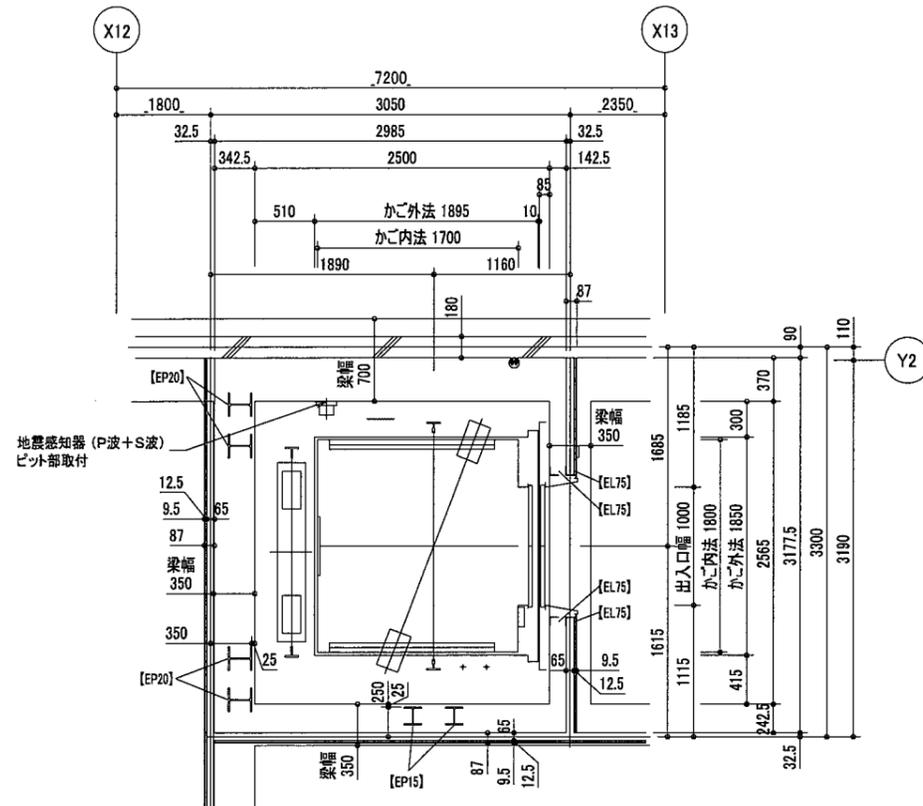
①	吹付硬質ウレタンフォームA種 t30	⑤	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t45	⑨	グラスウール t50 (壁)
②	吹付硬質ウレタンフォーム t35 (壁)	⑥	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板b t25		
③	A種押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t30	⑦	グラスウール t25 (壁)		
④	吹付硬質ウレタンフォームA種 t45 (設備基礎下)	⑧	グラスウール t40 (スラブ)		

共通事項

壁面断熱材吹付においては、柱・梁・コンクリート壁・コンクリートスラブ下面の折り返し450まで断熱を施すこと。



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	断面範囲図	D-523	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/300	2021年1月	
				A3: 1/600		

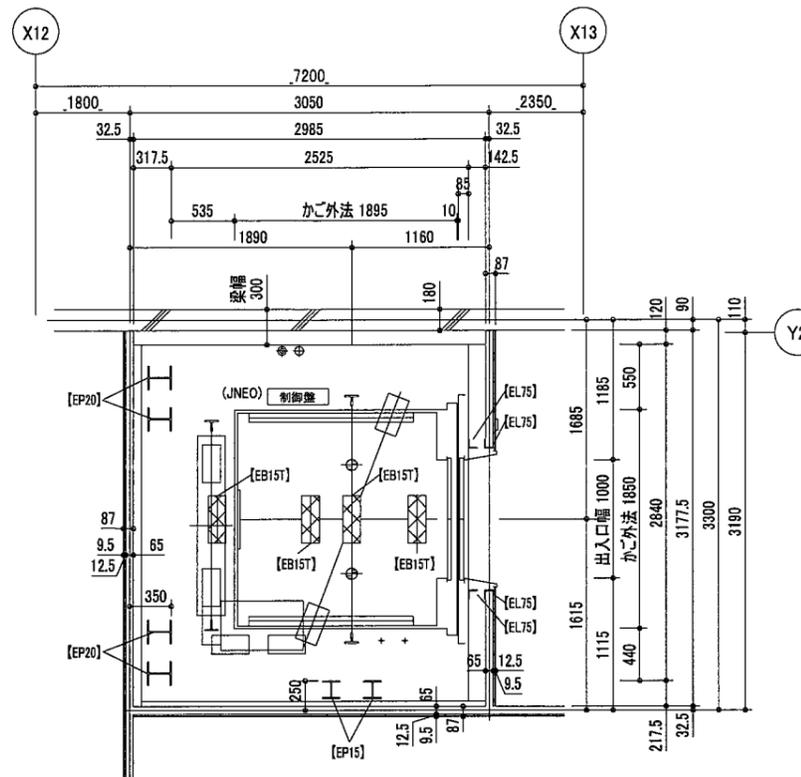


昇降路平面図(1FL)

1:30

⊕	ビット点検用コンセント	(電気工事)
⊕	T.C保護金網	(エレベーター工事)

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トローリービーム	H-150x150x7x10



昇降路平面図(2FL)

1:30

⊕	吊元フック ・荷重: 19.6 kN x2	(建築工事)
⊕	電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明・接地線 最上停止階FL-1700mm 引出長さ2m	(電気工事)
⊕	配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL-1700mm 引出長さ2m	(電気工事)

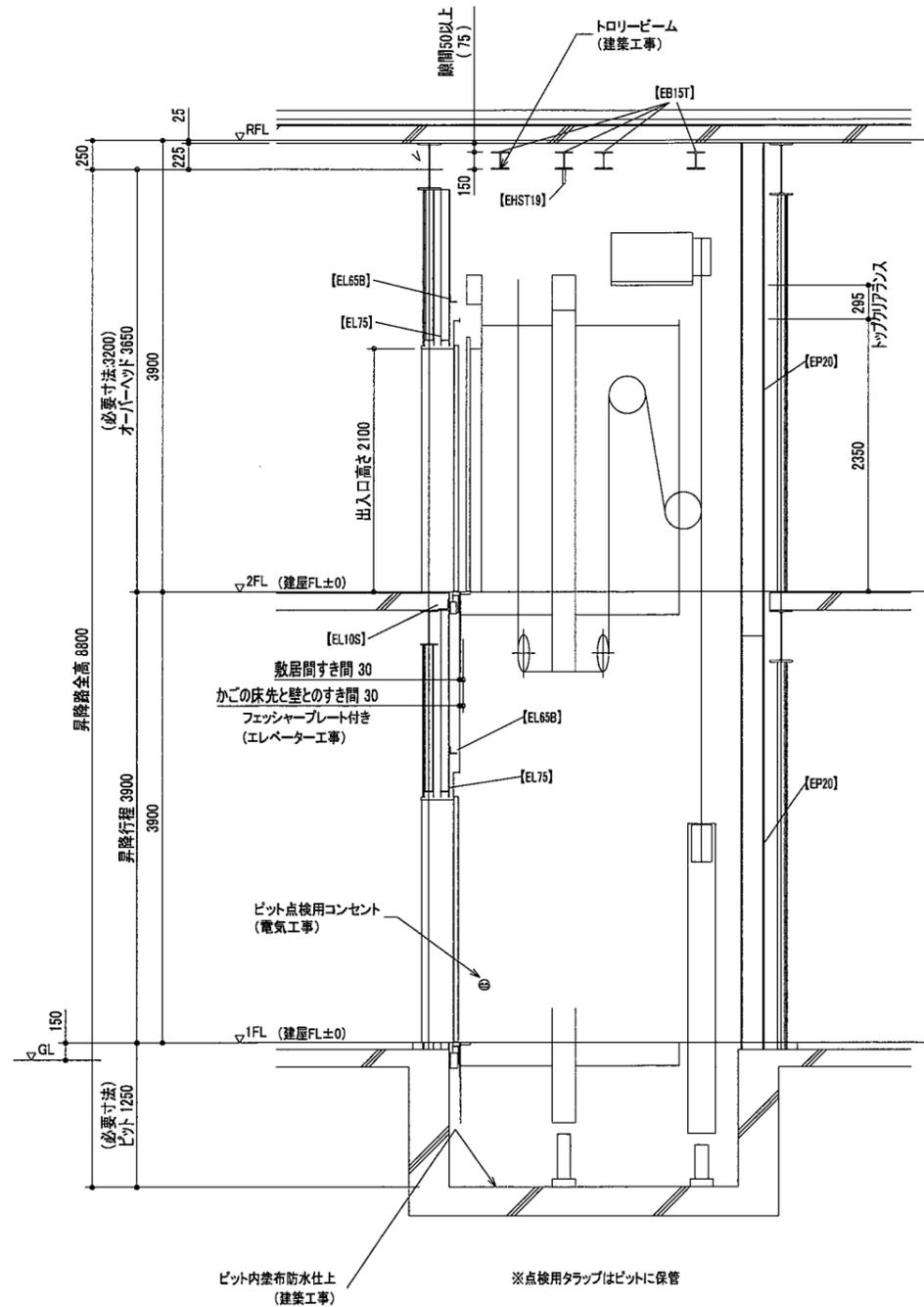
レール反カリスト(地震時作用荷重)		No. 1
	かご側	Px 7.80 kN
	一般階	Py 3.90 kN
	かご側	Px 11.00 kN
	最上階	Py 8.40 kN
	おもり側	Px 12.00 kN
	一般階	Py 6.00 kN
おもり側	Px 17.80 kN	
最上階	Py 11.80 kN	

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。

NO.1

※特記なきFLはエレベーターFLを示す。

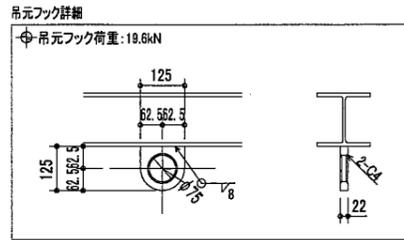
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(1)	D-524	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30 A3: 1/60	2021年 1月	



昇降路縦断面図(Y-Y断面)

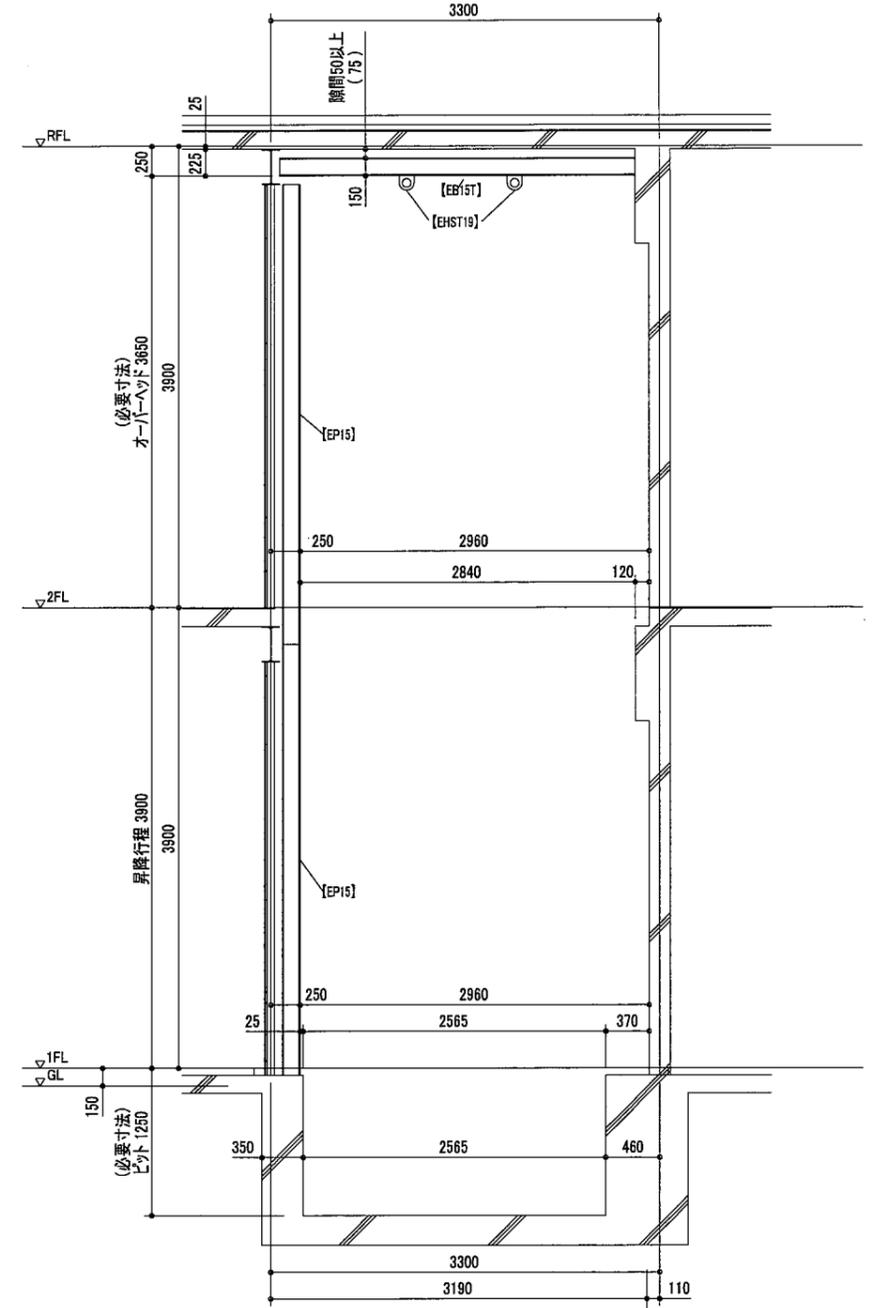
1:30

**煙感知器詳細**  
 施設設置付点検扉  
 1.5mm以上の鋼板製(電気工事)  
 リミットスイッチ付(エレベーター工事)  
 昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。  
 屋外の場合は、防水形点検扉とする。  
 点検ボックスは下記エレベーター昇降器専用部品として下さい。  
 ・ホーチキ (KUS-1C(W))  
 ・能美防災 (FXS J001A-HU)  
 ・ニッタン (NID-T-G)  
 ・パナソニック (BV95351+BV95381H)  
 製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります



No. 1

ビット反力		142.20 kN
ビット衝撃荷重	かご側	115.10 kN
	C/W側	91.10 kN



昇降路縦断面図(X-X断面)

1:30

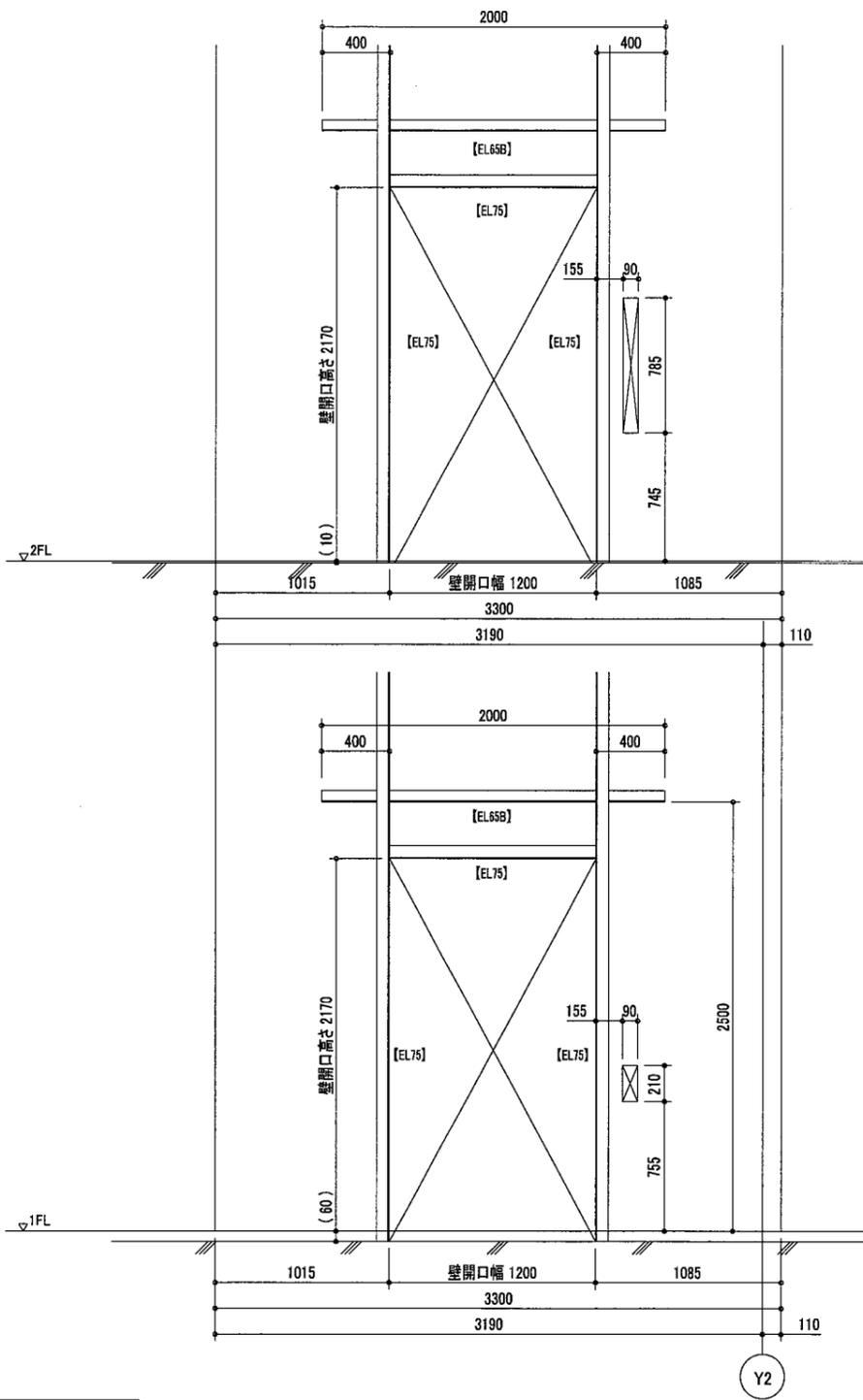
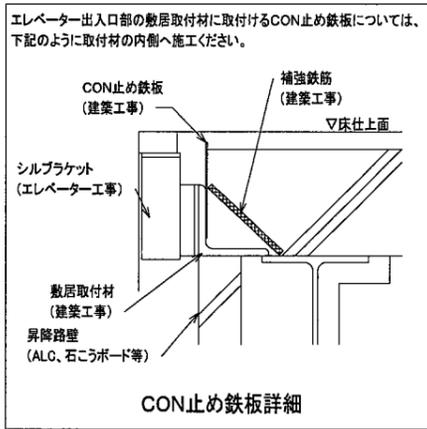
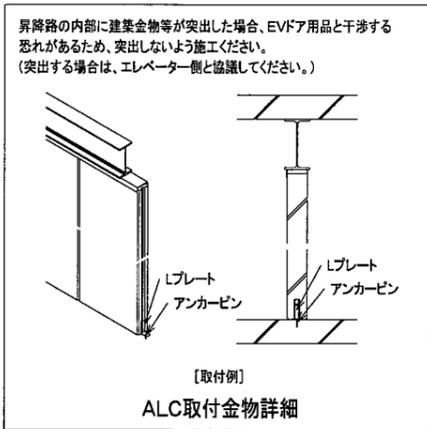
**鉄骨部材記号表 (建築工事)**

部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トロリービーム	H-150x150x7x10

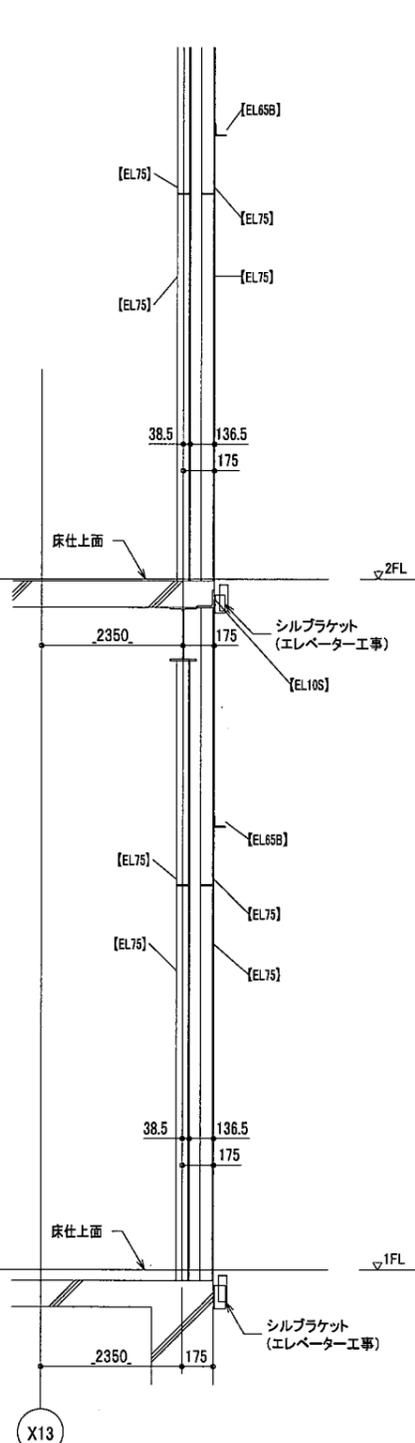
NO.1

※特記なきFLはエレベーターFLを示す。

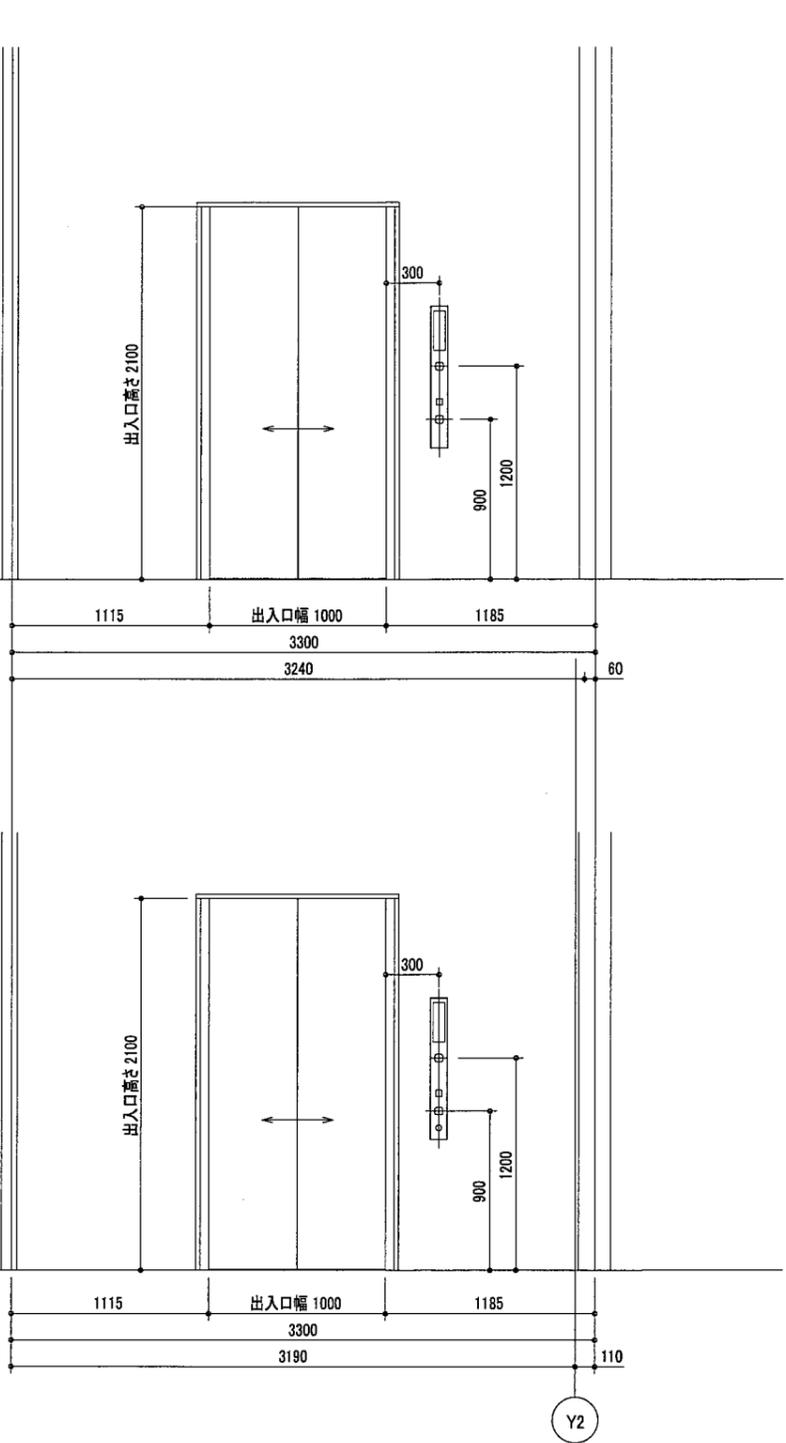
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(2)	D-525	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30	2021年 1月	
				A3: 1/60		



出入口壁穴明図  
1:20



断面図  
1:20



出入口正面図  
1:20

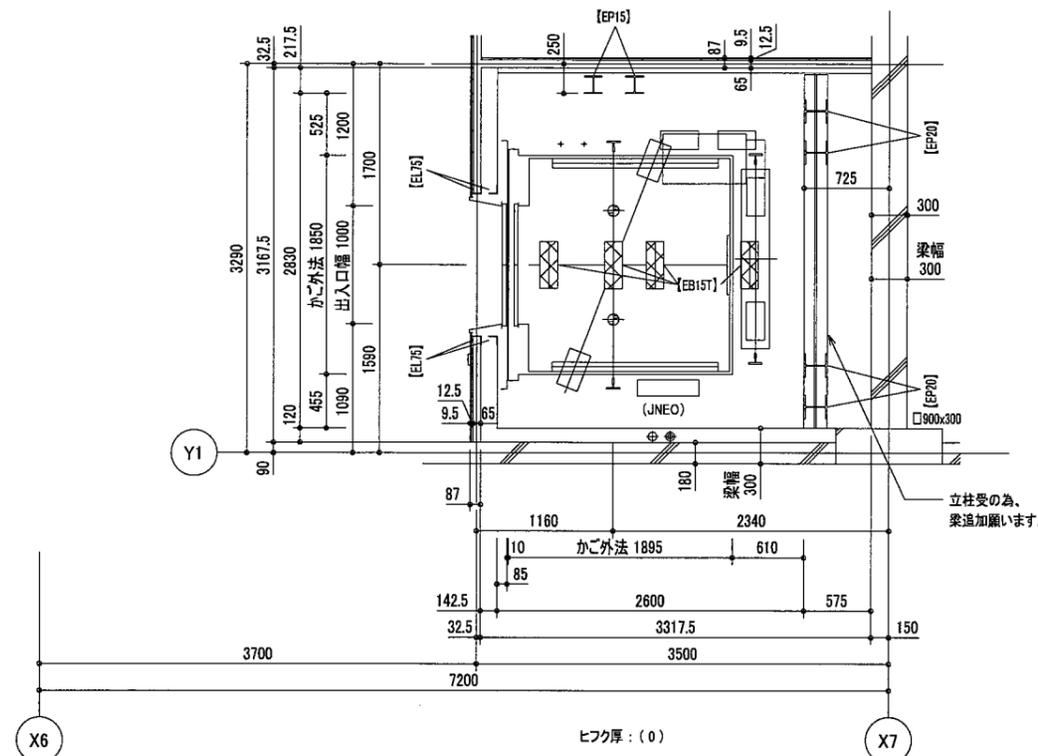
※2階乗り場インジケータボタンに補助操作盤組み込み。

鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トローリービーム	H-150x150x7x10

NO.1

※特記なきFLはエレベーターFLを示す。

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(3)	D-526	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/20 A3: 1/40	2021年1月	



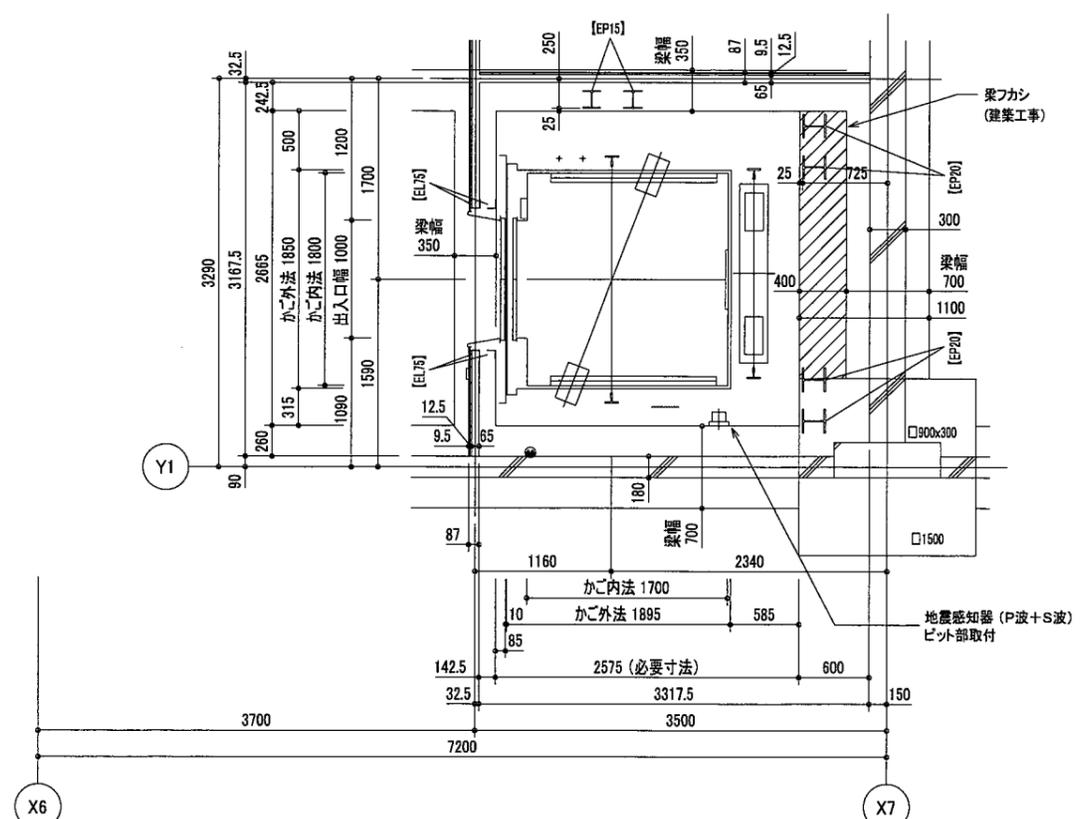
昇降路平面図(2FL)

1:30

吊元フック ・荷重: 19.6 x 2 kN	(建築工事)
電源引込み(受電盤への接続) ・動力・照明、接地線 最上停止階FL-1700mm 引出長さ2m	(電気工事)
配線引込み ・インターホン配線、電話線 最上停止階FL-1700mm 引出長さ2m	(電気工事)

位置	方向	荷重 (kN)
かご側 一般階	Px	7.80
	Py	3.90
かご側 最上階	Px	11.00
	Py	8.40
おもり側 一般階	Px	12.00
	Py	6.00
おもり側 最上階	Px	17.80
	Py	11.80

上記 荷重による柱及び梁のたわみは5mm以下となるよう選定下さい。



昇降路平面図(1FL)

1:30

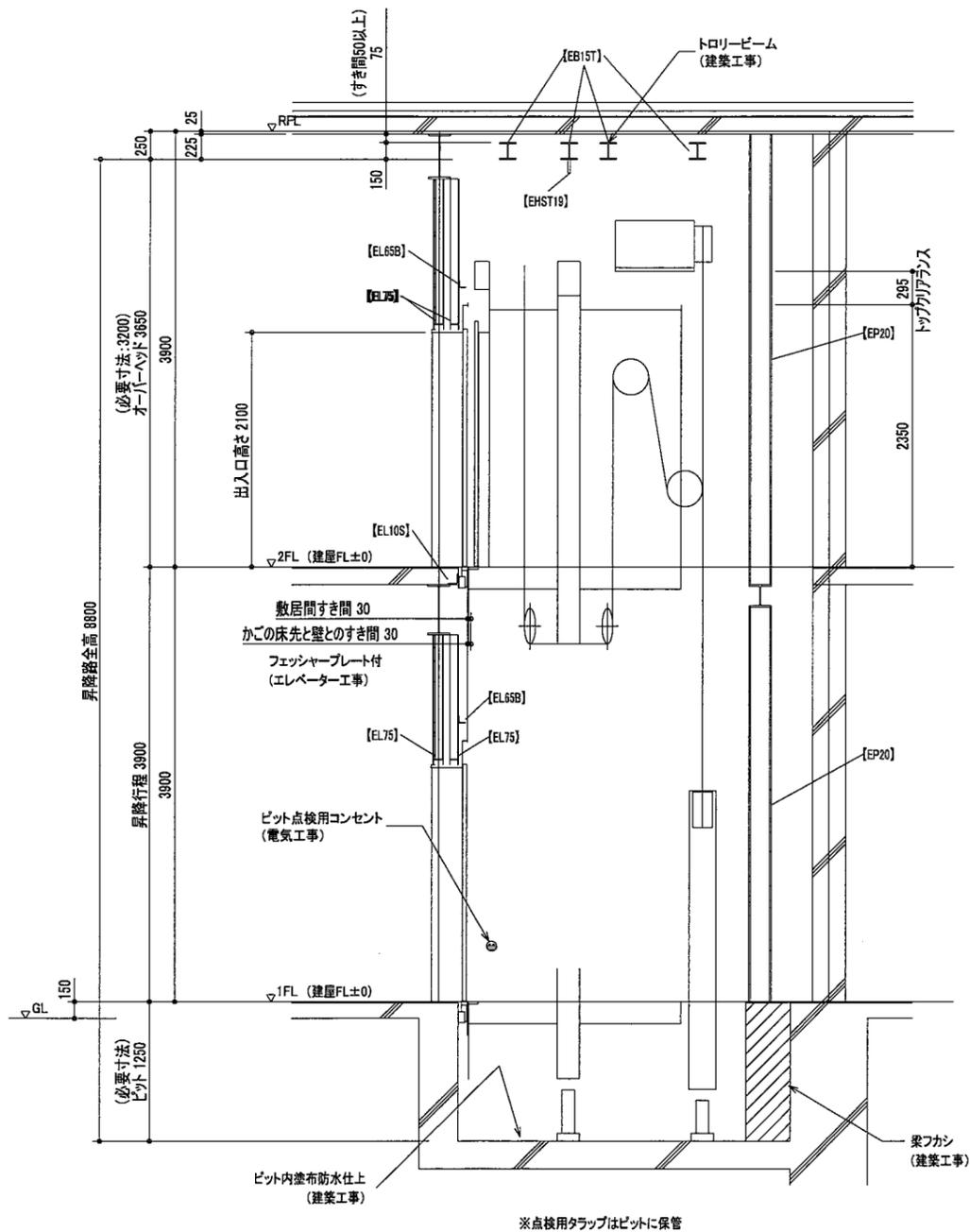
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方栓取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	数層取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トロリービーム	H-150x150x7x10

⊙	ビット点検用コンセント	(電気工事)
⋮	T.C保護金網	(エレベーター工事)

NO.2

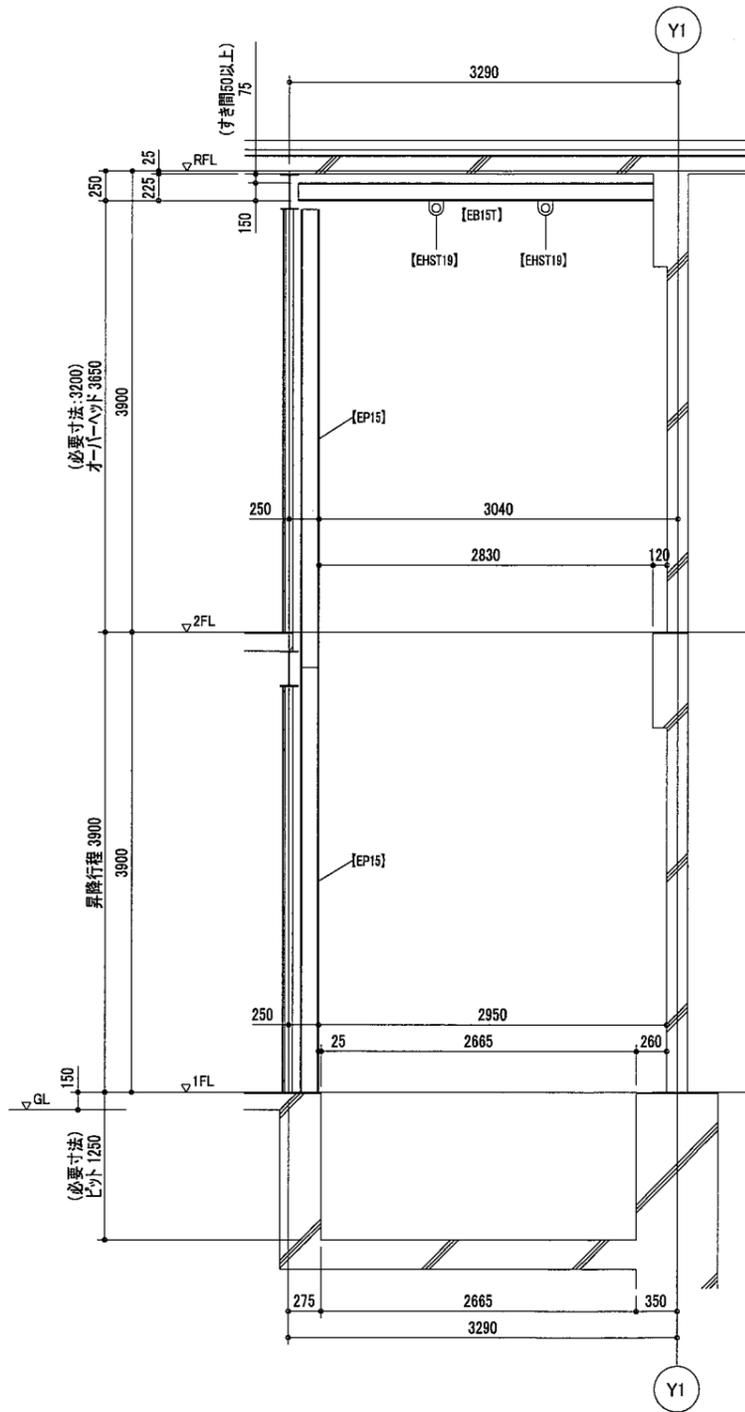
※特記なきはエレベーターを示す。

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(4)	D-527	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30	A3: 1/60	2021年 1月



昇降路縦断面図

1:30



昇降路縦断面図

1:30

煙感知器詳細

**施設設置点検厚**  
 1.5mm以上の鋼板製(電気工事)  
 リミットスイッチ付(エレベーター工事)

昇降路頂部に煙感知器を設置する場合は外部に引き出した状態で点検可能な構造とする。  
 屋外の場合は、防水形点検厚とする。

点検ボックスは下記エレベーター昇降路専用部品として下さい。  
 ・ホーテキ (KUS-1C(W))  
 ・能美防災 (FXS J001A-HU)  
 ・ニッタン (NID-T-G)  
 ・パナソニック (BV95351+BV95381H)

製品の型番は、仕様変更などで変更・廃止されている場合があります

吊元フック詳細

吊元フック荷重: 19.6kN

鉄骨部材記号表 (建築工事)

部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トロリービーム	H-150x150x7x10

No. 2

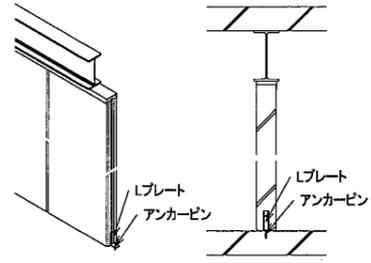
ビット反力	142.20 kN
ビット衝撃荷重	かご側 115.10 kN
	C/W側 91.10 kN

NO.2

※特記なきはエレベーターを示す。

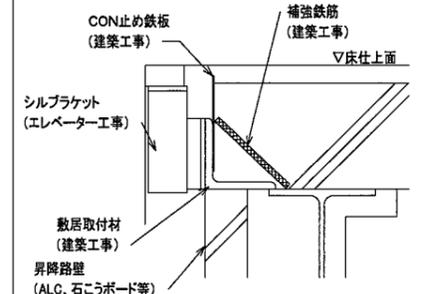
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(5)	D-528	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30	A3: 1/60	2021年 1月

昇降路の内部に建築金物等が突出した場合、EVDア用品と干渉する恐れがあるため、突出しないよう施工ください。  
(突出する場合は、エレベーター側と協議してください。)



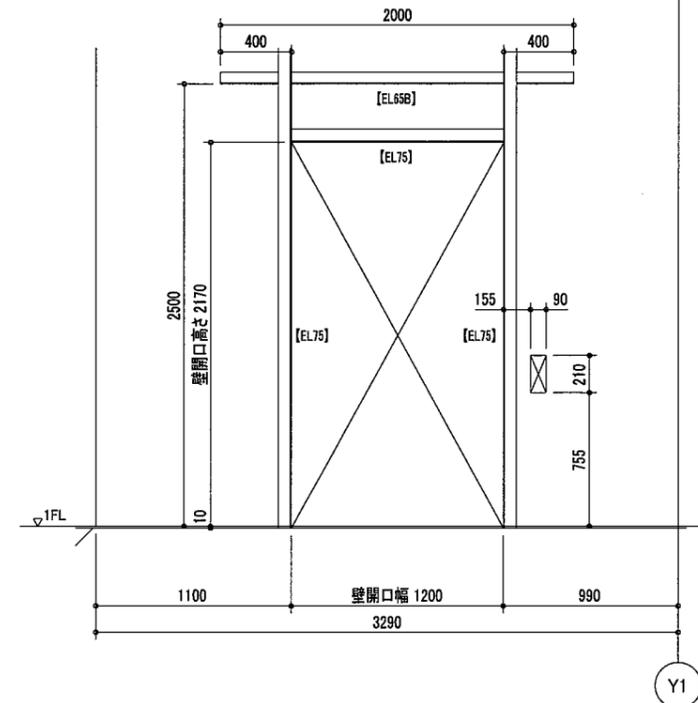
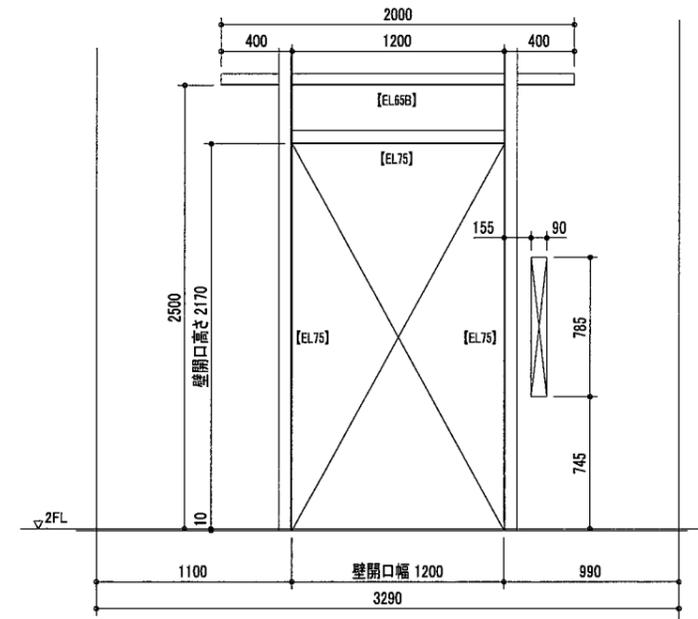
[取付例]  
ALC取付金物詳細

エレベーター出入口部の敷居取付材に取付けるCON止め鉄板については、下記のように取付材の内側へ施工ください。

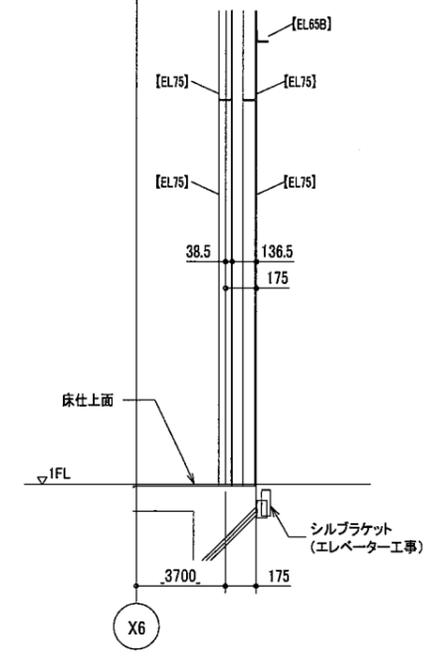
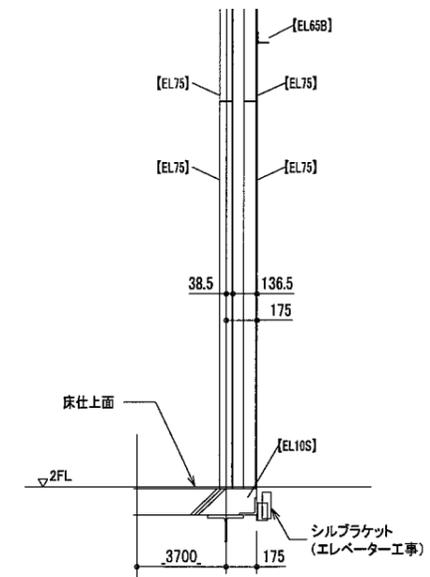


CON止め鉄板詳細

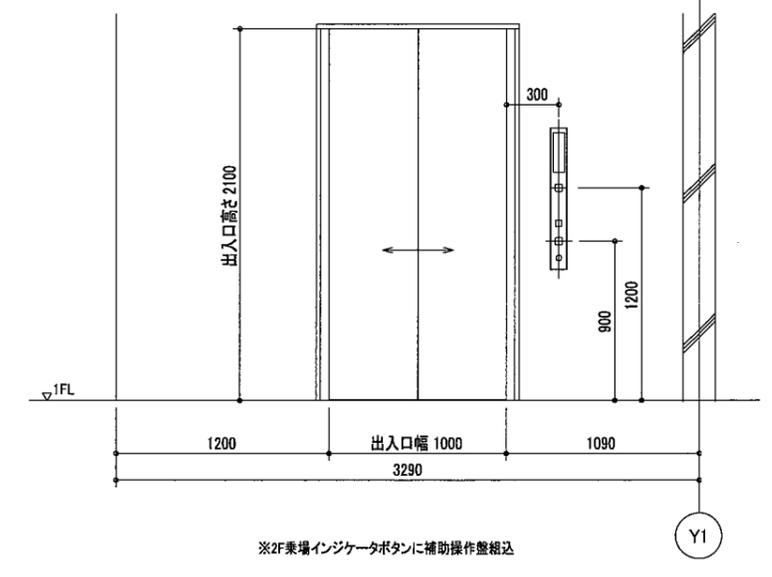
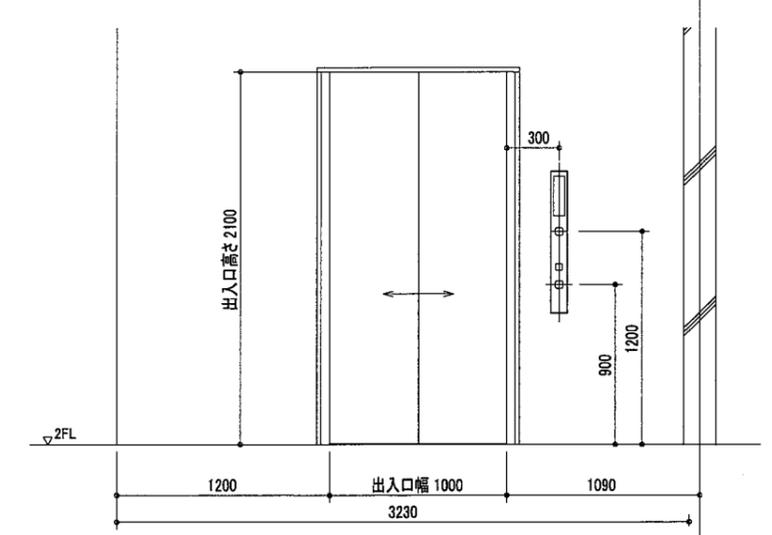
鉄骨部材記号表 (建築工事)		
部材記号	部材用途	部材サイズ
EP20	レール支持柱	H-200x200x8x12
EP15	レール支持柱	H-150x150x7x10
EL75	三方枠取付材	L-75x75x6
EL65B	バックアングル取付材	L-65x65x6
EL10S	敷居取付材	L-100x100x10
EHST19	吊元(荷重19.6kN用)	t22(φ75穴付)
EB15T	トローリービーム	H-150x150x7x10



出入口壁穴明図  
1:20



断面図  
1:20



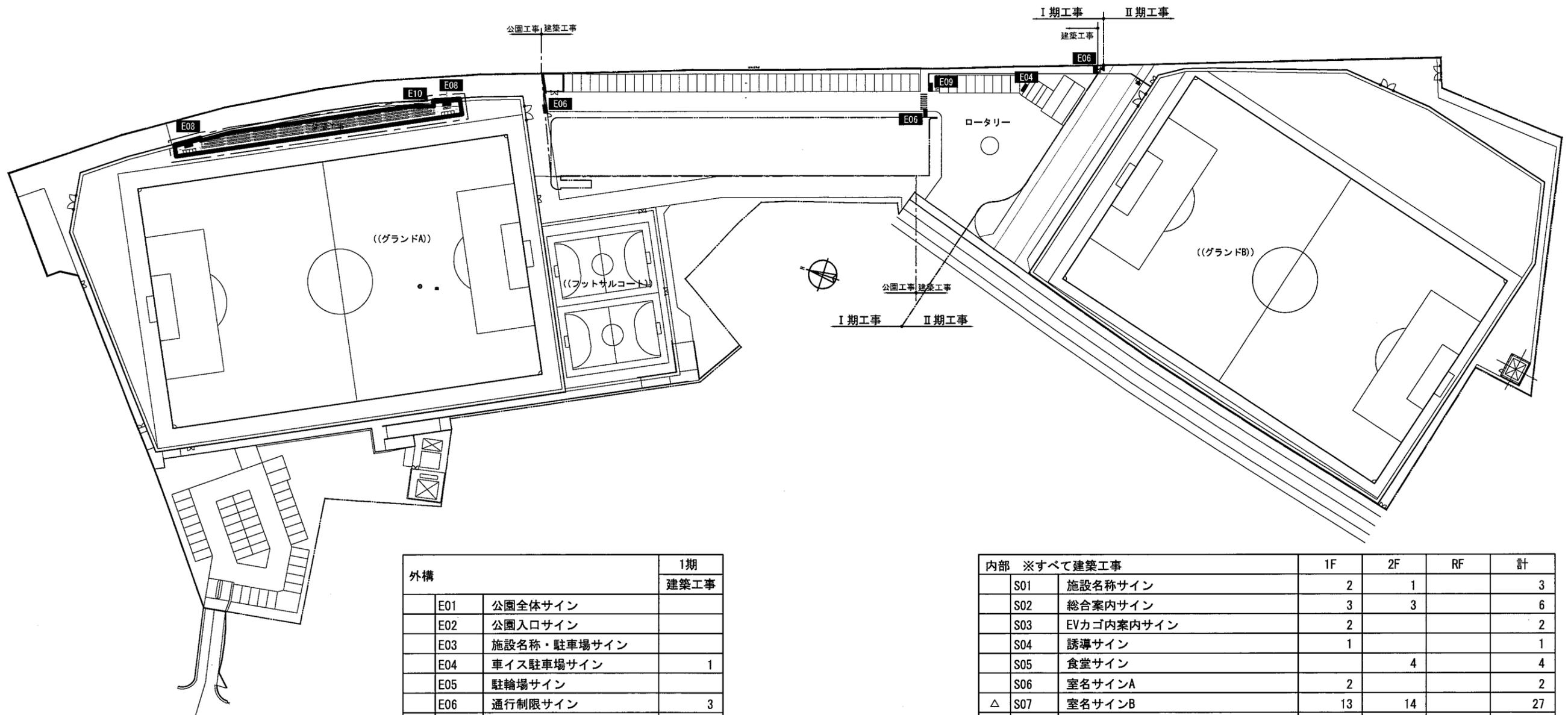
出入口正面図  
1:20

※2F乗場インジケータボタンに補助操作盤組込

NO.2

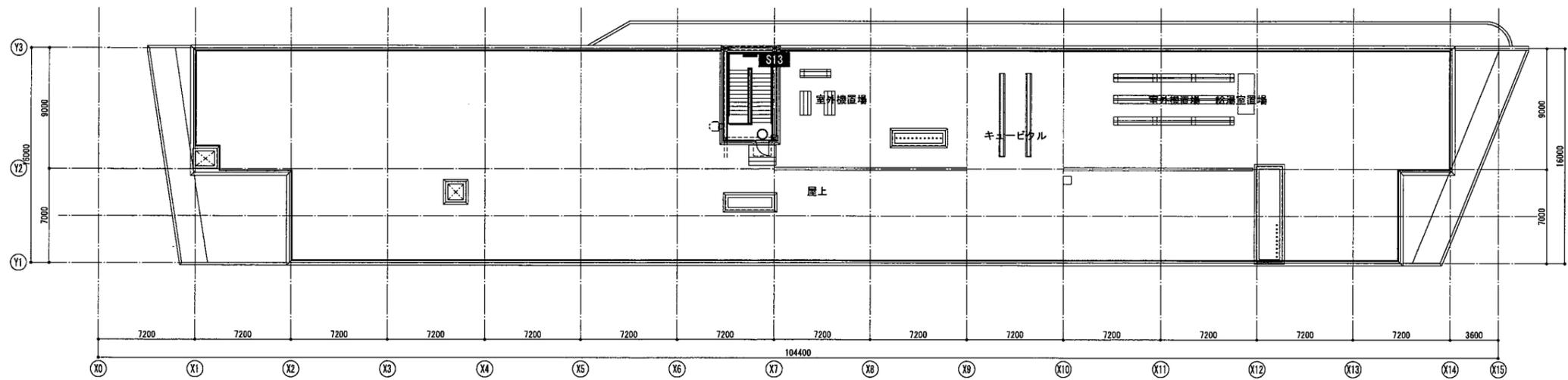
※特記なきはエレベーターを示す。

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	昇降機設備図(6)	D-529	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/20 A3: 1/40	2021年1月	



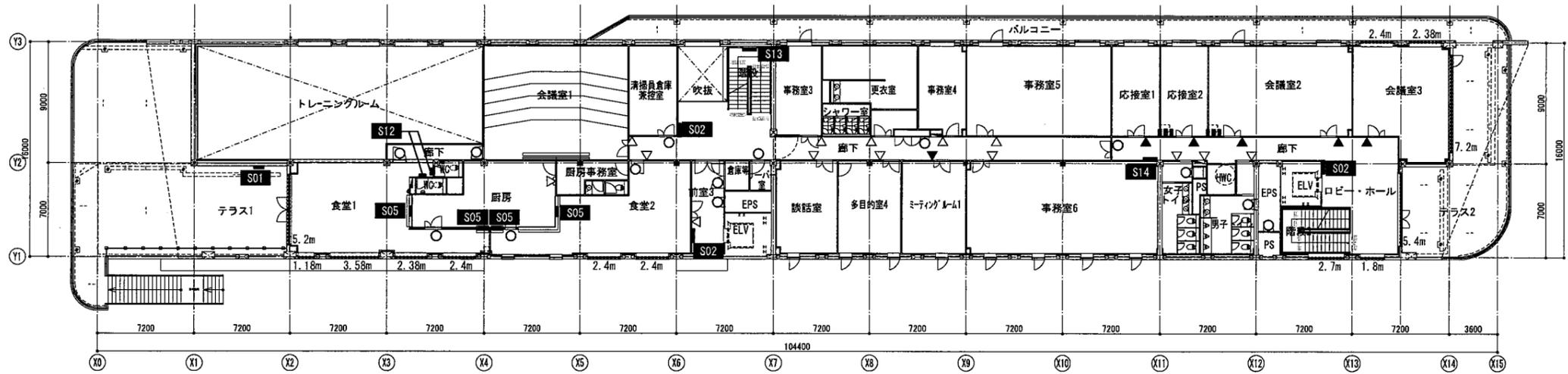
外構		1期 建築工事
E01	公園全体サイン	
E02	公園入口サイン	
E03	施設名称・駐車場サイン	
E04	車イス駐車場サイン	1
E05	駐輪場サイン	
E06	通行制限サイン	3
E07	フットサル場利用案内サイン	
E08	スタンド注意書きサイン	2
E09	防犯サイン	1
E10	雨水調整池サイン (壁付)	1
E11	雨水調整池サイン (自立)	

内部 ※すべて建築工事		1F	2F	RF	計
S01	施設名称サイン	2	1		3
S02	総合案内サイン	3	3		6
S03	EVカゴ内案内サイン	2			2
S04	誘導サイン	1			1
S05	食堂サイン		4		4
S06	室名サインA	2			2
△ S07	室名サインB	13	14		27
▲ S08	室名サインC(在空)		6		6
○ S09	バックヤード室名サイン	27	14	1	42
S10	突出ピクトサイン	6			6
S11	ピクトサインA	6			6
S12	ピクトサインB	1	2		3
S13	階数表示	1	1	1	3
S14	避難経路図		1		1
..... S15	衝突防止サイン	21	41.42		62.42m
S16	ロッカールーム注意書きサイン	2			2
S17	利用案内サイン	2			2
S18	下足案内サイン	3			3
S19	多目的スタンド				2



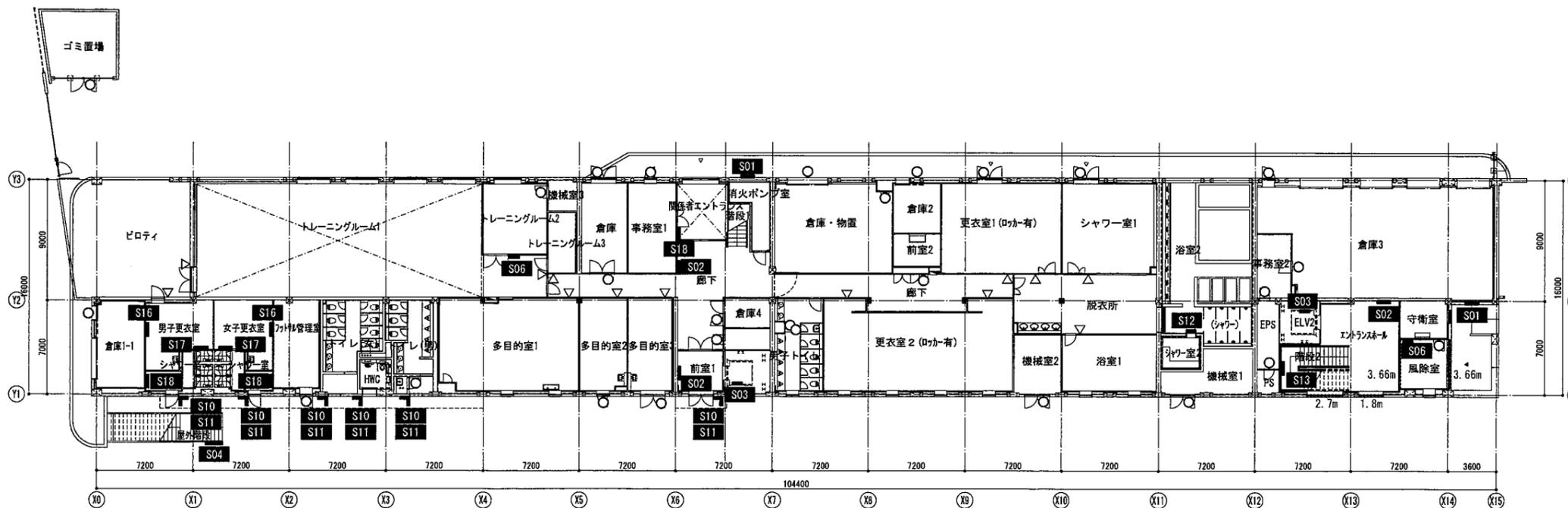
R階平面図

○ S09 バックヤード室名サイン ×1



2階平面図

△ S07 室名サインB ×14  
 ▲ S08 室名サインC(在空) ×6  
 ○ S09 バックヤード室名サイン ×14  
 ..... S15 衝突防止サイン 41.42m



1階平面図

△ S07 室名サインB ×13  
 ○ S09 バックヤード室名サイン ×27  
 ..... S15 衝突防止サイン 21m

公共建築課長	主査等	担当者	工事名
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名	1・2・R階サインキープラン	図面番号	D-602	区分	建築
縮尺	A1: 1/200 A3: 1/400	年月日	2021年 1月		

**E04** 車イス駐車場サイン

数量 2 取付 自立 区分 外構

縮尺 1/20

**\* I 期**

EV誘導マップ：インクジェット出力シート貼り

S=1/10

15 ステンレス板 縦付設置仕上

t1.5 ステンレス板加工 縦付設置仕上

ビクト：黒ビクト切文字貼り

誘導マップ：インクジェット出力シート貼り

M16 セットアンカー

ベース材：t12 スチール板 (錆止め塗装)

コンクリート基礎 (別図)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工(メッシュフェンス挿み)

**E06** 通行制限サイン

数量 5 取付 フェンス付 区分 外構

縮尺 1/5・1/20

**\* I 期**

M16 ビス ナット締め

t3 アルミ複合板加工

メッシュフェンス (建築工事)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工(メッシュフェンス挿み)

S=1/20

**E08** スタンド注意書きサイン

数量 2 取付 フェンス付 区分 外構

縮尺 1/5・1/20

**\* I 期**

M16 ビス ナット締め

t3 アルミ複合板加工

メッシュフェンス (建築工事)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工(メッシュフェンス挿み)

S=1/20

**E09** 防犯サイン

数量 5 取付 フェンス付 区分 外構

縮尺 1/5・1/20

**\* I 期**

M16 ビス ナット締め

t3 アルミ複合板加工

メッシュフェンス (建築工事)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工(メッシュフェンス挿み)

S=1/20

**E10** 雨水調整池サイン (壁付)

数量 1 取付 壁付 区分 外構

縮尺 1/10・1/20

**\* I 期**

表示ベース：SY9.005

M16 ビス ナット締め

t3 アルミ複合板加工

メッシュフェンス (建築工事)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工

S=1/20

**E10** 雨水調整池サイン (壁付)

数量 1 取付 壁付 区分 外構

縮尺 1/10・1/20

**\* I 期**

表示ベース：SY9.005

M16 ビス ナット締め

t3 アルミ複合板加工

メッシュフェンス (建築工事)

表示基板：t3 アルミ複合板加工  
表示方法：インクジェット出力シート巻込み貼り  
枠で板：t3アルミ複合板加工

S=1/20

<p><b>S01</b> 施設名称サイン</p> <p>数量 3 取付 壁付 層内 縮尺 1/10・1/20 区分 層内</p>	<p><b>S02</b> 総合案内サイン</p> <p>数量 6 取付 壁付 層内 縮尺 1/5 区分 層内</p>	<p><b>S03</b> EVカゴ内案内サイン</p> <p>数量 2 取付 EV付 層内 縮尺 1/5 区分 層内</p>	<p><b>S04</b> 誘導サイン</p> <p>数量 1 取付 壁付 層内 縮尺 1/10・1/30 区分 層内</p>
---	---	---	---

**S05** 食堂サイン

数量 4 取付 壁付 層内  
縮尺 1/20 区分 層内

**S06** 室名サインA

数量 2 取付 ガラス付 層内  
縮尺 1/4・1/20 区分 層内

**S07** 室名サインB

数量 27 取付 壁付 層内  
縮尺 1/4・1/20 区分 層内

**S08** 室名サインC (在空)

数量 6 取付 壁付 層内  
縮尺 1/4・1/20 区分 層内

**S09** バックヤード室名サイン

数量 42 取付 壁付 層内  
縮尺 1/3・1/20 区分 層内

**S10** 突出ピクトサイン

数量 6 取付 壁付 層内  
縮尺 1/5・1/20 区分 層内

**S11** ピクトサインA

数量 6 取付 壁付 層内  
縮尺 1/5・1/20 区分 層内

**S12** ピクトサインB

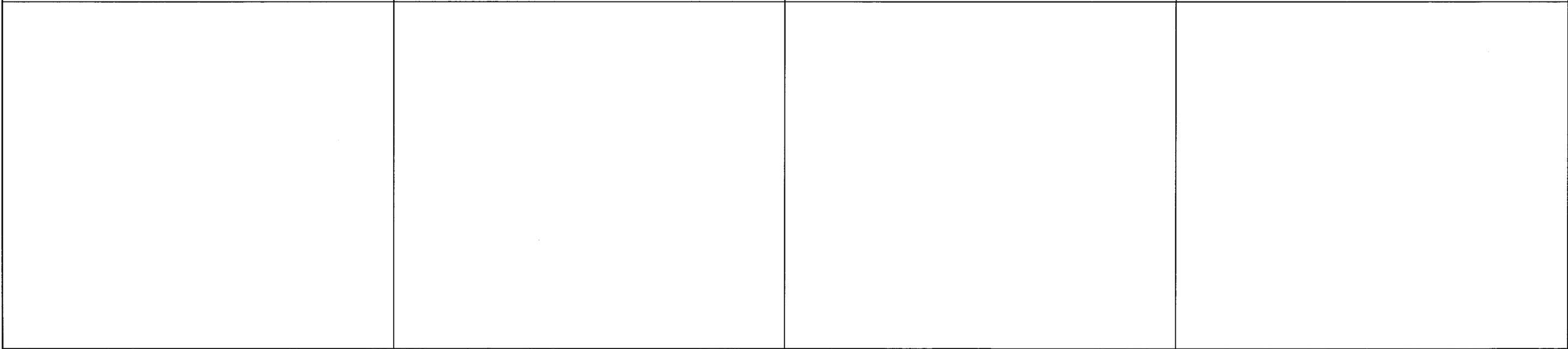
数量 3 取付 壁付 層内  
縮尺 1/5・1/20 区分 層内

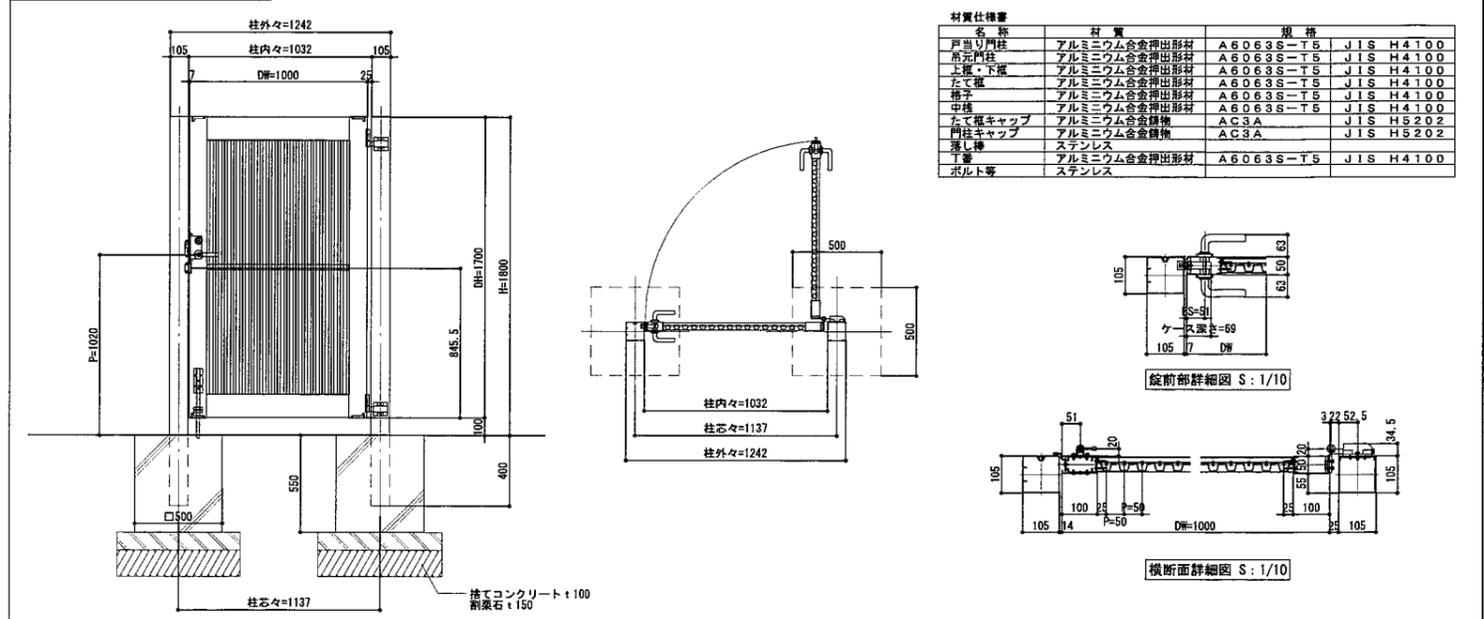
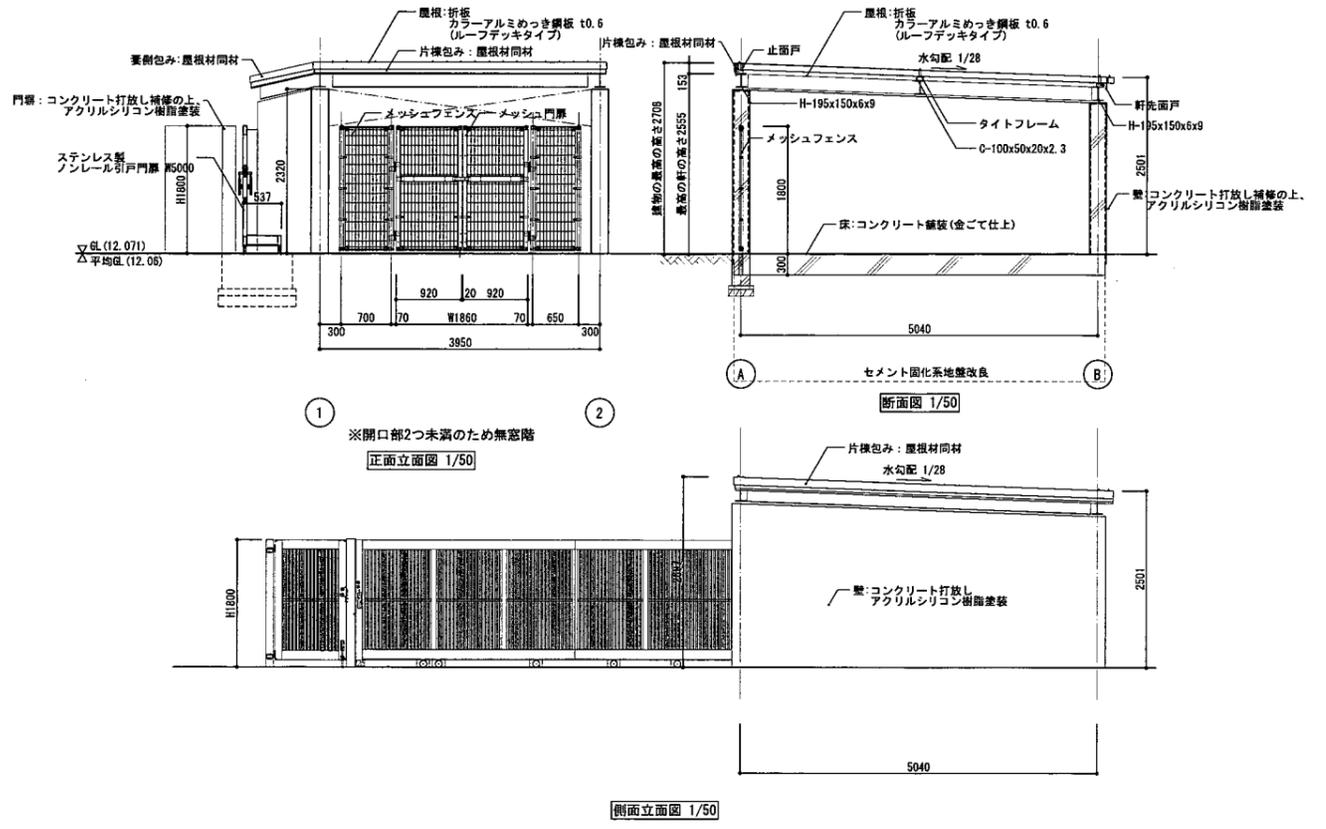
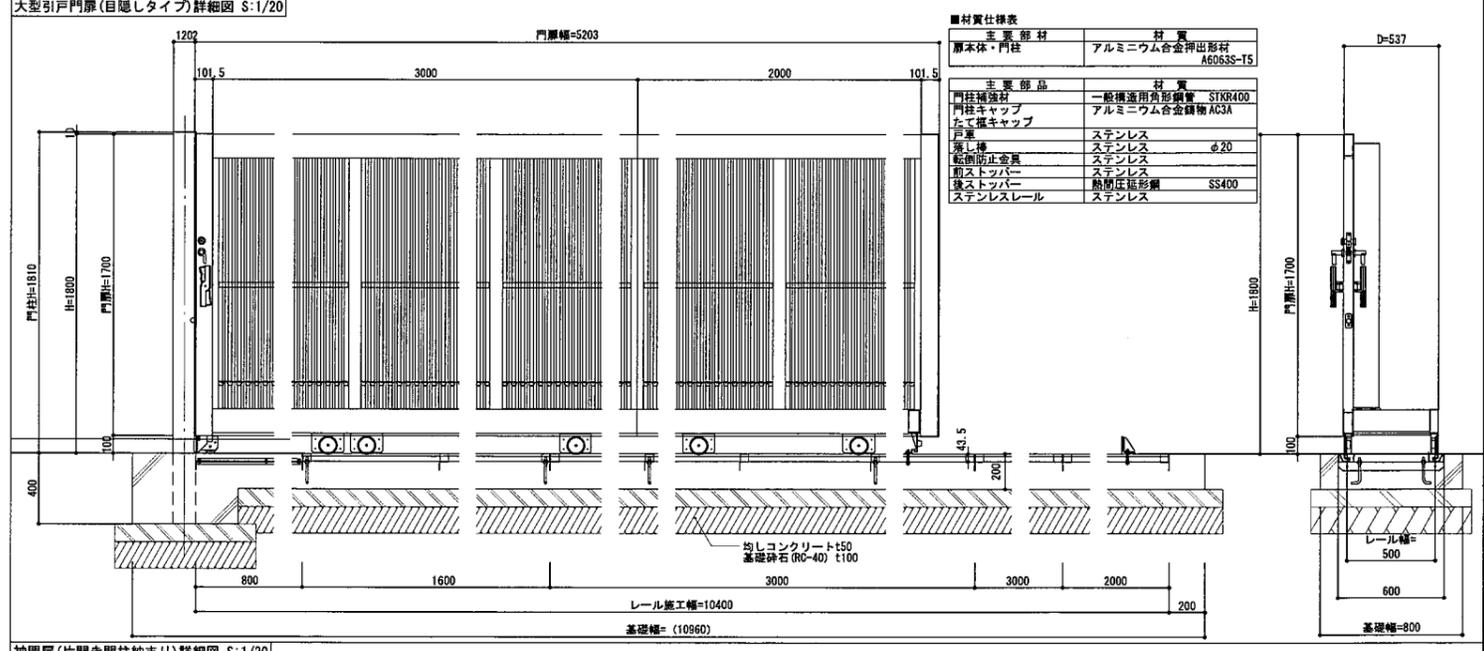
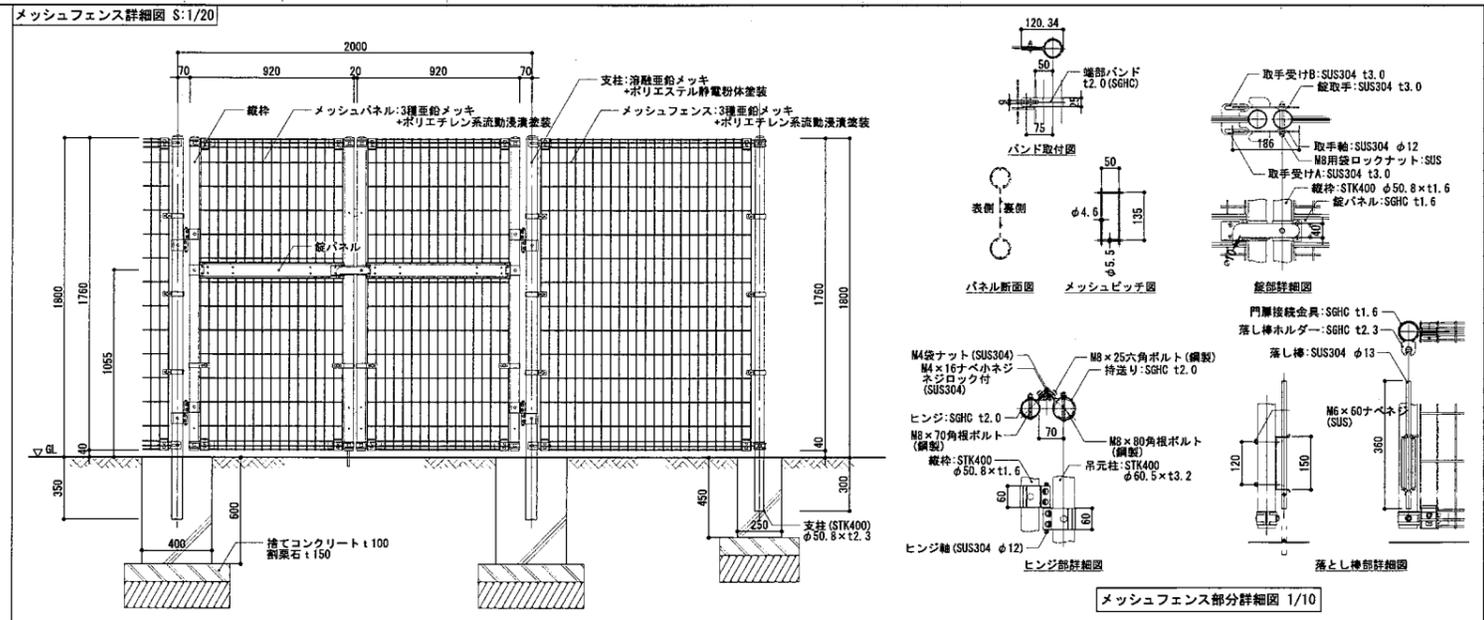
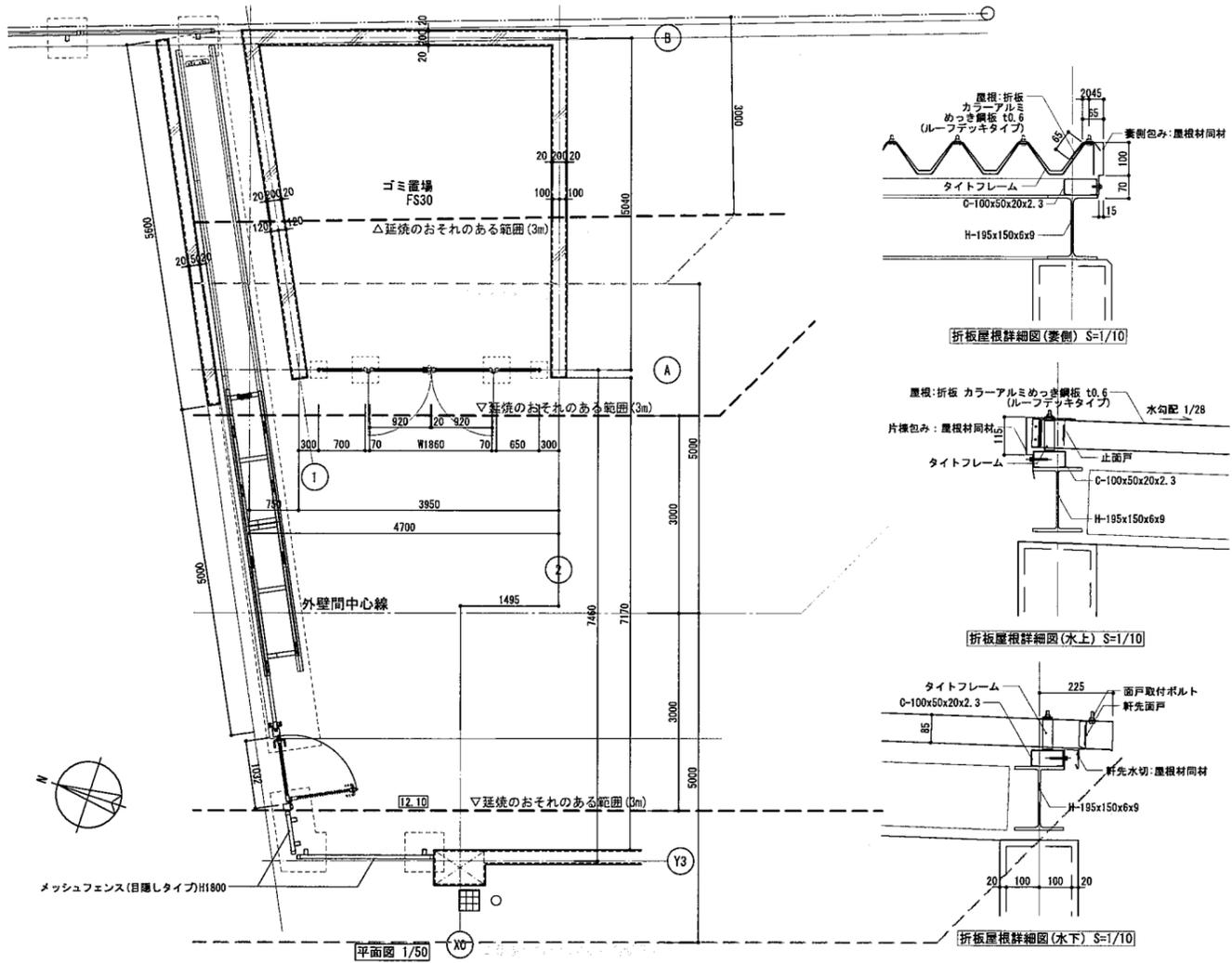
<p><b>S13 階数表示</b></p>	<p><b>S14 避難経路図</b></p>	<p><b>S15 衝突防止サイン</b></p>	<p><b>S16 ロッカールーム注意書きサイン</b></p>
------------------------	-------------------------	---------------------------	----------------------------------

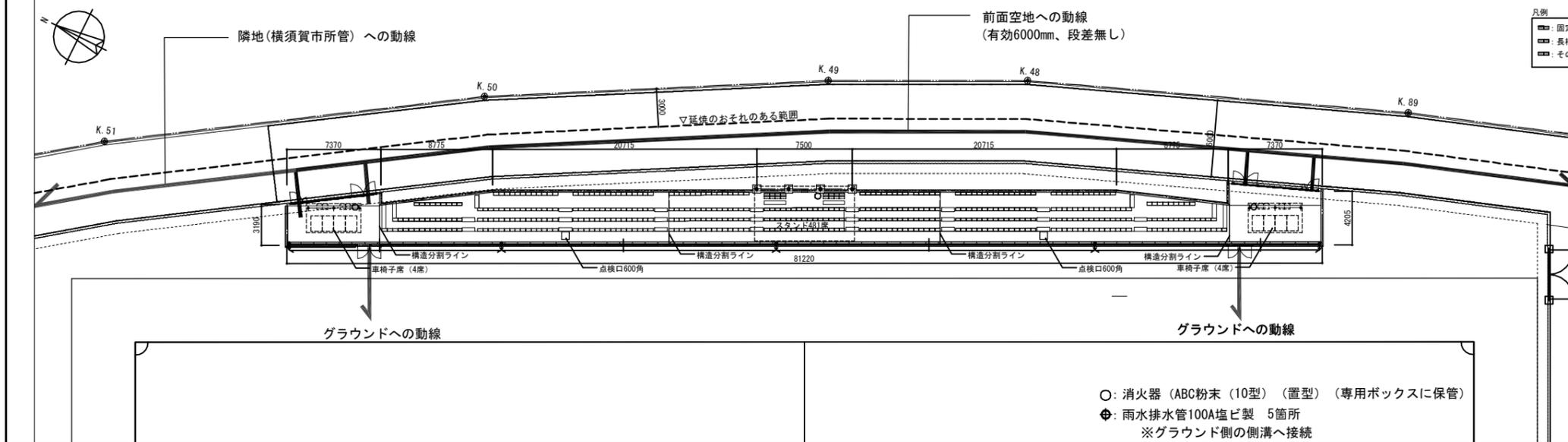
**S17 利用案内サイン**

**S18 下足案内サイン**

**S19 多目的スタンド**







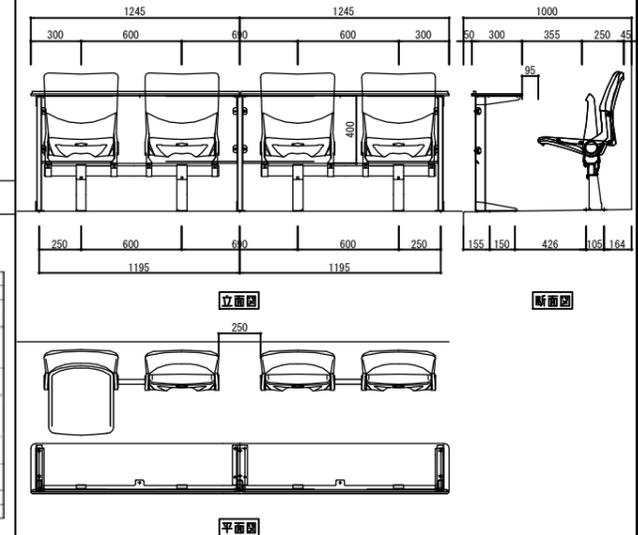
- 凡例
- : 固定床
  - : 長椅子
  - : その他

背座ツーピースブロー椅子(床付)

背	高背座ポリエチレンブロー成形品 KB
座	高背座ポリエチレンブロー成形品 KB
座アーム	鋼板プレス 滑車型めっき仕上
座自動起立機構付	スリッパ内蔵式
支柱	アルミ合金ダイキャスト 屋外用合成樹脂積層材 KC-550(ブラックグレー)
連結材	滑車型めっき角鋼管
クランプ	鋼板プレス 滑車型めっき仕上
脚	鋼板プレス 滑車型めっき仕上
底	底に固定
床	底に固定
床板	有り(座裏)
列板	無し

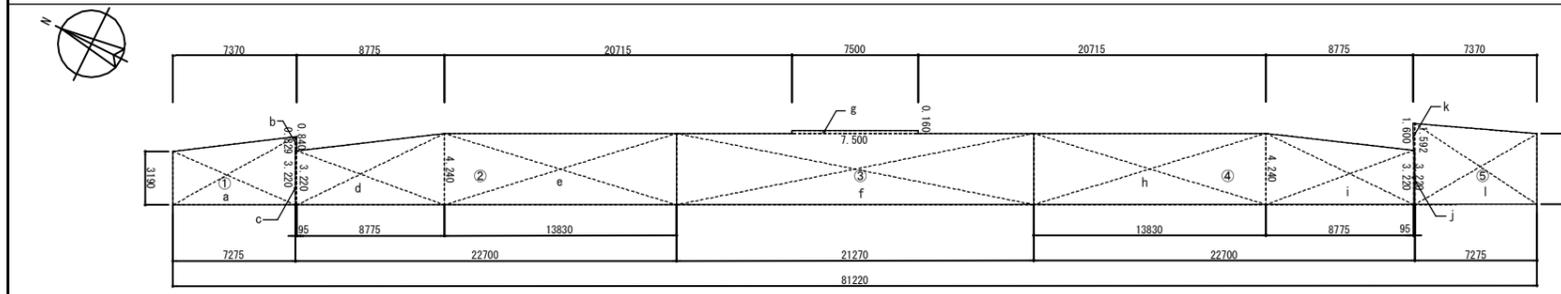
  

机	合成樹脂板
中板	t1.6鋼板加工品 屋外用合成樹脂積層材 KC-550(ブラックグレー)
脚	30×60×t1.6 鋼管 屋外用合成樹脂積層材 KC-550(ブラックグレー)
脚ベース	t4.5 鋼板加工品 屋外用合成樹脂積層材 KC-550(ブラックグレー)
底	底に固定



- : 消火器(ABC粉末(10型)) (置型) (専用ボックスに保管)
- ⊕: 雨水排水管100A塩ビ製 5箇所 ※グラウンド側の側溝へ接続

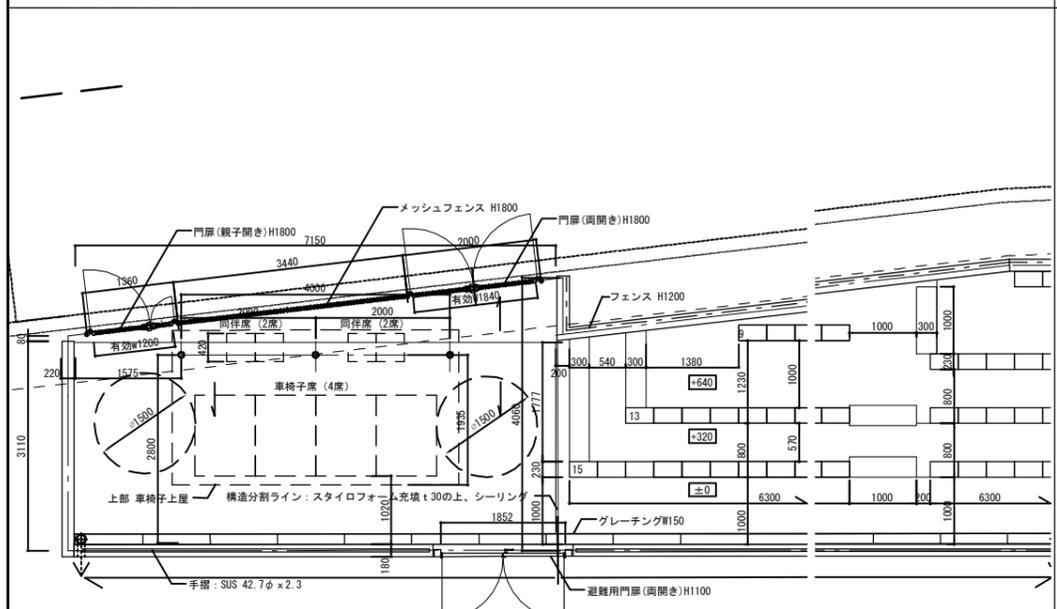
構造分割面積図 1/200



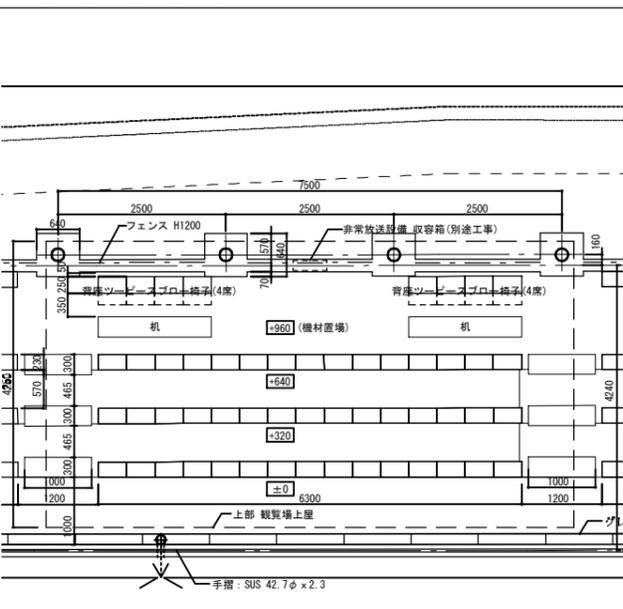
スタンド構造分割面積

符号	求積算定表 (m)	面積 (㎡)	計 (㎡)
①	a ( 3.190 + 4.049 ) × 7.275 / 2	26.33186	26.41114
b	( 0.829 + 0.840 ) × 0.095 / 2	0.07928	
②	c ( 3.220 × 0.095 )	0.30590	32.73075
d	( 3.220 + 4.240 ) × 8.775 / 2	32.73075	
③	e 4.240 × 13.830	58.63920	91.67585
f	4.240 × 21.270	90.18480	
④	g 0.180 × 7.500	1.20000	91.38480
h	4.240 × 13.830	58.63920	
⑤	i ( 3.220 + 4.240 ) × 8.775 / 2	32.73075	91.67585
j	( 3.220 × 0.095 )	0.30590	
⑥	k ( 1.592 + 1.600 ) × 0.095 / 2	0.15162	32.98096
l	( 4.205 + 4.812 ) × 7.275 / 2	32.78934	
合計 (㎡)		334.09860	334.09

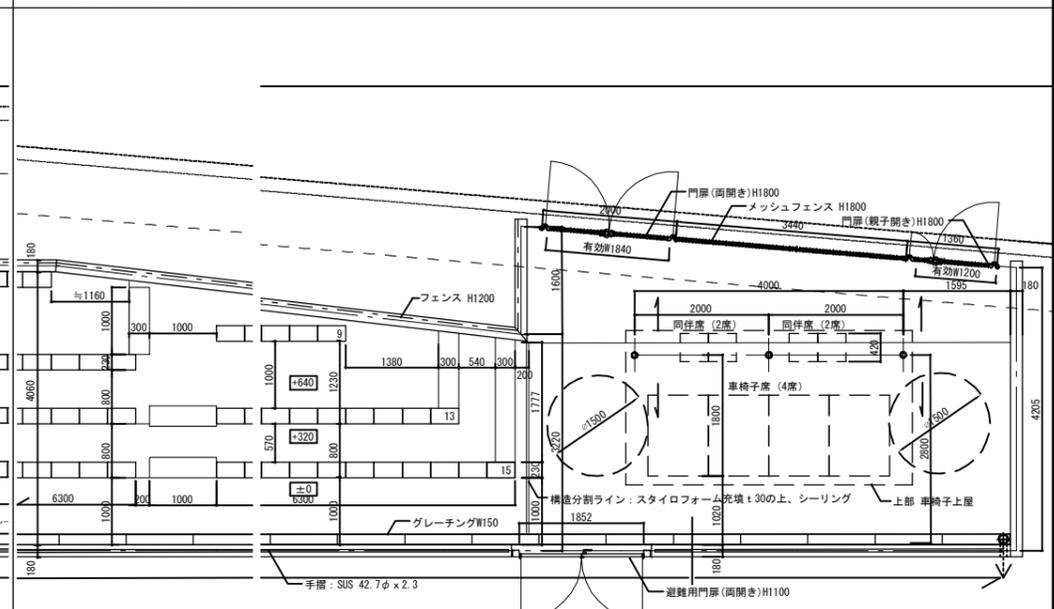
車椅子席(左)平面詳細図 1/50



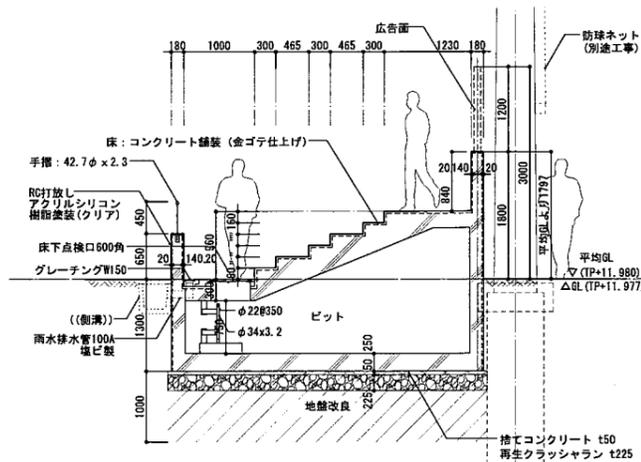
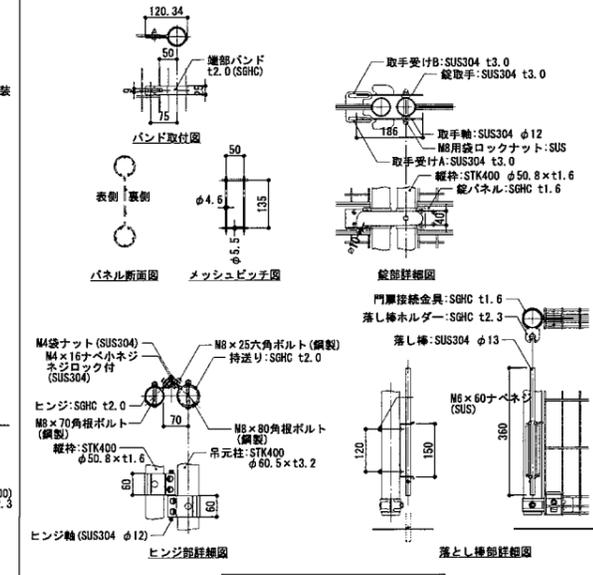
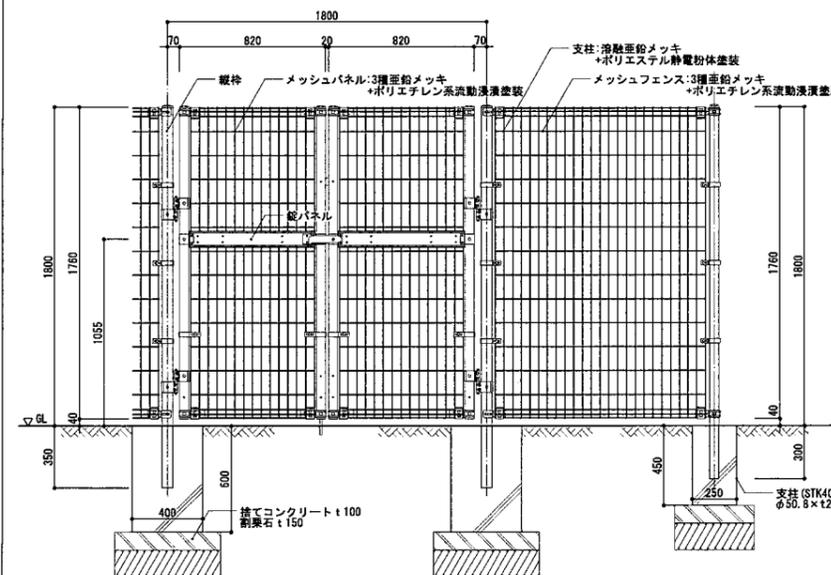
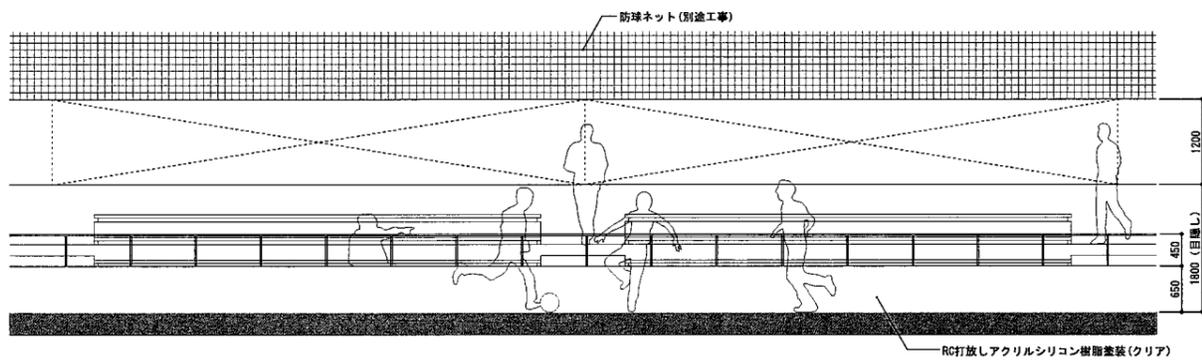
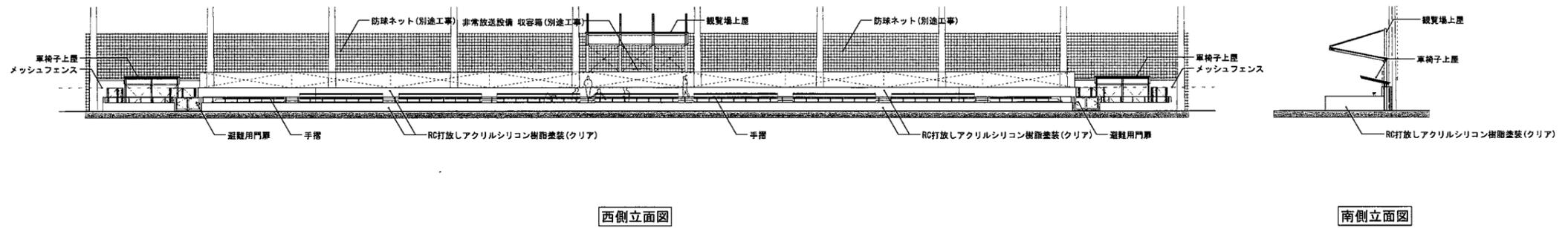
観覧席(中央)平面詳細図 1/50



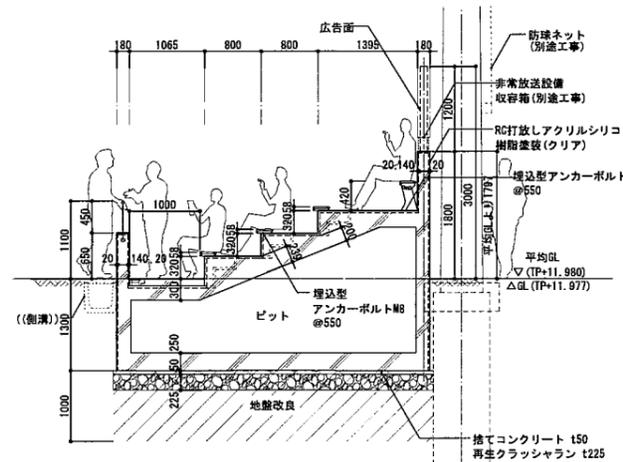
車椅子席(右)平面詳細図 1/50



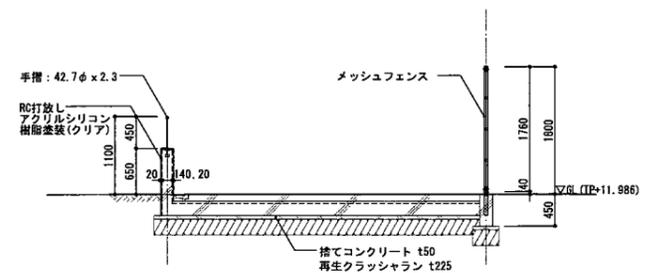
---: フェンスH1200×L65.3m (ARカド'フェンスAR-GF1200-MS同等品以上とする)  
(BPL-150×150×t9 4-φ16 支柱φ60.5×3.2 柱底均し珪砂共)



階段詳細図

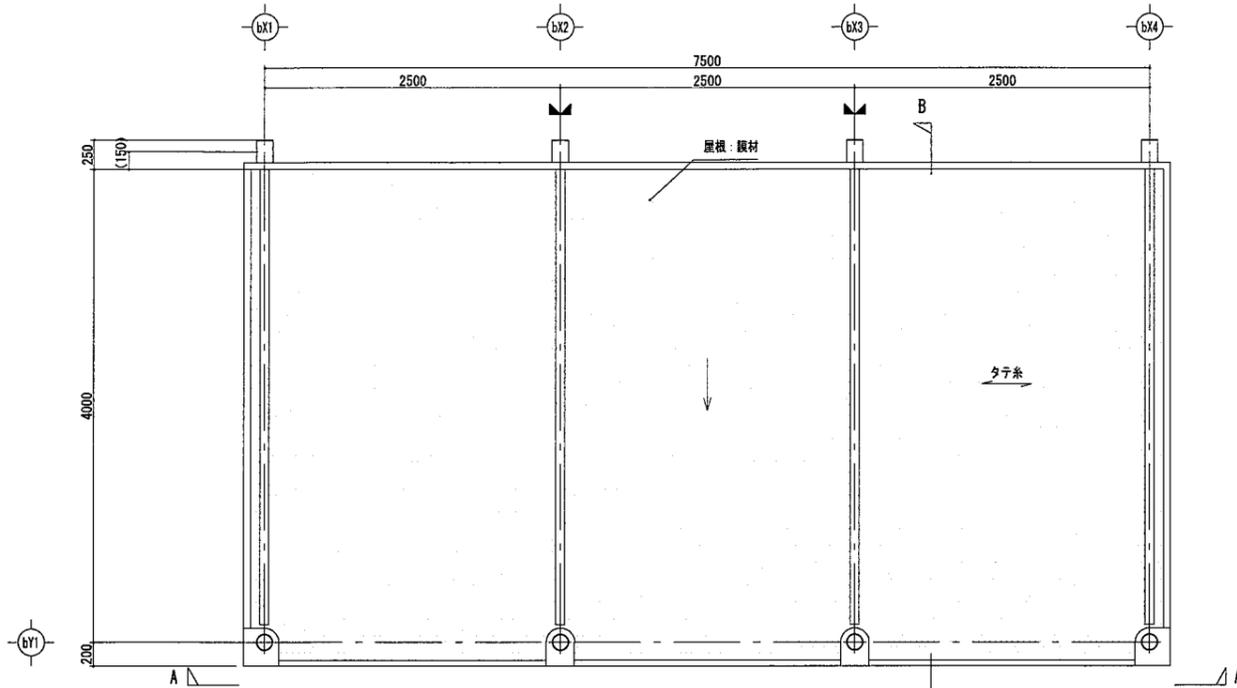


観客席詳細図

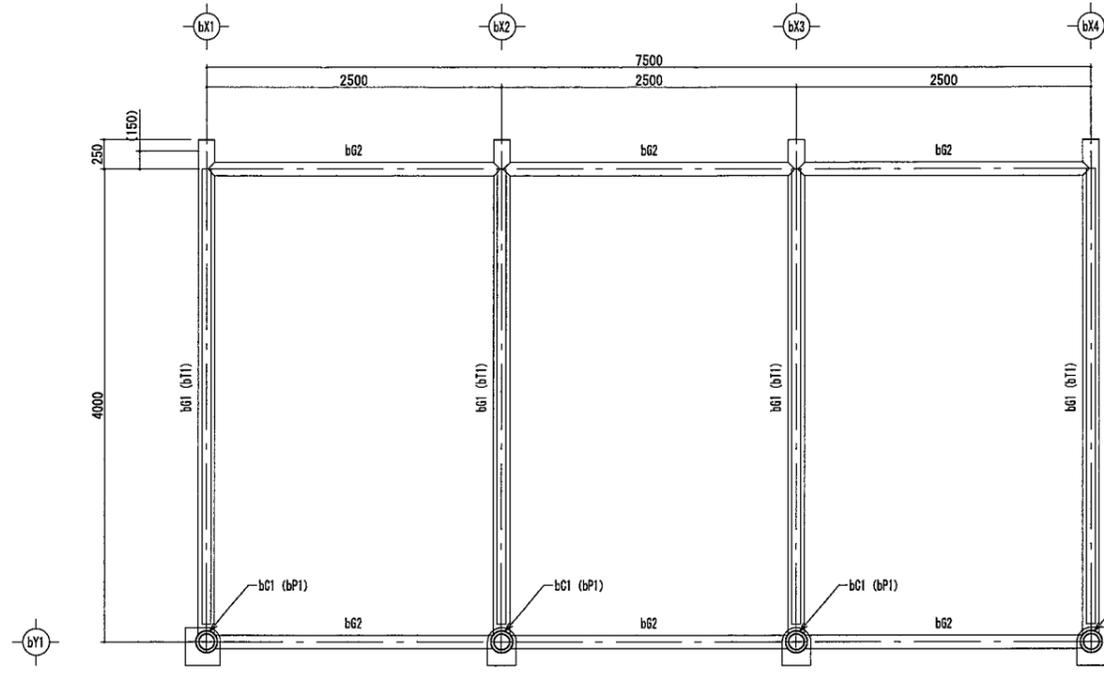


車椅子席詳細図

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	D-703	建築
				年月日	2021年1月
				縮尺	A1: 1/10.20.50 A3: 1/20.40.100



屋根伏図 S=1:30



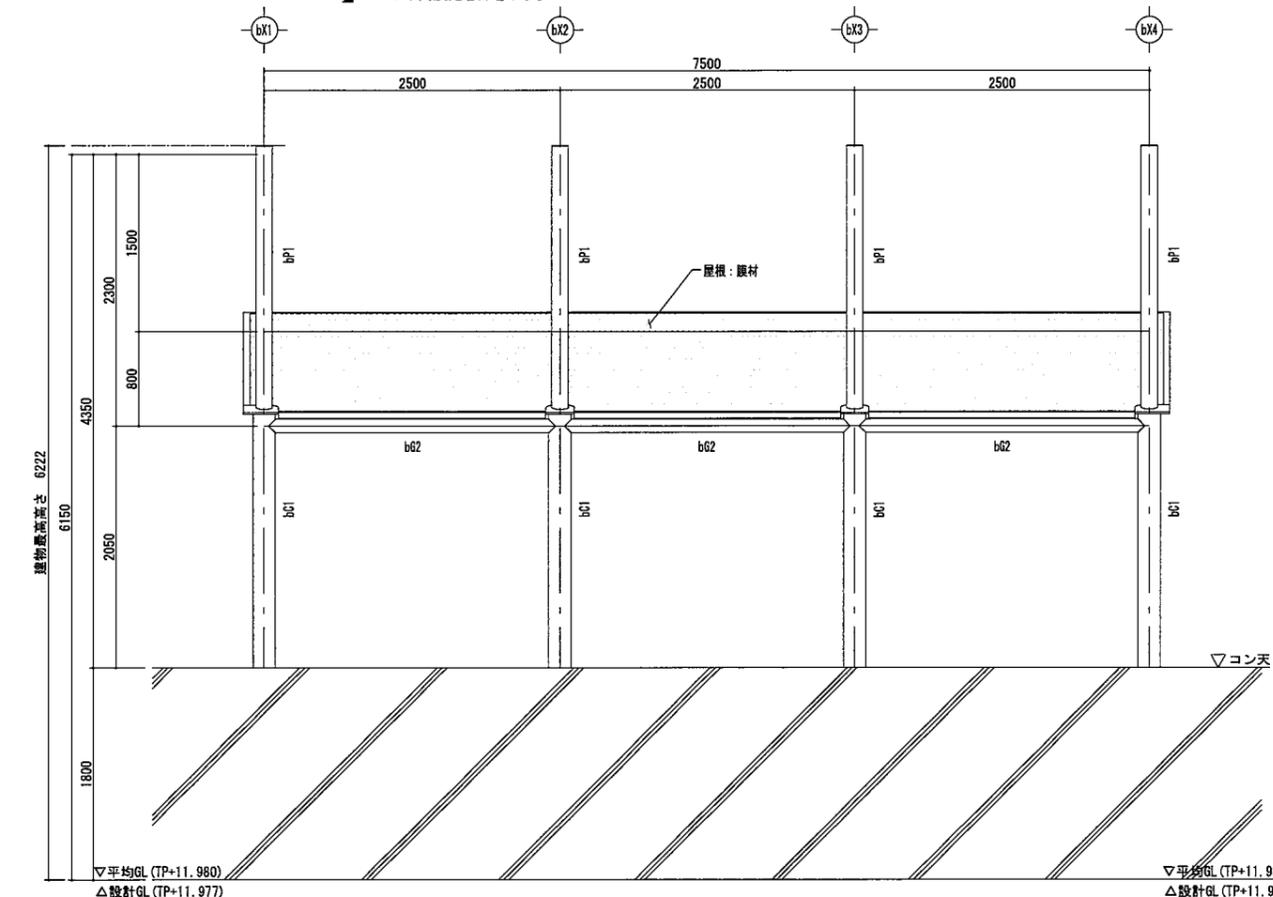
小屋伏図 S=1:30

設計条件	
設計風速	地表面粗度区分Ⅱ 基準風速 36m/sec
設計積雪荷重	垂直積雪深 d=30cm 単位体積重量 20N/m <sup>3</sup> /cm

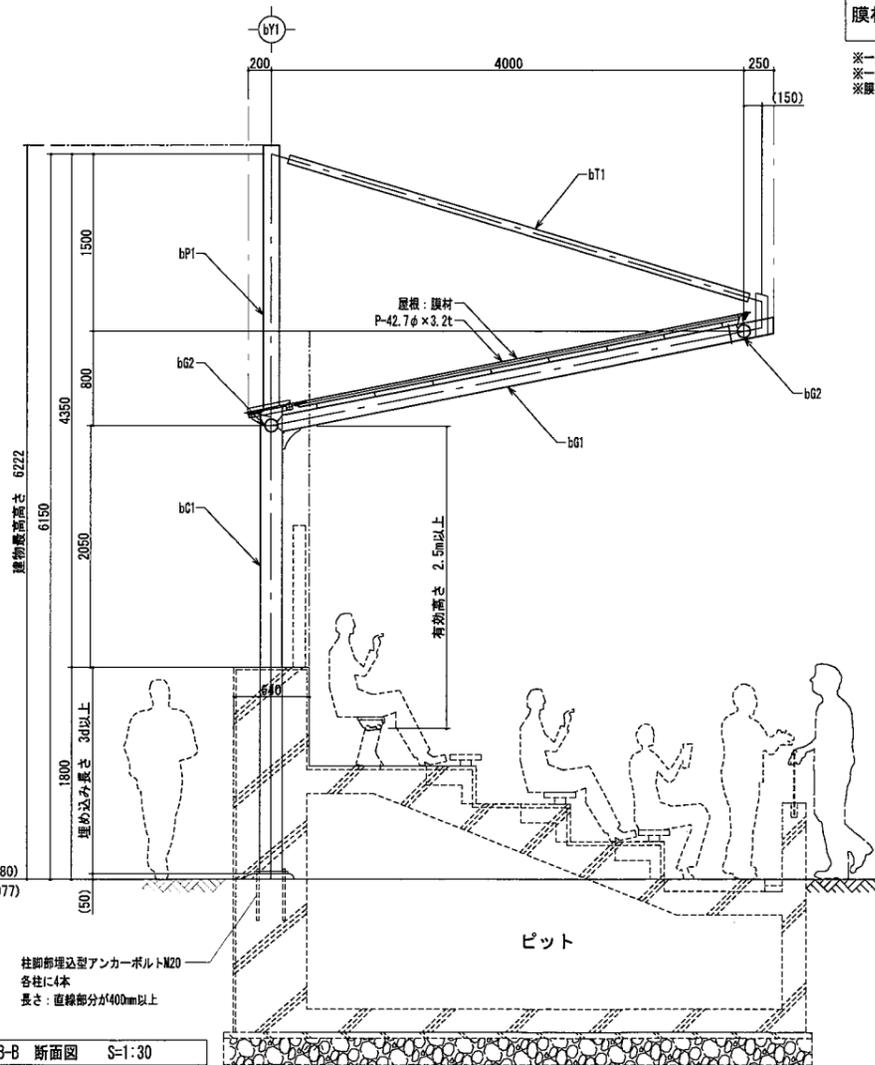
部材リスト

配号	部材	備考
bC1	P-190.7φ×5.3t	STK400
bP1	P-139.8φ×4.5t	STK400
bG1	P-139.8φ×4.5t	STK400
bG2	P-114.3φ×4.5t	STK400
bT1	P-76.3φ×4.2t	STK400

※メッキ抜き孔が別途必要となります。位置は製作時に決定とします。  
※詳細設計時に各部納まりを調整・変更する場合があります。



A-A 立面図兼軸組図 S=1:30

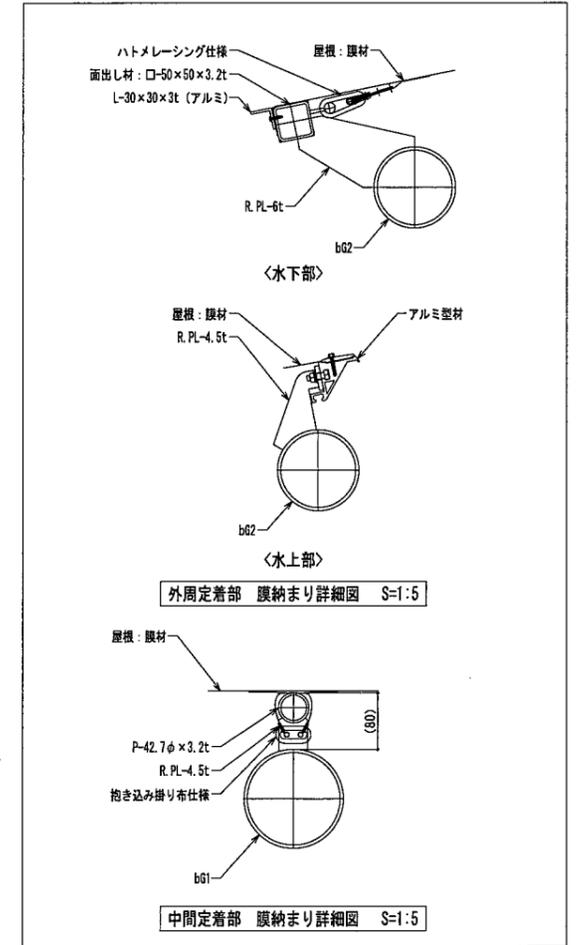


B-B 断面図 S=1:30

膜材リスト

膜材料	塩化ビニル樹脂コーティングガラス繊維布 酸化チタン光触媒コーティング同等品	不燃材とする (認定番号: NM-3032)
-----	--	---------------------------

※一般社団法人日本膜構造協会第1種正会員であること。  
※一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場認定制度に登録された工場(A種を除く膜材料を加工する工場)で加工すること。  
※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを整えていること。



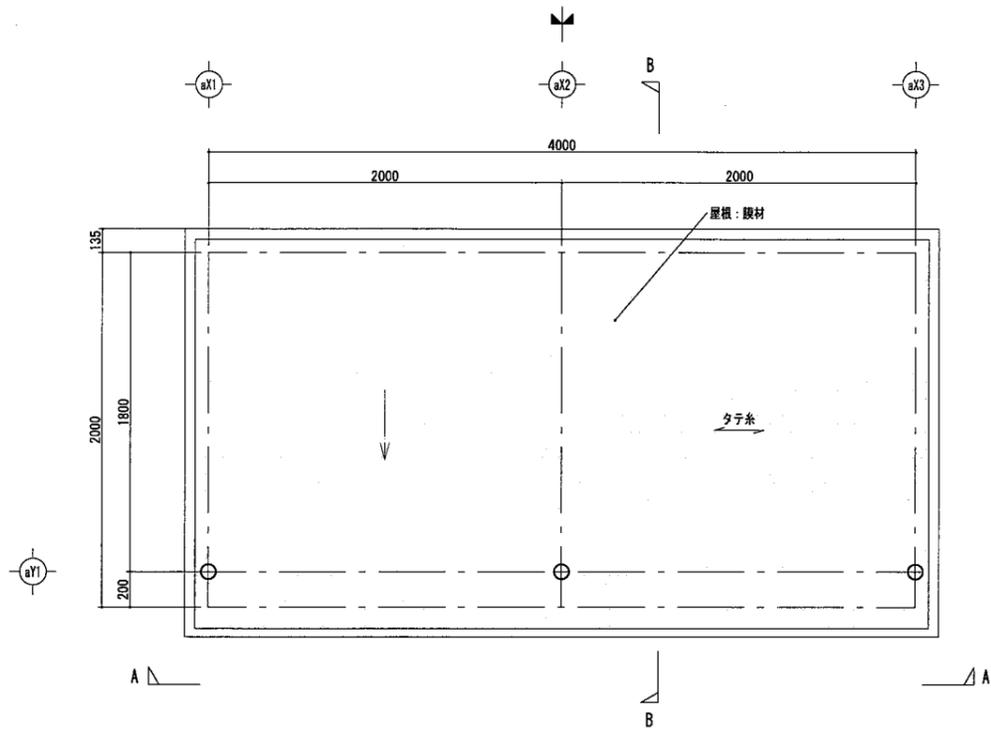
＜柱・梁部材を除く鉄部 塗装仕様＞※柱・梁に関しては、1時間耐火塗装を施す。

工程	塗料名	塗布量(kg/m <sup>2</sup> )	塗装方法	施工区分
1 素地調整	リン酸塩 もしくは スイーププラスト			
2 下塗り (1回目)	変性エポキシ樹脂プライマー JASS 18 M-109	0.14	吹付・はけ	工場
3 下塗り (2回目)	エポキシ樹脂無溶剤硬化剤塗料 (MIO)	0.14	吹付・はけ	
4 中塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (中塗り塗料)	0.14	はけ・吹付	現場
5 上塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (上塗り塗料3級)	0.10	はけ・吹付	

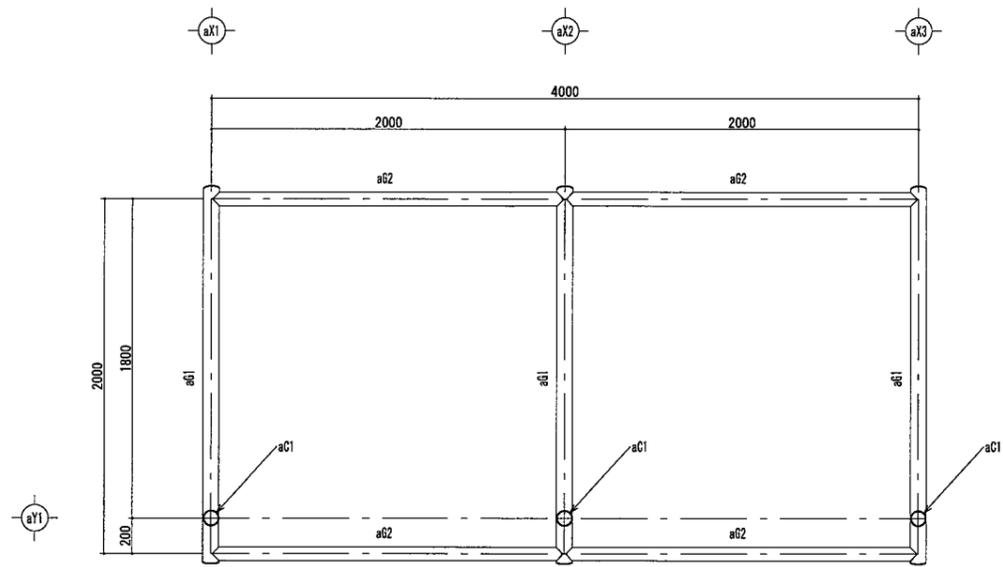
溶融亜鉛メッキの上、2液形ポリウレタンエナメル塗料

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	スタンド 観覧場上屋詳細図	D-704	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/5・30 A3: 1/10・60	2021年1月	

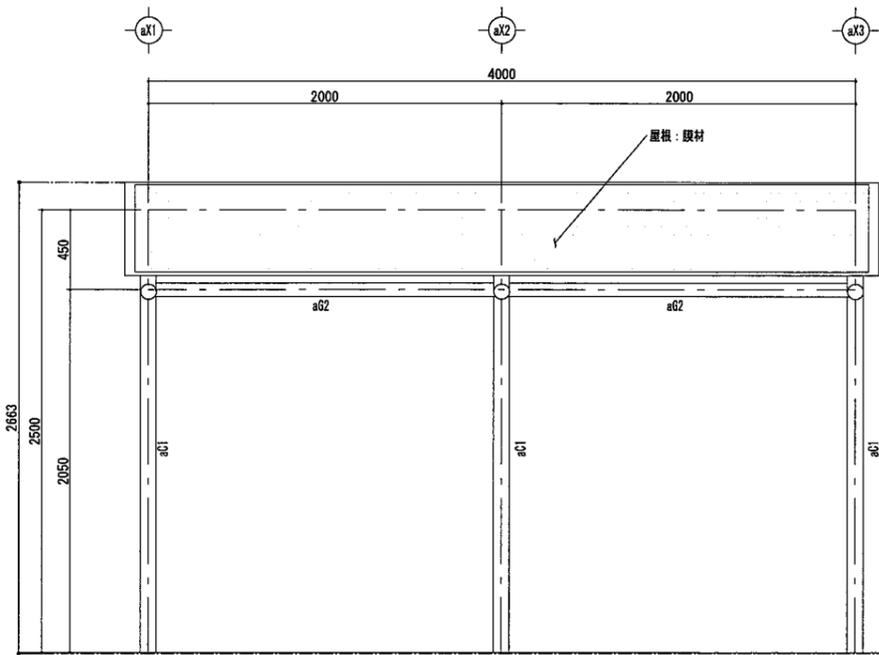
設計条件	
設計風速	地表面粗度区分Ⅱ 基準風速 36m/sec
設計積雪荷重	垂直積雪深 d=30cm 単位体積重量 20N/m <sup>3</sup>



屋根伏図 S=1:20  
→ は水流れ方向を示す。  
↗ は中間膜定着部を示す。



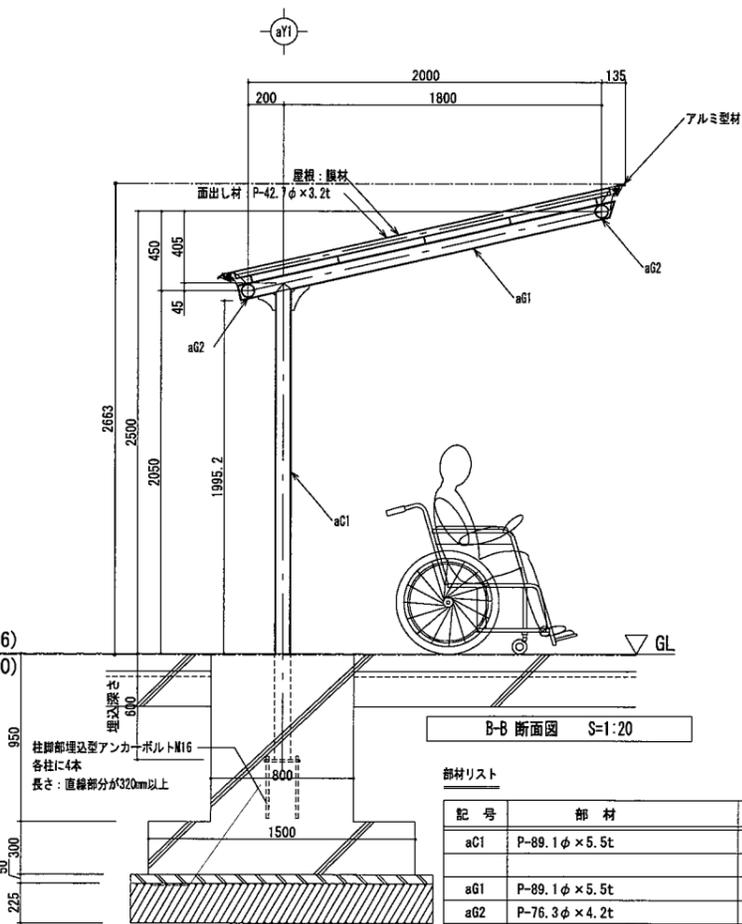
小屋伏図 S=1:20



A-A 立面図兼軸組図 S=1:20

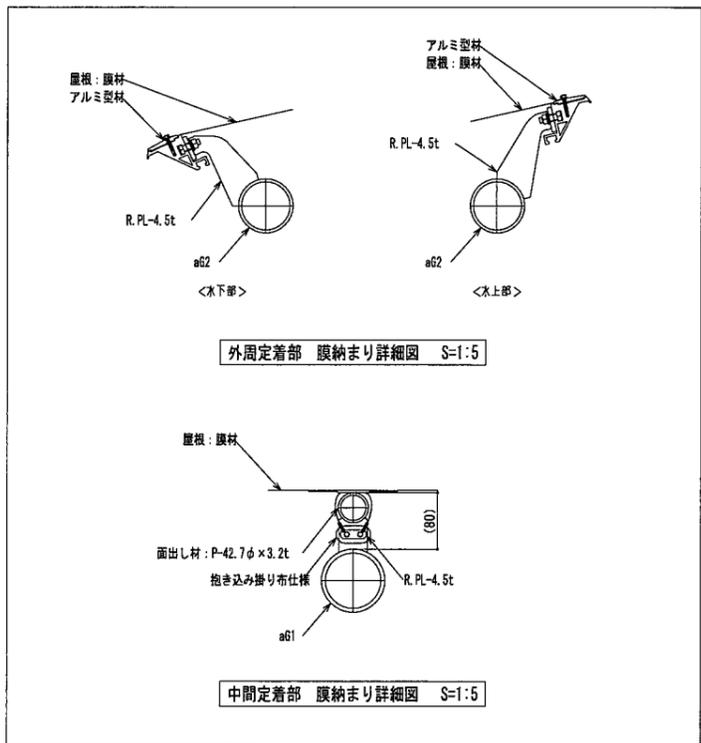
柱・梁部材を除く鉄部 塗装仕様 ※柱・梁に関しては、1時間耐火塗装を施す。

溶融亜鉛メッキの上、2液形ポリウレタンエナメル塗り				
工程	塗料名	塗布量(kg/m <sup>2</sup> )	塗装方法	施工区分
1 素地調整	リン酸塩もしくはスーパースト			工場
2 下塗り(1回目)	変性エポキシ樹脂プライマー JASS 18 M-109	0.14	吹付・はけ	
3 下塗り(2回目)	エポキシ樹脂雲母状酸化鉄塗料(M10)	0.14	吹付・はけ	
4 中塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (中塗り塗料)	0.14	はけ・吹付	現場
5 上塗り	鋼構造物用耐候性塗料 JIS K 5659 (上塗り塗料3級)	0.10	はけ・吹付	



B-B 断面図 S=1:20

※メッキ抜き孔が別途必要となります。位置は製作時に決定とします。  
※詳細設計時に各部納まりを調整・変更する場合があります。



膜材リスト

膜材料	塩化ビニル樹脂コーティングガラス繊維布 不燃材とする (認定番号:NM-3032)
	酸化チタン光触媒コーティング同等品

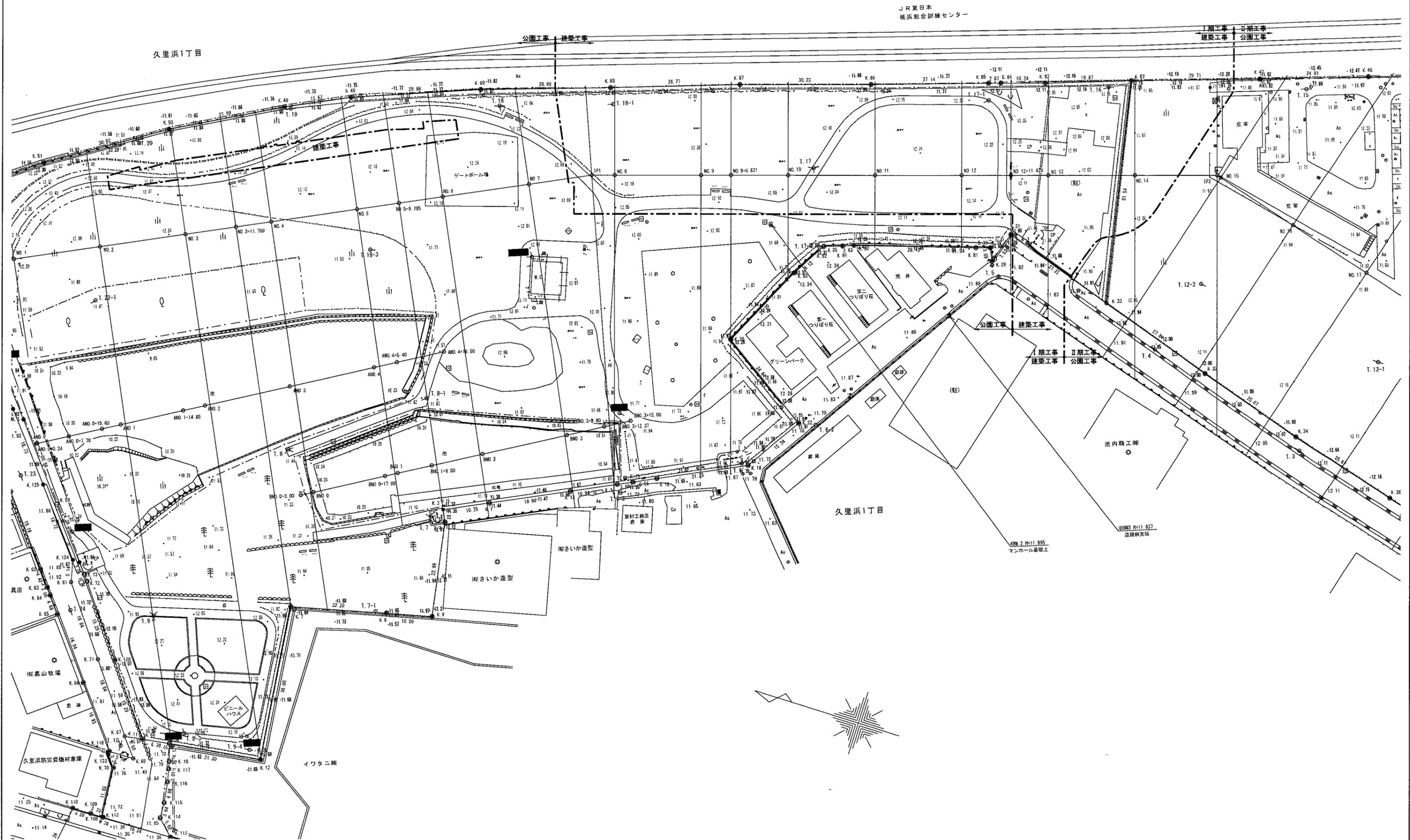
※一般社団法人日本膜構造協会第1種正会員であること。  
※一般社団法人日本膜構造協会の膜体加工工場認定制度に登録された工場(A種を除く膜材料を加工する工場)で加工すること。  
※膜材料を製品使用後に引き取り、リサイクルされる仕組みを盛り込んでいること。

部材リスト		
記号	部材	備考
aC1	P-89.1φ×5.5t	STK400
aG1	P-89.1φ×5.5t	STK400
aG2	P-76.3φ×4.2t	STK400

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	スタンド 車椅子上屋詳細図	D-705	建築
				縮尺 A1: 1/5・20 A3: 1/10・40	年月日	2021年1月

# 現況平面図(測量図)

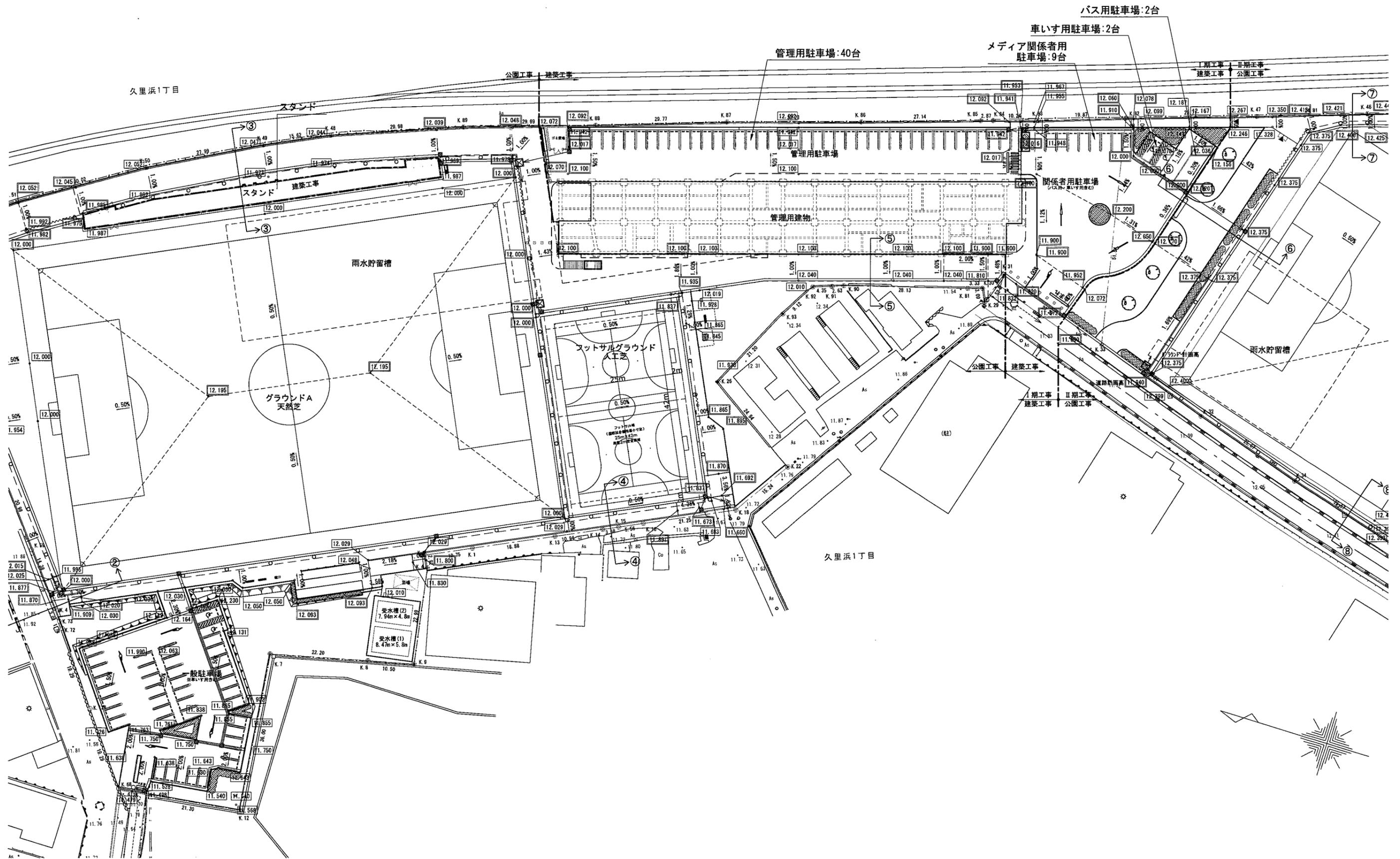
S=1:800 (A3)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	現況平面図(測量図)	L-01	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/400 A3: 1/800	2021年1月	

計画平面図

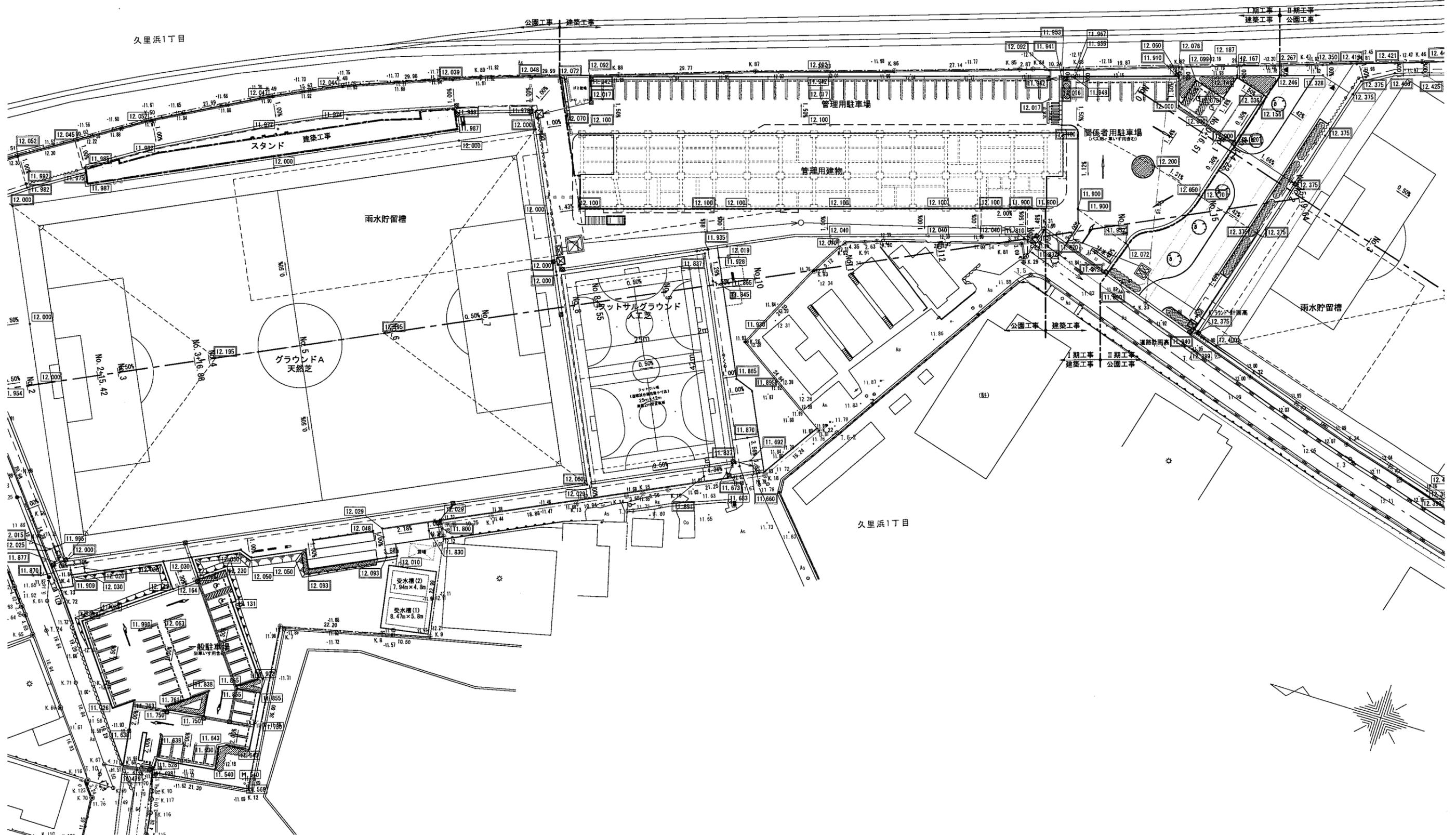
S=1:800 (A3)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	計画平面図	L-02	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/400 A3: 1/800	2021年1月	

# 造成計画平面図

S=1:800 (A3)

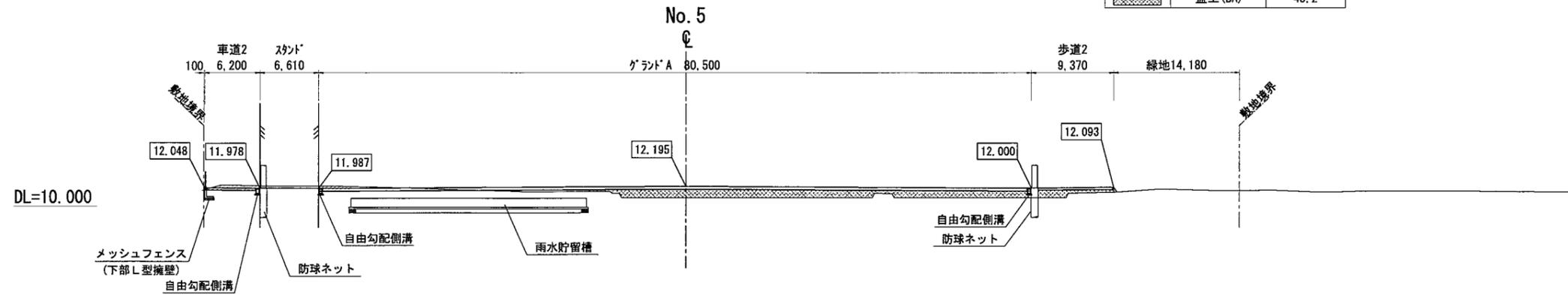


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	造成計画平面図	L-03	建築
				年月日		2021年1月

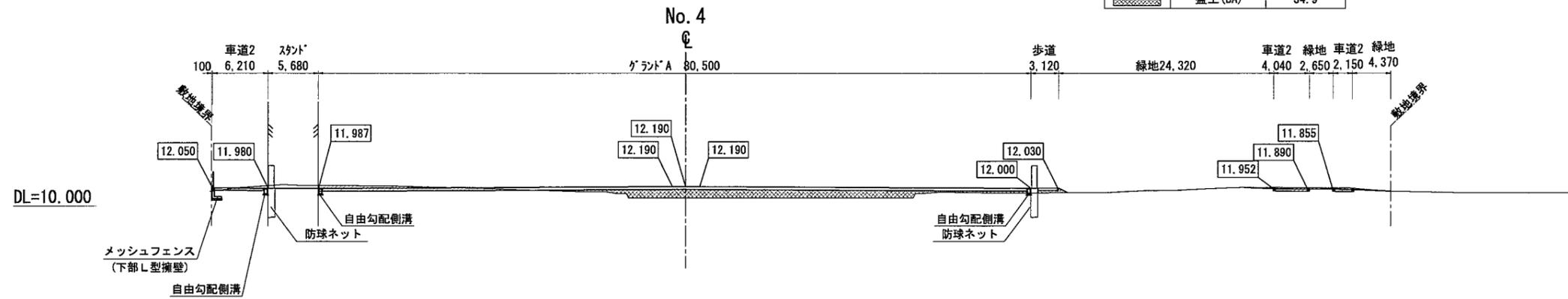
### 横断図(2)

S=1:600 (A3)

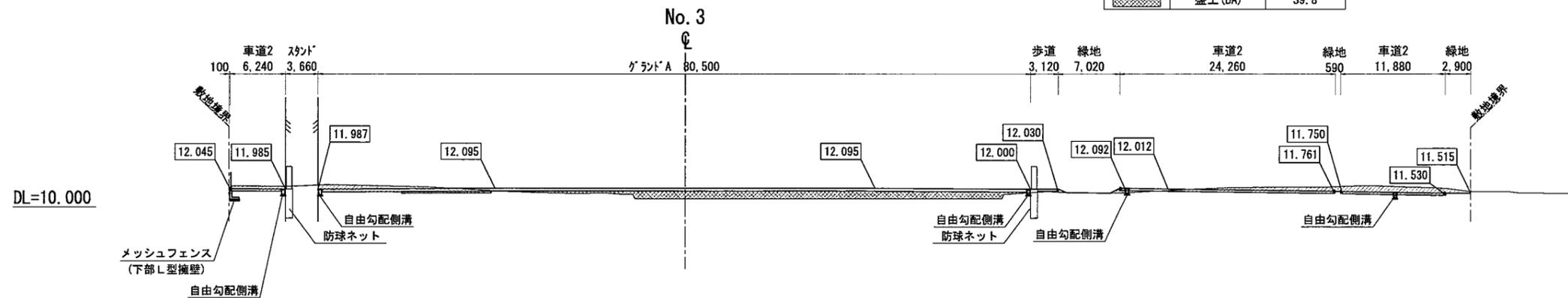
表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA)	4.7
	盛土 (BA)	45.2



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA)	14.3
	盛土 (BA)	34.9



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土適切処分	5.7
	切土 (CA)	31.2
	盛土 (BA)	39.8

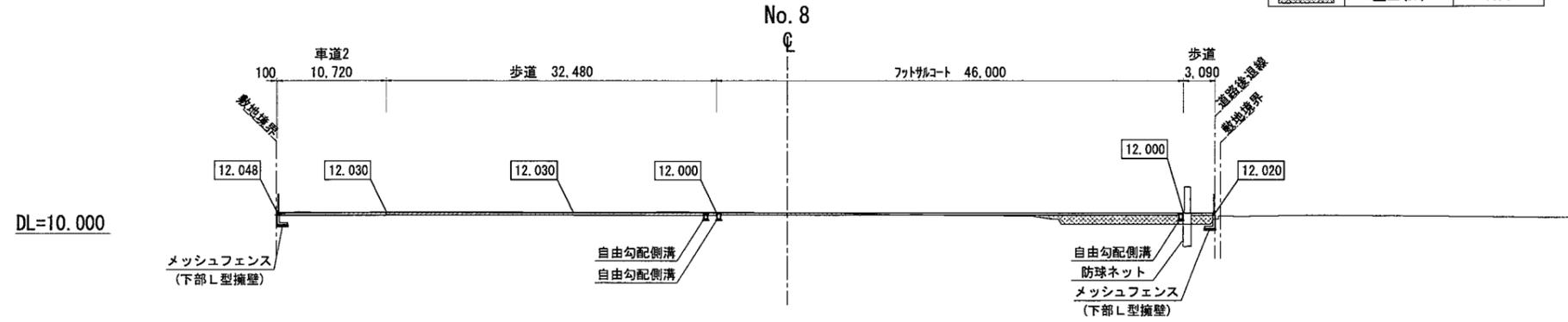


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	横断図(2)	L-05	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/300 A3: 1/600	2021年1月	

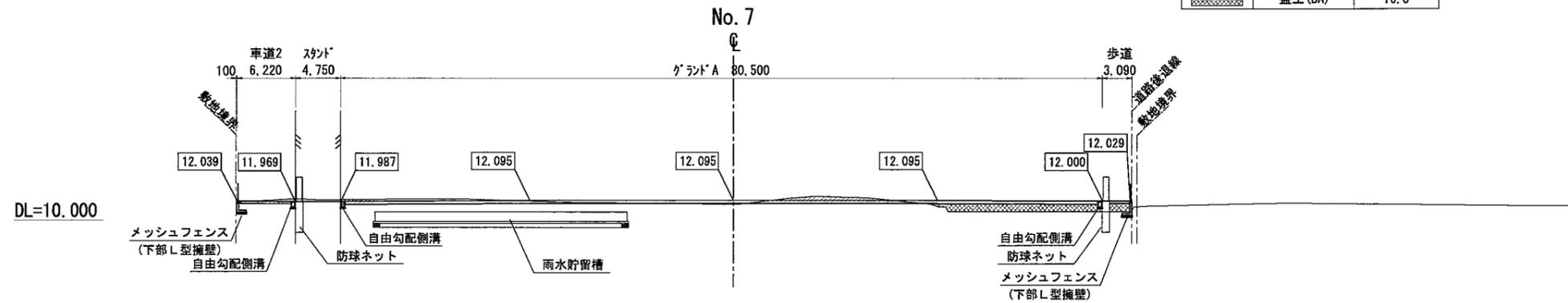
### 横断図(3)

S=1:600 (A3)

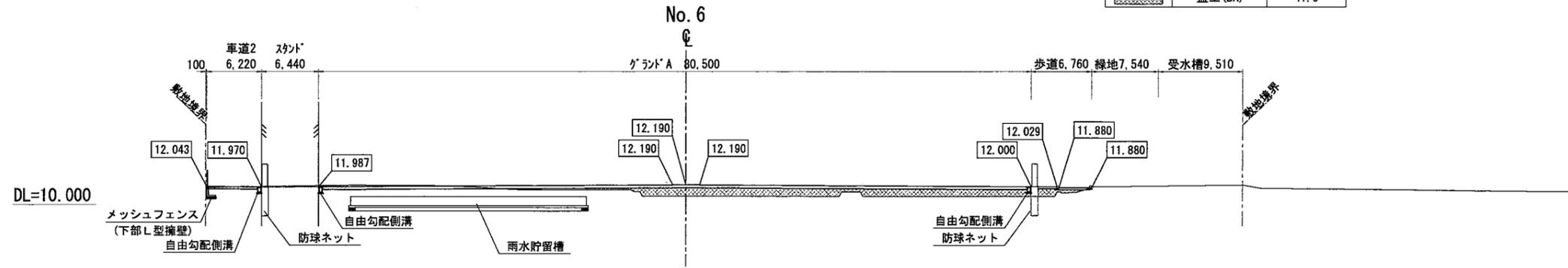
表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA)	17.1
	盛土 (BA)	13.8



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA)	12.4
	盛土 (BA)	16.0



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA)	3.0
	盛土 (BA)	41.0



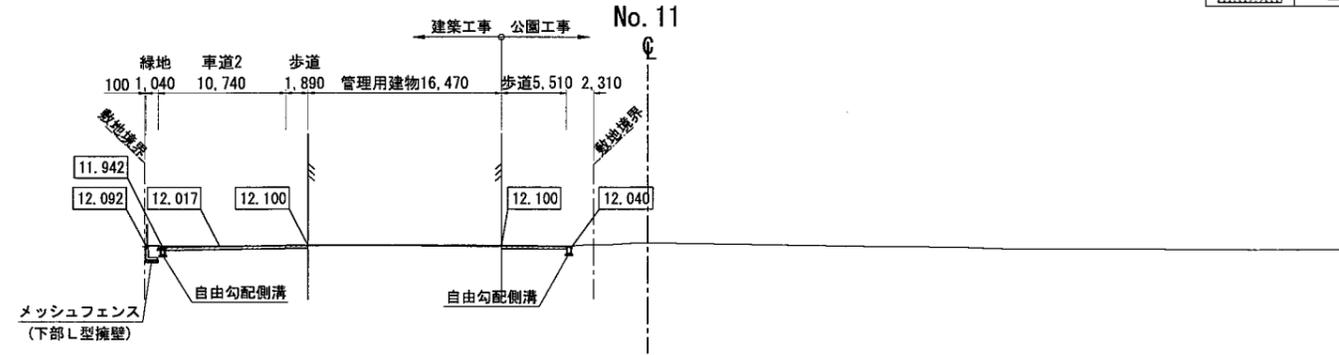
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	横断図(3)	L-06	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/300 A3: 1/600	2021年 1月	

### 横断図(4)

S=1:600 (A3)

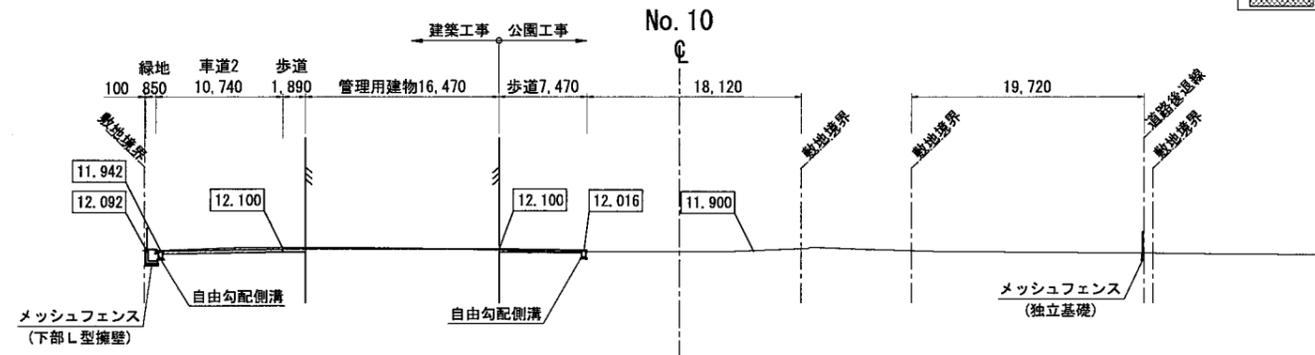
表示	区分	断面積 (m <sup>2</sup> )
	切土 (CA) 建築工事	3.4
	切土 (CA)	1.0
	盛土 (BA)	0.0

DL=10.000



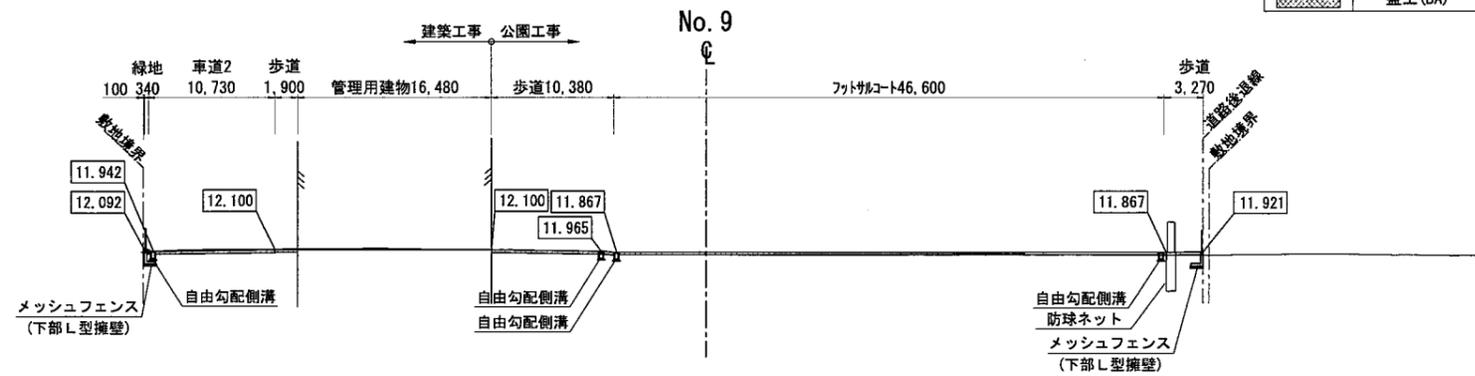
表示	区分	断面積 (m <sup>2</sup> )
	切土 (CA) 建築工事	4.7
	切土 (CA)	0.9
	盛土 (BA)	0.0

DL=10.000



表示	区分	断面積 (m <sup>2</sup> )
	切土 (CA) 建築工事	4.0
	切土 (CA)	8.8
	盛土 (BA)	0.3

DL=10.000



公共建築課長	主査等	担当者	工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	図面名 横断図(4)	図面番号 L-07	区分 建築
				縮尺 A1: 1/300 A3: 1/600	年月日 2021年1月	

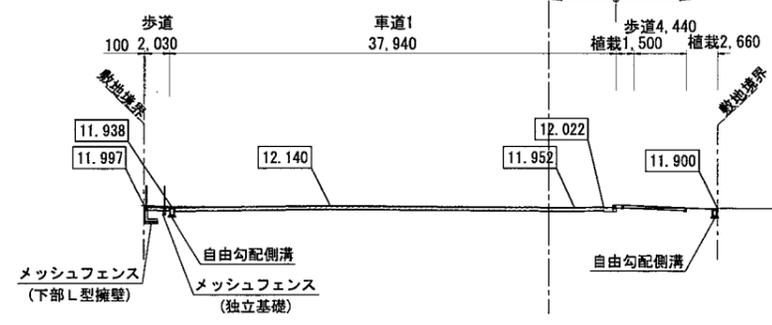
横断図(5)

S=1:600 (A3)

No. 14

表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA) 建築工事	10.7
	盛土 (BA)	0.0

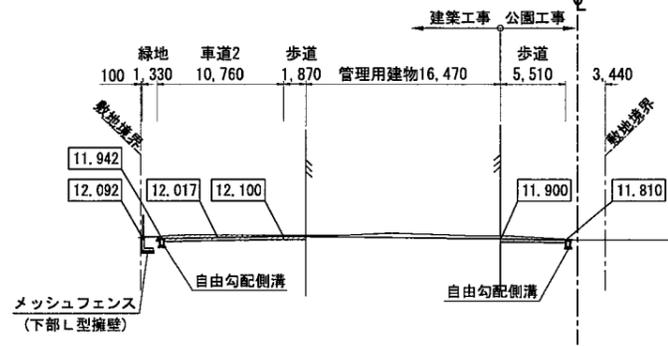
DL=10.000



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA) 建築工事	5.3
	切土 (CA)	2.4
	盛土 (BA)	0.0

DL=10.000

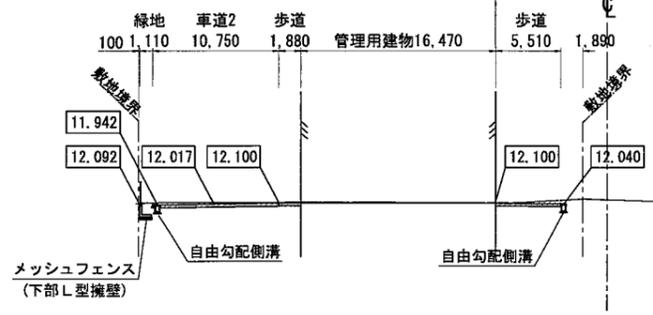
No. 13



表示	区分	断面積 (㎡)
	切土 (CA) 建築工事	4.6
	切土 (CA)	2.2
	盛土 (BA)	0.0

DL=10.000

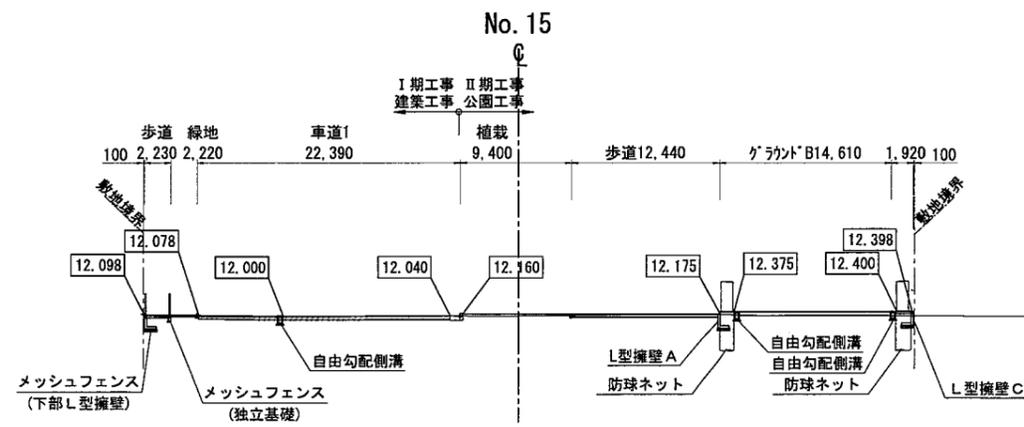
No. 12



横断図(6)

S=1:600 (A3)

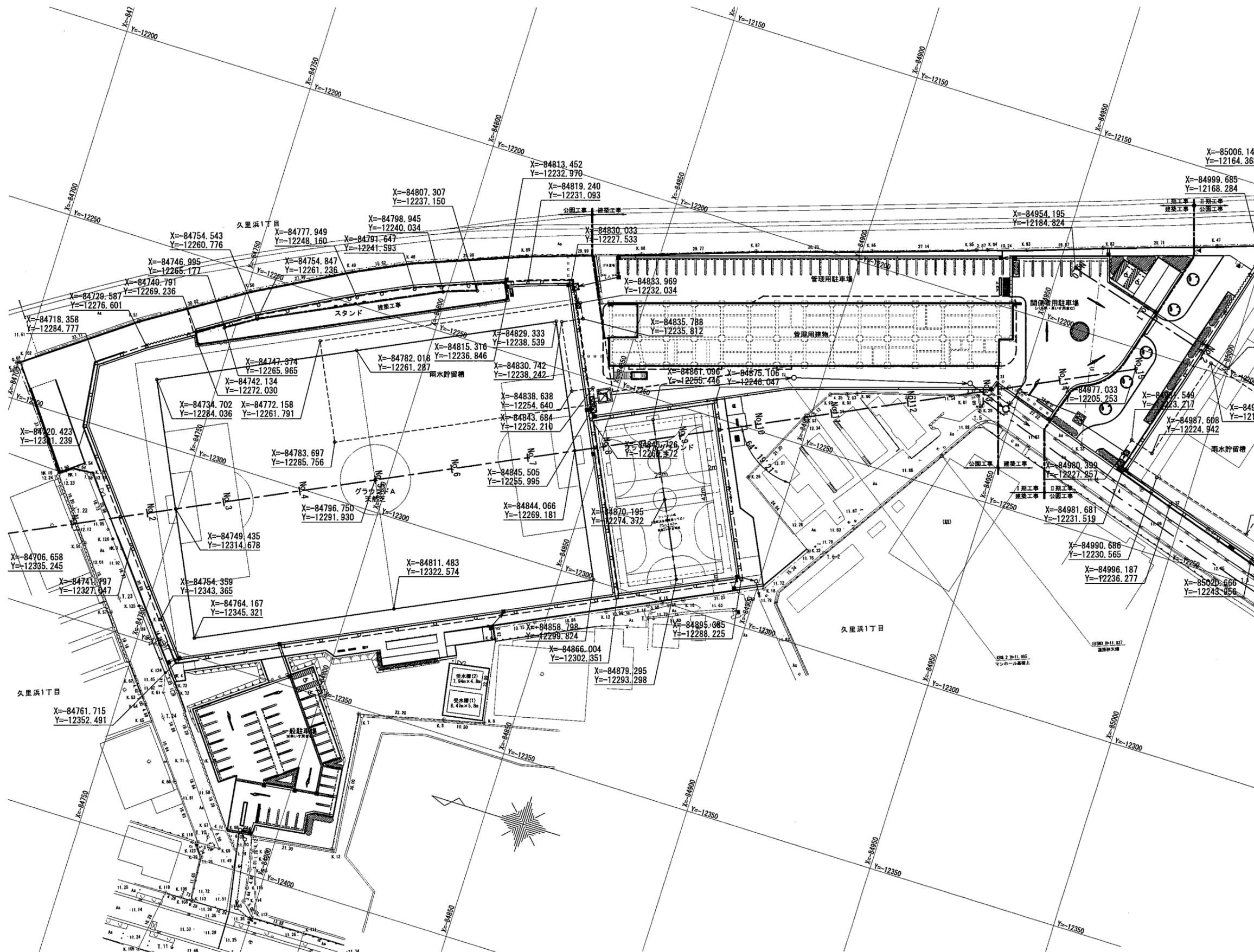
DL=10.000



表示	区分	断面積(m <sup>2</sup> )
	切土(CA)建築工事	5.5
	盛土(BA)建築工事	0.3

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	横断図(6)	L-09	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/300 A3: 1/600	2021年 1月	

主要座標点位置図  
S=1:1000 (A3)

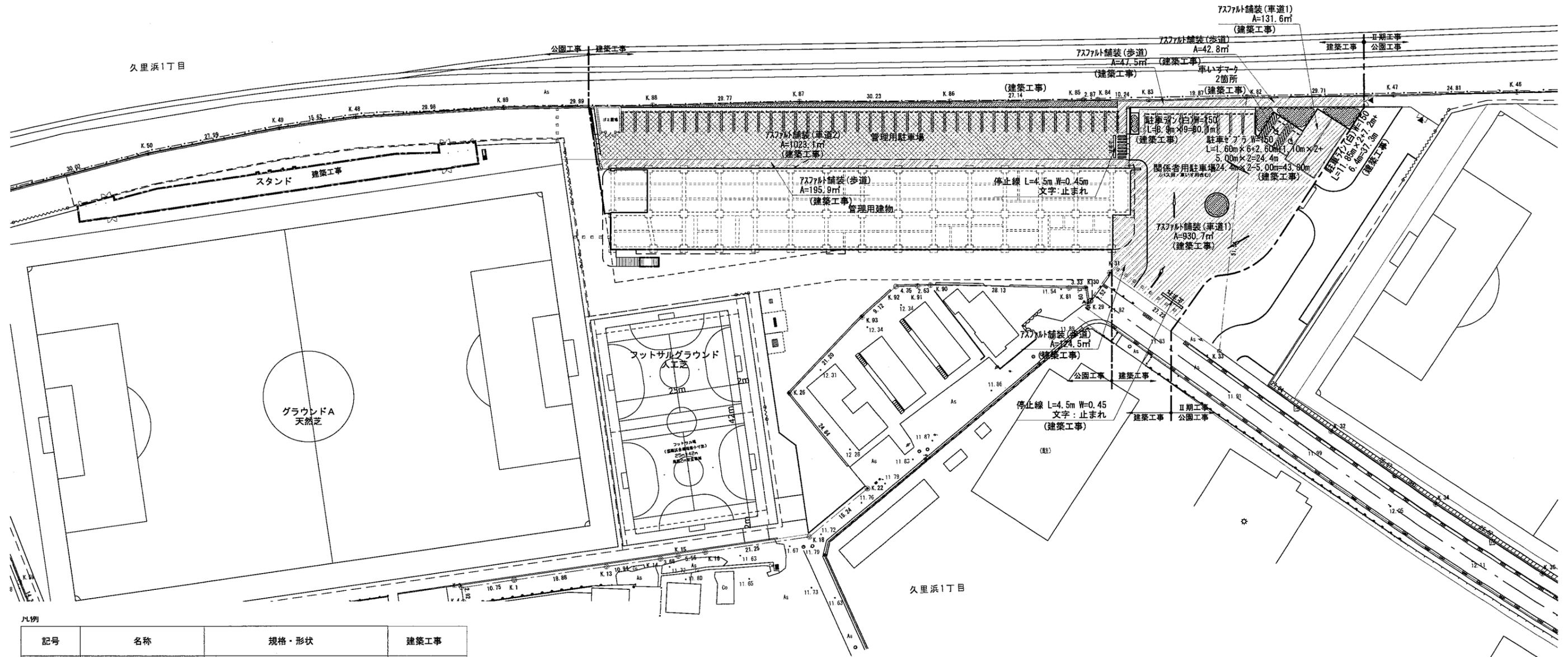


座標一覧表

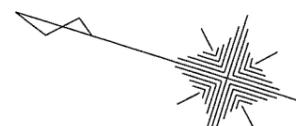
測点名	X座標	Y座標
K. 49	-84774.819	-12242.008
K. 50	-84751.054	-12254.818
K. 51	-84725.704	-12270.892
K. 52	-84698.442	-12290.761
K. 54	-84724.350	-12312.515
K. 55	-84725.930	-12312.387
K. 59	-84752.257	-12345.060
K. 68	-84787.383	-12390.844
K. 72	-84764.275	-12359.959
K. 73	-84763.174	-12358.607
K. 75	-85080.436	-12137.220
K. 76	-85112.625	-12151.037
K. 77	-85111.233	-12142.607
K. 81	-84936.811	-12225.123
K. 82	-84959.521	-12177.704
K. 83	-84940.743	-12184.169
K. 84	-84930.959	-12187.197
K. 85	-84928.231	-12188.086
K. 86	-84902.415	-12196.497
K. 87	-84973.584	-12205.588
K. 88	-84845.396	-12215.199
K. 89	-84816.931	-12224.589
K. 90	-84909.901	-12232.979
K. 91	-84907.348	-12233.934
K. 92	-84903.216	-12235.344
K. 93	-84898.574	-12243.194
K. 102	-84698.953	-12290.372
K. 119	-85126.320	-12222.855
K. 121	-85109.022	-12219.825
K. 127	-85073.775	-12139.473
K. 128	-84775.815	-12375.403

測点名	X座標	Y座標
HK. 1	-84720.721	-12312.814
HK. 3	-84739.094	-12328.741
HK. 4	-84761.288	-12356.264
HK. 19	-84717.623	-12315.183
K. 1	-84847.438	-12314.866
K. 3	-84837.746	-12319.513
K. 4	-84839.009	-12322.155
K. 7	-84810.885	-12351.400
K. 8	-84832.472	-12346.235
K. 9	-84842.703	-12343.857
K. 11	-84793.709	-12389.964
K. 12	-84814.813	-12387.185
K. 13	-84864.447	-12306.686
K. 14	-84874.304	-12301.943
K. 15	-84877.623	-12300.351
K. 16	-84882.633	-12297.915
K. 18	-84901.770	-12288.706
K. 22	-84809.985	-12275.902
K. 26	-84889.251	-12262.236
K. 29	-84941.302	-12226.928
K. 30	-84939.993	-12224.137
K. 31	-84943.648	-12219.782
K. 32	-84995.973	-12236.944
K. 33	-84969.507	-12228.263
K. 34	-85020.465	-12244.627
K. 36	-85045.146	-12251.684
K. 37	-85056.972	-12254.897
K. 39	-85097.042	-12265.424
K. 42	-85076.637	-12147.593
K. 44	-85049.878	-12147.488
K. 45	-85030.832	-12153.949
K. 46	-85011.268	-12160.525
K. 47	-84987.757	-12168.467
K. 48	-84788.924	-12235.246

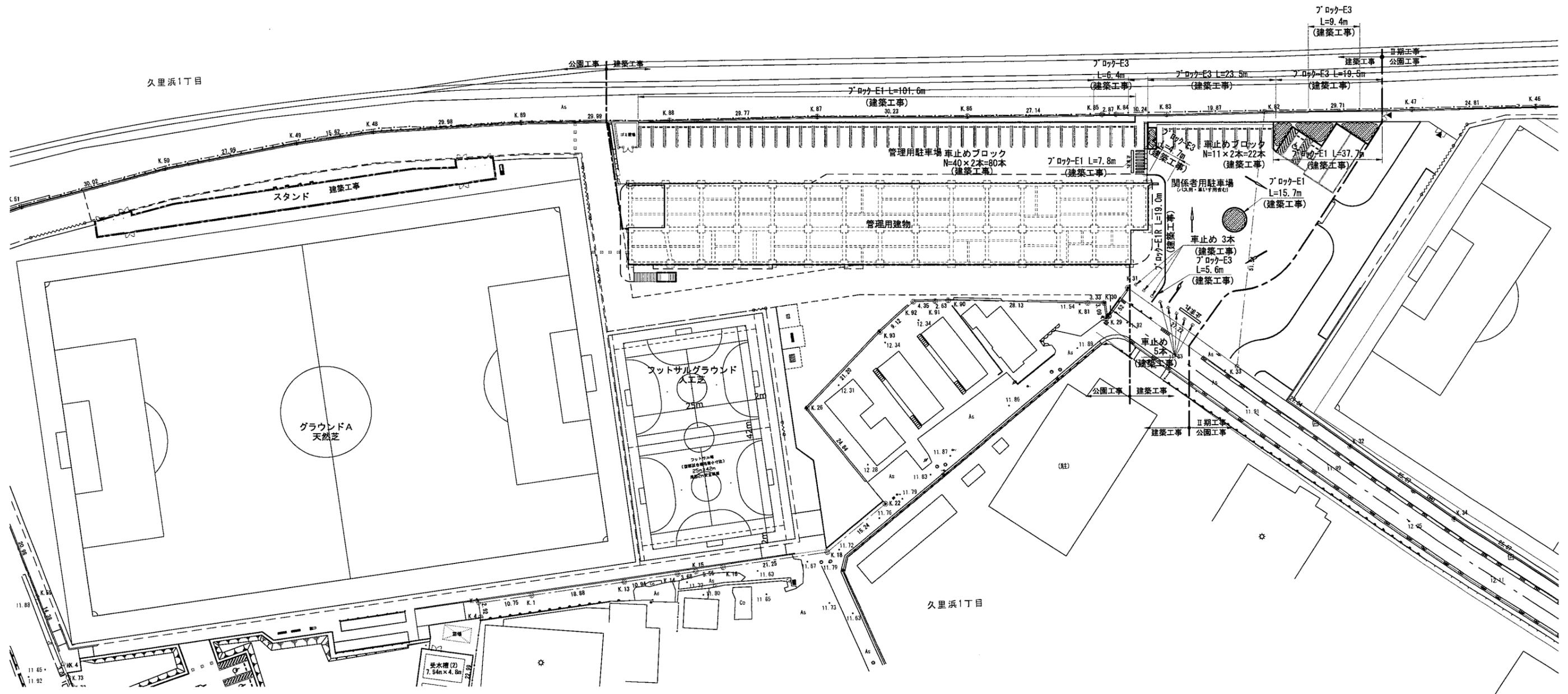
舗装計画平面図  
S=1:800 (A3)



記号	名称	規格・形状	建築工事
	アスファルト舗装(車道1)	再生密粒度アスコン13 t=50 再生粗粒度アスコン20 t=50 路盤 (RC-40) t=200 路床改良(添加材150kg/m3)	1062.3m <sup>2</sup>
	アスファルト舗装(車道2)	再生密粒度アスコン13 t=50 路盤 (RC-40) t=200 路床改良(添加材150kg/m3)	1023.1m <sup>2</sup>
	アスファルト舗装(歩道)	開粒度アスコン13 t=40 路盤 (RC-40) t=100 フィルター層(砂) t=100	410.7m <sup>2</sup>
	土間コンクリート	無筋コンクリート(18-8) 路盤 (RC-40)	- m <sup>2</sup>
	砂利敷き	RC-40 t=100	- m <sup>2</sup>
	駐車ライン	白色 W=150	482.3m
	駐輪ライン	白色 W=100	- m
	駐車場 ゼブラ	白色 W=150	43.8m
	文字	止まれ	2箇所
	マーク	車いすマーク (A=0.43m <sup>2</sup> /箇所)	2箇所
	横断歩道	白色 W=450	1箇所
	停止線	白色 W=450	2箇所
	進行方向	直進矢印 白色 L=5.0m (A=0.94m <sup>2</sup> /箇所)	3箇所
	進行方向	左折矢印 白色 L=5.0m (A=1.03m <sup>2</sup> /箇所)	1箇所

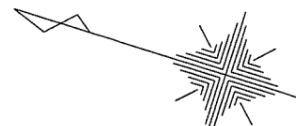


付帯計画平面図(1)  
S=1:800 (A3)



凡例

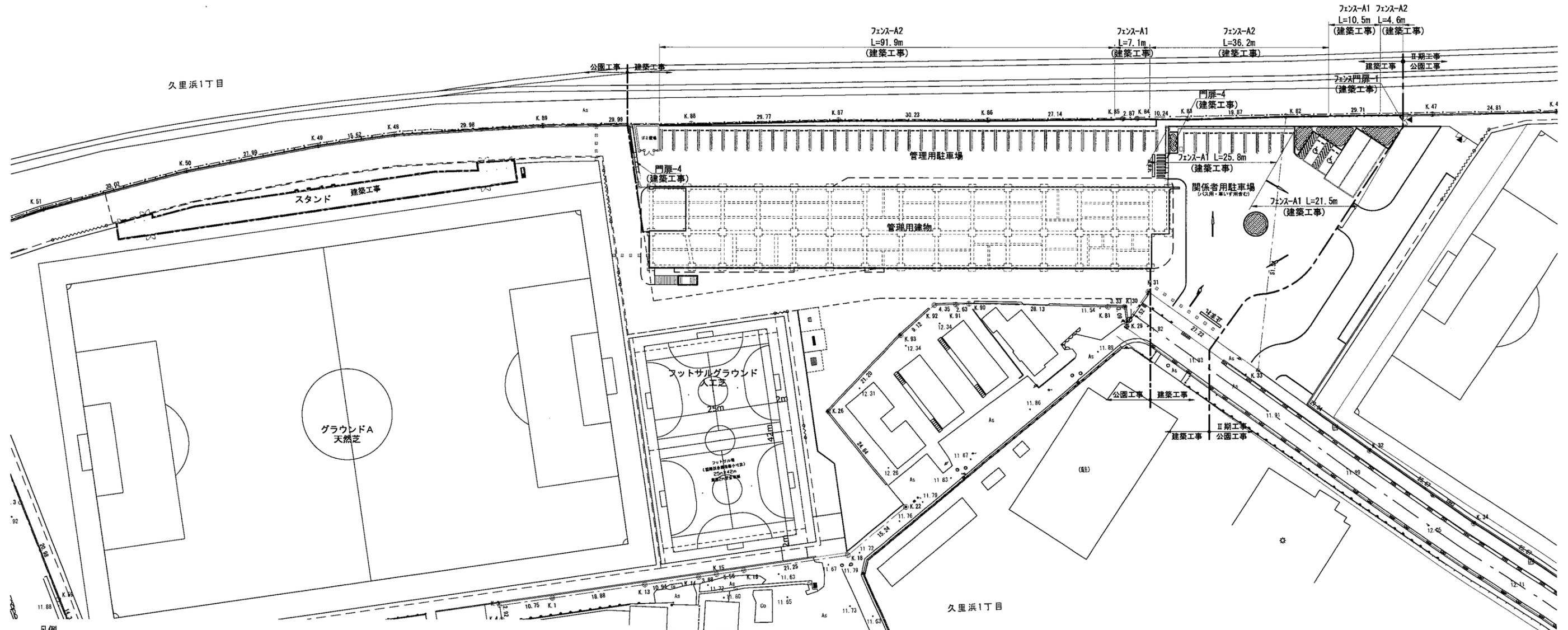
略称	名称	規格・形状	建築工事
ブロック-E1	歩車道境界ブロックA	150/170×200×600	162.8m
ブロック-E1R	歩車道境界ブロックA(両面R)	150/190×200×600	19.0m
ブロック-E2	歩車道境界ブロックB	180/205×250×600	- m
ブロック-E3	地先境界ブロックA	120×120×600	69.1m
	車止めブロック		102本
	車止め(上下式)	チェーン内蔵	8本
	ベンチ		-箇所
	水飲み場		-箇所
	手足洗い場		-箇所
	ソリーサークルベンチ		-箇所
	健康遊具(腹筋ベンチ)		-箇所
	健康遊具(背伸ばしベンチ)		-箇所
	健康遊具(ぶらさがり)		-箇所



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	付帯計画平面図(1)	L-12	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/400 A3: 1/800	2021年1月	

付帯計画平面図(2)

S=1:800(A3)

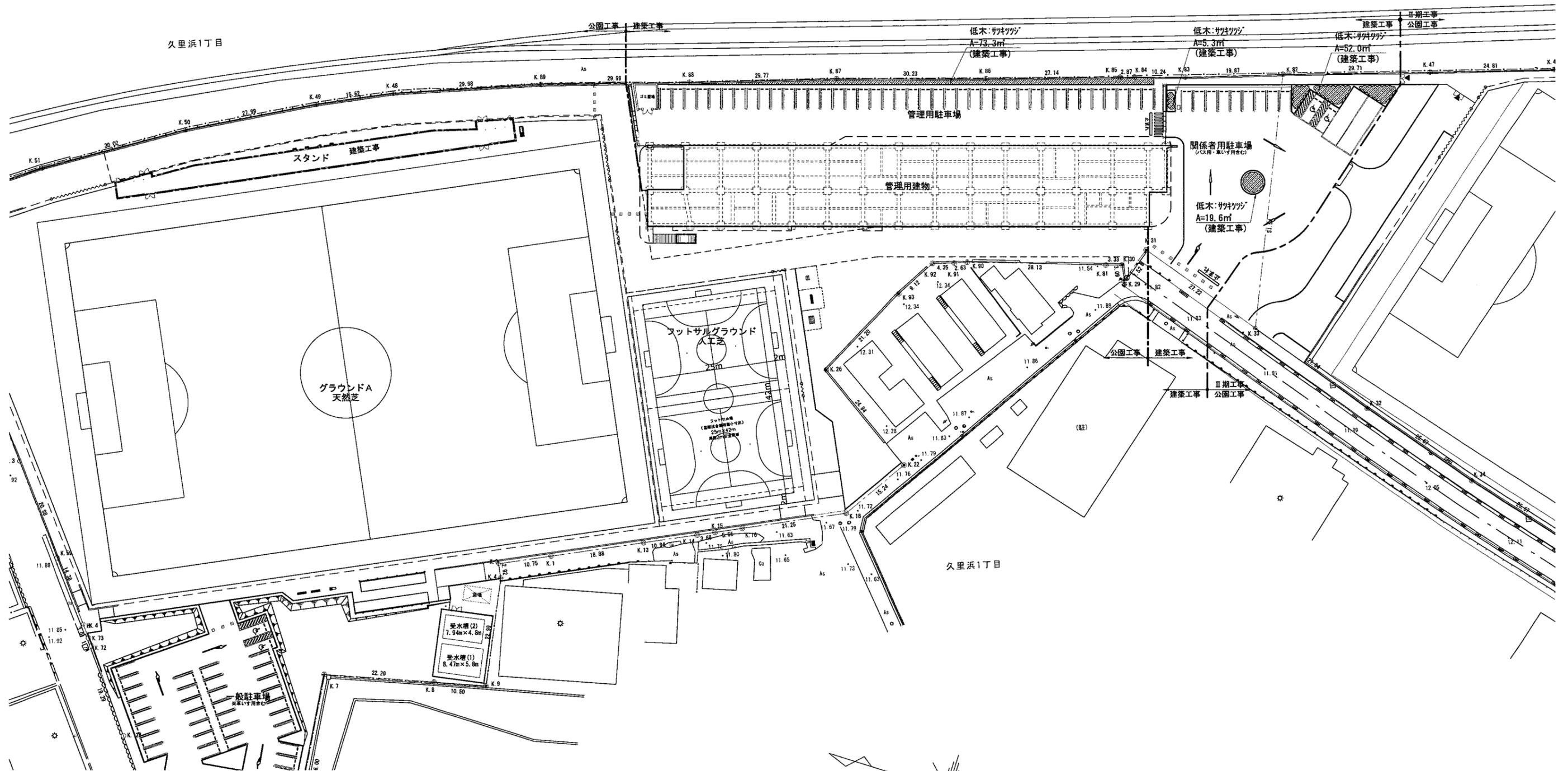


凡例

略称	名称	規格・形状	建築工事
フェンス-A1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=1.8m, 独立基礎	64.9m
フェンス-A2	メッシュフェンス(下部L型擁壁)	H=1.8m, 擁壁基礎	132.7m
フェンス-A3	メッシュフェンス(既設擁壁)	H=1.8m, 既設擁壁基礎	- m
フェンス-B1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=1.2m, 独立基礎	- m
フェンス-B2	メッシュフェンス(下部L型擁壁)	H=1.2m, 擁壁基礎	- m
フェンス-C1	メッシュフェンス(独立基礎)	H=0.8m, 独立基礎	- m
フェンス-D1	目隠しフェンス(下部擁壁)	H=1.8m, 下部擁壁	- m
フェンス門扉-1	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=1.8m, 両開き	1 箇所
フェンス門扉-2	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=4.0m, 両開き	- 箇所
フェンス門扉-3	メッシュフェンス門扉	H=1.8m, W=1.0m, 片開き	- 箇所
フェンス門扉-4	メッシュフェンス門扉	H=1.2m, W=2.0m, 両開き	- 箇所
門扉-1	伸縮門扉	H=1.6m, W=6.0m, 片開き	- 箇所
門扉-2	大型アルミ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.5m, W=5.0m, 片開き	- 箇所
門扉-3	大型アルミ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.5m, W=6.0m, 片開き	- 箇所
門扉-4	大型アルミ製引戸門扉(袖門扉)	H=1.8m, W=5.0m, 片開き	2 箇所
	駐輪場柵	W=2.0m	- m

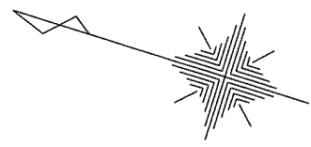
# 植栽平面図

S=1:800 (A3)



凡例

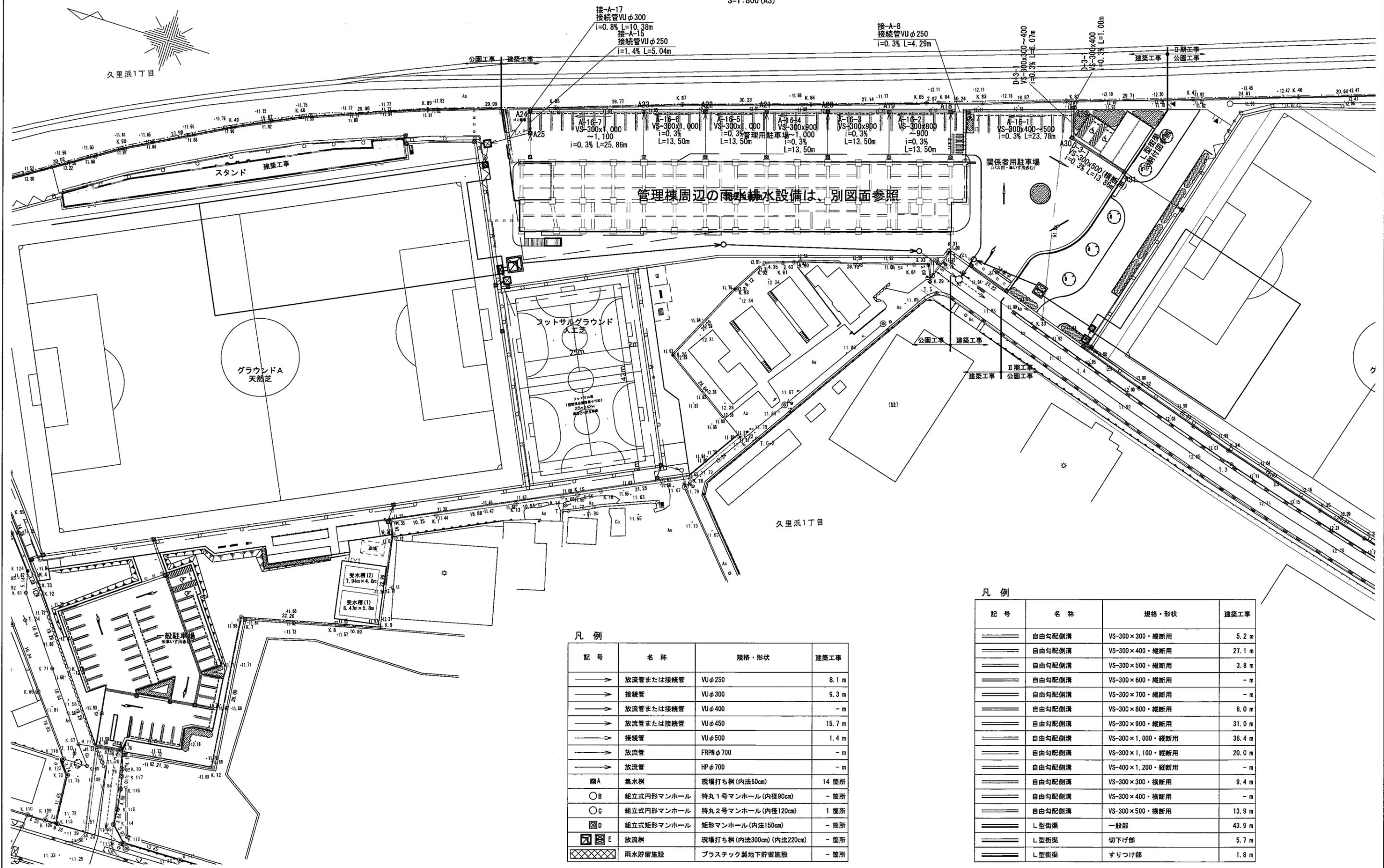
記号	名称	規格・形状	建築工事
	サツキツツジ	H0.4-W0.5 (5株/㎡)	150.2㎡



# 雨水排水平面図

S:1:800 (A3)

久里浜1丁目



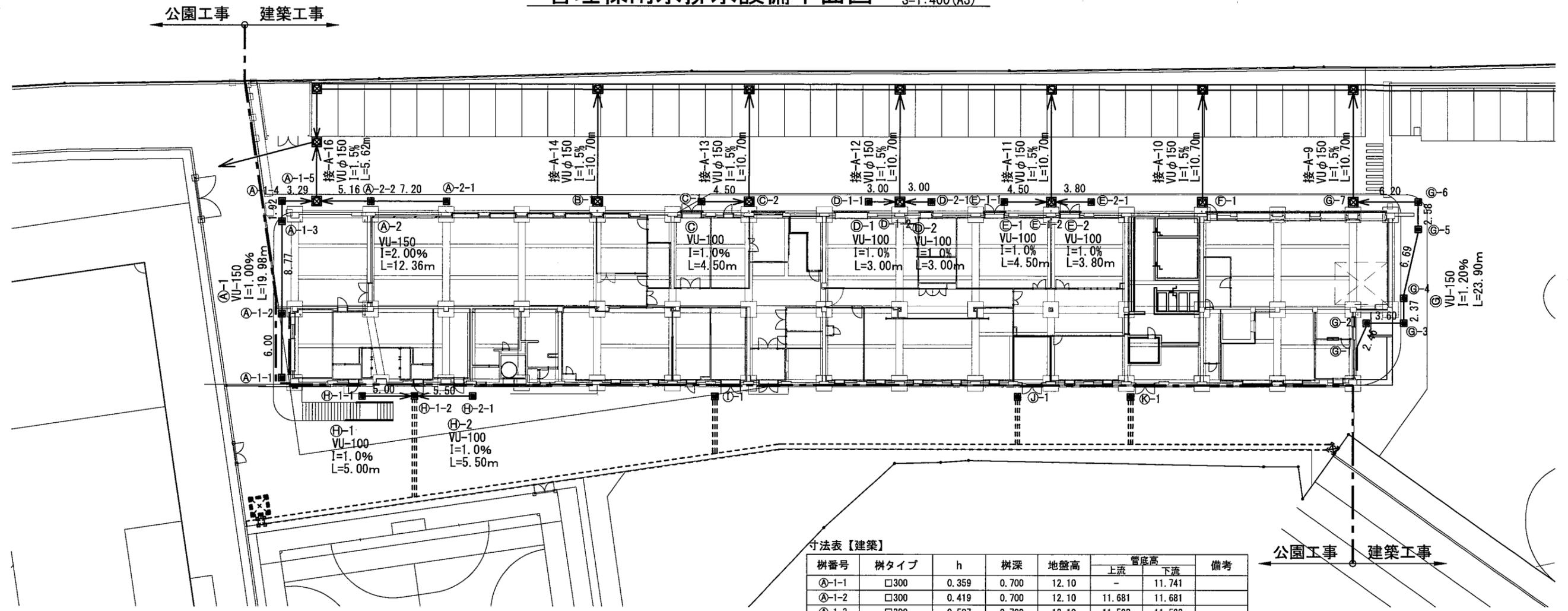
## 凡例

記号	名称	規格・形状	建築工事
→	放流管または接続管	VUφ250	8.1 m
→	接続管	VUφ300	9.3 m
→	放流管または接続管	VUφ400	- m
→	放流管または接続管	VUφ450	15.7 m
→	接続管	VUφ500	1.4 m
→	放流管	FRPMφ700	- m
→	放流管	HPφ700	- m
⊙A	集水井	現場打ち井(内法50cm)	14箇所
⊙B	組立式円形マンホール	特丸1号マンホール(内径90cm)	- 箇所
⊙C	組立式円形マンホール	特丸2号マンホール(内径120cm)	1箇所
⊙D	組立式矩形マンホール	矩形マンホール(内法150cm)	- 箇所
⊙E	放流井	現場打ち井(内法300cm)(内法220cm)	- 箇所
⊞	雨水貯留施設	プラスチック製地下貯留施設	- 箇所

## 凡例

記号	名称	規格・形状	建築工事
≡	自由勾配側溝	VS-300×300・縦断用	5.2 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×400・縦断用	27.1 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×500・縦断用	3.8 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×600・縦断用	- m
≡	自由勾配側溝	VS-300×700・縦断用	- m
≡	自由勾配側溝	VS-300×800・縦断用	6.0 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×900・縦断用	31.0 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×1,000・縦断用	36.4 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×1,100・縦断用	20.0 m
≡	自由勾配側溝	VS-400×1,200・縦断用	- m
≡	自由勾配側溝	VS-300×300・横断用	9.4 m
≡	自由勾配側溝	VS-300×400・横断用	- m
≡	自由勾配側溝	VS-300×500・横断用	13.9 m
≡	L型街渠	一般部	43.9 m
≡	L型街渠	切下げ部	5.7 m
≡	L型街渠	すりつけ部	1.8 m

# 管理棟雨水排水設備平面図 S=1:400 (A3)



寸法表【建築】

樹番号	樹タイプ	h	樹深	地盤高	管底高		備考
					上流	下流	
Ⓐ-1-1	□300	0.359	0.700	12.10	-	11.741	
Ⓐ-1-2	□300	0.419	0.700	12.10	11.681	11.681	
Ⓐ-1-3	□300	0.507	0.700	12.10	11.593	11.593	
Ⓐ-1-4	□300	0.527	0.700	12.10	11.573	11.573	
Ⓐ-1-5	□450	0.760	1.000	12.10	11.540	11.340	Ⓐ-1-4
					11.493		Ⓐ-2-2
Ⓐ-2-1	□300	0.359	0.700	12.10	-	11.741	
Ⓐ-2-2	□300	0.503	0.700	12.10	11.597	11.597	
Ⓑ-1	□450	0.760	1.000	12.10	-	11.340	
Ⓒ-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓒ-2	□450	0.760	1.000	12.10	11.745	11.340	
Ⓓ-1-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓓ-1-2	□450	0.760	1.000	12.10	11.760	11.340	Ⓓ-1-1
					11.760		Ⓓ-2-1
Ⓓ-2-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓔ-1-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓔ-1-2	□450	0.760	1.000	12.10	11.745	11.340	Ⓔ-1-1
					11.752		Ⓔ-2-1
Ⓔ-2-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓕ-1	□450	0.760	1.000	12.10	-	11.340	
Ⓖ-1	倒溝	-	-	11.90	-	11.541	
Ⓖ-2	□300	0.389	0.700	11.90	11.511	11.511	
Ⓖ-3	□300	0.433	0.700	11.90	11.467	11.467	
Ⓖ-4	□300	0.462	0.700	11.90	11.438	11.438	
Ⓖ-5	□300	0.743	1.000	12.10	11.357	11.357	
Ⓖ-6	□300	0.774	1.000	12.10	11.326	11.326	
Ⓖ-7	□450	0.760	1.000	12.10	11.251	11.340	
Ⓕ-1-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓕ-1-2	□300	0.385	0.700	12.10	11.740	11.715	Ⓕ-1-1
					11.735		Ⓕ-2-1
Ⓕ-2-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓖ-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓖ-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	
Ⓖ-1	□300	0.310	0.700	12.10	-	11.790	

雨水排水施設縦断面図(1)

V=1: 40 (A3)  
H=1: 400 (A3)

(建築工事)

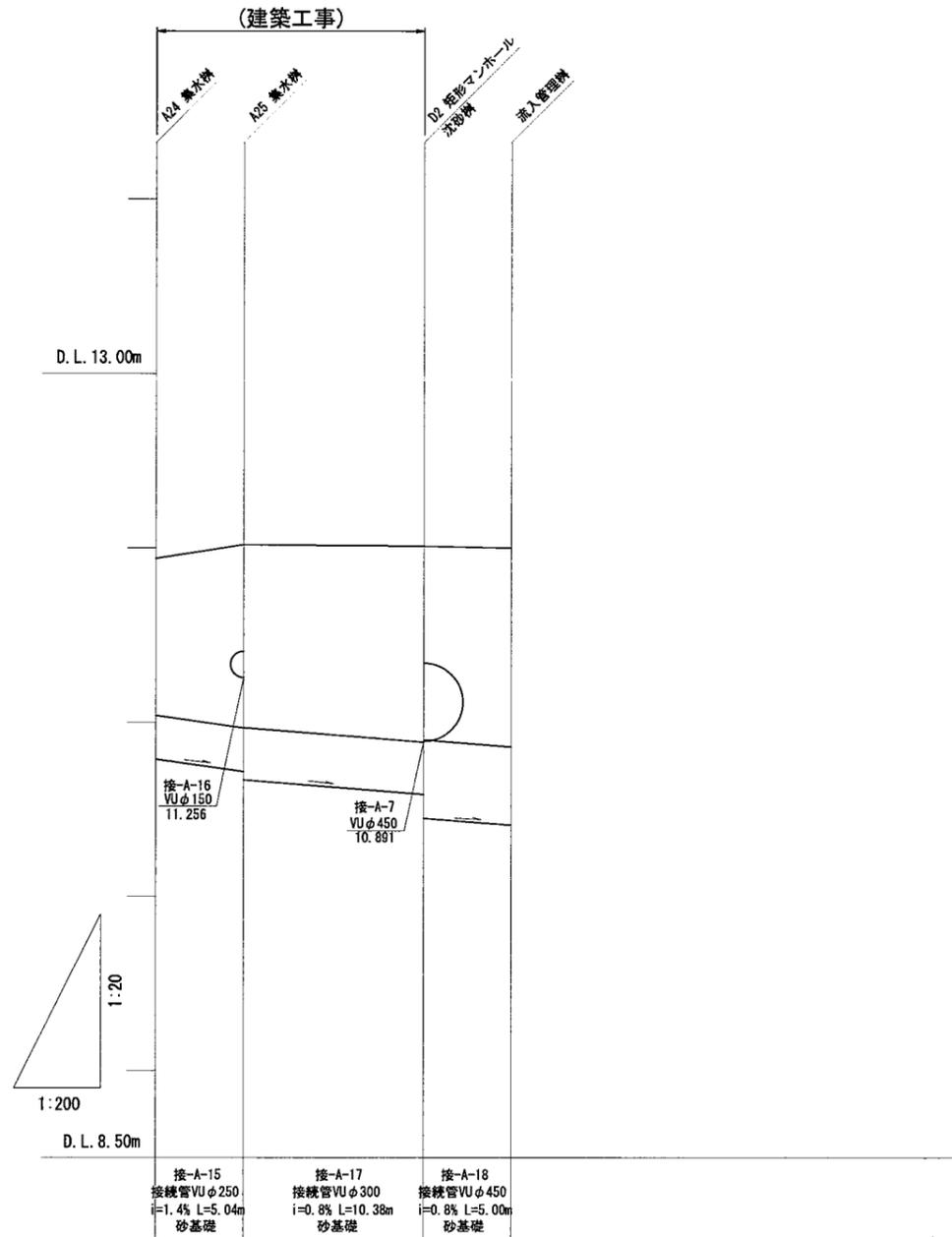
A17 集水溝  
A18 集水溝

接-A-8  
接続管VUφ250  
i=0.3% L=4.29m  
砂基礎

11.940	11.940
0.60	0.61
11.081	11.068
0.00	4.29

地盤高
土被り
管底高
追加距離

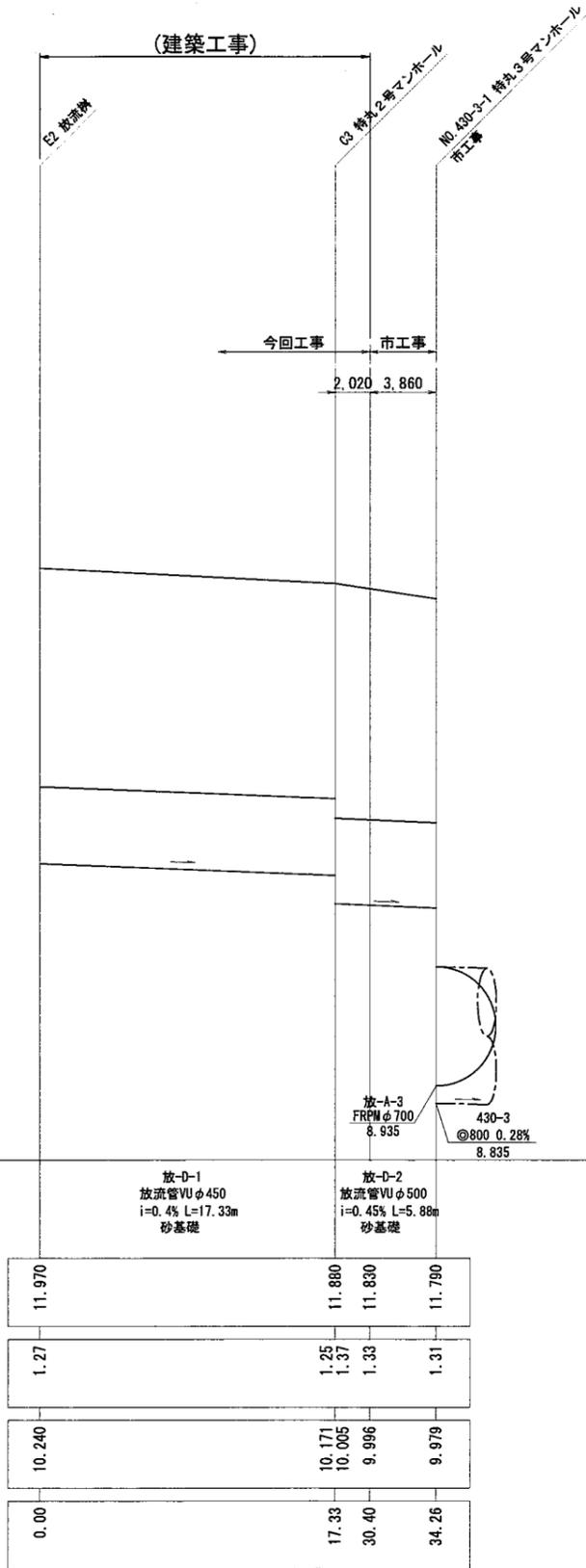
雨水排水施設縦断図(2) V=1: 20  
H=1: 200



地盤高	11.940	12.020	12.010	12.000
土被り	0.89	1.04 1.04	1.12 1.10	1.13
管底高	10.788	10.717 10.669	10.586 10.450	10.410
追加距離	0.00	5.04	15.42	20.42

雨水排水施設縦断面図(3)

V=1:40 (A3)  
H=1:400 (A3)



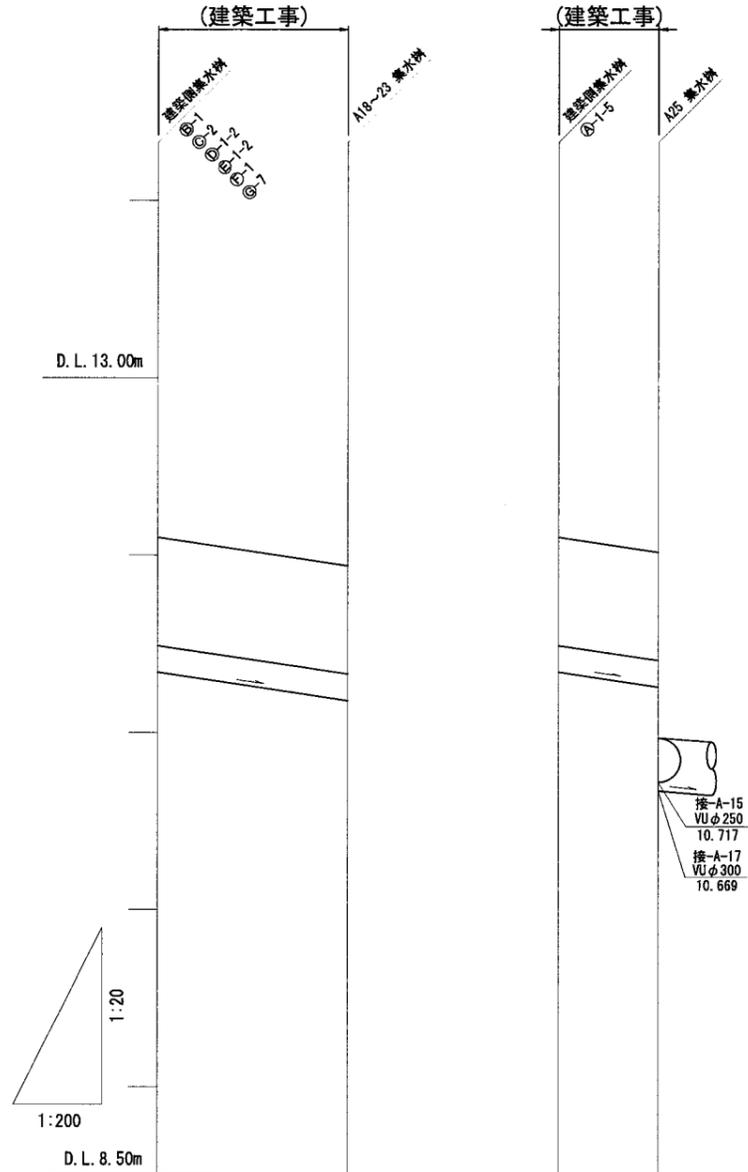
- 地盤高
- 土被り
- 管底高
- 追加距離

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	雨水排水施設縦断面図(3)	L-18	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/√=200 V=20	A3: 1/√=400 V=40	2021年 1月

雨水排水施設縦断面図(4)

V=1: 40 (A3)  
H=1: 400 (A3)

管理棟雨水接続管



接-A-9~14  
接続管VUφ150  
i=1.5% L=10.70m  
砂基礎

接-A-16  
接続管VUφ150  
i=1.5% L=5.62m  
砂基礎

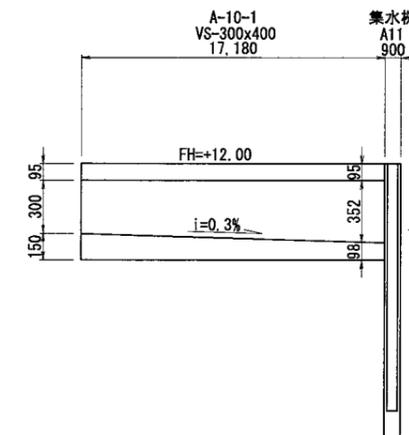
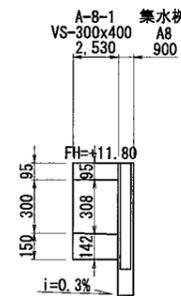
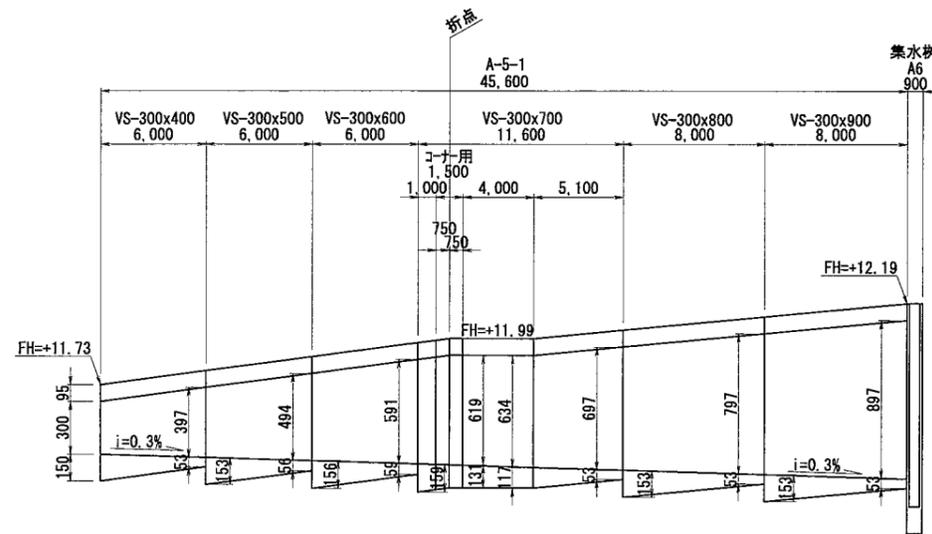
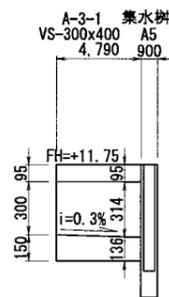
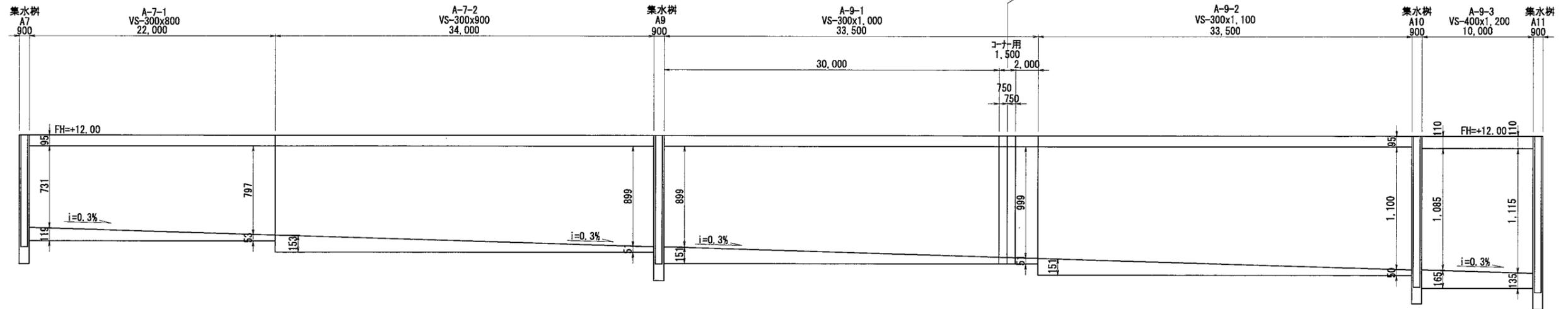
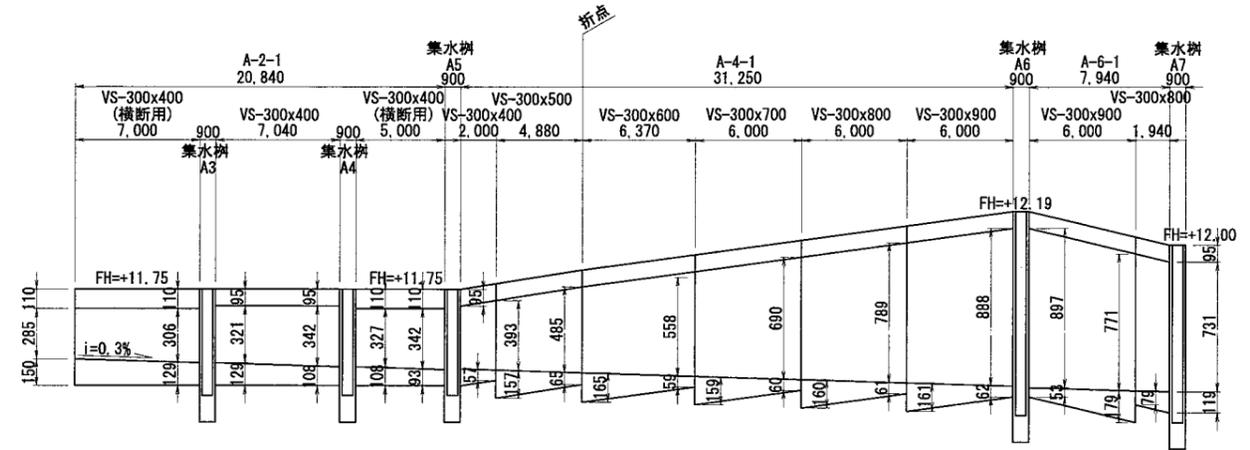
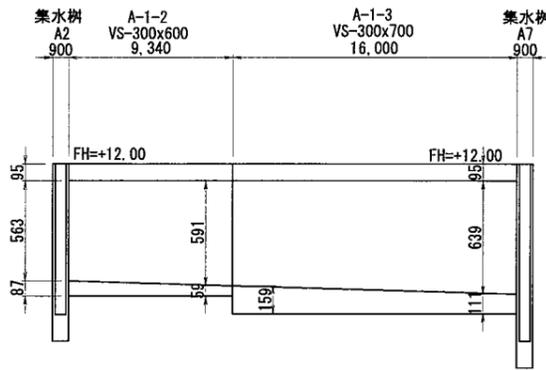
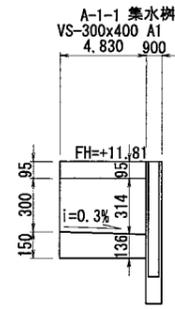
地盤高	12.100	11.940
土被り	0.60	0.60
管底高	11.340	11.180
追加距離	0.00	10.70

地盤高	12.100	12.020
土被り	0.60	0.60
管底高	11.340	11.256
追加距離	0.00	5.62

# 自由勾配側溝展開図(1)

H=1:400 V=1:40(A3)



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

自由勾配側溝展開図(1)

図面番号

L-19

区分

建築

縮尺

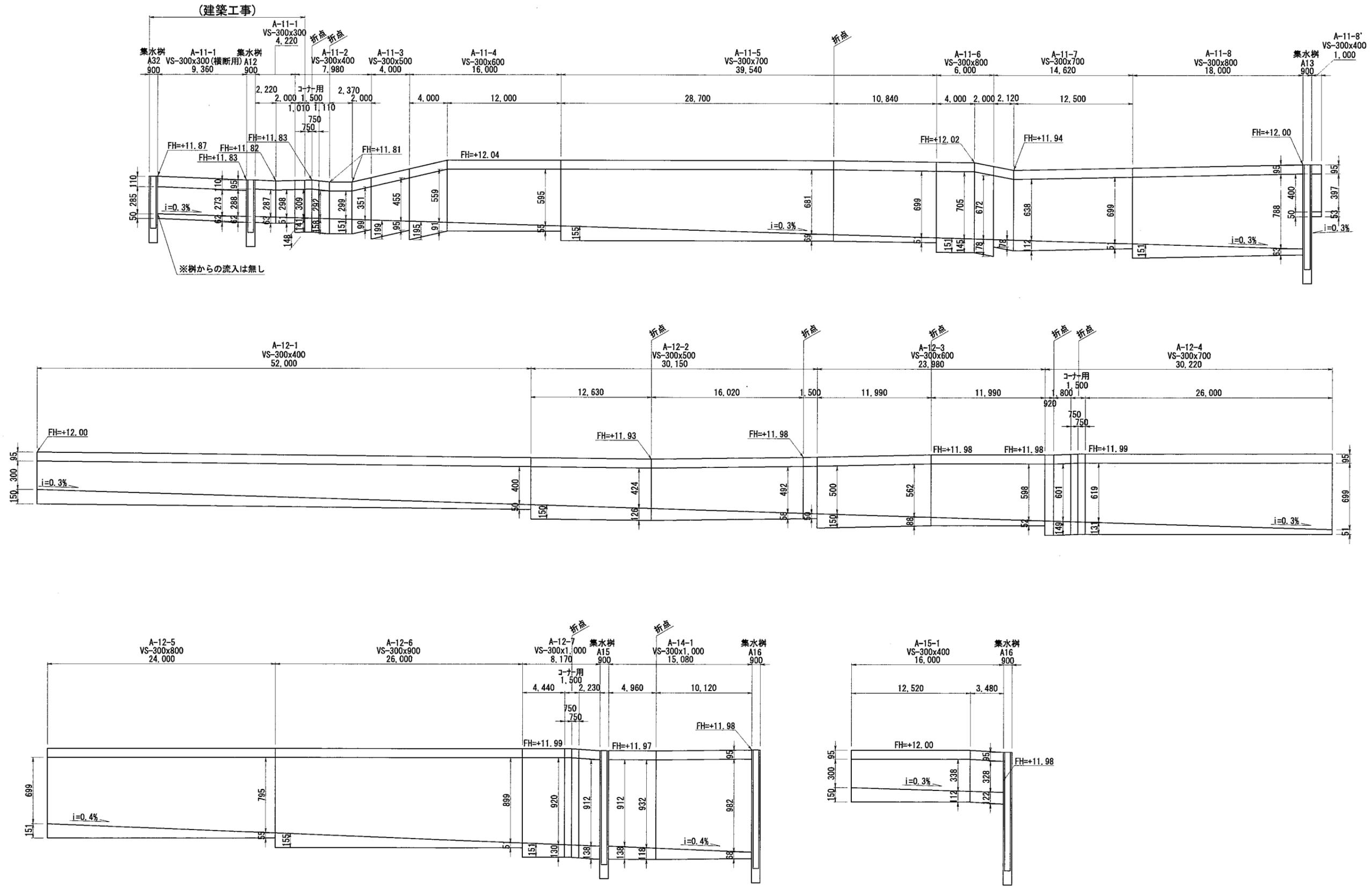
A1: 1/横=20 縦=200 A3: 1/横=40 縦=400

年月日

2021年1月

# 自由勾配側溝展開図(2)

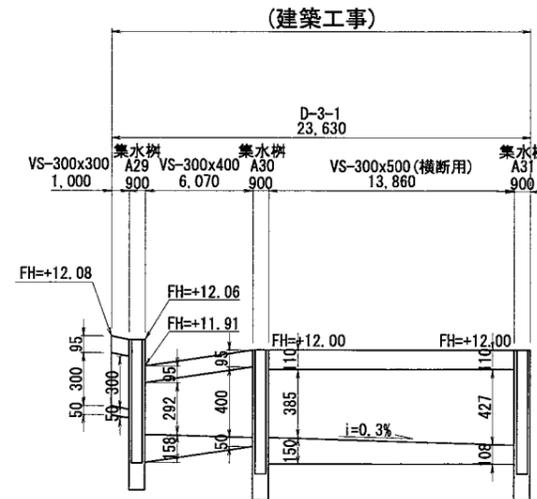
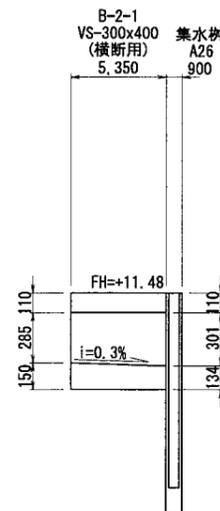
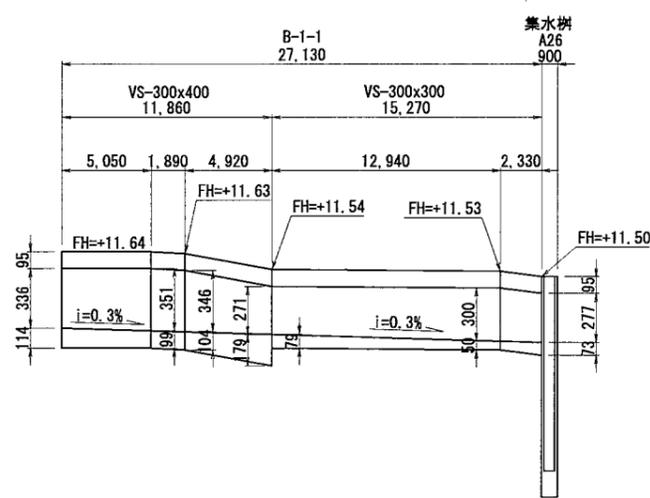
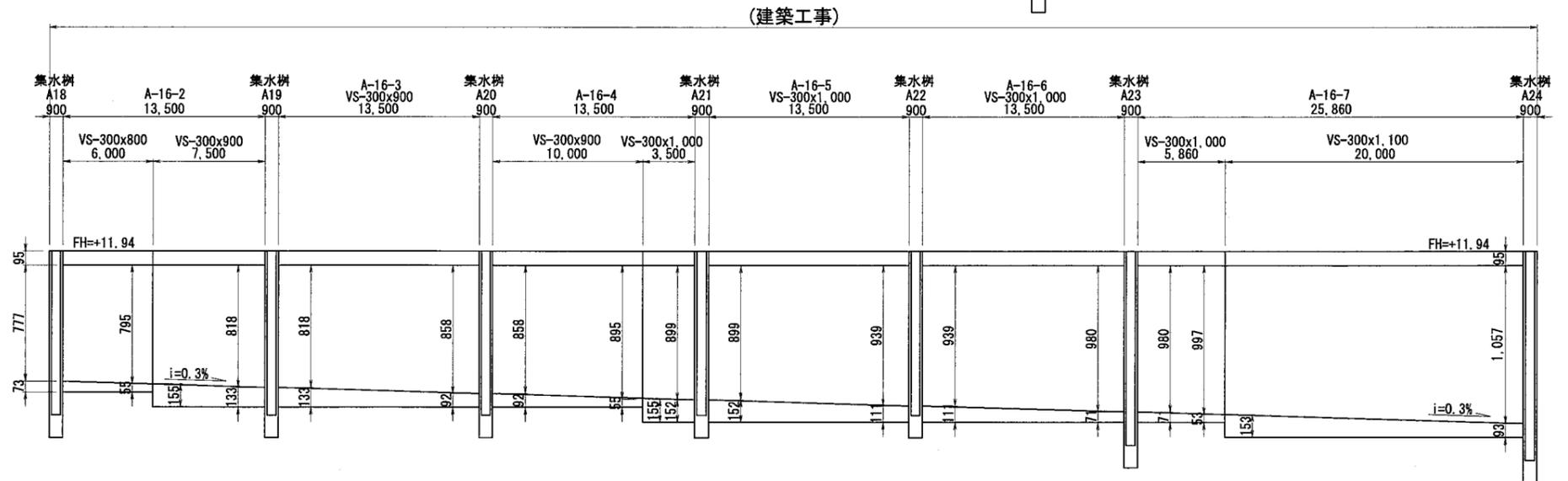
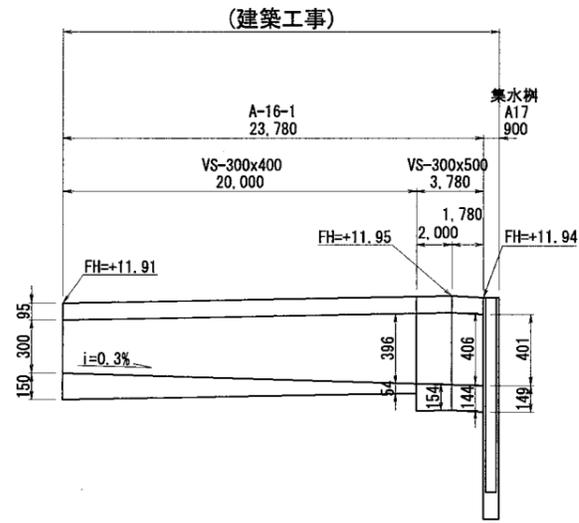
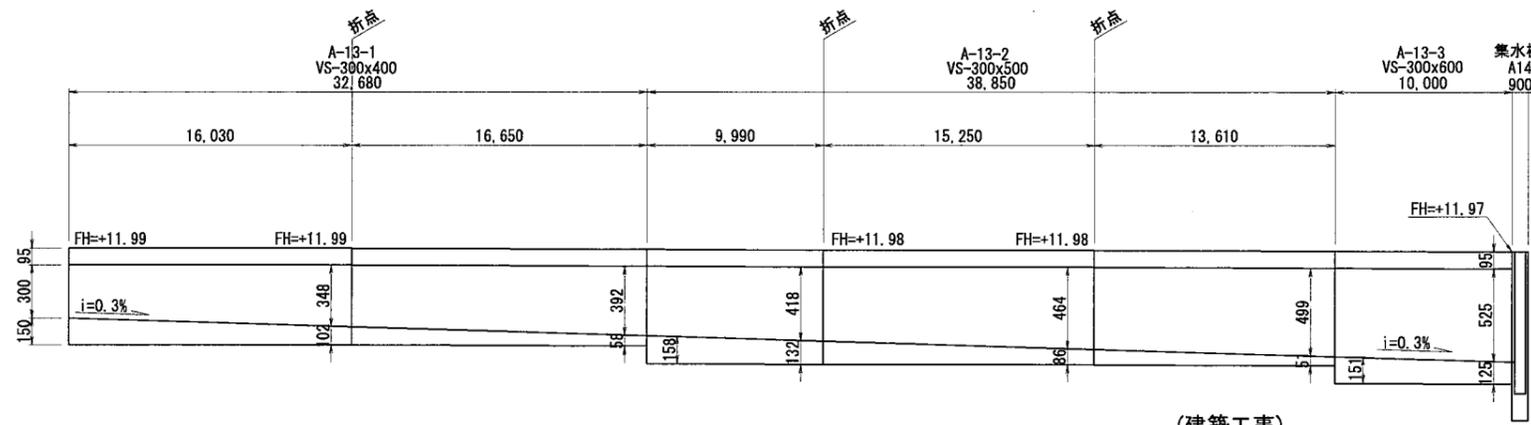
H=1:400 V=1:40 (A3)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	自由勾配側溝展開図(2)	L-20	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/横=20 縦=200	2021年 1月	
				A3: 1/横=40 縦=400		

# 自由勾配側溝展開図(3)

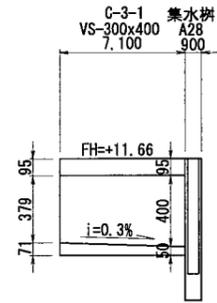
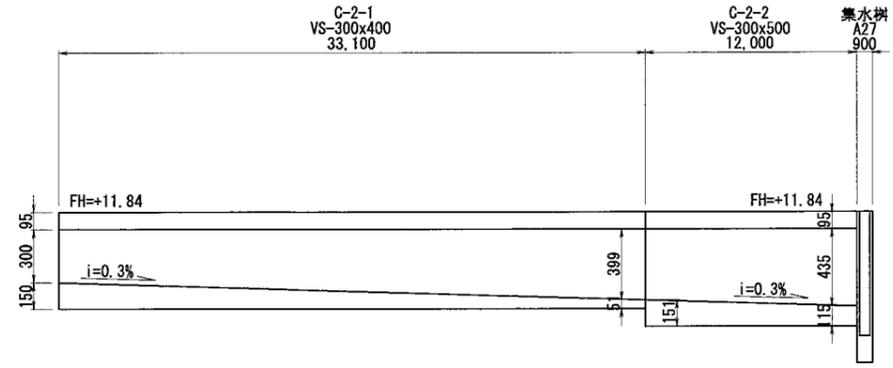
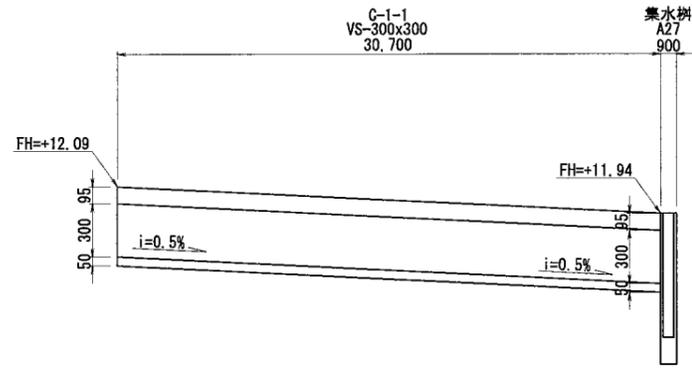
H=1:400 V=1:40 (A3)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	自由勾配側溝展開図(3)	L-21	建築
				縮尺	年月日	2021年1月
				A1: 1/横=20 縦=200	A3: 1/横=40 縦=400	

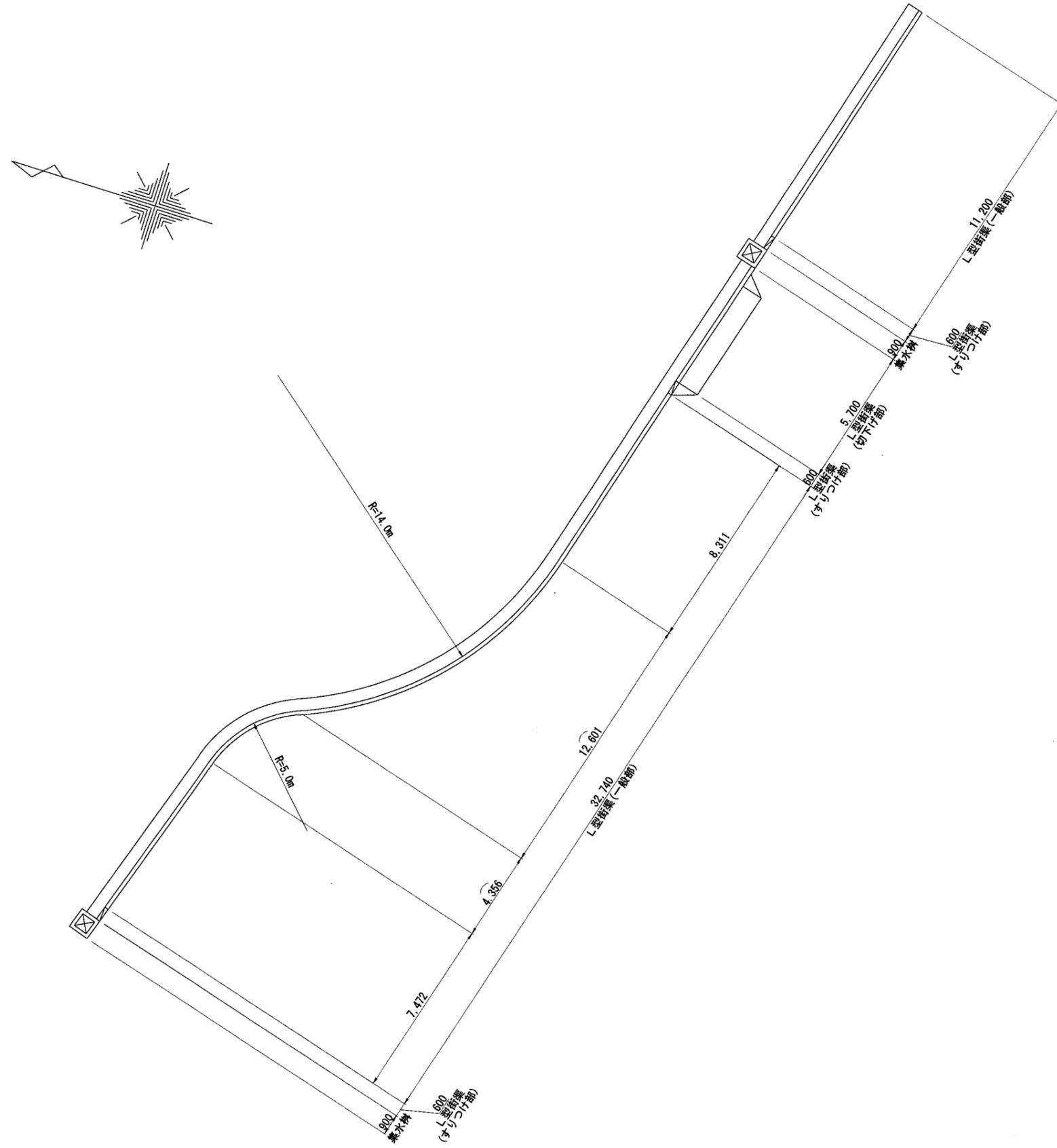
# 自由勾配側溝展開図(4)

H=1:400 V=1:40 (A3)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	自由勾配側溝展開図(4)	L-22	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/横=20 縦=200	2021年 1月	
				A3: 1/横=40 縦=400		

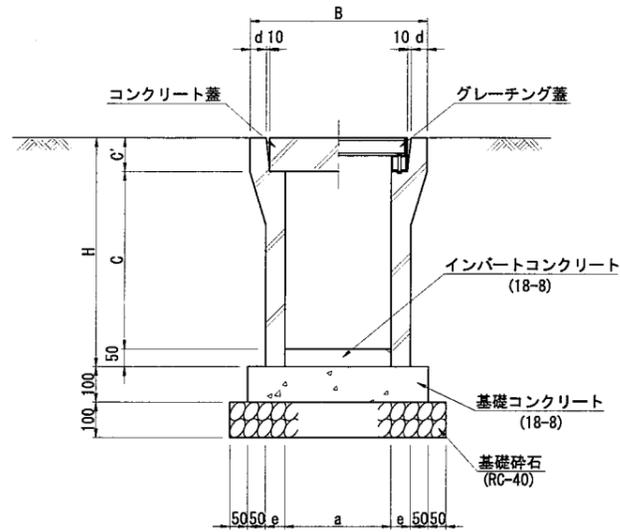
L型街渠割付図 A3 S=1:200  
(建築工事)



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	L型街渠割付図	L-23	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/100 A3: 1/200	2021年 1月	

雨水排水施設構造図(1)

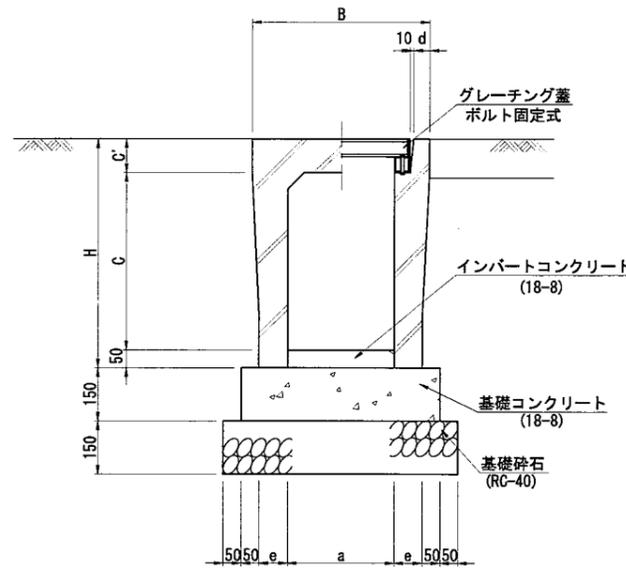
自由勾配側溝  
縦断用 S=1:20 (A3)



寸法表 (mm)

適用	呼び名	B	H	a	c	c'	d	e	
○	300x 300	500	445	300	300	95	45	50	
○	300x 400		545		400			65	
○	300x 500		645		500				
○	300x 600		745		600				
○	300x 700		845		700				
○	300x 800		945		800				
○	300x 900		1045		900				
○	300x1000		1145		1000				
○	300x1100		1245		1100				85
	400x 400		560		400				
	400x 500	660	500						
	400x 600	760	600						
	400x 700	860	700						
	400x 800	960	800						
	400x 900	1060	900						
	400x1000	1160	1000						
	400x1100	1260	1100						
○	400x1200	1360	1200						

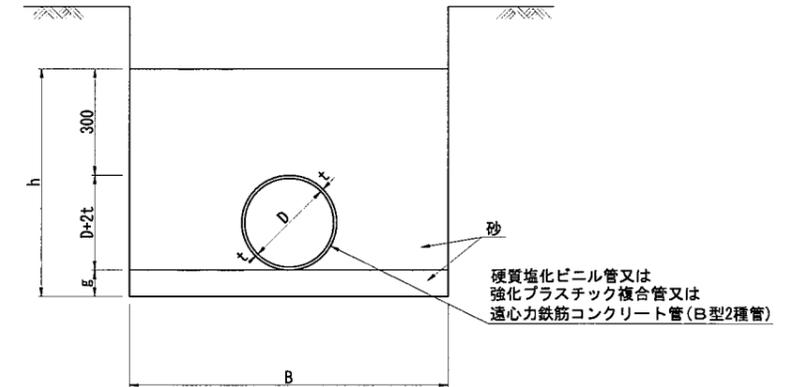
自由勾配側溝  
横断用 S=1:20 (A3)



寸法表 (mm)

適用	呼び名	B	H	a	c	c'	d	e	
○	300x 300	520	445	300	300	110	50.5	80	
○	300x 400		545		400				
○	300x 500		645		500				
○	300x 600		745		600				
	300x 700		845		700			95	
	300x 800		945		800				
	300x 900		1045		900				
	300x1000		1145		1000				110
	300x1100		1245		1100				

砂基礎 S=1:20 (A3)



塩ビ管基礎寸法表 (mm)

適用	D	t	D+2t	g	h	B
○	150	5.1	165	100	565	765
	200	6.5	216	100	616	816
○	250	7.8	267	100	667	867
○	300	9.2	318	100	718	918
	350	10.5	370	100	770	970
○	400	11.8	420	100	820	1020
○	450	13.2	470	110	870	1170
○	500	14.6	520	120	920	1220

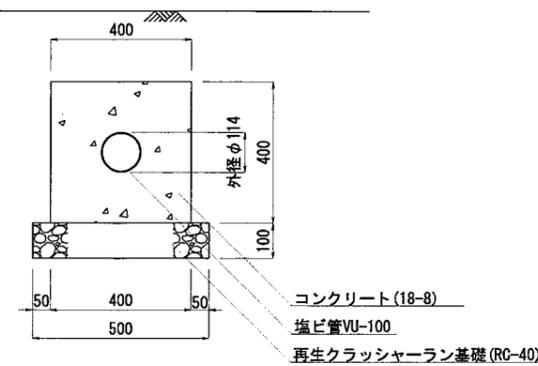
FRPM管基礎寸法表 (mm)

適用	D	t	D+2t	g	h	B
○	700	14	728	160	1188	1012

ヒューム管基礎寸法表 (mm)

適用	D	t	D+2t	g	h	B
	500	42	584	130	1014	1012
	600	50	700	160	1160	1012
○	700	58	816	180	1296	1078
	800	66	932	210	1442	1194

360° コンクリート基礎 S=1:20 (A3)



公共建築課長 主査等 担当者 工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名 雨水排水施設構造図(1)

図面番号 L-24 区分 建築

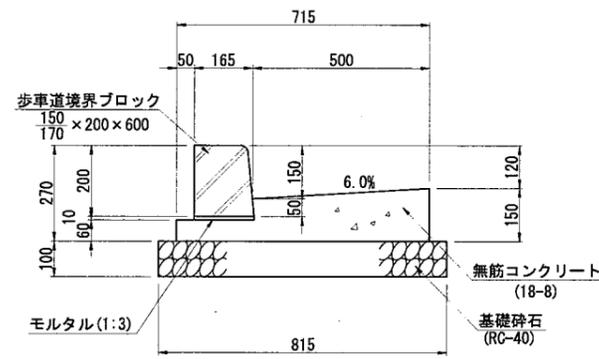
縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20

年月日 2021年 1月

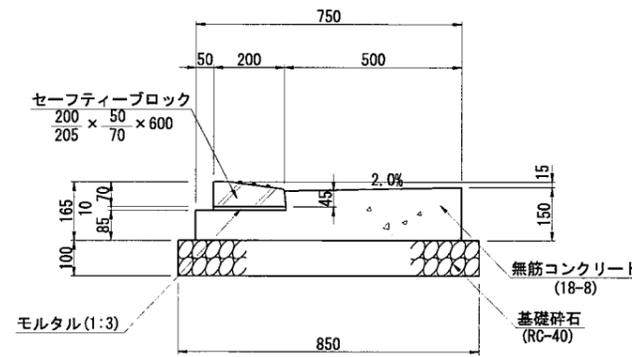
雨水排水施設構造図(2)

【建築工事】

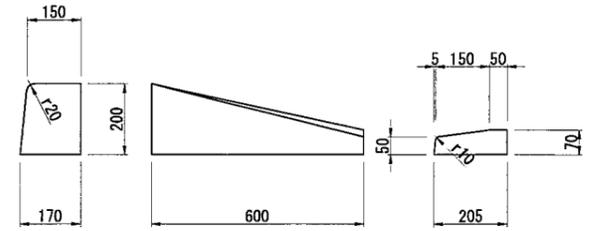
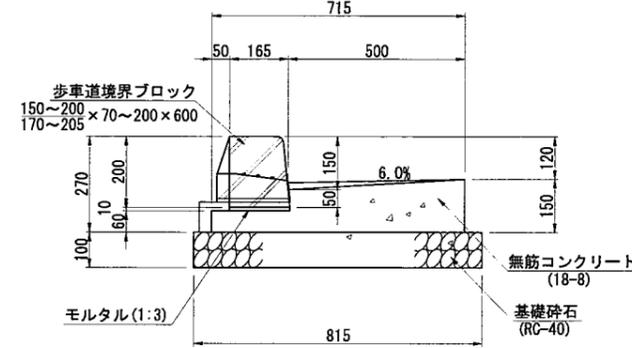
L型街渠 S=1:20 (A3)  
一般部



L型街渠 S=1:20 (A3)  
切下げ部



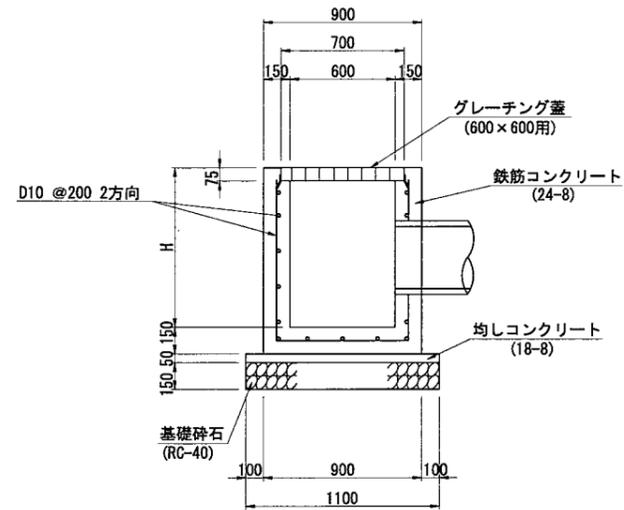
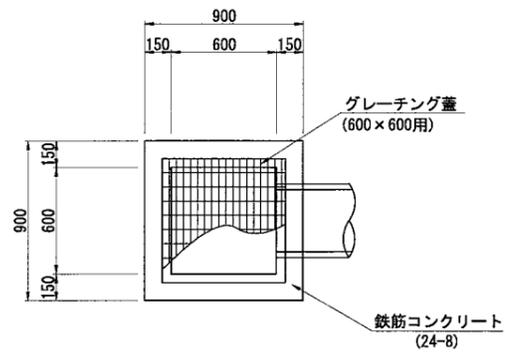
L型街渠 S=1:20 (A3)  
すりつけ部



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	雨水排水施設構造図(2)	L-25	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/10 A3: 1/20	2021年 1月	

雨水排水施設構造図(3)

集水樹 □600×600 S=1:40 (A3)



材料表【公園工事】 (10箇所当り)

品名	形状寸法	数量	単位	摘要
グレーチング蓋	□600用	10	個	枠共
コンクリート	24-8	5.6	m <sup>3</sup>	
型枠		64.1	m <sup>2</sup>	
均しコンクリート	18-8	0.6	m <sup>3</sup>	
均し型枠		2.2	m <sup>2</sup>	
基礎碎石	RC-40 t=150	12.1	m <sup>3</sup>	
鉄筋	D10	18.1	kg	

材料表【建築工事】 (10箇所当り)

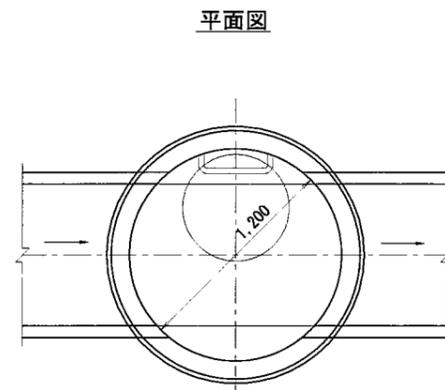
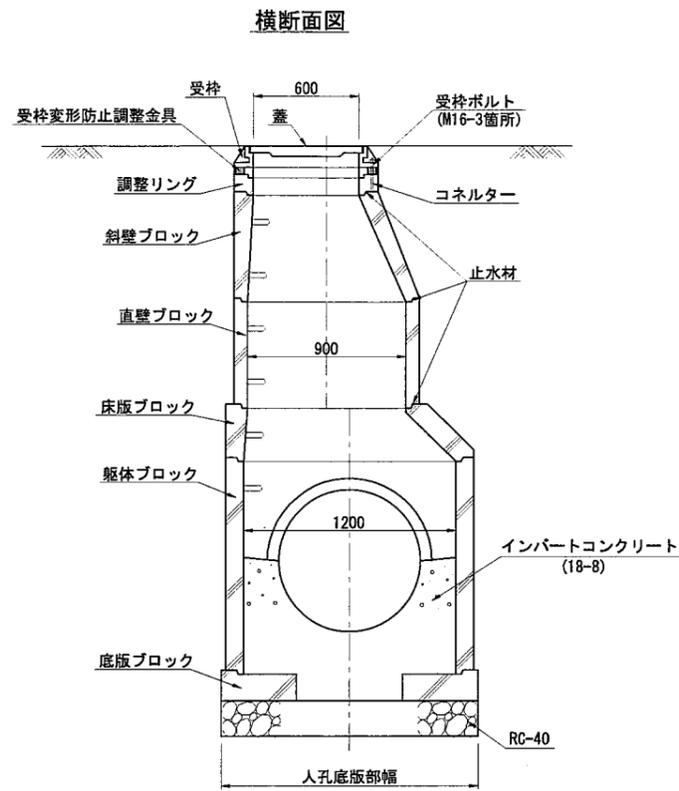
品名	形状寸法	数量	単位	摘要
グレーチング蓋	□600用	10	個	枠共
コンクリート	24-8	5.9	m <sup>3</sup>	
型枠		67.6	m <sup>2</sup>	
均しコンクリート	18-8	0.6	m <sup>3</sup>	
均し型枠		2.2	m <sup>2</sup>	
基礎碎石	RC-40 t=150	12.1	m <sup>3</sup>	
鉄筋	D10	21.6	kg	

樹深さ(H)一覧表【建築工事】

樹番号	内寸法	H (mm)	蓋
A12	600×600	600	グレーチング T-25
A17	600×600	1100	グレーチング T-25
A18	600×600	1100	グレーチング T-25
A19	600×600	1100	グレーチング T-25
A20	600×600	1200	グレーチング T-25
A21	600×600	1200	グレーチング T-25
A22	600×600	1200	グレーチング T-25
A23	600×600	1300	グレーチング T-25
A24	600×600	1400	グレーチング T-25
A25	600×600	1600	グレーチング T-25
A29	600×600	700	グレーチング T-25
A30	600×600	700	グレーチング T-25
A31	600×600	700	グレーチング T-25
A32	600×600	600	グレーチング T-25
平均深さH		1036	

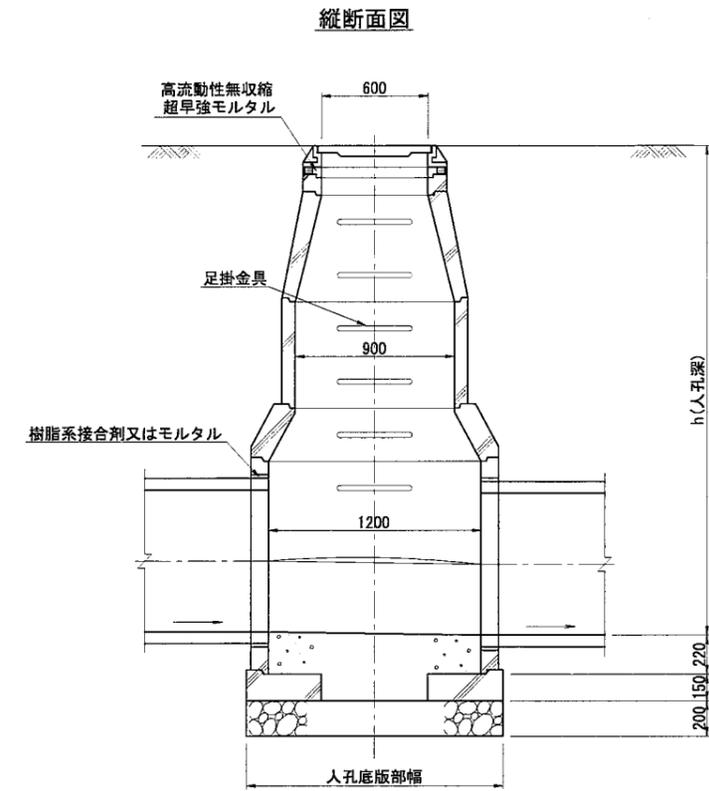
# 雨水排水施設構造図(4)

特丸2号マンホール S=1:40 (A3)  
(内径 120cm)



人孔深さ (h) 一覧表【建築工事】

人孔番号	内寸法	h (mm)	蓋
C3	φ1200	1875	鑄鉄蓋 T-25



公共建築課長 主査等 担当者 工事名

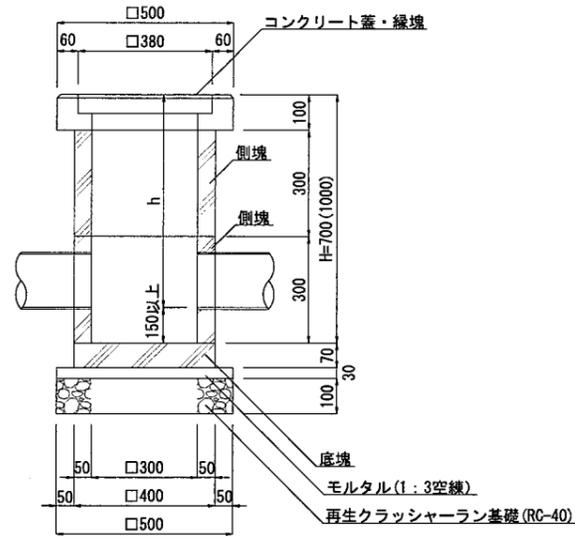
久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名 雨水排水施設構造図(4) 図面番号 L-27 区分 建築

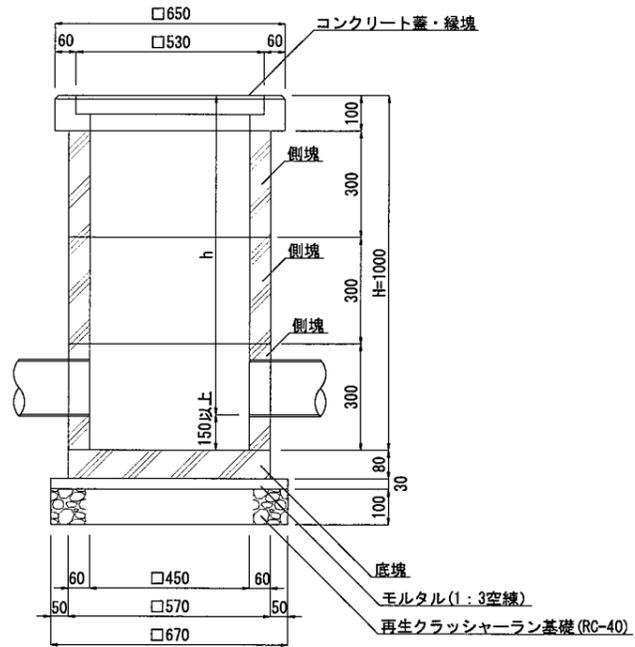
縮尺 A1: 1/20 A3: 1/40 年月日 2021年 1月

# 管理棟雨水排水構造図 【建築工事】

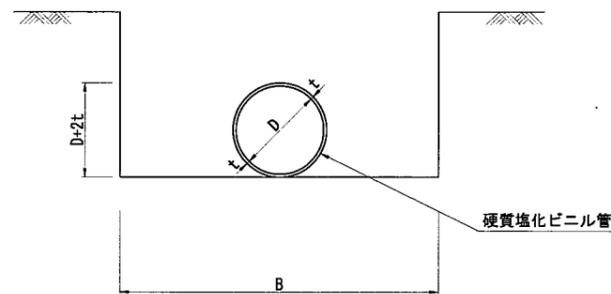
雨水枡 S=1:20 (A3)  
(□300×300)



雨水枡 S=1:20 (A3)  
(□450×450)



管 布 設 S=1:20 (A3)



塩ビ管基礎寸法表 (mm)

適用	D	t	D+2t	B
○	100	3.1	114	714
○	150	5.1	165	765

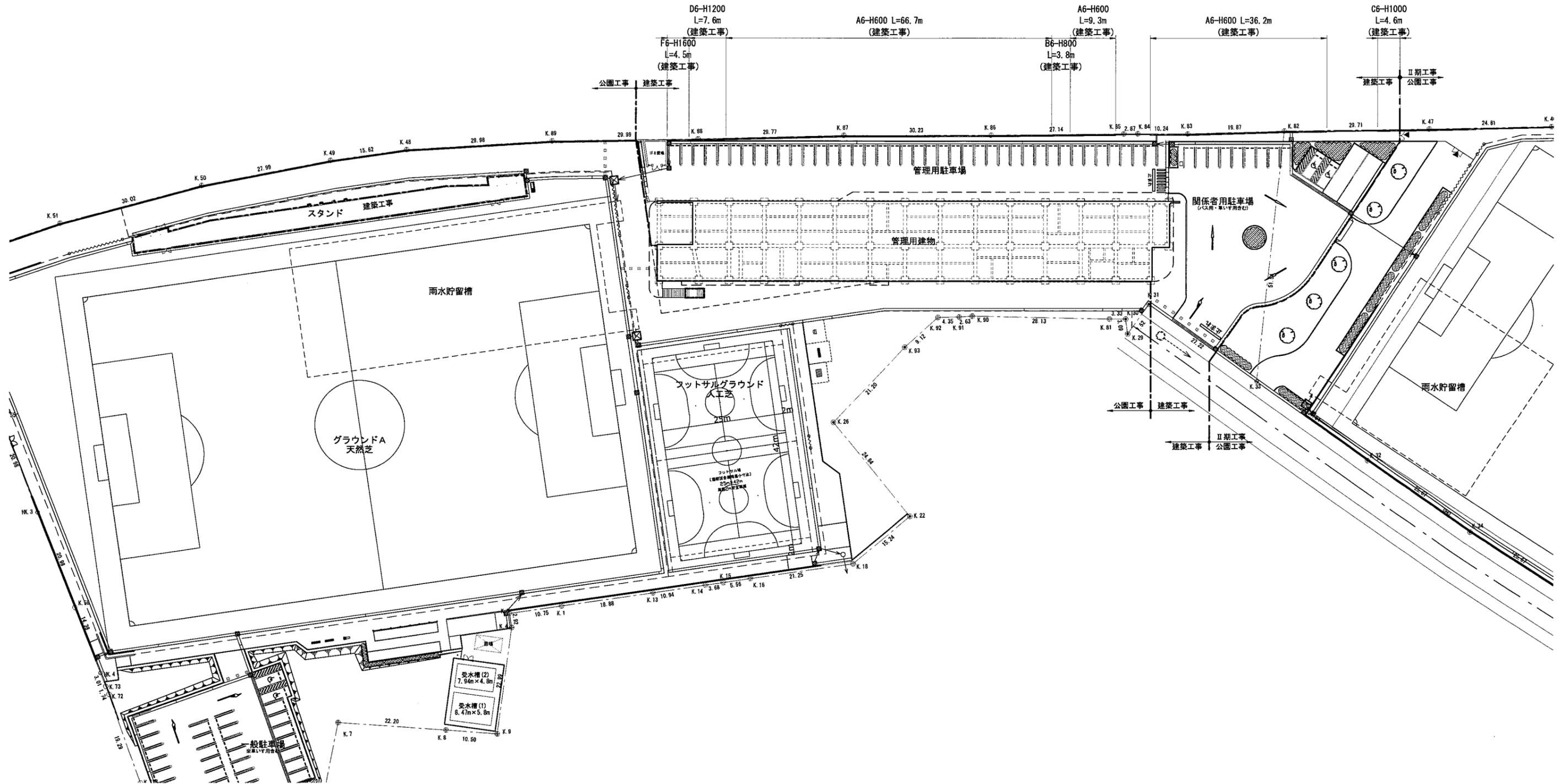
材料表【建築工事】 (10m当り)

品名	形状寸法	数量	単位	摘要
硬質塩化ビニル管	VU-100	10.0	m	
硬質塩化ビニル管	VU-150	10.0	m	

公共建築課長	主査等	担当者	工事名 久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	図面名 管理棟雨水排水構造図	図面番号 L-27-2	区分 建築
				縮尺 A1: 1/10      A3: 1/20	年月日 2021年 1月	

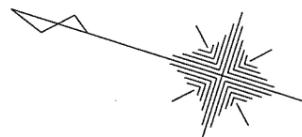
# 擁壁平面図

S=1:800 (A3)



凡例

略称	名称	規格・形状	建築工事
A2, 3, 6-H600	L型擁壁 A	H=600	112.1m
B1, 5, 6-H800	L型擁壁 B	H=800	3.8m
C1, 4, 5, 6-H1000	L型擁壁 C	H=1000	4.6m
D1, 5, 6-H=1200	L型擁壁 D	H=1200	7.6m
E5-H1400	L型擁壁 E	H=1400	- m
F5, 6-H1600	L型擁壁 F	H=1600	4.5m

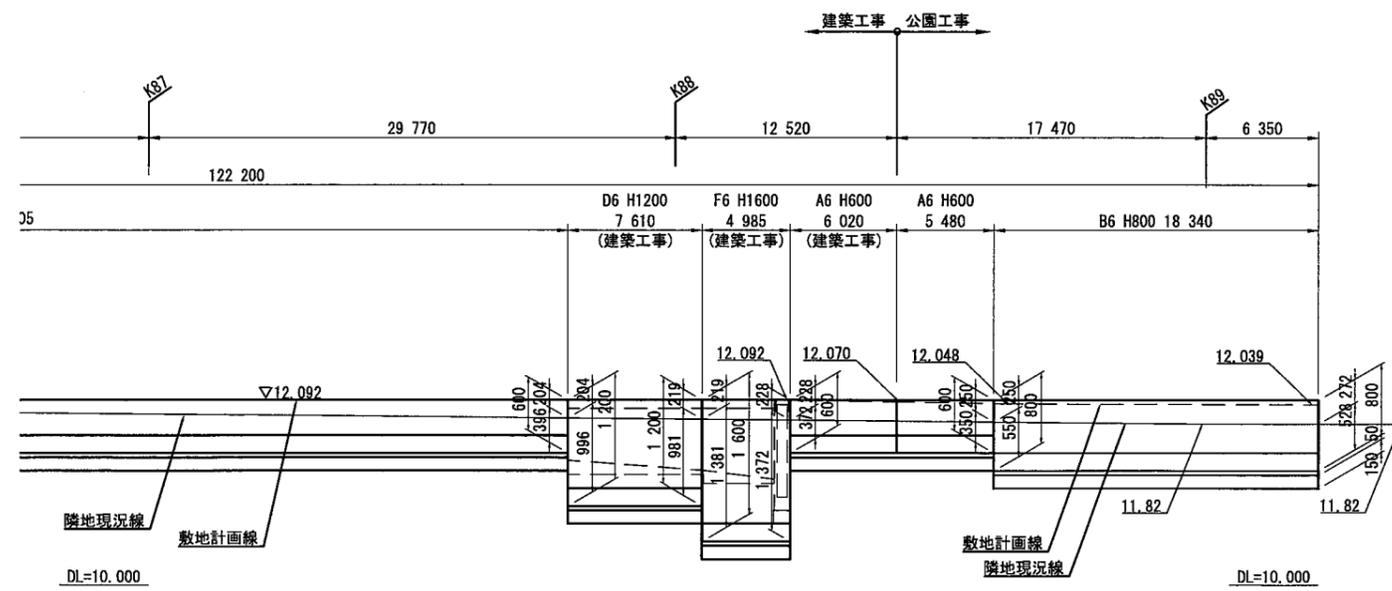
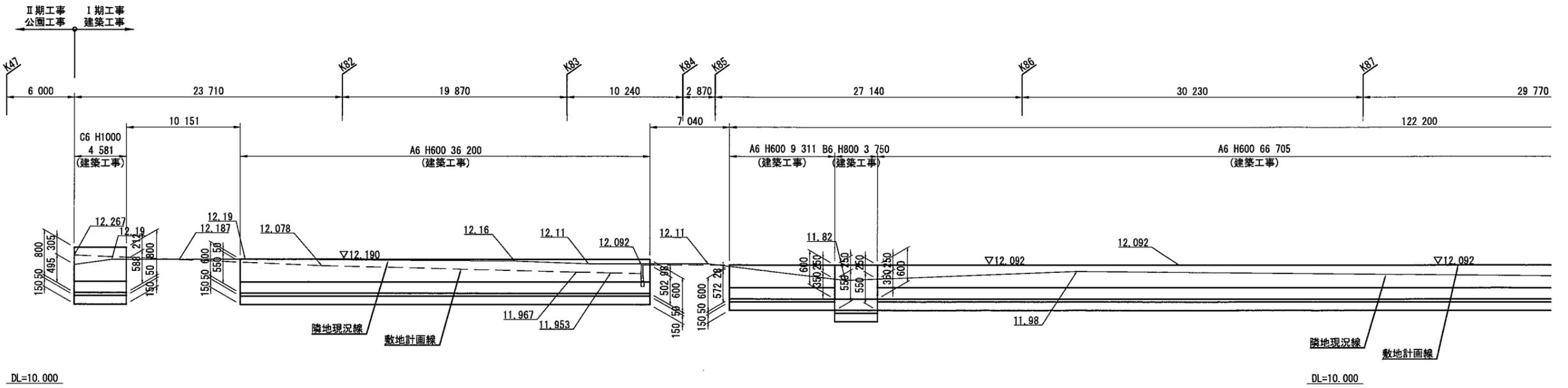


公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	擁壁平面図	L-28	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/400    A3: 1/800	2021年 1月	

# 擁壁展開図(2)

横S=1:400 縦S=1:80(A3)

管理棟東側



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	擁壁展開図(2)	L-30	建築
				縮尺	年月日	2021年1月
				A1: 横=200 縦=40	A3: 横=400 縦=80	

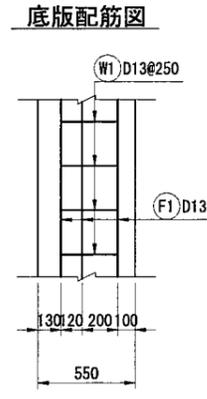
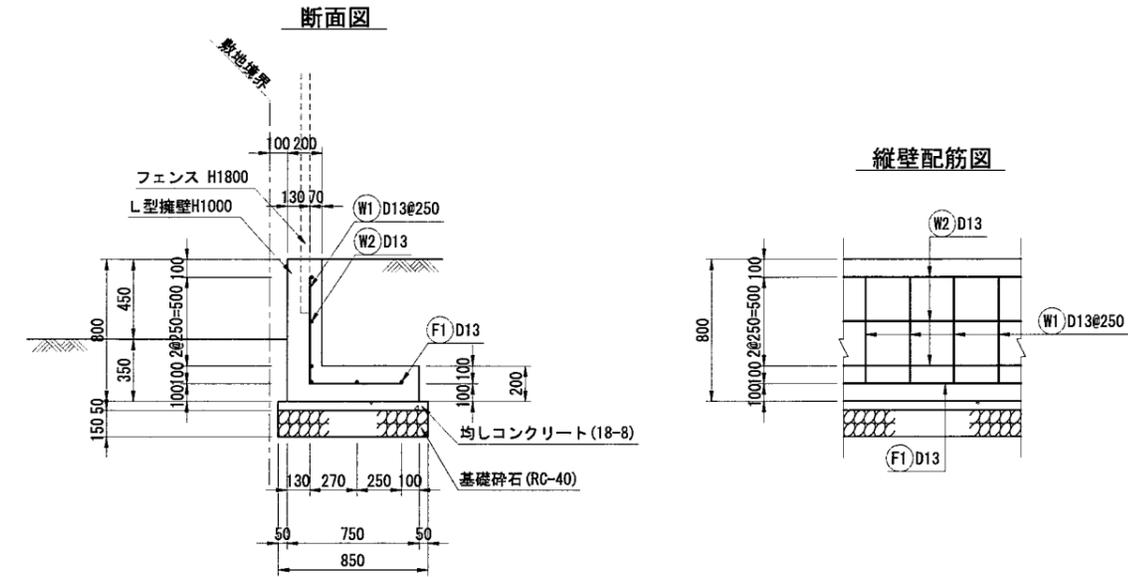
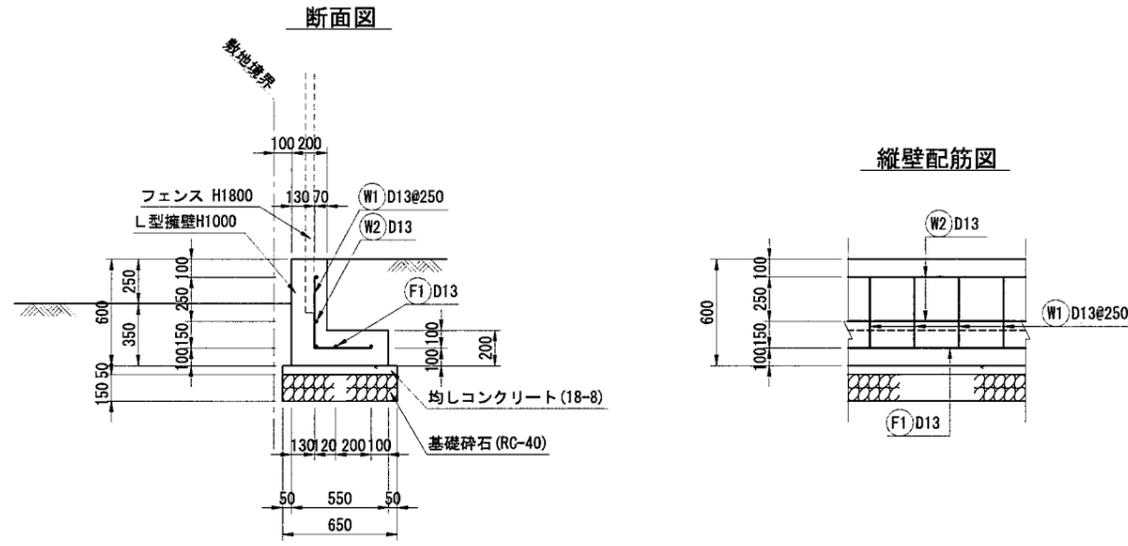
擁壁構造図(1)

L型擁壁 H600

S=1:40 (A3)

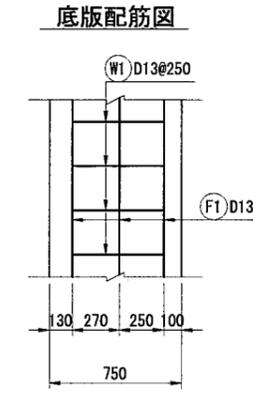
L型擁壁 H800

S=1:40 (A3)



L型擁壁 H=600 (10m当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
躯体、底板コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	1.900	
型枠		m <sup>2</sup>	12.000	
均しコンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.325	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
基礎碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	6.500	
目地	t=10	m <sup>2</sup>	0.190	10mに1箇所



L型擁壁 H=800 (10m当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
躯体、底板コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	2.700	
型枠		m <sup>2</sup>	16.000	
均しコンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.425	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
基礎碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	8.500	
目地	t=10	m <sup>2</sup>	0.270	10mに1箇所

鉄筋加工表・重量表 (1m当たり)

種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	720	400	320		0.995	0.716	2.864	L
W2	2	D13	2	1,000	1,000			0.995	0.995	1.990	—
F1	2	D13	3	1,000	1,000			0.995	0.995	2.985	—
									D13 計	7.839 kg	
									合計	7.839 kg	

鉄筋加工表・重量表 (1m当たり)

種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	1,120	600	520		0.995	1.114	4.456	L
W2	2	D13	3	1,000	1,000			0.995	0.995	2.985	—
F1	2	D13	3	1,000	1,000			0.995	0.995	2.985	—
									D13 計	10.426 kg	
									合計	10.426 kg	

※躯体、底板コンクリート：(24-8)  
※使用鉄筋：SD345

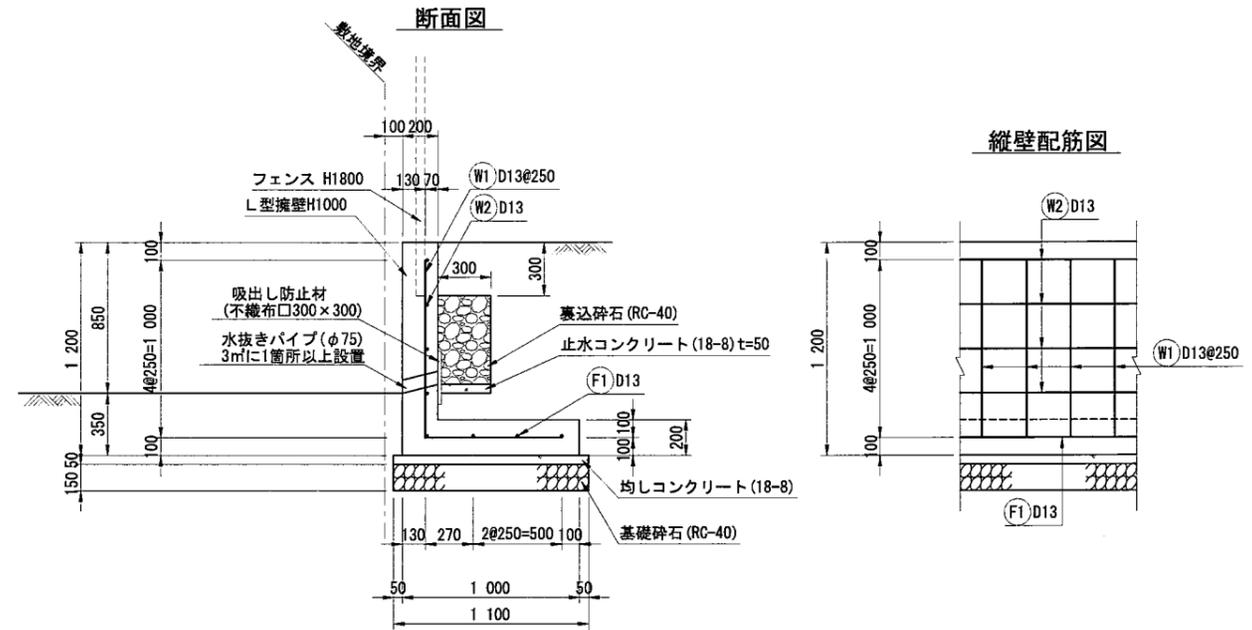
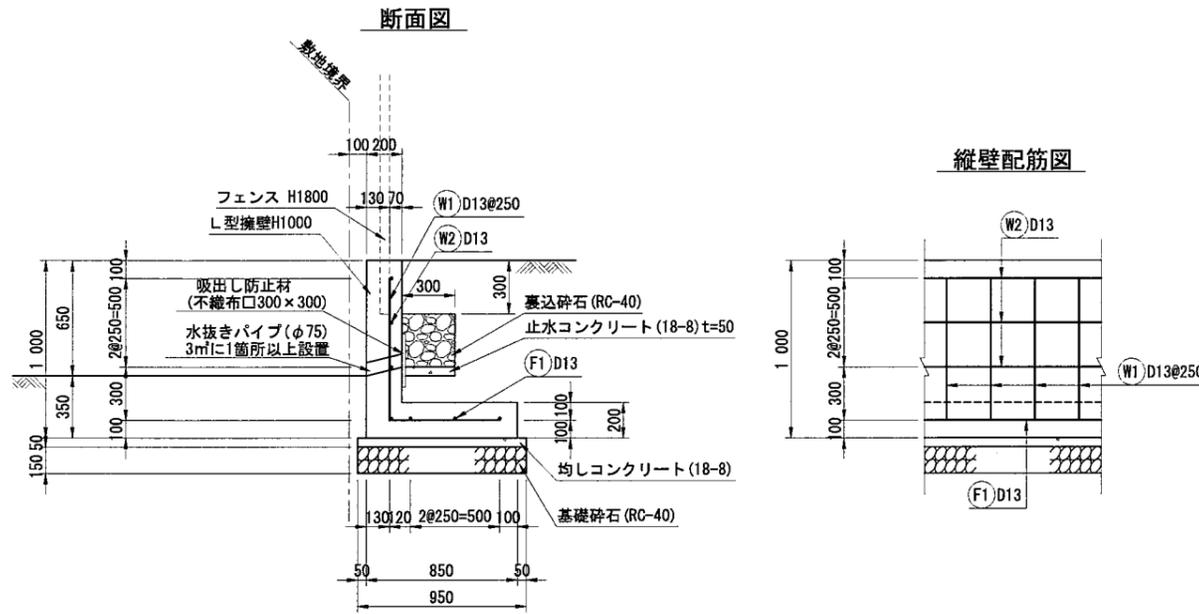
擁壁構造図(2)

L型擁壁 H1000

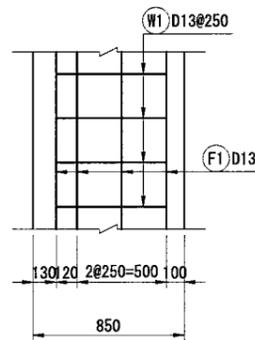
S=1:40 (A3)

L型擁壁 H1200

S=1:40 (A3)



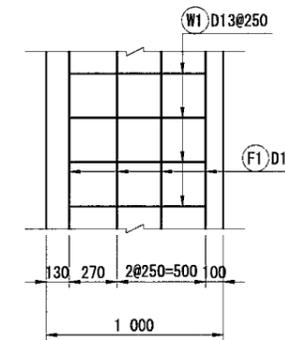
底板配筋図



L型擁壁 H=1000 (10m当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
躯体、底板コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	3.300	
型枠		m <sup>2</sup>	20.000	
均しコンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.475	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
基礎碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	9.500	
裏込碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	0.900	
止水コンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.150	
止水コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
水抜きパイプ	φ75	m	0.600	3m <sup>2</sup> に1箇所以上設置
吸出し防止材	不織布口300×300	m <sup>2</sup>	0.270	3m <sup>2</sup> に1箇所以上設置
目地	t=10	m <sup>2</sup>	0.330	10m <sup>2</sup> に1箇所

底板配筋図



L型擁壁 H=1200 (10m当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
躯体、底板コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	4.000	
型枠		m <sup>2</sup>	24.000	
均しコンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.550	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
基礎碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	11.000	
裏込碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	1.500	
止水コンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.150	
止水コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
水抜きパイプ	φ75	m	0.600	3m <sup>2</sup> に1箇所以上設置
吸出し防止材	不織布口300×300	m <sup>2</sup>	0.270	3m <sup>2</sup> に1箇所以上設置
目地	t=10	m <sup>2</sup>	0.400	10m <sup>2</sup> に1箇所

鉄筋加工表・重量表

(1m当たり)

種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	1,420	800	620		0.995	1.413	5.652	L
W2	2	D13	3	1,000	1,000			0.995	0.995	2.985	—
F1	2	D13	4	1,000	1,000			0.995	0.995	3.980	—
										D13 計	12.617 kg
										合計	12.617 kg

鉄筋加工表・重量表

(1m当たり)

種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	1,770	1,000	770		0.995	1.761	7.044	L
W2	2	D13	4	1,000	1,000			0.995	0.995	3.980	—
F1	2	D13	4	1,000	1,000			0.995	0.995	3.980	—
										D13 計	15.004 kg
										合計	15.004 kg

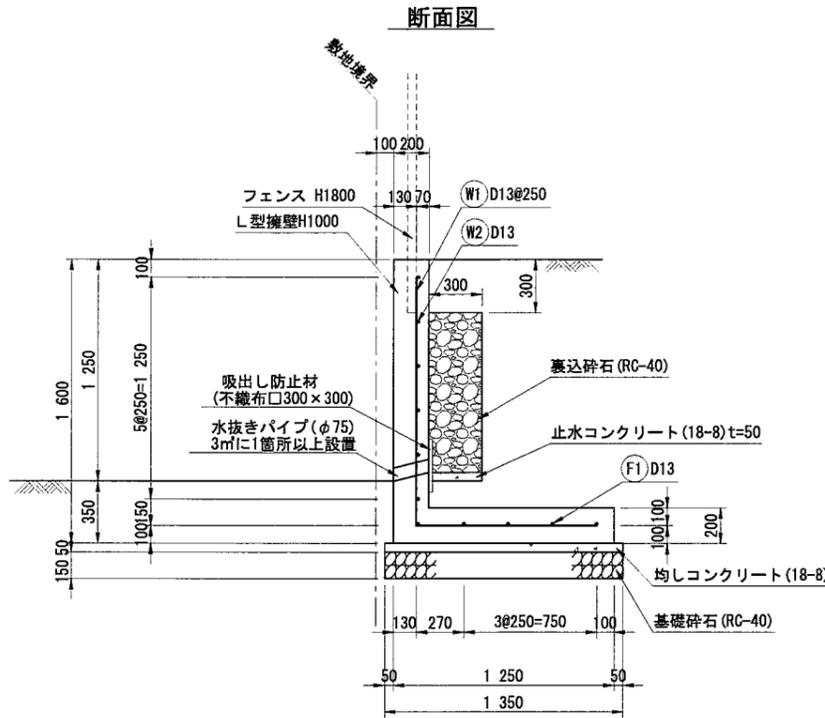
※躯体、底板コンクリート: (24-8)

※使用鉄筋: SD345

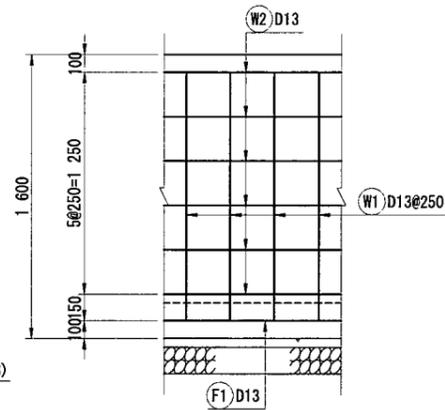
擁壁構造図(3)

L型擁壁 H1600

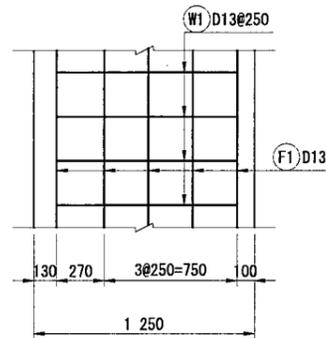
S=1:40 (A3)



縦壁配筋図



底板配筋図



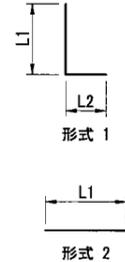
L型擁壁 H=1600 (10m当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
躯体、底板コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	5.300	
型枠		m <sup>2</sup>	32.000	
均しコンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.675	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
基礎碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	13.500	
裏込碎石	RC-40	m <sup>3</sup>	2.700	
止水コンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.150	
止水コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	1.000	
水抜きパイプ	φ75	m	1.000	3m以上に1箇所以上設置
吸出し防止材	不織布口300×300	m <sup>2</sup>	0.450	3m以上に1箇所以上設置
目地	t=10	m <sup>2</sup>	0.530	10mに1箇所

鉄筋加工表・重量表

(1m当たり)

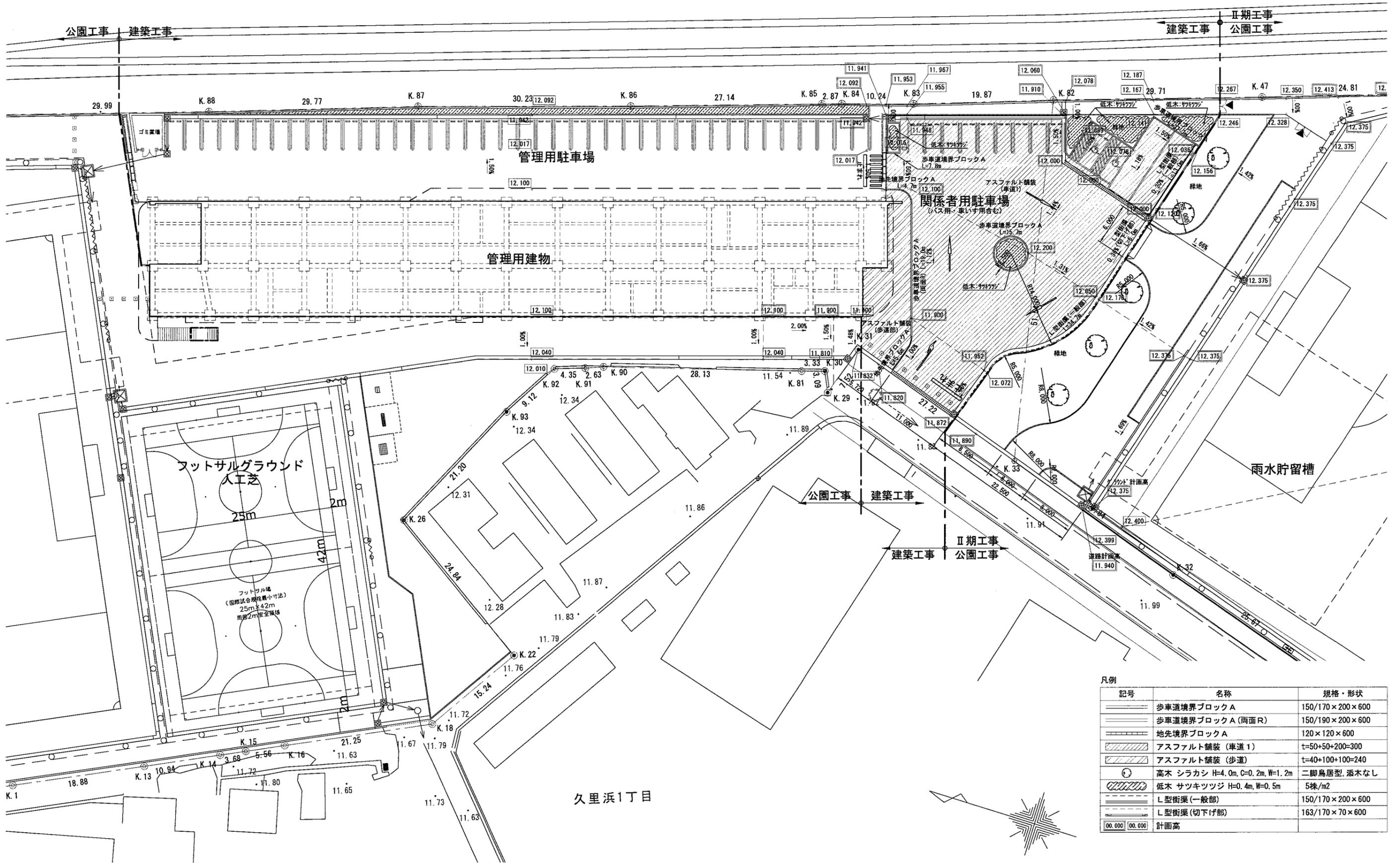
種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	2,420	1,400	1,020		0.995	2.408	9.632	L
W2	2	D13	6	1,000	1,000			0.995	0.995	5.970	—
F1	2	D13	5	1,000	1,000			0.995	0.995	4.975	—
D13 計										20.577 kg	
合計										20.577 kg	



※躯体、底板コンクリート: (24-8)  
※使用鉄筋: SD345

正面出入口付近詳細図

S=1:500 (A3)



凡例

記号	名称	規格・形状
	歩道境界ブロック A	150/170 x 200 x 600
	歩道境界ブロック A (両面 R)	150/190 x 200 x 600
	地先境界ブロック A	120 x 120 x 600
	アスファルト舗装 (車道 1)	t=50+50+200=300
	アスファルト舗装 (歩道)	t=40+100+100=240
	高木 シラカシ H=4.0m, C=0.2m, W=1.2m	二脚鳥居型, 添木なし
	低木 サツキツツジ H=0.4m, W=0.5m	5株/m <sup>2</sup>
	L型街渠 (一般部)	150/170 x 200 x 600
	L型街渠 (切下げ部)	163/170 x 70 x 600
	計面高	

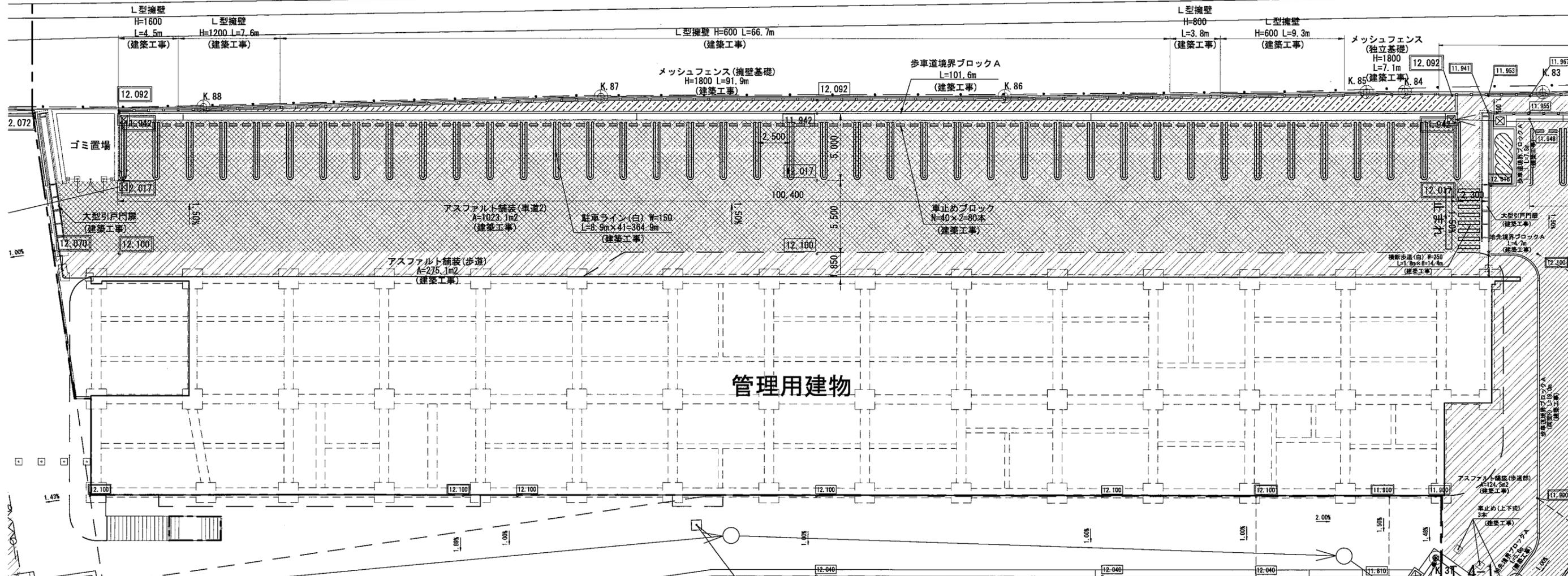
久里浜1丁目

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	正面出入口付近詳細図	L-34	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/250	A3: 1/500	2021年1月

駐車場詳細図(2)

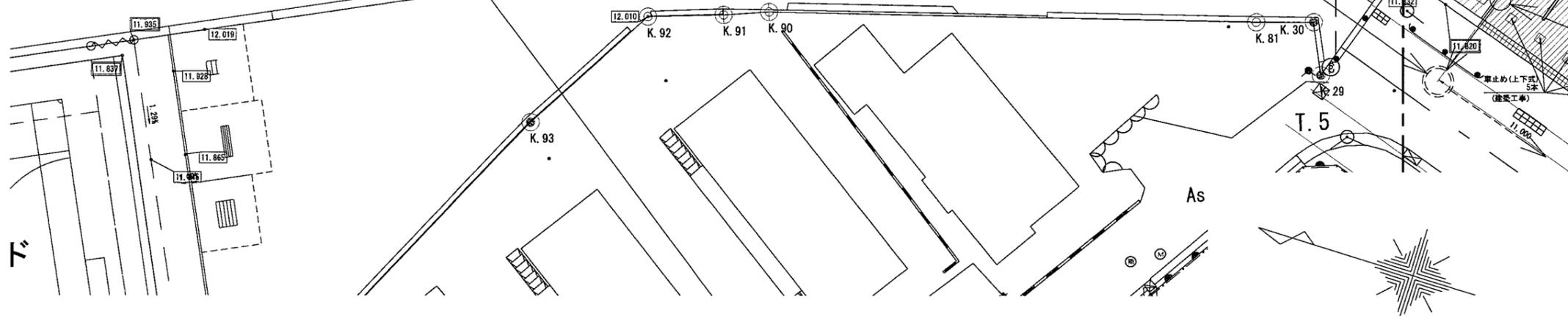
S=1:300 (A3)

建築工事



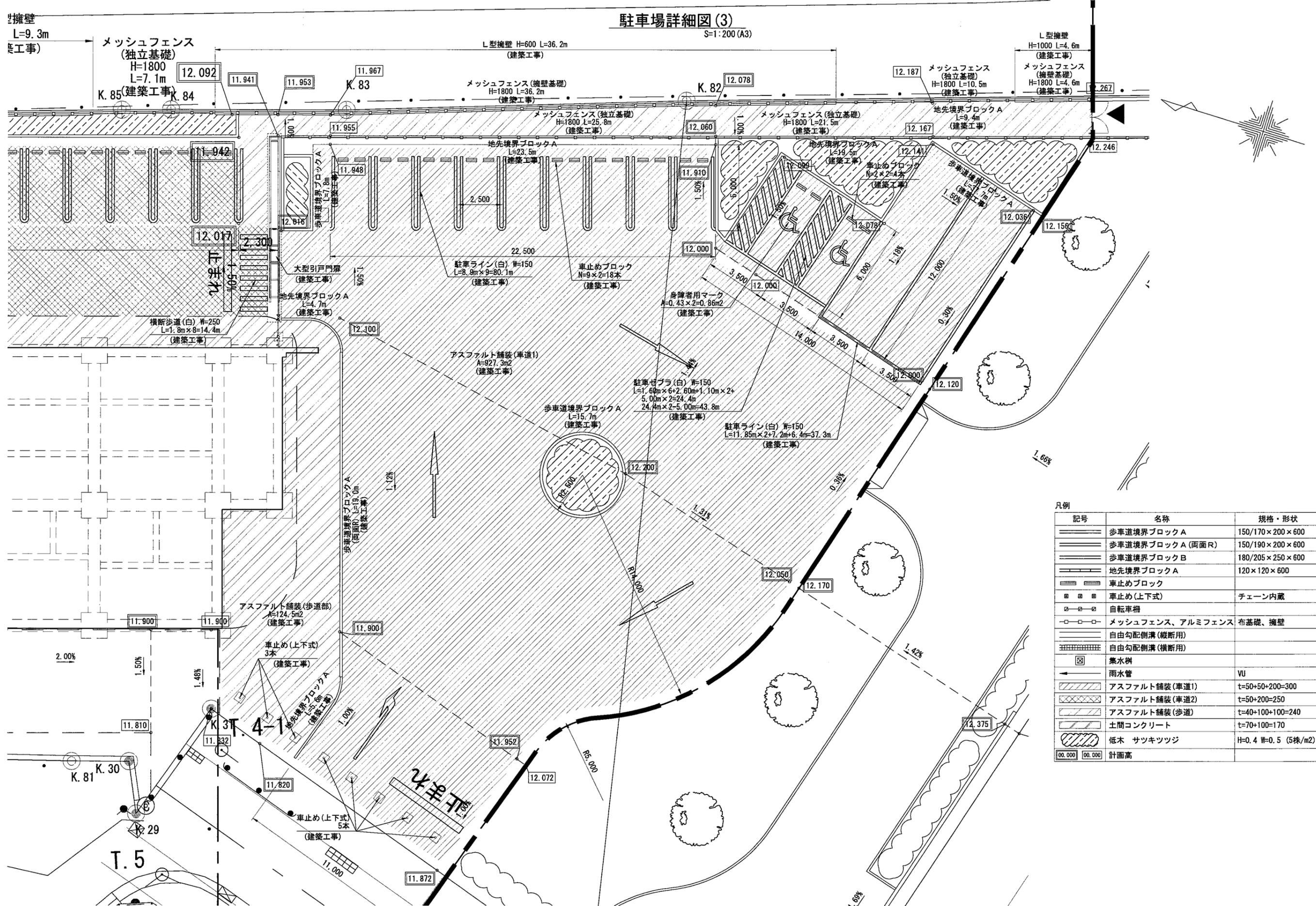
管理用建物

記号	名称	規格・形状
	歩車道境界ブロック A	150/170×200×600
	歩車道境界ブロック A (両面R)	150/190×200×600
	歩車道境界ブロック B	180/205×250×600
	地先境界ブロック A	120×120×600
	車止めブロック	
	車止め(上下式)	チェーン内蔵
	自転車柵	
	メッシュフェンス、アルミフェンス	布基礎、擁壁
	自由勾配側溝(縦断用)	
	自由勾配側溝(横断用)	
	集水樹	
	雨水管	VU
	アスファルト舗装(車道1)	t=50+50+200=300
	アスファルト舗装(車道2)	t=50+200=250
	アスファルト舗装(歩道)	t=40+100+100=240
	土間コンクリート	t=70+100=170
	高木 シラカシ	H=4.0 C=0.2 W=1.2
	低木 サツキツツジ	H=0.4 W=0.5 (5株/m <sup>2</sup> )
	計画高	



### 駐車場詳細図(3)

S=1:200 (A3)

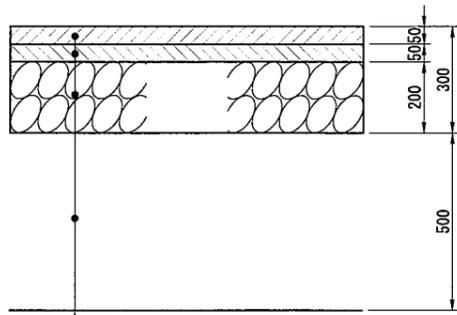


凡例

記号	名称	規格・形状
	歩車道境界ブロックA	150/170×200×600
	歩車道境界ブロックA (両面R)	150/190×200×600
	歩車道境界ブロックB	180/205×250×600
	地先境界ブロックA	120×120×600
	車止めブロック	
	車止め(上下式)	チェーン内蔵
	自転車棚	
	メッシュフェンス、アルミフェンス	布基礎、擁壁
	自由勾配側溝(縦断用)	
	自由勾配側溝(横断用)	
	集水樹	
	雨水管	VU
	アスファルト舗装(車道1)	t=50+50+200=300
	アスファルト舗装(車道2)	t=50+200=250
	アスファルト舗装(歩道)	t=40+100+100=240
	土間コンクリート	t=70+100=170
	低木 サツキツツジ	H=0.4 W=0.5 (5株/m2)
	計画高	

構造図(1)

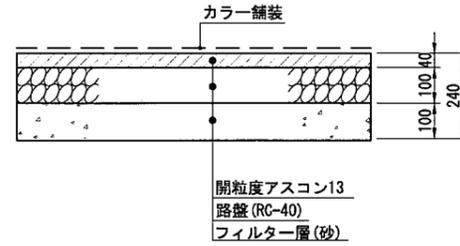
アスファルト舗装  
(車道1) S=1:20 (A3)



再生密粒度アスコン13  
再生粗粒度アスコン20  
路盤 (RC-40)  
路床改良 (添加材150kg/m<sup>3</sup>)

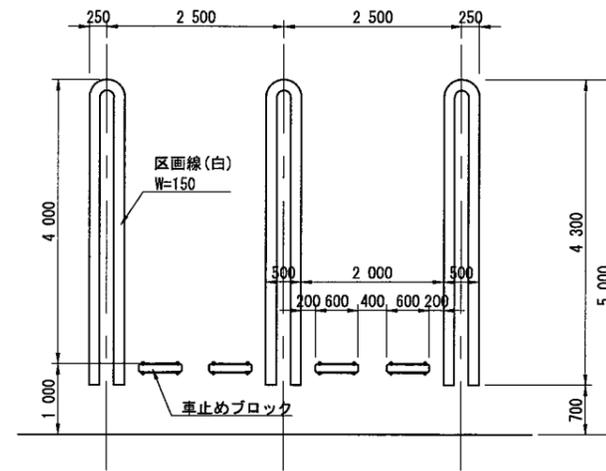
- 特記事項
- 路床及び路盤の転圧は、ローラー転圧を標準とする。
  - 路床の設計CBRは3%を標準とする。
  - 路床改良における改良材料及び添加量については、現地採取土による配合試験を実施し配合検討書を作成し監督員の承諾を得るものとする。

アスファルト舗装  
(歩道) S=1:20 (A3)

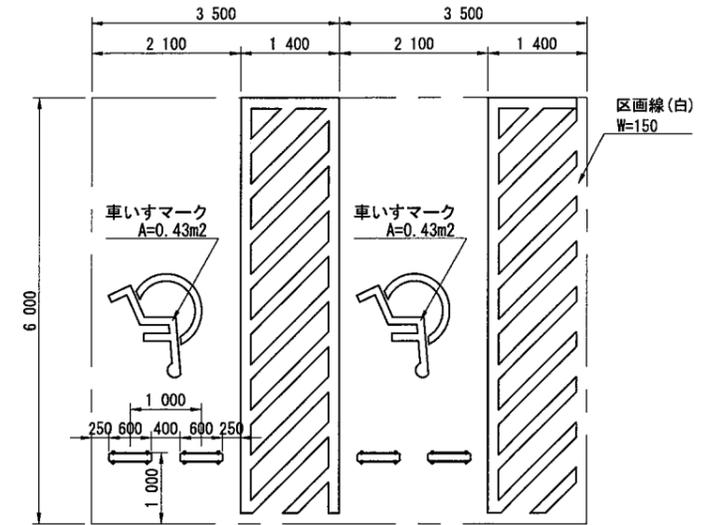


- カラー舗装  
開粒度アスコン13  
路盤 (RC-40)  
フィルター層 (砂)
- 特記事項
- 路床及び路盤の転圧は、ローラー転圧を標準とする。
  - 表面にカラー舗装を施す。
  - カラー舗装はポリエステル樹脂カラー塗装吹付け (1.0kg/m<sup>2</sup>) とする。

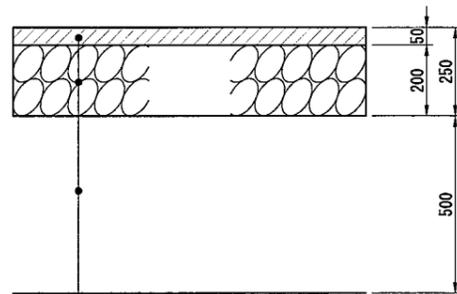
一般駐車場  
S=1:100 (A3)



車いす用駐車場  
S=1:100 (A3)



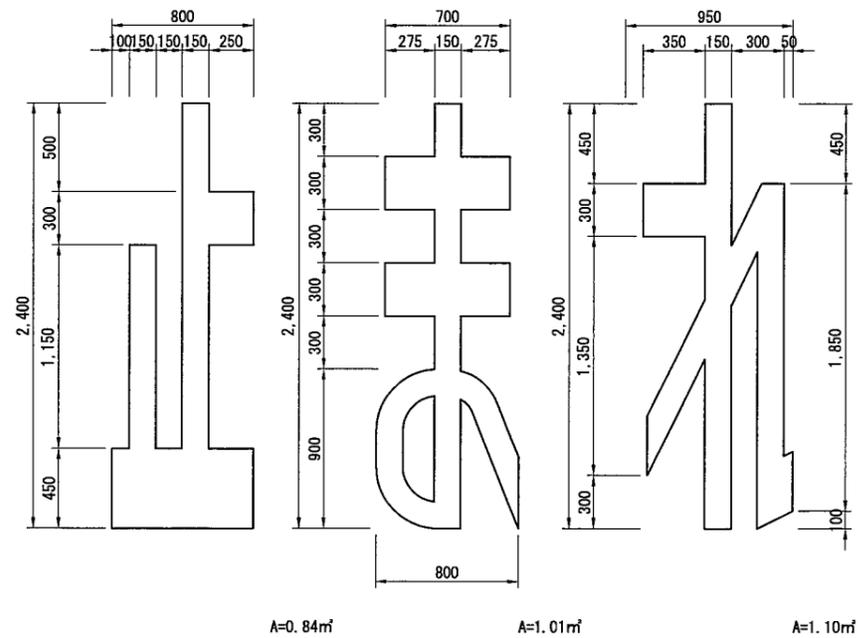
アスファルト舗装  
(車道2) S=1:20 (A3)



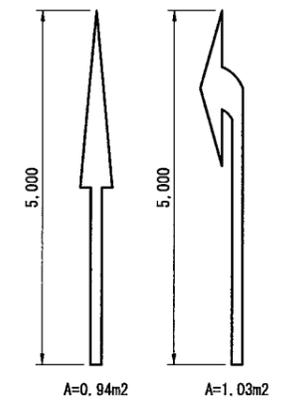
再生密粒度アスコン13  
路盤 (RC-40)  
路床改良 (添加材150kg/m<sup>3</sup>)

- 特記事項
- 路床及び路盤の転圧は、ローラー転圧を標準とする。
  - 路床の設計CBRは3%を標準とする。
  - 路床改良における改良材料及び添加量については、現地採取土による配合試験を実施し配合検討書を作成し監督員の承諾を得るものとする。

区画線・文字(止まれ)  
S=1:40 (A3)



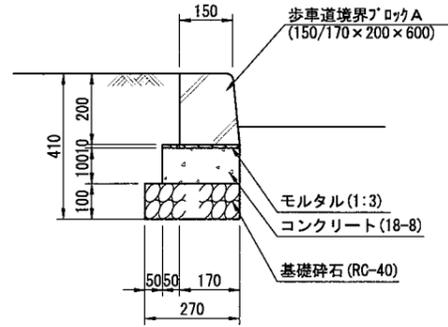
矢印(進行方向)  
S=1:100 (A3)



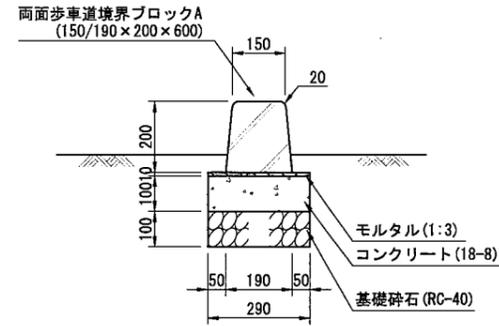
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	構造図(1)	L-38	建築
			縮尺	年月日		
			A1: 1/図示	2021年 1月		
			A3: 1/図示			

構造図(2)

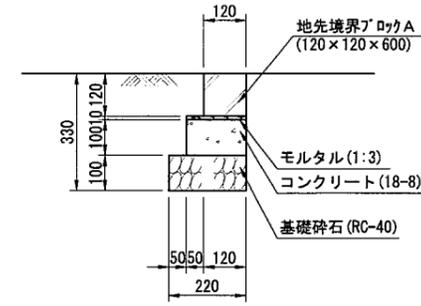
歩車道境界ブロックA  
S=1:20 (A3)



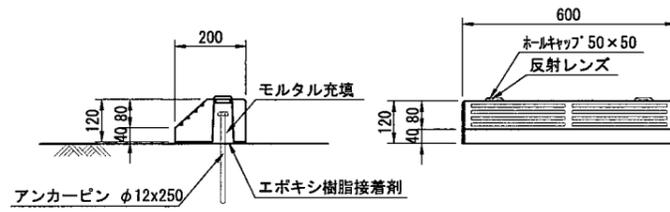
歩車道境界ブロックA  
(両面R) S=1:20 (A3)



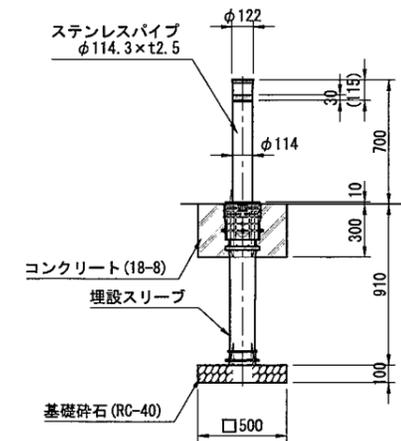
地先境界ブロック  
S=1:20 (A3)



車止めブロック  
S=1:20 (A3)



車止め(上下式・チェーン内蔵)  
S=1:40 (A3)



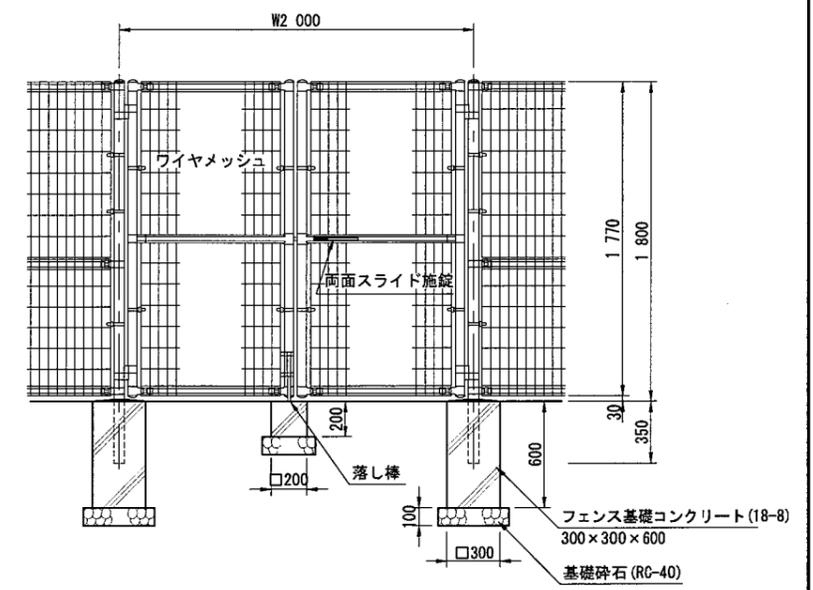
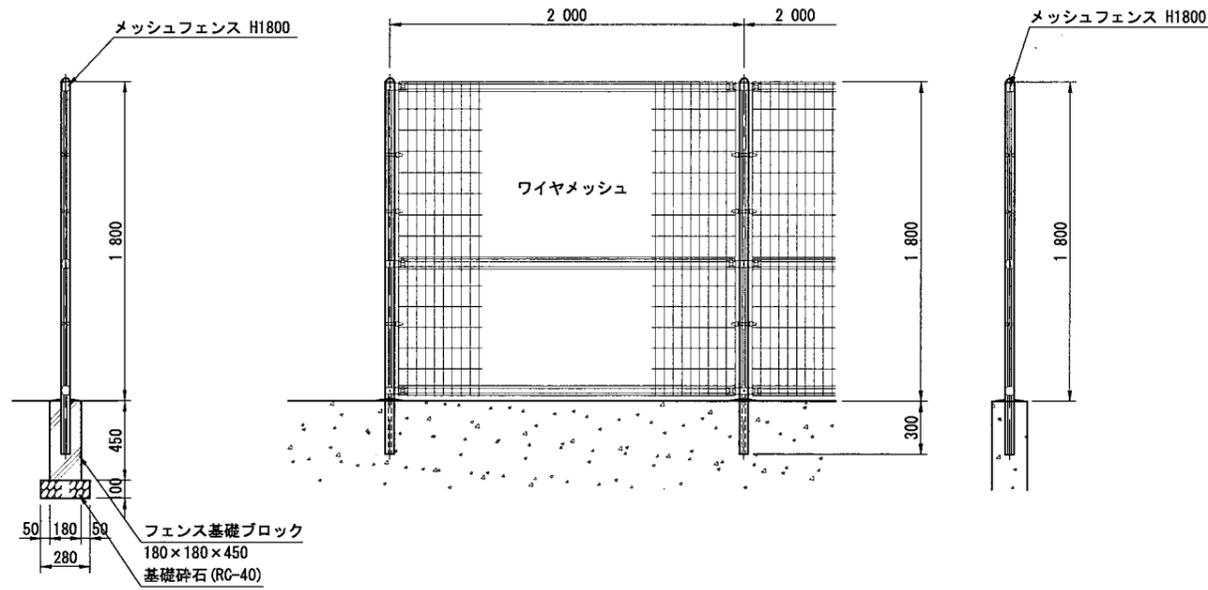
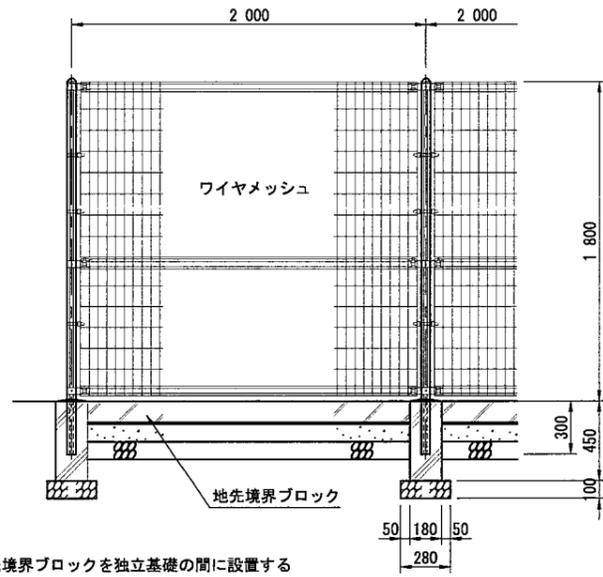
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	構造図(2)	L-39	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/図示	A3: 1/図示	2021年 1月

構造図(3)

メッシュフェンス  
(独立基礎 H=1800) S=1:40 (A3)

メッシュフェンス  
(擁壁基礎 H=1800) S=1:40 (A3)

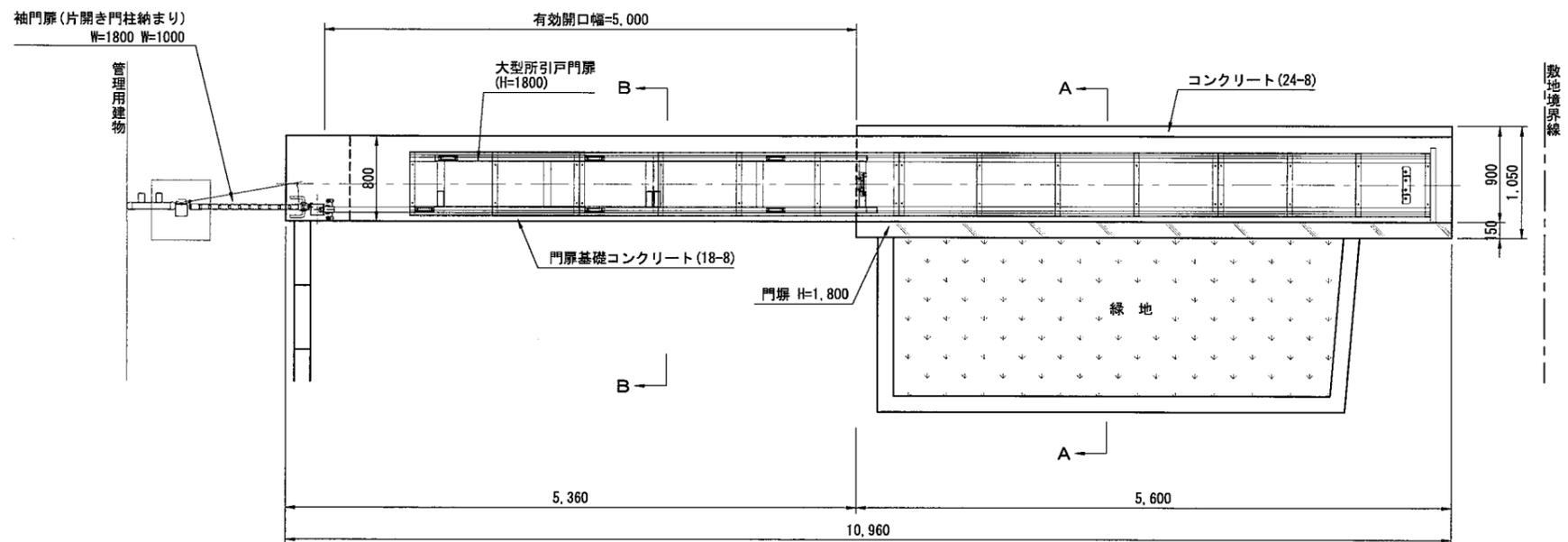
メッシュフェンス両開き門扉  
(H=1800 W=2000) S=1:40 (A3)



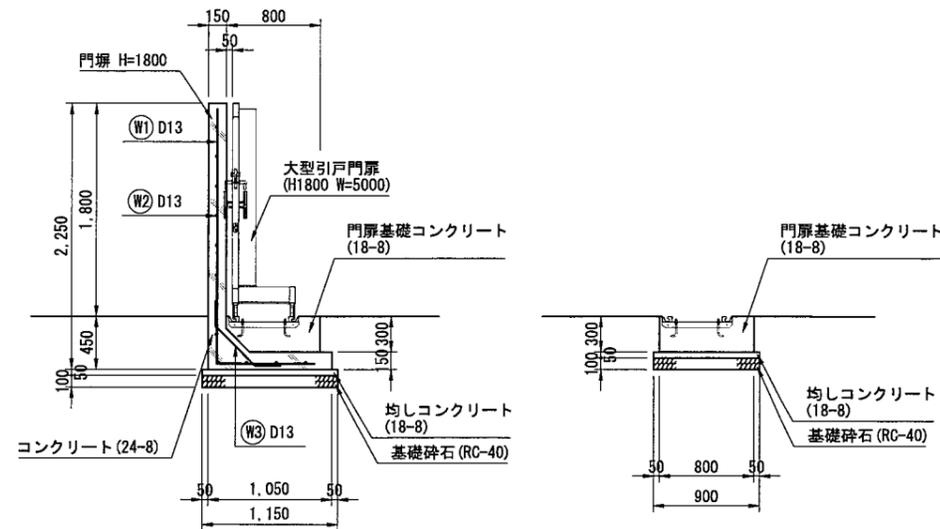
公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	構造図(3)	L-40	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/図示	A3: 1/図示	2021年 1月

門扉基礎詳細図(1)  
S=1:60 (A3)

平面図

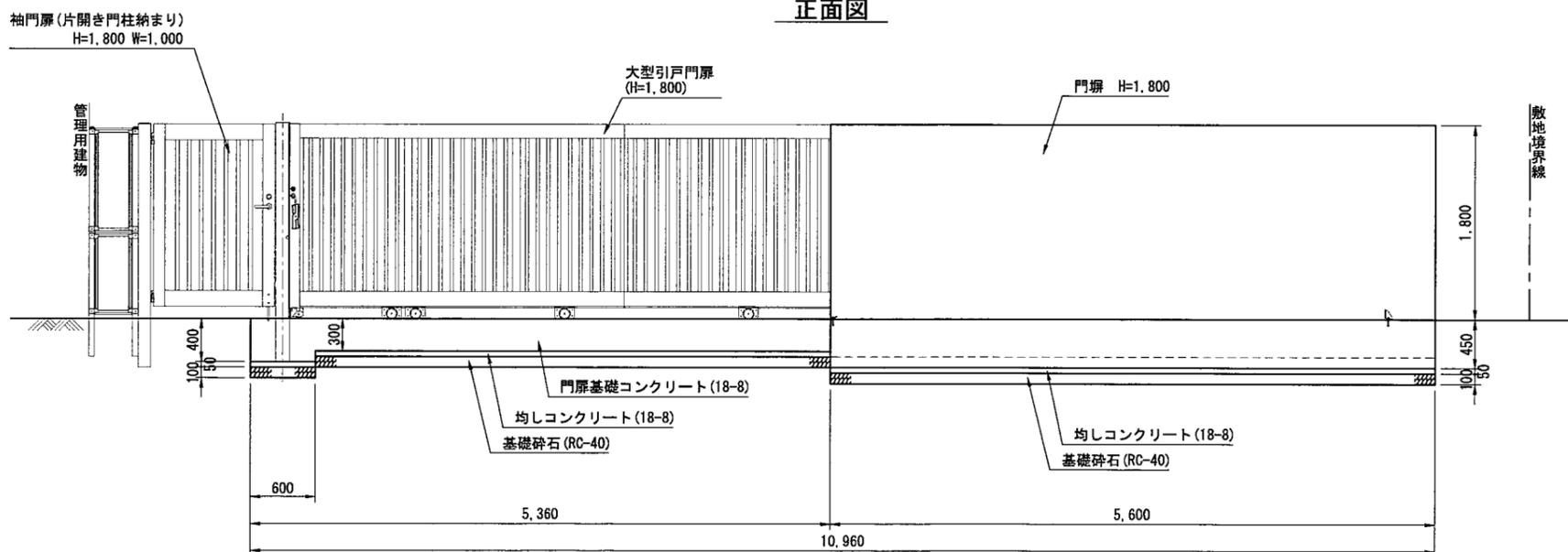


A-A断面



B-B断面

正面図



門扉 H=1800 W=1050 L=5600 (1箇所あたり)

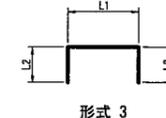
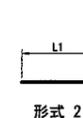
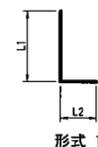
品名	形状寸法	単位	数量	摘要
コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	2.758	H=1800 W=1050
コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	25.200	
鉄筋	D13	kg	163.822	
均しコンクリート	18-8 t=50	m <sup>3</sup>	0.322	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	0.560	
基礎砕石	RC-40 t=100	m <sup>3</sup>	6.440	

鉄筋加工表・重量表 (1mあたり)

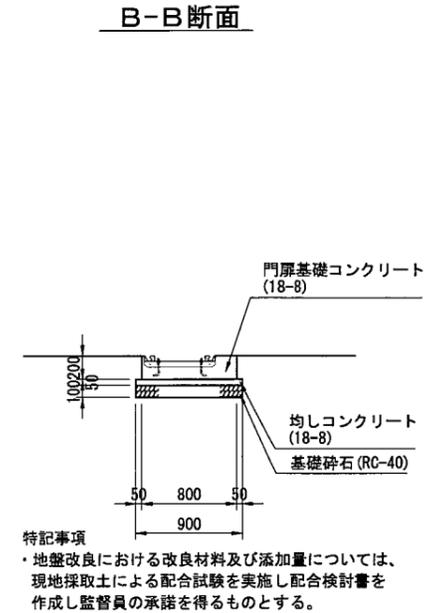
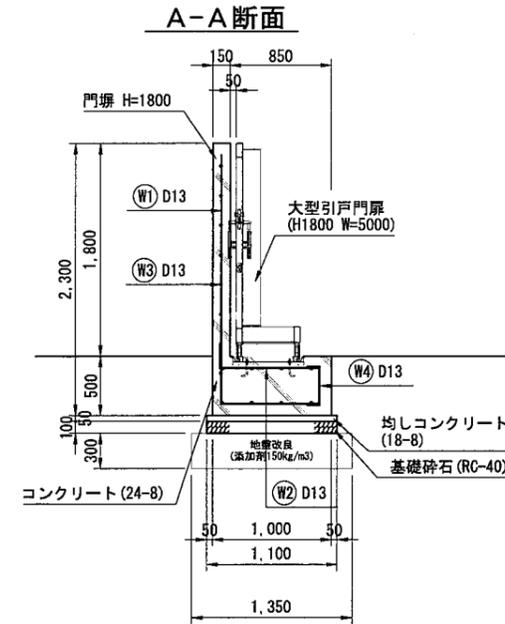
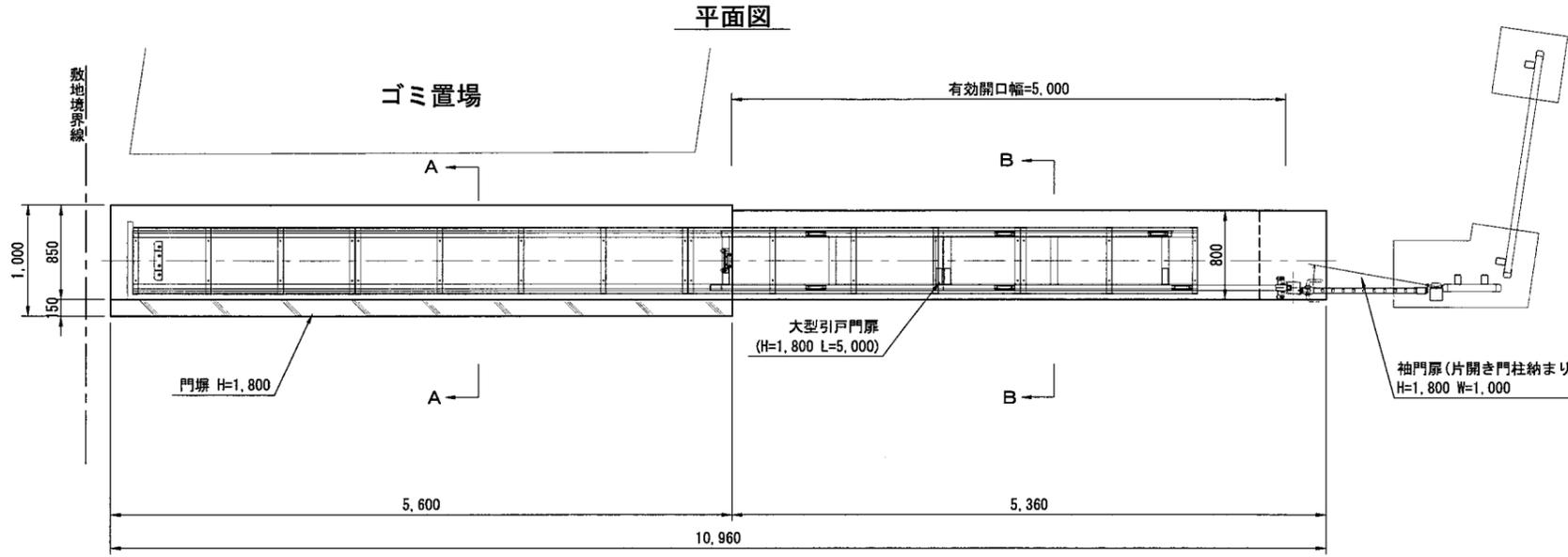
種別	形式	径	本数	長さ(mm)	L1(mm)	L2(mm)	L3(mm)	単位重量(kg/m)	1本当り重量(kg)	質量(kg)	摘要
W1	1	D13	4	2,975	2,150	825		0.995	2.960	11.840	L
W2	2	D13	14	1,000	1,000			0.995	0.995	13.930	—
W3	3	D13	4	870	200	470		0.995	0.866	3.464	□
										D13 計	29.234 kg
										合計	29.234 kg

門扉基礎 W=800 L=10960 (1箇所あたり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
門扉基礎コンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	2.678	W=800 L=10960
門扉基礎コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	7.256	
均しコンクリート	18-8 t=50	m <sup>3</sup>	0.241	
コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	0.536	
基礎砕石	RC-40 t=100	m <sup>3</sup>	4.824	



門扉基礎詳細図(2)  
S=1:60(A3)



特記事項  
・地盤改良における改良材料及び添加量については、現地採取土による配合試験を実施し配合検討書を作成し監督員の承認を得るものとする。

門扉 H=1800 W=1000 L=5600 (1箇所当たり)

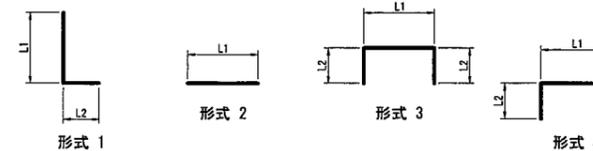
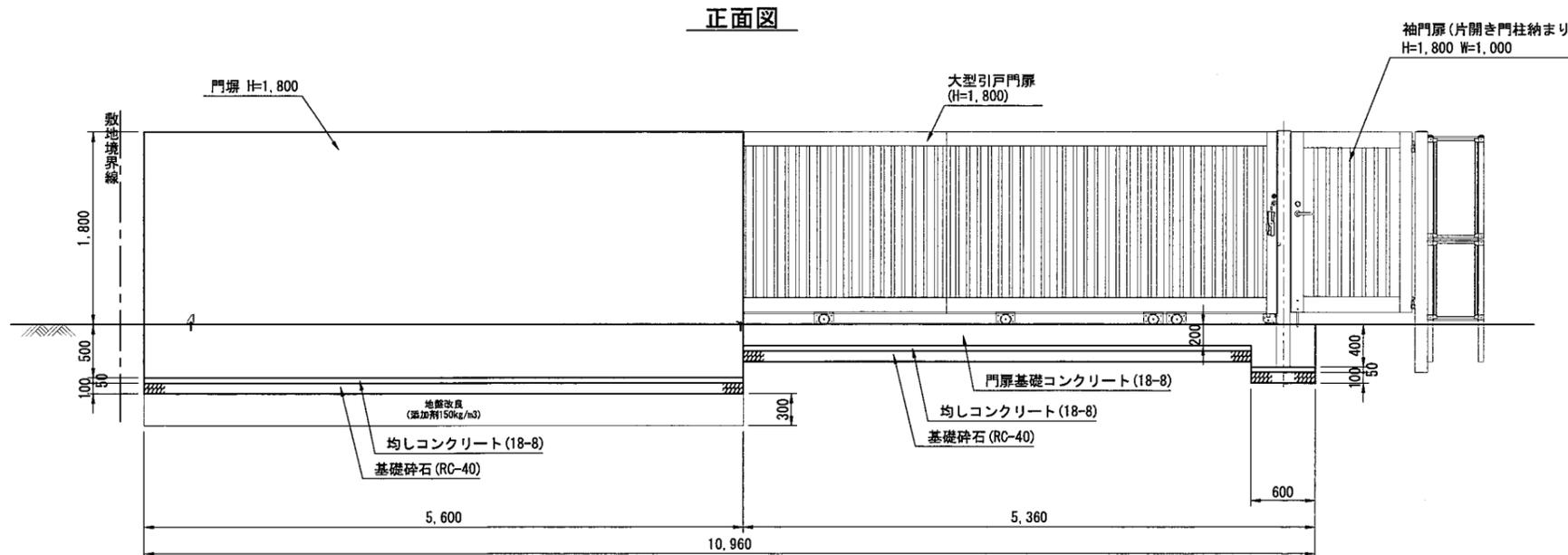
品名	形状寸法	単位	数量	摘要
コンクリート	24-8	m <sup>3</sup>	4.312	H=1800 W=1000
コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	25.760	
鉄筋	D13	kg	188.563	
均しコンクリート	18-8 t=50	m <sup>2</sup>	0.308	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	0.670	
基礎砕石	RC-40 t=100	m <sup>2</sup>	6.160	
地盤改良	添加剤150kg/m <sup>3</sup> t=300	m <sup>2</sup>	7.560	

鉄筋加工表・重量表 (1m当たり)

種別	形式	径	本数	長さ (mm)	L1 (mm)	L2 (mm)	L3 (mm)	単位重量 (kg/m)	1本当り重量 (kg)	質量 (kg)	摘要
W1	1	D13	4	2,930	2,100	825		0.995	2.915	11.660	L
W2	4	D13	4	1,030	825	200		0.995	1.025	4.100	┌
W3	2	D13	16	1,000	1,000			0.995	0.995	15.920	—
W4	3	D13	4	500	100	300		0.995	0.498	1.992	└
										D13 計	33.672 kg
										合計	33.672 kg

門扉基礎 W=800 L=10960 (1箇所当たり)

品名	形状寸法	単位	数量	摘要
門扉基礎コンクリート	18-8	m <sup>3</sup>	0.954	W=800 L=10960
門扉基礎コンクリート型枠		m <sup>2</sup>	2.864	
均しコンクリート	18-8 t=50	m <sup>2</sup>	0.24	
均しコンクリート型枠		m <sup>2</sup>	0.536	
基礎砕石	RC-40 t=100	m <sup>2</sup>	4.824	

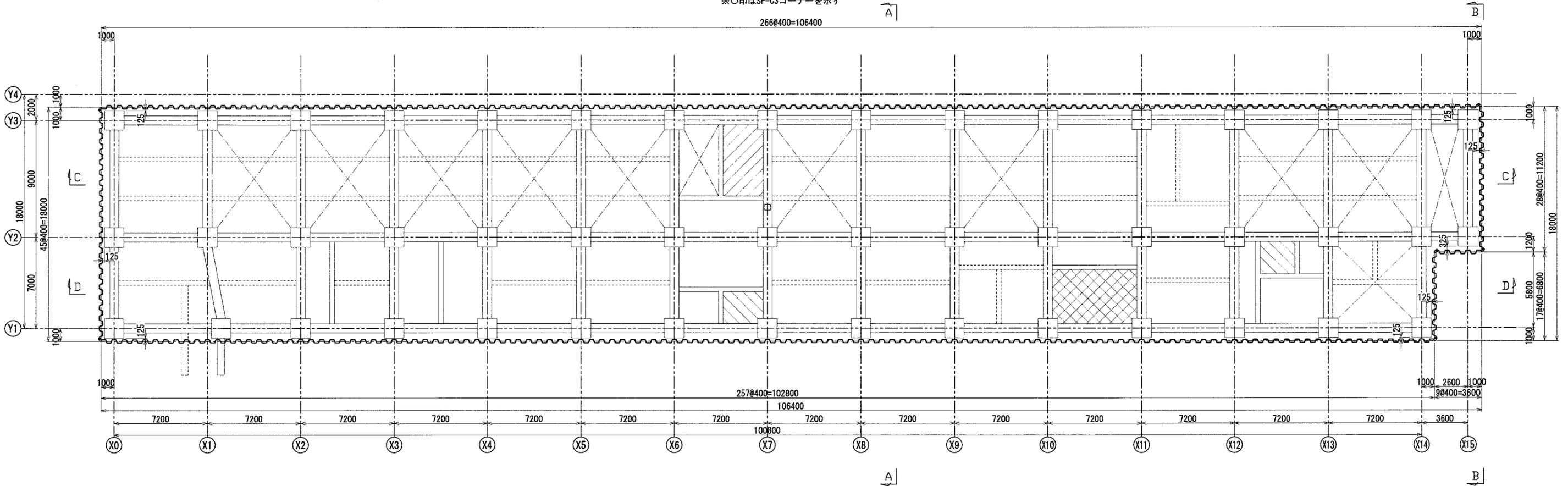


# 山留計画図(1)

## [管理棟]

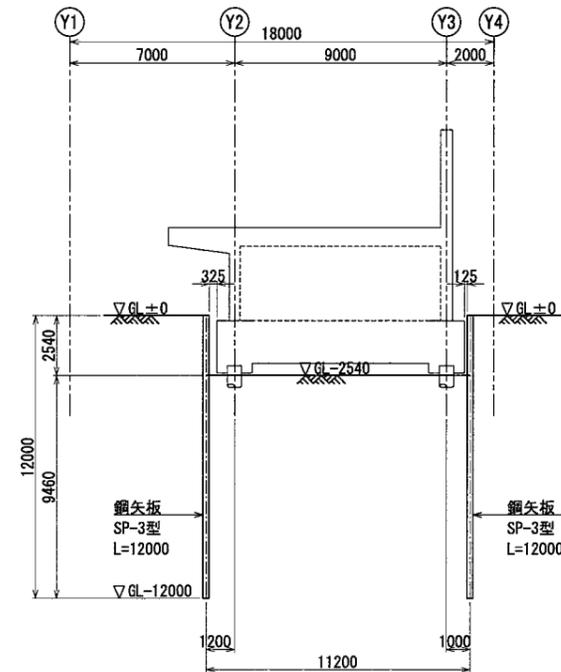
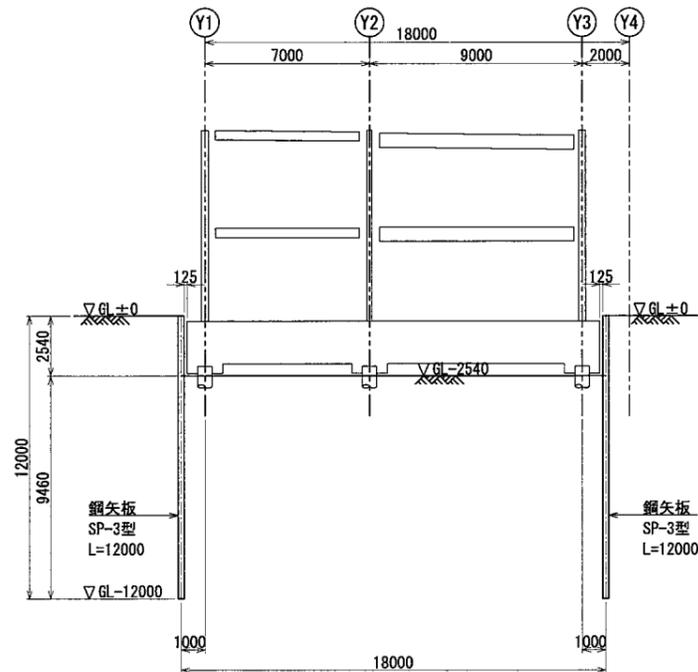
平面図 S=1:150  
 ※○印はSP-G3コーナーを示す

266@400=106400



A-A断面図 S=1:150

B-B断面図 S=1:150



山留壁材料表

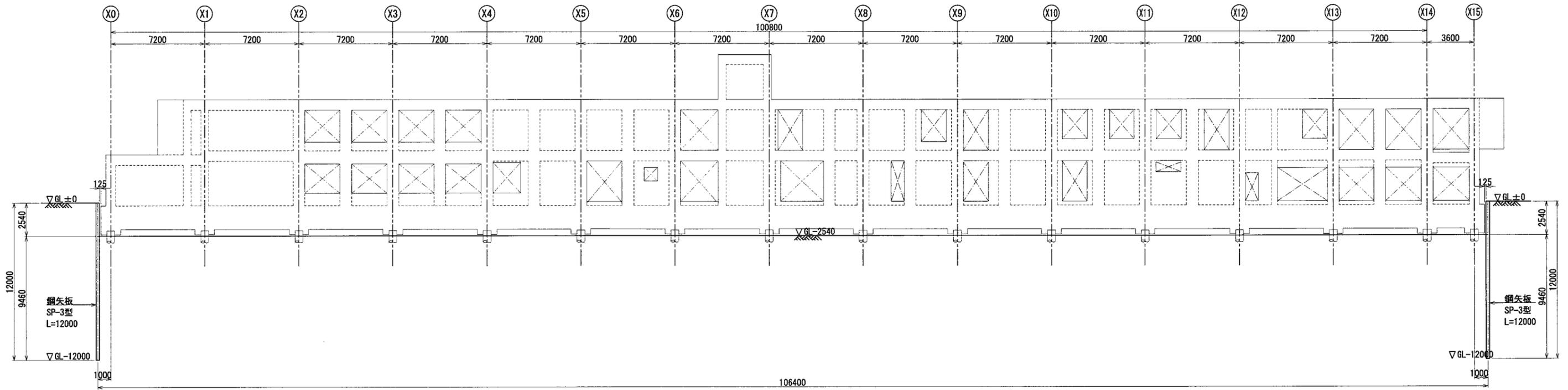
鋼矢板	杭天端		枚数	
	SP-3型	L=12000	GL±0	n=616枚
	SP-G3コーナー	L=12000	GL±0	n=6枚

※水替え：釜場工法(4カ所)水中モーターポンプ 口径150mm据付・撤去、塩ビ送水ホース100φ共、発電機25kVA  
 釜場2.0×1.0×h1.0 釜場用横矢板設置・撤去

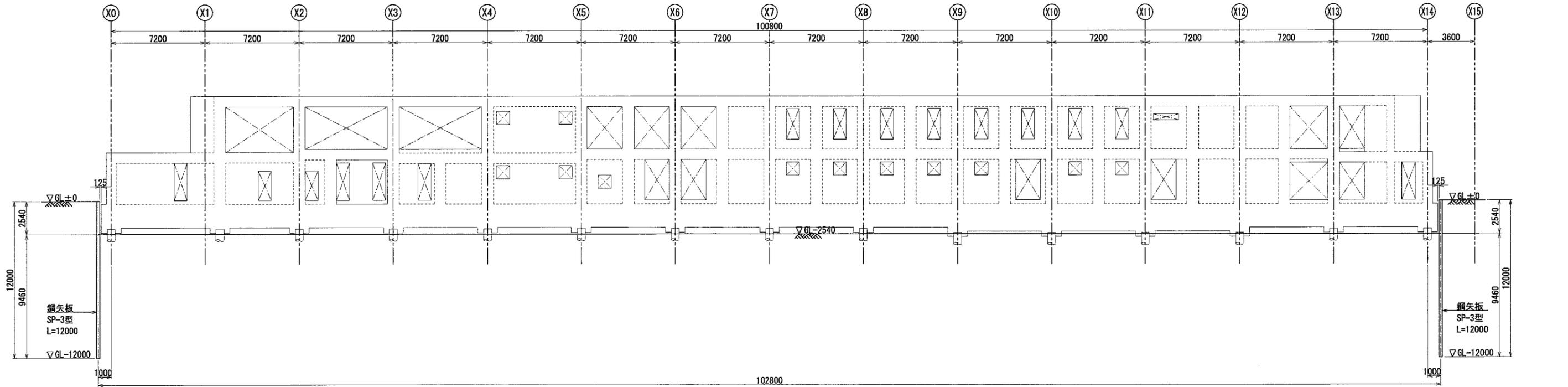
【特記事項】  
 入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第一条にいう設計図書ではない。  
 したがって「参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、請負者は施工条件、地質条件等を十分に考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について請負者の責任において定めるものとするが、本図と著しく異なる場合には、監督職員との協議の上、契約変更の処置を講ずることがある。

# 山留計画図(2) [管理棟]

C-C断面図 S=1:150



D-D断面図 S=1:150



山留壁材料表

			杭天端	枚数
鋼矢板	SP-3型	L=12000	GL±0	n=616枚
	SP-C3コーナー	L=12000	GL±0	n= 6枚

【特記事項】  
入札参加者の適正かつ迅速な見積りに資するための資料であり、契約書第一条にいう設計図書ではない。  
したがって「参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、請負者は施工条件、地質条件等を十分に考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について請負者の責任において定めるものとするが、本図と著しく異なる場合には、監督職員との協議の上、契約変更の処置を講ずることがある。

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	(参考)山留計画図-管理棟(2)	0-02	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/150	A3: 1/300	2021年 1月

# 久里浜 1 丁目公園管理用建物その他新築工事 構造図リスト

図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺	図面番号	図面名称	縮尺
S - 000	図面リスト (構造)	—	S - 011	2階 床伏図、R階 床伏図	A1:1/200, A3:1/400			
			S - 012	軸組図 (1)	A1:1/200, A3:1/400			
SS - 001	構造特記仕様書 (1)	—	S - 013	軸組図 (2)	A1:1/200, A3:1/400			
SS - 002	構造特記仕様書 (2)	—	S - 014	軸組図 (3)	A1:1/200, A3:1/400			
SS - 003	構造特記仕様書 (3)	—	S - 015	杭、基礎断面リスト	A1:1/50, A3:1/100			
SS - 004	構造特記仕様書 (4)	—	S - 016	基礎梁断面リスト	A1:1/40, A3:1/80			
SS - 005	構造特記仕様書 (5)	—	S - 017	柱芯線図	A1:1/100, 50, A3:1/200, 100			
			S - 018	RC柱断面リスト、RC大梁断面リスト	A1:1/40, A3:1/80			
			S - 019	鉄骨柱断面リスト、鉄骨小梁断面リスト	A1:1/20, A3:1/40			
			S - 020	RC小梁断面表、壁断面表	A1:1/40, A3:1/80			
S - 001	一般事項	A1:1/200, A3:1/400	S - 021	床スラブ断面リスト	A1:1/40, A3:1/80			
S - 002	積載荷重表	A1:1/300, A3:1/600	S - 022	配筋詳細図	A1:1/50, A3:1/100			
S - 003	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)	—	S - 023	鉄骨階段詳細図 (1)	A1:1/30, A3:1/60			
S - 004	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)	—	S - 024	鉄骨階段詳細図 (2)、鉄骨詳細図	A1:1/30, A3:1/60			
S - 005	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)	—	S - 025	梁貫通孔補強要領図	—			
S - 006	鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (4)	—	S - 026	スタンド詳細図	A1:1/30, A3:1/60			
S - 007	溶接継手形式と溶接形	—	S - 027	ゴミ庫詳細図	A1:1/30, 50, A3:1/60, 100			
S - 008	鉄骨工作標準図	—						
S - 009	杭伏図、基礎伏図	A1:1/200, A3:1/400	S - 参01	土質柱状図	A1:1/200, A3:1/400			
S - 010	1階 床伏図	A1:1/200, A3:1/400						

	担当 公共建築課長	主査等	担当者	工事名 久里浜 1 丁目公園管理用建物その他新築工事	図面名 図面リスト (構造)	図面番号 S - 00	区分 建築
管理番号 9BJ120E91					縮尺 A1: 1/      A3: 1/	年月日 2021年 1月	



●5.1.3 配筋検査

1節 共通事項

【追記】
受注者は全数配筋検査を行い、記録を作成の上、監理者に提出して承諾を得る。
【追加】
(1) 配筋検査項目
1) 鉄筋の種類、径、本数、鉄筋間隔
2) 折曲げ寸法、余長、フック
3) 鉄筋のあき、かぶり厚さ
4) 定着・継手・カットオフの位置、長さ
5) 補助筋の有無、差し筋の位置、定着・突出長さ
6) スペーサー及びバーサポートの材質、配置、数量
7) ガス圧接継手の抜取検査（外観及び超音波探傷試験又は引張試験）
8) 機械式継手等の試験（評定・評価取得条件による）
9) 開口補強筋（設備貫通・埋設管等の位置・補強要領）
10) 鉄筋・型枠の錆、汚れ
【追加】
(2) 監理者の立会い
1) 検査の結果、不合格となった配筋は補正して記録を監理者に提出する。
2) 監理者は配筋状態を確認するため、適時に抽出検査を行う。

2節 材料

鉄筋の種類は、構造図による。
種類は下記により、鉄線の形状、網目寸法及び鉄線の径は、構造図による。
●溶接金網（壁開口補強）
●鉄筋格子（押えコンなどスラブのひび割れ対策）
【追加】
(1) 材料試験の要否は、下記による。
○要 \*否
但し、材料試験を行わない場合においても、鋼材検査証明書を提出する。
【追加】
(2) 材料試験の試験項目、試験方法等は、下記による。

Table with 4 columns: 試験項目, 試験方法, 試験対象, 試験対象鉄筋径. Rows include 鉄筋 (形状、寸法、質量, 化学成分, 降伏点または耐力、引張強度、伸び, 曲げ, 圧接性) and 溶接金網 鉄筋格子 (形状、寸法, 引張強度・絞り・曲げ, 溶接点せん断強度).

3節 加工及び組立

【追加】
(5) 以下の箇所について施工前に配筋図を作成し、監理者に提出して承諾を得る。
●杭頭定着筋と基礎梁の接合部 (部位: )
●柱梁接合部周り (部位: )
○鉄骨柱下部 (部位: )
○免震装置接合部 (部位: )
○PC定着具周り (部位: )
●床段差部配筋詳細
(3) 90°未満の折曲げの内法直径は、構造図による。
【追加】
(4) 鉄筋の加工寸法の許容差は、(社)日本建築学会「JASS5 鉄筋コンクリート工事」10.4「鉄筋の加工」による。
【追加】
(1) スペーサーに関する注意事項
スペーサーは、(社)日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」5章「バーサポート・スペーサー」を参考に、配筋重量等を考慮の上、配置・数量を決定する。鋼製のバーサポート・スペーサーは、かぶり厚さ範囲に防錆処理を行ったものとする。プラスチック製円形スペーサーは原則として縦使いとする。スペーサーのサイズは、ふかし厚さを含めた所定のかぶり厚さを確保できるよう適切に選定する。
【追加】
(2) 組立に関する注意事項
コンクリート打設完了まで所定の鉄筋位置が保持されるように、結束線やスペーサーに加え、隣接工区の先行配筋や段取り筋の設置を適切に行うこと。なお、鉄筋の台直しは原則として行わない。やむを得ず台直しを行う場合は、監理者と協議を行い、鉄筋まわりのコンクリートをはつり取り、勾配が1/6以下の出来るだけ長い距離の間で修正する。

●5.3.1 加工及び組立一般

●5.3.2 加工

●5.3.3 組立

●5.3.4 継手及び定着

(1) 鉄筋の継手は原則として、下記による。
種別 適用部位
\*重ね継手 D16以下(適用部位)
\*ガス圧接継手 D19以上(適用部位)
但し、下記の部位は除く
\*開口補強筋 \*壁筋 \*基礎スラブ筋 \*杭主筋 ○隔壁
○機械式継手 (適用部位)
○溶接継手 (適用部位)
(2) 鉄筋の継手位置は構造図による
(3) (7) 柱及び梁の主筋の重ね継手長さ
○標仕(表5.3.2)による
\*構造図による
耐力壁の鉄筋の重ね継手長さ
\*40d(軽量コンクリートの場合は50d)又は標仕(表5.3.2)のうちいずれか大きい値
○構造図による
(4) (7) 以外の鉄筋の重ね継手長さは、下記による。
○標仕(表5.3.2)による
\*構造図による
(4) 柱及び梁の主筋のうち、隣り合う継手を同一箇所に設ける部位
●なし
○あり(継手位置: ○構造図による ○ )
(5) (7) 柱に取り付ける梁の引張り鉄筋の定着長さは、下記による。
○標仕(表5.3.4)による
\*構造図による
(4) (7) 以外の鉄筋の定着長さは、下記による。
○標仕(表5.3.4)による
\*構造図による
【追加】
(4) 機械式定着工法
適用の可否は下記による。
○可(適用部位: ) ●否
機械式定着の工法は評定・評価取得工法とし、品質の確認方法、不良となった定着部の修正方法等は評定・評価内容に準ずる。

●5.3.5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔

Table with 2 columns: 部位, 必要かぶり厚さ(mm). Rows include 柱, 梁, 床スラブ, 壁.

●5.3.7 各部配筋

【追記】
(3) 最小かぶり厚さは目地底から算定する。
【追加】
(4) 機械式継手及び溶接継手の場合のあきは評定・評価取得時の技術資料による。
【置換】
(1) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、構造図による。耐久性上不利な箇所のかぶり厚さは、下記による。
【追記】
(3) 最小かぶり厚さは目地底から算定する。
【追加】
(4) 機械式継手及び溶接継手の場合のあきは評定・評価取得時の技術資料による。
(1) 各部の配筋の優先順位は、下記による。
1. 構造図
2. 鉄筋コンクリート構造配筋標準図
3. 公共建築工事標準仕様書 各部配筋 参考図
4. ●日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」
○日本建築学会「鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」
○日本建築学会「壁式構造配筋指針・同解説」
【追加】
(2) 大梁の一次筋、二次筋の方向は、下記による。一次筋とは、上端筋、下端筋ともに下側に配筋する鉄筋を意味する。
○構造図による
○一次筋: X方向 二次筋: Y方向
●一次筋: Y方向 二次筋: X方向
○規定しない
【追加】
(3) 鉄筋コンクリート構造配筋標準図の「2.2.1 配筋および定着」における基礎梁配筋要領の適用は下記による。
○独立基礎の場合(スラブなどの上載荷重を受けない場合)
●独立基礎の場合(スラブなどの上載荷重を受ける場合)
○連続基礎、べた基礎の場合

4節 ガス圧接

【追加】
(1) 圧接を行うことのできる鉄筋の種類は、JIS G 3112の規格品(SR235・SR295・SD295A・SD295B・SD345・SD390)で、鉄筋の呼び径は原則として19mm以上とする。
(2) 圧接施工会社は下記の条件を満足するものとし、選定に際して監理者の承諾を得る。
○日本鉄筋継手協会優良会社認定制度規則に基づく「A級継手圧接施工会社」
○日本鉄筋継手協会優良会社認定制度規則に基づく「優良圧接会社」
\*本工事の鉄筋の種類、呼び径について十分な施工実績を有する圧接施工会社

●5.4.1 一般事項

●5.4.2 ガス圧接作業を行う技能資格者

●5.4.5 圧接一般

●5.4.10 圧接完了後の圧接部の試験

●5.5.1 一般事項

●5.5.2 工法

【置換】
圧接作業における技能資格者は、JIS Z 3881(鉄筋のガス圧接技術検定における試験方法及び判定基準)に従う工事に相応した(社)日本鉄筋継手協会(旧(社)日本圧接協会)の発行する資格証を有する者とし、技術証明書を監理者に提出し承諾を得る。

【置換】
(2) 鉄筋の径の差が5mmを超える継手をやむを得ずガス圧接継手とする場合は、7mmを上限とし、使用する鉄筋について試験や研究成果等により施工品質に問題ないことを確認し、監理者の承諾を得る。なお、自動ガス圧接及び熱間押抜ガス圧接による場合は、鉄筋径が異なる鉄筋間には原則として適用しない。

【追記】
圧接完了後、次により試験を行い、検査報告書を監理者に提出する。また、不良ガス圧接部の処置は、5.4.11(1)に従って行い、その結果記録を監理者に提出し、承諾を得る。
(7) 外観試験(試験対象は全ての圧接部とする。)
(4) 抜取試験は、下記による。
\*超音波探傷試験 ○引張試験

【追加】
確認検査機関への施工報告として特別の規定が定められている場合は試験方法、ロット区分、抜取率について確認検査機関と協議を行い、上記の試験と併用して実施する。
検査、試験の要領は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」による。超音波探傷試験機関は第三者検査会社とし、監理者の承諾を得る。
引張試験の試験機関は原則として公的機関とする。
試験のロット区分及び抜取率は下記による。

Table with 3 columns: 試験方法, ロット区分, 1ロット当りの抜取率(抜取箇所数、抜取本数). Rows include 超音波探傷試験 and 引張試験.

5節 機械式継手

【追記】
機械式継手が使用される鉄筋の種類、径、継手は下表による。
性能は「建設省住指発第31号(特殊な鉄筋継手の取扱いについて)」による。
また、継手部破断の取り扱いは、下記による。
\*接合部破断を許容しない ○規定しない

Table with 6 columns: 使用部位, 階, 種類, 径, 継手, 性能.

(1) 機械式継手の種類等は、下記による。

Table with 4 columns: 鉄筋種類, 適用箇所, 認定番号, 備考.

(2) 機械式継手の工法は評定・評価取得工法とし、品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等は評定・評価内容に準ずる。施工に先立ち、施工要領書及び施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。

【追加】
(5) 機械式継手の工事に先立ち、JIS Z 2241に基づき引張試験を実施し、すべての試験片の試験値が母材の規格引張強さ以上、又は規格降伏点か耐力の135%以上であることを確認する。供試体数は下記による。
\*種類、径の組合せ毎に各3体 ○
(6) 自主検査による外観検査は全数行い、記録した上で監理者の承認を得る。外観検査項目、合否判定基準は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 機械式継手工事」による。

(7) 第三者機関による外観検査・超音波検査の要否は下記による。検査、試験の要領は、(社)日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 機械式継手工事」による。
○要 ○否

●5.6.3 工法

6節 溶接継手
(2) 溶接継手の種類等は、下記による。
鉄筋種類 適用箇所 認定番号 備考
溶接継手の工法は評定・評価取得工法とし、品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等は評定・評価内容に準ずる。溶接継手部の抜取試験は、超音波試験(30箇所/1ロット)かつ引張試験(3本/1ロット)とする。1ロットは1組の作業班が1日に行った溶接箇所かつ200箇所程度以下とする。試験要領、判定方法は評定・評価取得時の仕様準ずる。
【追記】
(e) 溶接技能者に対する技量付加試験の要否は、下記による。
\*要 ○否

●6.1.1 一般事項

1節 共通事項
【追記】
コンクリート工事に先立ち、設計・施工条件(打継ぎ、締固め、養生計画等)を十分考慮し、適切な施工計画書を作成し、監理者の承諾を得る。

●6.2.1 コンクリートの種類

2節 コンクリートの種類及び品質
(1) コンクリートの類別は、下記による。
\*I類 ○II類
(2) コンクリートの気乾単位容積質量による種類は、普通コンクリート又は軽量コンクリートとし、適用は構造図による。
(3) 建築基準法第37条第二号の規定に基づき国土交通大臣の認定を受けたコンクリートは、構造図による。

●6.2.2 コンクリートの強度

(1) コンクリートの設計基準強度(Fc)は構造図による。

●6.2.3 気乾単位容積質量

(1) 普通コンクリートの気乾単位容積質量は、下記による。
○2.1を超え2.5t/m³以下 \*構造図による

●6.2.4 ワークability及びスランプ

(2) 使用するコンクリートの荷卸し地点におけるスランプは、下記による。
\*構造図による
○標仕(表6.2.2)

●6.2.5 構造体コンクリートの仕上げ

(1) (7) 部材の位置及び断面寸法の許容差は、下記による。
\*標仕(表6.2.3) ○
(2) (7) (a) 合成せき板を用いる場合のコンクリートの打放し仕上げの種類は、B種とする。
(4) コンクリートの仕上げの平たんさは表6.2.5により、適用箇所は意匠図による。

●6.3.1 コンクリートの材料

3節 コンクリートの材料及び調合
(1) セメント
(7) セメントの種類は、構造図による。
(4) 高炉セメントB種又はフライアッシュセメントB種の適用箇所は、構造図による。
(2) 骨材
(7) (a) 特殊な骨材等の使用については、下記による。
○フェロニッケルスラグ骨材 ○鋼スラグ骨材
○電気炉酸化スラグ骨材 ○普通エコセメントを使用するコンクリートに用いる再生骨材H ○
適用コンクリート種類:
適用箇所:
(4) 細骨材及び粗骨材のアルカリシリカ反応性による区分は、下記による。
\*A ○B
(4) 混和材料
混和材料の種類は、下記による。
\*標仕(6.3.1(4)) ○

●6.3.2 コンクリートの調合

【置換】
(4) (c) 単位水量の上限は、下記による。
\*構造図による ○185kg/m³
【置換】
(9) (a) 試験練りの要否は、下記による。
\*要(工場審査を兼ねて実施する) ○否

●6.4.3 コンクリートの発注及び製造

4節 レディーミクストコンクリート工場の選定、コンクリートの製造及び運搬
【置換】
(3) 上澄水の使用は、下記による。なお、スラッジ水の使用は、原則として不可とする。
●上澄水を使用しない。
○上澄水を使用する場合は、コンクリート製造工場の上澄水の管理方法・管理状況を確認し、監理者の承諾を得る。

<p>●6.5.1 品質管理一般</p> <p>●6.5.6 単位水量の測定【追加】</p> <p>●6.6.3 打込み</p> <p>●6.6.4 打継ぎ</p> <p>●6.7.2 混濁養生</p> <p>●6.8.1 型枠一般</p> <p>●6.8.2 材料</p> <p>●6.8.3 型枠の加工及び組立</p>	<p><b>5節 コンクリートの品質管理</b></p> <p>【追加】</p> <p>(1) (イ)使用しなかったコンクリートの処置結果は、書面に於て監理者に提出し、承諾を得ること。</p> <p>現場における単位水量の測定の要否は、下記による。</p> <p>●要 ○否</p> <p>単位水量の測定を行う場合は、下記による。</p> <p>(1) 単位水量の測定頻度は、下記の両方による。</p> <p>(i) 受入検査として、150m<sup>3</sup> (高強度コンクリートの場合は100m<sup>3</sup>) に1回以上実施し、測定結果に応じた処置は本項 (3) による。</p> <p>(ii) 荷下し時に品質(ワーカビリティ、スランプ、空気量等)の異常が認められた時の原因調査として実施し、品質の改善及び単位水量の安定を確認した上で、打設を再開する。</p> <p>(2) 単位水量の管理目標値は「±15kg/m<sup>3</sup>」、指示値は「±20kg/m<sup>3</sup>」とし、測定結果に応じた処置は下記による。</p> <p>1) 測定した単位水量が、計画調査書の設計値(以下、「設計値」という)±15kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合はそのまま施工する。</p> <p>2) 測定した単位水量が、設計値±15kg/m<sup>3</sup>を超え±20kg/m<sup>3</sup>の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定する(2回連続して管理目標値内の値を観測する)まで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>3) 設計値±20kg/m<sup>3</sup>を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰り、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示する。その後は全運搬車で測定を行い、設計値±20kg/m<sup>3</sup>以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m<sup>3</sup>以内で安定(2回連続して管理目標値内の値を観測)するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。</p> <p>4) 管理目標値または指示値を超える場合は1回に限り再試験を実施することができる。再試験を実施した場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値が小さい方の値で評価する。</p> <p>(3) 単位水量管理についての記録を書面(計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出し、監理者の承諾を得る。</p> <p>(4) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は当該コンクリート製造所以外の機関とする。</p> <p><b>6節 コンクリートの工事現場内運搬、打込み及び締固め</b></p> <p>【追加】</p> <p>(10) パラペット及び雨水の浸水のおそれのある立上り部分等は原則として同時打込みとする。</p> <p>(2) 打継ぎ目地の寸法は、下記による。</p> <p>*標仕(9.7.3(1)(7)) ○意匠図による</p> <p>【追加】</p> <p>(5) 地盤面下のコンクリートの打継ぎ面、ダメ穴及び外部鉄骨柱脚RC埋め込み部等は、止水板もしくは水膨張性シール等により止水処理を施す。</p> <p>(6) 乾燥収縮対策として、X7-8間付近のスラブをあと施工(収縮帯)とする。</p> <p><b>7節 養生</b></p> <p>セメントの種類が普通エコセメントの場合の養生期間は、下記による。</p> <p>○</p> <p><b>8節 型枠</b></p> <p>(4) 打直し仕上げの打増し厚さは、意匠図による。意匠図にない場合は下記による。</p> <p>・屋外 床スラブ *10mm ○mm (打ち放し以外も原則同じ打増し厚さとする。)</p> <p>柱・梁 *20mm ○mm 壁 *20mm ○mm</p> <p>・屋内 床スラブ *10mm ○mm (打ち放し以外も原則同じ打増し厚さとする。)</p> <p>柱・梁 *10mm ○mm 壁 *10mm ○mm</p> <p>(5) ひび割れ誘発目地の位置は意匠図、形状及び寸法は構造図による。</p> <p>(1) せき板の材料は、下記による。</p> <p>*標仕(6.8.2(1)) ○</p> <p>(2) 合板の厚さは、下記による。</p> <p>*12mm ○mm</p> <p>(3) 断熱材を兼用した型枠材の適用は、下記による。</p> <p>○適用しない ○適用する:適用箇所</p> <p>(5) MCR工法の適用は、下記による。</p> <p>○適用しない ○適用する:適用箇所</p> <p>(9) (イ)スリーブに用いる材料の材質は、下記による。</p> <p>*標仕(6.8.2(9)(イ)) ○</p> <p>(9) (ウ)打直し仕上げ面(スラブ下除く) 打直し面補修は、B種とする。</p> <p>【追加】</p> <p>(11) 柱、梁、出入口、窓廻りなどの出隅部の型枠の加工及び組立は、下記による。</p> <p>●面取り(サイズ:断面欠損しない範囲) ○角出し</p>	<p>●6.8.4 型枠の存置期間及び取外し</p> <p>●6.8.5 型枠締付け金物等の措置</p> <p>●6.9.3 コンクリートの強度試験</p> <p>○6.10.1 一般事項</p> <p>○6.10.2 種類及び品質</p> <p>●6.11.1 一般事項</p> <p>●6.11.2 材料及び調査</p> <p>●6.12.2 材料及び調査</p> <p>●6.13.1 一般事項</p> <p>●6.13.2 材料及び調査</p> <p>【追加】</p> <p>○6.13.6 温度ひび割れ解析</p> <p>【追記】</p> <p>(1) 常時荷重下におけるクリープ変形防止等の観点から、梁・床スラブ等の水平部材は、コンクリート打設後、最低28日以上型枠を存置し、サポートにより支持することを原則とする。</p> <p>(3) 型枠の存置期間の延長は、下記による。</p> <p>○延長しない ●延長する:適用箇所 片持ちスラブ</p> <p>【追加】</p> <p>(4) 止水性能を要求させる部位に使用する型枠締付け金物は、水膨張性ゴムなどの止水リブ付きとする。</p> <p>適用箇所</p> <p><b>9節 試験等</b></p> <p>【追加】</p> <p>(5) コンクリートに関する試験機関は公的機関または第三者専門検査会社とする。</p> <p><b>10節 軽量コンクリート</b></p> <p>(2) 適用箇所は、下記による。</p> <p>*構造図による ○</p> <p>【追記】</p> <p>常時土又は水に直接接する部分に軽量コンクリートを</p> <p>○用いない ○用いる</p> <p>(1) 軽量コンクリートの種類及び所要気乾単位容積質量の値は、下記による。</p> <p>種類: *標仕(表6.10.1) ○</p> <p>気乾単位容積質量: *構造図による ○kg/m<sup>3</sup></p> <p>(2) 所要スランプは下記による。</p> <p>*構造図による ○21cm以下</p> <p><b>11節 寒中コンクリート</b></p> <p>(2) 寒中コンクリートの適用期間は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」12節「寒中コンクリート工事」による。</p> <p>(3) 調査管理強度及び調査強度は、下記による。</p> <p>*標仕(6.3.2(7))</p> <p>○コンクリート打込みから材齢91日までの積算温度は * D・D以上とし構造体強度補正值(S)は、N/mm<sup>2</sup>とする。</p> <p><b>12節 暑中コンクリート</b></p> <p>(3) 構造体強度補正值(S)は、下記による。</p> <p>*6N/mm<sup>2</sup> ○N/mm<sup>2</sup></p> <p><b>13節 マスコンクリート</b></p> <p>(2) マスコンクリートの適用箇所は、構造図による。</p> <p>(1) セメントの種類及び適用は、構造図による。</p> <p>(2) 混和剤の種類は、下記による。</p> <p>*A E減水剤遅延形又は高性能A E減水剤遅延形</p> <p>○</p> <p>(5) スランプは、下記による。</p> <p>*構造図による ○15cm以下</p> <p>(6) 構造体強度補正值(S)は、下記による。</p> <p>*標仕(表6.13.1) ○N/mm<sup>2</sup></p> <p>温度ひび割れ解析の要否は、下記による。</p> <p>○要 *否</p> <p>温度ひび割れ解析を行う場合は、下記による。</p> <p>(1) 温度ひび割れ解析により、使用セメント、打設計画、養生方法等の妥当性を検証し、監理者の承諾を得る。</p> <p>(2) 温度ひび割れ解析の方法は、下記による。</p> <p>○「コンクリート標準示方書2007」(土木学会)による。</p> <p>○「マスコンクリートの温度ひび割れ制御設計・施工指針(案)・同解説」(日本建築学会)による。</p> <p>○上記の2つの評価方法のうち、受注者にて検証実績が十分にあり、温度履歴測定結果との対応等が確認されている方法による。</p> <p>○</p> <p>(3) 温度ひび割れ制御のための判定値は、下記による。</p> <p>「マスコンクリートの温度ひび割れ制御設計・施工指針(案)・同解説」(日本建築学会)による場合</p> <p>○応力強度比≦0.8(漏水抵抗性を確保する場合、貫通ひび割れを生じさせない場合)</p> <p>*応力強度比≦1.3(一般環境下において鉄筋腐食抵抗性を確保する場合、最大ひび割れ幅の許容値を0.4mmとする場合)</p> <p>「コンクリート標準示方書2007」(土木学会)による場合</p> <p>○安全係数≧1.75(ひび割れを防止する場合)</p> <p>○安全係数≧1.45(ひび割れの発生をできるだけ制限する場合)</p> <p>*安全係数≧1.00(ひび割れの発生を許容するが、ひび割れ幅が過大とならないように制限する場合)</p>	<p>(4) コンクリート打設後の温度履歴測定の要否は、下記による。</p> <p>○要 *否</p> <p>温度履歴測定を行う場合は、下記による。</p> <p>測定位置: ○基礎梁 箇所、○擁壁 箇所、○ 箇所</p> <p>測定項目: 荷卸し時のコンクリート温度、打設後のコンクリート表面・内部の温度履歴、外気温の履歴</p> <p>なお、温度履歴測定結果と解析結果の乖離が大きい場合は、原因を調査し対策を立案する。また、次工程の使用材料や施工計画の妥当性を再検証し、監理者の承諾を得る。</p> <p><b>14節 無筋コンクリート</b></p> <p>(3) 設計基準強度及びスランプは、下記による。</p> <p>設計基準強度: *構造図による ○18N/mm<sup>2</sup></p> <p>スランプ: *構造図による ○15cm ○18cm</p> <p>(4) 無筋コンクリートの適用箇所は、下記による。</p> <p>*構造図による ○標仕(6.14.1(4))</p> <p>【追加】</p> <p><b>16節 高流動コンクリート (JASS5 16節による)</b></p> <p>・本節は、高流動コンクリートを使用するコンクリート工事に適用する。</p> <p>・適用図書は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事 2015」(以下、JASS5)とする。</p> <p>・特記事項の項目番号(6.16.※)の「16.※」は、適用図書の項目番号を示す。</p> <p>(a) 高流動コンクリートの適用箇所は、構造図による。</p> <p>(b) 大臣認定品を使用する場合は、認定条件による。認定条件で定められていない事項は、本節の各項による。</p> <p>(a) セメントの種類は、下記による。</p> <p>*構造図による ○JASS5 16.4(a)による ○</p> <p>セメントの品質は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 16.4(a)による ○</p> <p>(b) 粗骨材の最大寸法は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 16.4(b)による ○</p> <p>(d) スランプフローは、下記による。</p> <p>*構造図による ○JASS5 16.5(d)による ○</p> <p>(e) 空気量は、下記による。</p> <p>○構造図による ○JASS5 16.5(e)による ○</p> <p>【追加】</p> <p><b>17節 高強度コンクリート (JASS5 17節による)</b></p> <p>・本節は、設計基準強度が36N/mm<sup>2</sup>を超える高強度コンクリートを使用するコンクリート工事に適用する。</p> <p>・適用図書は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事 2015」(以下、JASS5)とする。</p> <p>・特記事項の項目番号(6.17.※)の「17.※」は、適用図書の項目番号を示す。</p> <p>(a) 設計基準強度(Fc)は、構造図による。</p> <p>(d) 大臣認定品を使用する場合は、認定条件による。認定条件で定められていない事項は、本節の各項による。</p> <p>(b) 調度強度を定めるための基準とする材齢は、下記による。</p> <p>*28日 ○</p> <p>(c) 構造体コンクリート強度を確保する材齢は、下記による。</p> <p>*91日 ○</p> <p>(a) セメントの種類は、下記による。</p> <p>*構造図による ○JASS5 17.4(a)による ○</p> <p>セメントの品質は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 17.4(a)による ○</p> <p>(b) 骨材の種類は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 17.4(b)による ○</p> <p>骨材の品質は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 17.4(b)による ○</p> <p>(e) 混和剤は、下記による。</p> <p>*JASS5 17.3(a)に示す品質が確保できるように、工事監理者の承諾を得て使用する。</p> <p>○</p> <p>(f) 高炉スラグ微粉末、フライアッシュまたはシリカフェームを結合材の一部として</p> <p>○使用する *使用しない</p> <p>使用する場合は混和剤の品質および使用方法は、下記による。</p> <p>○</p> <p>(g) 上記以外の混和剤を使用する場合は混和剤の品質および使用方法は、下記による。</p> <p>○</p>	<p>○6.17.5 調査</p> <p>○6.17.9 打継ぎ</p> <p>○6.17.10 上面仕上げ</p> <p>○6.17.12 型枠</p> <p>○6.17.13 鉄筋の加工および組立て</p> <p>【追加】</p> <p><b>18節 鋼管充填コンクリート (JASS5 18節による)</b></p> <p>・本節は、コンクリート充填鋼管構造に使用する鋼管充填コンクリート及びその施工に適用する。</p> <p>・適用図書は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事 2015」(以下、JASS5)とする。</p> <p>・特記事項の項目番号(6.18.※)の「18.※」は、適用図書の項目番号を示す。</p> <p>(a) 鋼管充填コンクリートの適用箇所は、構造図による。</p> <p>(c) 大臣認定品を使用する場合は、認定条件による。認定条件で定められていない事項は、本節の各項による。</p> <p>(a) コンクリートの設計基準強度は、構造図による。</p> <p>(e) フレッシュコンクリートのブリーディング量は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 18.3(e)による ○</p> <p>(f) フレッシュコンクリートの沈降量の試験方法およびその値は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 18.3(f)による ○</p> <p>(e) スランプフローまたはスランプは、下記による。</p> <p>*構造図による ○JASS5 18.5(e)による ○</p> <p>(f) 空気量は、下記による。</p> <p>○構造図による *JASS5 18.5(f)による ○</p> <p>(b) スランプフローまたはスランプの許容差は、下記による。</p> <p>○構造図による</p> <p>○JASS5 16.8(a)による ○JASS5 17.14(b)による</p> <p>*JASS5 18.9(b)による ○</p> <p>【追加】</p> <p><b>19節 プレキャスト鉄筋コンクリート (JASS10による)</b></p> <p>・本節は、プレキャスト鉄筋コンクリート部材(以下、プレキャスト部材という)の製造およびそれらを組み立てて構築する建築物の工事に適用する。</p> <p>・適用図書は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS10 プレキャスト鉄筋コンクリート工事 2013」(以下、JASS10)とする。</p> <p>・特記事項の項目番号(6.19.※)の「19.※」は、適用図書の項目番号を示す。</p> <p>(a) 本工事のプレキャスト鉄筋コンクリート工法の種類は、下記とする。</p> <p>○壁式プレキャスト鉄筋コンクリート工法</p> <p>○ラーメンプレキャスト鉄筋コンクリート工法</p> <p>○壁式ラーメンプレキャスト鉄筋コンクリート工法</p> <p>○プレキャスト鉄骨鉄筋コンクリート工法</p> <p>○</p> <p>(a) プレキャスト部材のコンクリートは、下記による。</p> <p>(i) コンクリートの種類は、構造図による。(3.2.1a)</p> <p>(ii) コンクリートの設計基準強度は、構造図による。(3.2.2a)</p> <p>(iii) 軽量コンクリートの気乾単位容積質量は、構造図による。(3.2.3b)</p> <p>(b) プレキャスト部材の寸法精度は、解説表3.2を参考に定め、監理者の承諾を得る。(3.2.7a)</p> <p>(c) 先付部品類(鉄筋、金物)の取付位置精度は、下記による。</p> <p>(i) 接合用鉄筋の取付位置は、解説表11.1を参考に、継手金物等の工法で定められた条件(挿入長さ等)を満足させられる管理値を定め、監理者の承諾を得る。(3.2.7a)</p> <p>(ii) 接合用金物の取付位置は、解説表11.1を参考に、部位別に構造上、機能上および外観上の支障がない管理値を定め、監理者の承諾を得る。(3.2.7b)</p> <p>(d) プレキャスト部材接合面の形状および仕上げは、構造図による。なお、遅延剤塗布による粗面処理とする場合は、コンクリートに悪影響を及ぼさないものを採用する。(3.2.8d)</p>
<p>公共建築課長 主査等 担当者 工事名</p> <p style="text-align: center;">久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事</p>				<p>図面名 構造特記仕様書 3</p> <p>図面番号 SS-03</p> <p>年度(西暦表示) 2021年1月</p>

<p>○6.19.4 材料および部 品</p> <p>○6.19.5 プレキャスト 部材に用いる コンクリート の調査</p> <p>○6.19.6 プレキャスト 部材の製造</p> <p>○6.19.10 プレキャスト 部材の接合</p> <p>○6.19.11 現場打ちコン クリート部分 の施工</p> <p>○6.19.12 接合部の防水</p> <p>○6.19.13 品質管理およ び検査</p>	<p>(e) 接合部コンクリートは、下記による。 (i) コンクリートの種類は、構造図による。(3.3.2a) (ii) コンクリートの設計基準強度は、構造図による。(3.3.2b)</p> <p>(f) 狭小部充填コンクリートの設計基準強度は、構造図による。(3.3.3b)</p> <p>(g) 現場打ちコンクリートは、下記による。 (i) コンクリートの種類と設計基準強度は、構造図による。(3.4a) (ii) コンクリートのかぶり厚さは、構造図による。(3.4b)</p> <p>(a) 使用箇所別のセメントの種類は、構造図による。(4.2.1d)</p> <p>(b) 鋼材は、下記による。 (i) 鋼材の品質は、構造図による。(4.3.3a) (ii) 鋼材の形状・寸法は、構造図による。(4.3.3b)</p> <p>(c) 接合用金物は、下記による。 (i) 接合用金物の形状、寸法および品質は、構造図による。(4.4.1a) (ii) 機械式継手に用いるカップラー、スリーブなどの形状、寸法および品質は、構造図による。(4.4.1b)</p> <p>(d) 先付部品の種類・形状・品質は、意匠図および構造図による。(4.4.3)</p> <p>(a) 試し練りの要否は、下記による。(5.1b) *要 ○否</p> <p>(b) スランプおよびスランプフロアは、構造図による。(5.4b) *構造図による ○スランプ 8cm ○</p> <p>(c) 空気量は、下記による。(5.5a) ○構造図による *4.5% (凍結融解作用を受ける場合は3.0%以下) ○</p> <p>(a) コンクリートの練上がり温度は 40~50℃程度を上限とし、打設完了まで所要のコンシステンシーが維持される温度とする。(6.5c)</p> <p>(b) JIS A 5308 (レディーミクストコンクリート)の規定に適合しないレディーミクストコンクリートを発注する場合は、下記による。(6.6c) (i) 呼び強度は、構造図による。 (ii) 呼び強度を保證する材齢は、下記による。 *28日 ○</p> <p>(a) プレキャスト部材の接合の種類および方法は、箇所に構造図による。(10.1a)</p> <p>(b) 狭小部充填コンクリートを工事現場練りコンクリートとする場合のコンクリートの製造は、JASS5 の「6.6 工事現場練りコンクリートの製造」による。(10.3.2a)</p> <p>(a) 鉄筋の継手の方法および位置、鉄筋の定着の方法および長さは、構造図による。(11.2b)</p> <p>(b) 接合用金物および接合用鉄筋の取付位置と頂部の高さの許容差は、解説表 11.1 を参考に定め、監理者の承諾を得る。(11.3b)</p> <p>(a) 防水工法の種類およびその工事範囲は、意匠図による。(12.1b)</p> <p>(b) 防水材料は、下記による。 (i) シーリング材の品質は、JIS A 5758 (建築シーリング材)に適合するものとし、その種類は とする。(12.2a) (ii) 防水に用いるその他の材料の種類は とする。(12.2c)</p> <p>(c) 接合部の防水の上のメンブレン防水は、下記による。(12.3g) ○施す ○施さない</p> <p>(a) 金物および先付部品の試験・検査要領を作成し、監理者の承諾を得る。(13.3a)</p> <p>(b) コンクリートの練上がり温度の判定基準は、「6.19.6 (a) で定めた温度±5℃以内」とする。(13.5c)</p> <p>(c) プレキャスト部材コンクリートの設計基準強度に対する圧縮強度の試験機関は、下記による。(13.5g) ○製造工場で実施 ○製造工場に加え、公的機関または第三者専門検査会社で実施 製造工場に加え、公的機関または第三者専門検査会社で実施する場合の「公的機関または第三者専門検査会社」での試験頻度は、下記による。なお、製造工場が複数社となる場合は、製造工場毎に本項を適用する。 ○コンクリートの配合毎に1回 ○部材の種類(柱、大梁、床版等)、コンクリートの配合毎に1回 ○</p> <p>(d) プレキャスト部材の製品検査は、下記による。(13.5h) (i) 形状・寸法の検査の時期・回数は、脱型時および出荷時とする。 (ii) 形状・寸法の判定基準は、「6.19.3 (b) で定めた許容差以内」とする。 (iii) ひび割れの検査の判定基準は、JASS10 の「3.2.8 プレキャスト部材の仕上り状態」を参考に定め、監理者の承諾を得る。</p> <p>(e) プレキャスト部材の受入れ時の検査におけるひび割れの検査の判定基準は、「6.19.13 (d) (iii) で定めた判定基準」による。(13.6)</p> <p>(f) プレキャスト部材の接合の試験・検査 (i) 機械式継手の試験・検査は、「5.5.2 機械式継手」による。(13.8a) (ii) エンクローズ溶接継手の試験・検査は、「5.5.3 溶接継手」による。(13.8b)</p>	<p>(iii) 敷きモルタルの施工軟度の管理目標値および判定基準は、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8h)</p> <p>(iv) 充填モルタルの施工軟度の管理目標値および判定基準は、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8i)</p> <p>(v) 目地部グラウトの施工軟度の管理目標値および判定基準は、グラウト材のメーカー仕様を確認の上、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8j)</p> <p>(iv) 鉄筋継手グラウトの使用水量、練上がり温度、施工軟度、圧縮強度の試験方法、管理目標値および判定基準は、グラウト材のメーカー仕様を確認の上、あらかじめ試験練りを実施して定める。(13.8k)</p> <p><b>7 章 一般事項</b></p> <p>●7.1.1 一般事項</p> <p><b>7 章 鉄骨工</b></p> <p>●7.1.2 基本要品質</p> <p>●7.1.3 鉄骨製作工場</p> <p><b>7 章 鉄骨製作工場</b></p> <p>●7.1.4 鉄骨製作工場における施工管理技術者</p> <p>●7.2.1 鋼材</p> <p>(iii) 敷きモルタルの施工軟度の管理目標値および判定基準は、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8h)</p> <p>(iv) 充填モルタルの施工軟度の管理目標値および判定基準は、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8i)</p> <p>(v) 目地部グラウトの施工軟度の管理目標値および判定基準は、グラウト材のメーカー仕様を確認の上、あらかじめ JASS10T-501 に基づく試験練りを実施して定める。(13.8j)</p> <p>(iv) 鉄筋継手グラウトの使用水量、練上がり温度、施工軟度、圧縮強度の試験方法、管理目標値および判定基準は、グラウト材のメーカー仕様を確認の上、あらかじめ試験練りを実施して定める。(13.8k)</p> <p><b>1 節 共通事項</b></p> <p>【追加】 施工者は工事着手前に下記の書類を作成し監理者の承諾を得る。なお、施工計画書等には協力業者に委託する業務も含めて記述し、品質管理、受入れ検査方法を定める。 ●施工計画書 ◎工程表 *溶接工技量付加試験要領書 ◎工場製作要領書 *現場溶接施工要領書 ◎スタッドコネクタ施工要領書 ◎高力ボルト施工要領書 ◎製品検査要領書 ◎超音波検査要領書(工場溶接) ◎超音波検査要領書(現場溶接) ◎スタッドコネクタ検査要領書 ○</p> <p>【追加】 材料の品質確認については、原則、建築鉄骨品質管理機構「建築構造用鋼材の品質証明ガイドライン(2009)」に基づき行う。ただし、当該ガイドラインに準ずる管理方法として、監理者の承諾を得た管理を行う場合はこの限りではない。</p> <p>(1) 鉄骨製作工場は、下記による。 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関とし認可を受けた機関の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める OS グレード OH グレード ●M グレード ●R グレード ○J グレード として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場、工場審査を行い施工実績と加工能力を考慮し監理者が承諾する鉄骨製作工場とする。なお、R グレードについては M グレードと同等の品質管理が可能であると監理者が承諾した場合に限り採用する。</p> <p>【追加】 (5) 鉄骨製作工場が、切断、加工及び製作の一部を協力業者に委託する場合は、許可申請書を提出して監理者の承諾を得る。</p> <p>【追加】 (6) 製品全般について社内検査(溶接部検査を含む)を実施し、製品検査記録表を監理者に提出する。</p> <p>【追加】 (7) 鉄骨製作図は、鉄骨製作工場が自ら作図することを原則とする。外部委託する場合は、許可申請書を提出して監理者の承諾を得る。</p> <p>【追加】 (8) 鉄骨製作工場が複数になる場合は、監理者が幹事工場を選出する。幹事工場の責任範囲は、自身の工区に加え下記を加える。 ●7.1.1 の各書類の取りまとめ ●鉄骨製作図のうちの各基準図(溶接、継手、仮設等)、及び一般図(伏図、軸組図、断面リスト)の取りまとめ ●各工区を接合する接合部詳細図の取りまとめ及び製作誤差・建方精度管理等に関するとりまとめ ○</p> <p>(1) 鉄骨製作工場における施工管理技術者の配置は、下記による。 *要 ○否</p> <p><b>2 節 材料</b></p> <p>鋼材の種類、形状及び寸法は、構造図による。</p> <p>【追加】 (1) 鋼材の規格証明書には、板材については製品番号を記入した切板伝票、形鋼についてはラベルの写しを添付する。</p> <p>【追加】 (2) 下記鋼材は、指定のシャルピー衝撃値を満足するものとする。 ・通用鋼材 ・通用部位 ・シャルピー衝撃値(試験温度 0℃での試験片 3 本の平均値) ○27J 以上 ○70J 以上 ○</p> <p>【追加】 (3) 梁端溶接接合部の熱影響部について、靱性の確認の要否は下記による。 ○要 ○否 靱性の確認方法は、(財)日本建築センター「鉄骨梁端溶接接合部の脆性的破断防止ガイドライン」3.3 鋼材【解説】(3) 1) 又は 2) による。</p>	<p>【追加】 (4) 電炉鋼材の使用については下記による。 (ア) 下記の部位については、電炉鋼材を使用することができる。 *小梁、間柱、二次部材取付材 *大梁中央部材 ○ (イ) 電炉広幅平鋼、電炉鋼板、電炉 H 形鋼を使用する場合の種類、板厚、板幅は次による。</p> <table border="1"> <tr> <th>鋼材の種類</th> <th>種類の記号</th> <th>板厚</th> <th>板幅</th> </tr> <tr> <td>電炉広幅平鋼</td> <td>SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B/C</td> <td>40mm 以下</td> <td>500mm 以下</td> </tr> <tr> <td>電炉鋼板</td> <td>SS400, SM400A/B/C, SM490A, SM490B/C</td> <td>40mm 以下</td> <td>製造者製造可能寸法</td> </tr> <tr> <td>電炉 H 形鋼</td> <td>SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B</td> <td>JIS G 3192 製造者製造可能寸法</td> <td>JIS G 3192 製造者製造可能寸法</td> </tr> </table> <p>(ウ) 490N/mm<sup>2</sup> 級電炉広幅平鋼を使用する場合は、普通鋼電炉工業会「建築構造用広幅平鋼メーカー規格」の化学成分及び機械的性質を満足すること。 (エ) 塑性化部位に電炉材を使用する場合は、次表の種類とし、化学成分、機械的性質は JIS 規格に加えて下表を満足すること。ただし、板厚が 12mm 以下の場合は、監理者と協議の上、確認項目を省略することができる。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>C</th> <th>Si</th> <th>Mn</th> <th>P</th> <th>S</th> <th>Cu</th> <th>Pos</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">電炉広幅平鋼</td> <td>SM490B</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.55</td> <td>≦1.60</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.015 (≦0.013)</td> <td>≦0.44</td> <td>≦0.29</td> </tr> <tr> <td>SM490C</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.55</td> <td>≦1.60</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.008</td> <td>≦0.44</td> <td>≦0.29</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">電炉鋼板</td> <td>SM400B</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.35</td> <td>≦1.40</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.010</td> <td>≦0.36</td> <td>≦0.26</td> </tr> <tr> <td>SM400C</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.35</td> <td>≦1.40</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.008</td> <td>≦0.36</td> <td>≦0.26</td> </tr> <tr> <td>SM490B</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.40</td> <td>≦1.60</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.010</td> <td>≦0.44</td> <td>≦0.29</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">電炉 H 形鋼</td> <td>SM400B</td> <td>≦0.20</td> <td>≦0.40</td> <td>≦1.50</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.015</td> <td>≦0.36</td> <td>≦0.26</td> </tr> <tr> <td>SM490B</td> <td>≦0.18</td> <td>≦0.40</td> <td>≦1.60</td> <td>≦0.020</td> <td>≦0.013</td> <td>≦0.44</td> <td>≦0.29</td> </tr> </table> <p>( )は、板厚 30mm 以上 40mm 以下を示す。</p> <table border="1"> <tr> <th>機械的性質</th> <th>SM400B</th> <th>SM400C</th> <th>SM490B</th> <th>SM490C</th> </tr> <tr> <td>シャルピー吸収エネルギー E<sub>50</sub>(J/cm)</td> <td>≧70</td> <td>≧70</td> <td>≧100</td> <td>≧100</td> </tr> </table> <p>●7.2.2 高力ボルト</p> <p>●7.2.3 普通ボルト</p> <p>●7.2.4 アンカーボルト</p> <p>●7.2.5 溶接材料</p> <p>○7.2.6 ターンバックル</p> <p>●7.2.7 床構造用のデッキプレート</p> <p>●7.2.8 スタッド</p> <p>●7.2.9 柱底均しモルタル</p> <p>(1) 高力ボルトの種類は、下記による。 ○構造図による *トルシア形高力ボルト ○JIS 形高力ボルト ○溶融亜鉛めっき高力ボルト ○</p> <p>(2) (ア) ねじの呼びは、構造図による。</p> <p>(1) 構造用アンカーボルトの種類は、下記による。 *構造図による ○SNR400B ○SNR490B</p> <p>(2) 建方用アンカーボルトは、下記による。 (ア) 建方用アンカーボルトの種類は、下記による。 ○構造図による *SS400</p> <p>(ウ) アンカーボルト及びナットのねじの公差域クラス及び仕上げの程度は、下記による。 ・構造用 *JIS B 1220 (建築主事等から特別の指導等がある場合は JSS II 13-2004 によることとする) ○標仕(表 7.2.3) ・建方用 ○JIS B 1220 (建築主事等から特別の指導等がある場合は JSS II 13-2004 によることとする) *標仕(表 7.2.3)</p> <p>(3) 標仕(7.2.5 (1) (2)) 以外の溶接材料の有無 *無 ○有 ( )</p> <p>ターンバックルの種類は、下記による。 ・建築用ターンバックル胴 ○構造図による *割枠式 ・建築用ターンバックルボルト ○構造図による *羽子板ボルト ターンバックルのねじの呼びは、構造図による。</p> <p>(1) 床構造用デッキプレートの材質、形状及び寸法は、構造図による。 (2) 標仕(7.2.7 (1)) 以外のデッキプレートの材質、形状及び寸法は、構造図による。</p> <p>スタッドの種類等は構造図による。</p> <p>(2) 柱底均しモルタルは、下記による。 *無収縮モルタル ○ 無収縮モルタルの材料、調査等は、下記による。 *標仕(7.2.9 (2)) ○</p>	鋼材の種類	種類の記号	板厚	板幅	電炉広幅平鋼	SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B/C	40mm 以下	500mm 以下	電炉鋼板	SS400, SM400A/B/C, SM490A, SM490B/C	40mm 以下	製造者製造可能寸法	電炉 H 形鋼	SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B	JIS G 3192 製造者製造可能寸法	JIS G 3192 製造者製造可能寸法	種類	種類の記号	C	Si	Mn	P	S	Cu	Pos	電炉広幅平鋼	SM490B	≦0.18	≦0.55	≦1.60	≦0.020	≦0.015 (≦0.013)	≦0.44	≦0.29	SM490C	≦0.18	≦0.55	≦1.60	≦0.020	≦0.008	≦0.44	≦0.29	電炉鋼板	SM400B	≦0.18	≦0.35	≦1.40	≦0.020	≦0.010	≦0.36	≦0.26	SM400C	≦0.18	≦0.35	≦1.40	≦0.020	≦0.008	≦0.36	≦0.26	SM490B	≦0.18	≦0.40	≦1.60	≦0.020	≦0.010	≦0.44	≦0.29	電炉 H 形鋼	SM400B	≦0.20	≦0.40	≦1.50	≦0.020	≦0.015	≦0.36	≦0.26	SM490B	≦0.18	≦0.40	≦1.60	≦0.020	≦0.013	≦0.44	≦0.29	機械的性質	SM400B	SM400C	SM490B	SM490C	シャルピー吸収エネルギー E <sub>50</sub> (J/cm)	≧70	≧70	≧100	≧100	<p>●7.2.10 材料試験等</p> <p>【追加】 ●7.2.11 その他</p> <p>●7.3.2 工作図</p> <p>●7.3.3 製作精度</p> <p>●7.3.5 切断及び曲げ加工</p> <p>●7.3.10 仮組</p> <p>●7.3.12 製品検査</p> <p>(3) 試験の要否 ○要 *否</p> <p>鉄骨梁に設ける貫通孔補強に、既製品を使用する場合は、それに伴う設計及び各種申請手続き等一切の費用は受注者負担とする。また、検討に使用する設計荷重等は構造計算書に記載のものとし、設計方針を含めて設計者の承諾を受けること。</p> <p><b>3 節 工作一般</b></p> <p>(1) 高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの線端距離、ボルト間隔、ゲージ等は、構造図による。 (2) 現寸図検査の要否は、下記による。 ●要 (フィルムによる現寸) ○否 検査対象、および検査方法は監理者と協議の上決定する。</p> <p>【追加】 (3) 既存躯体との取り合いがある場合は、監理者と協議の上、実際の後工作図を作成する。</p> <p>【追加】 (4) 「溶接基準図」「継手基準図」「仮設基準図」を他の工作図に先立って作成し、設計仕様と異なる部分については、監理者の承諾を得ること。</p> <p>【追加】 JASS6 の付録 6 は「鉄骨精度測定指針 2018 年(日本建築学会)」に読み替える。また、記載のない下記部位については、監理者と協議の上、管理値を決定する。 ○</p> <p>【追加】 (2) 常温加工での内側曲げ半径は、建設省告示第 2464 号による。</p> <p>【追加】 (3) 現場溶接により接合される冷間角型鋼管の上下の部材は、原則として同一部材から切断加工された鋼材を使用する。</p> <p>(1) 仮組の要否は、下記による。 ○要 (仮組の範囲: ) ●否</p> <p>【追加】 ●7.3.12 製品検査</p> <p>(1) (ア) 部材精度の受入検査は、(社)日本建築学会「鉄骨精度測定指針」5 章「部材精度の受入検査方法」に従い下記項目とする。 ・書類検査 *書類検査 1 ○書類検査 2 ・対物検査 *対物検査 1 ●対物検査 2 また、全数記録が必要な 7 項目以外に、全数記録を残す必要がある部位は、下記とする。 ○ (イ) 溶接部の表面欠陥の合否の判定は、JASS6 付録 6「鉄骨精度検査基準」に定める管理許容差による。 (ウ) 溶接部の内部欠陥の検査は、7.6.11 による。</p> <p>【追加】 (エ) 対物検査の立会検査数は、全数とする。</p> <p>(2) 溶融亜鉛めっき後の外観検査に以下の項目を追加する。 検査項目: 割れ 検査範囲: 下記に示す部位について、監理者と協議して決定する。 ①スカラップ及び孔加工面 ②部材端 ③回し溶接部の近傍 ④溶接の交差点 ⑤角形鋼管の曲げ加工された角部 ⑥曲げ加工を受けた部分と溶接の接触部 ⑦柱梁接合部 ⑧ブレース部がセット回り 検査方法: 外観(疑わしき場合は MT 検査を実施する) 検査率: 100% 検査結果: 検査結果報告を監理者に提出する。 補修方法: 監理者と協議の上決定する。防錆処理は常温亜鉛めっき工法とする。</p>
鋼材の種類	種類の記号	板厚	板幅																																																																																															
電炉広幅平鋼	SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B/C	40mm 以下	500mm 以下																																																																																															
電炉鋼板	SS400, SM400A/B/C, SM490A, SM490B/C	40mm 以下	製造者製造可能寸法																																																																																															
電炉 H 形鋼	SS400, SM400A/B, SM490A, SM490B	JIS G 3192 製造者製造可能寸法	JIS G 3192 製造者製造可能寸法																																																																																															
種類	種類の記号	C	Si	Mn	P	S	Cu	Pos																																																																																										
電炉広幅平鋼	SM490B	≦0.18	≦0.55	≦1.60	≦0.020	≦0.015 (≦0.013)	≦0.44	≦0.29																																																																																										
	SM490C	≦0.18	≦0.55	≦1.60	≦0.020	≦0.008	≦0.44	≦0.29																																																																																										
電炉鋼板	SM400B	≦0.18	≦0.35	≦1.40	≦0.020	≦0.010	≦0.36	≦0.26																																																																																										
	SM400C	≦0.18	≦0.35	≦1.40	≦0.020	≦0.008	≦0.36	≦0.26																																																																																										
	SM490B	≦0.18	≦0.40	≦1.60	≦0.020	≦0.010	≦0.44	≦0.29																																																																																										
電炉 H 形鋼	SM400B	≦0.20	≦0.40	≦1.50	≦0.020	≦0.015	≦0.36	≦0.26																																																																																										
	SM490B	≦0.18	≦0.40	≦1.60	≦0.020	≦0.013	≦0.44	≦0.29																																																																																										
機械的性質	SM400B	SM400C	SM490B	SM490C																																																																																														
シャルピー吸収エネルギー E <sub>50</sub> (J/cm)	≧70	≧70	≧100	≧100																																																																																														
公共建築課長				主査等	担当者	工事名	図面番号	区分																																																																																										
久里浜 1 丁目公園管理用建物その他新築工事							構造特記仕様書 4	SS-04	建築																																																																																									
							縮尺	年度(西暦表示)	2021年1月																																																																																									

<p>●7.4.2 摩擦面の性能及び処理</p> <p>●7.4.5 締付け施工の確認</p> <p>●7.4.7 締付け</p> <p>●7.6.1 一般事項</p> <p>●7.6.3 溶接作業を行う技能資格者</p> <p>●7.6.4 溶接の準備</p>	<p><b>4節 高力ボルト接合</b></p> <p>【追記】 (1) 摩擦面の処理は、原則として自然発錆もしくはプラスト処理とする。薬剤処理による場合は、グラインダー・プラスト等により黒皮を除去した後の発錆を促進させることとし、黒皮のまま塗布して発生させることは原則認めないこととする。その他、使用する製品の仕様・塗布方法などについては「鉄骨工事技術指針・工場製作編（2018）日本建築学会」4.10.3に準拠した施工要領書を提出し、監理者と協議するものとする。</p> <p>(3) すべり試験の要否及び方法は、下記による。（自然発錆以外の場合に適用） ・すべり係数試験 ●要 ○否 ・すべり耐力試験 ○要 ●否 試験の方法、試験片の摩擦面の状態は、7.4.2 (1)と同等とし、(社)日本建築学会「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」による。</p> <p>【追加】 (3) トルシア形高力ボルトの導入張力確認試験の要否は、下記による。 *要 ○否 試験の方法は、(社)日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」5.3.4「高力ボルトの品質確認」によるものとし、試験温度は0℃～60℃とする。</p> <p>【置換】 (7) (イ) JIS 形高力ボルトの締付けは、ナット回転法による。トルクコントロール法を用いる場合は監理者と協議する。 ボルトの長さがねじの呼びの5倍を超える場合のナット回転量は、下記による。 ○実験により一次締めを含めて施工条件を決定する。 ●120°</p> <p><b>6節 溶接接合</b></p> <p>【追記】 施工計画書にはバス間温度及び入熱量の管理方法を記載し、監理者の承諾を得る。</p> <p>【追記】 (1) 溶接作業者は JIS Z 3801、JIS Z 3841 に従った試験による有資格者とし、作業範囲と技量資格標準は下表による。必要に応じて事前に工場調査を実施し、当該工事に従事する溶接技能者の製作した製品によりその技能を確認し、監理者の承諾を得る。</p> <table border="1" data-bbox="281 1008 771 1207"> <thead> <tr> <th rowspan="2">作業種別</th> <th rowspan="2">板厚区分</th> <th colspan="4">アーク手溶接</th> <th colspan="4">半自動溶接</th> </tr> <tr> <th>N-1F N-1H</th> <th>N-1F N-1V</th> <th>SN-1F SN-1H</th> <th>SN-1F SN-1V</th> <th>N-2F N-2H</th> <th>N-2F N-2V</th> <th>SN-2F SN-2H</th> <th>SN-2F SN-2V</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薄板構造</td> <td>6mm以下</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中板構造</td> <td>4.5mm以上 25mm以下</td> <td>A-2F A-2H</td> <td>A-2F A-2V</td> <td>SA-2F SA-2H</td> <td>SA-2F SA-2V</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6mm以上 50mm以下</td> <td>A-3F A-3H</td> <td>A-3F A-3V</td> <td>SA-3F SA-3H</td> <td>SA-3F SA-3V</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">鋼管構造</td> <td>薄肉</td> <td>6mm以下</td> <td>N-1F N-1P</td> <td>SN-1F SN-1P</td> <td>SN-1F SN-1P</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>中肉</td> <td>4.5mm以上 19mm以下</td> <td>A-2F</td> <td>A-2P</td> <td>SA-2F SA-2P</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">厚肉</td> <td>6mm以上</td> <td>A-3F</td> <td>A-3P</td> <td>SA-3F SA-3P</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>32mm以下</td> <td>A-3P</td> <td>A-3P</td> <td>SA-3P</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>*：管の外径が400mm以上の場合は板構造とみなす。また、部材を反転あるいは傾斜させて、固定管の資格(P)の代わりに立向(N)あるいは水平(H)の資格で代用可能な場合もある。</p> <p>(3) 技量付加試験の実施の要否は、下記による。 *要 ○否</p> <p>【追加】 但し、(一社)AW検定協会の該当資格の有資格者で監理者の承諾が得られた場合は技量付加試験の一部または全てを省略することができる。 (ア) 技量付加試験の種類は、下記による。 *工場溶接（鋼製エンドタブ） ●工事現場溶接（鋼製エンドタブ） ○鋼管溶接 ○ロボット溶接オペレーター ●隅肉溶接 ・代替エンドタブを使用する場合は、AW検定「工場溶接（代替エンドタブ）試験」又は「工事現場溶接（代替エンドタブ）試験」に準じた試験を追加する。 ・溶接ロボットを使用する場合は、AW検定「ロボット溶接オペレーター試験」に準じた試験を行う。 ・試験に使用する鋼材の材質、溶接材料及び溶接設備は、本工事に使用するものと同じとする (イ) 技量付加試験の受験資格、試験項目、試験要領などは(一社)AW検定協会「AW検定（建築鉄骨溶接技量検定）」に準ずる。</p> <p>(1) 開先の形状は、構造図による。</p>	作業種別	板厚区分	アーク手溶接				半自動溶接				N-1F N-1H	N-1F N-1V	SN-1F SN-1H	SN-1F SN-1V	N-2F N-2H	N-2F N-2V	SN-2F SN-2H	SN-2F SN-2V	薄板構造	6mm以下									中板構造	4.5mm以上 25mm以下	A-2F A-2H	A-2F A-2V	SA-2F SA-2H	SA-2F SA-2V					6mm以上 50mm以下	A-3F A-3H	A-3F A-3V	SA-3F SA-3H	SA-3F SA-3V					鋼管構造	薄肉	6mm以下	N-1F N-1P	SN-1F SN-1P	SN-1F SN-1P					中肉	4.5mm以上 19mm以下	A-2F	A-2P	SA-2F SA-2P					厚肉	6mm以上	A-3F	A-3P	SA-3F SA-3P					32mm以下	A-3P	A-3P	SA-3P					<p>●7.6.7 溶接施工</p> <p>【追記】 (1) (力) (a) 監理者の承諾を得て、裏当金にはスチール材、溶接始末端部には代替エンドタブを用いることができる。ただし原則として、AW検定「代替エンドタブ試験」に合格した有資格者とする。 (b) 鋼製エンドタブの切除の有無は、下記による。 *有 適用箇所 (*大梁端部フランジ部全て) ( ) 切断範囲 ( ) ●無</p> <p>【追加】 大梁端部拡幅工法などにより梁端のヒンジ領域から外れる溶接部の鋼製エンドタブの切断等は監理者と協議する。</p> <p>(2) (エ) スカラップの形状は、下記による。 ○構造図による *ノンスカラップ工法 【追記】ただし、付属物等で軽微な構造部等では、監理者と協議の上、上記以外の改良スカラップなどの工法を採用することができる。</p> <p>【追加】 (5) 現場での完全溶込溶接部における溶接施工記録を残すために、あらかじめ用意する「溶接管理テンプレート」の要否は下記による。 *要 ○否 「溶接管理テンプレート」の様式及び記録内容については監理者と協議の上決定するものとするが、溶接日、溶接者、パス数、外気温、ルート間隔、外観・UTの検査結果については記録を残すこと</p> <p>【追加】 (2) (ウ) 試験機関は第三者検査機関とし、監理者が承諾したCIW認定業者とする。東京都の場合、東京都鉄骨加工工場審査基準に基づく指定機関とする。 第三者検査機関名： _____</p> <p>●7.6.11 溶接部の試験を行う技能資格者</p> <p>●7.6.12 溶接部の試験</p> <p>(1) (ア) 溶接部の外観試験は下記による。 (a) 「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」（平成12年5月31日建設省告示第1464号）第二号に関する試験の試験方法は下記による。 ●対象は全数とし、補強方法は「食い違いの検査・補強方法マニュアル」（(社)鉄骨建設業協会、(社)全国鉄構工業協会）による。 (b) JASS 6付則6「鉄骨精度検査基準」の付表3「溶接」に関する試験の試験方法は下記による。 ●対象は全数とする。</p> <p>(イ) 完全溶込み溶接部の超音波探傷試験の要否は、下記による。 *要 ○否</p> <p>【置換】 (a) 試験の規準は(一社)日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準」により、同規準「付則2」の適用は、下記による。 *適用する 適用箇所 (* 固形エンドタブを用いた大梁端部フランジ部全て) ( ) ●適用しない ただし、大梁端部拡幅工法などにより梁端のヒンジ領域から外れる溶接部の試験方法は監理者と協議する。</p> <p>(b) ②適用する AQL は、下記による。 *4.0% ○2.5% ③検査水準は、下記による。 *第6水準 ○第____水準</p> <p>【追加】 ③社内検査はすべての完全溶込み溶接部を対象とする。</p> <p>【追加】 ③梁下フランジ現場溶接部における SH 波斜角超音波探傷試験の要否は、下記による。 ○要（検査率：○20% ○____%） ●否</p> <p>【追加】 (3) 「建築鉄骨溶接継手の内質検査ガイドライン」（一般社団法人日本鋼構造協会）による内質検査の適用は下記とする。 ○適用する *適用しない</p> <p>(ア) 溶接施工時の管理方法は、下記とする。 (a) 工場溶接部 *プロセス管理 ○示温材管理 ○硬さ管理 ただし、ロットは筋ごととする。 (b) 工事現場溶接部 *プロセス管理 *示温材管理 ○硬さ管理 ただし、ロットは筋ごととする。</p> <p>(イ) 対象部位および管理レベルは、下表による。</p> <table border="1" data-bbox="964 1669 1469 1753"> <thead> <tr> <th>部材</th> <th>部位</th> <th>管理レベル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(ウ) 記録方法について、監理者と協議の上、工場製作要領書・工事現場施工要領書に明記すること。 (エ) 不合格箇所の処置方法及びロットが不合格となった場合の処置方法について、監理者と協議の上、工場製作要領書・工事現場施工要領書に明記すること。 (オ) 第三者検査機関による受入検査の要否は、下記による。 *要 ○否</p>	部材	部位	管理レベル										<p>●7.6.13 溶接部の不合格箇所の補修</p> <p>●7.7.2 スタッド溶接作業を行う技能資格者</p> <p>●7.7.8 デッキプレートの溶接</p> <p>●7.8.2 塗装の範囲</p> <p>●7.8.3 工事現場塗装</p> <p>●7.8.4 塗料種別</p> <p>●7.9.2 耐火被覆の種類等</p> <p>●7.9.3 耐火被覆の性能、品質等</p> <p>●7.10.3 アンカーボルト等の設置等</p> <p>○7.11.2 施工</p> <p>●7.12.2 溶融亜鉛めっき高力ボルトの締付け作業における施工管理技術者</p> <p>●7.12.3 溶融亜鉛めっき高力ボルトの締付け作業を行う技能資格者</p> <p>●7.12.4 溶融亜鉛めっき</p> <p>【追記】 (1) 不合格溶接に対する補修の要領は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」（鉄骨製作管理技術者登録機構）に倣い、製作要領書に明記して監理者の承諾を得る。また、告示1464号を満足しない部分の補修は事前に監理者に報告する。</p> <p><b>7節 スタッド溶接及びデッキプレートの溶接</b></p> <p>【追記】(1) スタッド溶接作業を行う技能資格者は、下記による。 ●(社)スタッド協会 基本級（下向き）(A級)</p> <p>デッキプレートを鉄骨部材に溶接する場合は、下記による。 *アークスポット溶接又は隅肉溶接 ○焼抜き栓溶接 ○構造図による</p> <p><b>8節 錆止め塗装</b></p> <p>(1) 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲は下記による。 ○ 耐火被覆の接着する面以外で塗装しない範囲は下記による。 *標仕 7.8.2(1) (ア) ~ (オ) ○標仕 7.8.2(1) (ア) ~ (オ) に加え、次の部分 _____ ○</p> <p>工事現場塗装の錆止め塗料塗り素地ごしらは、C種とする。</p> <p>(1) 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接されたものの内面の錆止め塗料の種別 *標仕 [表 18.3.1] A種 ○ _____ ○行わない (2) 耐火被覆材が接着する面に塗装する場合の錆止め塗料の種別 ●行わない ○ _____ (塗装範囲 _____)</p> <p><b>9節 耐火被覆</b></p> <p>*耐火被覆の種類、材料、工法、使用箇所等は、意匠図による。 【追記】 ○意匠図による他、特に指定する箇所は下記とする。 ・常時鉛直荷重を支持するブレース（該当箇所：構造図による） ・その他（該当箇所：構造図による）</p> <p>(1) 耐火被覆の耐火性能は、意匠図による。</p> <p><b>10節 工事現場施工</b></p> <p>(2) 構造用アンカーボルト及びアンカーフレームの形状及び寸法は、下記による。 *構造図による ○ (3) 建方用アンカーボルトの保持及び埋込みの種類は、下記による。 ○A種 *B種 (5) (ア) 柱底均しモルタルの厚さは、下記による。 *構造図による ○50mm ○30mm (ウ) 柱底均しモルタルの種類は、下記による。 *A種 ○B種</p> <p><b>11節 軽量形鋼構造</b></p> <p>(3) ボルトの接合方法は、構造図による。</p> <p><b>12節 溶融亜鉛めっき工法</b></p> <p>【追記】 施工管理技術者は、溶融亜鉛めっき高力ボルト接合施工技術者等の資格認定委員会により認定を受けた者とする。</p> <p>【追加】 技能資格者は、溶融亜鉛めっき高力ボルト接合施工技術者等の資格認定委員会により認定を受けた者とする。</p> <p>【追記】 (2) めっき部の柱・梁、ブレース接合部はノンスカラップ加工を原則とし、めっき抜き孔はフランジ面から十分な距離をとる。（フランジ面から孔芯までの距離は40～50mmを目安とする）</p> <p>【追加】 (7) めっきを行う鋼材の突合せ溶接部は原則として裏はつりとする。やむを得ず裏当て金を使用する場合は、隙間が生じないように回し溶接をするなどの方法を監理者と協議する。</p>	<p>●7.12.5 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合</p> <p>(1) 摩擦面の処理は下記による。 *プラスト処理 ●リン酸塩処理</p> <p>【追加】 (ウ) プラスト以外の特別な処理をした場合のすべり耐力等の確認方法は、下記による。 ○すべり係数試験（判定基準：<math>\mu=0.40</math>以上） ●すべり耐力試験 ○ _____</p> <p>【追加】 (エ) 試験の方法、試験片の摩擦面の状態は、(社)日本建築学会「高力ボルト接合設計施工ガイドブック」に倣い、試験片の摩擦面については、その状態を全数確認の上、監理者へ報告する。 また、プラスト以外の特別な処理を実施した摩擦面についても、その状態を全数確認の上、監理者へ報告する。</p>
作業種別	板厚区分			アーク手溶接				半自動溶接																																																																																											
		N-1F N-1H	N-1F N-1V	SN-1F SN-1H	SN-1F SN-1V	N-2F N-2H	N-2F N-2V	SN-2F SN-2H	SN-2F SN-2V																																																																																										
薄板構造	6mm以下																																																																																																		
中板構造	4.5mm以上 25mm以下	A-2F A-2H	A-2F A-2V	SA-2F SA-2H	SA-2F SA-2V																																																																																														
	6mm以上 50mm以下	A-3F A-3H	A-3F A-3V	SA-3F SA-3H	SA-3F SA-3V																																																																																														
鋼管構造	薄肉	6mm以下	N-1F N-1P	SN-1F SN-1P	SN-1F SN-1P																																																																																														
	中肉	4.5mm以上 19mm以下	A-2F	A-2P	SA-2F SA-2P																																																																																														
	厚肉	6mm以上	A-3F	A-3P	SA-3F SA-3P																																																																																														
		32mm以下	A-3P	A-3P	SA-3P																																																																																														
部材	部位	管理レベル																																																																																																	
<p>公共建築課長 主査等 担当者 工事名</p>		<p>図面番号 SS-05 区分 建築</p>																																																																																																	
<p>久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事</p>		<p>図面名 構造特記仕様書 5</p>																																																																																																	
<p>年度(西暦表示) 2021年1月</p>		<p>年度(西暦表示) 2021年1月</p>																																																																																																	

一般事項

1. 建築概要

建築場所 神奈川県横須賀市久里浜1丁目381-4, 381-5の一部他  
 建物用途 事務所・飲食店  
 規模 地上2階、塔屋1階  
 構造種別 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造  
 構造形式 耐震壁付きラーメン構造  
 基準レベル G.L. = TP + 12.10m  
 地下水位 G.L. - 1.60 m

2. 地業

基礎形式 杭基礎  
 支持層 杭基礎：GL-48m以深の泥岩層

場所	捨てコンクリート	砕石	備考
基礎下	50 mm	60 mm	
基礎梁下	50 mm	60 mm	
基礎スラブ下	50 mm	60 mm	
土間コンクリート下		60 mm	

3. 鉄筋

3.1 使用材料

鉄筋 JIS G 3112 SD295A 規格品 D16以下  
 SD345 規格品 D19以上 D25以下  
 SD390 規格品 D29以上 D35以下  
 WSD390 大臣認定品 (MSRB-0118) WD38J

溶接金網 JIS G 3551 線径 6mm 網目寸法 100mm

3.2 鉄筋記号

表示記号	●	×	◇	○	◎	⊗	⊙	⊘	⊚	⊛	⊜
呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41

3.3 鉄筋継手

重ね継手 D16以下  
 ガス圧接 D19以上D35以下 (開口補強筋、壁筋、擁壁主筋および基礎スラブ筋は除く)

4. コンクリート

コンクリートの種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	調合管理強度 Fm (N/mm <sup>2</sup> )	所要スラブ (スランブフロー) (cm)	気乾単位 体積重量 (t/m <sup>3</sup> )	単位水量 の最大値 (kg/m <sup>3</sup> )	単位セメント量 の最小値 (kg/m <sup>3</sup> )	水セメント比 の最大値 (%)	セメントの 種類記号	使用箇所
マスコンクリート	27	27+S	18	2.30	185	270	65	M又はL	基礎
普通	24	24+S	18	2.30	185	270	65	N	基礎梁、基礎スラブ 1階スラブ、スタンド
	24	24+S	21	2.30	185	270	65	N	上部構造
無筋	18	18	18	2.30	185	270	65	N	捨てコンクリート 押えコンクリート

凡例 N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、M：中庸熱ポルトランドセメント  
 BB：高炉セメントB種、L：低熱ポルトランドセメント

※ 構造体強度補正値(S)は気象庁データ等により、コンクリート打ち込みから材齢28日までの平均気温が予想できない場合は、6N/mm<sup>2</sup>とする。

5. 鉄骨

5.1 使用材料

鋼板・形鋼 JIS G 3101 SS400 規格品  
 JIS G 3106 SM490A 規格品  
 JIS G 3136 SN490C 規格品

建築構造用冷間成形型鋼管 BCR295 大臣認定品 (MSTL-0390他)  
 規格品  
 高力ボルトのセット JIS B 1186 2種A (F10T) 規格品  
 トルシア形高力ボルトのセット JIS II 09 2種 (S10T) 大臣認定品 (MBLT-0100他)  
 溶融亜鉛めっき高力ボルトのセット 1種A (F8T) 大臣認定品 (MBLT-0050他)  
 アンカーボルト JIS G 3101 SS400 規格品 2重ナット締め  
 JIS G 3138 SNR400B 規格品 2重ナット締め

スタッドコネクタ JIS B 1198 頭付きスタッド  
 STUD 16φ, 19φ h=100

床型用鋼製デッキプレート (社)公共建築協会性能評価品  
 フラット型デッキプレート JIS G 3302 SDP1TGA 規格品

建築用ターンバックル JIS A 5540, 5541, 5542 規格品  
 ※大臣認定番号は代表する番号を記載しており、その他は構造計算書及び同等の製品と  
 監理者が承認したものを適用する。

5.2 鉄骨の材質区分

特記のない場合は下記による。

使用区分	SS400	SN400A	SN400C	SN490A	SN490B	SN490C	BCR295
主材	柱						○
	大梁	○			○		
	小梁	○			○		
	鉛直ブレース						
	水平ブレース						
スプライスプレート ガセットプレート	大梁	○			○		
	小梁	○			○		
	鉛直ブレース						
	水平ブレース						
ダイヤフラム (通しダイヤ t≦40mm SN490C t>40mm TMCP325B-C)	内ダイヤ				○		
	通しダイヤ					○	
ベースプレート			○	○	○		

5.3 用語

本設計図で使用する用語は関連JIS及び日本建築学会「建築工事標準仕様書JASS6 鉄骨工事」及び「鉄骨工事技術指針」によるほか下記による。

F.R.：フランジプレート B.R.：ベースプレート  
 W.R.：ウェブプレート FILL.R.：フィラープレート  
 T.R.：トッププレート A.B.：アンカーボルト  
 D.R.：水平スチフナプレート G.R.：ガセットプレート  
 S.R.：スプライスプレート P.R.：仕口パネルプレート

5.4 ボルト記号

種別	呼び径	記号	備考
高力ボルト	M16	●	F10T S10T
	M20	●	
	M22	●	
	M24	●	
溶融亜鉛めっき高力ボルト	M16	+	F8T
	M20	+	
アンカーボルト			各詳細図に特記する

5.5 溶融亜鉛めっきの範囲

屋外に面する鉄骨部材は、すべて溶融亜鉛めっきとし、高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T)を使用する。

6. 令第129条の2の3の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

- 建築物に設ける昇降機にあっては、第129条の4及び第129条の5 (これらの規定を第129条の12第2項において準用する場合を含む。)
  - 129条の6第1号並びに第129条の8第1項の規定(第129条の3第2項第1号に掲げる昇降機にあっては、第129条の6第1号の規定を除く。)に適合すること。
  - 建築設備(昇降機を除く)、建築設備の支持構造及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれがないものとする。
  - 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、構造耐力上主要な部分に緊結すること。
  - 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支杵を設けたものを除き、90cm以下とすること。
  - 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。
  - 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は、
    - 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
    - 建築物の部分を通って配管する場合には、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。
    - 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生じるおそれがある場合には、伸縮継手又は可とう継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
    - 管を支持し、又は固定する場合には、つり金物又は防振ゴムを用いて等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。
  - 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものについては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとして、
  - 給湯設備\*は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。
  - 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。
- \*「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの
- 上記事項について構造関係規定に適合することを確認した。

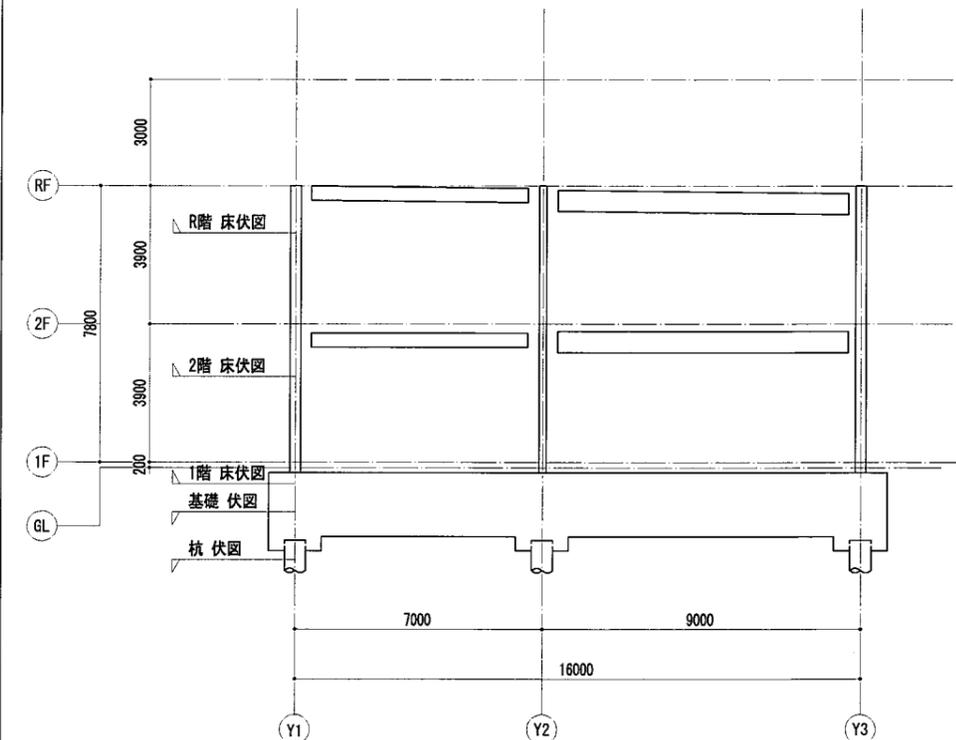
7. 増築予定

なし

8. 寸法表示

特記なき限り、記載寸法は、mm単位とする。

KEY SECTION



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面番号 S-01

縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400

区分 建築

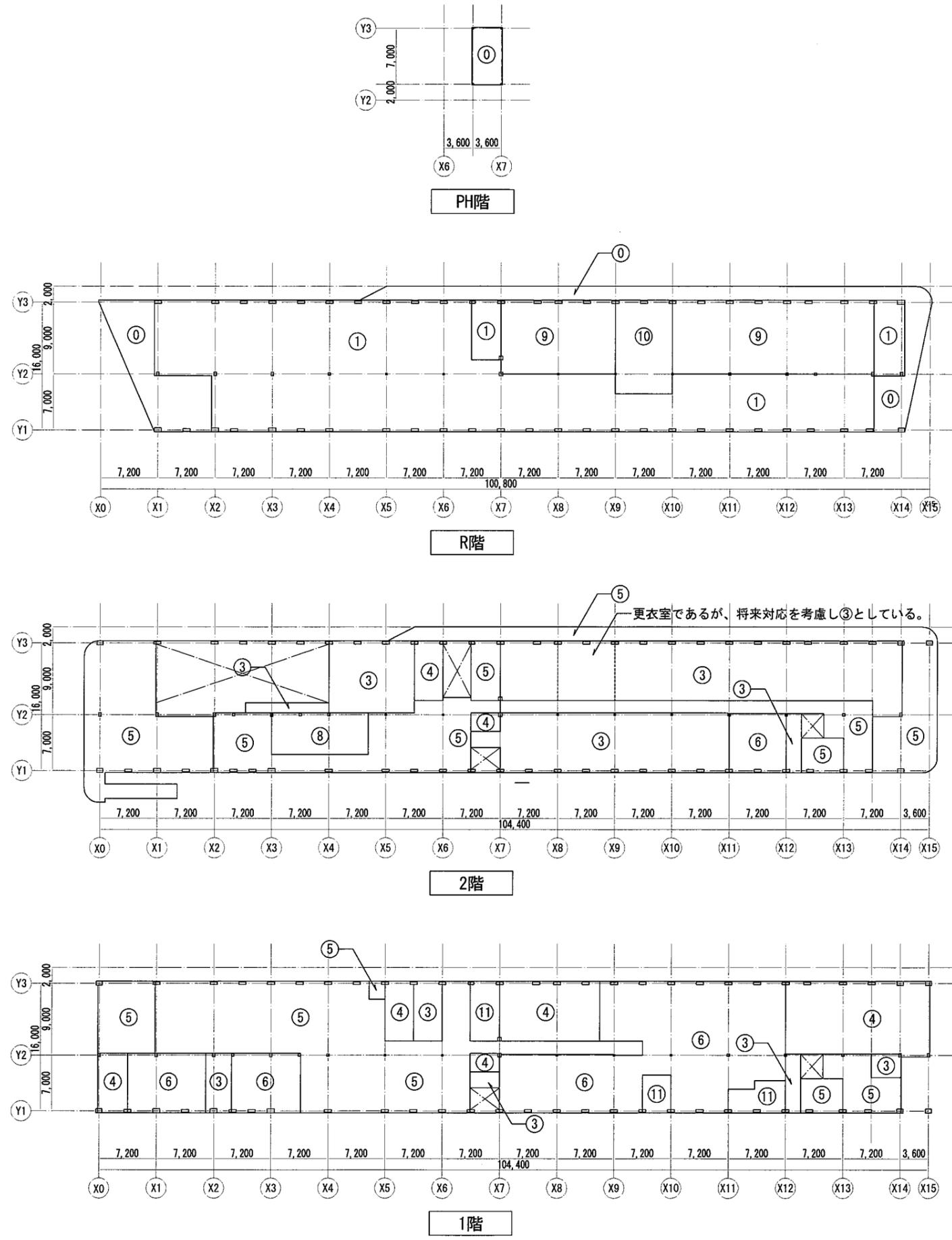
年月日 2021年1月

共通事項

特記なき限り下記による。

1. 積載荷重一覧 (単位: N/m<sup>2</sup>)

符号	室名	S	B	R	E
①	屋上 (非歩行)	1000	1000	600	400
①	屋上 (歩行)	1800	1800	1300	600
③	事務室、会議室、守衛室	2900	2900	1800	800
④	倉庫、サーバー室	7800	7800	6900	4900
⑤	トレーニングルーム、食堂、テラス エントランス、廊下、機械室3	3500	3500	3200	2100
⑥	トイレ、更衣室、浴槽	1800	1800	1300	600
⑧	厨房	5400	5400	3900	2000
⑨	室外機置場	3400	3400	2400	1200
⑩	キュービクル	5600	5600	4600	1500
⑪	機械室1、2、消火ポンプ室	5400	5400	3900	2000



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面番号  
積載荷重表  
S-02

区分  
建築

縮尺  
A1: 1/300 A3: 1/600

年月日  
2021年1月



2章 各部配筋

1.6.2 鉄筋の加工

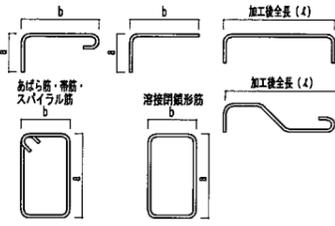
- a 有害な曲りあるいは損傷のある鉄筋は用いない。
- b コイル状の鉄筋は、直線筋にかけて用いる。この際、鉄筋に損傷を与えてはならない。
- c 鉄筋は鉄筋加工用機に、所定の寸法に切断する。切断は、シャークカッターまたは直刃切断機などによって行う。鉄筋の折曲げは、手動鉄筋折曲げ機または自動鉄筋折曲げ機などによって行う。
- d 鉄筋の加工は、設計図書および鉄筋加工図に従い、下記(1)および(2)により行う。

(1) 加工寸法の許容差は、特記による。特記のない場合は表6.2による。

表6.2 加工寸法 (単位: mm)

項目	符号	許容差
各加工寸法 (1)		
主筋	D25以下	a, b ±15
	D29以上D41以下	a, b ±20
あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	±5
加工後の全長	L	±20

注) (1) 各加工寸法および加工後の全長の測り方を図面にしめす。



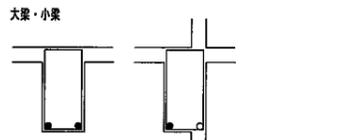
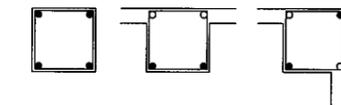
(2) 折曲げは冷間加工とし、その形状・寸法は特記による。特記のない場合は表6.1による。

1.7 鉄筋の末端に必ずフックをつける箇所

下記(1)~(8)に示す鉄筋の末端部には、フックを付ける。あばら筋および帯筋のフック折曲げ角度は各規定による。

- (1) 丸筋
- (2) あばら筋および帯筋
- (3) 柱、大梁、小梁、耐力壁の出隅の鉄筋を重ね継手する場合

●: 出隅の鉄筋



注) 耐力壁以外の壁付き部材(柱、大梁、小梁)の場合はO印筋も出隅として扱う。

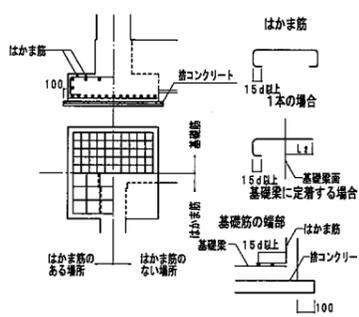
- (4) 煙突の鉄筋
- (5) 柱筋の最上端
- (6) 柱の最上端に床スラブのない場合、および設計図に指示のある場合
- (7) 片持梁、片持スラブの上端筋の先端
- (8) 床スラブおよびシングル配筋の耐力壁の自由端に終る鉄筋の先端を含む。

2.1 基礎

2.1.1 独立基礎

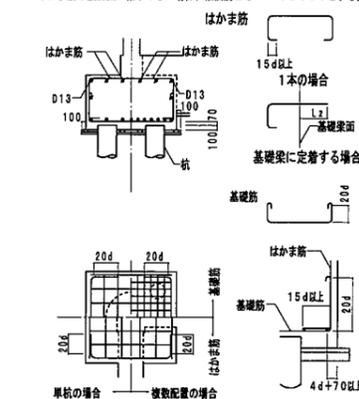
(1) 直接基礎

基礎筋、はかま筋および地業は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦筋ともD10@300とする。



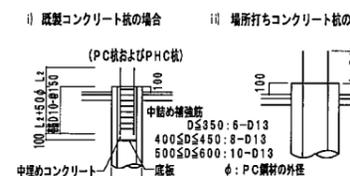
(2) 杭基礎

基礎筋、はかま筋、地業および杭頭部は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦筋ともD13@300とする。



(3) 杭頭部の配筋

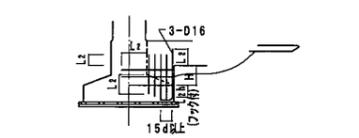
杭頭部の配筋は設計図による。設計図に指示のない場合は下図による。



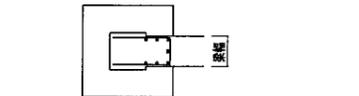
注) 中継めコンクリートは基礎コンクリートと同時に打設する。

(4) 独立基礎と基礎梁の接合

基礎が下がる場合の補強は設計図による。設計図に指示のない場合は下図による。

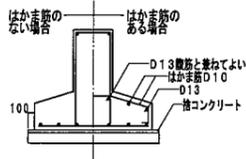


H ≤ 200 縦筋: 基礎梁のあばら筋と同径、同間隔とする。  
横筋: なし  
H > 200 縦筋: 基礎梁のあばら筋と同径、同間隔とする。  
横筋: D13-@200  
コンクリートの厚さ: 基礎梁の幅とする。



2.1.2 連続基礎

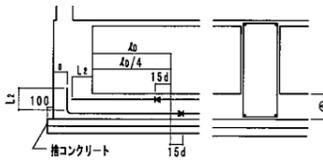
基礎筋、はかま筋および地業は設計図による。はかま筋は設計図に指示のない場合、縦筋ともD10-@300とする。



2.1.3 ベタ基礎

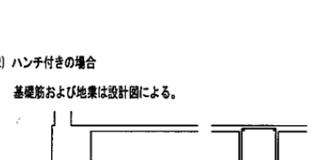
(1) ハンチなしの場合

基礎筋および地業は設計図による。

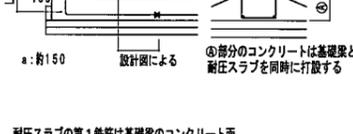


(2) ハンチ付きの場合

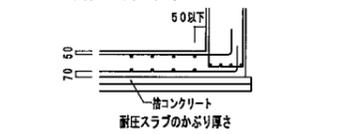
基礎筋および地業は設計図による。



注) ④部分のコンクリートは基礎梁と耐圧スラブを同時に打設する。



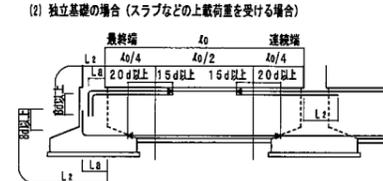
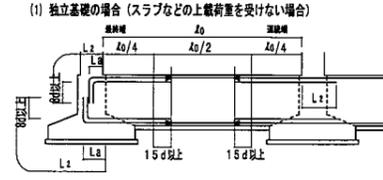
耐圧スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面から50mm程度以下の位置とする。



2.2 基礎梁

2.2.1 配筋および定着

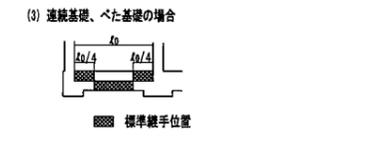
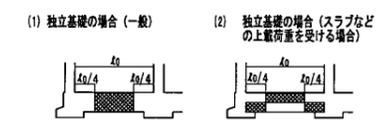
ここに記載した事項以外は2.4による。



※ L<sub>a</sub> の数値は、原則として、柱せいの3/4倍とする。

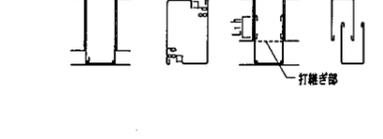
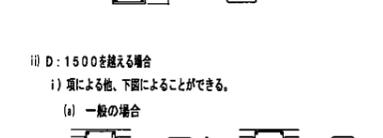
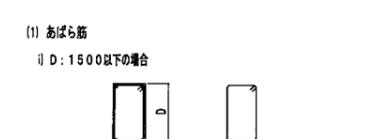
2.2.2 継手位置

継手位置は標準継手位置を原則とする。



2.2.3 あばら筋

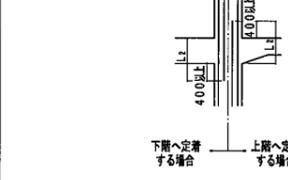
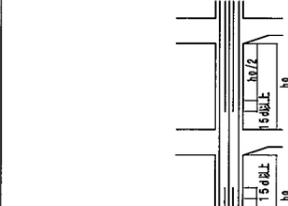
ここに記載した事項以外は2.4.3による。



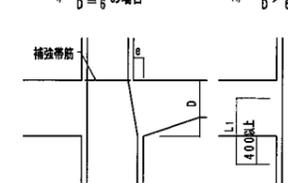
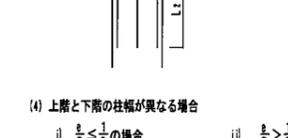
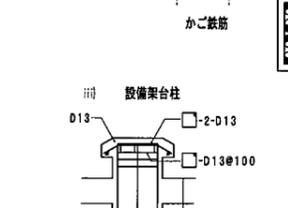
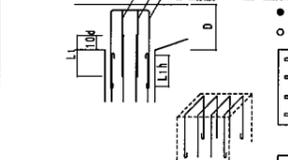
2.3 柱

2.3.1 配筋および定着

(1) 柱頭と柱脚で配筋が異なる場合



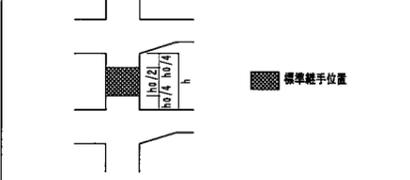
注) 出隅部の鉄筋にはフックを付ける



注) 柱筋の継り位置は、梁筋と柱筋の中心線の交差点とする。

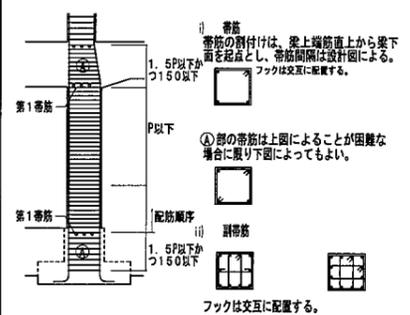
2.3.2 継手位置

継手位置は、標準継手位置を原則とする。



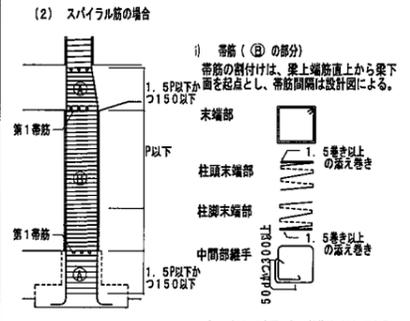
2.3.3 帯筋

(1) 一般の場合



注) フックは交互に配置する。

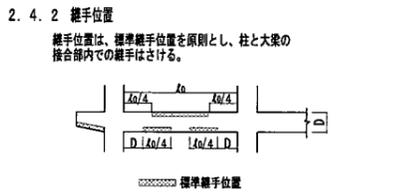
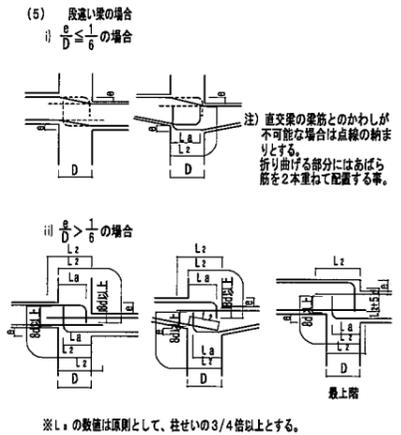
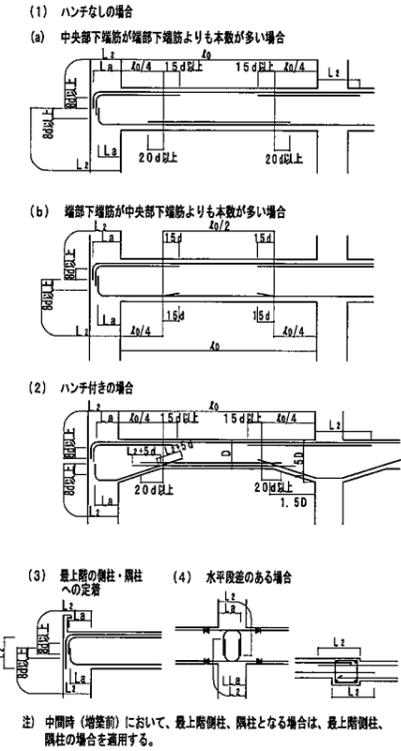
(2) スパイラル筋の場合



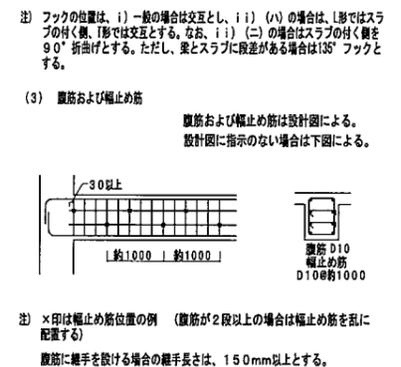
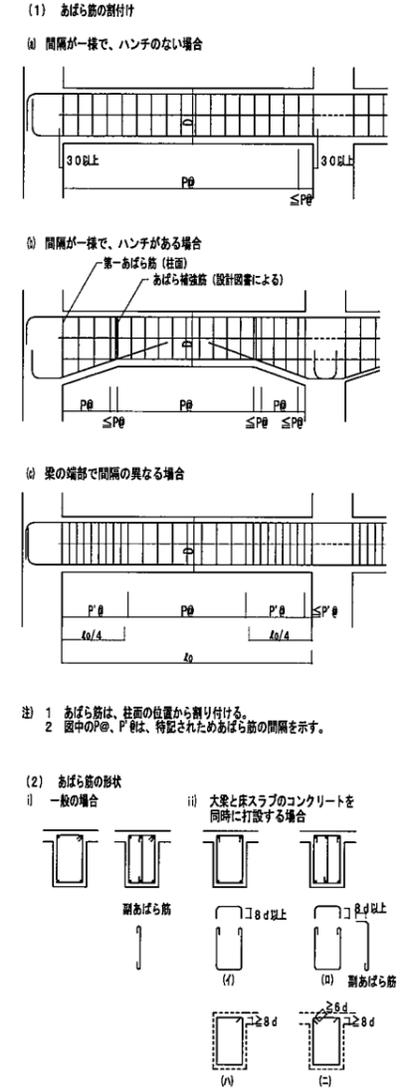
注) (2) に表現のない部分は(1)による。

2.4 大梁

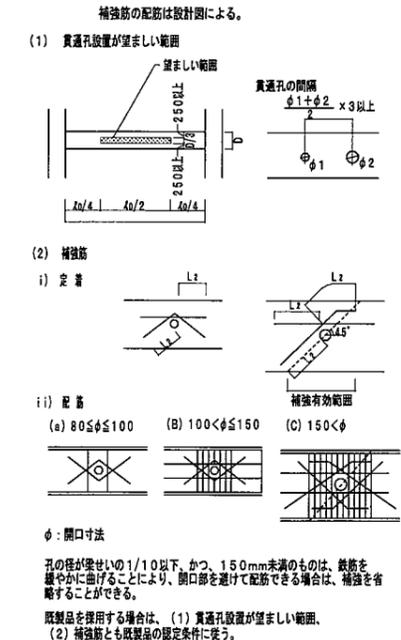
2.4.1 配筋および定着



2.4.3 あばら筋、腹筋および幅止め筋

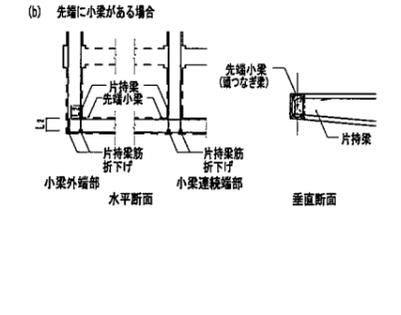
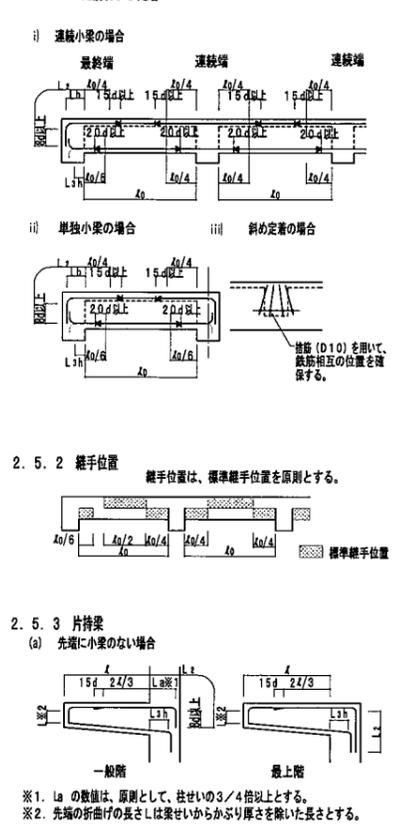


2.4.4 貫通孔補強



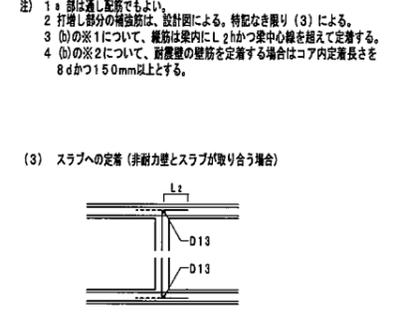
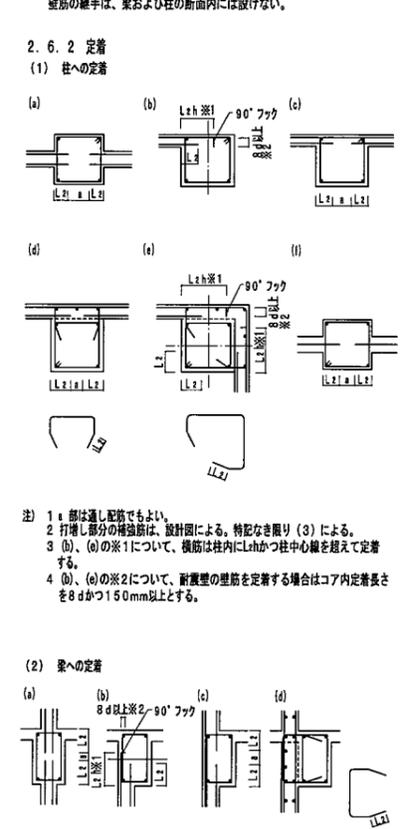
2.5 小梁

2.5.1 配筋および定着

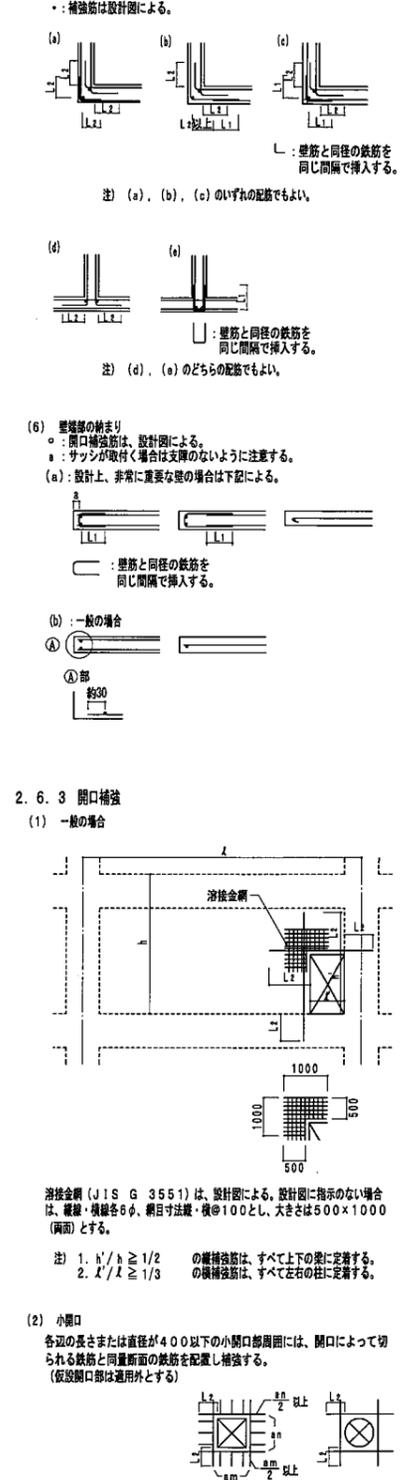


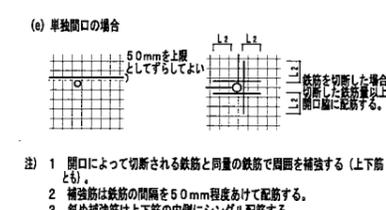
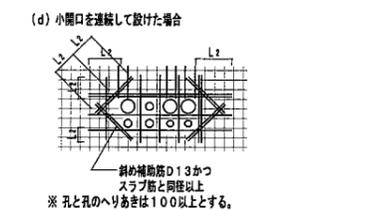
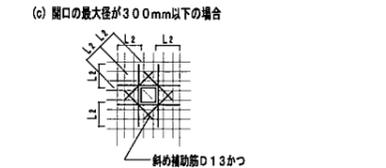
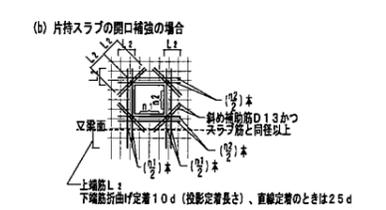
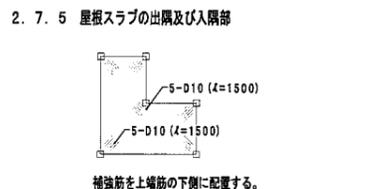
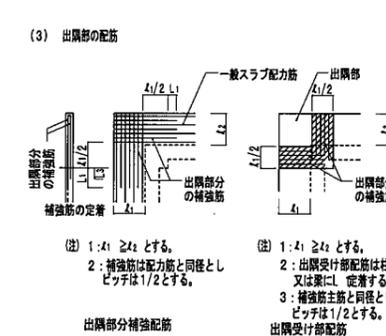
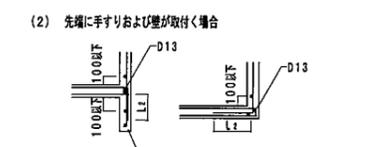
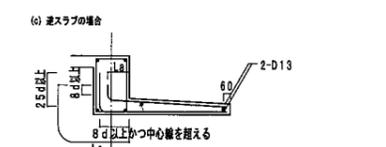
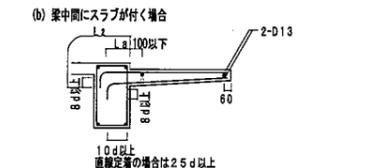
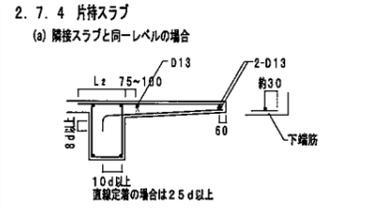
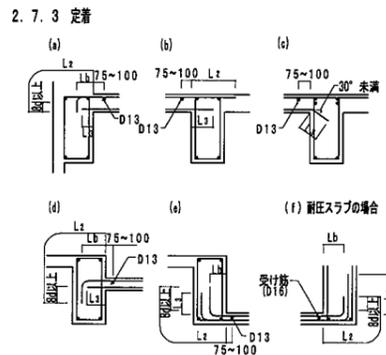
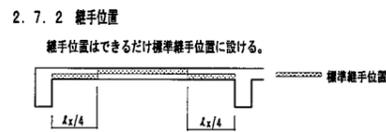
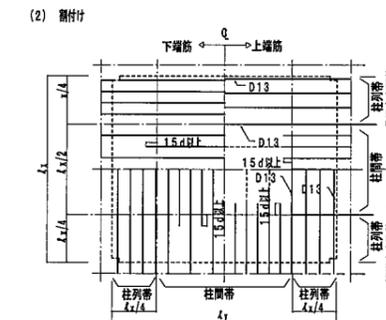
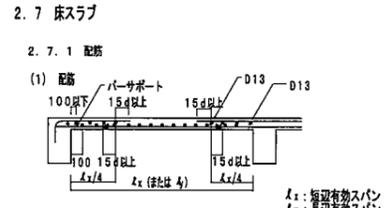
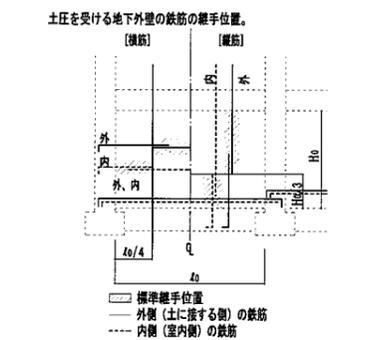
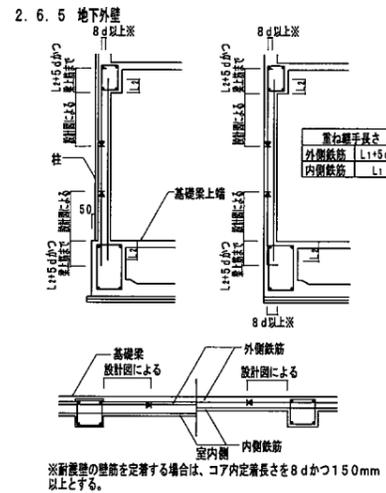
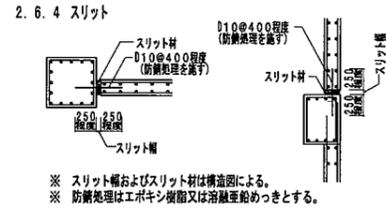
2.6 壁

2.6.1 継手位置

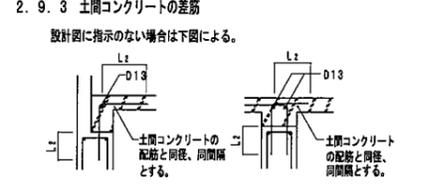
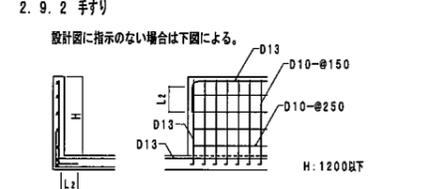
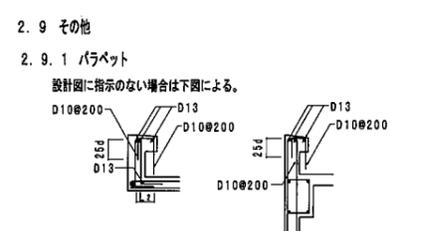
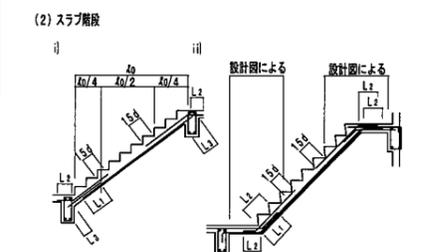
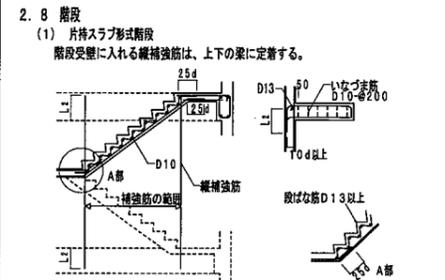
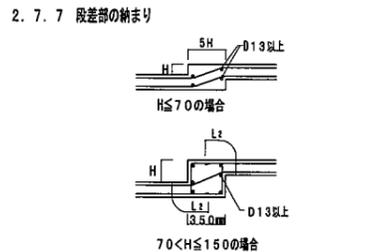


2.6.3 開口補強





注) 1 開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強する（上下筋とも）  
2 補強筋は鉄筋の間隔を50mm程度あけて配筋する。  
3 斜め補強筋は上下筋の内側にシングル配筋する。  
4 開口が梁に接している場合は、補強筋の定着長さは梁面からの長さとする。  
5 開口の最大径が両方向の鉄筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。



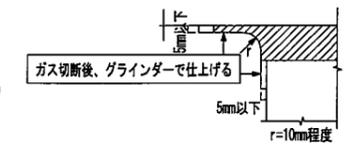
# 1 章 溶 接 継 手 形 式 と 溶 接 形

突き合わせ継手		T継手		かど継手		すみ肉溶接		その他の継手																																				
I-1	I-11	レ-1	T-1	T-6	L-1	L-11	S-1	S-11	T-CES																																			
				L-11からL-12への移行部分の開先形状 		V-11からV-12への移行部分の開先形状 		共通事項 1. 突き合わせ継手 a) 溶接する板または材（以下用材と書く）の表面の高さに4mm（自動溶接の場合3mmをこえる速のある場合は、高いほうの母材の継手付添を、低いほうの高さまで削除する。削減する傾斜は、1:2.5以下とする。表面の高さが、上記の値以下の場合には、溶接部の表面が、なだらかな傾斜となるように溶接する。 b) L形開先におけるα、a、sは下記による。 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th>手溶接</th> <th>t<sub>1</sub></th> <th>a'</th> <th>a</th> <th>s</th> </tr> <tr> <td>≤19</td> <td>45</td> <td>6</td> <td>設計図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>&gt;19</td> <td>35</td> <td>9</td> <td>による</td> <td></td> </tr> </table> ガスシールドアーク溶接 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr> <th>手溶接</th> <th>t<sub>1</sub></th> <th>a'</th> <th>a</th> <th>s</th> </tr> <tr> <td>≤19</td> <td>45</td> <td>6</td> <td>設計図</td> <td></td> </tr> <tr> <td>&gt;19</td> <td>35</td> <td>7</td> <td>による</td> <td></td> </tr> <tr> <td>&gt;40</td> <td>30</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		手溶接	t <sub>1</sub>	a'	a	s	≤19	45	6	設計図		>19	35	9	による		手溶接	t <sub>1</sub>	a'	a	s	≤19	45	6	設計図		>19	35	7	による		>40	30	7		
手溶接	t <sub>1</sub>	a'	a	s																																								
≤19	45	6	設計図																																									
>19	35	9	による																																									
手溶接	t <sub>1</sub>	a'	a	s																																								
≤19	45	6	設計図																																									
>19	35	7	による																																									
>40	30	7																																										
スクラップ、その他 (1) スクラップ  (2) スニップカット (単位: mm) <table border="1" style="font-size: x-small;"> <tr> <th>t</th> <td>6</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>16以上</td> </tr> <tr> <th>S<sub>c</sub></th> <td>10</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> </table> 一般の場合 裏当て金使用の場合 現場溶接部下フランジの場合	t	6	9	12	16以上	S <sub>c</sub>	10	12	14	15					3. エンドタブ a) 設計図に指定のある溶接部の始端・終端には、必ず継ぎ目と同じ形状・材質のエンドタブを使用する。エンドタブは10mm程度残して切断し、グラインダーで5mm以下に仕上げる。エンドタブを切断する場合の切断法・切断面の精度及び仕上げ方法は通常の場合下記による。上記以外の溶接部の両端は必ずまし溶接をする。 <table border="1" style="font-size: x-small;"> <tr> <th rowspan="2">切断法</th> <th colspan="2">切断面の許容値</th> <th rowspan="2">仕上げ方法</th> </tr> <tr> <th>面のあらさ</th> <th>ノッチ深さ</th> </tr> <tr> <td>母材より10mm程度を残してガス切断</td> <td>200 μmRy</td> <td>1mm</td> <td>研削 (グラインダー)</td> </tr> </table>					切断法	切断面の許容値		仕上げ方法	面のあらさ	ノッチ深さ	母材より10mm程度を残してガス切断	200 μmRy	1mm	研削 (グラインダー)															
t	6	9	12	16以上																																								
S <sub>c</sub>	10	12	14	15																																								
切断法	切断面の許容値		仕上げ方法																																									
	面のあらさ	ノッチ深さ																																										
母材より10mm程度を残してガス切断	200 μmRy	1mm	研削 (グラインダー)																																									

鉄筋径 (d)	L	A	B'	B	C	a	L1
D10, M10	6	3.0	5	8	5.0	1	50
D13, M12	7	3.5	5	9	5.5	1	65
D16	8	4.0	6	10	6.0	1	80
D19	9	4.5	7	11	7.0	1	95
D22	10	5.0	8	12	8.0	1	110

B, B', Cの溶接部角度は、30°~40°とした場合の規準とする。使用溶接部は、4mm以下とする。

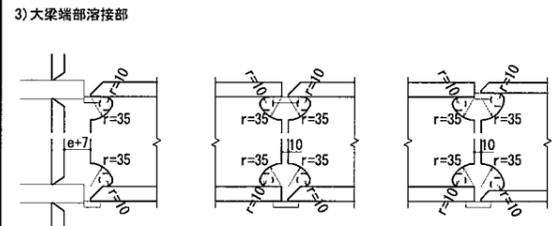
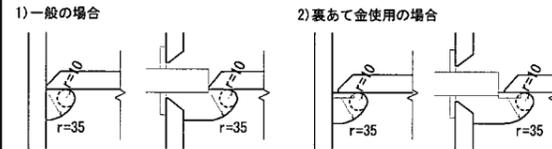
t	s	備考
6	5	
9	7	
12	9	
14	10	
16	12	自動溶接の場合に適用
19	12	梁貫通孔補強孔に適用
22	12	梁貫通孔補強孔に適用
25	12	梁貫通孔補強孔に適用



## 2章 鉄骨加工共通事項

### 2.1 一般事項

- a) 柱梁接合部にエンドタブを取付ける場合には、裏当て金に取付ける。  
直接母材に組立てを溶接をしないこと。
- b) 組立て溶接は、組立て・運搬・本溶接作業において組立て部材の形状を保持し、かつ組立て溶接が割れないように、必要で十分な長さ4mm以上の脚長をもつビードを適切な間隔で配置しなければならない。  
組立て溶接のビードの長さは (t ≤ 6 30mm, t > 6 40mm) を最小とし、特にショートビードとならないように注意する。
- c) 裏当て金を用いた柱梁接合部の組立て溶接は、梁フランジ両端から10mm以内及びフィレット部の止まり、または隅肉溶接止端部から10mm以内の位置には行わない。また、裏当て金の組立て溶接はサイズ4～6mmで1パスとし、長さ40～60mm程度とする。
- d) 梁端接合部の工場溶接は、ノンスクラップ形式とする。  
現場溶接等によりスクラップが必要な場合は下記による。



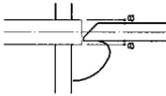
- e) 下地材取付のために、柱・梁等に現場溶接する箇所には、工場で捨てプレートを取付ける。

### 3章 柱 (角形鋼管)

#### 3.1 角形鋼管 (ボックスコラム)

##### 3.1 一般事項

- a) 本章は、BCR295及びF80P325を用いた鉄骨構造に適用する。
- b) 柱・梁仕口の形式は、原則として通しダイヤフラム方式とする。
- c) 柱の現場継手は、溶接接続とする。継手位置は、梁のフランジより一般に1,200mmの高さとする。
- d) 柱心から、梁仕口の先端までの長さは一般に1,200mmとする。
- e) 梁の現場継手は、高力ボルト摩擦接合とする。
- 5) ダイヤフラムは、集結する梁フランジの最大厚に対して芯合わせとする。

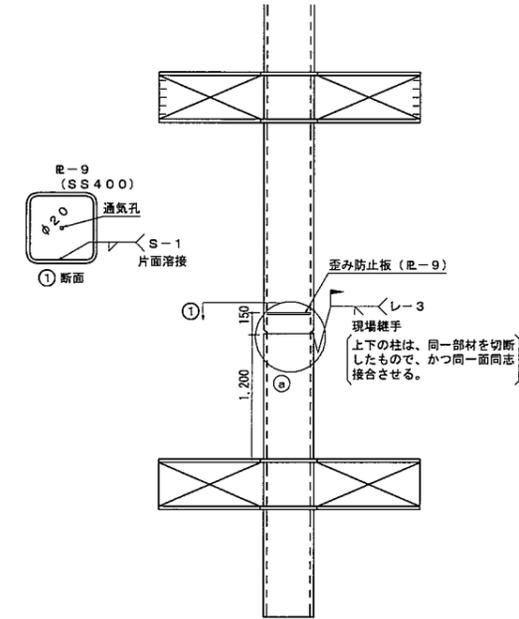


- 6) 通しダイヤ (D.PL) の板厚は、取付く梁フランジプレート最大厚の2サイズアップ以上、かつ柱板厚以上とする。  
内ダイヤ (D.PL) の板厚は、取付く梁フランジプレート最大厚の1サイズアップ以上とする。  
材質は下記による。  
通しダイヤ: SN490C (t ≤ 40mm) T MCP325C (t > 40mm)  
内ダイヤ: 梁材と同材質 ただし40mm超の場合はT MCP325B

- 7) 1つの柱梁仕口部にダイヤフラムが3枚以上となる場合、外側の2枚を通しダイヤとし、その他を内ダイヤとする。  
ただし、梁端部フランジが角型鋼管柱のr部分に係る場合は、通しダイヤとする。
- 8) 柱: BCR295、大梁: SN490 (SN490) の場合は、通しダイヤとする。
- 9) 鉄骨仕口部の検査は、建築基準法に基づく告示1464により行うこと。  
不具合が生じた場合は、「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強」マニュアル: 独立行政法人建築研究所監修により行う。

### 3.2 柱姿図 (通しダイヤフラム方式)

- (1) 中間階  
● 垂み防止板は、厚さ9mm程度とし、柱の開放された端面付近に設ける。



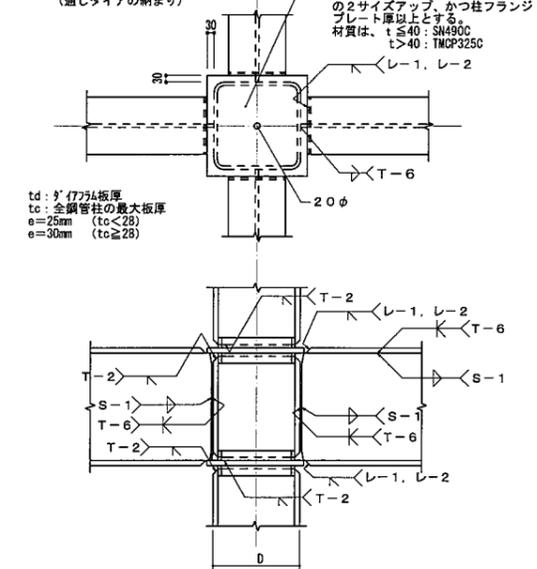
#### 注意事項

- 柱内に雨水等が入らないように養生すること。
- 上柱の裏当て金のテーパ部は雨水や塵埃が付着する可能性があるため、溶接前にバーナー等で加熱・蒸散させること。
- 裏当て金に塗布した錆止め塗料が、上柱挿入時に剥がれる場合があるため、溶接前に除去すること。
- 裏当て金の受けベースおよび裏当て金に、柱自重が作用するため、強度上必要な溶接量を確保すること。

② 部詳細 (柱現場継手部詳細)

### 3.3 柱・梁仕口

- (1) 中間階  
a) 梁せいがほぼ同一の場合 (通しダイヤの納まり)

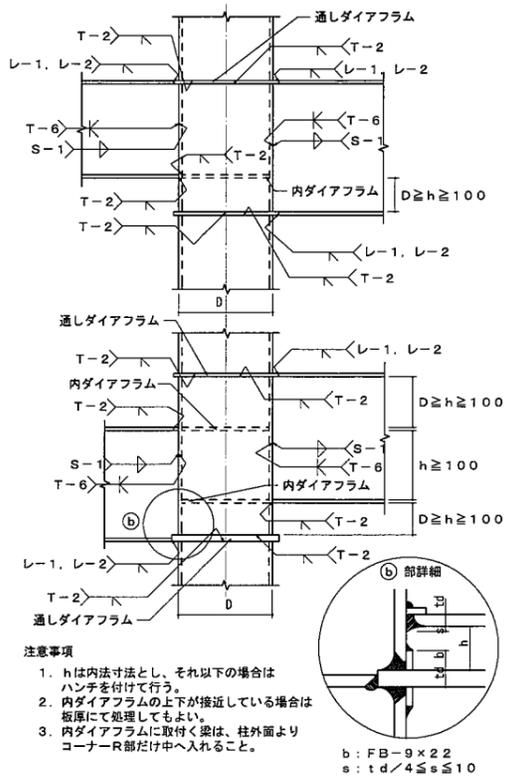


td: g アイアイ板厚  
tc: 全鋼管柱の最大板厚  
e=25mm (to < 28)  
e=30mm (to > 28)

#### 注意事項

- コラム内の裏当て金は溶接の不具合が生じたときの手直しを行うために FB-9 × 22以上が必要である。
- 梁ウェブの隅肉溶接は、板厚16mm以上の場合は T-7 とする。

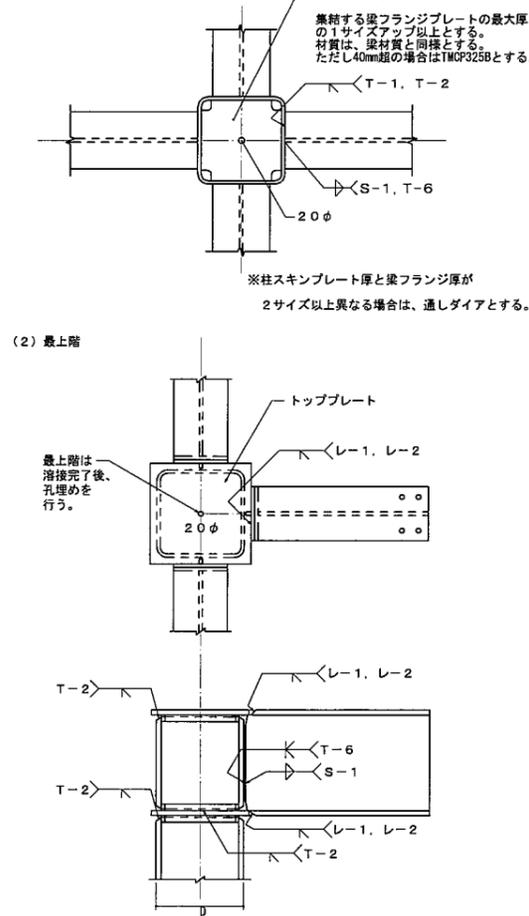
#### b) 梁せいが異なる場合



#### 注意事項

- hは内法寸法とし、それ以下の場合にはハンチを付けて行う。
- 内ダイヤフラムの上下が接近している場合は板厚にて処理してもよい。
- 内ダイヤフラムに取付く梁は、柱外面よりコーナーR部だけ中へ入れること。

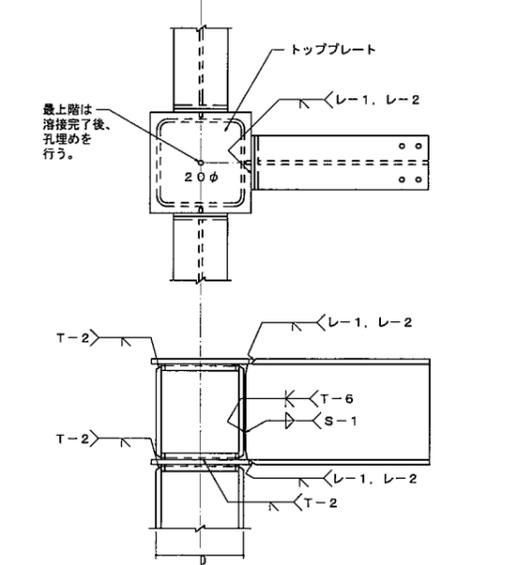
(内ダイヤの納まり)



集結する梁フランジプレートの最大厚の1サイズアップ以上とする。  
材質は、梁材質と同接とする。  
ただし40mm超の場合はT MCP325Bとする。

※柱スキムプレート厚と梁フランジ厚が2サイズ以上異なる場合は、通しダイヤとする。

#### (2) 最上階



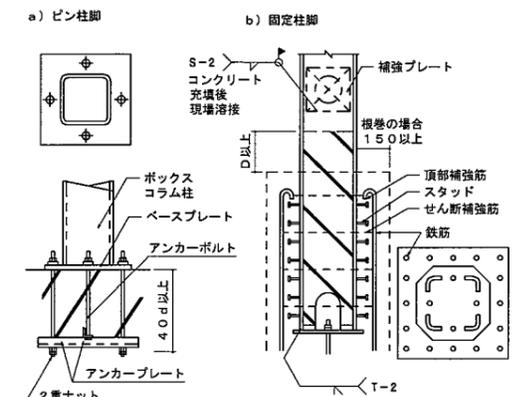
最上階は溶接完了後、孔埋めを行う。

公共建築課長 主査等 担当者

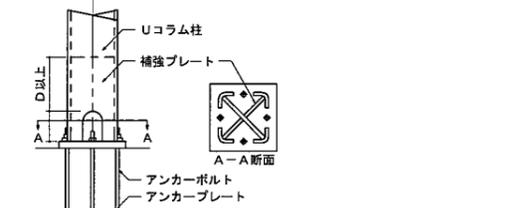
工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

### 3.4 柱脚



(参考) ピン柱脚-補強プレート方式



注: A-A断面での断面積を柱材断面積以上とする。

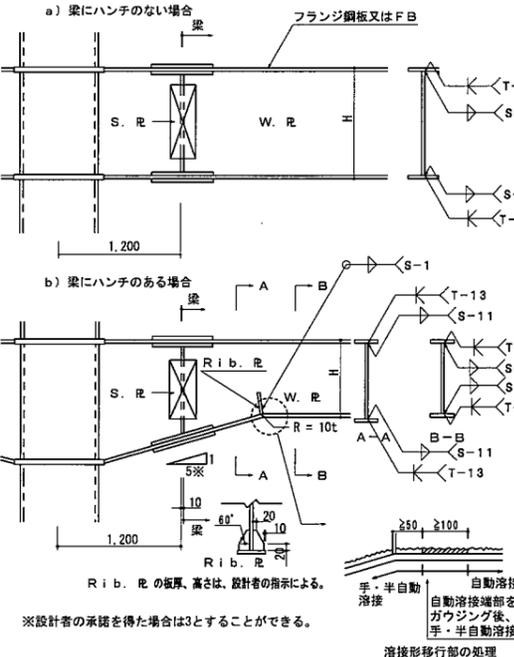
## 4章 梁

### 4.1 梁

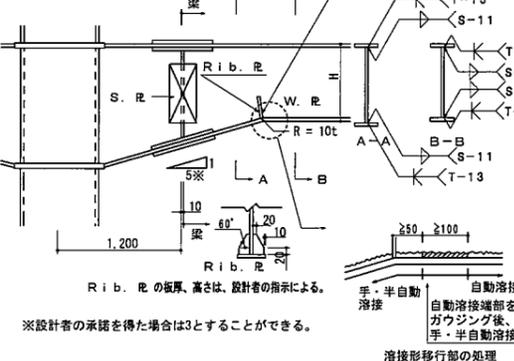
#### 4.1.1 一般事項

- a) フランジに鋼板又はFBを用いた溶接組立て材、及びH形鋼を標準とする。
- b) ウェブ材は、一般に厚さ6mm以上のものを使用する。

#### 4.1.2 姿図



#### b) 梁にハンチのある場合

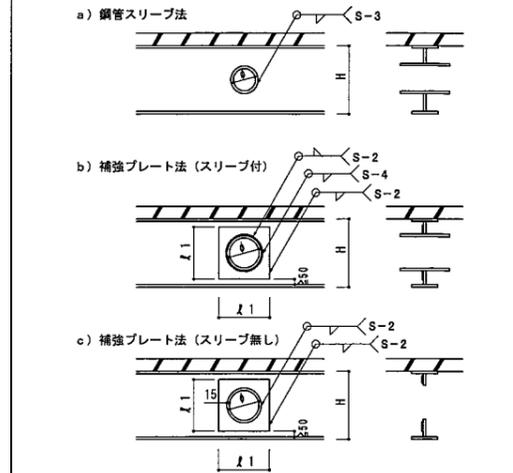


Rib. R の板厚、高さは、設計者の指示による。

※設計者の承諾を得た場合は3とすることができる。

自動溶接 自動溶接後、手・半自動溶接

### 4.2 梁貫通孔の補強

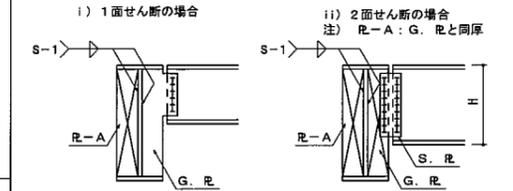


#### 注意事項:

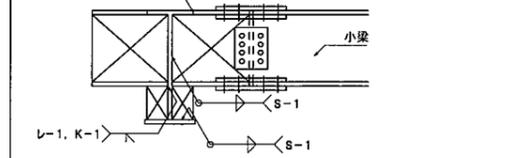
- ・補強方法、補強部材形状、板厚等は設計者・監理者の指示による。
- ・φ ≤ 0.4D、(鉄骨造ではφ ≤ 0.5H) とする。
- ・梁端部 (スパンの L / 10以内かつ20以内) は避ける。
- ・補強プレート法で、補強プレートの必要厚が12mmを超える場合は、ウェブプレートの両面に補強プレートを溶接し、板厚を抑える。

### 4.3 梁・小梁の仕口

#### a) 単純梁の仕口



#### b) 連続梁の仕口

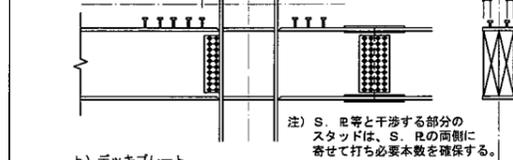


#### 注意事項:

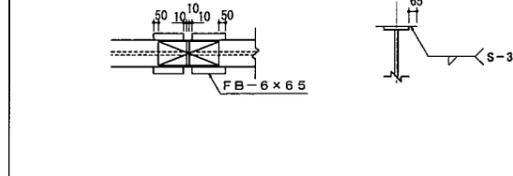
- ・G.PL端部は10～15mm程度フランジ幅より小さくし直し溶接を行う、フランジ幅と同様とし溶接を10mm程度手前で止める等、監理者と協議すること。

### 4.4 スタッド、デッキプレートの取付け

#### a) スタッド

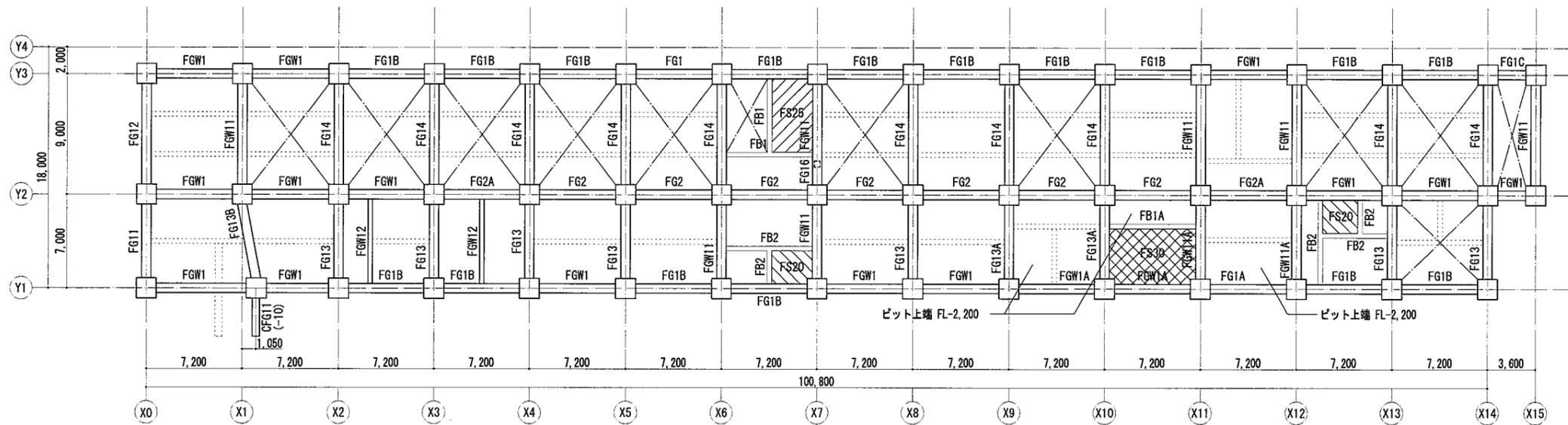


#### b) デッキプレート

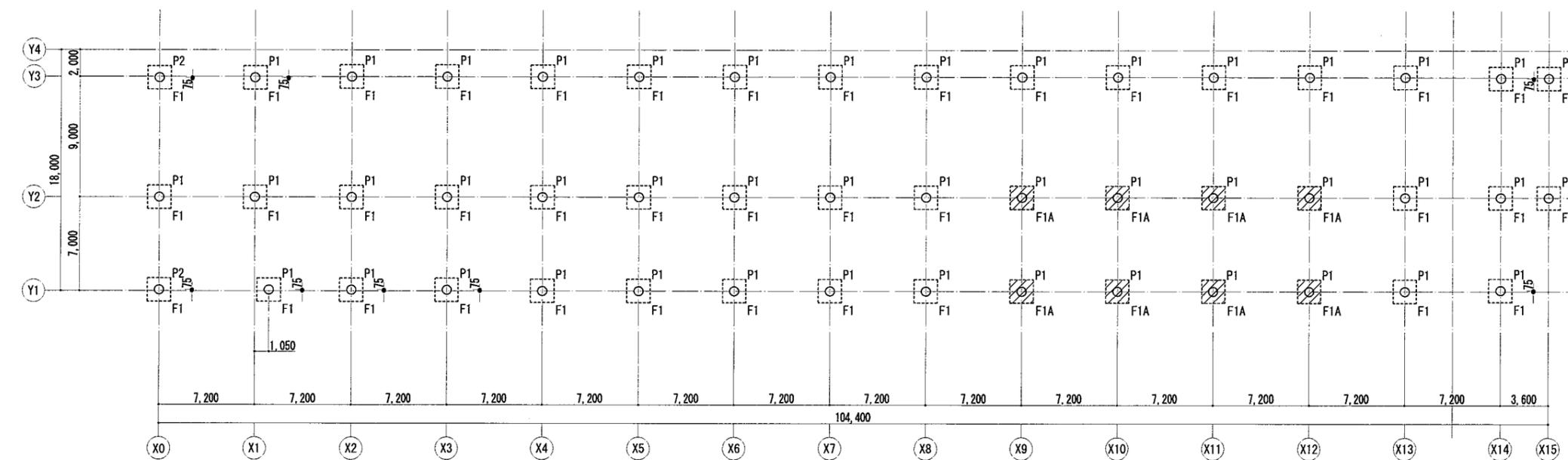


注) S. R等と干渉する部分のスタッドは、S. Rの両側に寄せ打ち必要本数を確保する。

図面名	鉄骨工作標準図	図面番号	S-08	区分	建築
縮尺	A1: 1/	A3: 1/	年月日	2021年1月	



基礎伏図



杭伏図

基礎伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. 部材の上端レベルは下記による。

1階	大梁	小梁	床スラブ
	-300	-10	-1400 (捨てコンピット)
	-300	-60	-1250
	-300	-60	-1400
	-300	-	-2200

レベルが2つにまたがる場合は低い梁レベルに合わせる。

2. 特記なき断面は符号を下記とする。

- 1) は埋め戻し範囲を示す。
- 2) 埋め戻し範囲以外は捨てコンピットとし、上端レベルは1FL-1400とする。ただし、FSn 設置範囲は設けない。

3. FS20、FS25、FS30は上部増打ち10mmは不要とする。

杭伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. 基礎下端および杭頭レベルは下記による。

1階	基礎下端	杭頭
	-2,500	-2,200
	-2,900	-2,600

2. 試験杭の本数は4本とし、位置は監理者と協議の上、決定すること。

3. 杭芯=通り芯とする。

4. 特記なき断面は符号を下記とする。

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

杭伏図、基礎伏図

図面番号

S-09

区分

建築

縮尺

A1: 1/200

A3: 1/400

年月日

2021年1月

特記なき限り下記による。

1. 部材の上端レベルは下記による。

1階	小梁	床スラブ
	- 10	- 10
	- 60	- 60
	-130	-130
	-430	-430
	-	-800
	勾配に合わせる	勾配付

レベルが2つ以上にまたがる場合は最も低い梁レベルに合わせる。  
スラブより梁レベルが低い場合は、スラブ上端まで梁を増し打ちする。

2.  $\text{+}000$  は、1階からの大梁の天端レベルを示す。

3. 床開口の位置、サイズは意匠図による。

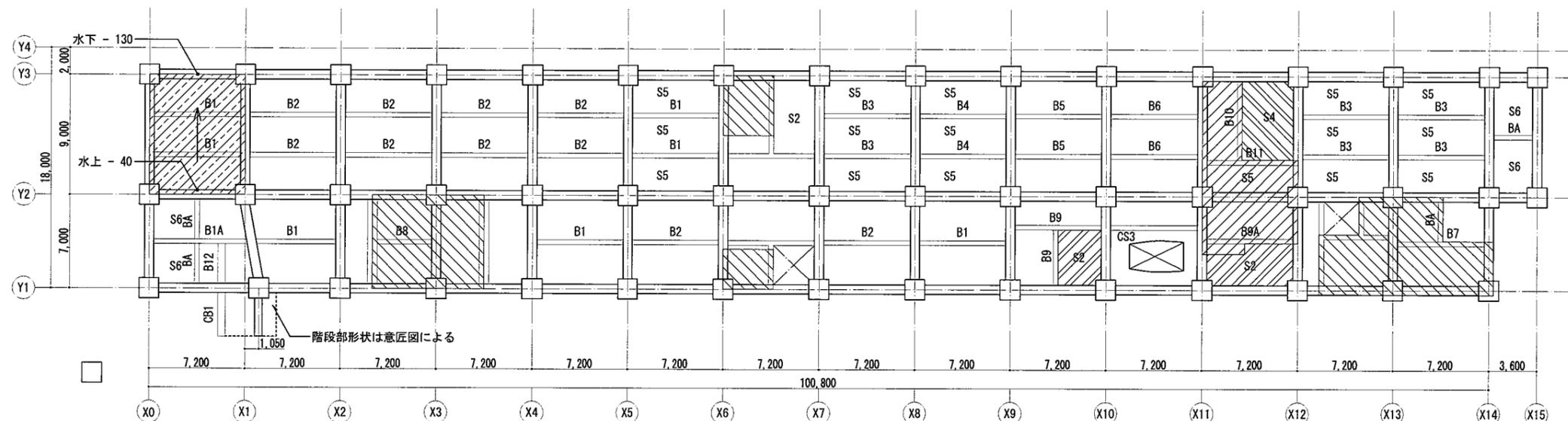
4. 図面表示例

1) 、 は床スラブ開口を示す。

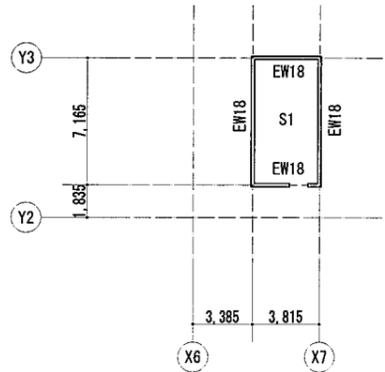
5. 特記なき断面は符号を下記とする。

1) 床スラブは S1 とする。

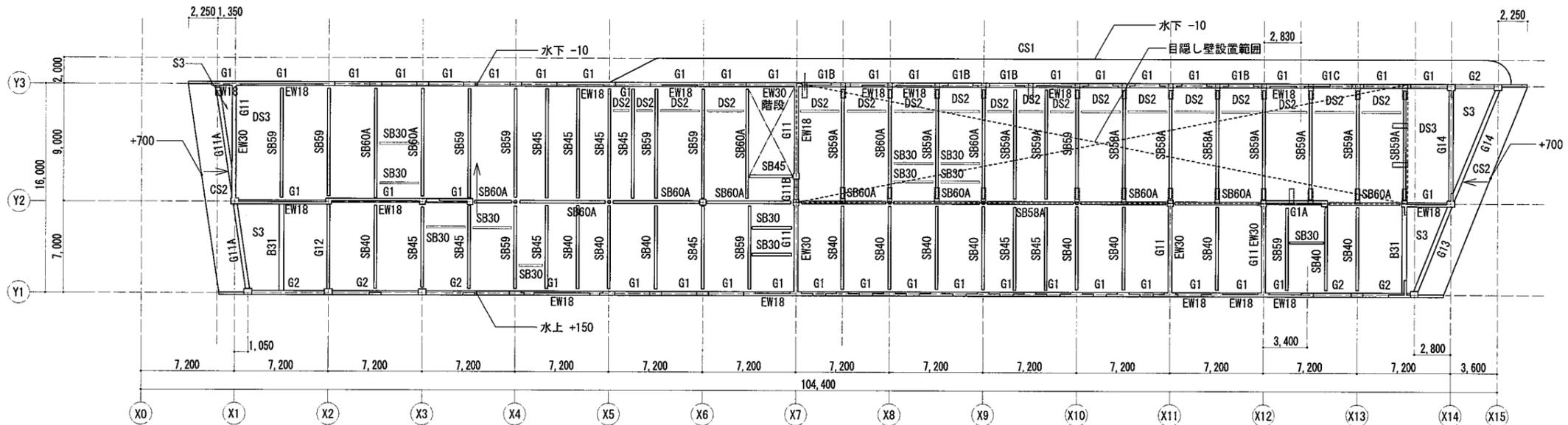
2) 片持ちスラブは CS1 とする。



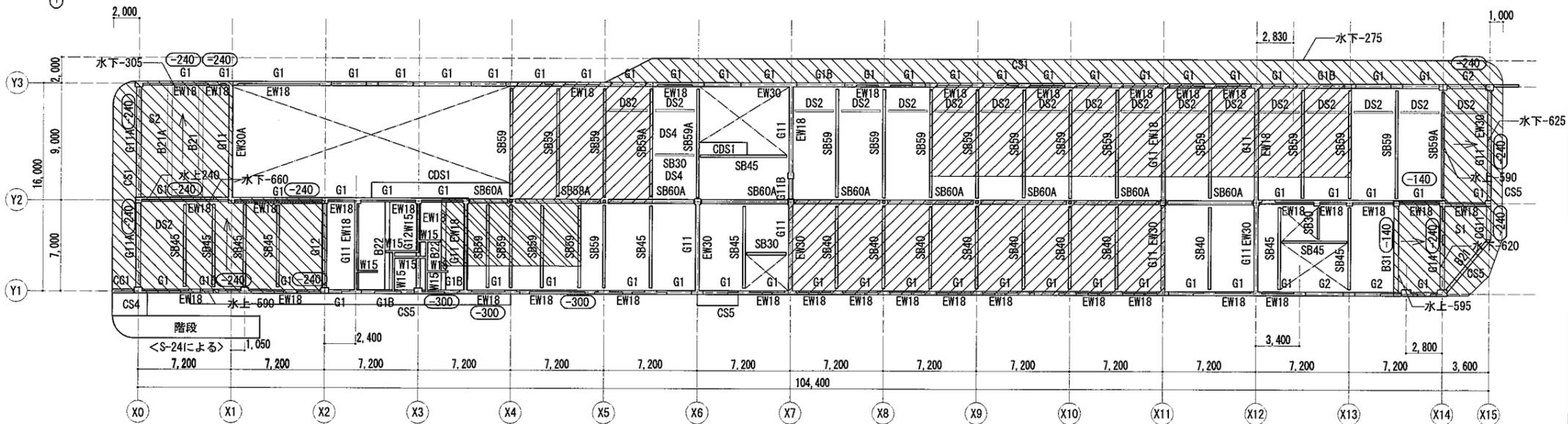
1階床伏図



PH階 床伏図



R階 床伏図



2階 床伏図

R階 床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. 部材の上端レベルは下記による。

R階	RC大梁	RC小梁	S梁	床スラブ
	勾配に合わせる	勾配に合わせる	勾配に合わせる	勾配付

レベルが2つ以上にまたがる場合は最も低い梁レベルに合わせる。

詳細なレベル設定は、意匠図による。

勾配付き梁レベルは、軸組図及び意匠図による。

DS2を支持する鉄骨梁は、DS1を支持する鉄骨梁より50mm下げる。

2. 床開口の位置、サイズは意匠図による。

3. 図面表示例

1) □, ⊗ は床スラブ開口を示す。

4. 特記なき断面は符号を下記とする。

1) 床スラブは DS1 とする。

2) 片持ちスラブは CS1 とする。

3) 壁は W18 とする。

4) 鉄骨小梁は SB25 とする。

2階 床伏図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. 部材の上端レベルは下記による。

2階	RC大梁	RC小梁	S梁	床スラブ
	-10	-10	-160(-210)	-10
	-110	-110	-260(-310)	-110
	勾配に合わせる	勾配に合わせる	勾配に合わせる	勾配付き
	-300	-300	-450	-300

レベルが2つ以上にまたがる場合は最も低い梁レベルに合わせる。

詳細なレベル設定は、意匠図による。

数値の記載なきY1通り、Y3通りの大梁レベルは、-10とする。

勾配付き梁レベルは、軸組図及び意匠図による。

( )内は、DS2を指示する鉄骨梁に適用する。

CS5のレベルは意匠図による。

2. ⊕000 は、2階からの大梁の天端レベルを示す。

3. 床開口の位置、サイズは意匠図による。

4. 特記なき断面は符号を下記とする。

1) 床スラブは DS1 とする。

2) 片持ちスラブは CS1 とする。

3) 壁は W18 とする。

4) 鉄骨小梁は SB25 とする。

5. ■ は、梁の横増打ちを示す。



軸組図 共通事項

特記なき限り下記による。

1. 下階柱符号、梁符号は上階に倣う。

1) は開口を示す。

3. 特記なき断面は符号を下記とする。

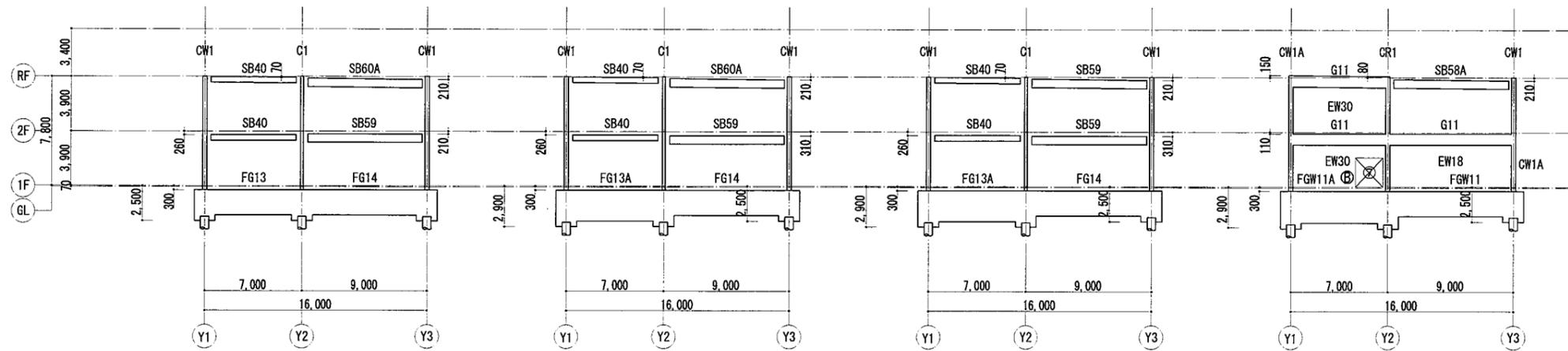
1) 壁は W18 とする。

4. 耐震壁の開口寸法

符号	幅 x 高さ	符号	幅 x 高さ
①	1,050x2,250		
②	1,050x1,050		
③	1,050x 750		
④	1,900x 700		
⑤	1,050x1,050		
⑥	1,950x 750		
⑦	1,900x2,200		
⑧	2,000x 800		
⑨	800x 400		
⑩	1,000x1,200		

4. 耐震壁の開口補強筋

符号	縦筋	横筋	斜め筋
Ⓐ	4-D19	4-D19	2-D13
Ⓑ	4-D19	6-D19	4-D13
Ⓒ	4-D19	6-D19	2-D13
Ⓓ	4-D16	4-D16	2-D13

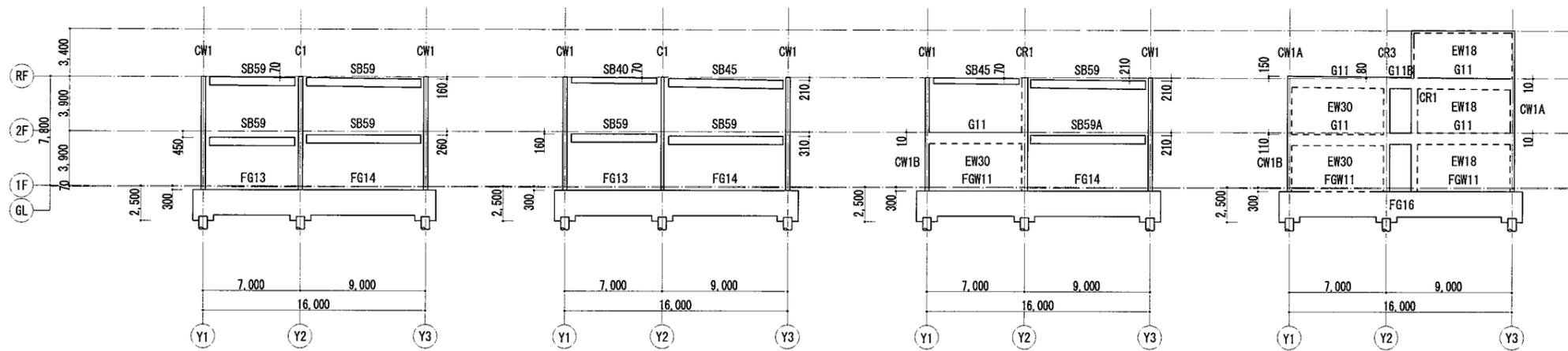


X8通り 軸組図

X9通り 軸組図

X10通り 軸組図

X11通り 軸組図

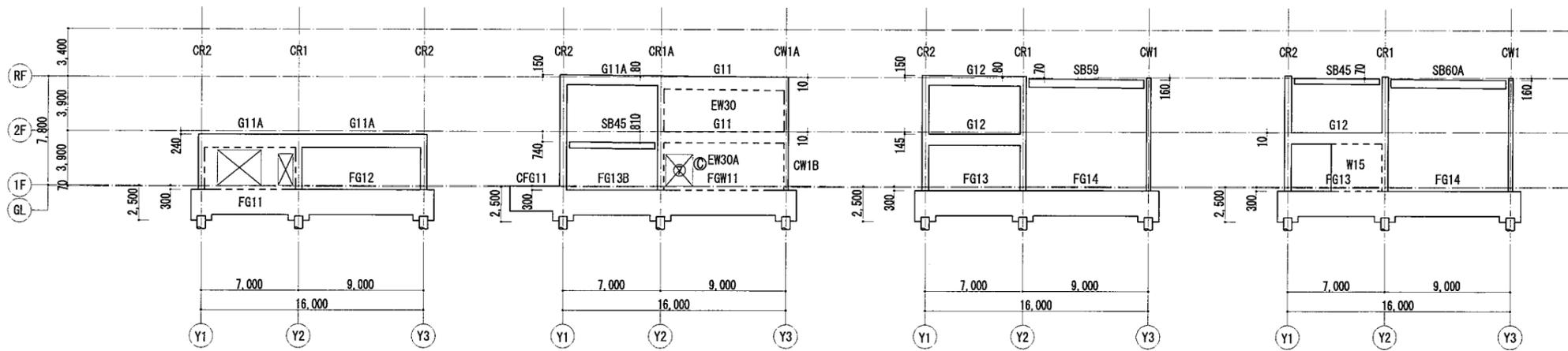


X4通り 軸組図

X5通り 軸組図

X6通り 軸組図

X7通り 軸組図



X0通り 軸組図

X1通り 軸組図

X2通り 軸組図

X3通り 軸組図

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名  
軸組図(2)

図面番号  
S-13

区分  
建築

縮尺  
A1: 1/200 A3: 1/400

年月日  
2021年1月

軸組図 共通事項

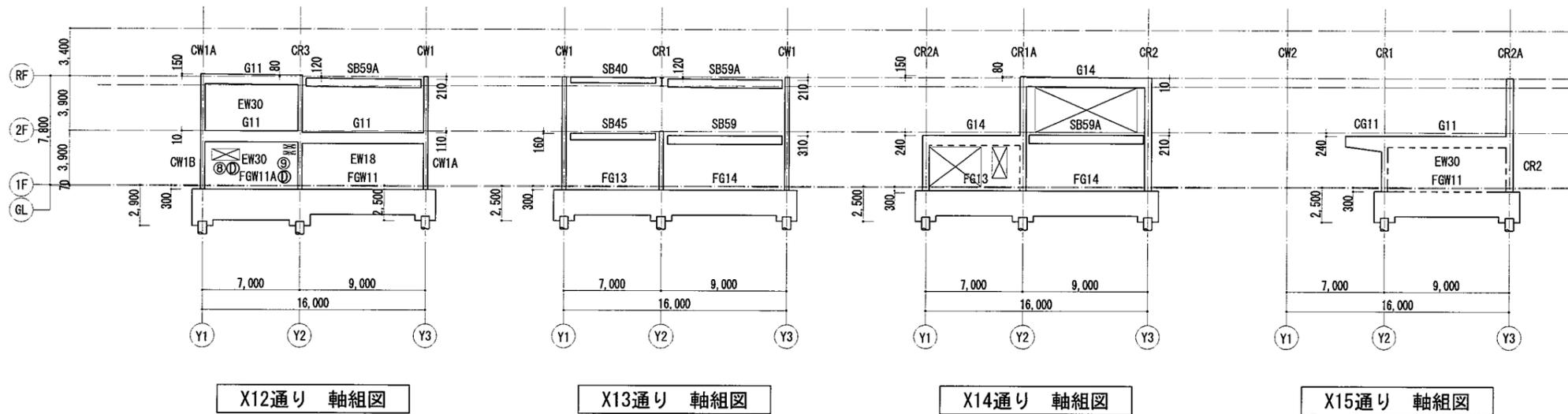
特記なき限り下記による。

1. 下階柱符号、梁符号は上階に倣う。
2. 図面表示例
  - 1) ☒は開口を示す。
3. 特記なき断面は符号を下記とする。
  - 1) 壁は W18 とする。
4. 耐震壁の開口寸法

符号	幅 x 高さ	符号	幅 x 高さ
①	1,050x2,250		
②	1,050x1,050		
③	1,050x 750		
④	1,900x 700		
⑤	1,050x1,050		
⑥	1,950x 750		
⑦	1,900x2,200		
⑧	2,000x 800		
⑨	800x 400		
⑩	1,000x1,200		

4. 耐震壁の開口補強筋（斜め筋は鉄筋とする）

符号	縦筋	横筋	斜め筋
④	4-D19	4-D19	2-D13
⑤	4-D19	6-D19	4-D13
⑥	4-D19	6-D19	2-D13
⑩	4-D16	4-D16	2-D13



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

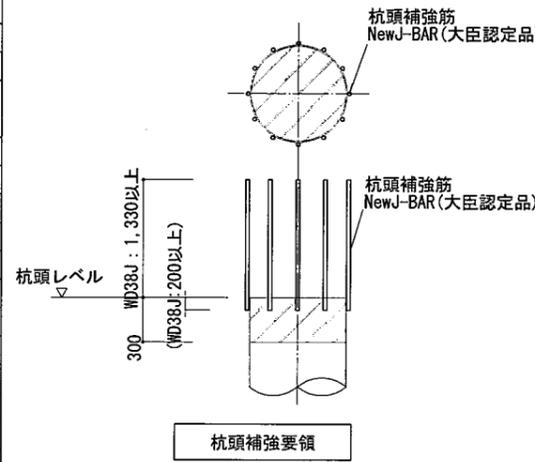
図面名 軸組図(3)

図面番号 S-14 区分 建築

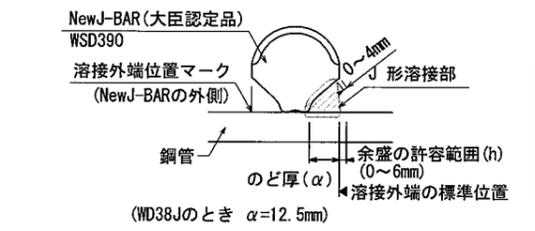
縮尺 A1: 1/200 A3: 1/400

年月日 2021年1月

杭断面リスト			
符号	P1	P2	
上杭	杭頭	J-BAR 14-D38	J-BAR 16-D38
	杭径	700	700
	杭種	SC杭 SKK490 t=12mm 105N/mm <sup>2</sup> 肉厚100mm	SC杭 SKK490 t=14mm 105N/mm <sup>2</sup> 肉厚100mm
	杭長(m)	5.0	5.0
中杭1	杭径	700	700
	杭種	PHC-105-C種 肉厚100mm	PHC-105-C種 肉厚100mm
中杭2	杭径	700	700
	杭種	PHC-105-B種 肉厚100mm	PHC-105-B種 肉厚100mm
中杭3	杭径	700	700
	杭種	PHC-105-A種 肉厚100mm	PHC-105-A種 肉厚100mm
下杭	杭径	700	700
	杭種	PHC-105-A種 肉厚100mm	PHC-105-A種 肉厚100mm
杭長(m)		49.0	49.0
長期許容支持力(kN)		3800	3800
短期許容支持力(kN)		7600	7600
短期許容引抜き(kN)		1150	1150
本数		43本	4本

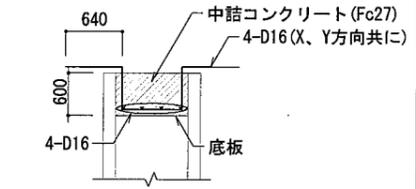


- 杭頭補強筋溶接要領
- 杭頭補強筋には、NewJ-BAR：大臣認定番号 MSRB-0118を使用し施工前に計画書を作成すること。
  - 溶接にあたっては、杭外周及び鉄筋表面の油、ゴミ、泥を十分清掃し杭表面と鉄筋は十分乾燥させたあと、溶接する。
  - 施工要領、溶接資格者、溶接棒の種類などは、工法ごとに定められた技術資料等に基づく。



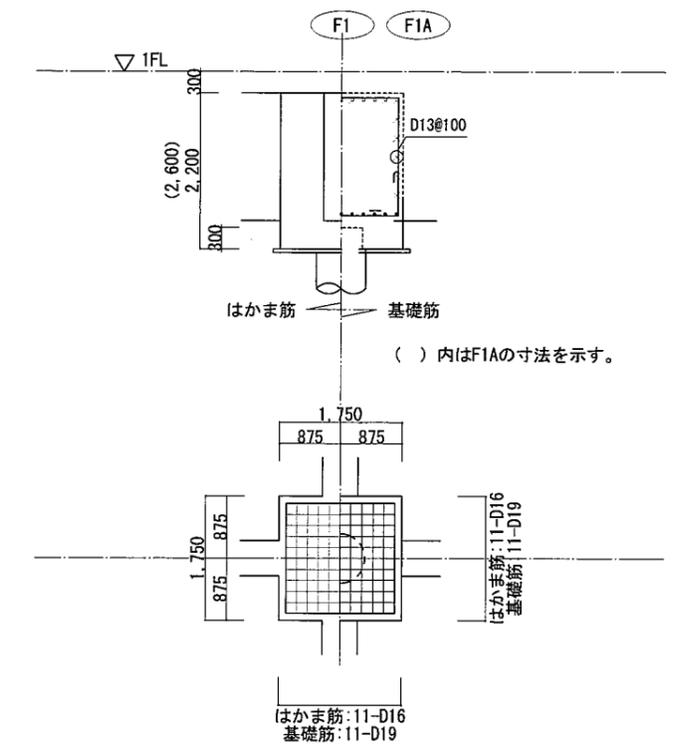
共通事項

- 特記なき限り下記による
- 杭工法  
杭工法は、Hyper-ストレート工法(TACP-0454等) (α=300) 同等工法とし、杭断面リストに示す。許容支持力および許容引抜き力を確保できる大臣認定工法とする。記載以外の認定番号を採用する場合は計算書に記載した性能を満足していることを示し、監理者の承認を得ること。
  - 杭種  
PHC杭、SC杭 (国土交通省告示第1113号8項に該当し、日本建築センターの評定を取得している杭材とする)
  - 継手  
杭の継手は無溶接継手とし、下杭と同等以上の耐力を有する工法とする (日本建築センターの評定を取得している工法とする)
  - 施工条件
    - 性能評価機関で評価を受けた条件に基づき施工する
    - 性能評価における施工管理項目に示す事項について施工管理をおこなうものとする
    - 根固め液・杭周固定液の配合及び使用量については、プラントでのパッチ管理と併せ、流量計により掘削孔内に吐出された液量を記録する。
    - 支持地盤への掘削根入れは、予定掘削深度まで積分電流値とN値を比較しながら、現況地盤と計画に差異がないか、杭先端部が所定長さ以上支持層に掘削根入れされているかを推定し記録する。また、計画支持層以深で積分電流値と比較N値の相関関係が不明確なときは、監理者と協議の上、瞬時電流値・他箇所データ・該当箇所の土質サンプル等の結果を踏まえて、総合的に判断する。
    - 先端球根部は、その品質確保のため、球根長以上のスパイラルオーガーをロット先端部に装着し、正回転でストレート築造する。
  - 施工誤差の管理  
杭の施工誤差の管理値は、杭芯位置は100mm以下、杭頭レベルは±50mm以下とする。杭芯位置の施工誤差が100mmを超える場合の対処は、S-16「基礎梁断面表」による。杭頭レベルの施工誤差が±50mmを超える場合の対処は工事監理者と協議する。
  - 平成28年国土交通省告示第468号「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するために講ずべき措置」に基づき、「施工体制」、「くいの支持層への到達」、「施工記録」にかかわる事項を決定すること。



中詰コンクリート部補強要領図  
中詰コンクリートは、基礎と同様の仕様とする。

基礎断面リスト



共通事項

- 特記なき限り下記による
- 基礎下の地盤
  - はかま筋は、基礎梁と干渉する箇所は省略可とする。
-

基礎梁断面表

符号	FGW1 (A)	FG1 (A)	FG1B	FG1C	FG2 (FG2A)		FGW11 (A)	FGW12	FG11			CFG11
	全断面	全断面	全断面	全断面	端部	中央	全断面	全断面	Y1端	中央	Y2端	全断面
Z1												
b x D	550x1,800 (2,200)	550x1,800 (2,200)	550x1,800	550x1,800	550x1,800		650x1,800 (2,200)	350x1,800	650x1,800			550x1,200
上端筋	4-D25	5-D25	6-D25	7-D25	5(6)-D25	4-D25	5-D25	3-D25	7-D25	6-D25	6-D25	8-D25
下端筋	4-D25	5-D25	6-D25	7-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25
あばら筋	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200	□-D13-@200		□-D13-@150	□-D13-@200	□-D13-@150			□-D13-@200
備考	FGW1Aの腹筋は5段	FG1Aの腹筋は5段					FGW11Aの腹筋は5段					
符号	FG12			FG13 (A)			FG13B			FG14		
	Y2端	中央	Y3端	Y1端	中央	Y2端	Y1端	中央	Y2端	Y2端	中央	Y3端
B1FL												
b x D	650x1,800			650x1,800 (2,200)			650x1,800			650x1,800		
上端筋	6-D25	6-D25	7-D25	7-D25	5-D25	8-D25	10-D25	7-D25	8-D25	8-D25	5-D25	7-D25
下端筋	6-D25	6-D25	6-D25	7-D25	6-D25	5-D25	7-D25	6-D25	5-D25	7-D25	7-D25	7-D25
あばら筋	□-D13-@150			□-D13-@150			□-D13-@150			□-D13-@150		
備考				FG13Aの腹筋は5段								

共通事項

特記なき限り下記による。

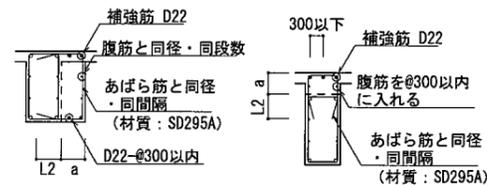
- あばら筋 断面表による。  
腹筋 : 2-D13 (段数は図示による。)  
幅止め筋 : D10-@1,000以内

- 部材の表記は下記による。(b x D)

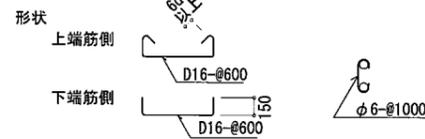


- 大梁の増打ち要領

- a < 70の場合は補強不要
- 70 ≤ a ≤ 200の場合は鉄筋コンクリート構造配筋標準図による
- 200 < aの場合は下記による

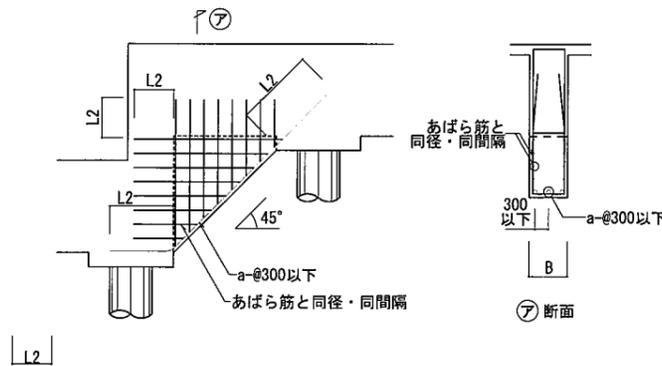


- 2段筋保持金物



あばら筋にそえ十分結束することにより  
コンクリート打設完了までの鉄筋の保持  
を確実に出来るようにする。

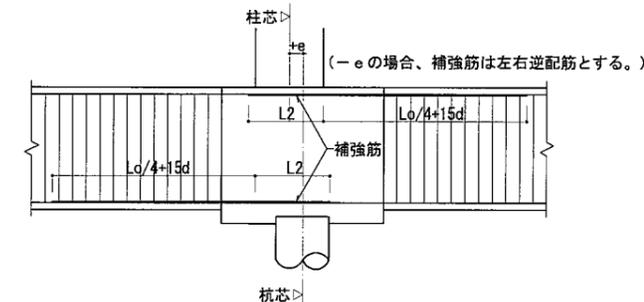
- バットレス配筋要領



- 柱梁仕口部は、梁のあばら筋を優先させる。

a : 基礎梁の主筋の1段落としの径とする。  
B : 基礎梁幅

施工誤差による杭の偏心に対する基礎梁補強要領



- (注) 1) 杭に偏心が生じた場合は設計者の確認を得ること。  
2) 偏心距離が100mm未満の場合、補強なしとする。また、耐震壁に  
付帯する梁については、補強なしとする。  
3) 200mmを超える場合は、監督員と協議により適切な補強筋を算定し、  
補強筋を追加する。  
4) 施工誤差はすべて記録の上、監理者に報告し、補強の要否及びその  
取扱いを監理者と協議する。

符号	位置	補強筋	せん断補強	備考
FG1	上下端筋	1-D25	補強なし	Y3通りX5-X6間梁に適用
FG1B	上下端筋	1-D25	補強なし	Y1通りX13-X14間梁に適用
FGW1	上下端筋	1-D25	補強なし	Y1通りX0-X1間梁に適用
FG1C	上下端筋	1-D25	補強なし	全部材対象
FG2A	上下端筋	1-D25	補強なし	全部材対象
FG12	上下端筋	1-D25	補強なし	X0通りY2-Y3間梁に適用
FG13	上下端筋	1-D25	補強なし	全部材対象
FG13B	上下端筋	2-D25	補強なし	全部材対象
FG14	上下端筋	1-D25	補強なし	全部材対象 (X8通り以外)
	上下端筋	2-D25	補強なし	X8通りY2-Y3間梁に適用

符号	位置	補強筋	せん断補強	備考
FG16	全断面	6-D25	補強なし	
FB1 (A)	全断面	4-D25	補強なし	
FB2	全断面	4-D25	補強なし	
		9-D25	補強なし	
		9-D25	補強なし	
		4-D16-@100	補強なし	FB1Aの腹筋は5段

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

基礎梁断面リスト

図面番号

S-16

区分

建築

縮尺

A1: 1/50

A3: 1/100

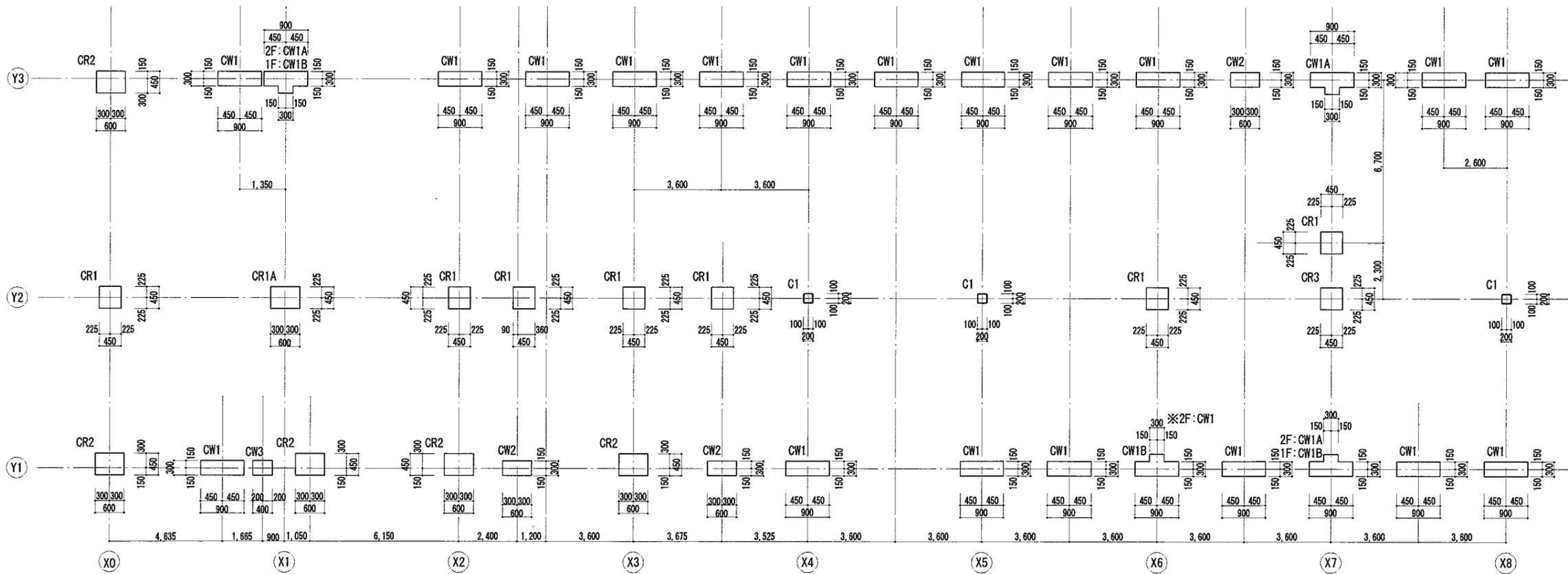
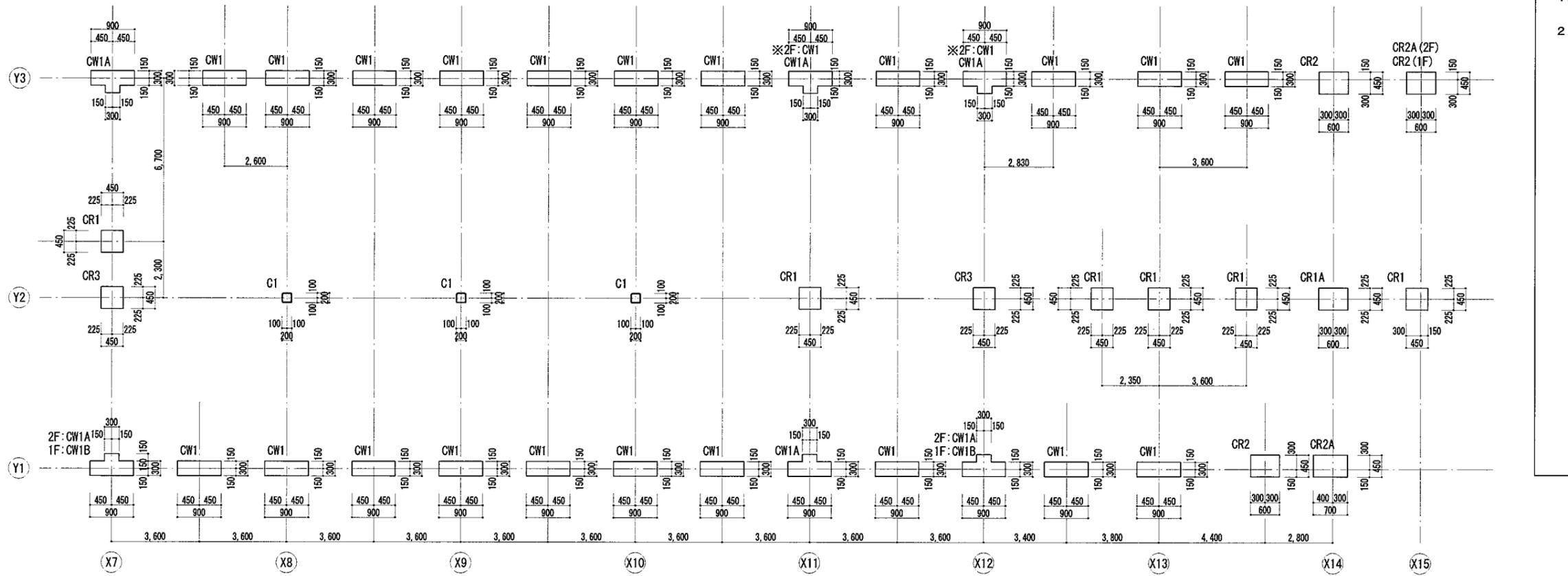
年月日

2021年1月

共通事項

特記なき限り下記による。

- 柱芯は、通り芯とする。
- ( ) 内は階による柱符号を示す。



公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面番号

S-17

区分

建築

縮尺

A1: 1/100, 50

A3: 1/200, 100

年月日

2021年1月

柱断面表								
符号	CR1	CR1A	CR2	CR2A	CR3	CW1	CW1A(B)	CW2(CW3)
ZS2 柱頭								
B x D	450 x 450	600 x 450	600 x 450	600 x 500	450 x 450	900 x 300	900 x 300	600(400) x 300
主筋	12 -D19	16 -D19	16 -D19	20 -D19	16 -D19	16 -D19	19 -D19	14(8) -D19
帯筋	2-2形:D10-@100	2-2形:D10-@100	2-2形:D10-@100	2-2形:D10-@100	2-2形:D10-@100	2-3形:D10-@100	2-3形:D10-@100	2-2形:D10-@100
備考				ハンチ長:1200mm			突出部 300 x 450	
ZS2 柱脚	同上	同上	同上		同上	同上	同上	同上
B x D				600 x 450				
主筋				16 -D19				
帯筋				2-2形:D10-@100				
備考								
ZS1	同上	同上	同上		同上	同上	CW1Bのみ 	同上
B x D				700 x 450			CW1Aは上階と同上	
主筋				26 -D19			19 -D19	
帯筋				2-2形:D10-@100			2-3形:D10-@100	
備考							突出部 300 x 450	

**共通事項**

特記なき限り下記による

- BxDの表示**
- 帯筋**  
一般部分 形状の表示は下記による。  
n1-n2形 n1: X方向の形状 n2: Y方向の形状  
仕口部分 備考欄の特記による。  
備考欄に特記がない場合は、2-2形とし一般部分(下階)と同径・同材質・同間隔とする。基礎梁内は、2-2形とし上階と同径・同材質・同間隔とする。
- 2段配筋の表示**  
  
※主筋間距離は、主筋径の3倍以下とする。
- 柱の打増し要領**  
(1) .1方向打増しの場合  
帯筋と同径・同ピッチ (材質:SD295A)  
a ≥ 400の場合 D16-@300以下  
補強筋D19-@300以下  
(2) .2方向打増しの場合  
帯筋と同径・同ピッチ (材質:SD295A)  
a ≥ 400の場合 D19-@300以下  
補強筋D19-@300以下
- 柱の配置は別図【柱芯線図】による。**  
  
出隅部の鉄筋はフック付き  
かご鉄筋 (主筋と同径・同材質)

大梁断面表												
符号	位置	G1(A)	G1B(G1C)	G2			G11	G11A			G12	
				外端部	中央	他端		外端部	中央	内端部	端部	中央
Z3												
b x D		300 x 750	300 x 750	300 x 750			300 x 750	350 x 950			300 x 700	
上端筋		4 -D19	5(6) -D19	3 -D19	3 -D19	5 -D19	4 -D19	3 -D19	3 -D19	6 -D19	3 -D19	3 -D19
下端筋		4(6) -D19	3 -D19	3 -D19	3 -D19	3 -D19	4 -D19	3 -D19	4 -D19	4 -D19	3 -D19	4 -D19
あばら筋		2形:D10-@200	2形:D10-@200	2形:D10-@200			2形:D10-@200	2形:D10-@200			2形:D10-@200	
備考		( )は中央のみ										
Z2		同上	同上	同上			同上					
b x D								400 x 950			300 x 700	
上端筋								4 -D19	4 -D19	9 -D19	4 -D19	3 -D19
下端筋								4 -D19	4 -D19	5 -D19	3 -D19	4 -D19
あばら筋								2形:D10-@150			2形:D10-@200	
備考												
Z3									/			
b x D		450 x 950			350 x 950			300 x 750				
上端筋		4 -D19	4 -D19	9 -D19	4 -D19	4 -D19	5 -D19	5 -D19				
下端筋		4 -D19	5 -D19	5 -D19	4 -D19	6 -D19	4 -D19	4 -D19				
あばら筋		2形:D10-@150			2形:D10-@150			2形:D10-@100				
Z2		/						同上				
b x D					350 x 700			350 x 750~1100				
上端筋					4 -D19	3 -D19	5 -D19	4 -D19	8 -D19			
下端筋					3 -D19	6 -D19	3 -D19	4 -D19	4 -D19			
あばら筋					2形:D10-@200			2形:D10-@200				

**共通事項**

特記なき限り下記による

- BxDの表示**
- あばら筋**  
腹筋 2-D10 (段数は図示による)  
幅止め筋 D10-@1000以内
- 多段筋の表示**  
  
※: n1は一段筋を、n2は二段筋を示す。
- 2段筋保持金物**  
形状 上端筋側 下端筋側
- 大梁の増打ち要領**  
a > 200の場合 補強筋はD19とする。  
a ≥ 300の場合 補強筋@200以下  
あばら筋と同径・同間隔  
補強筋  
腹筋と同径・同間隔  
あばら筋と同径・同間隔  
補強筋@200以下  
a ≥ 300の場合 腹筋@200以下  
補強筋@200以下  
あばら筋と同径・同間隔  
補強筋  
あばら筋と同径・同間隔  
補強筋@200以下  
a < 70の場合は補強不要  
70 ≤ a ≤ 200の場合は、《鉄筋コンクリート構造標準図(2)》の打増し要領による。

鉄骨柱断面リスト			
階	符号	C1	
▽PHRFL			
▽RFL			
▽2FL			
▽1FL			
ベースプレート詳細			
B. PL		22×400×400	
A. Bolt		4-M24	
柱脚詳細			
柱型		900×900	
主筋		24-D19	
帯筋		□-D13@150	
柱梁接合部			

鉄骨小梁断面リスト							備考
符号	断面	材質	G. PL	H. T. B	P		
SB25	H - 250×125×6×9	SS400	9	2-M20	90		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB30	H - 300×150×6.5×9	SS400	9	3-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB40	H - 400×200×8×13	SS400	9	5-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB45	H - 450×200×9×14	SS400	12	6-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB59	H - 596×199×10×15	SS400	16	7-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB59A	H - 596×199×10×15	SM490A	16	7-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB60A	H - 600×200×11×17	SM490A	16	7-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。
SB58A	H - 588×300×12×20	SM490A	16	7-M20	60		RC柱、梁との取り合いは共通事項による。

### 鉄骨小梁断面リスト共通事項

特記なき限り下記による

- 鋼材の材質  
SB\*\* : SS400  
SB\*\*A : SM490A
- 使用ボルト  
S10TまたはF10T
- 外部となる鉄骨部は、溶融亜鉛メッキを施す。  
外部に使用するボルトは、溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T)とする。
- 接合面の摩擦面に、1mmをこえるはだ隙を生ずる場合は、その大きさに適合したフィラープレート(SS400)を用いる。

**a). 小梁がはり成内の場合**      **b). 小梁の上端が高い場合：(h≤150)**      **c). 小梁の上端が高い場合：(h>150)**

**剛接合継手形状**

1. \*1: 継手片側のフランジボルト本数  
2. \*2: 最終ボルトは内側になる様に配置する事。

**フランジを現場溶接する場合**

鉄骨梁はコンクリート硬化まで支保工で支えること。

**SB60A, SB59(A), SB58(A) RCとの取り合い要領**

鉄骨梁はコンクリート硬化まで支保工で支えること。

**SB40, SB45 RCとの取り合い要領**

**SB25 RCとの取り合い要領**

**SB30 RCとの取り合い要領**

### 鉄骨柱断面リスト共通事項

特記なき限り下記による

- 部材表示は下記による
- 材質  
柱 : BCR295  
通しダイアフラム : SN490C  
内ダイアフラム : SN490B  
ベースプレート : SN490C  
アンカーボルト : SNR400B
- 外ダイアフラム板厚は梁フランジ最大板厚の2サイズUP以上かつ柱板厚以上とする  
内ダイアフラム板厚は梁フランジ最大板厚の1サイズUP以上かつ柱板厚以上とする
- アンカーボルトは、アンカーフレーム等によりコンクリート打設時移動しないよう固定すること。
- C1柱は、納期等により入手が困難な場合は、□-250×250×12に変更してもよい。  
(有効細長比 λ=49.1)  
ベースプレートサイズは、450×450×22とする。

### スタッドコネクタ詳細図

16φ #200シングル      19φ #150シングル      19φ #200ダブル

### スタッドコネクタ詳細図共通事項

特記なき限り下記による

- コンクリート床を支持する梁上に溶接する。

RC小梁断面表														
符号	B1(A)			B2		B3			B4			備考		
	位置	外端	中央	内端	端部	中央	外端	中央	内端	X8端	中央		X9端	
断面														
b x D	350 x 750(1500)			350 x 750		350 x 800			350 x 800					
上端筋	3-D19	3-D19	5-D19	5-D19	3-D19	3-D19	3-D19	6-D19	6-D19	3-D19	4-D19			
下端筋	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	4-D19	3-D19	3-D19	4-D19	3-D19			
あばら筋	□-D10-@200			□-D10-@200		□-D10-@200			□-D10-@200					
備考														
符号	B5		B6			B7		B8		B9(A)		備考		
	位置	端部	中央	X11端	中央	外端	端部	中央	端部	中央	端部		中央	
断面														
b x D	350 x 750		350 x 750			350 x 750		350 x 750		350 x 1000(900)				
上端筋	4-D19	3-D19	4-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	5-D19	3-D19				
下端筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19	2-D19	3-D19	6-D19	3-D19	3-D19	4-D19	6-D19			
あばら筋	□-D10-@200		□-D10-@200			□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200				
備考														
符号	B10		B11		B12	BA	CB1	B21(A)		B22		B31		備考
	位置	端部	中央	端部	中央	全断面	全断面	全断面	端部	中央	端部	中央	端部	
断面														
b x D	350 x 900		450 x 1200		450 x 1200	300 x 600	450 x 1200	350 x 900		350 x 750		350 x 700		
上端筋	4-D19	3-D19	4-D19	6-D19	9-D19	3-D19	9-D19	4-D19	3(4)-D19	4-D19	4-D19	3-D19	3-D19	
下端筋	3-D19	6-D19	4-D19	10-D19	6-D19	3-D19	6-D19	3-D19	6(8)-D19	3-D19	6-D19	3-D19	6-D19	
あばら筋	□-D10-@200		□-D10-@150		□-D13-@200	□-D10-@200	□-D13-@200	□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200		
備考	( )内はB21Aの配筋を示す													

### RC小梁断面表共通事項

特記なき限り下記による。

- 鉄筋
  - あばら筋 □-D10-@200
  - 腹筋 2-D10 (段数は図示による)
  - 幅止筋 D10-@1000以内
- b x D
- 小梁の打増し要領
 

b > 200の場合

b < 50の場合は補強不要

### 壁断面表

符号	壁厚	配筋		開口補強筋			備考
		縦筋	横筋	縦筋	横筋	(斜め筋)	
W15	150	D10-@200 チドリ	D10-@200 チドリ	2-D13	2-D13	(2-D13)	
W18	180	D10-@200 D	D10-@200 D	2-D13	2-D13	(2-D13)	
W30	300	D16-@200 D	D13-@200 D	-	-	-	
EW18	180	D10-@200 D	D10-@200 D	4-D16	4-D16	(2-D13)	
EW30	300	D13-@200 D	D13-@200 D	4-D19	4-D19	(2-D13)	
EW30A	300	D13-@150 D	D16-@150 D	4-D19	6-D19	2-D13	斜め筋はD13とする

### 壁断面表 共通事項

特記なき限り下記による。

- 幅止筋 D10-@1000以内
- D: ダブル配筋を示す。  
S: シングル配筋を示す。
- 開口部斜め補強筋  
開口部斜め補強筋は原則として溶接金網を使用する。  
溶接金網が使用できない場合は(斜め筋)を使用する。
- 軸組図に開口補強筋の記入がある場合は軸組図による。

ダブル配筋の場合 両面  
シングル配筋の場合 片面  
溶接金網は(JIS G 3551)縦筋・横筋共  
各6φ-100x100とする。

5. ひび割れ誘発目地要領

床スラブ(型枠デッキ)断面表

符号	断面	
	短辺方向	長辺方向
DS1		フラットデッキ板厚 t=1.0(L≤2.60m), t=1.6(L≤3.10m) L=内法スパン 3.10mを超える場合は中央に支保工を設けること。
DS2		フラットデッキ板厚 t=1.0(L≤2.30m), t=1.6(L≤2.80m) L=内法スパン 2.80mを超える場合は中央に支保工を設けること。
DS3		フラットデッキ板厚 t=1.0(L≤2.30m), t=1.6(L≤2.80m) L=内法スパン 2.80mを超える場合は中央に支保工を設けること。
DS4		フラットデッキ板厚 t=1.0(L≤2.60m), t=1.6(L≤3.10m) L=内法スパン 3.10mを超える場合は中央に支保工を設けること。
CDS1		

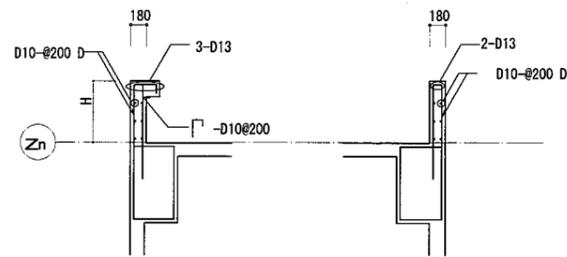
床スラブ断面表 (在来RC)

符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
S1	150	上端筋	D10+D13-φ200	D10-φ200	
		下端筋	D10-φ200	D10-φ200	
S2	200	上端筋	D13-φ200	D10+D13-φ200	
		下端筋	D10-φ200	D10-φ200	
S3	250	上端筋	D13-φ150	D10+D13-φ200	
		下端筋	D10-φ150	D10-φ200	
S4	250	上端筋	D13-φ150	D13-φ150	
		下端筋	D13-φ150	D13-φ150	
S5	150	上端筋	D13-φ200	D10-φ200	
		下端筋	D13-φ200	D10-φ200	
S6	150	上端筋	D13-φ200	D13-φ200	
		下端筋	D13-φ200	D13-φ200	
CS1	150~215	上端筋	D16-φ100	D10-φ200	先端厚さ 150mm, 元端厚さ 200mm
		下端筋	D16-φ100	D10-φ200	
CS2	150~250	上端筋	D16-φ100	D10-φ200	先端厚さ 150mm, 元端厚さ 250mm
		下端筋	D16-φ100	D10-φ200	
CS3	180	上端筋	D13-φ200	D10-φ200	
		下端筋	D10-φ200	D10-φ200	
CS4	300	上端筋	D16-φ100	D13-φ200	
		下端筋	D16-φ100	D13-φ200	
CS5	150	上端筋	D13-φ200	D10-φ200	
		下端筋	D10-φ200	D10-φ200	
FS20	200	上端筋	D13-φ150	D13-φ150	
		下端筋	D13-φ150	D13-φ150	
FS25	250	上端筋	D13-φ150	D13-φ150	
		下端筋	D13-φ150	D13-φ150	
FS30	300	上端筋	D13-φ150	D13-φ150	
		下端筋	D13-φ150	D13-φ150	

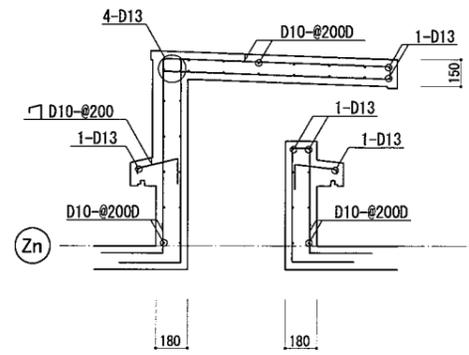
共通事項

- デッキプレートは下記による。
  - フラット型デッキプレート  
JIS G 3352 SDP17GA
  - デッキプレートの標準納まり (RC造の場合の断面欠損は増し打ちの10mmとし、型枠の横さん木、アングルなどにより必要なかり代 (最低30mm以上) を確保すること。
    - スパン方向の納まり
      - フラットデッキプレート
      - 合成スラブ用デッキプレート
    - 幅方向の納まり
      - フラットデッキプレート
      - 合成スラブ用デッキプレート
    - 床スラブ開口部 (スリーブを含む) 補強要領
      - フラット型デッキプレートを使用する場合
        - 開口の各辺または直径が300以上500未満の場合は左記の要領による。
        - 開口の各辺または直径が300未満の小開口周囲には開口によって切られる鉄筋と同量断面の鉄筋を周辺に補強する。
      - 合成スラブ用デッキプレートを使用する場合
        - 開口の各辺または直径が300以上の場合は係員の承認を受ける。
        - 開口の各辺または直径が300未満の場合はメーカー仕様による補強とする。
- デッキプレート段差部
  - 段差≤100
  - 段差≤200程度
  - ウェブに取付く場合
  - 柱回りの納まり
- デッキプレート段差部の配筋
  - 段差≤100
  - 段差≤200程度
  - ウェブに取付く場合
  - G.PLとスラブ筋が干渉する場合
- デッキスラブの補強要領
  - 柱回り
  - スラブ端部
  - 鉄骨梁上端補強
- 床スラブ段差部の配筋要領
- 床開口部補強要領
  - 床開口の最大径が700mm以下の場合、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D10 (l=70d) シングルを上下筋の内側に配筋する。
  - 床開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることで、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
  - 設備の小開口が連続してある場合は、縦・横・斜め補強筋とは別に開口によって切られる鉄筋と同じ鉄筋を開口をさけて補強する。孔と孔のへりあきは、100以上とする。

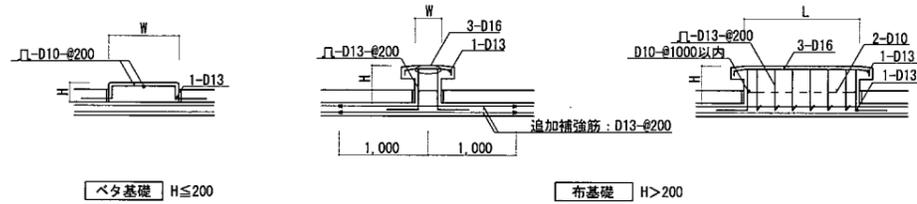
パラペット (RC部)



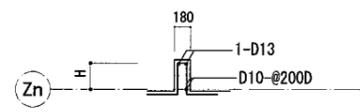
配管取出口詳細図



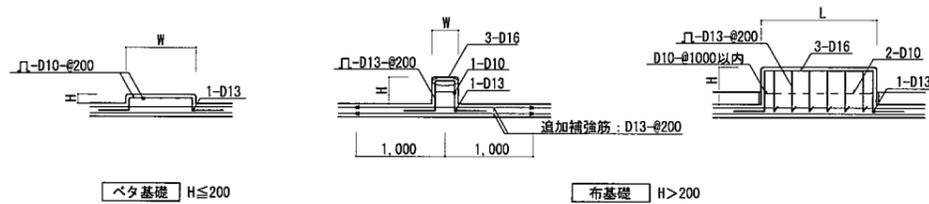
設備基礎配筋詳細図 (屋外)



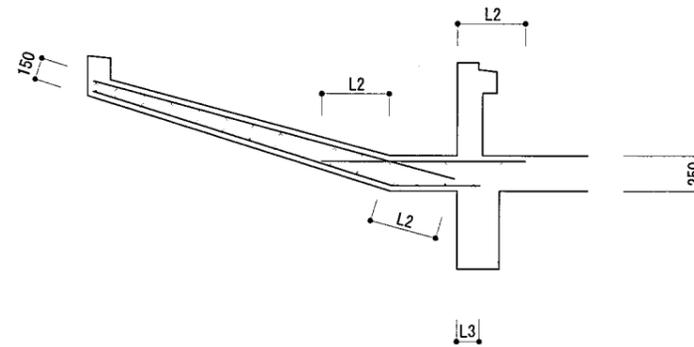
防水堤



設備基礎配筋詳細図 (屋内)



CS2 配筋詳細図



※引張鉄筋は、折り曲げず両定着とすること。

共通事項

- 特記なき限り下記による。
1. 配置及び詳細寸法は意匠図による。
  2. 材料  
普通コンクリート 一般事項による。

公共建築課長

主査等

担当者

工事名

久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事

図面名

配筋詳細図

図面番号

S-22

区分

建築

縮尺

A1: 1/50

A3: 1/100

年月日

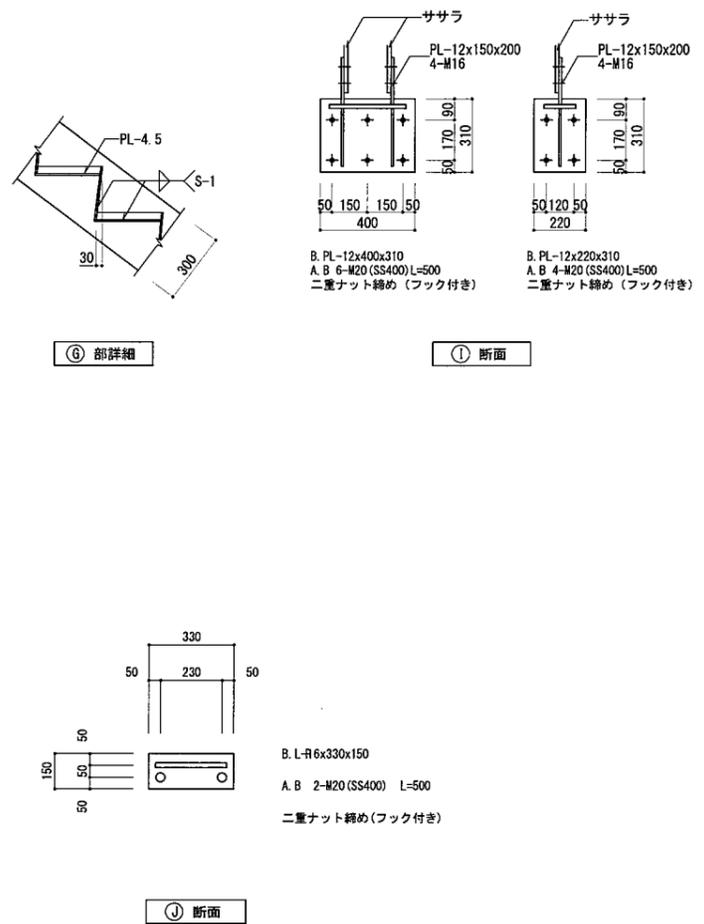
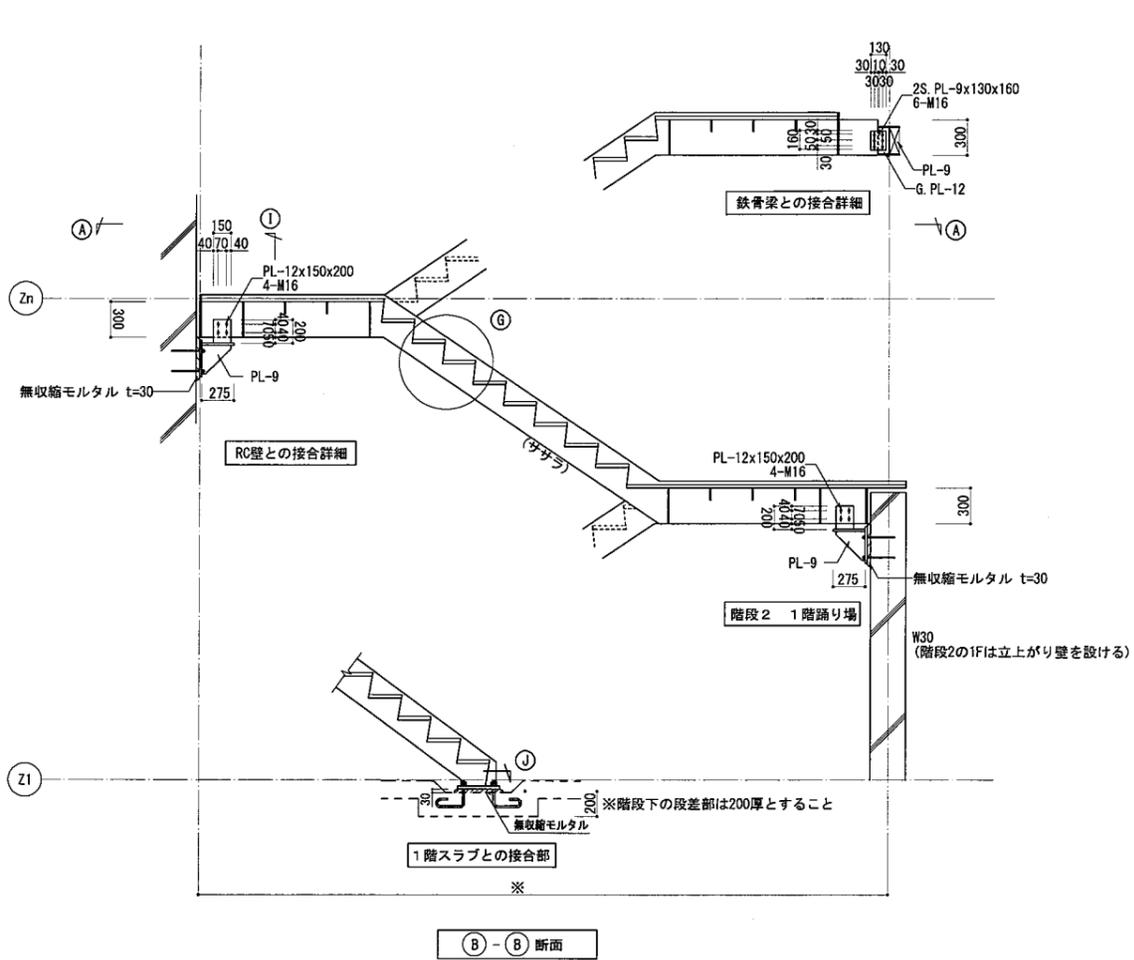
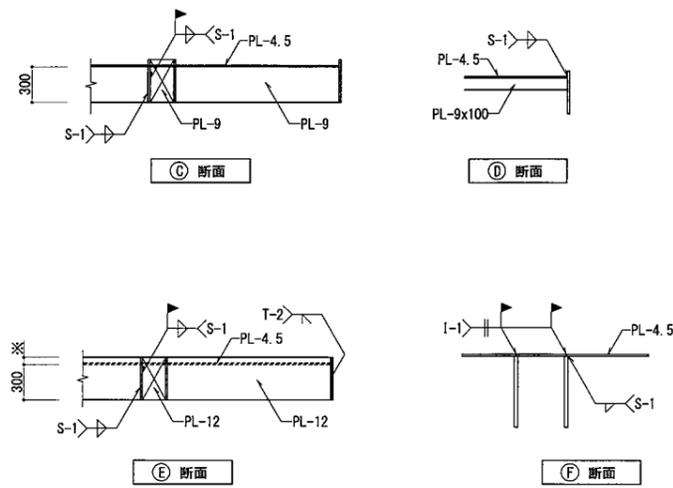
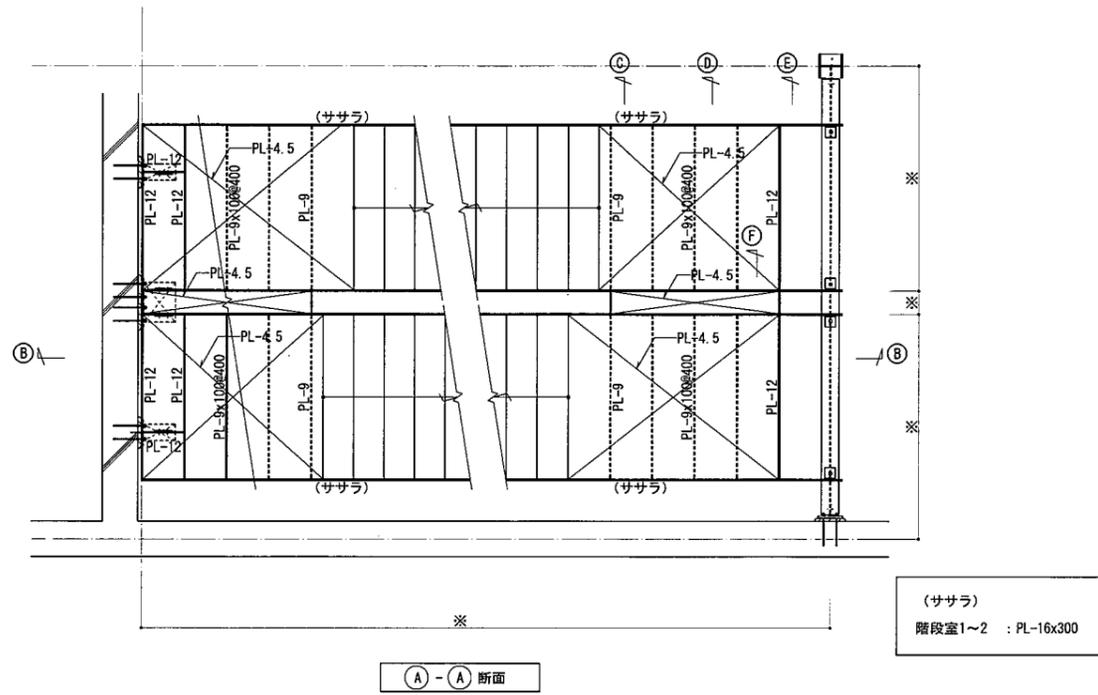
2021年1月

# 鉄骨階段詳細図

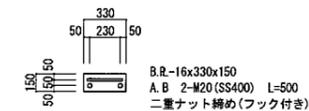
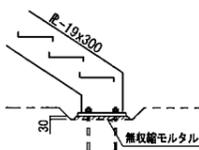
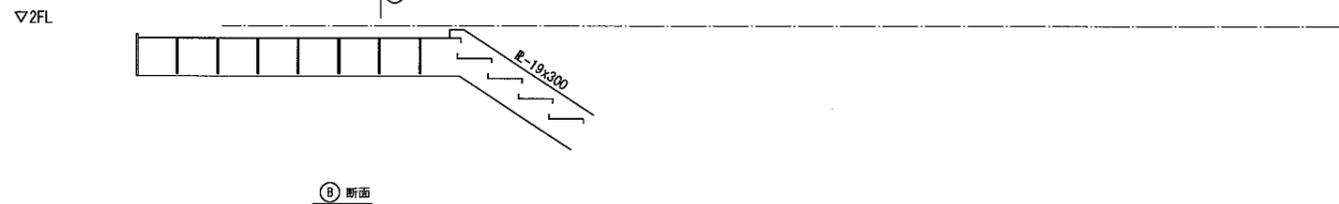
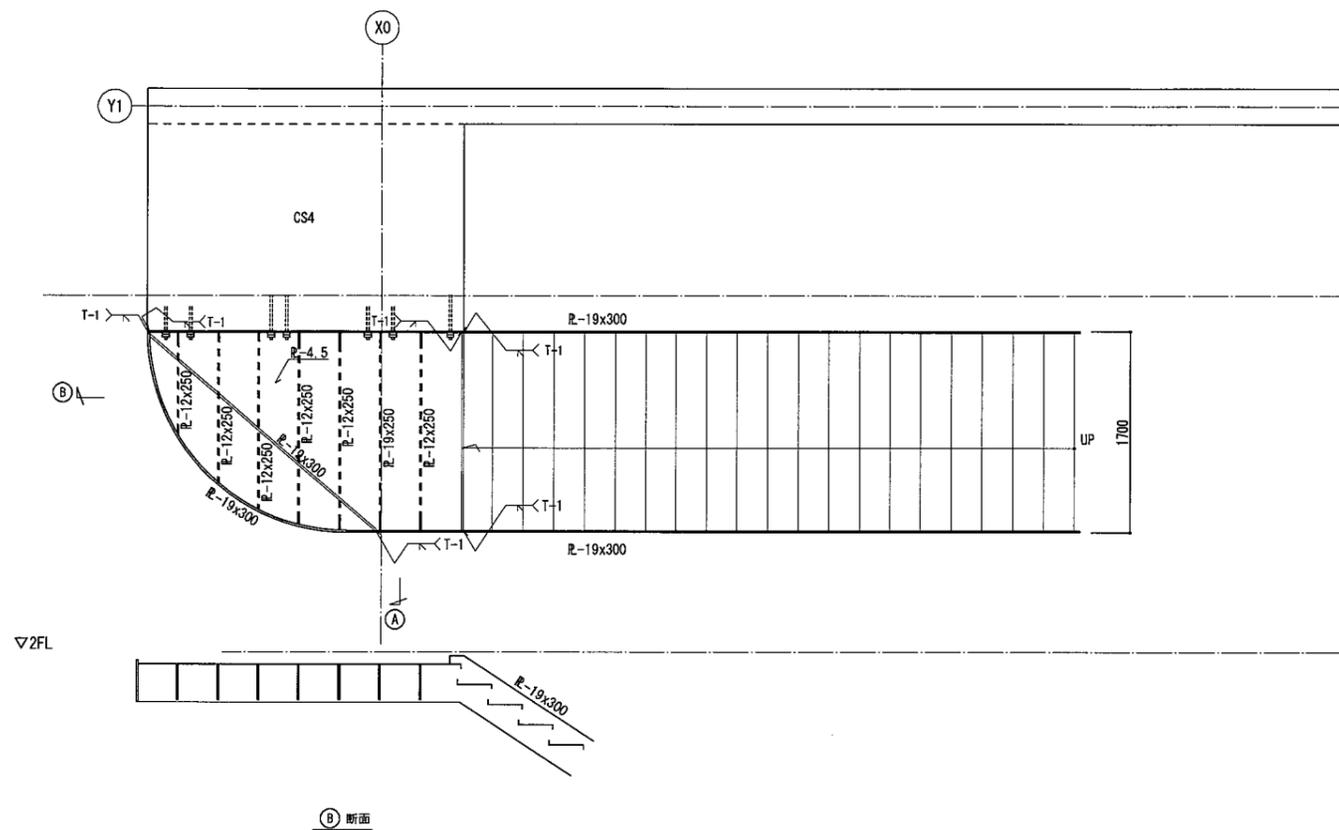
## 共通事項

特記なき限り下記による。

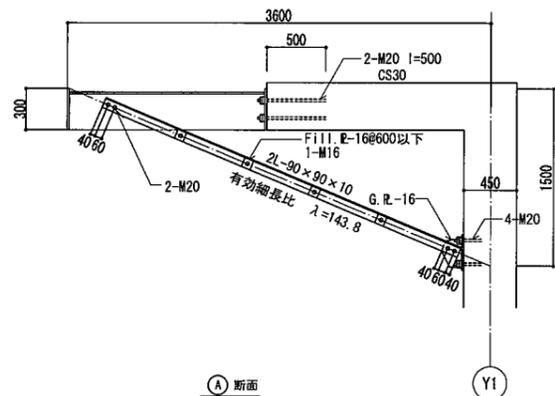
1. 材質はSS400とする。
2. 使用ボルト  
高力ボルト M16, M20
3. 溶接記号は  $\rightarrow$ S-1 とする。
4. ※印寸法及び詳細寸法は意匠図による。
5. 鉄骨階段の詳細は全て本図にならう。



公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	鉄骨階段詳細図(1)	S-23	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30 A3: 1/60	2021年1月	

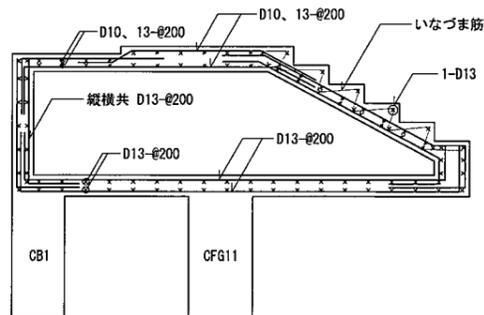


B.R-16x330x30  
A.B 4-M20 (SS400) L=500  
二重ナット締め (フック付き)

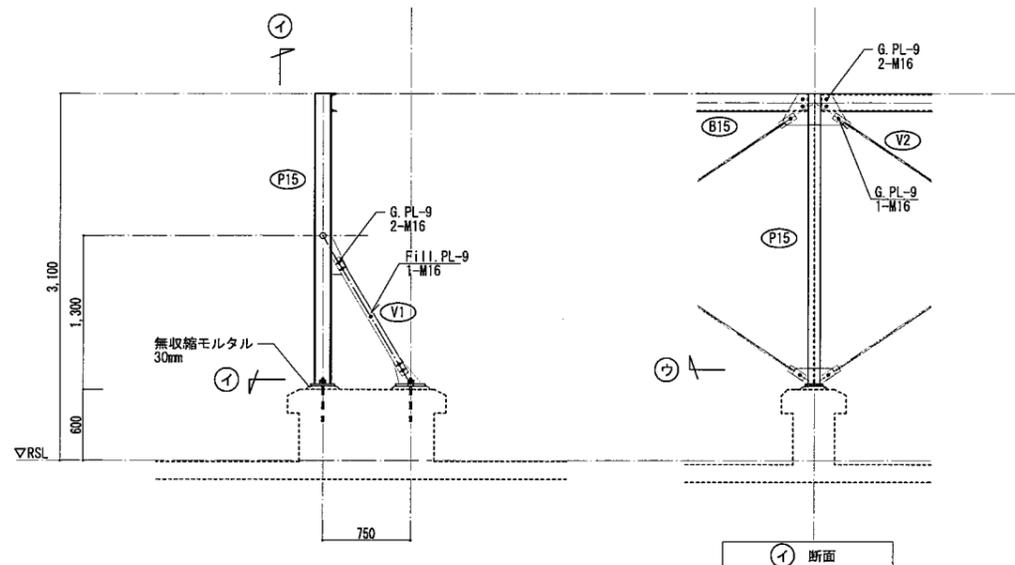


共通事項

- 特記なき限り下記による。
- 材質はSS400とする。
  - 使用ボルト  
溶融亜鉛めっき高力ボルト F8T M20
  - 溶接記号は  $\rightarrow$  S-1 とする。
  - 特記なきは階段室2にならう。
  - 本図に示す部材は、溶融亜鉛めっきを施す。



立上り部配筋要領



目隠し壁受け柱要領



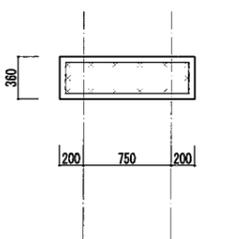
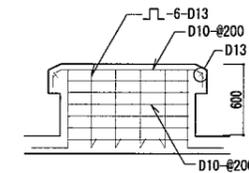
B.PL-16 (SS400)  
A. bolt : 2-M24 (SS400) L=600 フック付き  
二重ナット締め



B.PL-16 (SS400)  
A. bolt : 2-M24 (SS400) L=600 フック付き  
二重ナット締め

P15 柱脚要領

方柱 柱脚要領



共通事項

特記なき限り下記による。

1. 鉄骨部材断面表

符号	部材	材質	備考
P15	H-148x100x 6x 9	SS400	
B15	[ -150x75x6.5x10	SS400	
V1	2Ls- 65x 65x6	SS400	
V2	1-M16	SS400	

3. 鉄骨の材質はSS400とする。

4. 溶接記号は  $\rightarrow$  S-1 とする。

5. 使用ボルト  
溶融亜鉛めっき高力ボルト M16 (F8T)

6. コンクリートに埋め込まれる部分を除き  
溶融亜鉛めっきを行う。

7. 詳細寸法は意匠図による。

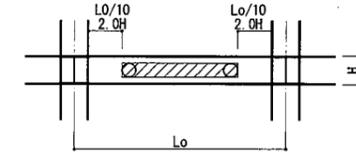
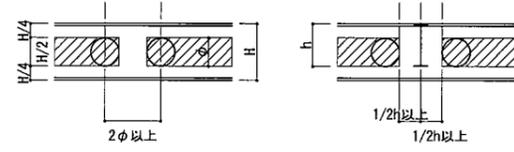
**貫通孔補強要領図**

- 1. 評定を取得した既製品を使用する場合は、評定条件により設計を行い、監理者の承諾を得ること。
- 2. 梁貫通孔の箇所数は性能評価対象外とする。

**鉄骨梁貫通孔補強要領**

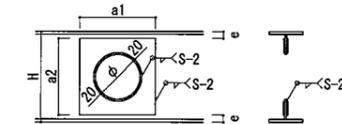
1. 鉄骨梁貫通孔補強要領

・ は貫通孔可能範囲を示す。



- ・ 貫通孔の径は、梁せいの 1/2 倍以下とする。
- ・ 貫通孔の間隔は、平均孔径の2倍以上とし、小梁や継手との干渉を考慮する。
- ・ 小梁の中心から小梁せいの 1/2 倍以上離す。
- ・ 孔位置の限度は、原則として柱の面から 2.0H かつ Lo/10 以上離す。
- ・ 貫通孔の位置は、梁の中央部付近とする。

2. 添板補強要領



- ・ a1は、3φまたは、a2のうち小さい方とする。
- ・ eは50以上とする。
- ・ 補強プレートの材質はウェブプレートと同材質とする。

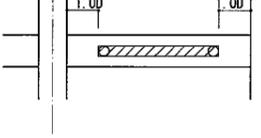
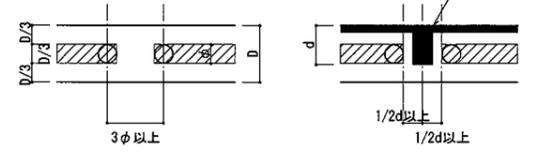
3. 補強要領

小梁符号	階	孔径φ	補強プレート	a2	箇所数	備考
SB60A	-	300	2PLs-6	500	49	
SB58A	-	300	2PLs-9	480	12	

**RC梁貫通孔補強要領**

1. RC梁貫通孔補強要領

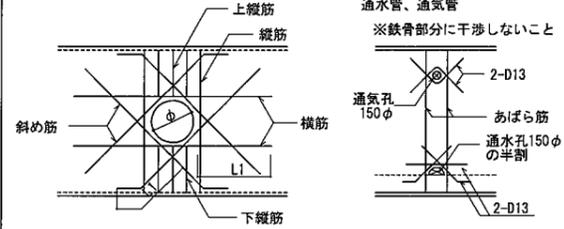
・ は貫通孔可能範囲を示す。



- ・ 貫通孔の径は、梁せいの 1/3 倍以下とする。
- ・ 貫通孔の間隔は、平均孔径の3倍以上とし、小梁との干渉を考慮する。
- ・ 小梁の中心から小梁せいの 1/2 倍以上離す。
- ・ 孔位置の限度は、原則として柱の面から 1.00 以上離す。
- ・ 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ150mm未満のものは、補強を省略することができる。
- ・ 貫通孔の上下方向の位置は、梁の中央部付近とし、原則として下図による。

$500 \leq D < 700$	$d \geq 175$
$700 \leq D < 900$	$d \geq 200$
$900 \leq D$	$d \geq 250$

2. 配筋補強要領



- ・ 上下縦筋は、各符号のあばら筋と同径、同ピッチとする。

配筋の表示	
凡 例	配 筋
斜め筋 2-4-D16	4本のD16が2面に入ることを示す。
縦 筋 2-4-D13	4本のD13があばら筋状に孔の両側に2本ずつ入ること示す。
横 筋 2-2-D13	2本のD13が2面に入ること示す。

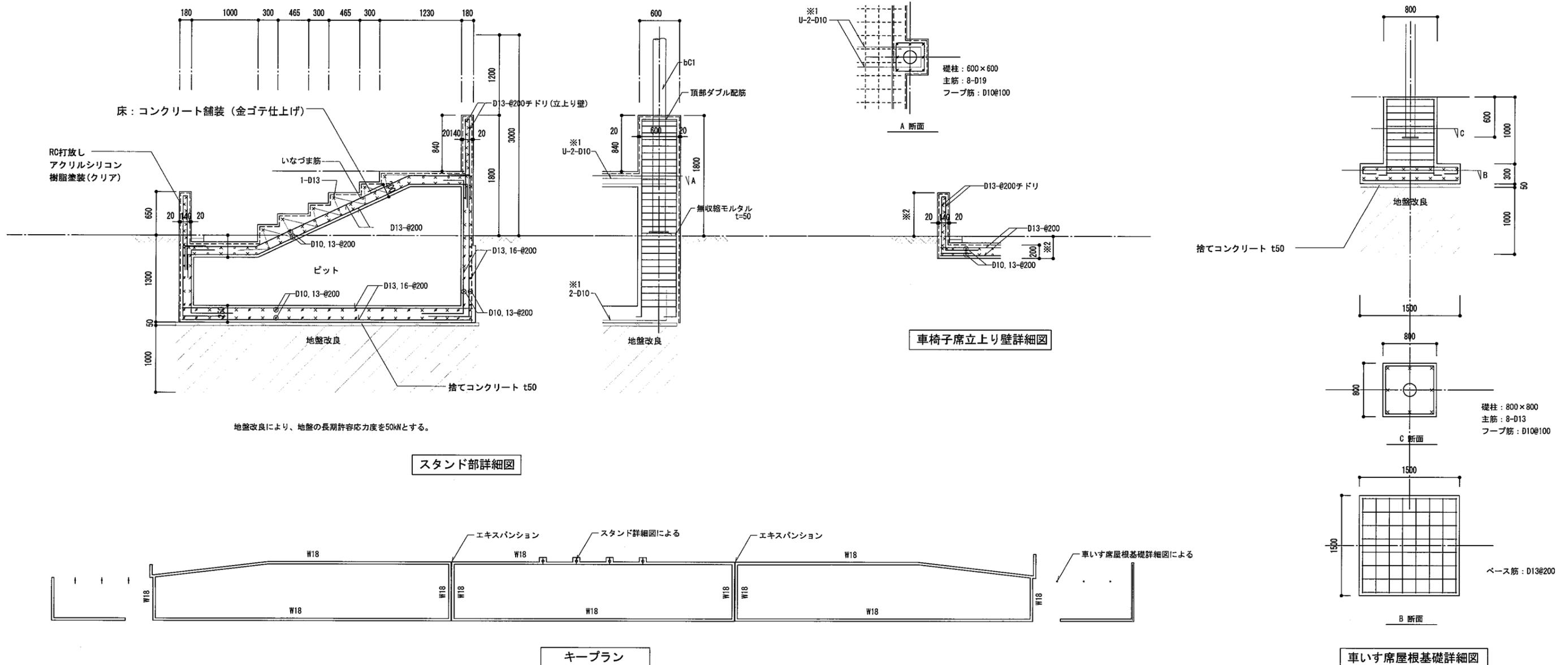
3. 大梁補強要領

符 号	階	孔径φ	斜め筋	縦 筋	横 筋	箇所数	備考
FG1	B1FL	75	2- 2-D13	2- 2-D13		20	
		125	2- 2-D13	2- 2-D13		5	
		150	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
		200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
FG1A	B1FL	150	2- 2-D13	2- 2-D13		8	
FG1B	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
FG13	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		24	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		7	
FG13A	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		8	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		2	
FG2	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		8	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		3	
FG2A	B1FL	150	2- 2-D13	2- 2-D13		6	
		200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		1	
FGW1	B1FL	150	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
		200	2- 2-D13	2- 2-D13		10	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		1	
FGW1A	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
FGW11	B1FL	150	2- 2-D13	2- 2-D13		6	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		1	
FGW11A	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		6	
		600	2- 2-D13	2- 2-D16		1	
FGW12	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	

4. 小梁補強要領

符 号	階	孔径φ	斜め筋	縦 筋	横 筋	箇所数	備考
FB1	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
FB2	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
B1	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		12	
B1A	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
B2	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		6	
B4	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
B6	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		4	
B8	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
B9A	B1FL	150	2- 2-D13	2- 2-D13		6	
		200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	
B11	B1FL	200	2- 2-D13	2- 2-D13		2	

スタンド詳細図



※独立基礎の計算は令第38条第4項の規定による構造方法とする。

共通事項

1. 階段部には、いなづま筋を設ける。
2. ※1 スラブ筋に加えて、2-D10の補強筋を配置する。
3. ※2 車椅子席の床レベル及び立上り壁高さは意匠図による。

4. 鉄筋

4.1 使用材料

鉄筋	JIS G 3112	SD295A SD345	規格品 規格品	D16以下 D19以上 D25以下
----	------------	-----------------	------------	-------------------------

溶接金網	JIS G 3551	線径 6mm	網目寸法 100mm
------	------------	--------	------------

4.2 鉄筋継手

重ね継手 D16以下  
ガス圧接 D19以上

5. コンクリート

コンクリートの種類	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	配合管理強度 Fm (N/mm <sup>2</sup> )	示量スラブ (スランプレッド) (cm)	気配量出 体積重量 (t/m <sup>3</sup> )	単位水量 の最大値 (kg/m <sup>3</sup> )	単位セメント量 の最小値 (kg/m <sup>3</sup> )	水セメント比 の最大値 (%)	セメントの 種類記号	使用箇所
普通	24	24+S	18	2.30	185	270	65	N	スタンド

凡例 N：普通ポルトランドセメント、H：早強ポルトランドセメント、M：中庸熱ポルトランドセメント  
BB：高炉セメントB種、L：低熱ポルトランドセメント

※ 構造体強度補正値(S)は気象庁データ等により、コンクリート打ち込みから材齢28日までの平均気温が予想できない場合は、6N/mmとする。

6. 鉄骨

6.1 使用材料

鋼板・形鋼	JIS G 3101	SS400	規格品
鋼管	JIS G 3444	STK400	規格品

溶融亜鉛メッキ高力ボルトのセット 1種A(F8T) 大臣認定品(MBLT-0050他)

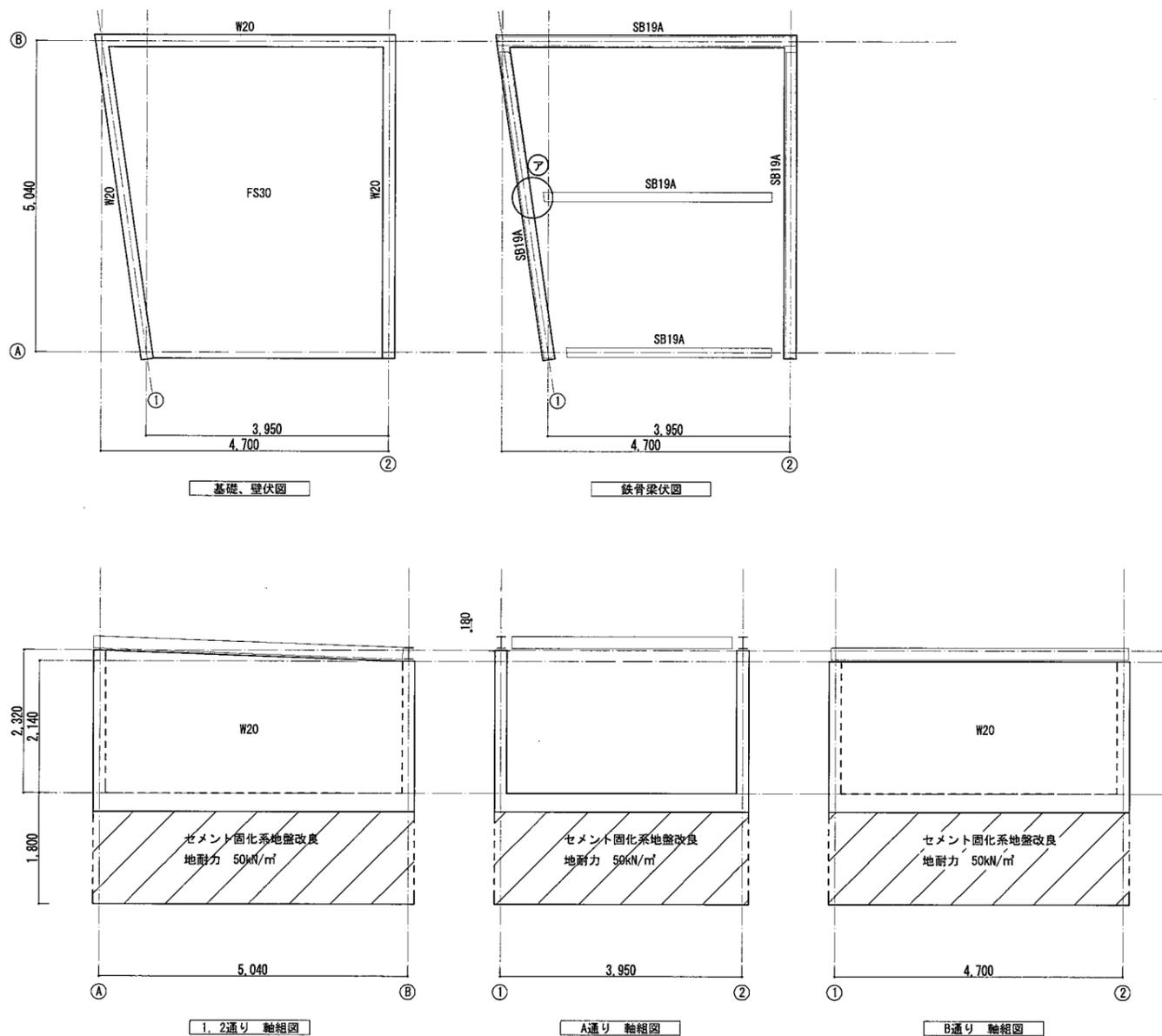
アンカーボルト	JIS G 3101 JIS G 3138	SS400 SNR400B	規格品 2重ナット締め 規格品 2重ナット締め
---------	--------------------------	------------------	----------------------------

7. 地盤改良

- (1) 浅層混合処理工法（セメント系固化剤の粉体を用いた機械攪拌式）とする。
- (2) 配合量は現地サンプリングによる試験にて決定する。（最低配合量：100kg/m<sup>3</sup>とする）
- (3) 配合計画段階で六価クロム溶出試験（最低1体）を実施し、試験結果（計量証明書）を提出するものとする。試験方法は、セメント及びセメント系固化剤を使用した改良土等の六価クロム溶出試験要領によるものとする。基準値：0.05(mg/L)以下（環境庁第46号（土壌汚染に係る環境基準）による）
- (4) 品質管理は、供試体による圧縮試験にて行う。3ゾーン×3体以上で供試体を作成する。材令7日で一軸圧縮試験を行い、設計基準強度以上となる場合に合格とする。
- (5) 適用図書は「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 - セメント系固化剤を用いた深層・浅層混合処理工法 -」とする。
- (6) 施工完了後、載荷試験を1か所以上で行い地耐力50kN/m<sup>2</sup>を確認すること。

公共建築課長	主査等	担当者	工事名	図面名	図面番号	区分
			久里浜1丁目公園管理用建物その他新築工事	スタンド詳細図	S-26	建築
				縮尺	年月日	
				A1: 1/30 A3: 1/60	2021年1月	

ゴミ置き場詳細図

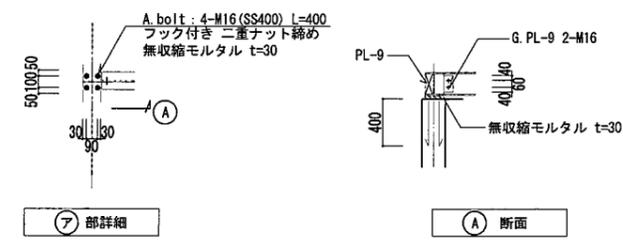


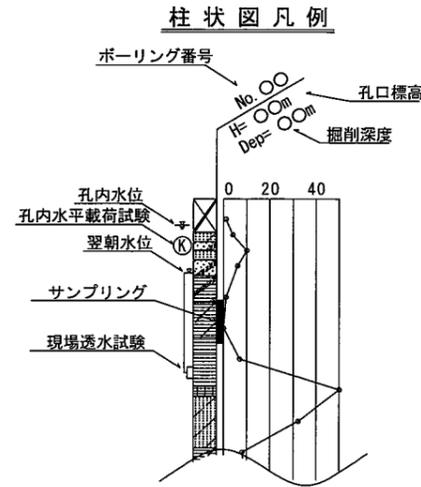
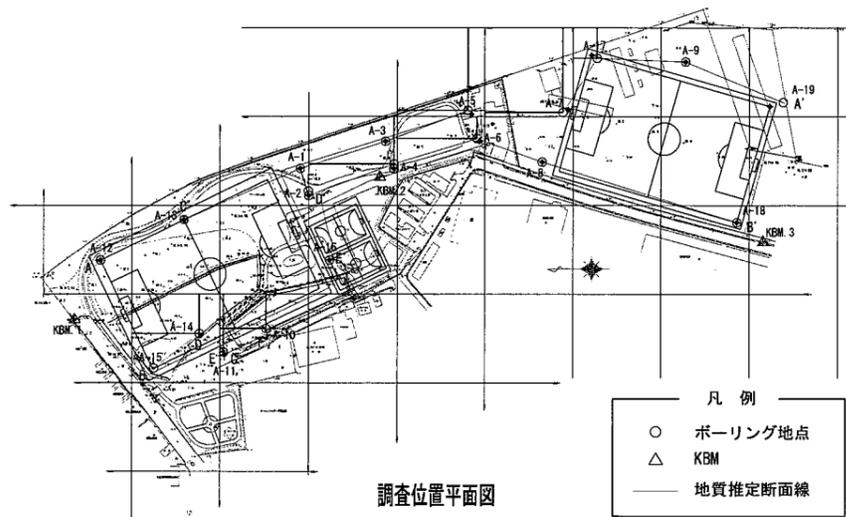
1. 部材断面表

符号	断面	材質	備考
SB19A	H-195x150x 6x 9	SS400	

壁断面表				
符号	壁厚	配筋		備考
		縦筋	横筋	
W20	200	D13-@150 D	D13-@200 D	

床スラブ断面表					
符号	厚さ	位置	短辺方向	長辺方向	備考
FS30	300	上端筋	D13-@150	D13-@150	
		下端筋	D13-@150	D13-@150	





層序表

地質時代	地層名	柱状図記号	主な土質	層厚 (m)	N 値
現世	埋土	bs	礫混じり粘性土	2.60~5.30	1~14 (一部36)
	表土	ts	ヘドロ砂質粘土	1.20~2.00	0~1 (一部7)
第四紀 沖積層	第一砂質土層	As1	有機質シルト シルト混じり細砂 細砂	0.80~3.20	1~19 (一部23~31)
	第二砂質土層	As2	細砂 礫混じり細砂 シルト混じり細砂	3.20~7.00	13~60以上
	第一粘性土層	Ac1	砂混じりシルト 粘土質シルト	15.20~24.30	0~3 (一部6)
	第二粘性土層	Ac2	シルト 粘土質シルト 砂混じりシルト	3.70~14.50	1~8 (一部10~20)
	第三粘性土層	Ac3	礫混じりシルト 粘土 シルト混じり細砂	9.00~12.10	4~24
	第三砂質土層	As3	礫混じり細砂 シルト混じり細砂 礫混じり粘土	2.20~13.50	6~40 (一部60以上)
新第三紀 三浦層群	逗子泥岩層	Zm	泥岩 砂質泥岩	5.78以上	60以上

